

2026年度 経営学部 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

専門入門科目100番台	【A4001】	組織論入門〔戎谷 粹〕	春学期授業/Spring	1
専門入門科目100番台	【A4002】	組織論入門〔中西 善信〕	秋学期授業/Fall	2
専門入門科目100番台	【A4003】	組織論入門〔橋本 諭〕	春学期授業/Spring	3
専門入門科目100番台	【A4004】	組織論入門〔橋本 諭〕	秋学期授業/Fall	4
専門入門科目100番台	【A4005】	戦略論入門〔安藤 直紀〕	春学期授業/Spring	5
専門入門科目100番台	【A4006】	戦略論入門〔木川 大輔〕	春学期授業/Spring	6
専門入門科目100番台	【A4007】	戦略論入門〔福島 英史〕	秋学期授業/Fall	7
専門入門科目100番台	【A4008】	戦略論入門〔木川 大輔〕	秋学期授業/Fall	8
専門入門科目100番台	【A4009】	マーケティング入門〔岡田 庄生〕	春学期授業/Spring	9
専門入門科目100番台	【A4010】	マーケティング入門〔岡田 庄生〕	秋学期授業/Fall	10
専門入門科目100番台	【A4011】	マーケティング入門〔長谷川 翔平〕	春学期授業/Spring	11
専門入門科目100番台	【A4012】	マーケティング入門〔長谷川 翔平〕	秋学期授業/Fall	12
専門入門科目100番台	【A4013】	ファイナンス入門〔山崎 輝〕	春学期授業/Spring	13
専門入門科目100番台	【A4014】	ファイナンス入門〔芝田 隆志〕	秋学期授業/Fall	14
専門入門科目100番台	【A4015】	ファイナンス入門〔吉田 靖〕	秋学期授業/Fall	15
専門入門科目100番台	【A4016】	経済学入門〔韓 載香、大木 良子〕	春学期授業/Spring	16
専門入門科目100番台	【A4017】	経済学入門〔大木 良子、韓 載香〕	春学期授業/Spring	18
専門入門科目100番台	【A4018】	経済学入門〔高橋 理香、宮澤 信二郎〕	秋学期授業/Fall	20
専門入門科目100番台	【A4019】	経済学入門〔宮澤 信二郎、高橋 理香〕	秋学期授業/Fall	22
専門入門科目100番台	【A4020】	統計学入門〔牧草 夏実〕	春学期授業/Spring	24
専門入門科目100番台	【A4021】	統計学入門〔牧草 夏実〕	秋学期授業/Fall	25
専門入門科目100番台	【A4022】	統計学入門〔高橋 慎〕	春学期授業/Spring	26
専門入門科目100番台	【A4023】	統計学入門〔高橋 慎〕	秋学期授業/Fall	27
専門入門科目100番台	【A4024】	簿記入門Ⅰ〔藤井 誠〕	春学期授業/Spring	28
専門入門科目100番台	【A4025】	簿記入門Ⅱ〔藤井 誠〕	秋学期授業/Fall	29
専門入門科目100番台	【A4026】	簿記入門Ⅰ〔福田 淳児〕	春学期授業/Spring	30
専門入門科目100番台	【A4027】	簿記入門Ⅱ〔福田 淳児〕	秋学期授業/Fall	31
専門入門科目100番台	【A4028】	簿記入門Ⅰ〔近藤 大輔〕	春学期授業/Spring	32
専門入門科目100番台	【A4029】	簿記入門Ⅱ〔近藤 大輔〕	秋学期授業/Fall	33
専門入門科目100番台	【A4030】	簿記入門Ⅰ〔近藤 大輔〕	春学期授業/Spring	34
専門入門科目100番台	【A4031】	簿記入門Ⅱ〔近藤 大輔〕	秋学期授業/Fall	35
専門入門科目100番台	【A4038】	情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕	春学期授業/Spring	36
専門入門科目100番台	【A4039】	情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕	秋学期授業/Fall	37
専門入門科目100番台	【A4040】	情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）〔上野 京子〕	春学期授業/Spring	38
専門入門科目100番台	【A4041】	情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）〔上野 京子〕	秋学期授業/Fall	39
専門入門科目100番台	【A4042】	情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）〔上野 京子〕	春学期授業/Spring	40
専門入門科目100番台	【A4043】	情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）〔上野 京子〕	秋学期授業/Fall	41
専門入門科目100番台	【A4044】	情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕	春学期授業/Spring	42
専門入門科目100番台	【A4045】	情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕	秋学期授業/Fall	43
情報関係科目	【A4046】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）〔三宅 修平〕	春学期授業/Spring	44
情報関係科目	【A4047】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）〔三宅 修平〕	秋学期授業/Fall	45
専門入門科目100番台	【A4048】	情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔飯塚 康至〕	春学期授業/Spring	46

専門入門科目100番台【A4049】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔飯塚 康至〕秋学期授業/Fall	47
専門入門科目100番台【A4050】情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）〔三宅 修平〕春学期授業 /Spring	48
専門入門科目100番台【A4051】情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）〔三宅 修平〕秋学期授業 /Fall	49
専門入門科目100番台【A4052】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕春学期授業 /Spring	50
専門入門科目100番台【A4053】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕秋学期授業 /Fall	51
専門入門科目100番台【A4054】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔上野 京子〕春学期授業 /Spring	52
専門入門科目100番台【A4055】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔上野 京子〕秋学期授業/Fall	53
専門入門科目100番台【A4056】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔金子 聡〕春学期授業/Spring	54
専門入門科目100番台【A4057】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔金子 聡〕秋学期授業/Fall	55
専門入門科目100番台【A4058】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔金子 聡〕春学期授業/Spring	56
専門入門科目100番台【A4059】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔金子 聡〕秋学期授業/Fall	57
情報関係科目【A4060】情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）〔三宅 修平〕春学期授業/Spring	58
情報関係科目【A4061】情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）〔三宅 修平〕秋学期授業/Fall ...	59
専門入門科目100番台【A4064】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕春学期授業 /Spring	60
専門入門科目100番台【A4065】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕秋学期授業 /Fall	61
専門入門科目100番台【A4066】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕春学期授業 /Spring	62
専門入門科目100番台【A4067】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕秋学期授業 /Fall	63
専門入門科目100番台【A4068】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕春学期授業 /Spring	64
専門入門科目100番台【A4069】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕秋学期授業/Fall	65
専門入門科目100番台【A4070】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕春学期授業 /Spring	66
専門入門科目100番台【A4071】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔根岸 良征〕秋学期授業/Fall	67
専門入門科目100番台【A4072】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔田中 元一朗〕春学期授業 /Spring	68
専門入門科目100番台【A4073】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔田中 元一朗〕秋学期授業 /Fall	69
専門入門科目100番台【A4074】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕春学期授業 /Spring	70
専門入門科目100番台【A4075】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕秋学期授業 /Fall	71
専門入門科目100番台【A4076】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕春学期授業 /Spring	72
専門入門科目100番台【A4077】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔島田 由美子〕秋学期授業 /Fall	73
専門入門科目100番台【A4078】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔田中 元一朗〕春学期授業 /Spring	74
専門入門科目100番台【A4079】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔田中 元一朗〕秋学期授業 /Fall	75
専門入門科目100番台【A4080】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔高田 美樹〕春学期授業 /Spring	76
専門入門科目100番台【A4081】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔高田 美樹〕秋学期授業/Fall	77
専門入門科目100番台【A4082】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔高田 美樹〕春学期授業 /Spring	78
専門入門科目100番台【A4083】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔高田 美樹〕秋学期授業/Fall	79
専門入門科目100番台【A4084】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）〔田中 元一朗〕春学期授業 /Spring	80

専門入門科目100番台【A4085】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 秋学期授業 /Fall	81
専門入門科目100番台【A4086】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 春学期授業 /Spring	82
専門入門科目100番台【A4087】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 秋学期授業 /Fall	83
専門入門科目100番台【A4088】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 春学期授業 /Spring	84
専門入門科目100番台【A4089】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 秋学期授業 /Fall	85
専門入門科目100番台【A4090】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 春学期授業 /Spring	86
専門入門科目100番台【A4091】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）[田中 元一朗] 秋学期授業 /Fall	87
専門入門科目100番台【A4092】情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）[渡辺 英人] 春学期授業 /Spring	88
専門入門科目100番台【A4093】情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）[渡辺 英人] 秋学期授業 /Fall	89
専門入門科目100番台【A4094】情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）[渡辺 英人] 春学期授業 /Spring	90
専門入門科目100番台【A4095】情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）[渡辺 英人] 秋学期授業 /Fall	91
専門入門科目100番台【A4096】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）[飯塚 康至] 春学期授業 /Spring	92
専門入門科目100番台【A4097】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）[飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	93
専門入門科目100番台【A4098】情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）[小寺 浩二] 春学期授業 /Spring	94
専門入門科目100番台【A4099】情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）[小寺 浩二] 秋学期授業 /Fall	95
専門入門科目100番台【A4100】情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）[森本 洋一] 春学期授業 /Spring	96
専門入門科目100番台【A4101】情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）[森本 洋一] 秋学期授業 /Fall	97
専門入門科目100番台【A4102】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）[飯塚 康至] 春学期授業 /Spring	98
専門入門科目100番台【A4103】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）[飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	99
専門入門科目100番台【A4104】情報学入門Ⅰ（メディア情報処理）（2019年度以降入学者）[築城 厚三] 春学期 授業/Spring	100
専門入門科目100番台【A4105】情報学入門Ⅱ（メディア情報処理）（2019年度以降入学者）[築城 厚三] 秋学期 授業/Fall	101
専門入門科目100番台【A4106】情報学入門Ⅰ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）[石川 潔] 春学期授業 /Spring	102
専門入門科目100番台【A4107】情報学入門Ⅱ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）[石川 潔] 秋学期授業 /Fall	103
専門入門科目200番台【A4301】会计学入門Ⅰ [川島 健司] 春学期授業/Spring	104
専門入門科目200番台【A4302】会计学入門Ⅱ [川島 健司] 秋学期授業/Fall	106
専門入門科目200番台【A4303】会计学入門Ⅰ [坂上 学] 春学期授業/Spring	108
専門入門科目200番台【A4304】会计学入門Ⅱ [坂上 学] 秋学期授業/Fall	109
専門入門科目200番台【A4305】会计学入門Ⅰ [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	110
専門入門科目200番台【A4306】会计学入門Ⅱ [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	111
専門入門科目200番台【A4307】基礎統計学Ⅰ [牧草 夏実] 春学期授業/Spring	112
専門入門科目200番台【A4308】基礎統計学Ⅱ [牧草 夏実] 秋学期授業/Fall	113
専門入門科目200番台【A4311】ミクロ経済学入門Ⅰ（2019年度以降入学者）[高橋 理香] 春学期授業/Spring .	114
専門入門科目200番台【A4312】ミクロ経済学入門Ⅱ（2019年度以降入学者）[高橋 理香] 秋学期授業/Fall	116
専門入門科目200番台【A4313】ミクロ経済学入門Ⅰ（2019年度以降入学者）[大木 良子] 春学期授業/Spring .	118
専門入門科目200番台【A4314】ミクロ経済学入門Ⅱ（2019年度以降入学者）[大木 良子] 秋学期授業/Fall	120
専門入門科目200番台【A4315】情報学基礎（2019年度以降入学者）[高田 美樹] 春学期授業/Spring	121

【A4319】 経営管理論Ⅰ（2018年度以前入学者）〔中西 善信〕 春学期授業/Spring	122
【A4320】 経営管理論Ⅱ（2018年度以前入学者）〔中西 善信〕 秋学期授業/Fall	123
【A4321】 経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）〔木川 大輔〕 春学期授業/Spring	124
【A4322】 経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）〔木川 大輔〕 秋学期授業/Fall	125
【A4323】 経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）〔李 瑞雪〕 春学期授業/Spring	126
【A4324】 経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）〔李 瑞雪〕 秋学期授業/Fall	127
【A4325】 マーケティング論Ⅰ（2018年度以前入学者）〔岡田 庄生〕 春学期授業/Spring	128
【A4326】 マーケティング論Ⅱ（2018年度以前入学者）〔岡田 庄生〕 秋学期授業/Fall	130
【A4329】 金融論Ⅰ（2018年度以前入学者）〔左三川 郁子〕 春学期授業/Spring	132
【A4330】 金融論Ⅱ（2018年度以前入学者）〔左三川 郁子〕 秋学期授業/Fall	134
経営学科専門科目200番台【A4353】 経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）〔中西 善信〕 春学期授業/Spring ...	136
経営学科専門科目200番台【A4354】 経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）〔中西 善信〕 秋学期授業/Fall	137
経営学科専門科目200番台【A4355】 経営社会学Ⅰ〔藤本 真〕 春学期授業/Spring	138
経営学科専門科目200番台【A4356】 経営社会学Ⅱ〔藤本 真〕 秋学期授業/Fall	140
経営学科専門科目200番台【A4357】 検定会計Ⅰ（2019年度以降入学者）〔近藤 大輔〕 春学期授業/Spring	142
経営学科専門科目200番台【A4358】 検定会計Ⅱ（2019年度以降入学者）〔近藤 大輔〕 秋学期授業/Fall	143
経営学科専門科目200番台【A4359】 組織行動論Ⅰ〔西川 真規子〕 春学期授業/Spring	144
経営学科専門科目300番台【A4360】 組織行動論Ⅱ〔西川 真規子〕 秋学期授業/Fall	145
経営学科専門科目200番台【A4361】 キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）〔小川 憲彦〕 春学期授業 /Spring	146
経営学科専門科目200番台【A4362】 キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）〔小川 憲彦〕 秋学期授業 /Fall	147
経営学科専門科目300番台【A4363】 経営組織論Ⅰ〔長岡 健〕 春学期授業/Spring	148
経営学科専門科目300番台【A4364】 経営組織論Ⅱ〔長岡 健〕 秋学期授業/Fall	150
経営学科専門科目300番台【A4365】 組織マネジメント論Ⅰ〔戎谷 梓〕 春学期授業/Spring	152
経営学科専門科目300番台【A4366】 組織マネジメント論Ⅱ〔戎谷 梓〕 秋学期授業/Fall	154
経営学科専門科目300番台【A4367】 経営情報論Ⅰ〔岸 眞理子〕 春学期授業/Spring	156
経営学科専門科目300番台【A4368】 経営情報論Ⅱ〔岸 眞理子〕 秋学期授業/Fall	157
経営学科専門科目300番台【A4369】 人的資源管理Ⅰ〔佐野 嘉秀〕 春学期授業/Spring	158
経営学科専門科目300番台【A4370】 人的資源管理Ⅱ〔佐野 嘉秀〕 秋学期授業/Fall	160
経営学科専門科目300番台【A4375】 財務会計論Ⅰ〔齋藤 真哉〕 春学期授業/Spring	162
経営学科専門科目300番台【A4376】 財務会計論Ⅱ〔齋藤 真哉〕 秋学期授業/Fall	164
経営学科専門科目300番台【A4377】 監査論Ⅰ〔小澤 康裕〕 春学期授業/Spring	166
経営学科専門科目300番台【A4378】 監査論Ⅱ〔小澤 康裕〕 秋学期授業/Fall	168
経営学科専門科目300番台【A4379】 税務会計論Ⅰ〔藤井 誠〕 春学期授業/Spring	170
経営学科専門科目300番台【A4380】 税務会計論Ⅱ〔藤井 誠〕 秋学期授業/Fall	171
経営学科専門科目300番台【A4381】 管理会計論Ⅰ〔北田 皓嗣〕 春学期授業/Spring	172
経営学科専門科目300番台【A4382】 管理会計論Ⅱ〔北田 皓嗣〕 秋学期授業/Fall	173
経営学科専門科目300番台【A4383】 原価計算論Ⅰ〔福田 淳児〕 春学期授業/Spring	174
経営学科専門科目300番台【A4384】 原価計算論Ⅱ〔福田 淳児〕 秋学期授業/Fall	176
経営学科専門科目300番台【A4385】 国際会計論Ⅰ〔赤城 諭士〕 春学期授業/Spring	177
経営学科専門科目300番台【A4386】 国際会計論Ⅱ〔赤城 諭士〕 秋学期授業/Fall	178
経営学科専門科目300番台【A4387】 原価計算論Ⅰ（教職用）〔福田 淳児〕 春学期授業/Spring	179
経営学科専門科目300番台【A4388】 原価計算論Ⅱ（教職用）〔福田 淳児〕 秋学期授業/Fall	181
経営学科専門科目300番台【A4393】 組織経済学〔奥西 好夫〕 秋学期授業/Fall	182
【A4394】 組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）〔奥西 好夫〕 秋学期授業/Fall	183
経営戦略学科専門科目200番台【A4401】 経営戦略論Ⅰ（2019年度以降入学者）〔木川 大輔〕 春学期授業/Spring	184
経営戦略学科専門科目200番台【A4402】 経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）〔木川 大輔〕 秋学期授業/Fall .	185
経営戦略学科専門科目200番台【A4403】 経営戦略論Ⅰ（2019年度以降入学者）〔李 瑞雪〕 春学期授業/Spring .	186
経営戦略学科専門科目200番台【A4404】 経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）〔李 瑞雪〕 秋学期授業/Fall	187
経営戦略学科専門科目200番台【A4405】 国際経営論Ⅰ〔洞口 治夫〕 春学期授業/Spring	188
経営戦略学科専門科目200番台【A4406】 国際経営論Ⅱ〔洞口 治夫〕 秋学期授業/Fall	190
経営戦略学科専門科目200番台【A4407】 国際経済論Ⅰ〔高橋 理香〕 春学期授業/Spring	192
経営戦略学科専門科目200番台【A4408】 国際経済論Ⅱ〔高橋 理香〕 秋学期授業/Fall	194
経営戦略学科専門科目200番台【A4409】 戦略的意思決定論Ⅰ〔福島 英史〕 春学期授業/Spring	196
経営戦略学科専門科目200番台【A4410】 戦略的意思決定論Ⅱ〔福島 英史〕 秋学期授業/Fall	197
経営戦略学科専門科目200番台【A4411】 日本経済論Ⅰ〔平田 英明〕 春学期授業/Spring	198

経営戦略学科専門科目200番台	【A4412】	日本経済論Ⅱ [平田 英明]	秋学期授業/Fall	199
経営戦略学科専門科目200番台	【A4413】	産業史Ⅰ [韓 載香]	春学期授業/Spring	201
経営戦略学科専門科目200番台	【A4414】	産業史Ⅱ [韓 載香]	秋学期授業/Fall	203
経営戦略学科専門科目200番台	【A4415】	中小企業論Ⅰ [稲垣 京輔]	春学期授業/Spring	205
経営戦略学科専門科目200番台	【A4416】	中小企業論Ⅱ [稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	206
経営戦略学科専門科目200番台	【A4417】	オペレーションズ・マネジメント [吉村 喜予子]	春学期授業/Spring	207
経営戦略学科専門科目200番台	【A4418】	オペレーションズ・マネジメント [吉村 喜予子]	秋学期授業/Fall	208
経営戦略学科専門科目300番台	【A4419】	国際金融論Ⅰ [羅 鵬飛]	春学期授業/Spring	209
経営戦略学科専門科目300番台	【A4420】	国際金融論Ⅱ [羅 鵬飛]	秋学期授業/Fall	210
経営戦略学科専門科目300番台	【A4421】	グローバル経営戦略論Ⅰ [安藤 直紀]	春学期授業/Spring	211
経営戦略学科専門科目300番台	【A4422】	グローバル経営戦略論Ⅱ [安藤 直紀]	秋学期授業/Fall	212
経営戦略学科専門科目300番台	【A4423】	日本経営史Ⅰ [二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	213
経営戦略学科専門科目300番台	【A4424】	日本経営史Ⅱ [二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	215
経営戦略学科専門科目300番台	【A4425】	企業評価論Ⅰ [青淵 正幸]	春学期授業/Spring	217
経営戦略学科専門科目300番台	【A4426】	企業評価論Ⅱ [青淵 正幸]	秋学期授業/Fall	218
経営戦略学科専門科目300番台	【A4427】	経営分析論Ⅰ [福多 裕志]	春学期授業/Spring	219
経営戦略学科専門科目300番台	【A4428】	経営分析論Ⅱ [福多 裕志]	秋学期授業/Fall	220
経営戦略学科専門科目300番台	【A4429】	経営のための統計学Ⅰ [牧草 夏実]	春学期授業/Spring	221
経営戦略学科専門科目300番台	【A4430】	経営のための統計学Ⅱ [牧草 夏実]	秋学期授業/Fall	222
経営戦略学科専門科目300番台	【A4431】	システム管理論Ⅰ [高田 美樹]	春学期授業/Spring	223
経営戦略学科専門科目300番台	【A4432】	システム管理論Ⅱ [高田 美樹]	秋学期授業/Fall	224
経営戦略学科専門科目300番台	【A4433】	日本経営史Ⅰ (教職用) [二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	225
経営戦略学科専門科目300番台	【A4434】	日本経営史Ⅱ (教職用) [二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	227
経営戦略学科専門科目200番台	【A4435】	産業史Ⅰ (教職用) [韓 載香]	春学期授業/Spring	229
経営戦略学科専門科目200番台	【A4436】	産業史Ⅱ (教職用) [韓 載香]	秋学期授業/Fall	231
	【A4437】	経営分析Ⅰ (2018年度以前入学者) [青淵 正幸]	春学期授業/Spring	233
	【A4438】	経営分析Ⅱ (2018年度以前入学者) [青淵 正幸]	秋学期授業/Fall	234
	【A4439】	経営分析Ⅲ (2018年度以前入学者) [福多 裕志]	春学期授業/Spring	235
	【A4440】	経営分析Ⅳ (2018年度以前入学者) [福多 裕志]	秋学期授業/Fall	236
	【A4443】	国際経営戦略論Ⅰ (2018年度以前入学者) [安藤 直紀]	春学期授業/Spring	237
	【A4444】	国際経営戦略論Ⅱ (2018年度以前入学者) [安藤 直紀]	秋学期授業/Fall	238
	【A4445】	統計学Ⅰ (2018年度以前入学者) [牧草 夏実]	春学期授業/Spring	239
	【A4446】	統計学Ⅱ (2018年度以前入学者) [牧草 夏実]	秋学期授業/Fall	240
市場経営学科専門科目200番台	【A4451】	マーケティング・マネジメント論Ⅰ [岡田 庄生]	春学期授業/Spring	241
市場経営学科専門科目200番台	【A4452】	マーケティング・マネジメント論Ⅱ [岡田 庄生]	秋学期授業/Fall	243
市場経営学科専門科目200番台	【A4455】	金融論Ⅰ (2019年度以降入学者) [左三川 郁子]	春学期授業/Spring	245
市場経営学科専門科目200番台	【A4456】	金融論Ⅱ (2019年度以降入学者) [左三川 郁子]	秋学期授業/Fall	247
市場経営学科専門科目200番台	【A4457】	マーケティング・リサーチ論Ⅰ (2019年度以降入学者) [西川 英彦]	春学期授業/Spring	249
市場経営学科専門科目200番台	【A4458】	マーケティング・リサーチ論Ⅱ (2019年度以降入学者) [西川 英彦]	秋学期授業/Fall	251
市場経営学科専門科目200番台	【A4459】	消費者行動論Ⅰ [新倉 貴士]	春学期授業/Spring	252
市場経営学科専門科目200番台	【A4460】	消費者行動論Ⅱ [新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	253
市場経営学科専門科目200番台	【A4461】	流通論Ⅰ [戸田 裕美子]	春学期授業/Spring	254
市場経営学科専門科目200番台	【A4462】	流通論Ⅱ [戸田 裕美子]	秋学期授業/Fall	255
市場経営学科専門科目200番台	【A4463】	サービス・マネジメント論Ⅰ [木村 純子]	春学期授業/Spring	257
市場経営学科専門科目200番台	【A4464】	サービス・マネジメント論Ⅱ [木村 純子]	秋学期授業/Fall	258
市場経営学科専門科目200番台	【A4465】	日本経営論Ⅰ [金 容度]	春学期授業/Spring	260
市場経営学科専門科目200番台	【A4466】	日本経営論Ⅱ [金 容度]	秋学期授業/Fall	261
市場経営学科専門科目200番台	【A4467】	製品開発論Ⅰ [田路 則子]	春学期授業/Spring	262
市場経営学科専門科目200番台	【A4468】	製品開発論Ⅱ [田路 則子]	秋学期授業/Fall	263
市場経営学科専門科目200番台	【A4469】	コーポレートファイナンス入門Ⅰ (2019年度以降入学者) [金 瑛晋]	春学期授業/Spring	265
市場経営学科専門科目200番台	【A4470】	コーポレートファイナンス入門Ⅱ (2019年度以降入学者) [金 瑛晋]	秋学期授業/Fall	266
市場経営学科専門科目200番台	【A4471】	デリバティブ入門Ⅰ (2019年度以降入学者) [山崎 輝]	春学期授業/Spring	267
市場経営学科専門科目200番台	【A4472】	デリバティブ入門Ⅱ (2019年度以降入学者) [山崎 輝]	秋学期授業/Fall	268

市場経営学科専門科目200番台【A4473】投資入門（2019年度以降入学者）[芝田 隆志] 春学期授業/Spring ...	269
市場経営学科専門科目200番台【A4474】ポートフォリオ理論入門（2019年度以降入学者）[芝田 隆志] 秋学期授業/Fall	270
市場経営学科専門科目300番台【A4475】産業組織論Ⅰ [大木 良子] 春学期授業/Spring	271
市場経営学科専門科目300番台【A4476】産業組織論Ⅱ [大木 良子] 秋学期授業/Fall	272
市場経営学科専門科目300番台【A4477】情報技術論Ⅰ [入戸野 健] 春学期授業/Spring	273
市場経営学科専門科目300番台【A4478】情報技術論Ⅱ [入戸野 健] 秋学期授業/Fall	274
市場経営学科専門科目300番台【A4479】技術管理論Ⅰ [近能 善範] 春学期授業/Spring	275
市場経営学科専門科目300番台【A4480】技術管理論Ⅱ [近能 善範] 秋学期授業/Fall	276
市場経営学科専門科目300番台【A4481】経営のための経済学 [宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring	277
【A4483】マーケティング・リサーチⅠ（2018年度以前入学者）[西川 英彦] 春学期授業/Spring	278
【A4484】マーケティング・リサーチⅡ（2018年度以前入学者）[西川 英彦] 秋学期授業/Fall	280
【A4485】企業財務論Ⅰ（2018年度以前入学者）[金 瑛晋] 春学期授業/Spring	281
【A4486】企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）[金 瑛晋] 秋学期授業/Fall	282
【A4487】ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）[山崎 輝] 春学期授業/Spring	283
【A4488】ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）[山崎 輝] 秋学期授業/Fall	284
【A4489】証券経済論Ⅰ（2018年度以前入学者）[芝田 隆志] 春学期授業/Spring	285
【A4490】証券経済論Ⅱ（2018年度以前入学者）[芝田 隆志] 秋学期授業/Fall	286
市場経営学科専門科目300番台【A4495】Excelで学ぶファイナンス理論Ⅱ [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	287
市場経営学科専門科目300番台【A4496】広告論 [宮井 弘之] 秋学期授業/Fall	288
【A4497】応用経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）[宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring	289
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4501】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[吉村 喜予子] 春学期授業/Spring	290
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4502】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[福多 裕志] 春学期授業/Spring	292
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4503】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[福多 裕志] 秋学期授業/Fall	293
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4504】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[檜野 智子] 春学期授業/Spring	294
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4505】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[檜野 智子] 秋学期授業/Fall	295
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4506】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[依田 光広] 春学期授業/Spring	296
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4507】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[依田 光広] 秋学期授業/Fall	297
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4508】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[秋友 一広] 春学期授業/Spring	298
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4509】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[秋友 一広] 秋学期授業/Fall	300
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4510】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[岡本 慶子] 秋学期授業/Fall	302
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4511】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[小島 泰友] 春学期授業/Spring	304
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4512】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[小島 泰友] 春学期授業/Spring	306
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4513】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[羅 鵬飛] 春学期授業/Spring	308
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4514】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[羅 鵬飛] 秋学期授業/Fall	309
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4515】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[左三川 郁子] 秋学期授業/Fall	310
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4516】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[左三川 郁子] 春学期授業/Spring	311
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4517】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[芝田 隆志] 春学期授業/Spring	312
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4518】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[高橋 慎] 秋学期授業/Fall	313
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4519】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[ANDREW CHANG] 春学期授業/Spring	314
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4521】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[小島 泰友] 秋学期授業/Fall	315
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4522】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[THOMAS G POW E R] 春学期授業/Spring	317
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4523】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[戸田 裕美子] 秋学期授業/Fall	318
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4524】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[小島 泰友] 秋学期授業/Fall	320

グローバル・ビジネス/GBP科目【A4525】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[韓 載香] 秋学期授業/Fall	322
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4526】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[宮澤 信二郎] 秋学期授業/Fall	324
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4527】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring	325
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4528】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[THOMAS G POW ER] 秋学期授業/Fall	326
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4529】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[岡本 慶子] 秋学期授業/Fall	327
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4531】国際コミュニケーション論Ⅰ（2019年度以降入学者）[THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring	329
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4532】国際コミュニケーション論Ⅱ（2019年度以降入学者）[THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	330
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4533】ビジネス英語Ⅰ（初級）[ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	331
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4534】ビジネス英語Ⅱ（初級）[ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	333
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4535】ビジネス英語Ⅰ（中級）[ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	335
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4536】ビジネス英語Ⅱ（中級）[ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	337
【A4539】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[ANDREW CHANG] 秋学期授業/Fall	338
【A4583】国際コミュニケーション論Ⅰ（2018年度以前入学者）[THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring	339
【A4584】国際コミュニケーション論Ⅱ（2018年度以前入学者）[THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	340
【A4585】検定会計Ⅰ（2018年度以前入学者）[近藤 大輔] 春学期授業/Spring	341
【A4586】検定会計Ⅱ（2018年度以前入学者）[近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	342
【A4587】キャリア・マネジメントⅠ（2018年度以前入学者）[小川 憲彦] 春学期授業/Spring	343
【A4588】キャリア・マネジメントⅡ（2018年度以前入学者）[小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	344
演習【A4601】入門演習[鈴木 真奈美] 春学期授業/Spring	345
演習【A4602】入門演習[左三川 郁子] 春学期授業/Spring	347
演習【A4603】入門演習[左三川 郁子] 秋学期授業/Fall	349
演習【A4606】入門演習[山崎 輝] 春学期授業/Spring	351
演習【A4607】入門演習[芝田 隆志] 春学期授業/Spring	352
演習【A4608】入門演習[島田 由美子] 春学期授業/Spring	353
演習【A4609】入門演習[島田 由美子] 秋学期授業/Fall	355
演習【A4651】演習1[安藤 直紀] 春学期授業/Spring	356
演習【A4652】演習2[安藤 直紀] 秋学期授業/Fall	357
演習【A4653】演習3[安藤 直紀] 春学期授業/Spring	358
演習【A4654】演習4[安藤 直紀] 秋学期授業/Fall	359
演習【A4655】演習5[安藤 直紀] 春学期授業/Spring	360
演習【A4656】演習6[安藤 直紀] 秋学期授業/Fall	361
演習【A4657】演習1[戎谷 梓] 春学期授業/Spring	362
演習【A4658】演習2[戎谷 梓] 秋学期授業/Fall	364
演習【A4659】演習3[戎谷 梓] 春学期授業/Spring	365
演習【A4660】演習4[戎谷 梓] 秋学期授業/Fall	367
演習【A4661】演習5[戎谷 梓] 春学期授業/Spring	368
演習【A4662】演習6[戎谷 梓] 秋学期授業/Fall	370
演習【A4663】演習1[池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	371
演習【A4664】演習2[池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	372
演習【A4665】演習3[池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	373
演習【A4666】演習4[池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	374
演習【A4667】演習5[池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	375
演習【A4668】演習6[池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	376
演習【A4669】演習1[稲垣 京輔] 春学期授業/Spring	377
演習【A4670】演習2[稲垣 京輔] 秋学期授業/Fall	378
演習【A4671】演習3[稲垣 京輔] 春学期授業/Spring	379
演習【A4672】演習4[稲垣 京輔] 秋学期授業/Fall	380
演習【A4673】演習5[稲垣 京輔] 春学期授業/Spring	381
演習【A4674】演習6[稲垣 京輔] 秋学期授業/Fall	382
演習【A4675】演習1[中西 善信] 春学期授業/Spring	383
演習【A4676】演習2[中西 善信] 秋学期授業/Fall	384
演習【A4677】演習3[中西 善信] 春学期授業/Spring	385

演習【A4678】	演習4	[中西 善信]	秋学期授業/Fall	386
演習【A4679】	演習5	[中西 善信]	春学期授業/Spring	387
演習【A4680】	演習6	[中西 善信]	秋学期授業/Fall	388
演習【A4681】	演習1	[大木 良子]	春学期授業/Spring	389
演習【A4682】	演習2	[大木 良子]	秋学期授業/Fall	390
演習【A4683】	演習3	[大木 良子]	春学期授業/Spring	391
演習【A4684】	演習4	[大木 良子]	秋学期授業/Fall	392
演習【A4685】	演習5	[大木 良子]	春学期授業/Spring	393
演習【A4686】	演習6	[大木 良子]	秋学期授業/Fall	394
演習【A4687】	演習1	[藤井 誠]	春学期授業/Spring	395
演習【A4688】	演習2	[藤井 誠]	秋学期授業/Fall	396
演習【A4689】	演習3	[藤井 誠]	春学期授業/Spring	397
演習【A4690】	演習4	[藤井 誠]	秋学期授業/Fall	398
演習【A4691】	演習5	[藤井 誠]	春学期授業/Spring	399
演習【A4692】	演習6	[藤井 誠]	秋学期授業/Fall	400
演習【A4693】	演習1	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	401
演習【A4694】	演習2	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	403
演習【A4695】	演習3	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	405
演習【A4696】	演習4	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	407
演習【A4697】	演習5	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	409
演習【A4698】	演習6	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	411
演習【A4699】	演習1	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	413
演習【A4700】	演習2	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	414
演習【A4701】	演習3	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	415
演習【A4702】	演習4	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	416
演習【A4703】	演習5	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	417
演習【A4704】	演習6	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	418
演習【A4705】	演習1	[戸田 裕美子]	春学期授業/Spring	419
演習【A4706】	演習2	[戸田 裕美子]	秋学期授業/Fall	420
演習【A4707】	演習3	[戸田 裕美子]	春学期授業/Spring	421
演習【A4708】	演習4	[戸田 裕美子]	秋学期授業/Fall	422
演習【A4709】	演習5	[戸田 裕美子]	春学期授業/Spring	423
演習【A4710】	演習6	[戸田 裕美子]	秋学期授業/Fall	424
演習【A4717】	演習1	[川島 健司]	春学期授業/Spring	425
演習【A4718】	演習2	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	426
演習【A4719】	演習3	[川島 健司]	春学期授業/Spring	427
演習【A4720】	演習4	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	428
演習【A4721】	演習5	[川島 健司]	春学期授業/Spring	429
演習【A4722】	演習6	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	430
演習【A4723】	演習1	[河内谷 幸子]	春学期授業/Spring	431
演習【A4724】	演習2	[河内谷 幸子]	秋学期授業/Fall	432
演習【A4725】	演習3	[河内谷 幸子]	春学期授業/Spring	433
演習【A4726】	演習4	[河内谷 幸子]	秋学期授業/Fall	434
演習【A4727】	演習5	[河内谷 幸子]	春学期授業/Spring	435
演習【A4728】	演習6	[河内谷 幸子]	秋学期授業/Fall	436
演習【A4729】	演習1	[木川 大輔]	春学期授業/Spring	437
演習【A4730】	演習2	[木川 大輔]	秋学期授業/Fall	438
演習【A4731】	演習3	[木川 大輔]	春学期授業/Spring	439
演習【A4732】	演習4	[木川 大輔]	秋学期授業/Fall	440
演習【A4733】	演習5	[木川 大輔]	春学期授業/Spring	441
演習【A4734】	演習6	[木川 大輔]	秋学期授業/Fall	442
演習【A4735】	演習1	[芝田 隆志]	春学期授業/Spring	443
演習【A4736】	演習2	[芝田 隆志]	秋学期授業/Fall	444
演習【A4737】	演習3	[芝田 隆志]	春学期授業/Spring	445
演習【A4738】	演習4	[芝田 隆志]	秋学期授業/Fall	446
演習【A4739】	演習5	[芝田 隆志]	春学期授業/Spring	447
演習【A4740】	演習6	[芝田 隆志]	秋学期授業/Fall	448

演習【A4741】	演習1	[北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	449
演習【A4742】	演習2	[北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	450
演習【A4743】	演習3	[北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	451
演習【A4744】	演習4	[北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	452
演習【A4745】	演習5	[北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	453
演習【A4746】	演習6	[北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	454
演習【A4747】	演習1	[木原 章]	春学期授業/Spring	455
演習【A4748】	演習2	[木原 章]	秋学期授業/Fall	456
演習【A4749】	演習3	[木原 章]	春学期授業/Spring	457
演習【A4750】	演習4	[木原 章]	秋学期授業/Fall	458
演習【A4751】	演習5	[木原 章]	春学期授業/Spring	459
演習【A4752】	演習6	[木原 章]	秋学期授業/Fall	460
演習【A4753】	演習1	[金 瑤晋]	春学期授業/Spring	461
演習【A4754】	演習2	[金 瑤晋]	秋学期授業/Fall	462
演習【A4755】	演習3	[金 瑤晋]	春学期授業/Spring	463
演習【A4756】	演習4	[金 瑤晋]	秋学期授業/Fall	464
演習【A4757】	演習5	[金 瑤晋]	春学期授業/Spring	465
演習【A4758】	演習6	[金 瑤晋]	秋学期授業/Fall	466
演習【A4759】	演習1	[金 容度]	春学期授業/Spring	467
演習【A4760】	演習2	[金 容度]	秋学期授業/Fall	468
演習【A4761】	演習3	[金 容度]	春学期授業/Spring	469
演習【A4762】	演習4	[金 容度]	秋学期授業/Fall	470
演習【A4763】	演習5	[金 容度]	春学期授業/Spring	471
演習【A4764】	演習6	[金 容度]	秋学期授業/Fall	472
演習【A4765】	演習1	[木村 純子]	春学期授業/Spring	473
演習【A4766】	演習2	[木村 純子]	秋学期授業/Fall	474
演習【A4767】	演習3	[木村 純子]	春学期授業/Spring	475
演習【A4768】	演習4	[木村 純子]	秋学期授業/Fall	476
演習【A4769】	演習5	[木村 純子]	春学期授業/Spring	477
演習【A4770】	演習6	[木村 純子]	秋学期授業/Fall	478
演習【A4771】	演習1	[倉田 俊彦]	春学期授業/Spring	479
演習【A4772】	演習2	[倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall	480
演習【A4773】	演習3	[倉田 俊彦]	春学期授業/Spring	481
演習【A4774】	演習4	[倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall	482
演習【A4775】	演習5	[倉田 俊彦]	春学期授業/Spring	483
演習【A4776】	演習6	[倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall	484
演習【A4777】	演習1	[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	485
演習【A4778】	演習2	[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	486
演習【A4779】	演習3	[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	487
演習【A4780】	演習4	[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	488
演習【A4781】	演習5	[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	489
演習【A4782】	演習6	[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	490
演習【A4783】	演習1	[近藤 大輔]	春学期授業/Spring	491
演習【A4784】	演習2	[近藤 大輔]	秋学期授業/Fall	492
演習【A4785】	演習3	[近藤 大輔]	春学期授業/Spring	493
演習【A4786】	演習4	[近藤 大輔]	秋学期授業/Fall	494
演習【A4787】	演習5	[近藤 大輔]	春学期授業/Spring	495
演習【A4788】	演習6	[近藤 大輔]	秋学期授業/Fall	496
演習【A4789】	演習1	[近能 善範]	春学期授業/Spring	497
演習【A4790】	演習2	[近能 善範]	秋学期授業/Fall	498
演習【A4791】	演習3	[近能 善範]	春学期授業/Spring	499
演習【A4792】	演習4	[近能 善範]	秋学期授業/Fall	500
演習【A4793】	演習5	[近能 善範]	春学期授業/Spring	501
演習【A4794】	演習6	[近能 善範]	秋学期授業/Fall	502
演習【A4795】	演習1	[坂上 学]	春学期授業/Spring	503
演習【A4796】	演習2	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	504
演習【A4797】	演習3	[坂上 学]	春学期授業/Spring	505

演習【A4798】	演習4	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	506
演習【A4799】	演習5	[坂上 学]	春学期授業/Spring	507
演習【A4800】	演習6	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	508
演習【A4801】	演習1	[佐野 哲]	春学期授業/Spring	509
演習【A4802】	演習2	[佐野 哲]	秋学期授業/Fall	511
演習【A4803】	演習3	[佐野 哲]	春学期授業/Spring	513
演習【A4804】	演習4	[佐野 哲]	秋学期授業/Fall	515
演習【A4805】	演習5	[佐野 哲]	春学期授業/Spring	517
演習【A4806】	演習6	[佐野 哲]	秋学期授業/Fall	519
演習【A4807】	演習1	[佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	521
演習【A4808】	演習2	[佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	523
演習【A4809】	演習3	[佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	525
演習【A4810】	演習4	[佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	527
演習【A4811】	演習5	[佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	529
演習【A4812】	演習6	[佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	531
演習【A4813】	演習1	[高橋 慎]	春学期授業/Spring	533
演習【A4814】	演習2	[高橋 慎]	秋学期授業/Fall	534
演習【A4815】	演習3	[高橋 慎]	春学期授業/Spring	535
演習【A4816】	演習4	[高橋 慎]	秋学期授業/Fall	536
演習【A4817】	演習5	[高橋 慎]	春学期授業/Spring	537
演習【A4818】	演習6	[高橋 慎]	秋学期授業/Fall	538
演習【A4825】	演習1	[岡田 庄生]	春学期授業/Spring	539
演習【A4826】	演習2	[岡田 庄生]	秋学期授業/Fall	540
演習【A4827】	演習3	[岡田 庄生]	春学期授業/Spring	541
演習【A4828】	演習4	[岡田 庄生]	秋学期授業/Fall	542
演習【A4829】	演習5	[岡田 庄生]	春学期授業/Spring	543
演習【A4830】	演習6	[岡田 庄生]	秋学期授業/Fall	544
演習【A4831】	演習1	[高橋 理香]	春学期授業/Spring	545
演習【A4832】	演習2	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	546
演習【A4833】	演習3	[高橋 理香]	春学期授業/Spring	548
演習【A4834】	演習4	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	549
演習【A4835】	演習5	[高橋 理香]	春学期授業/Spring	551
演習【A4836】	演習6	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	552
演習【A4837】	演習1	[田路 則子]	春学期授業/Spring	554
演習【A4838】	演習2	[田路 則子]	秋学期授業/Fall	555
演習【A4839】	演習3	[田路 則子]	春学期授業/Spring	556
演習【A4840】	演習4	[田路 則子]	秋学期授業/Fall	557
演習【A4841】	演習5	[田路 則子]	春学期授業/Spring	558
演習【A4842】	演習6	[田路 則子]	秋学期授業/Fall	559
演習【A4843】	演習1	[筒井 知彦]	春学期授業/Spring	560
演習【A4844】	演習2	[筒井 知彦]	秋学期授業/Fall	561
演習【A4845】	演習3	[筒井 知彦]	春学期授業/Spring	563
演習【A4846】	演習4	[筒井 知彦]	秋学期授業/Fall	564
演習【A4847】	演習5	[筒井 知彦]	春学期授業/Spring	566
演習【A4848】	演習6	[筒井 知彦]	秋学期授業/Fall	567
演習【A4849】	演習1	[長岡 健]	春学期授業/Spring	569
演習【A4850】	演習2	[長岡 健]	秋学期授業/Fall	571
演習【A4851】	演習3	[長岡 健]	春学期授業/Spring	573
演習【A4852】	演習4	[長岡 健]	秋学期授業/Fall	575
演習【A4853】	演習5	[長岡 健]	春学期授業/Spring	577
演習【A4854】	演習6	[長岡 健]	秋学期授業/Fall	579
演習【A4855】	演習1	[新倉 貴士]	春学期授業/Spring	581
演習【A4856】	演習2	[新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	582
演習【A4857】	演習3	[新倉 貴士]	春学期授業/Spring	583
演習【A4858】	演習4	[新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	584
演習【A4859】	演習5	[新倉 貴士]	春学期授業/Spring	585
演習【A4860】	演習6	[新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	586

演習【A4861】	演習1	〔二階堂 行宣〕	春学期授業/Spring	587
演習【A4862】	演習2	〔二階堂 行宣〕	秋学期授業/Fall	588
演習【A4863】	演習3	〔二階堂 行宣〕	春学期授業/Spring	590
演習【A4864】	演習4	〔二階堂 行宣〕	秋学期授業/Fall	591
演習【A4865】	演習5	〔二階堂 行宣〕	春学期授業/Spring	593
演習【A4866】	演習6	〔二階堂 行宣〕	秋学期授業/Fall	594
演習【A4867】	演習1	〔西川 英彦〕	春学期授業/Spring	596
演習【A4868】	演習2	〔西川 英彦〕	秋学期授業/Fall	597
演習【A4869】	演習3	〔西川 英彦〕	春学期授業/Spring	598
演習【A4870】	演習4	〔西川 英彦〕	秋学期授業/Fall	599
演習【A4871】	演習5	〔西川 英彦〕	春学期授業/Spring	600
演習【A4872】	演習6	〔西川 英彦〕	秋学期授業/Fall	601
演習【A4873】	演習1	〔西川 真規子〕	春学期授業/Spring	602
演習【A4874】	演習2	〔西川 真規子〕	秋学期授業/Fall	603
演習【A4875】	演習3	〔西川 真規子〕	春学期授業/Spring	604
演習【A4876】	演習4	〔西川 真規子〕	秋学期授業/Fall	605
演習【A4877】	演習5	〔西川 真規子〕	春学期授業/Spring	606
演習【A4878】	演習6	〔西川 真規子〕	秋学期授業/Fall	607
演習【A4879】	演習1	〔入戸野 健〕	春学期授業/Spring	608
演習【A4880】	演習2	〔入戸野 健〕	秋学期授業/Fall	609
演習【A4881】	演習3	〔入戸野 健〕	春学期授業/Spring	610
演習【A4882】	演習4	〔入戸野 健〕	秋学期授業/Fall	611
演習【A4883】	演習5	〔入戸野 健〕	春学期授業/Spring	612
演習【A4884】	演習6	〔入戸野 健〕	秋学期授業/Fall	613
演習【A4885】	演習1	〔長谷川 翔平〕	春学期授業/Spring	614
演習【A4886】	演習2	〔長谷川 翔平〕	秋学期授業/Fall	615
演習【A4887】	演習3	〔長谷川 翔平〕	春学期授業/Spring	616
演習【A4888】	演習4	〔長谷川 翔平〕	秋学期授業/Fall	617
演習【A4889】	演習5	〔長谷川 翔平〕	春学期授業/Spring	618
演習【A4890】	演習6	〔長谷川 翔平〕	秋学期授業/Fall	619
演習【A4891】	演習1	〔韓 載香〕	春学期授業/Spring	620
演習【A4892】	演習2	〔韓 載香〕	秋学期授業/Fall	622
演習【A4893】	演習3	〔韓 載香〕	春学期授業/Spring	623
演習【A4894】	演習4	〔韓 載香〕	秋学期授業/Fall	625
演習【A4895】	演習5	〔韓 載香〕	春学期授業/Spring	626
演習【A4896】	演習6	〔韓 載香〕	秋学期授業/Fall	628
演習【A4897】	演習1	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	629
演習【A4898】	演習2	〔平田 英明〕	秋学期授業/Fall	630
演習【A4899】	演習3	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	631
演習【A4900】	演習4	〔平田 英明〕	秋学期授業/Fall	632
演習【A4901】	演習5	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	633
演習【A4902】	演習6	〔平田 英明〕	秋学期授業/Fall	634
演習【A4903】	演習1	〔福島 英史〕	春学期授業/Spring	635
演習【A4904】	演習2	〔福島 英史〕	秋学期授業/Fall	636
演習【A4905】	演習3	〔福島 英史〕	春学期授業/Spring	637
演習【A4906】	演習4	〔福島 英史〕	秋学期授業/Fall	638
演習【A4907】	演習5	〔福島 英史〕	春学期授業/Spring	639
演習【A4908】	演習6	〔福島 英史〕	秋学期授業/Fall	640
演習【A4909】	演習1	〔福田 淳児〕	春学期授業/Spring	641
演習【A4910】	演習2	〔福田 淳児〕	秋学期授業/Fall	642
演習【A4911】	演習3	〔福田 淳児〕	春学期授業/Spring	643
演習【A4912】	演習4	〔福田 淳児〕	秋学期授業/Fall	644
演習【A4913】	演習5	〔福田 淳児〕	春学期授業/Spring	645
演習【A4914】	演習6	〔福田 淳児〕	秋学期授業/Fall	646
演習【A4915】	演習1	〔福多 裕志〕	春学期授業/Spring	647
演習【A4916】	演習2	〔福多 裕志〕	秋学期授業/Fall	648
演習【A4917】	演習3	〔福多 裕志〕	春学期授業/Spring	649

演習【A4918】	演習4	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	650
演習【A4919】	演習5	[福多 裕志]	春学期授業/Spring	651
演習【A4920】	演習6	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	652
演習【A4921】	演習1	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	653
演習【A4922】	演習2	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	655
演習【A4923】	演習3	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	657
演習【A4924】	演習4	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	659
演習【A4925】	演習5	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	661
演習【A4926】	演習6	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	663
演習【A4927】	演習1	[宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	665
演習【A4928】	演習2	[宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	666
演習【A4929】	演習3	[宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	667
演習【A4930】	演習4	[宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	668
演習【A4931】	演習5	[宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	669
演習【A4932】	演習6	[宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	670
演習【A4933】	演習1	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	671
演習【A4934】	演習2	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	672
演習【A4935】	演習3	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	673
演習【A4936】	演習4	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	674
演習【A4937】	演習5	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	675
演習【A4938】	演習6	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	676
演習【A4939】	演習1	[羅 鵬飛]	春学期授業/Spring	677
演習【A4940】	演習2	[羅 鵬飛]	秋学期授業/Fall	678
演習【A4941】	演習3	[羅 鵬飛]	春学期授業/Spring	679
演習【A4942】	演習4	[羅 鵬飛]	秋学期授業/Fall	680
演習【A4943】	演習5	[羅 鵬飛]	春学期授業/Spring	681
演習【A4944】	演習6	[羅 鵬飛]	秋学期授業/Fall	682
演習【A4945】	演習1	[横山 斉理]	春学期授業/Spring	683
演習【A4946】	演習2	[横山 斉理]	秋学期授業/Fall	684
演習【A4947】	演習3	[横山 斉理]	春学期授業/Spring	685
演習【A4948】	演習4	[横山 斉理]	秋学期授業/Fall	686
演習【A4949】	演習5	[横山 斉理]	春学期授業/Spring	687
演習【A4950】	演習6	[横山 斉理]	秋学期授業/Fall	688
演習【A4951】	演習1	[牧草 夏実]	春学期授業/Spring	689
演習【A4952】	演習2	[牧草 夏実]	秋学期授業/Fall	690
演習【A4953】	演習3	[牧草 夏実]	春学期授業/Spring	691
演習【A4954】	演習4	[牧草 夏実]	秋学期授業/Fall	692
演習【A4955】	演習5	[牧草 夏実]	春学期授業/Spring	693
演習【A4956】	演習6	[牧草 夏実]	秋学期授業/Fall	694
演習【A4957】	演習1	[吉田 康伸]	春学期授業/Spring	695
演習【A4958】	演習2	[吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	696
演習【A4959】	演習3	[吉田 康伸]	春学期授業/Spring	697
演習【A4960】	演習4	[吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	698
演習【A4961】	演習5	[吉田 康伸]	春学期授業/Spring	699
演習【A4962】	演習6	[吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	700
演習【A4963】	演習1	[李 瑞雪]	春学期授業/Spring	701
演習【A4964】	演習2	[李 瑞雪]	秋学期授業/Fall	702
演習【A4965】	演習3	[李 瑞雪]	春学期授業/Spring	703
演習【A4966】	演習4	[李 瑞雪]	秋学期授業/Fall	704
演習【A4967】	演習5	[李 瑞雪]	春学期授業/Spring	705
演習【A4968】	演習6	[李 瑞雪]	秋学期授業/Fall	706
演習【A4969】	演習1	[魚住 智広]	春学期授業/Spring	707
演習【A4970】	演習2	[魚住 智広]	秋学期授業/Fall	708
演習【A4971】	演習3	[魚住 智広]	春学期授業/Spring	709
演習【A4972】	演習4	[魚住 智広]	秋学期授業/Fall	710
演習【A4973】	演習5	[魚住 智広]	春学期授業/Spring	711
演習【A4974】	演習6	[魚住 智広]	秋学期授業/Fall	712

演習【A4975】	演習1	[左三川 郁子]	春学期授業/Spring	713
演習【A4976】	演習2	[左三川 郁子]	秋学期授業/Fall	714
演習【A4977】	演習3	[左三川 郁子]	春学期授業/Spring	715
演習【A4978】	演習4	[左三川 郁子]	秋学期授業/Fall	716
演習【A4979】	演習5	[左三川 郁子]	春学期授業/Spring	717
演習【A4980】	演習6	[左三川 郁子]	秋学期授業/Fall	718
情報関係科目【A5201】	プログラミング言語Ⅰ（C言語）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	719
情報関係科目【A5202】	プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	720
情報関係科目【A5203】	プログラミング言語Ⅰ（C言語）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	721
情報関係科目【A5204】	プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	722
情報関係科目【A5205】	プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	723
情報関係科目【A5206】	プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	724
情報関係科目【A5207】	プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	726
情報関係科目【A5208】	プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	727
情報関係科目【A5209】	プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	729
情報関係科目【A5210】	プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	730
情報関係科目【A5211】	プログラミング言語Ⅰ（VBA）（2019年度以降入学者）	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	731
情報関係科目【A5212】	プログラミング言語Ⅱ（VBA）（2019年度以降入学者）	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	732
情報関係科目【A5213】	プログラミング言語Ⅰ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	733
情報関係科目【A5214】	プログラミング言語Ⅱ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	734
情報関係科目【A5215】	プログラミング言語Ⅰ（Python）（2019年度以降入学者）	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	735
情報関係科目【A5216】	プログラミング言語Ⅱ（Python）（2019年度以降入学者）	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	736
情報関係科目【A5260】	情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	737
情報関係科目【A5261】	情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	738
情報関係科目【A5262】	情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）	[永保 敏伸]	春学期授業/Spring	739
情報関係科目【A5263】	情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）	[永保 敏伸]	秋学期授業/Fall	741
情報関係科目【A5264】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	743
情報関係科目【A5265】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	744
情報関係科目【A5266】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	745
情報関係科目【A5267】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	746
情報関係科目【A5268】	情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[田中 元一郎]	春学期授業/Spring	747
情報関係科目【A5269】	情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[田中 元一郎]	秋学期授業/Fall	748
情報関係科目【A5270】	情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	749
情報関係科目【A5271】	情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	750
情報関係科目【A5272】	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	751
情報関係科目【A5273】	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	752
情報関係科目【A5274】	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	753
情報関係科目【A5275】	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	754
情報関係科目【A5276】	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	755
情報関係科目【A5277】	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	756
情報関係科目【A5278】	情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019年度以降入学者）	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	757
情報関係科目【A5279】	情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019年度以降入学者）	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	758
情報関係科目【A5332】	情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	759
情報関係科目【A5333】	情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	761
情報関係科目【A5334】	情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	762
情報関係科目【A5335】	情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	763
情報関係科目【A5336】	情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	764
情報関係科目【A5337】	情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	765
情報関係科目【A5338】	情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	766
情報関係科目【A5339】	情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	767

情報関係科目【A5340】 情報学発展Ⅰ（システム科学）（2019年度以降入学者）[高田 美樹]	春学期授業/Spring	768
情報関係科目【A5341】 情報学発展Ⅱ（システム科学）（2019年度以降入学者）[高田 美樹]	秋学期授業/Fall ...	769
連環科目【A5381】 民法 [松田 佳久]	年間授業/Yearly	770
連環科目【A5382】 会社法 [鬼頭 俊泰]	年間授業/Yearly	772
連環科目【A5383】 労働法 [山本 圭子]	年間授業/Yearly	774
特殊講義【A5401】 広告論（2018年度以前入学者）[宮井 弘之]	秋学期授業/Fall	775
特殊講義【A5404】 Skills for SA [L A S S E G A R D J A M E S]	春学期授業/Spring	776
特殊講義【A5408】 国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦]	春学期授業/Spring	777
特殊講義【A5409】 国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦]	秋学期授業/Fall	779
特殊講義【A5411】 寄附講座・日本の物流と企業経営 [李 瑞雪]	秋学期授業/Fall	781
特殊講義【A5413】 租税法Ⅰ [藤井 誠]	春学期授業/Spring	782
特殊講義【A5414】 租税法Ⅱ [藤井 誠]	秋学期授業/Fall	783
特殊講義【A5415】 アントレプレナーシップ演習 [五十嵐 伸吾]	オータムセッション/Autumn Session	784
特殊講義【A5416】 サステナビリティマネジメント [北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	786
専門入門科目100番台【_】 情報学入門Ⅰ/Ⅱ（2019年度以降入学者）・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ（2018年度以前入学者）[児玉 靖司]		788

組織論入門

戎谷 梓

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織の仕組みや人々の行動原理を理解し、現代社会の複雑な組織環境において効果的に意思決定を行う力を身につけるのに必要な点を学びます。また、リーダーシップやコミュニケーションのスキルを高め、多様性や文化的差異を尊重しながらチームや組織全体を効率的かつ円滑に運営する方法についても考えます。さらには、環境の変化に対応した柔軟な戦略立案や、組織の成長・変革を支えるためのアプローチについてディスカッションします。これらを通じて、組織の成功やその社会的価値について理解を深めることを目指します。

【到達目標】

本授業を履修することにより、受講生には以下の達成が期待されます：

- (1) 組織の構造や文化の基本理論を理解し、実在の組織の特徴を説明できるようになる。
- (2) ケーススタディを通じて、特定の組織課題に対する解決策を理論的に提案できるようになる。
- (3) リーダーシップの基本的な理論を学び、自身のリーダーシップスタイルをどのように発展させられるか考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、指定の教科書の各章にもとづく講義とディスカッションにより進めます。受講生には、グループディスカッションやクラスディスカッション、グループプロジェクトに積極的に参加することが求められます。また、学期末にはテストを実施します。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前後に随時受け付け、フィードバックを行います。その他にも、メールのやり取りやオフィスアワーを通じて対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要や参加要件について知る。
第2回	第1章：組織とは何か	組織の目的や組織の役割について理解する。
第3回	第2章：組織と環境	組織が環境に依存する様々な側面や環境に適応する仕組み、また組織が持つ環境を変える力について考える。
第4回	第3章：組織の構造	組織内の役割や権限、責任の分配について知る。また、具体的な組織構造の例を理解する。
第5回	第4章：組織の中の人	チームレベルやより大きな組織レベルで人々がどのように協働を維持し、成果を生み出せるか考える。
第6回	第5章：組織の意思決定	さまざまな意思決定モデルを概観し、組織における効果的な意思決定モデルについて考える。
第7回	第6章：組織の中でのコミュニケーション	組織の中で人々が心理的安全性を維持し、信頼を構築するために行うコミュニケーションについて考える。
第8回	第7章：組織の中のリーダーシップ	リーダーシップに関するさまざまなタイプを概観し、これからの時代に必要なリーダーのあり方について考える。
第9回	第8章：チームと協働	チームの目的や構造、発達段階について知り、メンバー同士が効果的に協働するための方法について考える。
第10回	第9章：組織文化	組織における文化のあり方や役割、その成り立ちについて知り、変革の難しさや必要性について考える。
第11回	第10章：組織が果たす社会的責任	組織が社会に何を与えるかという一方的な視点ではなく、社会とともにどのように生きるという共存の視点からCSRを考える。
第12回	第11章：組織のイノベーション	イノベーションを実現させる組織構造や文化について知り、これからの時代に必要な組織変化について考える。

第13回	第12章：AI時代の組織	AI時代の組織のあり方や役割、意義について議論し、人の働き方や人々の協働の新しい形について考える。
第14回	学期末試験	学期を通して学んだ内容に基づく試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講生は、ディスカッションに十分参加できるよう、毎回の授業で扱う章を事前に熟読しておく必要があります。準備や復習に必要な授業時間外の時間として、週に平均4時間ほど必要になります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で指定の教科書をお知らせします。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション：30%

プロジェクト：30%

学期末テスト：40%

【学生の意見等からの気づき】

該当せず

【学生が準備すべき機器他】

授業時間中、課題提出のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

経営管理論、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

In this course, you will learn the points necessary to understand the mechanisms of organizations and the principles of human behavior, and to acquire the ability to make effective decisions in the complex organizational environment of modern society. You will also consider how to improve leadership and communication skills, and how to efficiently and smoothly manage teams and organizations as a whole while respecting diversity and cultural differences. Furthermore, you will discuss flexible strategic planning in response to environmental changes, and approaches to supporting the growth and transformation of organizations. Through these activities, you will aim to deepen your understanding of organizational success and its social value.

By taking this course, you are expected to achieve the following:

- (1) Understand the basic theories of organizational structure and culture, and be able to explain the characteristics of real organizations.
- (2) Be able to propose theoretical solutions to specific organizational issues through case studies.
- (3) Learn the basic theories of leadership and consider how to develop their own leadership style.

Students enrolled in this course must purchase the designated textbook and thoroughly read the chapter corresponding to each class topic in advance so that they can fully participate in the discussions that take place in each class. On average, you will need to spend about 4 hours per week outside of class time for preparation and review.

Grades for this class will be assessed using the following criteria: Discussion (30%), Project (30%), Course-ending exam (40%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

組織論入門

中西 善信

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織の仕組みや行動には、何らかの理由や意図がある。このような組織の行動の理由や意図は、組織論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは、社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では、組織論の基本的な考え方、すなわち、組織の仕組みや行動の背景は何か、そして組織を構成する個人を動かすものは何か、学ぶ。そして、現在および将来において、組織論を実際に適用できるようになることを目指す。

その際、可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動、サークル、アルバイトなど）を参照する形で説明する。

なお、本授業は、必ずしも組織論の内容を「広く薄く」網羅するものではない。組織論を中心に、経営学の特徴や魅力を知ってもらえるようなトピックを中心に選んでいる。

【到達目標】

1. 経営学の中での、組織論の位置付けと他領域との関係を説明できる。
2. 組織論の基本的な概念について、説明することができる。
3. 組織の仕組みと行動、並びにそれらの意図・機能を、理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし、内容により、一部の回をオンラインに変更することがある）。

また、毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を、次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営学と組織論	組織論とはどのような学問領域か
第3回	組織とは何か	組織はなぜ成り立つのか
第4回	官僚制組織と逆機能	規則の体系としての組織とその副作用
第5回	組織におけるコミュニケーション	コミュニケーション・ミスをなくすために
第6回	組織形態	仕事を分割する、間を取り持つ
第7回	組織間関係	組織の間の関係性のさまざまなタイプ
第8回	戦略的提携	企業はなぜつむむのか
第9回	社会ネットワーク	組織や人のつながりのカタチ
第10回	組織文化と制度	組織の個性と没個性
第11回	組織学習	組織学習とは何か、なぜそれが困難なのか
第12回	企業制度とガバナンス	企業を動かすしくみ
第13回	キャリアと人的資源管理	仕事からみた人の生涯とそのマネジメント
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

適宜資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。

ただし、各回のウエイトを変えることがある。

なお、レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため、授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため、これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論 I/II, 経営組織論, 組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the fundamental knowledge on organizational management.

[Learning objectives] Students can explain essential concepts of organizational management.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

組織論入門

橋本 諭

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 L～Q

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

1）経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する
内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます

2）経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象（たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます

3）今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。

1）組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる

2）経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる

3）その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業として実施します（授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります）。
- ・授業内容に沿って小レポートおよびアクションペーパーの提出を求めます。
- ・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。
- ・小レポートおよびアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か（1）	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か（2）	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント（1-1）	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント（1-2）	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義（ゲスト講義1）	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント（2-1）	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント（2-2）	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント（1-1）	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント（1-2）	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点は何か
第11回	事例講義（ゲスト講義2）	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント（2-1）	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント（2-2）	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

平野 光俊 江夏 幾多郎（2025）『人事管理 第2版』有斐閣。
その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

期末試験：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型（zoom を利用）のオンライン授業形式を取り入れることがあります。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Course Outline

This introductory course is designed to provide students with a solid foundation in understanding organizations. It covers three main topics: the fundamentals of business management, organizational behavior, and human resource management. The course serves as a stepping stone for more advanced studies in these areas.

Learning Objectives

- 1) Explain key terms and concepts related to the fundamentals of organization theory.
- 2) Analyze everyday phenomena from the perspective of business administration.
- 3) Develop a study plan that prepares students for more advanced content.

Learning Activities Outside of Class

- Review sessions for each class

- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy

- End-of-Term Examination: 40%

- Sub-report: 60%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

組織論入門

橋本 諭

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

1）経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます

2）経営学のモノの見方を学ぶ

現実の諸現象（たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます

3）今後の学習へのガイド

多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。

1）組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる

2）経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる

3）その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・対面授業として実施します（授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります）。

・授業内容に沿って小レポートおよびアクションペーパーの提出を求めます。

・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。

・小レポートおよびアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か（1）	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か（2）	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント（1-1）	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント（1-2）	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義（ゲスト講義1）	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント（2-1）	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント（2-2）	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント（1-1）	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント（1-2）	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義（ゲスト講義2）	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント（2-1）	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント（2-2）	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

平野 光俊 江夏 幾多郎（2025）『人事管理 第2版』有斐閣。

その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

期末試験：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型（zoom を利用）のオンライン授業形式を取り入れることがある。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Course Outline

This introductory course is designed to provide students with a solid foundation in understanding organizations. It covers three main topics: the fundamentals of business management, organizational behavior, and human resource management. The course serves as a stepping stone for more advanced studies in these areas.

Learning Objectives

1) Explain key terms and concepts related to the fundamentals of organization theory.

2) Analyze everyday phenomena from the perspective of business administration.

3) Develop a study plan that prepares students for more advanced content.

Learning Activities Outside of Class

- Review sessions for each class

- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy

- End-of-Term Examination: 40%

- Sub-report: 60%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門

安藤 直紀

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

好業績の企業と、そうでない企業を分けるものは何でしょうか。様々な要素が考えられますが、経営戦略が 1 つの要因として挙げられます。この講義では、大学で経営戦略を学んでいくために必要とされる基礎的な事項を学びます。企業の経営戦略を理解し、分析するための理論的な基礎を習得することを目指します。

【到達目標】

1. 外部環境分析の基礎を習得します。
2. 経営資源分析の基礎を習得します。
3. 経営戦略の基本類型を理解します。
4. 多角化戦略の基礎を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、対面形式とします。授業方式の詳細は、学習支援システム（WebClass）に掲載しますので、開講前に確認してください。授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材フォルダーの中に置きます。理論の説明だけでなく、事例を交えて講義していきます。インタラクティブな講義にするために、講義中に意見等を求めます。また、授業の中で課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックは、講義内や学習支援システムを通して適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関するオリエンテーション
第2回	経営戦略とは	経営戦略とは 競争優位とは
第3回	経営戦略の基本的な分析手法	SWOT 分析
第4回	外部環境分析（1）	外部環境とは
第5回	外部環境分析（2）	ファイブ・フォース・モデルとは
第6回	外部環境分析（3）	ファイブ・フォース・モデルからの示唆
第7回	内部環境分析（1）	経営資源とは
第8回	内部環境分析（2）	経営資源と競争優位
第9回	事業レベルの戦略（1）	戦略の類型
第10回	事業レベルの戦略（2）	コスト・リーダーシップ戦略とは
第11回	事業レベルの戦略（3）	差別化戦略とは
第12回	企業レベルの戦略（1）	多角化戦略とは
第13回	企業レベルの戦略（2）	多角化戦略と企業業績
第14回	まとめ	これまでの学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

講義のための準備・復習時間は、各 2 時間（合計 4 時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

井上達彦・中川功一・川瀬真紀『経営戦略ベーシック＋』中央経済社、2019 年
その他参考文献に関しては、講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：80%

講義内で出される課題：20%

講義内での発言等に対して、プラス点を加算します。プラス点が加算された場合、合計点が 100 点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

企業の事例を紹介する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等ために、情報機器が必要です。

【関連科目】

関連科目は、経営戦略論 I / II、経営管理論 I / II、マーケティング論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、技術管理論 I / II、製品開発論 I / II、グローバル経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、日本経営論 I / II、経営情報論 I / II などです。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What determines a firm's success? Among the various factors, strategy is widely regarded as fundamental. This course introduces students to key concepts and frameworks in strategic management. Students will learn core theoretical frameworks for understanding and analyzing firms' competitive strategies.

(Learning objectives)

The goal for students in this course is to understand the basics of strategic management, including external environment analysis, the resource-based view, business-level strategy, and corporate-level strategy.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to complete assignments, read assigned materials, and review their lecture notes. More than four hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be assessed on a term-end examination (80%) and in-class assignments (20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門

木川 大輔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦略論入門では、経営戦略についての基礎的な概念や理論を理解するとともに、実在する経営にまつわる社会現象や実在する企業が実際に行っている経営戦略を学びます。

本授業の目的は、企業行動や競争環境を理論的に理解する視点を身につけることで、現代のビジネス社会における企業の意思決定を多面的に捉える力を養うことにあります。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

経営戦略についての基礎的な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。進行は、スクリーンに投影したスライドを中心に行います。受講者の理解が進むよう、できるだけ身近な事例を用いたり、写真、グラフ、図などを多く使用します。また、ウェブアプリケーションのチャット機能を用いて、擬似的な双方向のコミュニケーションも毎回の授業で取り入れる予定です。授業内で提示した課題に対する回答はできるだけ授業時間中にリアルタイムで取り上げ、模範解答を取り上げて解説を行います。時間が不足する場合は次の回の授業の冒頭で前回は振り返りながら解説を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の説明、経営戦略とはなにか
第2回	企業の利益	経営戦略における利益の位置付けと重要性
第3回	業界構造	企業の利益に影響を与える要因としての業界構造、5force 分析
第4回	業界内のポジショニング	企業の利益に影響を与える要因としての業界内のポジショニング、基本戦略、戦略グループ
第5回	経営資源	企業の利益に影響を与える要因としての経営資源、VRIO、バリューチェーン
第6回	ゲーム理論ベースの経営戦略	囚人のジレンマ、Win-Win、柔軟性
第7回	経営戦略を構想する①	戦略の構想、ペルソナ分析、リードユーザー、PEST
第8回	経営戦略を構想する②	仕組みの差別化、ポジショニングマップ、ブルーオーシャン戦略
第9回	経営戦略を構想する③	戦略ストーリー
第10回	経営戦略を構想する④	戦略の検証
第11回	全社戦略	企業ドメイン、多角化、事業ポートフォリオ
第12回	多角化のシナジー効果	シナジー効果、範囲の経済、補完財
第13回	垂直統合	垂直統合と市場取引、機会主義、取引費用
第14回	春学期全体のまとめ	第1回から第13回の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

井上達彦・中川功一・川瀬真紀『ベーシックプラス経営戦略』中央経済社, 2020
網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社, 2011 年

【成績評価の方法と基準】

配分：毎回の授業の演習課題、授業への貢献（40％）、期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

第7回から第10回は連続した演習形式の授業です。各回の内訳は進行により前後することがあります。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

This introductory course in strategic management aims to provide students with a foundational understanding of key concepts and theories, while also examining real-world social phenomena related to management and the strategies firms actually pursue. Through this course, students will learn both the theoretical foundations of strategic management and how these ideas are reflected in the strategic decisions and actions of real companies.

The course's learning objectives are twofold. First, students will develop an understanding of fundamental concepts and theories in strategic management and become familiar with the strategies firms actually adopt in practice. Second, students will acquire a basic foundation in strategic management, enabling them to explain what strategic management is and how firms formulate and implement their strategies.

Classes will be conducted face-to-face. Evaluation will be based on class exercises and contributions to class activities (40%) and a final examination (60%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門

福島 英史

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのか」という道筋を示す、基本的な構想や指針のこと」を意味しています。この授業では、こうした経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略論の基礎的事項が習得できる
競争戦略の概念・理論の基礎を理解できる
企業戦略の概念・理論の基礎を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。オンライン開講になる際は学習支援システムや授業内でお知らせします。授業中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。授業内で講評、良答を紹介しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス、導入ストーリー
第2回	経営戦略論では何を学ぶか	経営学の中での経営戦略論の位置づけ、経営戦略の定義
第3回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法（Ⅰ）	PEST分析および3C分析と、その考え方
第4回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法（Ⅱ）	SWOT分析の考え方
第5回	業界構造分析	5 Forces分析と、その考え方
第6回	競争戦略の類型	三つの基本戦略の考え方
第7回	資源ベース論	VRIO分析と、その考え方
第8回	競争戦略の事例	事例による競争戦略の理解と確認
第9回	成長戦略と海外展開	成長ベクトルとグローバル経営の二軸
第10回	企業戦略（Ⅰ）	企業の境界、事業の多角化
第11回	企業戦略（Ⅱ）	事業ドメインとPPM分析
第12回	知識のマネジメント	知識とイノベーション過程
第13回	ベンチャー企業と戦略	新興企業の戦略
第14回	まとめ、試験	学習のまとめ・成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を配布します。

【参考書】

- ・沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』有斐閣.
- ・浅羽茂・牛島辰男(2010)『経営戦略をつかむ』有斐閣.
- ・M.E. ポーター(1995)『競争の戦略(新訂)』ダイヤモンド社.
- ・網倉久永・新宅純二郎(2011)『経営戦略入門』日本経済新聞出版.

【成績評価の方法と基準】

定期試験（86％）と各回の課題（14％）の合計（100％）で評価します。期末試験を受けなかった場合、E評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりととり、企業等の事例を引き続き充実させていきます

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声・撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。注意しても直らない場合、教室からご退出いただきます。授業中の迷惑行為が目に見えれば、本授業の単位を付与しません。

関連科目は、戦略的意思決定論や経営戦略論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

This course deals with introductory knowledge on strategic management, which is one of the core subjects in business administration. The goal of this course is to learn basic concepts and theories related to corporate strategy and business strategy as preparation for studying after the second grade. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門

木川 大輔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 L～Q

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦略論入門では、経営戦略についての基礎的な概念や理論を理解するとともに、実在する経営にまつわる社会現象や実在する企業が実際に行っている経営戦略を学びます。
本授業の目的は、企業行動や競争環境を理論的に理解する視点を身につけることで、現代のビジネス社会における企業の意思決定を多面的に捉える力を養うことにあります。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。
経営戦略についての基礎的な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。進行は、スクリーンに投影したスライドを中心に行います。受講者の理解が進むよう、できるだけ身近な事例を用いたり、写真、グラフ、図などを多く使用します。また、ウェブアプリケーションのチャット機能を用いて、擬似的な双方向のコミュニケーションも毎回の授業で取り入れる予定です。授業内で提示した課題に対する回答はできるだけ授業時間中にリアルタイムで取り上げ、模範解答を取り上げて解説を行います。時間が不足する場合は次の回の授業の冒頭で前回は振り返りながら解説を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の説明、経営戦略とはなにか
第2回	企業の利益	経営戦略における利益の位置付けと重要性
第3回	業界構造	企業の利益に影響を与える要因としての業界構造、5force 分析
第4回	業界内のポジショニング	企業の利益に影響を与える要因としての業界内のポジショニング、基本戦略、戦略グループ
第5回	経営資源	企業の利益に影響を与える要因としての経営資源、VRIO、バリューチェーン
第6回	ゲーム理論ベースの経営戦略	囚人のジレンマ、Win-Win、柔軟性
第7回	経営戦略を構想する①	戦略の構想、ペルソナ分析、リードユーザー、PEST
第8回	経営戦略を構想する②	仕組みの差別化、ポジショニングマップ、ブルーオーシャン戦略
第9回	経営戦略を構想する③	戦略ストーリー
第10回	経営戦略を構想する④	戦略の検証
第11回	全社戦略	企業ドメイン、多角化、事業ポートフォリオ
第12回	多角化のシナジー効果	シナジー効果、範囲の経済、補完財
第13回	垂直統合	垂直統合と市場取引、機会主義、取引費用
第14回	春学期全体のまとめ	第1回から第13回の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

井上達彦・中川功一・川瀬真紀『ベーシックプラス経営戦略』中央経済社, 2020
網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社, 2011 年

【成績評価の方法と基準】

配分：毎回の授業の演習課題、授業への貢献（40％）、期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

第7回から第10回は連続した演習形式の授業です。各回の内訳は進行により前後することがあります。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

This introductory course in strategic management aims to provide students with a foundational understanding of key concepts and theories, while also examining real-world social phenomena related to management and the strategies firms actually pursue. Through this course, students will learn both the theoretical foundations of strategic management and how these ideas are reflected in the strategic decisions and actions of real companies.

The course's learning objectives are twofold. First, students will develop an understanding of fundamental concepts and theories in strategic management and become familiar with the strategies firms actually adopt in practice. Second, students will acquire a basic foundation in strategic management, enabling them to explain what strategic management is and how firms formulate and implement their strategies.

Classes will be conducted face-to-face. Evaluation will be based on class exercises and contributions to class activities (40%) and a final examination (60%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

マーケティング入門

岡田 庄生

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、マーケティングを初めて学ぶ方を対象に、STP や 4P といったマーケティングの基本的な概念を、具体的な企業の事例とともに、分かりやすく解説します。
あわせて、受講生全員を 4 人程度のグループに編成し、毎回の授業でグループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加は必須であり、他の受講生と意見交換しながら学びを深めることを大切にしています。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業とオンライン授業が混在しています。
1 回目のガイダンスで詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
なお、1 回目の授業はオンライン（リアルタイム）となります。
①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業冒頭に授業の内容に関連した「授業中クイズ」を実施します。対面授業での授業中クイズは教室にいないと参加できません。さらに、毎回少人数グループでのディスカッションを行います。
②授業後：毎回の授業に関連する「授業後課題」を、期日までに提出します。提出された課題のうちいくつかを取り上げて、次の授業にてフィードバックを行います。
③中間テスト・学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は 1 回目の授業で説明しますので、必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の進め方と評価方法 (Zoom)
第 2 回	マーケティング発想法	ニーズとウォンツ、マーケティング近視眼
第 3 回	マーケティング・ミックス	STP やマーケティング・ミックス（製品・価格・チャネル・コミュニケーション）
第 4 回	製品戦略	新製品開発による顧客創造
第 5 回	価格戦略	価格戦略による顧客創造
第 6 回	ゲスト講師	マーケティングの最前線で活躍するゲストによる講演
第 7 回	チャネル戦略・中間テスト	流通チャネルの構築による顧客創造、中間テストの実施
第 8 回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造
第 9 回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ
第 10 回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築
第 11 回	デジタルマーケティング	デジタル時代のマーケティング、広告コミュニケーション(オンデマンド)
第 12 回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法(オンデマンド)
第 13 回	サービスマーケティング	サービスマーケティングの基本構成、7 P(オンデマンド)
第 14 回	社会共生	マーケティングと社会との関わり(オンデマンド)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ 2 時間です。
上記以外に、中間テスト・期末テストの準備があります。中間テスト・学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。テストの詳細は 1 回目の授業で説明します。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016)

大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価 2,000 円）を購入することをお勧めします。

電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。

以下のページよりご確認をお願いします。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用の URL からログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。

なお、紙版（税別定価 2,400 円）を選ぶことも可能です。

詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎 (2019)
- ・久保田進彦・澁谷寛・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣 (2022)
- ・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社 (2009)

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中クイズ：30%
2. 授業後課題：30%
3. 中間テスト：10%
4. 期末テスト：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを踏まえて、ゲスト講師やオンデマンド授業を取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

中間テストは PC のみ使用となりますので、中間テストの時には必ず PC を用意してください。スマートフォンやタブレットは使用できません。個人 PC が持参できない学生は、富士見坂校舎の情報カフェテリアにてレンタルすることができます。

【その他の重要事項】

本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で約 20 年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での事例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will introduce basic marketing concepts, such as STP and the 4Ps, to those who are new to marketing. These concepts will be explained clearly through real-world business examples. Additionally, through group discussions (conducted in Japanese), you will have the opportunity to engage with your peers and apply the knowledge you have gained, helping you develop the skills to use it in practice.

Learning Objectives

- Gain a solid understanding of fundamental marketing concepts
- Explain the marketing strategies used for everyday products and services
- Propose effective strategies to solve marketing challenges

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. Midterm test: 10%
4. End-of-term test: 30%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

マーケティング入門

岡田 庄生

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、マーケティングを初めて学ぶ方を対象に、STP や 4P といったマーケティングの基本的な概念を、具体的な企業の事例とともに、分かりやすく解説します。

あわせて、受講生全員を 4 人程度のグループに編成し、毎回の授業でグループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加は必須であり、他の受講生と意見交換しながら学びを深めることを大切にしています。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業とオンライン授業が混在しています。

1 回目のガイダンスで詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。

なお、1 回目の授業はオンライン（リアルタイム）となります。

①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業冒頭に授業の内容に関連した「授業中クイズ」を実施します。対面授業での授業中クイズは教室にいないと参加できません。さらに、毎回少人数グループでのディスカッションを行います。

②授業後：毎回の授業に関連する「授業後課題」を、期日までに提出します。提出された課題のうちいくつかを取り上げて、次の授業にてフィードバックを行います。

③中間テスト・学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は 1 回目の授業で説明しますので、必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の進め方と評価方法 (Zoom)
第 2 回	マーケティング発想法	ニーズとウォンツ、マーケティング近視眼
第 3 回	マーケティング・ミックス	STP やマーケティング・ミックス (製品・価格・チャネル・コミュニケーション)
第 4 回	製品戦略	新製品開発による顧客創造
第 5 回	価格戦略	価格戦略による顧客創造
第 6 回	ゲスト講師	マーケティングの最前線で活躍するゲストによる講演
第 7 回	チャネル戦略・中間テスト	流通チャネルの構築による顧客創造、中間テストの実施
第 8 回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造
第 9 回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ
第 10 回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築
第 11 回	デジタルマーケティング	デジタル時代のマーケティング、広告コミュニケーション (オンデマンド)
第 12 回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法 (オンデマンド)
第 13 回	サービスマーケティング	サービスマーケティングの基本構成、7 P (オンデマンド)
第 14 回	社会共生	マーケティングと社会との関わり (オンデマンド)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。

また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ 2 時間です。

上記以外に、中間テスト・期末テストの準備があります。中間テスト・学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。テストの詳細は 1 回目の授業で説明します。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016)

大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価 2,000 円）を購入することをお勧めします。

電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。

以下のページよりご確認をお願いします。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用の URL からログインすることで、電子テキスト (EDX UniText) を利用することができます。

https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。

なお、紙版（税別定価 2,400 円）を選ぶことも可能です。

詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎 (2019)
- ・久保田進彦・澁谷寛・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣 (2022)
- ・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社 (2009)

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中クイズ：30%
2. 授業後課題：30%
3. 中間テスト：10%
4. 期末テスト：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを踏まえて、ゲスト講師やオンデマンド授業を取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

中間テストは PC のみ使用となりますので、中間テストの時には必ず PC を用意してください。スマートフォンやタブレットは使用できません。個人 PC が持参できない学生は、富士見坂校舎の情報カフェテリアにてレンタルすることができます。

【その他の重要事項】

本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で約 20 年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での事例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will introduce basic marketing concepts, such as STP and the 4Ps, to those who are new to marketing. These concepts will be explained clearly through real-world business examples. Additionally, through group discussions (conducted in Japanese), you will have the opportunity to engage with your peers and apply the knowledge you have gained, helping you develop the skills to use it in practice.

Learning Objectives

- Gain a solid understanding of fundamental marketing concepts
- Explain the marketing strategies used for everyday products and services
- Propose effective strategies to solve marketing challenges

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. Midterm test: 10%
4. End-of-term test: 30%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

マーケティング入門

長谷川 翔平

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングを取り巻く環境は時代と共に変化してきている。近年では、インターネットやスマートフォン、人工知能の普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。インターネットやスマートフォンによって、消費者は製品・サービスの比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS 等を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。消費者の行動データが大量に収集・利用できるようになったこともあり、人工知能のマーケティングへの応用も広がっている。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業はマーケティングの初学者を対象として、STPマーケティングやマーケティング・ミックスなどのマーケティングの基礎概念を学ぶことを目的とし、学んだ知識を現実のマーケティングに応用できる能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書 1 章分を取り上げ、授業前半はスライドを用いた講義、後半はディスカッションを行う。ディスカッションでは、その日の授業で扱ったテーマに関するマーケティング課題を考えてもらい、クラス全体でその内容を報告してもらう。その後、報告してもらった意見に対して教員からフィードバックを行う。議論するマーケティング課題は 1 週間前の授業時に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティング発想法	マーケティングの定義や目的、発想法を学ぶ
第2回	マーケティング・ミックス	STPマーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学ぶ
第3回	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ
第4回	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ
第5回	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ
第6回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ
第7回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学ぶ
第8回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ
第9回	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ
第10回	ダイヤモンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ
第11回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ
第12回	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ
第13回	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ
第14回	授業のまとめ	授業で学んだことを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習に加えて、普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか、よく観察して欲しい。新聞やニュースを見ることも勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光・清水信年『1からのマーケティング 第5版』碩学舎（2026）
- ・久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣（2022）
- ・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの報告やそれに対するコメントの時間を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料などは Google クラウドスルームを通じて配信する。授業内のディスカッションで利用するため、授業にはノートパソコンを持参することが望ましい。

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues.

(Learning activities outside of classroom)

Students should observe how marketing is employed in the products and services they use daily. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

マーケティング入門

長谷川 翔平

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングを取り巻く環境は時代と共に変化してきている。近年では、インターネットやスマートフォン、人工知能の普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。インターネットやスマートフォンによって、消費者は製品・サービスの比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS 等を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。消費者の行動データが大量に収集・利用できるようになったこともあり、人工知能のマーケティングへの応用も広がっている。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業はマーケティングの初学者を対象として、STPマーケティングやマーケティング・ミックスなどのマーケティングの基礎概念を学ぶことを目的とし、学んだ知識を現実のマーケティングに応用できる能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書 1 章分を取り上げ、授業前半はスライドを用いた講義、後半はディスカッションを行う。ディスカッションでは、その日の授業で扱ったテーマに関するマーケティング課題を考えてもらい、クラス全体でその内容を報告してもらう。その後、報告してもらった意見に対して教員からフィードバックを行う。議論するマーケティング課題は 1 週間前の授業時に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マーケティング発想法	マーケティングの定義や目的、発想法を学ぶ
第 2 回	マーケティング・ミックス	STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学ぶ
第 3 回	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ
第 4 回	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ
第 5 回	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ
第 6 回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ
第 7 回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学ぶ
第 8 回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ
第 9 回	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ
第 10 回	ダイヤモンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ
第 11 回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ
第 12 回	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ
第 13 回	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ
第 14 回	授業のまとめ	授業で学んだことを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習に加えて、普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか、よく観察して欲しい。新聞やニュースを見ることも勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光・清水信年『1 からのマーケティング 第 5 版』碩学舎（2026）
- ・久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣（2022）
- ・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの報告やそれに対するコメントの時間を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料などは Google クラウドスルームを通じて配信する。授業内のディスカッションで利用するため、授業にはノートパソコンを持参することが望ましい。

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues.

(Learning activities outside of classroom)

Students should observe how marketing is employed in the products and services they use daily. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

ファイナンス入門

山崎 輝

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。多くの学生にとって、ファイナンスを学ぶのはこの授業が初めてになると思います。しかし、金融取引や証券投資の基礎知識は、現代社会においてすべての人にとって必要不可欠です。経営学部の卒業生の多くが金融機関や企業の財務部門で活躍しており、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基盤となっています。また、個人としても、資産形成や老後資金を確保するためには、ファイナンスの知識や思考が欠かせません。

本授業では、主に次の3つのテーマについて学びます。(1) 金融取引や証券市場の仕組み、(2) 将来価値と現在価値の概念、(3) 債券と株式の初歩的な分析手法です。これらの内容は、2年次以降に学ぶファイナンス関連科目の基礎になるだけでなく、実社会における金融リテラシーとして、様々な場面で役に立つはずです。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 利率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- (3) 債券のしくみを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- (4) 株式のしくみを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式の対面授業です。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価基準などの説明
第2回	金融・証券市場の概観 (1)	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第3回	金融・証券市場の概観 (2)	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第4回	利率、将来価値、現在価値 (1)	将来価値および複利と単利の概念
第5回	利率、将来価値、現在価値 (2)	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第6回	利率、将来価値、現在価値 (3)	様々な複利期間と利率の計算
第7回	債券入門 (1)	債券の基本的なしくみと用語
第8回	債券入門 (2)	最終利回りと債券投資のリスク
第9回	債券分析の基礎	信用リスクと社債分析
第10回	株式入門 (1)	株式の基本的なしくみと用語
第11回	株式入門 (2)	配当割引モデルと株式評価のための指標
第12回	株式分析の基礎	同業他社間比較による株式分析の実際
第13回	デリバティブ入門	先物取引とオプション取引のしくみ
第14回	現代ポートフォリオ理論の紹介	効率的市場仮説、ポートフォリオのリスクとリターン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書・講義資料）の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) 講義資料（配付方法は初回授業で説明します）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ファイナンス特有の概念や理論の解説は、特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I / II、デリバティブ入門 I / II、Excelで学ぶファイナンス理論 I / II

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. [Learning objectives] It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

ファイナンス入門

芝田 隆志

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 O～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資に関する知識は、社会に出る皆さんにとって不可欠です。なぜなら、金融機関や企業の財務部門では、ファイナンスの知識が必須であるからです。また、個人の立場においても、債券・株式・投資信託などへの投資や、老後資金を確保するための金融資産運用に関する知識は欠かせません。

本科目では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念およびその計算方法、債券および株式の初歩的な分析手法を学びます。さらに、金融資産におけるリスクとリターンのトレードオフについて理解を深めます。

【到達目標】

受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。

- ①金融・証券の基礎知識を得ることで、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率、将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標を使った初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式の対面授業となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法について説明する。
第2回	金融資本市場	金融資本市場について学習する。
第3回	確実性下の現在価値	利子率、将来価値、現在価値について学習する。
第4回	確実性下の現在価値	引き続き、利子率、将来価値、現在価値について学習する。
第5回	確実性下の現在価値	応用として、住宅ローン、積み立て貯蓄について学習する。
第6回	不確実性下の現在価値	リスク回避、リスク中立について学習する。
第7回	不確実性下の現在価値	確実性等価、リスクプレミアムについて学習する。
第8回	不確実性下の現在価値	伝統的な評価法とリスク中立法について学習する。
第9回	デリバティブ入門	オプションの基本的な仕組みについて学習する。
第10回	金融資産のリスクとリターン	ハイリスク・ハイリターンの原理について学習する。
第11回	債券入門	債券の基本的な仕組みについて学習する。
第12回	株式入門	株式の基本的な仕組みについて学習する。
第13回	企業の資金調達（1）	企業の収益率、負債の収益率、株式の収益率について学ぶ。
第14回	企業の資金調達（2）	MMの定理について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習をしっかりと行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹，池田昌幸，2019，入門証券投資論，有斐閣

【参考書】

他の参考書については、講義中に適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%，小テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

基本的な知識を丁寧に説明します。

【関連科目】

投資入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，ポートフォリオ理論入門，デリバティブ入門 I/II，Excel で学ぶファイナンス理論 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of finance. The goals of the course are to understand the essential concept of finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

ファイナンス入門

吉田 靖

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部の多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値、債券と株式、ポートフォリオ理論、デリバティブの仕組み、コーポレートファイナンスに関する初歩的な考え方や計算方法について学びます。これらの内容は2年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

- 1) 利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- 2) 債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- 3) ポートフォリオ理論の基本的な考え方を理解する。
- 4) CAPM の基本的な考え方を理解する。
- 5) 先渡取引と先物取引、オプション取引の基本的な仕組みと計算方法を理解する。
- 6) 株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- 7) コーポレートファイナンスの基本的な考え方を理解し、初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は教科書と講義資料を用いた講義形式になります。
授業中に教室内でのクイズ（小テスト）で計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、スマホ、ノートPCの電卓アプリ・表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。
クイズは次回の授業前までの課題となる場合もあります。
クイズの結果は授業中にフィードバックします。
期末試験の電卓使用については別途指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業とファイナンスの 仕組み	授業の進め方や成績評価方法などの 紹介。金融市場・資本市場の概観
第2回	事業評価と資産評価	将来価値、現在価値、複利と単利、 複利期間、利子率の計算
第3回	プロジェクトの選択	正味現在価値法 内部収益率法 資金制約がある場合のプロジェクト 選択
第4回	債券の基本	債券の仕組みと用語 債券の種類、スポットレート
第5回	金利リスクと債券価格	金利の期間構造 デュレーション
第6回	ポートフォリオ理論	リスク分散 システムティック・リスクと固有リ スク
第7回	ポートフォリオの選択	資産の組み合わせ 無リスク資産とリスク資産
第8回	CAPM（資本資産価格 モデル）	CAPMの前提条件 リスクの市場価格
第9回	CAPMの応用	インデックス運用、パフォーマンス 評価
第10回	効率的市場仮説	情報効率性、効率的市場仮説の定義
第11回	デリバティブ入門（1）	先渡取引と先物取引の仕組みと商品
第12回	デリバティブ入門（2）	オプション取引の仕組みと商品
第13回	企業価値評価	配当割引モデル、資本コスト
第14回	コーポレートファイナ ンス	資本構成、財務レバレッジ、MM理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配付資料およびクイズ・課題について予習・復習を毎回しっかりと行うことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩瀬健太郎著、『なるほどファイナンス』、2023年、有斐閣、定価 2,640円（本体 2,400円）、ISBN 978-4-641-15118-5

【参考書】

岸本直樹、池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣。
石橋尚平、高橋陽二、内木栄利子共著、『知識の基盤になるファイナンス』、2018年、中央経済社。
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、クイズ・課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすく丁寧な解説を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

授業には電卓（関数電卓やタブレット、スマホ、ノートPCの電卓アプリ・表計算ソフトを利用してもよい）を持参し、予習復習にも使用してください。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I / II、デリバティブ入門 I / II、Excel で学ぶファイナンス理論 I / II

【実務経験のある教員による授業】

証券会社の調査部門、生命保険会社の資産運用部門に在籍していました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかりやすく解説します。

【Outline (in English)】

This lecture covers introductory finance topics. While most students will be learning finance for the first time in this course, foundational knowledge of financial transactions and securities investment — the core domains of finance — is essential for all modern professionals. Many graduates from the Faculty of Business Administration excel in financial institutions and corporate finance departments, where finance theory underpins their work. Furthermore, for individuals, finance knowledge and analytical thinking are indispensable for stock investment and pension fund management. This lecture will cover the mechanisms of financial transactions and securities markets; the concepts of future value and present value; fundamental analytical approaches to bonds and equities; the structure of derivatives; portfolio selection; and introductory concepts in corporate finance. These topics form the foundation for finance-related subjects studied in subsequent years.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Understand the concepts of interest rates, future value, and present value, and be able to perform basic calculations relating to them.
- 2) Understand the structure of bonds and be able to perform yield calculations and basic analysis concerning bond investments.
- 3) Understand the fundamental principles of portfolio theory.
- 4) Understand the fundamental principles of the CAPM.
- 5) Understand the basic mechanisms and fundamental calculation methods of forward contracts, futures contracts, and options trading.
- 6) Understand the structure of equities and be able to perform basic analysis using the dividend discount model and stock valuation metrics.
- 7) Understand the fundamental concepts of corporate finance.

Students are expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Quizzes: 20%.

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

経済学入門

韓 載香、大木 良子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぶとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。

実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（韓）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）とで協力して授業を進めます。また、学習支援システムを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

各回、教員がレクチャーを行います。宿題はオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＋ 実証編第 1 回：日本のマ クロ経済動向	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続いて、実証編第 1 回として、日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断面的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	実証編第 2 回：日本の労働問題	皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率

第 3 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、高度成長期をもたらす基盤を築きます。戦前とはどのような異なる社会を築き上げるか、どのように高度成長期を準備したかという視点からこの時代を眺めます。 ①戦後復興 ②経済改革の意義
第 4 回	実証編第 4 回：戦後日本経済のあゆみ（2）	「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長の要因を概説し、経済社会をどのように変えたかについて考えます。 ①高度成長期という時代 ②高成長のメカニズム
第 5 回	実証編第 5 回：戦後日本経済のあゆみ（3）	高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。1980 年代の日本経済ではバブルが発生します。バブル経済のメカニズムについて解説し、その意味を考えます。 ①高成長の終焉と安定成長 ②経済の国際化とバブル経済
第 6 回	実証編第 6 回：戦後日本経済のあゆみ（4）	バブル経済が崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①平成不況と経済構造の変質 ②世界金融危機の発生
第 7 回	実証編第 7 回：日本の世界経済とのかかわり	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノ、サービス、カネの国際間移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴、為替の仕組みや制度、国際金融、地域経済統合にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①日本の貿易の外観 ②円ドル為替レートと国際通貨体制の変遷と金融危機による日本経済への影響 ③多様な国際通商システムと地域経済統合 ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
第 8 回	理論編第 1 回：需要と供給	ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。
第 9 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 10 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）

第11回	理論編第4回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？
第12回	理論編第5回：市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、できればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
第13回	理論編第6回：市場の失敗（1）	市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第14回	理論編第7回：市場の失敗（2）	市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実証編については、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料をHoppiiの学習支援システムに公開する予定です。
理論編の7回のレクチャーは以下の教科書に基づいて展開されます。
マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第5版）』センゲージラーニング 2025年
教科書の活用方法は理論編第1回で詳しく説明します。

【参考書】

理論編の学習には、教科書に加え、以下も参考になります。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第3版）』日本評論社 2018年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介しします

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価50％と理論編の評価50％で成績を付けます。
実証編・理論編ともに、期末テスト（60％）、授業中の小テストや宿題等（40％）で評価します。
期末テストや小テスト、宿題の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第1回の授業で説明します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

(Course outline) This class offers a first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, you will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, you will deepen your understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

(Learning Objectives) By the end of the course, you will be able to understand the decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of the economy in a whole society, which anyone who wants to study business should learn.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies) Final grade will be calculated according to the following process: Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and midterm exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (60%) and homework, quiz, etc (40%).

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

経済学入門

大木 良子、韓 載香

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 〔春学期授業/Spring〕
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぶとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（韓）とで協力して授業を進めます。また、学習支援システムを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

各回、教員がレクチャーを行います。宿題はオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＋理論編第 1 回：ミクロ経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続いて、理論編第 1 回として、ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。
第 2 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 3 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するのか？）

第 4 回	理論編第 4 回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？ 売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうしてもそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 5 回	理論編第 5 回：市場の効率性	
第 6 回	理論編第 6 回：市場の失敗（1）	市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 7 回	理論編第 7 回：市場の失敗（2）	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。
第 8 回	実証編第 1 回：日本のマクロ経済動向	①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観 皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 9 回	実証編第 2 回：日本の労働問題	第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、高度成長期をもたらす基盤を築きます。戦前とはどのような異なる社会を築き上げたか、どのように高度成長期を準備したかという視点からの時代を眺めます。 ①戦後復興 ②経済改革の意義
第 10 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ（1）	

第11回	実証編第4回：戦後日本経済のあゆみ（2）	「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長の要因を概説し、経済社会をどのように変えたかについて考えます。 ①高度成長期という時代 ②高成長のメカニズム
第12回	実証編第5回：戦後日本経済のあゆみ（3）	高度成長が終焉し、安定成長へ移行する1970年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。1980年代の日本経済ではバブルが発生します。バブル経済のメカニズムについて解説し、その意味を考えます。 ①高成長の終焉と安定成長 ②経済の国際化とバブル経済
第13回	実証編第6回：戦後日本経済のあゆみ（4）	バブル経済が崩壊した後は「失われた20年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間2000年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①平成不況と経済構造の変質 ②世界金融危機の発生
第14回	実証編第7回：日本の世界経済とのかかわり	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノ、サービス、カネの国際間移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴、為替の仕組みや制度、国際金融、地域経済統合にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します ①日本の貿易の外観 ②円ドル為替レートの軌跡と国際通貨体制の変遷と金融危機による日本経済への影響 ③多様な国際通商システムと地域経済統合 ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編の7回のレクチャーは以下の教科書に基づいて展開されます。
マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第5版）』センゲージラーニング 2025年
この教科書は、2年次以降履修できる「ミクロ経済学入門Ⅰ」「ミクロ経済学入門Ⅱ」でも使います。教科書の活用方法は理論編第1回で詳しく説明します。理論編第1回での説明を聞いてから購入を検討してください。
実証編では教科書を指定しません。

【参考書】

理論編の学習には、教科書に加え、以下も参考になります。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第3版）』日本評論社 2018年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価50％と理論編の評価50％で成績を付けます。
実証編・理論編ともに、期末テスト（60％）、授業中の小テストや宿題等（40％）で評価します。
期末テストや小テスト、宿題の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第1回の授業で説明します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

(Course outline) This class offers a first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, you will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, you will deepen your understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

(Learning Objectives) By the end of the course, you'll be able to understand the decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of the economy in a whole society, which anyone who wants to study business should learn.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies) Final grade will be calculated according to the following process:

Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid-term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (60%) and homework, quiz, etc (40%).

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

経済学入門

高橋 理香、宮澤 信二郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 〔秋学期授業/Fall〕
営 1 年 L～Q

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）とで協力して授業を進めます。また、学習支援システムを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。各回、教員がレクチャーを行います。宿題あるいは小テストはオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＋理論編第 1 回：ミクロ経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続き、理論編第 1 回として、ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。
第 2 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実で観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 3 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）

第 4 回	理論編第 4 回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？ 売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうしてもそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 5 回	理論編第 5 回：市場の効率性	
第 6 回	理論編第 6 回：市場の失敗（1）	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。
第 7 回	理論編第 7 回：市場の失敗（2）	①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。
第 8 回	実証編第 1 回：日本のマクロ経済動向	①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。
第 9 回	実証編第 2 回：日本の労働問題	①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。
第 10 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ（1）	①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。

第11回	実証編第4回：戦後日本経済のあゆみ（2）	1980年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた20年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間2000年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第12回	実証編第5回：日本の世界経済とのかかわり（1）	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第13回	実証編第6回：日本の世界経済とのかかわり（2）	モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
第14回	実証編第7回：近年のトピックスと実証編のまとめ	近年の日本を取り巻く経済のトピックスについて紹介します。また、実証編のまとめを行います。 ①国内経済の動向 ②グローバル経済の動向 ③実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。テキストに準拠したオンライン教材を使って宿題を提出して頂きます。
N・グレゴリー・マンキュー（片桐満ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング 2025年 4,500円＋税
上記のテキストは専門入門科目200番台の「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」でも使用します。
実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料を配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には、特に、以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第3版）』日本評論社 2018年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価50％と理論編の評価50％で成績を付けます。
実証編・理論編ともに、期末テスト（60％）、授業中の小テストや宿題等（40％）で評価します。
期末テストや小テスト、宿題の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第1回の授業で説明します。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

(Course outline) This class offers a first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, you will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, you will deepen your understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

(Learning Objectives) By the end of the course, you will be able to understand the decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of the economy in a whole society, which anyone who wants to study business should learn.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies) Final grade will be calculated according to the following process: Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (60%) and homework, quiz, etc (40%).

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

経済学入門

宮澤 信二郎、高橋 理香

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）とで協力して授業を進めます。また、学習支援システムを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。各回、教員がレクチャーを行います。宿題あるいは小テストはオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＋ 実証編第 1 回：日本のマ クロ経済動向	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続いて、実証編第 1 回として、日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断面的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	実証編第 2 回：日本の労働問題	皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率

第 3 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 4 回	実証編第 4 回：戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第 5 回	実証編第 5 回：日本の世界経済とのかかわり（1）	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 6 回	実証編第 6 回：日本の世界経済とのかかわり（2）	モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷
第 7 回	実証編第 7 回：近年のトピックと実証編のまとめ	④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響 近年の日本を取り巻く経済のトピックについて紹介します。また、実証編のまとめを行います。 ①国内経済の動向 ②グローバル経済の動向 ③実証編のまとめ
第 8 回	理論編第 1 回：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。
第 9 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実を観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 10 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）

第11回	理論編第4回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせ、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？
第12回	理論編第5回：市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうしてもそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第13回	理論編第6回：市場の失敗（1）	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
第14回	理論編第7回：市場の失敗（2）	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。テキストに準拠したオンライン教材を使って宿題を提出して頂きます。

N・グレゴリー・マンキュー（片桐満ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング 2025年 4,500円＋税

上記のテキストは専門入門科目200番台の「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」でも使用します。

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料を配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には、特に、以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学（第3版）』日本評論社 2018年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013年

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価50％と理論編の評価50％で成績を付けます。

実証編・理論編ともに、期末テスト（60％）、授業中の小テストや宿題等（40％）で評価します。

期末テストや小テスト、宿題の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第1回の授業で説明します。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

(Course outline) This class offers a first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, you will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, you will deepen your understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

(Learning Objectives) By the end of the course, you will be able to understand the decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of the economy in a whole society, which anyone who wants to study business should learn.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies) Final grade will be calculated according to the following process: Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (60%) and homework, quiz, etc (40%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学入門

牧草 夏実

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスや社会の現場ではデータを読む力が求められており、そのためには統計処理の内容を理解することが、実社会から求められている。本授業では、基本的な実データの整理・要約を行うとともに、その理論の基礎的なところの理解を目指す。

【到達目標】

- ・基本的な統計量を理解し、解釈できる。
- ・簡単な確率の考え方を理解し、統計的推測の前提を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせ、毎回テーマに沿った例題や実データを用いて解説する。授業中に小演習を行い、統計ソフトや表計算ソフトを使って計算・グラフ作成を適宜行う。小演習の解答例は授業内で解説し、提出課題については採点後に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の進め方と評価方法を説明する。統計学の基本的概念を学ぶ。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学ぶ。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学ぶ。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学ぶ。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学ぶ。
第5回	1変量の記述：範囲の割合と関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学ぶ。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学ぶ。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学ぶ。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学ぶ。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学ぶ。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学ぶ。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学ぶ。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学ぶ。また、推定において重要な中心極限定理を紹介する。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値(母数)を推測すること(推定)の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学ぶ。
第13回	推定：点推定	母集団の平均(母平均)の推定量の統計的性質を学ぶ。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定(区間推定)を学ぶ。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料を読み、用語や公式を確認する。授業後に演習問題を解き、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

高橋誠『データ分析のための統計学の基礎』新世社
岡本和夫『新版数学シリーズ 新版確率統計 改訂版』実教出版

【成績評価の方法と基準】

課題：50%
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン(ExcelまたはGoogleスプレッドシート利用可)

【その他の重要事項】

授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II

【Outline (in English)】

In business and society, the ability to read and analyze data is increasingly required, and understanding statistical methods is essential in real-world settings. In this course, students will learn how to organize and summarize basic real-world data, while aiming to develop a fundamental understanding of the underlying statistical theory.

Learning Objectives:

- ・ Understand basic descriptive statistics and be able to interpret them.
- ・ Understand basic probability concepts and be able to explain the assumptions underlying statistical inference.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to read the distributed materials in advance and review relevant terminology and formulas. After each class, students will work on exercises to deepen their understanding. The standard time for preparation and review for this course is two hours per session.

Grading Criteria:

- Assignments 50%
- Final exam 50%

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学入門

牧草 夏実

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 〔秋学期授業/Fall〕
営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスや社会の現場ではデータを読む力が求められており、そのためには統計処理の内容を理解することが、実社会から求められている。本授業では、基本的な実データの整理・要約を行うとともに、その理論の基礎的なところの理解を目指す。

【到達目標】

- ・基本的な統計量を理解し、解釈できる。
- ・簡単な確率の考え方を理解し、統計的推測の前提を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせ、毎回テーマに沿った例題や実データを用いて解説する。

授業中に小演習を行い、統計ソフトや表計算ソフトを使って計算・グラフ作成を適宜行う。

小演習の解答例は授業内で解説し、提出課題については採点後に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の進め方と評価方法を説明する。
第2回	1変量の記述：図表の作成	統計学の基本的概念を学ぶ。 データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学ぶ。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学ぶ。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学ぶ。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学ぶ。
第5回	1変量の記述：範囲の割合と関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学ぶ。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学ぶ。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学ぶ。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学ぶ。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学ぶ。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学ぶ。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学ぶ。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学ぶ。また、推定において重要な中心極限定理を紹介する。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値(母数)を推測すること(推定)の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学ぶ。
第13回	推定：点推定	母集団の平均(母平均)の推定量の統計的性質を学ぶ。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定(区間推定)を学ぶ。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料を読み、用語や公式を確認する。授業後に演習問題を解き、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

高橋誠『データ分析のための統計学の基礎』新世社
岡本和夫『新版数学シリーズ 新版確率統計 改訂版』実教出版

【成績評価の方法と基準】

課題：50%
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン(Excel または Google スプレッドシート利用可)

【その他の重要事項】

授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II

【Outline (in English)】

In business and society, the ability to read and analyze data is increasingly required, and understanding statistical methods is essential in real-world settings. In this course, students will learn how to organize and summarize basic real-world data, while aiming to develop a fundamental understanding of the underlying statistical theory.

Learning Objectives:

- ・ Understand basic descriptive statistics and be able to interpret them.
- ・ Understand basic probability concepts and be able to explain the assumptions underlying statistical inference.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to read the distributed materials in advance and review relevant terminology and formulas. After each class, students will work on exercises to deepen their understanding. The standard time for preparation and review for this course is two hours per session.

Grading Criteria:

- Assignments 50%
- Final exam 50%

統計学入門

高橋 慎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・練習問題を出題した次の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学びます。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学びます。
第5回	1変量の記述：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学びます。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学びます。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。また、推定において重要な中心極限定理を紹介します。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第13回	推定：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・練習問題を宿題として解きます。

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋慎『データ分析のための統計学の基礎』新世社

【参考書】

- ・藪友良『入門 実践する統計学』東洋経済新報社
- ・竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編『データサイエンス入門 第2版』学術図書出版社・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳『データ分析のための統計学入門』("OpenIntro Statistics, 4th Edition") 日本統計協会 (PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会
- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題：50%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogle スプレッドシート）をえる端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

経営のための統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.

The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 50% assignments and 50% final exam.

統計学入門

高橋 慎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・練習問題を出題した次の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学びます。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学びます。
第5回	1変量の記述：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学びます。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学びます。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。また、推定において重要な中心極限定理を紹介します。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第13回	推定：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・練習問題を宿題として解きます。

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋慎『データ分析のための統計学の基礎』新世社

【参考書】

- ・藪友良『入門 実践する統計学』東洋経済新報社
- ・竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編『データサイエンス入門 第2版』学術図書出版社・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳『データ分析のための統計学入門』("OpenIntro Statistics, 4th Edition") 日本統計協会 (PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会
- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題：50%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogle スプレッドシート）をえる端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

経営のための統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.

The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 50% assignments and 50% final exam.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅰ

藤井 誠

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業において、学生は、ビジネスの共通言語である「簿記」の基本的内容を習得することができる。簿記は「帳簿記入」の略とも言われ、会計データの基礎となることから、簿記を学ぶことは、会計学を理解するうえでも必須の知識となる。

この授業における簿記のレベルについて、春学期は、日商簿記検定 3 級の範囲のうちの基礎的な部分の前半を扱う。

大学において最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとっても、この「簿記入門」は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つである。

日商簿記検定 3 級の試験を目指して学習することも有用であるため、資格取得にも積極的に挑戦して欲しい。

【到達目標】

基本的な取引の内容を理解し、それを記帳し、さらに情報を編集して財務諸表を作成する理論と技術を習得する。

会社における財産管理の技術を習得する。

日商簿記検定 3 級に合格できる知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。まず、説明を行い、その後で例題等の問題を解くことにより、受講生の理解度を確認するとともに、理解の定着を目指す。毎回の授業終了後、各自で十分な復習を行うことが必要となる。課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭または LMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリットについて学習する。
第2回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係について学習する。
第3回	仕訳と転記（1）	勘定、取引の意義と種類、取引 8 要素と結合関係について学習する。
第4回	仕訳と転記（2）	仕訳と転記について学習する。
第5回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記について学習する。
第6回	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成について学習する。
第7回	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表について学習する。
第8回	現金と預金（1）	現金、現金過不足の会計処理について学習する。
第9回	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金について学習する。
第10回	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法、諸掛と返品について学習する。
第11回	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳、商品有高帳について学習する。
第12回	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金、元帳、明細表について学習する。
第13回	売掛金と買掛金（2）と 春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金と春学期の内容の確認を行う。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、当該回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておく。
復習として、当該回の関連するワークブックの問題を解く（わからない問題、間違えた問題は反復練習することが望ましい）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義 3 級（最新版）中央経済社。』

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30%）と定期試験（70%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC またはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4 サイズの PDF をスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第 1 回授業の際に説明する。

この科目は、経営学部の 1 年生の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容である。また、2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「税務会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of bookkeeping, the common language of business. Bookkeeping is also an abbreviation for "bookkeeping," and since it is the basis of accounting data, learning bookkeeping is essential knowledge for understanding accounting. In terms of the level of bookkeeping in this class, in the spring, we will cover the first half of the basic part of the scope of the Nissho Bookkeeping Certification Level 3.

For students who ultimately intend to specialize in accounting at university, as well as other students, this "Introduction to Bookkeeping" is one of the most important subjects, along with "Introduction to Accounting."

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (30%) and regular exams (70%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

藤井 誠

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業において、学生は、ビジネスの共通言語である「簿記」の基本的内容を習得することができる。簿記は「帳簿記入」の略とも言われ、会計データの基礎となることから、簿記を学ぶことは、会計学を理解するうえでも必須の知識となる。

この授業における簿記のレベルについて、秋学期は、日商簿記検定3級の範囲のうちの基礎的な部分の後半を扱う。

大学において最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとっても、この「簿記入門」は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の1つである。

日商簿記検定3級の試験を目指して学習することも有用であるため、資格取得にも積極的に挑戦して欲しい。

【到達目標】

基本的な取引の内容を理解し、それを記帳し、さらに情報を編集して財務諸表を作成する理論と技術を習得する。

会社における財産管理の技術を習得する。

日商簿記検定3級に合格できる知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。まず、説明を行い、その後で例題等の問題を解くことにより、受講生の理解度を確認するとともに、理解の定着を目指す。毎回の授業終了後、各自で十分な復習を行うことが必要となる。課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務について学習する。
第2回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する。
第3回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理について学習する。
第4回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上について学習する。
第5回	資本	株式会社設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理について学習する。
第6回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理について学習する。
第7回	税金	利益額に基づいて課される税金と利益以外の金額に基づいて貸される税金の会計処理について学習する。
第8回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法について学習する。
第9回	財務諸表（1）	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する。
第10回	財務諸表（2）	精算表の作成について学習する。
第11回	財務諸表（3）	財務諸表の作成について学習する。
第12回	問題演習	秋学期に学習した内容と3級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う。
第13回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、当該回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておく。
復習として、当該回の関連するワークブックの問題を解く（わからない問題、間違えた問題は反復練習することが望ましい）。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（最新版）』中央経済社。

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（最新版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30%）と定期試験（70%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

この科目は、経営学部の1年生の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容である。また、2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「税務会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる。

【関連科目】

この授業は、2年次以降の会計関連科目を学習する際の基礎となる科目である。

【Outline (in English)】

In this class, students will be able to acquire the basics of bookkeeping, the common language of business. Bookkeeping is also an abbreviation for "bookkeeping," and as it forms the basis of accounting data, learning bookkeeping is essential knowledge for understanding accounting.

In terms of the level of bookkeeping covered in this fall class, the second half of the basic scope of the Level 3 Nissho Bookkeeping Certification Examination will be covered.

For students who ultimately intend to specialize in accounting at university, as well as other students, this "Introduction to Bookkeeping" is one of the most important subjects, along with "Introduction to Accounting."

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (30%) and regular exams (70%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅰ

福田 淳児

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記入門Ⅰでは、簿記の初学者を対象に、簿記の一連の手続きについて学習します。企業は、投資家や債権者をはじめとする外部のステークホルダーに貸借対照表、損益計算書といった財務諸表の公表を行います。この授業では、これらの貸借対照表また損益計算書といった財務諸表を作成するための一連の手続きを理解すること、そして財務諸表上に示された情報の意味をできるようにすることを目的とします。

【到達目標】

簿記入門Ⅰでは、簿記の目的の理解、様々な簿記上の取引の仕訳などを含む基本的な仕訳方法の理解、そして総勘定元帳への転記また試算表の作成が行なえるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅰでは、対面授業とオンデマンド方式での授業を併用して行います。簿記の一連の手続き、およびその意味について説明をし、その説明に基づいてテキストなどの例題を自分の手で解くということを繰り返します。簿記は単に方法やその背後にある理論を学ぶだけではなく、自分で実際に、問題を解くことによって理解が深まります。講義においても時間の許す限り練習問題を取り入れます。課題を課すこともありますので、必ず解いて授業に臨むようにしてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簿記の意義と貸借対照表および損益計算書	簿記入門Ⅰの講義の概略を紹介するとともに、簿記の基本的な目的やその前提条件、さらに貸借対照表や損益計算書の簡単な構造について説明する。
2	簿記上の取引および仕訳の基礎	簿記上の取引とは何かを説明し、基本的な取引の仕訳方法（ルール）について学習する。
3	仕訳および総勘定元帳への転記	基本的な取引の仕訳と、それらの総勘定元帳への転記の方法について説明する。
4	仕訳・総勘定元帳への転記の問題演習	簿記上の取引の仕訳から総勘定元帳への転記までの問題演習を行うことで、理解を深める。
5	商品売上の三分法による処理方法	商品売上の三分法の説明およびその仕訳方法を中心に学習する。
6	商品売買に関連した補助簿の記帳方法	売掛金元帳、買掛金元帳、さらに商品有高帳の記入方法について学習する。
7	商品売買に関連した問題演習	商品売買に関連した問題演習を行い、理解を深める。
8	現金・預金	簿記上の現金および預金に関する処理について学習する。
9	クレジット売掛金および手形取引	クレジット売掛金、および約束手形を中心とした手形取引について学習する。
10	その他の取引について	貸付金や借入金などを中心にその処理方法について学習する。
11	ここまでの復習と問題演習	現金・預金およびその他の取引についてのポイントの確認と問題演習を行う。
12	試算表の作成	試算表の役割およびその作成方法について学習する。
13	試算表の作成に関する問題演習	試算表の作成に関わる一連の問題演習を行う。
14	問題演習	ここまで学習した内容について問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画で示された内容について、事前にテキストの該当箇所また授業支援システムを通じて事前配布する予定のプリントの内容を読み、自分なりに理解した上で、対面授業に参加またオンデマンド授業を視聴すること。テキストの例題については、必ず自分で一度解いてみる。適宜、授業中に、確認のための問題を提示するので、授業支援システムなどを通じて提出すること。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

TAC 株式会社『合格テキスト 日商簿記 3 級』 TAC 株式会社出版事業部。2000 円
最新版を入手してください。

【参考書】

参考文献は、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各期末に実施される定期試験に、講義の際に出した課題の提出状況を加味して評価します。成績評価の配分は期末に行われる試験結果が 70 %、課題の提出が 30 % です。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題をもっときたいとの要望がありましたので、できるだけ授業中また課題で練習問題を扱いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布プリントについては授業支援システムを通じて配布を行います。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、より専門的に会計関連科目を学習する上での基礎となります。2 年次に受講する「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」、3 年次からの財務会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび原価計算論Ⅰ/Ⅱといった会計専門科目が関連科目としてあげられます。

【Outline (in English)】

Introduction to Bookkeeping I is designed for students who are beginning their study of bookkeeping. The course covers the foundational procedures involved in preparing key financial statements, such as income statements and balance sheets, which companies use to communicate their financial position to external stakeholders, including investors and creditors. The primary aim of this course is to help students understand the series of steps involved in preparing these financial statements and to develop the ability to interpret and analyze the information presented in them. Especially in this module, students aim to understand the purpose of bookkeeping, journalise basic transactions, including the trichotomy of goods sold and bought, post to the general ledger and prepare trial balances.

Students are expected to complete all assigned readings from the textbook and any additional materials provided via the class support system prior to attending each session. Students should also engage with practice problems to reinforce their understanding of the course content.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated based on (1)Final Examinations (70%) and (2)Regular assignments (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

福田 淳児

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記入門Ⅱでは、企業が投資家や債権者をはじめとする外部のステークホルダーに公表する貸借対照表や損益計算書といった財務諸表の一連の作成方法、特に決算の手続きを中心に理解することを目的とします。貸借対照表や損益計算書は、企業が行った経済活動を簿記の一連のルールに基づいて、分析・記録することを通じて作成されますが、本講義ではこの簿記の一連の手続きを理解することを目的とします。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、その他の様々な商企業の取引の仕訳を行うことができるとともに、決算の予備手続きおよび本手続きについて理解し、それを自分で行なえるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅱでは、対面授業とオンデマンド方式での授業を併用して行います。簿記の一連の手続き、およびその意味について説明をし、その説明に基づいて例題を解くということを繰り返します。簿記は単に方法やその背後にある理論を学ぶだけではなく、自分で実際に、問題を解くことで理解が深まります。講義においても時間の許す限り練習問題を取り入れます。課題も課しますので、必ず解いて授業に臨むようにしてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簿記入門Ⅰでの学習内容の振り返りとガイダンス	授業のスケジュールを紹介すると共に、簿記入門Ⅰでの一連の学習内容の振り返りを行う。
2	決算および決算整理	決算の意味および決算手続きの一連の流れについて、その概要を説明する。
3	売上原価の計算および貸倒れの処理	仕入勘定での売上原価の計算方法ならびに貸倒れの処理方法について説明する。
4	有形固定資産の減価償却の意味およびその処理	土地を除く有形固定資産の減価償却の意味とその具体的な計算方法および処理の方法について説明する。
5	ここまでの復習と問題演習	ここまでの学習内容の確認と問題演習を中心に行う。
6	経過勘定項目の種類とそれぞれの処理	経過勘定項目について、その意味および内容と処理方法について説明する。
7	経過勘定項目についての問題演習	経過勘定項目を中心に演習問題に取り組む。
8	決算整理後残高試算表	決算整理後残高試算表の作成方法について、問題演習を交えながら学習する。
9	精算表の作成手続き	精算表の作成方法またその手順について学習する。
10	精算表に関する問題演習	精算表の作成手続きに関する問題演習を中心に行う。
11	帳簿の締切と財務諸表の作成	帳簿の締切りと貸借対照表および損益計算書の作成方法を学習する。
12	帳簿の締切りに関する問題演習	帳簿の締切りに関する問題演習を行う。
13	株式会社会計	株式会社とは何かについて説明したのちに、剰余金の配当とその処分に関する処理について学習する。
14	証ひょうと伝票	証ひょうと伝票の種類およびその処理方法について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画で示された内容について、事前にテキストの該当箇所また授業支援システムを通じて事前配布する予定のプリントの内容を読み、自分なりに理解した上で、対面授業に参加またオンデマンド授業を視聴すること。テキストの例題については、必ず自分で一度解いてみる。適宜、授業中に、確認のための問題を提示するので、授業支援システムなどを通じて提出すること。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

TAC 株式会社『合格テキスト 日商簿記 3 級』 TAC 株式会社出版事業部。2000 円

最新版を入手してください。

【参考書】

参考文献は、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各期末に実施される定期試験に、講義の際に出した課題の提出状況を加味して評価します。成績評価の配分は期末に行われる試験結果が 70 %、課題の提出が 30 % です。

【学生の意見等からの気づき】

学生よりもっといろいろな問題を解いてみたいという要望がありましたので、授業中や課題で様々なタイプの問題を解けるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布プリントについては授業支援システムを通じて配布を行います。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、より専門的に会計関連科目を学習する上での基礎となります。2 年次に受講する「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」、3 年次からの財務会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび原価計算論Ⅰ/Ⅱといった会計専門科目が関連科目としてあげられます。

【Outline (in English)】

Introduction to Bookkeeping II aims to provide students with a comprehensive understanding of how to prepare and interpret key financial statements, including income statements and balance sheets, which are essential for communicating a company's financial position to external stakeholders such as investors and creditors. Through the analysis and recording of economic activities based on established bookkeeping principles, students will learn the procedures involved in the preparation of these statements. The course will equip students with the skills necessary to interpret and evaluate the information presented in financial statements. The aim of this module is to provide students with knowledge and skills necessary to independently perform both the preliminary and main procedures involved in the closing of accounts.

Students are expected to complete all assigned readings from the textbook and any additional materials provided via the class support system prior to attending each session. Students should also engage with practice problems to reinforce their understanding of the course content.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated based on (1)Final Examinations (70%) and (2)Regular assignments (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅰ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第3回	【議論・発表・表彰】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第4回	【講義】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第5回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第6回	【講義】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第7回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第8回	【講義】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第9回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第10回	【講義】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第11回	【議論・発表・表彰】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第12回	【講義】 ・売掛金Ⅰ ・手形取引Ⅰ ・手形取引Ⅱ	・小口現金 ・クレジット売掛金/手形 ・手形

第13回 【議論・発表・表彰】
・売掛金Ⅰ
・手形取引Ⅰ
・手形取引Ⅱ

第14回 ゲストスピーカー講演 ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 ・様々な取引Ⅰ	・電子記録債権/債務、貸付金/借入金 ・利息、役員貸付金/借入金、手形貸付金/借入金
第3回	【議論・発表・表彰】 ・様々な取引Ⅱ	・電子記録債権/債務、貸付金/借入金 ・利息、役員貸付金/借入金、手形貸付金/借入金
第4回	【講義】 ・様々な取引Ⅲ	・有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金/仮受金
第5回	【議論・発表・表彰】 ・様々な取引Ⅳ	・給与、さまざまな帳簿 ・有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金/仮受金
第6回	【講義】 ・試算表	・給与、さまざまな帳簿 ・残高試算表
第7回	【議論・発表・表彰】 ・試算表	・現金過不足、売上原価 ・残高試算表
第8回	【講義】 ・決算整理Ⅰ	・現金過不足、売上原価 ・貸倒①
第9回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅱ	・貸倒②
第10回	【講義】 ・決算整理Ⅲ	・減価償却
第11回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅳ	・貯蔵品、当座借越
第12回	【講義】 ・決算整理Ⅴ	・減価償却
第13回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅵ	・貯蔵品、当座借越
第14回	【講義】 ・決算整理Ⅶ	・経過勘定項目① ・経過勘定項目②

第14回 ゲストスピーカー講演 ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅰ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第3回	【議論・発表・表彰】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第4回	【講義】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第5回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第6回	【講義】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第7回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第8回	【講義】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第9回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第10回	【講義】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第11回	【議論・発表・表彰】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第12回	【講義】 ・売掛金Ⅰ ・手形取引Ⅰ ・手形取引Ⅱ	・小口現金 ・クレジット売掛金/手形 ・手形

第13回 【議論・発表・表彰】
・売掛金Ⅰ
・手形取引Ⅰ
・手形取引Ⅱ

第14回 ゲストスピーカー講演 ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 ・様々な取引Ⅰ	・電子記録債権/債務、貸付金/借入金
第3回	【講義】 ・様々な取引Ⅱ	・利息、役員貸付金/借入金、手形貸付金/借入金
第4回	【講義】 ・様々な取引Ⅲ	・有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金/仮受金
第5回	【講義】 ・様々な取引Ⅳ	・給与、さまざまな帳簿
第6回	【講義】 ・試算表	・有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金/仮受金
第7回	【講義】 ・決算整理Ⅰ	・給与、さまざまな帳簿
第8回	【講義】 ・決算整理Ⅱ	・残高試算表
第9回	【講義】 ・決算整理Ⅲ	・現金過不足、売上原価
第10回	【講義】 ・決算整理Ⅳ	・減価償却
第11回	【講義】 ・決算整理Ⅴ	・貯蔵品、当座借越
第12回	【講義】 ・決算整理Ⅵ	・減価償却
第13回	【講義】 ・決算整理Ⅶ	・貯蔵品、当座借越

第14回 ゲストスピーカー講演 ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組む考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria / Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組む考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成方法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する。
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組む考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria / Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成方法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する。
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組む考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria / Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組む考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成方法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または Google Classroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または Google Classroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を EXCEL の演習形式で学びます。

-EXCEL のデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。

-EXCEL の高度な機能(ピボットテーブル)を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化できることを学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。

-EXCEL のデータベース関数を用いて、データを整理できる。

-EXCEL のピボットテーブル機能を活用して、データを分析・整理して可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行います。またメールでのやり取りにも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第3回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念 データベースの考え方 と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第8回	Excel によるデータベース的処理(1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excel によるデータベース的処理(2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excel によるデータベース的処理(3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第12回	統計ソフト R の応用(1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第13回	統計ソフト R の応用(2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について

第14回 総合演習

春学期のまとめ

春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境、の確認
 2. ネットワークの仕組みについて調べる
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
 4. ～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小演習課題70%、平常点を30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勉めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal point:50%,Short reports:50%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を演習形式で学びます。
 -ACCESSのデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。
 -ACCESSの高度な機能を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で表現、可視化できることを学びます。
 -R言語システムとデータベースの連携について学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。
 -ACCESSの様々なクエリを使って、テーブルを操作、データを分析・整理し理解しやすい形で表現できる。
 -ACCESSでデータベースを設計できる。
 -R言語システムとリレーショナルデータベースの連携が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access、R言語システムの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行います。またメールでのやり取りにも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとは	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelとの関係 Excelファイルのエクスポート、データベースの設計と作成について
第3回	テーブルについて	テーブルの概要 テーブルとフィールドについて
第4回	クエリについて	様々なクエリについて
第5回	テーブルとクエリの応用について	関連をもつ複数テーブルについて 主キー、外部キー、参照整合性について
第6回	フォームについて	フォームの概要 フォームの形式、フォームのビュー、フォームの編集について
第7回	レポートについて	レポートの形式、レポートの作成、レポートの編集について 複数テーブルのレポートとグループ化について
第8回	総合演習 1-1	従業員管理のためのデータベース構築(1)
第9回	総合演習 1-2	従業員管理のためのデータベース構築(2)
第10回	Access 総合演習 2-1	書籍管理データベースの作成(1)
第11回	Access 総合演習 2-2	書籍管理データベースの作成(2)
第12回	統計ソフト R の基礎	統計ソフト R 入門
第13回	統計ソフト R の応用	Rによる判別分析とその応用
第14回	春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、毎回の小演習課題50%、平常点を30%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Normal point:30%,Short reports:50%,term-end report:20%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel を基礎としたデータ処理法と Access データベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目指す。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データベースコース] では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【課題等に対するフィードバック方法】

各回の課題はネット（Classroom など）を利用するので、その中で全体の回答例を示したり学生個別に回答の問題点などをフィードバックする。また必要に応じて授業の中でデモ回答を示すものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブラインドタッチについて学ぶ。
第3回	Microsoft Word の基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第5回	Google Workspace の利用法	電子メールはじめクラウドサービスの活用について学ぶ。
第6回	Microsoft Excel の基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	Excel による基本集計	データの基本集計、関数の利用について学ぶ。
第8回	Excel によるデータ処理	応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第9回	Excel によるクロス集計	応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第10回	Excel によるデータ分析 (1)	2種類のデータについての分析方法について学ぶ。
第11回	Excel によるデータ分析 (2)	2種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。
第12回	Excel によるデータベース的処理	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第13回	Excel と Web の連携	外部データベースとの連携を含む処理方法について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

各回テーマごとに必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の課題提出 70 % と総合レポートの課題 30 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を利用し効率的な授業を行う。

自宅 PC などでは法政大学 ID からのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【Outline (in English)】

This course introduces Infomatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database such as Access and other softwares, especially using Excel's operations.

The goals of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

情報学入門Ⅱ (データベース) (2019年度以降入学者)

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を EXCEL の演習形式で学びます。

-EXCEL のデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。

-EXCEL の高度な機能(ピボットテーブル)を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化できることを学びます。

-ACCESS の高度な機能を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で表現、可視化できることを学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。

-EXCEL のデータベース関数を用いて、データを整理できる。

-EXCEL のピボットテーブル機能を活用して、データを分析・整理して可視化できる。

-ACCESS の様々なクエリを使って、テーブルを操作、データを分析・整理し理解しやすい形で表現できる。

-ACCESS でデータベースを設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。【授業の進め方と方法】の部分に、課題等に対するフィードバック方法についても記載してください。

1. データを収集・整理する方法

2. データを分析する方法

3. データを設計する方法

4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行います。またメールでのやり取りにも対応します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第3回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念 データベースの考え方 と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第8回	Excel によるデータベース的処理(1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excel によるデータベース的処理(2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について

第10回	データベースソフトとは Access の基礎知識 Excel との関係 データベースの設計と作成	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excel ファイルのエクスポート、データベースの設計と作成について
第11回	テーブルとクエリについて	テーブルの概要 テーブルとフィールドについて 様々なクエリについて
第12回	テーブルとクエリの応用について	関連をもつ複数テーブルについて 主キー、外部キー、参照整合性について
第13回	総合演習-1	従業員管理のためにデータベース構築[前半]
第14回	総合演習-2	従業員管理のためにデータベース構築[後半]

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
 2. ネットワークの仕組みについて調べる
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
 4. 14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小演習課題 70%、平常点を 30% とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal point:70%,Short reports:30%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子 聡

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子 聡

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子 聡

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子 聡

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を EXCEL の演習形式で学びます。

-EXCEL のデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。

-EXCEL の高度な機能(ピボットテーブル)を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化できることを学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。

-EXCEL のデータベース関数を用いて、データを整理できる。

-EXCEL のピボットテーブル機能を活用して、データを分析・整理して可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用方法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行います。またメールでのやり取りにも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第3回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念 データベースの考え方 と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第8回	Excel によるデータベース的処理(1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excel によるデータベース的処理(2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excel によるデータベース的処理(3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第12回	統計ソフト R の応用(1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第13回	統計ソフト R の応用(2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について

第14回 総合演習

春学期のまとめ

春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境、の確認
 2. ネットワークの仕組みについて調べる
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
 4. ～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小演習課題70%、平常点を30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勉めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal point:50%,Short reports:50%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を演習形式で学びます。
 -ACCESSのデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。
 -ACCESSの高度な機能を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で表現、可視化できることを学びます。
 -R言語システムとデータベースの連携について学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。
 -ACCESSの様々なクエリを使って、テーブルを操作、データを分析・整理し理解しやすい形で表現できる。
 -ACCESSでデータベースを設計できる。
 -R言語システムとリレーショナルデータベースの連携が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access、R言語システムの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行います。またメールでのやり取りにも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとは	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelとの関係 Excelファイルのエクスポート、データベースの設計と作成について
第3回	テーブルについて	テーブルの概要 テーブルとフィールドについて
第4回	クエリについて	様々なクエリについて
第5回	テーブルとクエリの応用について	関連をもつ複数テーブルについて 主キー、外部キー、参照整合性について
第6回	フォームについて	フォームの概要 フォームの形式、フォームのビュー、フォームの編集について
第7回	レポートについて	レポートの形式、レポートの作成、レポートの編集について 複数テーブルのレポートとグループ化について
第8回	総合演習 1-1	従業員管理のためのデータベース構築(1)
第9回	総合演習 1-2	従業員管理のためのデータベース構築(2)
第10回	Access 総合演習 2-1	書籍管理データベースの作成(1)
第11回	Access 総合演習 2-2	書籍管理データベースの作成(2)
第12回	統計ソフト R の基礎	統計ソフト R 入門
第13回	統計ソフト R の応用	Rによる判別分析とその応用
第14回	春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、毎回の小演習課題50%、平常点を30%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Normal point:30%,Short reports:50%,term-end report:20%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報学入門Ⅰ (データベース) (2019年度以降入学者)

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭に、前回の振り返り (復習) を行います。また受講者の授業内容理解度を確認するために課題作成を行います。授業への質問、意見、感想等は授業中にそのための時間を設け、授業支援システムも利用して、双方型授業を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第3回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第4回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第5回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第6回	ワープロ操作 (Word) による文章入力の練習	情報処理の基礎。文書作成法。
第7回	ワープロ操作 (Word) による文章入力の練習	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第8回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第10回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第11回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第12回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第13回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第14回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society. I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会において標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭に、前回の振り返り（復習）を行います。また受講者の授業内容理解度を確認するために課題作成を行います。授業への質問、意見、感想等は授業中にそのための時間を設け、授業支援システムも利用して、双方向授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは何か（ハードウェアとソフトウェア）Ⅱ	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習Ⅱ	情報処理の基礎
第3回	機器の取扱いと Windows の操作法Ⅱ	情報処理の基礎
第4回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第5回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。生成 AI を正しく理解し、活用する。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。生成 AI を正確に理解する。
第6回	Excel の基本操作と応用Ⅱ	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第7回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第8回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第9回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第10回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第11回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、蓄積、再利用、活用方法の解説。

第12回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第13回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第14回	大学生にとって必要な情報収集、蓄積、分析手法について。	学習や研究に、そして社会人基礎力としての情報処理と応用について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験（課題作成：50％）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報学入門Ⅰ (データベース) (2019年度以降入学者)

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭に、前回の振り返り (復習) を行います。また受講者の授業内容理解度を確認するために課題作成を行います。授業への質問、意見、感想等は授業中にそのための時間を設け、授業支援システムも利用して、双方型授業を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第3回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第4回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第5回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第6回	ワープロ操作 (Word) による文章入力の練習	情報処理の基礎。文書作成法。
第7回	ワープロ操作 (Word) による文章入力の練習	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第8回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第10回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第11回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第12回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第13回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第14回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみなさん」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society. I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

情報学入門Ⅱ (データベース) (2019年度以降入学者)

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会において標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭に、前回の振り返り (復習) を行います。また受講者の授業内容理解度を確認するために課題作成を行います。授業への質問、意見、感想等は授業中にそのための時間を設け、授業支援システムも利用して、双方向授業を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは何か (ハードウェアとソフトウェア) II	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習 II	情報処理の基礎
第3回	機器の取扱いと Windows の操作法 II	情報処理の基礎
第4回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第5回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。生成 AI を正しく理解し、活用する。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。生成 AI を正確に理解する。
第6回	Excel の基本操作と応用 II	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第7回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第8回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第9回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報 (オープンソース) データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第10回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第11回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報 (オープンソース) データの収集、蓄積、再利用、活用方法の解説。

第12回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第13回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第14回	大学生にとって必要な情報収集、蓄積、分析手法について。	学習や研究に、そして社会人基礎力としての情報処理と応用について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

小寺 浩二

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第2回	コンピュータの構成（ハードウェア）	コンピュータの構成（ハードウェア）について、学び、調べ、まとめる
第3回	コンピュータの構成（ソフトウェア）	コンピュータの構成（ソフトウェア）について、学び、調べ、まとめる
第4回	ワープロ入門	Wordによる文章入力
第5回	ワープロ応用	Wordによる文書体裁など
第6回	表計算ソフト入門	Excelの基本操作習熟
第7回	表計算ソフト活用	Excelでの表・図の作成
第8回	表計算ソフト応用	Excelでの統計解析
第9回	プレゼンテーション入門	PowerPointの基礎
第10回	プレゼンテーション応用	PowerPointの応用
第11回	空間情報解析入門	GISの基礎（MANDARAによる都道府県別データの図化）
第12回	空間情報解析活用	GISの活用（MANDARAによる市町村別データの図化）
第13回	空間情報解析応用	GISの応用（MANDARAによる町丁目データの図化）
第14回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・前半：第1回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。
・後半：後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座（第3版）』,古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ ArcGIS身近な事例で学ぶ』,古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ ArcGIS Part2 GIS実戦に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、試験（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学・GISを用いた地域解析

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

The overall evaluation will be based on regular class time (30%), assignments (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the class, the points may be changed.

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

小寺 浩二

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。

様々な空間情報を入手し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

I で学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度な GIS ソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム (GIS) について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第2回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第3回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第4回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第7回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第8回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第9回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第10回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第11回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第12回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第13回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第14回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座（第3版）』, 古今書院

・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』, 古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』, 古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』, 古今書院
 その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学・GISを用いた地域解析

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis. In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

森本 洋一

専門入門科目100番台専門入門科目100番台 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口へ申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜fコース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。

様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図(WEBで閲覧できる地図など)や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。その際、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。GISソフトはフリーで誰もが利用できるMANDARAやQGISを使用することを想定している。

春学期はこれらのソフトを使うために必要となる、ワープロ(Word)や表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)等の基本的な使用方法を学び、秋学期からのGIS実習に向けた基本的なスキルを習得する。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得及び、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期は主に電子メール、ワープロ(Word)、表計算ソフト(Excel)プレゼンテーションソフト(PowerPoint)、インターネットの利用方法やこれらを活用した表現方法について学び、後半は、WEB地図や簡易GISの使い方や表現方法について学ぶことを想定している。

授業形式は、実習形式(講義⇒実習⇒まとめ(課題提出))で行う。実習内容は、提供した情報や各自の興味のあるテーマにそったものとなるように、実習を通して、ワープロ(Word)や表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)、簡易GISなどのツールの利用方法を習得できるように工夫する。

※ 講義の進度や学習内容は、学生の習熟度を考慮して変更する可能性がある。

※ 授業内で行った課題や小レポートに対する講評や解説も適宜行い、質問はメール等でも受け付ける。

※今年度はオンライン授業を併用する可能性があるため、自宅でオンライン授業を履修できる環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて学び、調べ、まとめる
第2回	コンピュータの構成（ハードウェア、ソフトウェア、ソフトウェア）	コンピュータの構成（ハードウェア、ソフトウェア）について、学び、調べ、まとめる
第3回	電子メール	電子メールの基礎（使い方、メールでの文章表現）
第4回	クラウド環境	クラウドの基礎（クラウドストレージの種類、クラウドを用いたデータの保存方法や共有方法）
第5回	ワープロ入門	Wordの基礎（文章入力の基本、伝わりやすい表現方法）
第6回	ワープロ応用	Wordの応用（フォーマットによる文章作成）
第7回	表計算ソフト入門	Excelの基礎（機能と使い方）
第8回	表計算ソフト活用	Excelの基礎（表・図の作成）
第9回	表計算ソフト活用	Excelの応用（統計解析）
第10回	プレゼンテーション入門	PowerPointの基礎（機能と使い方）
第11回	プレゼンテーション応用	PowerPointの応用（わかりやすい表現や図表の作成）
第12回	WEB地図①	インターネットで見られる様々なWEB地図を使ってみる
第13回	空間情報解析入門	GISソフトを使ってみる
第14回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

前半：第1回授業時に指示。

後半：後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座（第3版）』,古今書院

【参考書】

・若山芳三郎（2022）：学生のための情報リテラシー，東京電機大学出版局

・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院

・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ ArcGIS身近な事例で学ぼう』，古今書院

・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ ArcGIS Part2 GIS実戦に向けてのステップアップ』,古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習形式の授業のため、平常点（出席点）と各授業ごとの小課題を重視します。

①平常点（30％）

②課題（30％）

③試験 または レポート（40％）

授業進捗等によっては配点を変更することもあります。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に情報実習室のPCで実習を行うが、オンライン授業の際は自宅のPCで作業が必要になる場合がある。自宅にオンライン環境(PCやインターネットなど)がない場合は、教員へ申し出ること。

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること

・統計データやGISデータを扱うため、USBメモリ（4GB以上）を持参することが望ましいが、詳細は初回授業において説明する。

・秋学期は春学期に習得する内容を前提とした内容となっているため、春学期、秋学期連続して受講することが望ましい。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業前後またはメールにて質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

＜研究領域＞

自然地理学（水文学）、河川環境、河川工学

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basics of information literacy and GIS.

(Learning Objectives)

Learn the basics and applied skills of information literacy, and develop basic skills of spatial information analysis.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

① Normal point (30%)

② Assignment (30%)

③ Exam or report (40%)

The points allocated may change depending on the progress of the class.

情報学入門Ⅱ (空間情報処理) (2019年度以降入学者)

森本 洋一

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜f コース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

秋学期は I で習得した基本的なリテラシーを活かし、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった位置情報を持った統計情報や空間情報などの扱い方、それらの情報と GIS 用いた分布図の作成法を習得する。

簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。GIS ソフトはフリーで誰もが利用できる QGIS や MANDARA を使用することを想定している。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。
GIS を用いた位置情報の扱い方や作図方法などの基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期は I で培った知識を生かして、GIS の使い方や表現方法について学ぶ。授業形式は、実習形式 (講義⇒実習⇒まとめ (課題提出)) で行う。

実習内容は、提供した情報や各自の興味のあるテーマにそったものとなるように、実習を通して、ワープロ (Word) や表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)、簡易 GIS などのツールの利用方法を習得できるように工夫する。

※ 講義の進度や学習内容は、学生の習熟度を考慮して変更する可能性がある。

※ 授業内で行った課題や小レポートに対する講評や解説も適宜行い、質問はメール等でも受け付ける。

※ 今年度はオンライン授業を併用する可能性があるため、自宅でのオンライン授業を履修できる環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム (GIS) とは	GIS の基礎知識を学び、まとめる
第2回	地理空間情報の収集・管理・活用方法	インターネットで公開されている地理情報や各種統計情報を収集し、GIS で表示する
第3回	主題図の作成① (全国データの利用)	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第4回	主題図の作成② (都道府県データの利用)	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	主題図の作成③ (市区町村データの利用)	市区町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地図の編集①	属性の作成と編集
第7回	地図の編集②	図形データの作成と編集
第8回	メッシュデータ解析の基礎	土地利用データの解析の基礎について
第9回	メッシュデータ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について
第10回	メッシュデータ解析の応用	複数年の土地利用変化について解析する方法
第11回	総合実習①	個別のテーマに沿って空間情報を収集し主題図を作成する
第12回	総合実習②	個別のテーマに沿って空間情報を収集し主題図を作成する
第13回	総合実習③	作成した主題図の編集や解析を行う
第14回	まとめ	これまで培ったリテラシーや GIS 実習の成果をもとにまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学会で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、主題図を作成し、時空間解析を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

第 1 回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか (2013) : 『MANDARA と EXCEL による市民のための GIS 講座 (第 3 版)』, 古今書院

・中村和郎ほか (2002) : 『地理情報システムを学ぶ』, 古今書院

・佐土原 聡ほか (2005) : 『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』, 古今書院

・川崎昭如ほか (2008) : 『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』, 古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習形式の授業のため、平常点 (出席点) と各授業ごとの小課題を重視します。

① 平常点 (30%)

② 課題 (30%)

③ 試験 または レポート (40%)

授業進捗等によっては配点を変更することもあります。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に情報実習室の PC で実習を行うが、オンライン授業の際は自宅の PC で作業が必要になる場合がある。自宅にオンライン環境 (PC やインターネットなど) がない場合は、教員へ申し出ること。

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・統計データや GIS データを扱うため、USB メモリ (4GB 以上) を持参することが望ましいが、詳細は初回授業において説明する。

・秋学期は春学期に習得する内容を前提とした内容となっているため、春学期、秋学期連続して受講することが望ましい。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS GIS

【オフィス・アワー】

授業前後またはメールにて質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

＜研究領域＞自然地理学 (水文学、河川環境、河川工学)

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn how to handle statistical information and spatial information with location information, which are increasingly used in various academic fields and industries, and how to create distribution maps using that information and GIS.

(Learning Objectives)

Learn the basics and applied skills of information literacy.

Learn basic skills such as how to handle location information using GIS and how to draw diagrams.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria/Policy)

① Normal point(30%)

② Assignment(30%)

③ Exam/report(40%)

The points allocated may change depending on the progress of the class.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に出してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClass または GoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

情報学入門Ⅰ（メディア情報処理）（2019年度以降入学者）

築城 厚三

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトの基本的な使い方を学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工方法を知る。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提とする。

春学期初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop（画像編集ソフト）までを扱い、秋学期には Illustrator（描画ソフト）と InDesign（DTP ソフト）を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

リアクションペーパーやその場での質問対応など、学生との相互応答を重視する。このことにより各回の内容は変わることがありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（履修希望者が定員を超えている場合抽選を行う）	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。データ保存の方法等
第2回	ワープロソフトの基本操作1	ドライブの活用方法。レポート、論文を書く際の基本的な操作、ショートカット等。
第3回	ワープロソフトの基本操作2	レポート、論文を書く際の基本的な操作、ショートカット等。
第4回	ワープロソフトの基本操作3	レポート、論文を書く際の基本的な操作、ショートカット等。課題提示。
第5回	表計算ソフトの基本操作1	ワープロソフト課題について回答例提示。基本操作から簡単な関数。
第6回	表計算ソフトの基本操作2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
第7回	表計算ソフトの基本操作3	データベース、グラフ機能、課題提示。
第8回	表計算ソフトの基本操作4	実習、課題について回答例提示、解説。
第9回	プレゼンテーションソフトの基本操作1	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。
第10回	プレゼンテーションソフトの基本操作2	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。画像編集ソフトに触れてみる。
第11回	画像編集ソフトの基本操作1	これから使うソフトでできること。
第12回	画像編集ソフトの基本操作2	写真の加工、レイヤーについて。
第13回	画像編集ソフトの基本操作3	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
第14回	画像編集ソフト実習	素材加工実習、課題提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作解説後に課題を与える。また、授業で使った資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。Google Classroom などに資料をアップし、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『アドビ認定プロフェッショナル対応 Photoshop 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『アドビ認定プロフェッショナル対応 Illustrator 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、課題の質と意欲（50 %）。

単位取得には3分の2以上の出席及び全課題提出を必要とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーなどから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は Google Classroom などを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。

春学期・秋学期合わせての履修を前提とする。

文学部科目「編集実務A」「編集実務B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことを推奨する（当科目を履修していないくとも履修できる）。

Adobe 関連のアプリは情報カフェテリアにある所定の PC で利用できる。復習や課題を行うときには活用すること。基礎的理解を固める科目という性質上、特別な指示がない限り課題における生成 AI の利用は不可とする。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板で知らせる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

[Spring semester] To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

[Autumn semester] Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

情報学入門Ⅱ（メディア情報処理）（2019年度以降入学者）

築城 厚三

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトまでを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工方法を知る。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提とする。

春学期初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop（画像編集ソフト）までを扱い、秋学期には Illustrator（描画ソフト）と InDesign（DTP ソフト）を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーやその場での質問対応など、学生との相互応答を重視する。このことにより各回の内容は変わることがありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	画像編集ソフト復習、DTP について。	春学期課題を振り返ったのち、描画ソフトの基本操作に入る。シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
第2回	描画ソフトの操作方法1 描画ソフトの操作方法2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
第3回	描画ソフトの操作方法3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
第4回	描画ソフトの操作方法4	パスの練習、さまざまな機能。
第5回	描画ソフトの操作方法5 描画ソフト実習1	入稿する際に気をつけること。実習、課題作成。
第6回	描画ソフト実習2	実習、課題作成。
第7回	DTP ソフトの操作方法1	DTP ソフトで何ができるか概観。
第8回	DTP ソフトの操作方法2	級、歯、フォント、縦組みと横組み。レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
第9回	DTP ソフトの操作方法3	テキストの流し込み、文字の編集。
第10回	DTP ソフトの操作方法4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
第11回	DTP ソフト実習1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
第12回	DTP ソフト実習2	最終課題提示、実習、課題作成。
第13回	DTP ソフト実習3	実習、課題作成。
第14回	DTP ソフト実習4	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使用了資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。GoogleClassroomなどに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『アドビ認定プロフェッショナル対応 Photoshop 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『アドビ認定プロフェッショナル対応 Illustrator 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、課題の質と意欲（50％）。

単位取得には3分の2以上の出席および全課題提出を必要とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は GoogleClassroom などを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。

春学期・秋学期合わせての履修を前提とする。

文学部科目「編集実務A」「編集実務B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことを推奨する（当科目を履修していなくても履修できる）。

Adobe 関連のアプリは情報カフェテリアにある所定の PC で利用できる。復習や課題を行うときには活用すること。

基礎的理解を固める科目という性質上、特別な指示がない限り課題における生成 AI の利用は不可とする。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板で知らせる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

[Spring semester] To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.[Autumn semester] Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）

石川 潔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口へ申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に（外国語）教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、（外国語）教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題は、基本的に、教室内で皆と一緒に作業して仕上げます。呈示された「正解」になっていない場合、その場で呼んでくれれば、ヘルプに伺います。授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、環境設定	全体の説明、および各自のパソコンの環境の設定
第2回	パソコンって何？	大まかな仕組み
第3回	パソコンの基本操作	パソコンと Windows の基本操作の学習
第4回	文書作成の基本 1	全角・半角の区別、英字・日本語の入力の練習
第5回	文書作成の基本 2	テキスト・ファイル、文字サイズ、字体、フォント、など
第6回	文書作成の基本 3	漢字コードの使い分け、IPA（発音）記号など
第7回	パソコン操作のテクニック	動かなくなった時、やり直しをした時などに、どうしたらいい？
第8回	パソコンでのメール	メールの読み書き環境、書き方、読み方
第9回	作文法	レポートや論文の書き方の基本
第10回	Word でのレポート作成術 1	字数と語数、脚注、コメントなど
第11回	Word でのレポート作成術 2	（例文、図、表などの）番号と相互参照
第12回	Word でのレポート作成術 3	ファイルの埋め込み、など
第13回	Word でのレポート作成術 4	（樹形）図の作成、など
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

zip ファイルおよびフォルダ構造についての全員の理解度を徹底的に上げたいと思います。

【その他の重要事項】

履修希望者が多数の場合、初回授業にて、非・抽選での選抜を行います。授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

【関連科目】

文学部英文学科等の（言語系の）諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Expect to spend two hours for preparation before and/or practice after each class meeting!

(Grading Criteria /Policy) In-class assignments (100%)

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）

石川 潔

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口へ申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に（外国語）教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、（外国語）教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題は、基本的に、教室内で皆と一緒に作業して仕上げます。呈示された「正解」になっていない場合、その場で呼んでくれれば、ヘルプに伺います。授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Word での卒論作成術	セクション区切り、目次の自動作成、など
第2回	インターネットの基本	大まかな仕組み、検索法、など
第3回	プレゼン・ツールの基本	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作と応用
第4回	Excel：最初の一步	点数の合計や平均を計算してみる
第5回	Excel：セル操作	セル結合、罫線、色分け、折り返し表示、などなど
第6回	Excel：データ型	データ型の概念、表示の操作
第7回	Excel でのグラフ作成の初歩	様々な種類のグラフを作り、Word 文書にコピー
第8回	Excel での成績計算 1	点数操作!!
第9回	Excel での成績計算 2	条件分岐および変換表による letter grade への変換
第10回	データ分析 1	朝食を食べると成績が良いって本当？
第11回	データ分析 2	「分析ツール」などの導入
第12回	コーパスって何？	英単語や日本語単語の頻度調査をやってみる！
第13回	音声の扱い 1	パソコンでの音声データの記録方式
第14回	音声の扱い 2	録音と編集

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げる項目について、入れ替え／重点変更を行いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

また、春学期の「情報学入門Ⅰ（言語データ処理）」と連続履修してください（履修希望者多数の場合は、春学期の初回にて選抜を行います。原則、秋学期のみの履修は受け入れておりません）。

【関連科目】

文学部英文学科等の言語系の諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Expect to spend two hours for preparation before and/or practice after each class meeting!

(Grading Criteria/Policy) In-class assignments (100%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門 I

川島 健司

専門入門科目 200 番台 専門入門科目 200 番台 専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 A～G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記（簿記入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、会計実務を理解することを旨とする。

財務諸表の作り方の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、各項目について詳細に解説することには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面方式とオンラインによるオンデマンド方式を併用する。教室での対面授業では、必ず隣を 1 座席空けて着席すること。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがちなが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルな会社・人物・取引を用いる。本授業の題材として扱う会社の創業者が執筆された書籍を受講前に一読することをお勧めする（吉松徹郎『アットコスメのつづれない話一困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社、2024 年）。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえはるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、時価簿価比率(PBR)、経済的付加価値(EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
第 2 回	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。
第 3 回	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
第 4 回	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
第 5 回	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
第 6 回	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
第 7 回	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
第 8 回	利益計算の会計	損益法と財産法の特性を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
第 9 回	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
第 10 回	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
第 11 回	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
第 12 回	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
第 13 回	CFO との対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
第 14 回	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021 年。
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

- 1 吉松徹郎『アットコスメのつづれない話一困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社、2024 年。
- 2 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2026 年 4 月現在の最新版。
- 3 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2025 年 4 月現在の最新版。
- 4 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993 年。
- 5 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 17 版、中央経済社、2024 年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 17 版、中央経済社、2024 年。
- 6 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版、白桃書房、2010 年。
- 7 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』（新版）中央経済社、2022 年。
- 8 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 9 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の 5 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①対面授業の出席、授業動画の視聴状況（10％）
 - ②各回の課題作文（20％）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
 - ③指定教科書の書き込み状況（20％）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
 - ④期末試験（50％）教科書持ち込み可
- ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。

・期末試験は教科書持ち込み可能である。受講生は、毎回の授業で気づいたことや調べたことを教科書に書き込んでいくことで、知識の定着化を図ってほしい。

・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】

< Course Description >

This course provides an overview of the accounting system, its theoretical foundations, and practical applications. To effectively learn accounting, it is essential to understand both how to prepare and how to analyze financial statements. This course takes a dual perspective — both that of financial statement preparers and users — to develop a well-rounded understanding of accounting practices.

For the preparation of financial statements, we will cover fundamental accounting principles and standards. Topics include the objectives of financial accounting, the function of double-entry bookkeeping, profit measurement concepts, accounting regulations, asset valuation principles, and the qualitative characteristics of accounting information. We will also discuss key financial statement elements such as assets, liabilities, income, and expenses.

For financial statement analysis, we will explore alternative accounting methods, the motivations behind different accounting choices, and how to interpret published financial data. Additionally, we will introduce key financial indicators and analytical techniques to assess a company's financial health using real-world financial statements.

< Course Objectives >

By the end of this course, students will:

- Develop the ability to analyze and explain how transactions should be accounted for using appropriate accounting terminology and concepts.
- Gain an understanding of Japanese accounting standards and the fundamental principles needed to interpret IFRS (International Financial Reporting Standards).
- Learn to recognize the intent behind financial statement figures from the perspective of preparers.
- Acquire the skills to assess a company's actual financial position using its financial statements.

< Study Expectations >

Students should plan to spend approximately 2 hours on preparation and review for each class session.

< Grading Criteria >

Grades will be based on the following components (percentages indicate weight):

- Class Participation (10%) – Attendance at in-person sessions and viewing of lecture videos.
- Essay Assignments (20%) – After each class, students will submit questions and reflections via Google Forms. Responses will be anonymized and shared with the class.
- Textbook Notes Submission (20%) – Students will submit images of their handwritten notes and share them with peers.
- Final Exam (50%) – A comprehensive assessment covering all course materials.

会計学入門Ⅱ

川島 健司

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営2年A～G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記（簿記入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを目指す。この会計学入門Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

近年、会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面方式とオンラインによるオンデマンド方式を併用する。教室での対面授業では、必ず隣を1座席空けて着席すること。

秋学期の全体を「財務諸表分析」（秋学期・第1回～第7回）と「会社の価値分析」（秋学期・第8回～第14回）の2つのパートに分割する。会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルな会社・人物・取引を用いる。本授業の題材として扱う会社の創業者が執筆された書籍を受講前に一読することをお勧めする（吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話－困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社、2024年）。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえははずである。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
第2回	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
第3回	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第4回	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。

第5回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを評価する。
第6回	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
第7回	起業ストーリーⅣ：ポストIPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポストIPO）に関するケースから理解を深める。
第8回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。
第9回	DCFモデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。
第10回	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。
第11回	価値分析の実践	実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。
第12回	財務分析・価値分析の歴史	財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。
第13回	経営者との対話実践	実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する。
第14回	まとめ	本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書やIR資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年。
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

・吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話－困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社、2024年。
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2025年9月現在の最新版。
・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2025年9月現在の最新版。
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005年。
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版、ネットスクール出版、2023年。
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第12版、白桃書房、2014年。
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫、2016年。
・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス、2019年。

【成績評価の方法と基準】

以下の5点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。
①対面授業の出席、授業動画の視聴状況（10％）
②各回の課題作文（20％）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
③指定教科書の書き込み状況（20％）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
④期末試験（50％）（教科書持ち込み可）
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・期末試験は教科書持ち込み可能である。受講生は、毎回の授業で気づいたことや調べたことを教科書に書き込んでいくことで、知識の定着化を図ってほしい。

・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】

< Course Description >

This course provides an overview of the accounting system, its theoretical foundations, and practical applications. To effectively learn accounting, it is essential to understand both how to prepare and how to analyze financial statements. This course takes a dual perspective — both that of financial statement preparers and users — to develop a well-rounded understanding of accounting practices.

For the preparation of financial statements, we will cover fundamental accounting principles and standards. Topics include the objectives of financial accounting, the function of double-entry bookkeeping, profit measurement concepts, accounting regulations, asset valuation principles, and the qualitative characteristics of accounting information. We will also discuss key financial statement elements such as assets, liabilities, income, and expenses.

For financial statement analysis, we will explore alternative accounting methods, the motivations behind different accounting choices, and how to interpret published financial data. Additionally, we will introduce key financial indicators and analytical techniques to assess a company's financial health using real-world financial statements.

< Course Objectives >

By the end of this course, students will:

- Develop the ability to analyze and explain how transactions should be accounted for using appropriate accounting terminology and concepts.
- Gain an understanding of Japanese accounting standards and the fundamental principles needed to interpret IFRS (International Financial Reporting Standards).
- Learn to recognize the intent behind financial statement figures from the perspective of preparers.
- Acquire the skills to assess a company's actual financial position using its financial statements.

< Study Expectations >

Students should plan to spend approximately 2 hours on preparation and review for each class session.

< Grading Criteria >

Grades will be based on the following components (percentages indicate weight):

- Class Participation (10%) – Attendance at in-person sessions and viewing of lecture videos.
- Essay Assignments (20%) – After each class, students will submit questions and reflections via Google Forms. Responses will be anonymized and shared with the class.
- Textbook Notes Submission (20%) – Students will submit images of their handwritten notes and share them with peers.
- Final Exam (50%) – A comprehensive assessment covering all course materials.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ

坂上 学

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]
営2年Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識が必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】

企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進める予定である。途中、1～2回ほどミニテストもしくはミニレポートを実施する予定である。ミニテスト等への質問については、適宜授業の中でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第2回	会計の種類と役割	会計にはどのような種類があるのか、どのような役割があるかについて解説する。
第3回	財務会計のシステム（1）	複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第4回	財務会計のシステム（2）	前回に引き続き、複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第5回	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則にはどのようなものがあるのかを解説する。
第6回	企業の設立の会計	企業の設立に関して、会計がどのように関わっているかについて解説する。
第7回	企業の資金調達のための会計	企業が営業活動をおこなうにあたって必要となる資金調達がどのようにおこなわれているかについて解説する。
第8回	仕入活動の会計	企業の仕入活動について、どのように会計処理がなされるかについて解説する。
第9回	生産活動の会計	企業の生産活動について、どのように原価を把握しているかについて解説する。
第10回	販売活動の会計（1）	企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうかについて解説する。
第11回	販売活動の会計（2）	前回に引き続き、企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうかについて解説する。
第12回	設備投資の会計	設備投資に関わって、減価償却などの会計処理について解説する。
第13回	研究開発の会計	研究開発に関わる会計処理について解説する。
第14回	本講義のまとめ	本講義のまとめとして、重点学習項目を示しながら、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ、第18版（もしくは最新版）

【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、第26版（もしくは最新版）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

静かで落ち着いた環境で講義が受けられるように配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に特別な機器等は必要ない。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

科目の性格上、1年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しいかもしれないので、同時並行で簿記の学習を行うことを強く推奨する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of the course is to provide an introductory knowledge of accounting to students of all fields such as accounting, finance, marketing and business administration. Students will be introduced to financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will also be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly.

(Learning Objectives)

Students will obtain basic knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the basic content of accounting for further course-work in accounting.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ

坂上 学

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営2年Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識が必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】

企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進める。途中、1～2回ほどミニテストもしくはミニレポートを実施する予定である。ミニテスト等への質問については、適宜授業の中でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第2回	資金の管理と運用（1）	余剰資金の運用活動と貸借対照表・損益計算書における表示について解説する。
第3回	資金の管理と運用（2）	キャッシュフロー計算書とデリバティブ取引について解説する。
第4回	国際活動（1）	企業活動の国際化に伴う会計の問題について解説する。
第5回	国際活動（2）	外貨換算会計と国際会計基準について解説する。
第6回	税金	企業活動と税金について解説する。
第7回	配当	剰余金の配当について解説する。
第8回	財務諸表の作成と公開（1）	財務諸表の公開と損益計算書・貸借対照表について解説する。
第9回	財務諸表の作成と公開（2）	株主資本等変動計算書・四半期財務諸表について解説する。
第10回	企業集団の財務報告（1）	連結貸借対照表について解説する。
第11回	企業集団の財務報告（2）	連結損益計算書と会社の合併について解説する。
第12回	財務諸表による経営分析（1）	分析の視点と収益性の分析について解説する。
第13回	財務諸表による経営分析（2）	安全性の分析について解説する。
第14回	本講義のまとめ	本講義のまとめとして、重点的な学習項目を示しながら解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ、第18版（もしくは最新版）。

【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、第26版（もしくは最新版）。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

静かで落ち着いた環境で講義が受けられるように配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に特別な機器等は必要ない。

【その他の重要事項】

科目の性格上、1年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しいかもしれないので、同時並行で簿記の学習を行うことを強く推奨する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of the course is to provide an introductory knowledge of accounting to students of all fields such as accounting, finance, marketing and business administration. Students will be introduced to financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will also be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly.

(Learning Objectives)

Students will obtain basic knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the basic content of accounting for further course-work in accounting.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ

近藤 大輔

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]
営2年H～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門Ⅰでは、主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表、さらに売上原価、有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析、原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】

会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	【議論・発表・表彰】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第4回	【講義】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	【議論・発表・表彰】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第6回	【講義】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	【議論・発表・表彰】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第8回	【講義】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	【議論・発表・表彰】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第10回	【講義】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性

第11回	【議論・発表・表彰】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第12回	【講義】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	【議論・発表・表彰】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】

谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年

【参考書】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber 会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社、2021年
谷武幸『エッセンシャル管理会計 第4版』中央経済社、2022年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly. we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営2年H～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門Ⅱでは、会計学入門Ⅰの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】

管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定、利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】	マネジメントコントロールと意思決定、差額原価
第3回	【議論・発表・表彰】	マネジメントコントロールと意思決定、差額原価
第4回	【講義】	PDCAサイクル、直接費、間接費
第5回	【議論・発表・表彰】	PDCAサイクル、直接費、間接費
第6回	【講義】	経済性計算の方法と資本コスト
第7回	【議論・発表・表彰】	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	【講義】	予算差異分析
第9回	【議論・発表・表彰】	予算差異分析
第10回	【講義】	日本の管理会計、源流管理、PDCA、組織、VE
第11回	【議論・発表・表彰】	日本の管理会計、源流管理、PDCA、組織、VE
第12回	【講義】	ミニ・プロフィットセンター、イン
第13回	【議論・発表・表彰】	ミニ・プロフィットセンター、イン
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】

谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第4版〉』中央経済社、2022年

【参考書】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年

谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年

小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber 会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社、2021年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

PRI200FA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

基礎統計学Ⅰ

牧草 夏実

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「記述統計」、「確率論」に基づく「推測統計」について学ぶ。まず、データの整理・可視化や代表値、散らばりの指標を通して、データの特徴を把握する方法を身につける。次に、確率の基本概念を理解し、不確実性を数量的に扱うための考え方を学ぶ。これらを通して、統計学の基礎的な概念と枠組みを理解し、今後の統計的推測を学ぶための土台を築く。

【到達目標】

・データの整理・可視化を行い、正しくデータを読み取ることができるようになる。
・確率の基礎と主要な確率分布の性質を理解し、理論的考察を与えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布資料に沿って講義を進め、各回の内容に応じて演習問題に取り組む。演習を通して、統計手法の考え方や計算方法についての理解を深める。また、演習問題については授業内で解説を行い、重要なポイントを整理する。実際のデータや具体例を用いて説明する。提出課題については採点後に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・記述統計1	授業の進め方や評価方法を説明する。次に、記述統計の概要と目的、データの種類、データの縮約について学ぶ。
第2回	記述統計2	位置・散らばり・分布の形状を表す代表値について学ぶ。
第3回	記述統計3	経済・経営データを用いて、2つの数値の関係を散布図や相関係数によって把握する方法を学ぶ。
第4回	確率の基礎1	確率への準備、事象と標本空間、確率の定義、同時確率と加法定理について学ぶ。
第5回	確率の基礎2	条件付き確率、ベイズの定理について学ぶ。
第6回	これまでの復習	記述統計と確率について復習する。
第7回	離散確率変数1	確率変数、確率変数の代表値、期待値の計算方法、複数の離散確率変数の導入と定義について学ぶ。
第8回	離散確率変数2	共分散と相関係数、代表的な離散確率分布について学ぶ。
第9回	数学の復習	微分・積分、対数関数と指数関数、偏微分について学ぶ。
第10回	連続確率変数1	連続確率変数と確率密度関数の考え方を学び、区間確率、期待値、分散の計算方法を学ぶ。
第11回	連続確率変数2	一様分布や正規分布などの代表的な連続確率分布を学ぶ。分布の形状と期待値・分散の関係を理解する。
第12回	連続確率変数3	複数の確率変数について学び、2つの数量の関係を表す共分散・相関係数の計算方法を学ぶ。
第13回	連続確率変数4	正規分布の性質と確率計算について学ぶ。標準化を通して、正規分布の扱い方を理解する。
第14回	まとめ	期末試験の諸注意、練習問題の解答解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料を読み、用語や公式を確認する。授業後に演習問題を解き、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

岡本和夫『新版数学シリーズ 新版確率統計 改訂版』実教出版

藤田 岳彦, 吉田 直広『大学1・2年生のためのすぐわかる統計学』東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題：50%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

練習問題を解くには電卓(または電卓機能があるスマートフォン、タブレット、パソコンなど)が必要。

【その他の重要事項】

高校数学までの知識を要しているため、不安な場合は事前に復習している事が望ましい。授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学Ⅱ

経営のための統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

In this course, students will study inferential statistics based on descriptive statistics and probability theory. First, they will learn how to organize and visualize data and how to use summary measures, such as measures of central tendency and dispersion, to understand the characteristics of data.

Next, students will learn the basic concepts of probability and develop ways of thinking that allow them to handle uncertainty quantitatively. Through these topics, students will gain an understanding of the fundamental concepts and framework of statistics, providing a foundation for further study of statistical inference.

Learning Objectives:

・ Be able to organize and visualize data, and accurately interpret the information.

・ Understand the basics of probability and the properties of major probability distributions, and be able to provide theoretical insights.

Learning activities outside of classroom:

Read the handouts in advance and review the terminology and formulas. After class, solve practice problems to deepen your understanding. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria:

- Assignments 50%

- Final exam 50%

PRI200FA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

基礎統計学 II

牧草 夏実

専門入門科目 200 番台 専門入門科目 200 番台 専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、基礎統計学 I で学んだ確率や確率分布の知識を基礎として、データから母集団の性質を推測するための統計的推測の考え方と方法を学ぶ。具体的には、点推定・区間推定・仮説検定といった基本的な推測手法を理解し、それらを用いてデータに基づいた判断を行う力を身につけることを目的とする。また、回帰分析の基礎にも触れ、経済・経営分野のデータ分析に必要な統計的思考力を養う。

【到達目標】

- ・統計的推測の基本的な考え方を理解し、目的に応じて適切な手法を選択できる。
- ・データに基づいて推定結果や検定結果を解釈し、その意味を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

配布資料に沿って講義を進め、各回の内容に応じて演習問題に取り組む。演習を通して、統計手法の考え方や計算方法についての理解を深める。また、演習問題については授業内で解説を行い、重要なポイントを整理する。実際のデータや具体例を用いて説明する。提出課題については採点後に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/標本調査	授業の進め方や評価方法を説明する。次に、母集団と標本、比率・割合の調査について学ぶ。
第2回	標本分布	標本平均の性質を理解し、大数の法則と中心極限定理を通して、標本数と標本平均の関係、正規近似の考え方を理解する。
第3回	正規母集団からの標本分布	正規母集団からの標本平均および標本分散の分布について学ぶ。t 分布や χ^2 分布の位置づけを理解する。
第4回	推定	点推定および区間推定の考え方を学び、推定量の性質について理解する。
第5回	区間推定と標本サイズ	平均や分散の区間推定を扱い、推定精度と標本サイズの関係について学ぶ。
第6回	仮説検定の基礎	仮説検定の基本的な考え方、帰無仮説と対立仮説、検定統計量について学ぶ。
第7回	仮説検定 1	片側検定・両側検定、2 種類の過誤について理解し、平均に関する仮説検定を行う。
第8回	仮説検定 2	平均値の差の検定（等分散・不等分散のケース）および等分散性の検定について学ぶ。
第9回	代表的な検定 1	成功確率の検定、相関係数の検定、適合度検定について学ぶ。
第10回	代表的な検定 2	独立性の検定（クロス集計表）および分散分析の基本的な考え方を学ぶ。
第11回	数学の復習・問題演習	仮説検定に関する演習を行う。あわせて、最小値・最大値の考え方を復習する。
第12回	回帰分析 1	単回帰分析の考え方、線形回帰モデル、最小二乗法について学ぶ。
第13回	回帰分析 2	最小二乗推定量の性質、重回帰モデル、回帰係数の有意性検定について学ぶ。
第14回	回帰分析 3 / まとめ	回帰分析の応用（ダミー変数）を扱う。全体の総括と問題演習を行い、期末試験について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料を読み、用語や公式を確認する。授業後に演習問題を解き、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

岡本和夫『新版数学シリーズ 新版確率統計 改訂版』実教出版
藤田 岳彦、吉田 直広『大学 1・2 年生のためのすぐわかる統計学』東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題：50%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

- ・ノートパソコン（Excel または Google スプレッドシート利用可）
- ・練習問題を解くための電卓（または電卓機能があるスマートフォン、タブレット、パソコンなど）

【その他の重要事項】

高校数学までの知識を要しているため、不安な場合は事前に復習している事が望ましい。授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I

経営のための統計学 I/II

【Outline (in English)】

In this course, building on the knowledge of probability and probability distributions learned in Basic Statistics I, students will study the concepts and methods of statistical inference used to infer the characteristics of a population from data. Specifically, students will learn fundamental inferential techniques such as point estimation, interval estimation, and hypothesis testing, and develop the ability to make data-based judgments. In addition, the course introduces the basics of regression analysis and aims to cultivate statistical thinking necessary for data analysis in economics and business.

Learning Objectives:

- ・ Understand the basic concepts of statistical inference and be able to select appropriate methods according to the purpose.
- ・ Be able to interpret estimation and test results based on data and explain their meaning.

Learning activities outside of classroom:

Read the handouts in advance and review the terminology and formulas. After class, solve practice problems to deepen your understanding. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria:

- Assignments 50%
- Final exam 50%

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

高橋 理香

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目A群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]
営2年A～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。授業内で問題演習とその解説を行うこともあります。学習支援システムに教材ファイルを掲載します。また、オンライン教材を用いて宿題を出します。復習を習慣づけることにより、知識の定着を図ります。

春学期のミクロ経済学入門Ⅰでは、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要になる基本的なコンセプトを一通り紹介した上で、競争と市場の関係を示し、理想的な競争状況である完全競争について詳しく紹介します。オフィスアワーによって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業のテーマについて説明します。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。さらに、ミクロ経済学の全体像や経済学入門で学んだ内容との関連性について説明します。
第2回	市場における需要と供給1（需要と供給）	モノやサービスの買い手の行動や売り手の行動から出発して、需要曲線と供給曲線の形状について理解します。また、また、何によって需要供給曲線の変化が引き起こされるかを学びます。（教科書第4章）
第3回	市場における需要と供給2（均衡）	市場均衡とは何かを理解します。また、需要供給曲線の変化によって、市場均衡がどう変化するかを学びます。（教科書第4章）
第4回	消費者、生産者、市場の効率性	買い手や売り手の満足度の測り方（余剰分析）を理解し、市場均衡での満足度や効率性について学びます。（教科書7章）
第5回	需要、供給および政府の政策1（価格規制）	政府の価格規制は私たちの生活にどう影響を及ぼすかを学びます。（教科書第6章）
第6回	需要、供給および政府の政策2（租税）	政府の課税は私たちの生活にどう影響を及ぼすかを学びます（教科書6・8章）
第7回	中間試験	第6回までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
第8回	弾力性とその応用	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなるのか、弾力性の定義や算出方法、弾力性を使った応用分析について学びます（教科書第5章）
第9回	応用・国際貿易	貿易は私たちの生活にどう影響を及ぼすのか、これまで学んだ分析ツールを用いて理解します。（教科書第9章）

第10回	生産コスト1	費用とは何か？ 生産にかかる様々な費用について学びます。（教科書第14章）
第11回	生産コスト2	企業は短期および長期の視点で活動しています。短期の費用と長期の費用にはどのような違いがあるのか、両者はどう関係するのか、学びます。（教科書第14章）
第12回	競争市場における企業1	市場と競争の関係について理解し、理想的な市場とされる完全競争市場では企業はどのように行動するか、完全競争市場の均衡ではどのような条件が成立するかを学びます。（教科書第15章）
第13回	競争市場における企業2	完全競争市場における企業の短期や長期の意思決定について理解し、短期・長期の供給曲線や市場均衡の違いについて学びます。（教科書15章）
第14回	春学期のまとめ	春学期の内容を総括した上で、秋学期の見通しについて解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（片桐・篠・溝口訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第5版』セーゲン・ラーニング株式会社、2025年。

【参考書】

アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社、2020年。
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社、2018年。
矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店、2001年。
矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001年。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題：50 %
- ・中間試験：10 %
- ・期末試験：40 %

中間・期末試験の詳細については、決定次第、授業内また学習支援システムで詳細の説明をしますので、頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。また、オフィスアワーはZoomで行う予定です。オフィスアワーの利用希望者はその準備が必要です。

【その他の重要事項】

- 1）教科書やオンライン教材の利用に関する諸注意について説明しますので、初回の授業に出席してください。
- 2）ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
- 3）ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱはそれぞれ2クラスずつあります。担当教員によって授業内容・扱う順番やペースが異なりますので、春学期と秋学期で同じ日時・担当教員のクラスを履修することを勧めます。
- 4）この授業は、2年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにするので、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to help with the understanding of basic concepts and analytical methods of microeconomics at the introductory level. It focuses on decision-making of individuals and firms and the allocation of scarce resources in society. Topics are Supply and Demand, Equilibrium, Welfare Analysis, The Role of Government in Markets, Production Costs, and Markets and Competition. Also, how microeconomics principles are applicable to the real world issues as well as to other academic fields will be discussed.

【Learning objectives】

By the end of the course, students will be expected to:

(1) Understand key economic models.

(2) Understand key concepts in the textbook.

(3) Acquire basic skills in order to make graphs and mathematical formulas.

(4) Solve problem sets.

(5) Evaluate daily life topics and current economic and business news from the viewpoint of microeconomic theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the assigned textbook before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Homework Assignments: 50 %

Final Examination: 40 %

Mid-term Examination: 10%

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

高橋 理香

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目A群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営2年A～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。学習支援システムに教材ファイルを掲載します。また、オンライン教材を用いて宿題を出します。復習を習慣づけることで、知識の定着を図ります。秋学期のミクロ経済学入門Ⅱでは、不完全競争市場である独占や寡占などをとりあげて解説します。企業間のインタラクションを考える際に必要となるゲーム理論も紹介します。加えて、Ⅰで学んだ需要と供給のメカニズムをより精緻に理解するため、消費者、生産者の意思決定について詳しく学びます。オフィスアワーによって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の学習内容を確認し、秋学期の内容を概観します。
第2回	市場の失敗	春学期に学んだ完全競争市場をベンチマークとして、市場がうまく機能しない場合に何が起きるのかを概観します。主に外部性をとりあげる予定です。（教科書第10章）
第3回	独占1	独占市場では企業はどのように行動するのか、完全競争市場と比較して理解します。（教科書第16章）
第4回	独占2	独占に対して政府はどのように対応すればよいのかを学びます。（教科書第16章）
第5回	寡占1	ライバル企業の行動を読みながら少数の売り手は何をどう意思決定するのか、寡占市場における企業の行動を理解します。寡占市場の分析で使われるゲーム理論についても学びます。（教科書第18章）
第6回	寡占2	時間の経過を考慮に入れた、より複雑なゲームについて学びます。（教科書第18章）
第7回	独占的競争	製品差別化と市場の競争の関係を示す独占的競争市場について学びます（教科書第17章）。
第8回	中間試験	第7回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
第9回	消費者の理論1	春学期に学んだ需要曲線の背後にある消費者の行動について学びます。消費者は何をを買うことができるのか、何を選ぶのか、消費の選択について理解します。（教科書第22章）
第10回	消費者の理論2	価格や所得が変わると、消費の選択はどう変わるのかを理解します。（教科書第22章）

第11回	生産者の理論1	春学期に学んだ供給曲線の背後にある生産者の行動について学びます。生産の投入-産出の関係について理解し、生産にかかる費用構造をより精緻に理解します。（教科書第19章）
第12回	生産者の理論2	生産要素市場（生産に投入する労働、土地、資本といった市場）のメカニズムについて学びます。（教科書第19章）
第13回	市場均衡（応用編）	消費者・生産者の行動を踏まえた上で、市場競争と資源配分の最適性について再考します。
第14回	秋学期のまとめ	ミクロ経済学の全体像を振り返ります。また、今後の学習として、ミクロ経済学の応用分野を紹介し、これまで学んだ分析ツールを用いると、こういったテーマを分析することが可能なかを解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（片桐・篠・溝口訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第5版』セーゲン・ラーニング株式会社、2025年。

【参考書】

アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社、2020年。
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社、2018年。
矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店、2001年。
矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001年。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題：50%
- ・中間試験：10%
- ・期末試験：40%

中間・期末試験の詳細については、決定次第、授業内また学習支援システムで詳細の説明をしますので、頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。また、オフィスアワーはZoomで行う予定です。オフィスアワーの利用希望者はその準備が必要です。

【その他の重要事項】

- 1）教科書やオンライン教材の利用に関する諸注意について説明しますので、初回の授業に出席してください。
- 2）ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
- 3）ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱはそれぞれ2クラスずつあります。担当教員によって授業内容・扱う順番やペースが異なりますので、春学期と秋学期で同じ日時・担当教員のクラスを履修することを勧めます。
- 4）この授業は、2年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

日本経済論Ⅰ／Ⅱ」「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to help with the understanding of basic concepts and analytical methods of microeconomics at the introductory level. It focuses on decision-making of individuals and firms and the allocation of scarce resources in society. Topics are Market Failures, Imperfect Competition, Consumer Choice, and Factor Markets and Production. Also, how microeconomics principles are applicable to the real world issues as well as to other academic fields will be discussed.

【Learning objectives】

By the end of the course, students will be expected to:

- (1) Understand key economic models.
- (2) Understand key concepts in the textbook.

(3)Acquire basic skills in order to make graphs and mathematical formulas.

(4)Solve problem sets.

(5)Evaluate daily life topics and current economic and business news from the viewpoint of microeconomic theory.

【Leaning activities outside of classroom】

Students are expected to read the assigned textbook before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Gradeing criteria】

Homework Assignments: 50 %

Final Examination: 40 %

Mid-term Examination: 10%

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

大木 良子

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目A群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]
営2年Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学の視点から「経営」を分析した結果が経営学の視点をういた場合とどのように異なるのか、分析結果を比較検討することにより、より重層的に理解することができるようになることを目指します。春学期のミクロ経済学入門Ⅰでは、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要になる基本的なコンセプトを一通り紹介します。理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場について詳しく紹介します。春学期の内容はすべて秋学期のミクロ経済学入門Ⅱで学習する内容の基盤になります。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて、ミクロ経済学の知識を身に付け、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、この先、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する際にも役立つ視点を提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。学習支援システムに教材ファイルを掲載します。また、オンライン教材を用い、毎週数問の簡単なクイズを宿題として出題します。復習を習慣づけることにより、知識の定着を図ります。学習支援システム上の掲示板や、オフィシアワーによって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業のテーマについて説明します。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。また、ミクロ経済学の全体像について説明し、経済学入門で学んだ内容とのリンクを取ります。
第2回	需要と供給	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！ 高く売りたい！
第3回	市場均衡（1）	たばこの需要量を減らす方法とは？ 需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。
第4回	消費者・生産者・市場の効率性	猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？ 今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？
第5回	政府の政策とその費用	臓器を売買する市場は存在すべき？ 政府の出番はどこにある？ 消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
第6回	弾力性とその応用	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？ 麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
第7回	中間試験	6回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
第8回	外部性	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？ なぜガソリンには重税が課せられるのか？
第9回	生産の費用（1）	費用とは何か？ 生産にかかる様々な費用について学ぶ。

第10回	生産と費用（2）	短期の費用と長期の費用との関係を整理する。規模に関する収穫とは何か？
第11回	競争市場における企業（1）	競争的な市場において、企業はどのような意思決定を行うのか？ 利潤の最大化をどのように分析するか？
第12回	競争市場における企業（2）	費用と供給曲線はどのように関係しているのか？ 短期と長期の市場供給はどのように異なるのか？
第13回	独占（1）	独占企業と競争に晒される企業は何か？ 独占企業はどのように意思決定を行うのか？
第14回	独占（2） 春学期のまとめ	独占に対してどのような政策を採るべきか？ 春学期の内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが新しい内容への学習につながります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第五版）』センゲージラーニング 2025年
宿題や復習にこの教科書に準拠したオンライン教材を使用します。

【参考書】

適宜以下の文献も活用します。参考にした際に改めて書名を紹介します。
アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社 2020年
伊藤元重『ミクロ経済学（第3版）』日本評論社 2018年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013年
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014年
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社 2018年

【成績評価の方法と基準】

・宿題：50％（オンラインシステムを使い教科書に準拠した問題を出題します）
・中間試験：10％
・期末試験：40％
中間・期末試験の詳細については、決定次第、授業内また学習支援システムで詳細の説明をしますので、頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。また宿題の提出はオンラインで行います。（教科書準拠のオンライン教材を使用）
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

1）教科書やオンライン教材の利用に関する諸注意について説明しますので、初回の授業よりも前に、必ず学習支援システムのこの科目のページを確認してください。
2）ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
3）この授業は、2年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (40%) and homework (50%) and mid-term exam (10%).

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

大木 良子

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 専門基礎科目A群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営2年Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学の視点から「経営」を分析した結果が経営学の視点をういた場合とどのように異なるのか、分析結果を比較検討することにより、より重層的に理解することができるようになることを目指します。秋学期のミクロ経済学入門Ⅱでは、完全競争と独占の中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。企業間のインタラクションを考える際に必要となるゲーム理論も紹介します。加えて、ミクロ経済学入門Ⅰで学んだ内容を発展させ、消費者、生産者の意思決定について詳しく学びます。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、この先、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する際にも役立つ視点を提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。学習支援システムに教材ファイルを掲載します。また、オンライン教材を用い、毎週数回の簡単なクイズを宿題として出題します。復習を習慣づけることで、知識の定着を図ります。

学習支援システム上の掲示板や、オフィスアワーによって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の学習内容を確認し、秋学期の内容を概観します。
第2回	寡占	相手の行動を読みながら動く少数の売り手しかいない＝寡占市場における企業の意思決定を考える。マイクロソフトの戦略は違法？
第3回	ゲーム理論（1）	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
第4回	ゲーム理論（2）	時間の経過を考慮に入れた、より複雑なゲームについて学ぶ。
第5回	市場の失敗（1）	市場が失敗する様々なケースを紹介し、全体像を整理する。また市場の失敗に対する対応策を検討する。
第6回	市場の失敗（2）	市場の失敗と情報との関係。モラルハザードは倫理の欠如？
第7回	中間試験	第6回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
第8回	消費者の理論(1)	消費者は何をを買うことができるか？消費者は何を望むのか？
第9回	消費者の理論(2)	消費者はなにを選ぶのか？需要曲線の裏側にあった消費者の意思決定とは？
第10回	消費者の理論(3)	消費者の理論に関する問題演習をします。
第11回	生産者の理論(1)	生産に関係する費用についての復習。利潤最大化を目指す企業の費用とは？
第12回	生産者の理論(2)	生産者要素市場（生産に投入する労働、土地、資本の市場）の均衡を考える。

第13回 市場均衡（応用編）

すべての市場の消費者とすべての市場の生産者の均衡とは？
市場がもたらす資源配分は本当に消費者、生産者のニーズに合っているのか？

第14回 秋学期のまとめ

ミクロ経済学の全体像をもう一度振り返る。
秋学期に学んだ内容を応用した問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが新しい内容への学習につながります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第五版）』センゲージラーニング 2025年
宿題や復習に、この教科書に準拠したオンライン教材を使用します。

【参考書】

適宜以下の文献も活用します。参考にした際に改めて書名を紹介します。
アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社 2020年
伊藤元重『ミクロ経済学（第3版）』日本評論社 2018年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013年
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014年
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社 2018年

【成績評価の方法と基準】

・宿題：50%（オンラインシステムを使い教科書に準拠した問題を出題します）
・中間試験：10%
・期末試験：40%

中間・期末試験の詳細については、決定次第、学習支援システムまた授業内で詳細の説明をします。学習支援システムは頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料や、宿題、中間試験、期末試験に関する重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
宿題の提出はオンラインで行います。（教科書準拠のオンライン教材を使用）詳細は第1回の授業で説明します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

1）教科書やオンライン教材の利用に関する諸注意について説明しますので、初回の授業よりも前に、必ず学習支援システムのこの科目のページを確認してください。
2）ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
3）この授業は、2年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

日本経済論Ⅰ／Ⅱ」「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end examination (40%) and homework (50%) and mid-term exam (10%).

PRI200FA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報学基礎 (2019年度以降入学者)

高田 美樹

専門入門科目200番台専門入門科目200番台 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータの発達に伴い経営活動に関係ある情報学の基礎を学ぶ。前半では、コンピュータの仕組みから情報の表現、情報通信ネットワークについて学ぶ。後半では、オペレーティングシステム、プログラミング言語などの基本ソフトウェアと応用技術、その他、情報セキュリティ、アルゴリズム、人工知能などについて学ぶ。情報学の幅広い範囲を学ぶので、事前学習をすることが望ましい。

【到達目標】

情報学の基礎についてコンピュータ科学を中心とした知識を一通り理解することを目標とする。知識を学ぶと同時に、将来のICTを活用した社会について概観し、考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

〔授業の概要〕情報学として必要な様々な概念について学ぶ。

〔授業の方法〕授業は基本的に教科書(資料)に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。課題のフィードバックはClassroomを通して行う。

〔補足〕

各回の授業計画の変更については学習支援システムとGoogle Classroomでその都度提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報学全体の概要について学ぶ。
第2回	コンピュータの仕組み	コンピュータの仕組みについて学ぶ。
第3回	情報の表現 (1)	コンピュータ上で情報を表現する方法についての基礎を学ぶ。
第4回	情報の表現 (2)	コンピュータ上で情報を表現する方法についての応用を学ぶ。
第5回	情報通信ネットワーク	最近のコンピュータに必須の情報通信ネットワークについて学ぶ。
第6回	オペレーティングシステム	基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	プログラミング言語	ソフトウェアを記述するプログラミング言語について学ぶ。
第8回	アルゴリズムとデータ構造 (1)	ソフトウェアの設計図にあたるアルゴリズムとデータ構造の基礎について学ぶ。
第9回	アルゴリズムとデータ構造 (2)	アルゴリズムとデータ構造の応用について学ぶ。
第10回	情報セキュリティと暗号化	情報セキュリティと暗号化について学ぶ。
第11回	IoTと社会	IoT(Internet of Things)と社会について学ぶ。
第12回	データ解析	コンピュータを使ったデータ解析について学ぶ。
第13回	人工知能	人工知能の概略について学ぶ。
第14回	まとめ	情報学全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料をWebClassより配布する。

【参考書】

講義開講後、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験を実施するので、以下のように評価する。

定期試験 (80%)、出席点<確認試験およびアンケート> (20%)

〔補足〕

具体的な内容は学習支援システムとGoogle Classroomで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PC上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【オフィスアワー】

メールで対応する

メールアドレスは開講後、講義資料に記載します

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the fundamentals of informatics related to business activities with the development of computers. In the first half, students learn about the expression of information and communication networks from the mechanism of computers. In the second half, you can learn basic software and applied technologies such as operating systems and programming languages, as well as information security, algorithms and artificial intelligence.

[Learning Objectives]

The goal is to gain a general understanding of the basics of informatics, centered on computer science. It is desirable to be able to think about the future society at the same time as learning knowledge.

[Learning Activities Outside of Classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria / Policy]

Since a regular test will be conducted, it will be evaluated as follows.
Regular examination (80%), attendance points < confirmation examination and questionnaire > (20%)

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（2018年度以前入学者）

中西 善信

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織のマネジメントの仕組みには、何らかの理由や意図がある。一方で、その仕組みが、意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。

このようなマネジメントの理由や意図、並びに逆機能の多くは、経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは、社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では、マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。

その際、可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動、サークル、アルバイトなど）の実態を参照する。

なお、経営管理論Ⅰ/Ⅱのうち、経営管理論Ⅰは、より基本的な内容を扱う。内容はそれぞれ独立だが、経営管理論Ⅱと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】

1. 経営管理の基本的な概念について、説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動、並びにそれらの意図・機能・逆機能を、理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし、内容により、一部の回をオンラインに変更することがある）。

また、毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を、次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に、どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

適宜資料を配布する。

【参考書】

高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。

ただし、各回のウエイトを変えることがある。

なお、レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため、授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため、これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論Ⅱ、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management I deals with more basic topics.

[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（2018年度以前入学者）

中西 善信

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織のマネジメントの仕組みには、何らかの理由や意図がある。一方で、その仕組みが、意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。

このようなマネジメントの理由や意図、並びに逆機能の多くは、経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは、社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では、マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。

その際、可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動、サークル、アルバイトなど）の実態を参照する。

なお、経営管理論Ⅰ/Ⅱのうち、経営管理論Ⅱは、より高度な内容、実際の具体例等を扱う。内容はそれぞれ独立だが、経営管理論Ⅰと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】

1. 経営管理の基本的な概念について、説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動、並びにそれらの意図・機能・逆機能を、理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし、内容により、一部の回をオンラインに変更することがある）。

また、毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を、次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第3回	組織デザイン	分業と調整
第4回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第5回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第6回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第7回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第8回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第9回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第10回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第11回	知識創造	アイディア創造と「場」
第12回	事例①	スリーエム社における知識創造
第13回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

適宜資料を配布する。

【参考書】

高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。

ただし、各回のウェイトを変えることがある。

なお、レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため、授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため、これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management II deals with more advanced topics.

[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）

木川 大輔

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略を理解する視点は、大きく分けて①個別事業に焦点を当てた事業戦略、②複数事業からなる企業全体の方向性を示す全社戦略の2つから成り立ちます。経営戦略論Ⅰでは、事業戦略の視点、すなわち、どのようにすれば自社が競合他社よりも有利な状態を作り出すことができるかといった点を中心に学習を行います。事業戦略を中心とした経営戦略論の基本的な概念と分析手法、思考法を把握し、現実の企業に当てはめて考えるという取り組みを通じて、社会現象に対する関心や洞察力、問題解決力を高めていくことが教育目的です。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。進行は、スクリーンに投影したスライドを中心にを行います。受講者の理解が進むよう、できるだけ身近な事例を用いたり、写真、グラフ、図などを多く使用します。また、ウェブアプリケーションのチャット機能を用いて、擬似的な双方向のコミュニケーションも毎回の授業で取り入れる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営戦略とはなにか	講義内容の説明、経営戦略とはなにか？、経営戦略の3階層
第2回	競争戦略に関する視点	基本戦略、外部環境と内部環境の適合、SWOT分析
第3回	コストリーダーシップ戦略	規模の経済、範囲の経済、経験（曲線）効果
第4回	製品差別化戦略	STPとマーケティング・ミックス、4P
第5回	顧客価値	PIMS、水平的差別化と垂直的差別化、ブルーオーシャン戦略
第6回	競争ポジションと戦略セオリー	競争地位別の戦略セオリー
第7回	ポジショニングアプローチ①	戦略グループ、移動障壁、先行者優位性
第8回	ポジショニングアプローチ②	戦略グループ、移動障壁、先行者優位性
第9回	資源ベースアプローチ①	模倣困難な資源、VRIO
第10回	資源ベースアプローチ②	コアコンピタンスと見えざる資産
第11回	ゲームアプローチ①	価値相関図、競争と協調
第12回	ゲームアプローチ②	明示的共謀と暗黙的共謀
第13回	学習アプローチ	戦略計画学派と創発戦略学派、組織学習、学習の罫
第14回	春学期全体のまとめ	第1回から第13回の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論（第2版）』東洋経済新聞社、2017年
網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年
ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版]企業戦略論』（上中下）ダイヤモンド社、2021年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の演習課題、平常点（40%）、期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱは一貫した授業構成となっているため、続けて受講することを強くお勧めします。特に経営戦略論Ⅱ（秋学期）を先に受講した場合、翌年度に経営戦略論Ⅰを履修したうえで、もう一度、経営戦略論Ⅱの内容を復習することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This course, Strategic Management I, focuses on business strategy, with particular attention to how firms can create and sustain competitive advantages over their rivals. Students will learn a wide range of concepts and theories in business-level strategy and also study the strategies that firms actually pursue. The course aims to provide students with a solid foundation in strategic management, enabling them to explain what business strategy is and how firms formulate and implement it.

Classes will be conducted face-to-face, primarily through slide-based lectures that incorporate familiar examples, visual materials, and interactive discussion using a web-based chat tool. Evaluation will be based on class exercises and participation (40%) and a final examination (60%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）

木川 大輔

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略を理解する視点は、大きく分けて①個別事業に焦点を当てた事業戦略、②複数事業からなる企業全体の方向性を示す全社戦略の2つから成り立ちます。経営戦略論Ⅱでは、全社戦を中心に学びます。全社戦略の中心的な課題は、自社の事業範囲を決定することと、自社の経営資源を効率的に配分することです。全社戦略を中心とした経営戦略論の基本的な概念と分析手法、思考法を把握し、現実の企業に当てはめて考えるという取り組みを通じて、社会現象に対する関心や洞察力、問題解決力を高めていくことが教育目的です。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。進行は、スクリーンに投影したスライドを中心に行います。受講者の理解が進むよう、できるだけ身近な事例を用いたり、写真、グラフ、図などを多く使用します。また、ウェブアプリケーションのチャット機能を用いて、擬似的な双方向のコミュニケーションも毎回の授業で取り入れる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	事業戦略と全社戦略の違い
第2回	製品ライフサイクル	製品ライフサイクル、イノベーションの普及理論、ライフサイクル別の戦略セオリー
第3回	事業の定義と企業ドメイン	事業の定義、3次元モデル、企業ドメイン、企業理念との関係
第4回	事業の多角化と多角化の効果①	多角化の動機、多角化の合成効果、多角化と経営成果
第5回	事業の多角化と多角化の効果②	ダイナミックシナジー、オーバーエクステンション
第6回	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント	製品ライフサイクル、市場地位別の戦略セオリーと製品ポートフォリオ
第7回	多角化と学習アプローチ	学習アプローチの復習と事業の多角化の動的相乗効果との関係
第8回	垂直統合と市場取引①	活動間の調整メカニズム、情報の非対称性、機会主義、取引コスト
第9回	垂直統合と市場取引②	垂直統合、水平分業のメリット・デメリット、情報粘着性、中間組織
第10回	製品アーキテクチャ	製品アーキテクチャとは、モジュラー型、インテグラル型、製品アーキテクチャと産業構造
第11回	ネットワーク外部性とデファクト・スタンダード	標準化のタイプ、ネットワーク外部性の直接効果と間接効果、標準化と経営戦略
第12回	産業構造のレイヤー化とゲームアプローチ	モジュラー化、ソフトウェア化、ネットワーク化の進展による産業構造の変化
第13回	プラットフォーム・ビジネス	プラットフォーム、ネットワーク外部性、チキンエッグ問題、多面市場戦略
第14回	秋学期全体のまとめ	秋学期第1回から第13回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年

伊丹敬之『経営戦略の論理<第4版>—ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社、2012年

近能善範・高井文子『コア・テキスト イノベーション・マネジメント新訂版』新世社、2024年

根来龍之『プラットフォームの教科書—超速成長ネットワーク効果の基本と応用』日経BP社、2017年

【成績評価の方法と基準】

配分：毎回の授業の演習課題、平常点（40％）、期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱは一貫した授業構成となっているため、続けて受講することを強くお勧めします。特に経営戦略論Ⅱ（秋学期）を先に受講した場合、翌年度に経営戦略論Ⅰを履修したうえで、もう一度、経営戦略論Ⅱの内容を復習することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This course, Strategic Management II, focuses on corporate strategy, examining how firms determine the scope of their businesses and allocate resources effectively across them. Students will learn a wide range of concepts and theories in corporate-level strategy and also study the strategies that firms actually pursue. The course aims to provide students with a solid foundation in strategic management, enabling them to explain what corporate strategy is and how firms formulate and implement it.

Classes will be conducted face-to-face, primarily through slide-based lectures that incorporate familiar case examples, visual materials, and interactive use of a web-based chat tool. Evaluation will be based on class exercises and participation (40%) and a final examination (60%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）

李 瑞雪

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1講 イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第2回	第2講 ブランニング・アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第3回	第3講 ブランニング・アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、パランスド・スコアカード
第4回	第4講 ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動 - 経営業績モデル）、ファイブ・フォース・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第5回	第5講 ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第6回	第6講 ポジショニング・アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第7回	第7講 ポジショニング・アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。グローバル戦略、マルチナショナル戦略、トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破壊的競争など
第8回	第8講 リソース・ベース・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第9回	第9講 リソース・ベース・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
第10回	第10講 ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	第11講 ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	第12講 学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第13回	第13講 学習アプローチ、創発戦略（Ⅱ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ

第14回 第14講 競争優位と一般戦略 競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に付け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加（＋α）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（－α）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, and in-class contribution: 20%. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）

李 瑞雪

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期は対面授業を実施する予定です。状況によってオンライン開催を余儀なくされる場合は、講義形式などの詳細について学習支援システムを通じて適宜提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1講 インTRODクッション、一般戦略	春学期（経営戦略論Ⅰ）の内容の復習、秋学期講義内容の構成、3つの一般戦略と競争優位
第2回	第2講 ゲームアップローチ	価値相関図（バリュー・ネット）、戦略的補完関係、「付加価値」と価値貢献度、競争と協調、顧客への「本質的サービス」、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、意図的抑止
第3回	第3講 学習アプローチと創発戦略	意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略、学習の「場」、実験と「反省」による学習、ダイナミック・シナジ
第4回	第4講 競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第5回	第5講 ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、プラットフォーム戦略
第6回	第6講 イノベーションと競争優位	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、イノベーションのジレンマ、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、ブルー・イノベーション
第7回	第7講 吸収合併（M&A）	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンス、ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策
第8回	第8講 戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略提携と業務提携、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク、アウトソーシング
第9回	第9講 垂直統合と競争優位	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第3の取引形態、取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織

第10回	第10講 サプライチェーンマネジメント（SCM）の戦略	SCMの定義、サプライチェーンのプロセス（SCORモデル）、プロセス統合、企業の競争基盤とサプライチェーンの貢献、SCM戦略の構成要素、制約理論（TOC）、投機と延期
第11回	第11講 調達戦略	調達戦略の多様な目標、TCOの最小化、調達方式の4類型、調達戦略のマトリクス、調達プロセスの基本原則、調達戦略と企業間コラボレーション
第12回	第12講 製造戦略と生産プロセス	ETO、MTO、ATO、MTO、ジョブショップ、バッチフロー、ライン・フロー、連続フロー、製品・工程マトリクス、製品・工程ライフサイクルと生産性ジレンマ、マスカスタマイゼーション、リーン生産システム
第13回	第13講 ロジスティクス戦略と競争優位	スピードの経済とロジスティクス戦略、ロジスティクス戦略の類型、ジャストインタイムの物流、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）、共同物流
第14回	第14講 秋学期の内容のまとめ	1回目から13回目までの授業内容のまとめ・総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に付け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料とリーディング資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習しておいてください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社
- 6) デビッド・コリス&シンシア・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

「平常点」20%、「小テスト」30%、「期末テスト」50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. Students will be expected to have read the relevant chapters from the references and other materials suggested by the teacher before each class meeting. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, and in-class contribution: 20%. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅰ（2018年度以前入学者）

岡田 庄生

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（ブランドやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】

- ① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
- ② 毎回の授業での課題や中間・期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
- ③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感度を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、1回目の授業はオンライン（リアルタイム）ですが、2回目以降は対面授業となります。

①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業冒頭に授業の内容に関連した「授業中クイズ」を実施します。対面授業での授業中クイズは教室にいないと参加できません。

②授業後：毎回の授業に関連する「授業後課題」を、期日までに提出します。提出された課題のうちいくつかを取り上げて、次の授業にてフィードバックを行います。

③中間テスト・学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は1回目の授業で説明しますので、必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・マーケティング・マネジメントとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	マーケティングの基礎	マーケティング・マネジメントの基本概念と市場環境分析
第3回	製品のマネジメント	製品開発のプロセスと製品ライフサイクル
第4回	価格のマネジメント	価格設定の考え方と適正価格の調査方法
第5回	ゲスト講師①：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第6回	広告のマネジメント	広告コミュニケーションによる市場創造
第7回	チャネルのマネジメント・中間テスト	メーカーによるチャネルの選択と管理
第8回	サプライチェーンのマネジメント	在庫管理と安定供給
第9回	顧客関係のマネジメント	カスタマーリレーションシップ
第10回	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルキャンパス、SWOT分析、アンゾフの成長マトリクス
第11回	ゲスト講師②：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第12回	顧客理解のマネジメント	顧客インサイトとマーケティングリサーチ
第13回	ブランド構築のマネジメント	ブランド構築の基礎概念
第14回	社会責任のマネジメント	企業における社会的責任の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。

また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。

上記以外に、中間テスト・学期末テストの準備があります。

中間テスト・学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。

テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第5版』碩学舎（2026年）

大学生協にて、電子テキスト版を購入することをお勧めします。

電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。

以下のページよりご確認をお願いします。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。

https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。

なお、紙版を選ぶことも可能です。

詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、スリーダー・バラスブラマニアン、恩蔵直人著、『コトラー、アームストロング、バラスブラマニアン、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版（2025年）

恩蔵直人、坂下玄哲編『マーケティングの力：最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中クイズ：30%

2. 授業後課題：30%

3. 中間テスト：10%

3. 学期末テスト：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを踏まえて、ゲスト講師やオンデマンド授業を取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

中間テストはPCのみ使用となりますので、中間テストの時には必ずPCを用意してください。スマートフォンやタブレットは使用できません。個人PCが持参できない学生は、富士見坂校舎の情報カフェテリアにてレンタルすることができます。

【その他の重要事項】

本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。

本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での事例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】

- ・マーケティング入門
- ・マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ
- ・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
- ・流通論Ⅰ/Ⅱ
- ・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
- ・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as branding and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.

Learning Objectives

1. Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.
2. Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.
3. Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. Midterm test: 10%
4. End-of-term test: 30%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅱ（2018年度以前入学者）

岡田 庄生

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（ブランドやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】

① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
② 毎回の授業での課題や学期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、1回目の授業はオンライン（リアルタイム）ですが、2回目以降は対面授業となります。

①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業冒頭に授業の内容に関連した「授業中クイズ」を実施します。授業中クイズは教室にいないと参加できません。
②授業後：毎回の授業に関連する「授業後課題」を、期日までに提出します。提出された課題のうちいくつかを取り上げて、次の授業にてフィードバックを行います。
③中間テスト・学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は1回目の授業で説明しますので、必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・デジタル時代のマーケティングとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	デジタル社会の消費者行動	カスタマージャーニーやデジタルリテラシーについて
第3回	デジタル社会のビジネスモデル	プラットフォームと、その要因となるネットワーク効果
第4回	デジタル・マーケティングの基本概念	顧客との協働、マーケティングミックス
第5回	ゲスト講師：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第6回	デジタル時代の製品戦略：基本	デジタル材、IoTについて
第7回	デジタル時代の製品戦略：拡張・中間テスト	ユーザーイノベーションの活用
第8回	デジタル時代の価格戦略：基本	ダイナミックプライシング
第9回	デジタル時代の価格戦略：拡張	消費者間取引と価格、電子決済
第10回	ゲスト講師②：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第11回	デジタル時代のチャネル戦略：基本	ダイレクトモデル、オムニチャネル
第12回	デジタル時代のチャネル戦略：拡張	シェアリングエコノミー
第13回	デジタル時代のプロモーション戦略：基本	デジタルプロモーション戦略
第14回	デジタル時代のプロモーション戦略：拡張	口コミや格付けの影響力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、中間テスト・学期末テストの準備があります。
中間テスト・学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。
テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタルマーケティング』碩学舎（2019年）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。

電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認をお願いします。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。

なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、スリーダー・バラスプラマニアン、恩蔵直人著、『コトラー、アームストロング、バラスプラマニアン、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2025年)
恩蔵直人、坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中クイズ：30%
2. 授業後課題：30%
3. 中間テスト：10%
3. 学期末テスト：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを踏まえて、ゲスト講師やクイズを取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

中間テストはPCのみ使用となりますので、中間テストの時には必ずPCを用意してください。スマートフォンやタブレットは使用できません。個人PCが持参できない学生は、富士見坂校舎の情報カフェテリアにてレンタルすることができます。

【その他の重要事項】

本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。

本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での事例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】

- ・マーケティング入門
- ・マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ
- ・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
- ・流通論Ⅰ/Ⅱ
- ・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
- ・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as branding and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.

Learning Objectives

1. Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.
2. Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.

3.Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. Midterm test: 10%
4. End-of-term test: 30%

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅰ（2018年度以前入学者）

左三川 郁子

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースでは「おカネ」や「銀行」、「金融市場」、「金融政策」など金融論の基礎を学びます。金融とはお金の余っている人や企業から、お金の足りない人や企業に融通することです。銀行の主な仕事は両者をつなぐ金融仲介ですが、金融市場で直接、おカネを貸し借りすることもできます。また、中央銀行である日本銀行は金融政策を実施することで経済活動に影響を及ぼし、景気を刺激したり過熱感を和らげたりしています。特に1990年代末からの25年間は「非伝統的金融政策」と呼ばれる、それまでとは大きく異なる金融政策を実施していました。授業では、その週に報じられた経済・金融関連のニュースについても解説します。

【到達目標】

本コースでは、金融の理論と実務のつながりを理解し、金融ビジネス上の課題について自分なりの解決方法を見い出せるようになることを到達目標とします。金融に関する基礎的な知識（通貨、金利、株価、為替、金融機関、金融政策、金融規制など）を身につけ、テレビや新聞で報じられる金融関連のニュースについて自分の考えを述べ、議論できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ノートと指定テキストに基づいた授業を行います。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。課題等に対するフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅰの概要	フローとストック、制度部門、GDP、日銀短観
第2回	金融取引・金融市場・金融機関（1）貨幣	貨幣の機能と役割、マネタリーベースとマネーストック、預金取扱金融機関、保険会社、証券会社、ノンバンク、直接/間接金融
第3回	金融取引・金融市場・金融機関（2）金利	金利とは、単利と複利、固定金利と変動金利、直接金融と間接金融、預貸利ざや、金利規制と金融自由化、1990年代の不良債権問題と金融不安
第4回	金融取引・金融市場・金融機関（3）資金循環	資金循環統計（取引表・残高表・調整表）、企業部門の貯蓄超過、家計の金融資産残高、貯蓄から投資へ
第5回	金融仲介機能と銀行	銀行のBSとPL、信用創造、外生的/内生的貨幣供給論、バーゼル規制、不良債権問題、預貸率、預貸利ざや、金融機関の合併・統合（地銀再編）
第6回	金融市場（1）外国為替市場	国際通貨制度、購買力平価、実質レートと実効レート、現物市場と先物市場、金利平価、外国為替介入発行市場と流通市場、資本コスト、配当割引モデル、株価の指標、東証ガバナンス改革、配当政策、自社株買い、企業価値、所有と経営の分離、エージェンシー問題、スチュワードシップ・コード
第7回	金融市場（2）株式市場	

第8回	金融市場（3）短期金融市場と債券市場	インターバンク市場とオープン市場、債券の利回りと価格、国債と地方債、社債、格付、イールドカーブ
第9回	インフレーションとデフレーション	消費者物価、インフレ・ターゲティング、物価水準目標、平均インフレ目標、名目金利と実質金利、自然利子率、GDPギャップ、中央銀行の独立性
第10回	中央銀行と金融政策	中央銀行の役割、伝統的な金融政策、金融市場調節、金融緩和と金融引き締め、主要国の中央銀行、ルールカ裁量か、テ일러・ルール、中立金利
第11回	非伝統的金融政策（1）ゼロ金利政策と量的緩和政策	ゼロ金利制約（ZLB）と実効下限（ELB）、フォワード・ガイダンス、バランスシート政策、準備預金制度と超過準備、リスク性資産の買い入れ、波及経路
第12回	非伝統的金融政策（2）マイナス金利政策とYCC	金利と量の関係、当座預金の階層構造、米豪のイールドカーブ・コントロール政策、指し値おペ、国債補完供給（SLF）、銀行券と流動性のわな
第13回	非伝統的金融政策（3）出口	主要中央銀行の出口政策、最適バランスシート規模、補完当座預金制度と補完貸付制度、中央銀行の独立性、政府の債務管理政策、財政ファイナンス
第14回	非伝統的金融政策（4）中央銀行の財務分析	中央銀行の赤字と債務超過、金融政策運営への影響、通貨発行益（シニョレージ）と国庫納付金

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】

左三川郁子・日本経済研究センター『ポスト非伝統的金融政策 検証日本銀行』日本経済新聞出版、2025年

【参考書】

参考文献として、以下のテキストを参照します。

- ・田中茉莉子『金融論への招待』新世社、2022年
- ・内田浩史『金融 [新版]』有斐閣、2024年
- ・白塚重典『金融政策 理論と実践』慶應義塾大学出版会、2023年
- ・鎌田康一郎『金融論 Theory&Practice』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験（100 %）に基づいて決定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。

【関連科目】

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamentals of finance, including money, banks, financial markets, and monetary policy. Finance involves allocating money from individuals and companies with surplus funds to those with shortages. While banks primarily act as intermediaries, connecting these parties, money can also be lent and borrowed directly in financial markets. Furthermore, as the central bank, the Bank of Japan influences economic activity by implementing monetary policy to stimulate the economy or cool overheating. Over the past 25 years, particularly since the late 1990s, the Bank of Japan implemented monetary policies significantly different from previous approaches. These policies are termed "unconventional monetary policy." Classes will also include explanations of economic and financial news reported that week.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to understand the connection between financial theory and practice, enabling students to develop their own solutions to challenges in the financial business. Students will acquire fundamental knowledge of finance including money, interest rates, stock prices, foreign exchange rates, financial institutions, monetary policy, and financial regulation, aiming to express their own opinions and engage in discussions about financial news reported on television and in newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time for preparatory study and review for this course is two hours each. For review, in addition to the reference materials listed below, consider how to apply what you have learned from a practical perspective by reading relevant newspaper and magazine articles.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅱ（2018年度以前入学者）

左三川 郁子

専門基礎科目B群 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策分析の基本モデルや経済変動と金融政策対応の動学的な関係、ファイナンスの基礎（ポートフォリオ選択、資産価格、企業金融など）について学びます。政策評価や、投資/資産価格の決定理論、経済における金融機関・金融市場の役割など、金融論は社会で生きていくうえで必須の知識です。授業では、その週に報じられた経済・金融関連のニュースについても解説します。

【到達目標】

本コースでは、金融の理論と実務のつながりを理解し、金融ビジネス上の課題について自分なりの解決方法を見い出せるようになることを到達目標とします。金融に関する基礎的な知識（通貨、金利、株価、為替、金融機関、金融政策、金融規制など）を身につけ、テレビや新聞で報じられる金融関連のニュースについて自分の考えを述べ、議論できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ノートと指定テキストに基づいた授業を行います。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	「金融政策の多角的レビュー」、展望レポート（政策委員の大勢見通し）、金融政策決定会合のディレクティブ、議事録
第2回	伝統的金融政策と非伝統的金融政策	金利政策と量的拡大政策、金融市場調節、コール市場、オペレーション手段、コリドー方式、資金過不足の要因
第3回	テイラールールと自然利子率	テイラー原則、自然利子率、需給ギャップ、インフレ目標
第4回	インフレ率と失業率	インフレ率と失業率の関係、フィリップス曲線、自然失業率仮説
第5回	IS-MP/AD-AS モデル（1）	IS曲線、MP（金融政策）曲線、IS-MP分析
第6回	IS-MP/AD-AS モデル（2）	総需要＝総供給分析、ADショックとASショック
第7回	FRBとECBの金融政策	連邦準備銀行、FOMC、FF金利、ドットチャート、Summary of Economic Projections (SEP)
第8回	ブルーデンス政策	バーゼル（BIS）規制、デジタル取り付け、最後の貸し手機能（LLR）と流動性供給、金融機関のモニタリング、預金保険制度とペイオフ、資本注入
第9回	デジタル通貨と決済システム	中央銀行デジタル通貨（CBDC）、電子マネー、仮想通貨、日銀ネット、全銀システム、決済リスク
第10回	リスクと期待効用関数	確率変数、期待値、標準偏差（リスク）、共分散、相関係数、期待効用理論、リスクプレミアム、平均分散アプローチ

第11回	ポートフォリオ理論	リスク分散、システマティック・リスクと固有风险、2つの資産の組み合わせ、複数の資産の組み合わせ、効率的フロンティア
第12回	CAPM（資本資産価格モデル）	リスクフリーレート、市場リスクプレミアム、ベータ（ β ）、証券市場線、CAPMの前提条件と導出、解釈
第13回	債券	債券利回り、スポットレートと債券価格、金利の期間構造（純粋期待理論、流動性選好理論、特定期間選好理論）、デュレーション、タームプレミアム
第14回	企業とファイナンス	株式と負債、BSとPL、キャッシュフロー計算書、MM理論、ベッキング・オーダー理論、資本コスト、WACC

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】

左三川郁子・日本経済研究センター『ポスト非伝統的金融政策 検証日本銀行』日本経済新聞出版、2025年

【参考書】

参考文献として、以下のテキストを参照します。

- ・田中茉莉子『金融論への招待』新世社、2022年
- ・内田浩史『金融 [新版]』有斐閣、2024年
- ・白塚重典『金融政策 理論と実践』慶應義塾大学出版会、2023年
- ・鎌田康一郎『金融論 Theory&Practice』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験（100％）に基づいて決定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。

【関連科目】

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】This course builds upon the foundational knowledge of finance acquired in Money and Banking I during the spring semester. It covers basic models for analyzing monetary policy, the dynamic relationship between economic fluctuations and monetary policy responses, and the fundamentals of finance including portfolio selection, asset pricing, and corporate finance. Financial theory encompasses essential knowledge for navigating society, including policy evaluation, the theory of investment/asset pricing decisions, and the role of financial institutions and markets in the economy. Classes will also include commentary on economic and financial news reported that week.

【Learning Objectives】Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective.

【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students are expected to spend two hours to review the content after each class. They are also required to spend an hour to read financial news reported in newspapers, on television, in business magazines, and other media that week.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）

中西 善信

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業 / Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織のマネジメントの仕組みには、何らかの理由や意図がある。一方で、その仕組みが、意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。

このようなマネジメントの理由や意図、並びに逆機能の多くは、経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは、社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では、マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。

その際、可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動、サークル、アルバイトなど）の実態を参照する。

なお、経営管理論Ⅰ/Ⅱのうち、経営管理論Ⅰは、より基本的な内容を扱う。内容はそれぞれ独立だが、経営管理論Ⅱと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】

1. 経営管理の基本的な概念について、説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動、並びにそれらの意図・機能・逆機能を、理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし、内容により、一部の回をオンラインに変更することがある）。

また、毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を、次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に、どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

適宜資料を配布する。

【参考書】

高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。

ただし、各回のウエイトを変えることがある。

なお、レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため、授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため、これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論Ⅱ、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management I deals with more basic topics.

[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）

中西 善信

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業 / Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織のマネジメントの仕組みには、何らかの理由や意図がある。一方で、その仕組みが、意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。

このようなマネジメントの理由や意図、並びに逆機能の多くは、経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは、社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では、マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。

その際、可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動、サークル、アルバイトなど）の実態を参照する。

なお、経営管理論Ⅰ/Ⅱのうち、経営管理論Ⅱは、より高度な内容、実際の具体例等を扱う。内容はそれぞれ独立だが、経営管理論Ⅰと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】

1. 経営管理の基本的な概念について、説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動、並びにそれらの意図・機能・逆機能を、理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし、内容により、一部の回をオンラインに変更することがある）。

また、毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を、次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第3回	組織デザイン	分業と調整
第4回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第5回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第6回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第7回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第8回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第9回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第10回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第11回	知識創造	アイデア創造と「場」
第12回	事例①	スリーエム社における知識創造
第13回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

適宜資料を配布する。

【参考書】

高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。

ただし、各回のウエイトを変えることがある。

なお、レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため、授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため、これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management II deals with more advanced topics.

[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

SOC200FB（社会学 / Sociology 200）

経営社会学Ⅰ

藤本 真

経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「大多数の人々がモノやサービスの生産・販売に携わり、そこから得た収入により生活を営む社会」＝「産業社会」の中で、企業経営がいかに行われ、企業経営をめぐる社会関係がいかに形作られているのかについて理解することを目的とする。「産業社会」の動向とそれに伴う社会全体へのインパクトを、この授業ではいくつかの「〇〇化」として捉え、それぞれの「〇〇化」に関連した、企業経営に関連する現象を取り上げる。「経営社会学Ⅰ」では、「産業化」と「都市化」に焦点を当てる。

【到達目標】

①企業経営のあり方が、「産業社会」の形成過程である「産業化」の下、どのように形成され、変化してきているか、②「企業経営をめぐる社会関係」がどのように形成され、変化しているか、③「産業化」に伴う社会全体の変化とみることができる「都市化」の進行と、「都市化」が、企業経営や企業経営に携わる個人、企業経営をめぐる社会関係にとどのような影響を及ぼすか、いったん点を論理的・体系的に理解することを授業の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行います（初回を除いて基本的にはオンライン授業は行いません）。レジュメ・資料を講義の前に配布し、それに沿って講義をすすめます。各回で予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

学期中に提出を求めるレポートならびに期末に提出を求める最終レポートは、最終評価に反映するとともに、各回の授業内容や授業の進め方の検討に用います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「産業社会」と企業経営	この講義の対象について～「産業社会」の変化と「企業経営をめぐる社会関係」
第2回	「産業化」と「市場」	「産業化」のプロセス、「産業化」の前提条件、社会関係の「場」としての市場
第3回	産業化の進展と経営組織	産業化の進展と大規模組織の発生、所有と経営の分離、官僚制の普及・発達と課題、企業経営をめぐる社会関係のレベル、様々な立場の個人と企業経営
第4回	「雇用者」の出現と「労働時間」の発生	「雇用者」の出現、「働く時間」の組織による管理、労働時間に対する規制、人事労務管理の発生
第5回	「職場」の機能	職場の持つ様々な機能、ホーソン実験、インフォーマルな人間関係の重要性
第6回	経営組織とキャリア形成	大規模経営組織におけるキャリア形成、企業横断的なキャリア形成、「正社員」の出現
第7回	企業をめぐる社会関係におけるリスクへの対応	事業経営のリスクと倒産法制、労働市場のセーフティネット形成、社会保障制度の確立
第8回	サービス経済化と経営組織・仕事	工業化・脱工業化・大衆消費社会、サービス経済化の過程（ベティ・クラークの法則）、サービス経済化が組織や仕事に与える影響
第9回	ブルーカラーからホワイトカラー、感情労働へ	大規模組織の出現とサービス経済化による求められる「スキル」の変化、「スキル」の変化に伴う人々の働き方の変化、「感情労働」の特徴と発生過程、「感情労働」の管理、「感情労働」の増加に伴う課題
第10回	多様な雇用・就業形態の出現と拡大	正社員以外の雇用・就業形態の拡大、拡大に伴う「格差問題」の発生と問題への対応

第11回	「都市化」の進行と企業経営	都市への人口集中と多様な産業の発生との循環、地方の過疎化、産業化がもたらす労働市場の地域間格差、U/I/J ターンの課題
第12回	高学歴化～「都市化」のもう一つの要因	産業化に伴う「高学歴化」の要請、急速な高学歴化の進展、「高学歴化」が招く若年者の地域間移動
第13回	国家の諸政策と企業	企業経営と政府・政策、「市場の失敗」、ケインズ理論、福祉国家、「政府の失敗」、新自由主義、格差問題とカジノ資本主義
第14回	大衆消費社会の形成・限界・克服	大量生産・大量消費社会、「成長の限界」、「沈黙の春」、「スモール・イズ・ビューティフル」、公害、企業活動に対する規制と対応、SDGs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイトなど、企業経営や産業社会と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、企業経営をめぐる社会関係についての実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深める。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料等をもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充(2015)『『働くこと』を社会学する 産業・労働社会学』(有斐閣アルマ)、②西村純子・池田心豪編著(2023)『社会学で考えるライフ&キャリア』(中央経済社)、③上林千恵子編著(2026)『よくわかる産業社会学 第2版』(ミネルヴァ書房)を挙げておきます。このうち①は現代産業社会の仕事や組織にまつわる主要トピックの理解に、②は経営組織で働くことや産業社会で生活を送ることについての理解に、③は経営社会学で取り上げられる様々な事項が1事項あたり見開き2ページでまとめられており知識の整理に、それぞれ役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①期末試験(40点満点)、②期末レポート(30点満点)、③学期中に提出を求めるレポート(10点満点×3回)の結果を基に実施します。
・期末試験では授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点します。
・期末レポートは、授業で取り上げたトピックに関連する課題図書を読んだうえでの読書レポートとします。内容の理解力や、読書を踏まえたうえでの主張の論理性・独創性、文章表現力などを評価項目として、評価をします。
・学期中に提出を求めるレポートでは、講義の内容などを題材としたレポート課題を設定し、授業の理解や授業への参加の姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営社会学は、①「社会のなかにおける企業経営」と、②「企業経営における社会関係（人間関係）」について理解することを目的とした講義です。各回のトピックを取り上げる際には、この2点について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

春学期の「経営社会学Ⅰ」と秋学期の「経営社会学Ⅱ」をすべて受講することで、経営社会学の全体像が体系的に明らかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマは異なるため、関心にしたがって春学期のみ、秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。

【Outline (in English)】

【Outline】

The purpose of this course are (1) to understand how corporate management is conducted under "industrialization" and "urbanization" and (2) to understand how social relations are formed around corporate management and how they affect corporate organizations and the individuals who work in them

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to understand the followings:

(1) How the state of corporate management has been formed and changed under the process of "industrialization," which is the formation process of "industrial society.

(2) How "social relations surrounding corporate management" are being formed and changed.

(3) The progress of "urbanization," which can be viewed as a change in society as a whole accompanying "industrialization," and how "urbanization" affects business management, individuals involved in business management, and social relations surrounding business management.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to do the followings. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(1) To deepen understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a regular basis.

(2) Through internships, part-time jobs, and other opportunities to interact with corporate management and industrial society, think about the realities and issues concerning social relations related to corporate management based on the discussions and theories learned in the lectures, and deepen understanding of what is learned in class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(30%) , short reports in mid-term(30%), and term-end essay(40%).

SOC200FB（社会学 / Sociology 200）

経営社会学Ⅱ

藤本 真

経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「大多数の人々がモノやサービスの生産・販売に携わり、そこから得た収入により生活を営む社会」＝「産業社会」の変化の中で、企業経営がいかに行われ、企業経営をめぐる社会関係がいかに形作られているのかについて理解することを目的とする。「経営社会学Ⅱ」では、日本の産業社会と企業経営の今後について考えていく上で、とりわけ重要な、「高齢化」、「グローバル化」、「デジタル化」、「多様化」に焦点を当てていく。

【到達目標】

①「産業化」に伴う社会全体の変化とみることができる「高齢化」・「グローバル化」・「デジタル化」・「多様化」の進行と、それぞれの変化が企業経営、社会関係、働く個人にもたらす影響を論理的・体系的に理解すること、②「産業社会・日本」の全体像とそこでの企業経営、社会関係について考察し、自らの生活・キャリアを描いていくきっかけをつかむこと、を授業の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行います（初回を除いて基本的にはオンライン授業は行いません）。レジュメ・資料を講義の前に配布し、それに沿って講義をすすめます。各回で予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。学期中に提出を求めるレポートならびに期末に提出を求める最終レポートは、最終評価に反映するとともに、各回の授業内容や授業の進め方の検討に用います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「産業社会」の形成・変化と企業経営	「経営社会学Ⅰ」の振り返りと「経営社会学Ⅱ」の概要
第2回	産業化と高齢化の関係と高齢化の企業経営への影響	「産業化が進展すると少子化・高齢化が進展する」というプロセス（産業化と家族、労働力確保と「福祉国家」維持の課題
第3回	経営組織における「年齢」と「定年」	仕事上のキャリア形成における年齢の意味、定年制度、高齢までの就業を促進する政策と組織・職場・個人
第4回	高齢化の中での企業組織の取組み	「ワーク・ライフ・バランス」施策、仕事と育児の両立に向けた取組み、仕事と介護の両立に向けた取組み
第5回	産業化・グローバル化・企業経営	「グローバル化」とは、「産業化」の進展と「グローバル化」、「グローバル化」と企業経営
第6回	グローバル化の下での企業経営と人的資源管理	多国籍企業の活動と経営管理、グローバル人事労務管理、「タレント・マネジメント」の実施と影響
第7回	技術革新と企業・仕事への影響	産業化と技術革新、ME化/OA・FA化/IT化とその影響、「第4次産業革命」、AIの急速な進化と普及
第8回	デジタル化の進展と仕事・組織の変化	デジタル化と「仕事の变化」、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、デジタル化と企業・労働者
第9回	「しぼられない働き方」の拡大か？ ～マルチプル・ジョブ、テレワーク、フリーランス、ギグワーク～	マルチプル・ジョブ（副業・兼業・複業）、テレワークという働き方、フリーランスとギグ・ワーカー
第10回	企業・職場・仕事の領域における女性	産業化の進展と女性の仕事、「M字カーブ」をめぐる社会関係、性別職域分離の現状と課題
第11回	企業・職場・仕事の領域における外国人	産業化と外国人労働、外国人労働者受入政策の歴史・現状と課題、日本企業における外国人の受入れ・活用と課題

第12回	「多様化」の進展とダイバーシティ・マネジメント	「多様化」の要因、様々な「ダイバーシティ」、ダイバーシティ・マネジメントの進展、日本企業のダイバーシティ・マネジメントにおける課題
第13回	職業キャリア形成のこれまでとこれから	キャリアの面から見た「日本的雇用」、「ジョブ型」と「メンバーシップ型」、「キャリア自律」、キャリアの「停滞」、「ライフ・シフト」とリカレント／リスキリング
第14回	産業社会・日本の可能性と企業・社会のこれから	人口減少社会、労働供給制約社会、市場の縮小と稼ぎ方の変化、産業社会としての「持続可能性」、「再興」の兆しと可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイトなど、企業経営や産業社会と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、企業経営をめぐる社会関係についての実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深める。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料等をもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充(2015)『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』(有斐閣アルマ)、②西村純子・池田心豪編著(2023)『社会学で考えるライフ＆キャリア』(中央経済社)、③上林千恵子編著(2026)『よくわかる産業社会学 第2版』(ミネルヴァ書房)を挙げておきます。このうち①は現代産業社会の仕事や組織にまつわる主要トピックの理解に、②は経営組織で働くことや産業社会で生活を送ることについての理解に、③は経営社会学で取り上げられる様々な事項が1事項あたり見開き2ページでまとめられており知識の整理に、それぞれ役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①期末試験(40点満点)、②期末レポート(30点満点)、③学期中に提出を求めるレポート(10点満点×3回)の結果を基に実施します。
・期末試験では授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点します。
・期末レポートは、授業で取り上げたトピックに関連する課題図書を読んだうえでの読書レポートとします。内容の理解力や、読書を踏まえたうえでの主張の論理性・独創性、文章表現力などを評価項目として、評価をします。
・学期中に提出を求めるレポートでは、講義の内容などを題材としたレポート課題を設定し、授業の理解や授業への参加の姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営社会学は、①「社会のなかにおける企業経営」と、②「企業経営における社会関係（人間関係）」について理解することを目的とした講義です。各回のトピックを取り上げる際には、この2点について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

春学期の「経営社会学Ⅰ」と秋学期の「経営社会学Ⅱ」をすべて受講することで、経営社会学の全体像が体系的に明らかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマは異なるため、関心にしたがって春学期のみ、秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。

【Outline (in English)】

【Outline】

The objectives of this class are: (1) to understand how corporate management is conducted under the progress of "aging," "globalization," "digitalization," and "diversification"; (2) to understand how social relations are formed around corporate management and how they affect corporate organizations and the individuals who work in them; and (3) to consider corporate management and social relations under "industrial society of Japan" and to get an opportunity to envision one's own life and career.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To understand logically and systematically the progression of "aging," "globalization," "digitalization," and "diversification," which can be viewed as changes in society as a whole that accompany "industrialization," and the impact of each change on corporate management, social relations, and workers.

(2) To consider the overall picture of "industrial society of Japan" and the corporate management and social relations therein, and to grasp the opportunity to draw one's own life and career.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to do the followings. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(1) To deepen understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a regular basis.

(2) Through internships, part-time jobs, and other opportunities to interact with corporate management and industrial society, think about the realities and issues concerning social relations related to corporate management based on the discussions and theories learned in the lectures, and deepen understanding of what is learned in class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(30%) , short reports in mid-term(30%), and term-end essay(40%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅰ（2019年度以降入学者）

近藤 大輔

経営学科専門科目200番台 経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業 / Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】

検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 簿記一巡、財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第3回	【議論・発表・表彰】 簿記一巡、財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第4回	【講義】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲、分類など
第5回	【議論・発表・表彰】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲、分類など
第6回	【講義】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入、売却など 割賦購入など
第7回	【議論・発表・表彰】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入、売却など 割賦購入など
第8回	【講義】 リース取引 無形固定資産と研究開発費、引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費、引当金
第9回	【議論・発表・表彰】 リース取引 無形固定資産と研究開発費、引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費、引当金
第10回	【講義】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第11回	【議論・発表・表彰】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など

第12回	【講義】 株式の発行と剰余金の配当と処分 決算手続きと収益認識基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など
第13回	【議論・発表・表彰】 株式の発行と剰余金の配当と処分 決算手続きと収益認識基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

検定会計Ⅱ（2019年度以降入学者）

近藤 大輔

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業 / Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部 of 学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】

検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第3回	【議論・発表・表彰】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第4回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第5回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第6回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第7回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第8回	【講義】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第9回	【議論・発表・表彰】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第10回	【講義】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第11回	【議論・発表・表彰】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第12回	【講義】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第13回	【議論・発表・表彰】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級（工業簿記）－ver10.0』2024年
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義－2級工業簿記2024年度版』中央経済社
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック－2級工業簿記2024年度版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部 of 科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

組織行動論 I

西川 真規子

経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、社会心理学、社会学を中心とした学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論 I では、個人一般に焦点をあてます。社会環境と相互作用する際の個人の内面での働きや変化、さらには個人から社会環境への働きかけを中心に理解を深めます。

【到達目標】

①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①各回のテーマに関係する概念や理論を講義動画やテキストを通じて理解します。②各回のテーマに沿った自らの体験を振りかえる Exercise を実施します。③学んだ概念、理論を実体験に応用するための Reflection を実施します。④各自で講義内容を踏まえ組織行動論の観点から Exercise、Reflection の内容を振り返り分析します。⑤授業内容に関する質疑応答は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習の進め方の理解
第2回	組織における態度と行動	組織行動論とは 組織と集団 アイデンティティ 集団と組織集団 所属集団の影響
第3回	組織・集団・個人	個人・集団・組織 組織の中の個人の態度・行動 組織の中の個人 集団の中の個人
第4回	個人の学習	学習とは何か 条件付け学習 ヒトの学習
第5回	組織の中の学習	集団での学習 実践を通じた学習 知識社会とナレッジワーカー 体系的学習と実践的学習
第6回	認知	アートと認知 認知とは何か 認知プロセス 対人認知とステレオタイプ
第7回	認知の歪み 原因の帰属	認知の歪み 認知される私 認知する私 内集団と外集団 原因の帰属
第8回	感情	感情の役割 感情と文化 感情的知性 感情労働
第9回	モチベーションと自己	モチベーションとは何か モチベーションへのアプローチ マズローの欲求段階説 X理論・Y理論 自己決定理論
第10回	モチベーションと比較	モチベーションと比較 認知不協和 衡平理論 組織公正

第11回	モチベーションと目標	モチベーションとゴール 内発的、外発的モチベーション 個人とゴール 組織とゴール 目標による管理
第12回	モチベーションと期待	モチベーションと期待 予測される価値 予測される結果
第13回	意思決定	行動と行為、選択 機会と選好 意思決定と合理性 合理性の限界
第14回	まとめ	学習内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のテーマに進む前に、各回の Exercise、Reflection 完成させてください（テキストに Exercise、Reflection の記述欄が設けられています）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西川真規子『はじめての組織行動論』新世社、2021 年
ISBN 978-4-88384-326-8

このテキストには書き込み欄が設けられおり、ノート併用になっています。Exercise や Reflection の他にも授業内容を踏まえ気づいた点など積極的に書き込みを行ってください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

進行状況に合わせてオンラインで小テストを複数回実施します。各小テストには実施期間が設けられています。実施期間を過ぎるとテストを受けることができませんので注意してください。すべての小テストに合格しないと、期末試験を受験することが出来ません。期末試験の結果にて成績評価を行います。期末試験は①基礎概念や基本理論を理解できているか、②学んだ概念や理論の実体験への応用ができるか、を問う内容になっています。教科書の内容を Exercise、Reflection を通じて実体験に応用できるまで十分に理解した上で試験に臨んでください。

【学生の意見等からの気づき】

分析的視点・応用力が身につくという本授業のメリットを、Exercise や Reflection の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関するお知らせ、授業内容に関する質問等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

この授業はオンデマンド授業です。初回「オリエンテーション」で、テキストの活用方法を含め、授業の進め方、質問の仕方、評価方法等について詳しい説明を行います。受講希望者は必ず初回授業を受講してください。組織行動論の理解を深めるため、組織行動論 I/II 両方の受講を勧めます。但し、組織行動論 II は 3 年生以降が受講対象となります。

【関連科目】

組織行動論 II
人的資源管理 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in social psychology, and sociology. This course will focus on the attitudes and behavior of people in general, such as individual perception, learning, motivation, and decision making.

Learning Objectives

The goal of this course is to 1) understand the basic concepts and theories of organizational behavior, and 2) apply the concepts and theories to students' own experiences.

Learning activities outside of classroom

Every week students will be expected to read a chapter in the textbook, and complete the exercises and reflection in the chapter by themselves. This will require at least 4 hours of self-study.

Grading Criteria/Policy

Students will be required to take small tests which will be given occasionally. They need to pass all small tests to take the final examination. Grading will be based on the results of the final examination.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

組織行動論 II

西川 真規子

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、社会心理学、社会学を中心とした学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論 II は、集団・組織の一員としての個人に焦点をあてます。集団内での人間関係を促進したり阻害したりする要因についての理解を深めていきます。

【到達目標】

①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

各回において、①自らの体験を振り返る **Exercise** を実施します。②その後、各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の実体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。また講義後に **Reflection** を行い、各自の実体験を振り返り、概念・理論の応用をはかります。③最後に、講義内容を踏まえ組織行動論の視点から **Exercise** の内容を再度振り返ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法 組織行動論とは 組織行動論 II の学習内容
第2回	集団	集団の種類 集団の発達 集団の意思決定
第3回	チーム	チームの種類 チームと業績
第4回	コミュニケーション 1	相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
第5回	コミュニケーション 2	効果的なコミュニケーション コミュニケーションスキル
第6回	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのプロセス コンフリクトのマネジメント
第7回	ストレス	ストレス発生のプロセス ストレスとパフォーマンス コーピング
第8回	リーダーシップ 1	リーダーシップとは何か リーダーシップと資質、スキル、行動
第9回	リーダーシップ 2	コンティンジェンシー理論 1
第10回	リーダーシップ 3	コンティンジェンシー理論 2
第11回	リーダーシップ 4	現代のリーダーシップ論
第12回	パワーと影響力	パワーと依存 パワーの行使
第13回	ケーススタディ	これまでの学習内容を踏まえてケース分析を実施
第14回	まとめ	学習内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で **Exercise**、**Reflection** を実施します。授業時間中にこの作業が完了しなかった場合は、次回までに完成してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。
授業に使用する資料を事前に学習支援システムを通じて毎週配布します。この資料は、講義中にノートがとれるよう余白が設定されていますので、各自授業前に印刷してください。尚、配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取ってください。

【参考書】

この授業では組織行動論 I の内容を引用することがあります。組織行動論 I の内容については、西川真規子『はじめての組織行動論』新世社、2021 を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。試験では授業内で取り上げた概念や理論の理解度 (50%) と、その実体験への応用力 (50%) について審査します。

【学生の意見等からの気づき】

分析的視点・応用力が身につくという本授業のメリットを、**Exercise** や **Reflection** の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料を事前に学習支援システム上で公開しています。受講生はこの資料を授業前に印刷して授業に臨んでください。授業に関するお知らせ等についても学習支援システムを通じて行っていますので、受講希望者は秋学期開始後速やかに学習支援システムに登録を行ってください。

【その他の重要事項】

組織行動論の理解を深めるため、組織行動論 I / II 両方の受講を勧めます。但し、組織行動論 I と組織行動論 II は、授業内容のみならず授業方法が異なります。授業方法の詳細は初回で説明しますので、組織行動論 II の受講希望者は初回オリエンテーションを必ず受講してください。

【関連科目】

組織行動論 I
人的資源管理 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in social psychology, and sociology. This course will examine the behavior of people in group and organization, such as teamwork, communication, and leadership.

Learning Objectives

The goal of this course is to understand 1) the basic concepts and theories of organizational behavior, and 2) apply the concepts and theories to students' own experiences.

Learning activities outside of classroom

Every class will require students to do some exercises. Students will also need to reflect on the contents of the lecture after the class. Preparation and reflection will take at least 4 hours every week.

Grading Criteria/Policy

Students will be required to take the final examination. Grading will be based on the understanding of the concepts and theories of organizational behavior (50%) and the effective application of the concepts and theories to their own experiences (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学学生）

小川 憲彦

経営学科専門科目200番台 経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業 / Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話ししたいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

【到達目標】

①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施予定です。
- ・参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
 - ①他人の迷惑になる行為を行わないこと
 - ②授業に関係のないことをしないこと
 - ③その他については教員の指示に従うこと
- ・Zoomでの実施の場合、詳細は授業で伝えます。
- ・適宜リアクションペーパーを課します。
- ・グループ・ディスカッションを行うことがあります。
- ・FBを行う際は次回授業もしくはリアペに対するFBを教材にUPする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第8回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第9回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第10回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）

第11回	キャリア発達理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第12回	キャリア発達理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験ないしレポート（80％）、平常点（20％：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

Iは理論編、IIは事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。IIは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2、3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはIIのシラバスをご覧ください（過年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】

Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (80%) and in-class attitudes and regular assignments (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川 憲彦

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業 / Fall〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
- ②社会人との交流が適切に行えること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

なお、FBを行う際は次回授業内もしくはリアペに対するFBを教材にUPする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（人事系コンサル）	コンサルタント・マネジャー40代男性
第6回	ゲスト（企業家）	サラリーマンから起業した40代男性
第7回	ゲスト（IT）	30代営業職OG（以下OB／OG表記は法政大学出身者）
第8回	ゲスト（不動産）	東急リパブル50代男性
第9回	ゲスト（メーカー）	㈱サトー人事室長50代男性
第10回	ゲスト（金融）	日本政策金融公庫勤務20代OG
第11回	ゲスト（証券）	SMBC日興証券20代OB
第12回	ゲスト（税理士）	杉浦税務会計事務所社長
第13回	ゲスト（菓子メーカー）	ヨックモックHD人事部長
第14回	ゲスト（サービス）	CCC㈱（蔦屋書店FC）管理者50代男性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや課題図書）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。

鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（リアクションペーパーや小レポート等含む）

- ・出席は取りません
- ・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設ける予定です。

ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。

（質の低さ、コピー、読めないものなど）

- ・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

- ・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

各回の内容は過年度のものです。ゲストは基本的に毎年変更しています。

参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。

- ①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画を撮ったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサンングラスをしない等は基本です。

- ②仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的關係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行い、振り返りレポートを作成します。受講者が主体的に考え、発言する機会（X：旧twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。ゲスト講義終了後にリアクションペーパーを提出します。

提出された振り返りレポートについては、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中の「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的關係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的關係」の事例に関するゲスト講義
第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的關係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的關係」の事例に関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

(1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社

(2) ロビンス、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

(3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート（1回）：40％

(2) 振り返りレポート（4回）：40％

(3) ゲスト講義のリアクションペーパー（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度ではできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧twitter（X）のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

(1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

(2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>

(2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>

(3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>

(4) X (旧twitter)
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

経営組織論 II

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- (1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
- (2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
- (3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業（経営組織論 II）では、「変わる社会、変わる組織」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行い、振り返りレポートを作成します。受講者が主体的に考え、発言する機会（X：旧 twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。ゲスト講義終了後にリアクションペーパーを提出します。

提出された振り返りレポートについては、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本の経営の特長と問題点
第6回	組織文化②	国際化・情報化の進展による日本の経営の変容
第7回	事例研究②	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第8回	社会と組織①	技術的進化和制度的変化（第四次産業革命とSDGsの影響）
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第11回	変化と適応①	組織変革を阻む要因（問題解決症候群；有能さの罠）
第12回	変化と適応②	学習忘却（アンラーニング）と越境活動の意味と方法

第13回 事例研究④

「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書（1）『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンズ、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義のリアクションペーパー（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧 twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧 twitter（X）のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) X（旧 twitter）
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

組織マネジメント論Ⅰ

戎谷 梓

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織マネジメントが目指すものは組織の目標達成であり、組織の究極の目標は、新しい価値を創造して組織内外に示すこと、または新規のマーケットを創出することです。これには、個人がクリエイティビティを発揮することやクリティカル・シンキングで物事を捉えること、またチームメンバー同士で互いの能力を引き出し合うことや効果的なプレゼンテーションを行うことなど、複数の具体的なプロセスが含まれます。

この授業では、受講者自身が小さな組織（チーム）においてマネジメントする側・される側を経験しつつ、他者との協力を通じて社会にとって新しい価値となり得る製品やサービスの企画を行います。企画は、文献調査やアンケート調査、インタビュー調査とその結果の分析に基づいて、可能な限り科学的な手法で進めます。また、チームで企画した内容を効果的に伝える方法を検討し、プレゼンテーションします。これらの活動を通して受講者は、組織マネジメントを包括的に、かつアクティブに理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の受講者が目指すゴールは次の3つです：

- (1) 組織マネジメントについて実体験を通して学び、理解を深める。
- (2) 模倣的な調査に基づいて特定のマーケットについての理解を深め、クリエイティビティを発揮しながら新しい価値を生み出す。
- (3) チーム内で生じるシナジー効果を経験しながら、個人では達成できないであろうサービスの企画やプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、チームによるプロジェクト形式で進めます。学期の序盤でチーム作りをし、その後は学期末まで同じチームメンバーと一緒に作業を進めます。学期中は、授業内外の時間にチームで協力してマーケティング調査を準備・実施し、データ分析を行います。その後、分析結果に基づいてサービスの企画を行い、学期末にプレゼンテーションを行います。また受講者は、学期末にプロジェクト期間中を振り返りながらエッセイを執筆します。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前後に随時受け付け、フィードバックを行います。その他にも、メールのやり取りやオフィスアワーを通して対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業や実施するプロジェクトの内容について理解する。 ・プロジェクトを行う上での心構えについて理解する。
第2回	チーム決めとチームビルディング	・プロジェクトを一緒に行うチームメンバーを決定し、アイスブレイキングを行う。 ・次週から開始するプロジェクトに向けて準備を行う。
第3回	コンセプトの決定	・プロジェクトのコンセプトについてチームでブレインストーミングを行う。 ・コンセプトを決定する。
第4回	調査(1)	・ターゲットにするマーケットを決定する。 ・マーケットについて様々な角度から分析する。
第5回	調査(2)	・量的調査の基本について理解する。 ・質問票を準備し、調査の実施方法を決定する。
第6回	分析(1)	・調査を実施してデータ収集を行う。 ・収集したデータを分析する。 ・データから読み取れる情報をわかりやすく整理する。
第7回	分析(2)	・量的分析の基本について理解する。 ・フォローアップ調査の準備を行い、調査の実施方法を決定する。 ・調査を実施してデータ収集を行う。

第8回	分析(3)	・質問票調査とフォローアップ調査を通して得られた有用な情報を整理する。 ・調査の結果をレポートにまとめる。
第9回	サービスの企画(1)	・マーケットのニーズを特定する。 ・マーケットのニーズに基づく革新的な製品またはサービスに関する考えを具体化する。
第10回	サービスの企画(2)	・新規マーケットの開拓方法について考える。 ・チームのアイデアをどのように既存・新規マーケットに向けて発信することが効果的かを考える。
第11回	サービスの企画(3)	・企画内容の発信方法を具体化する。 ・プレゼンテーションの準備をする。
第12回	プロジェクト発表(1)	・チームごとに企画したサービスについて発表する。
第13回	プロジェクト発表(2)	・他のチームの評価を行う。 ・チームごとに企画したサービスについて発表する。
第14回	学期の振り返り	・他のチームの評価を行う。 ・プロジェクト期間中にチームメンバーとどのように協働してきたかを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、プロジェクト期間中には調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均4時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

リフレクションシート（個人）：40%
調査報告書（チーム）：20%
プレゼンテーション（チーム）：20%
リフレクションエッセイ（個人）：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は「組織マネジメント論ⅠⅡ」の関連授業であるため、受講者には「組織マネジメント論ⅠⅡ」も合わせて受講することを推奨します。

【関連科目】

組織マネジメント論ⅠⅡ

【Outline (in English)】

The purpose of organizational management is to achieve the organizational goal. The ultimate goal of an organization should be to create new value and provide it to society and the market or even to create new markets. This involves a variety of processes, including individual creativity and critical thinking, as well as team members drawing on each other's abilities and making effective presentations.

In this course, participants will experience being both the manager and the managed in a small organization (team), and plan a product or service that could be of new value to society through cooperation with others. Planning will be conducted using scientific methods as much as possible, based on literature surveys, questionnaires, interview surveys, and analysis of the results. In addition, the team will consider how to communicate the content of the plan and present it effectively.

The following three goals are intended for participants in this course:

- (1) Learn and deepen their understanding of organizational management through hands-on experience.
- (2) To develop an understanding of a specific market based on simulated research and to create new value through creativity.

(3) Plan and present products and services that would be impossible to achieve individually while experiencing the synergies that arise within a team.

The students are expected to read the materials for each class beforehand and prepare for team-discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each. Students' grades will be based on the following items: reflection sheet (40%), research report (20%), presentation (20%), and reflection essay (20%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

組織マネジメント論Ⅱ

戎谷 梓

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織マネジメントが目指すものは組織の目標達成であり、組織の究極の目標は、新しい価値を創造して組織内外に示すこと、または新規のマーケットを創出することです。これには、個人がクリエイティビティを発揮することやクリティカル・シンキングで物事を捉えること、またチームメンバー同士で互いの能力を引き出し合うことや効果的なプレゼンテーションを行うことなど、複数の具体的なプロセスが含まれます。

この授業では、受講者自身が小さな組織（チーム）においてマネジメントする側・される側を経験しつつ、組織における人的資源管理の面で新しい価値となり得る人材開発プログラムの企画を行います。企画は、文献調査やアンケート調査、インタビュー調査とその結果の分析に基づいて、可能な限り科学的な手法で進めます。また、チームで企画した内容を効果的に伝える方法を検討し、プレゼンテーションします。これらの活動を通して受講者は、組織マネジメントにおいて特に人事管理の分野を包括的に、かつアクティブに理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の受講者が目指すゴールは次の3つです：

- (1) 組織における人的資源管理について実体験を通して学び、理解を深める。
- (2) 調査に基づいて多様な人材開発プログラムについて学び、クリエイティビティを発揮しながら革新的なプログラムを企画する。
- (3) チーム内で生じるシナジー効果を経験しながら、個人では達成できないであろう企画・プレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、チームによるプロジェクト形式で進めます。学期の序盤でチーム作りをし、その後は学期末まで同じチームメンバーと一緒に作業を進めます。学期中は、授業内外の時間にチームで協力して調査を準備・実施し、データ分析を行います。その後、分析結果に基づいて人材開発プログラムの企画を行い、学期末にプレゼンテーションを行います。また受講者は、学期末にプロジェクト期間中を振り返りながらエッセイを執筆します。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前後に随時受け付け、フィードバックを行います。その他にも、メールのやり取りやオフィスアワーを通して対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業や実施するプロジェクトの内容について理解する。 ・プロジェクトを行う上での心構えについて理解する。
第2回	チーム決めとチームビルディング	・プロジェクトと一緒に行うチームメンバーを決定し、アイスブレイキングを行う。 ・次週から開始するプロジェクトに向けて準備を行う。
第3回	コンセプトの決定	・プロジェクトのコンセプトについてチームでブレインストーミングを行う。 ・コンセプトを決定する。
第4回	調査(1)	・ターゲットにする人材開発分野を決定する。 ・当該分野について様々な角度から分析する。
第5回	調査(2)	・質的調査デザインの基本について理解する。 ・質問票を準備し、調査の実施方法を決定する。
第6回	中間発表の準備	・調査を実施してデータ収集を行う。 ・収集したデータを分析する。 ・データから読み取れる情報をわかりやすく整理する。
第7回	中間発表	・プログラムのたたき台を作る。 ・準備したプログラムを試験的に実施する。
第8回	中間発表の振り返り	・参加者から収集した情報をもとにプログラムの改善点を検討する。

第9回	プログラムの改善(1)	・組織の人事部や人材のニーズを特定する。 ・ニーズに基づく革新的なプログラムに関する考えを具体化する。
第10回	プログラムの改善(2)	・プログラムの枠組みを調整する。 ・プログラムのコンテンツを具体化する。
第11回	プログラムの改善(3)	・プログラムの効果的な実施方法を考える。 ・実施のための具体的な準備をする。
第12回	プロジェクト発表(1)	・チームごとに企画したプログラムを実施する。 ・他のチームの評価を行う。
第13回	プロジェクト発表(2)	・チームごとに企画したプログラムを実施する。 ・他のチームの評価を行う。
第14回	学期の振り返り	・プロジェクト期間中にチームメンバーとどのように協働してきたかを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、プロジェクト期間中には調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均4時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

リフレクションシート（個人）：40%
調査報告書（チーム）：20%
プレゼンテーション（チーム）：20%
リフレクションエッセイ（個人）：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は「組織マネジメント論Ⅰ」の関連授業であるため、受講者には、本授業を履修する前に「組織マネジメント論Ⅰ」の履修を済ませておくことを推奨します。

【関連科目】

組織マネジメント論Ⅰ

【Outline (in English)】

The purpose of organizational management is to achieve the organizational goal. The ultimate goal of an organization should be to create new value and provide it to society and the market or even to create new markets. This involves a variety of processes, including individual creativity and critical thinking, as well as team members drawing on each other's abilities and making effective presentations.

In this course, participants will experience being both the manager and the managed in a small organization (team) and plan a human resource development method that can be of new value in terms of human resource management in an organization. The planning will be based on literature review, questionnaires, interview surveys, and analysis of the results, and will be conducted in as scientific a manner as possible. Teams will also consider how to effectively communicate the content of their plans and make presentations. Through these activities, participants will gain a comprehensive and active understanding of the field of human resource management in the organizational management.

The following three goals are intended for participants in this course:

- (1) Learn and deepen understanding of human resource management in organizations through hands-on experience.
- (2) Learn about various human resource development programs based on research and plan innovative programs while exercising creativity.

(3) Experience the synergy effects that occur within a team while planning and presenting projects that would be impossible to accomplish individually.

The students are expected to read the materials for each class beforehand and prepare for team-discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each. Students' grades will be based on the following items: reflection sheet (40%), research report (20%), presentation (20%), and reflection essay (20%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営情報論 I

岸 真理子

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかに ICT やそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今の ICT の劇的な進展は、ICT や情報が、もはや、競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

経営情報論 I では、主に、経営に情報をいかに利活用するか、いわば「情報で経営する」という経営情報論の標準的な切り口から、現象を説明するための基礎となる理論やモデルを学習していきます。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「システムのものの見方」を採用することにより、複雑で混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。つまり、日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉えることで、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題に加え、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても理解する糸口をつかみます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業において、講義を聞く時間と、与えられた課題を考えて、何人かが発表する時間が設定されます。これによって、講義の理解度を教員にフィードバックする機会が確保され、教員と相互作用することが可能になります。また、学生相互の理解度も深まります。

具体的な実施方法については、最初の授業時間で説明されます。学習支援システムの活用は必須となるため、受講を検討している人は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論 I のガイダンス
第2回	経営情報論という学問領域	経営情報論とは
第3回	システムのものの見方	経営情報論の体系的な捉え方
第4回	情報処理システムとしての組織	システムモデルによる組織の捉え方
第5回	経営組織と組織	組織の情報処理と組織論
第6回	組織と意思決定	組織の中核機能としての意思決定
第7回	経営情報と組織の意思決定	事例研究（1）
第8回	組織のコミュニケーション	組織を支えるコミュニケーション
第9回	コミュニケーションとメディア活用	デジタルメディア活用のポイント
第10回	経営情報と組織のコミュニケーション	事例研究（2）
第11回	経営情報と戦略	ICT と競争戦略
第12回	組織と環境	オープン/クローズドな組織戦略
第13回	経営情報と組織間関係	モジュール構造の考え方
第14回	総括	経営情報論 I のまとめ 経営情報論 I の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考教材で関連箇所を何度も学習すると、理解をより深めることができます。また、事例研究で、実際の企業事例を取り上げられるように、各回に関連させた事例分析を心がけていると、学習効果をより高めることができます。

この授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸真理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023 年。

【参考書】

岸真理子・佐藤亮編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2023 年。

【成績評価の方法と基準】

対面授業内で毎回行う小テスト・提出物で 100% 評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で課題について発表する機会をつくることは、他の学生の意見を聞く機会がもてると、とても好評でしたので、今年度も積極的に設ける予定です。また、参考教材の併用も、対面での授業を補足し、理解を深めることができるようなので推奨します。さらに、ゲスト・スピーカーによるスピーチも好評でしたから、できるだけ機会をつくり、実践に直接触れる機会をもてるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC あるいはスマートフォンなど、授業時に Hoppii に入力できるデバイス

【関連科目】

経営組織論 I / II、組織行動論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、情報技術論 I / II、システム管理論 I / II など。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the short reports during each class meeting.

経営情報論 II

岸 真理子

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかに ICT やそれが生み出す多様な大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今の ICT の劇的な進展は、ICT や情報が、もはや、競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

経営情報論 II では、経営に情報をいかに利活用するか、いわば「情報で経営する」という経営情報論の標準的な切り口から現象を説明するための理論やモデルを学習するだけでなく、「情報を経営する」という切り口から日々変化する現象にアプローチし、これを理解することを試みます。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「システムのものの見方」を採用することにより、複雑で混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。つまり、日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉えることで、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題に加え、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業において、講義を聞く時間と、与えられた課題を考えて、何人かが発表する時間が設定されます。これによって、講義の理解度を教員にフィードバックする機会が確保され、教員と相互作用することが可能になります。また、学生相互の理解度も深まります。

具体的な実施方法については、最初の授業時間で説明されます。学習支援システムの活用は必須となるため、受講を検討している人は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論IIのガイダンス
第2回	システムのものの見方	経営情報論の体系的な捉え方
第3回	ICTと組織（1）	技術と組織
第4回	ICTと組織（2）	ICTと組織の相互作用
第5回	ICTと組織変革（1）	ネットワーク・システム
第6回	ICTと組織変革（2）	事例研究（1）
第7回	ナレッジ・マネジメント	組織における知識の創造
第8回	組織知と組織学習	組織知のスパイラルな展開
第9回	ICTと価値創造	価値を生み出すプロセス
第10回	目に見えない情報システムとしての組織文化	組織文化とその機能
第11回	コンピュータの歴史	コンピュータの誕生から
第12回	超スマート社会と情報経営	新しいビジネスモデル
第13回	情報処理システムとしての組織再考	事例研究（2）
第14回	総括	経営情報論IIのまとめ 経営情報論IIの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考教材に関連箇所を何度も学習することで、理解をより深めることができます。また、事例研究で、実際の企業事例を取り上げられるように、各回に関連させた事例分析を心がけていると、学習効果をより高めることができます。

この授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸真理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023年。

【参考書】

岸真理子・佐藤亮編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

対面授業内で毎回行う小テスト・提出物で100%評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で課題について発表する機会をつくることは、他の学生の意見を聞く機会がもてると、とても好評でしたので、今年度も積極的に設ける予定です。また、参考教材の併用も、対面での授業を補足し、理解を深めることができるようなので推奨します。さらに、ゲスト・スピーカーによるスピーチも好評でしたから、できるだけ機会をつくり、実践に直接触れる機会をもてるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PCあるいはスマートフォンなど、授業時にHoppiiに入力できるデバイス

【関連科目】

経営組織論 I / II、組織行動論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、情報技術論 I / II、システム管理論 I / II など。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the short reports during each class meeting.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理 I

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

- 1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2) 人的資源管理の個別の領域のうち、①社員格付け制度、②雇用区分、③採用管理、④要員管理、⑤労働時間管理について学ぶ。
- 3) これら 1) と 2) の学習をうけて、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料を音声解説した映像資料、および穴埋め式スライド資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

小テストについては、WebClass 上で提出後に正しい答えを確認できる仕組みとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理の考え方①：人的資源管理の目的と役割	「人的資源管理 I」の概要、人的資源管理の目的、人的資源管理の基本的な役割、など
第2回	人的資源管理の考え方②：人的資源管理の範囲	人事管理から人的資源管理へ、人的資源管理の意味の広がり、など
第3回	人的資源管理のコンテキスト①：経営戦略と人的資源管理の関係	経営戦略との「ベストフィット」、人的資源管理の「ベストプラクティス」、など
第4回	人的資源管理のコンテキスト②：労使コミュニケーション	労使コミュニケーションの効果、日本企業での労使コミュニケーション、など
第5回	社員格付け制度①：社員格付け制度の機能と条件	社員格付け制度の機能、社員格付け制度の条件、など

第6回	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化と多様性	「成果主義」と社員格付け制度の変化、仕事にもとづく格付けと能力にもとづく格付け、など
第7回	雇用区分①：雇用区分の機能と組み合わせ	雇用区分による社員の位置づけ、2つの「柔軟性」と「柔軟な企業」モデル、など
第8回	雇用区分②：日本企業における「雇用区分型」管理の特徴	日本企業における「雇用区分型」管理の特徴、多様なキャリア志向と雇用区分、「雇用区分型」管理と「個別型」管理、など
第9回	採用管理①：採用計画と採用対象	採用計画、採用対象（新卒採用と中途採用）、など
第10回	採用管理②：人材の募集と選考	人材を募集する、選考プロセスと選考基準、など
第11回	要員管理①：要員計画と要員管理	要員計画の立て方、日本企業の要員計画と要員管理、など
第12回	要員管理②：雇用保障と雇用調整	「終身雇用」と雇用保障、雇用保障と雇用調整、など
第13回	労働時間管理①：労働時間の長さの管理	労働時間の長さの管理、労働時間の長さのワークライフバランス、など
第14回	労働時間管理②：労働時間のタイミングの管理	労働時間のタイミングの管理、労働時間の柔軟性、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理一事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができるので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30 %

期末試験：70 %

小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】**【Course Description】**

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management, (11) employee benefits and (12) diversity management.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (12) in (II).

(III) Students will understand systematically and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

- 1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2) 人的資源管理の個別の領域のうち、①教育訓練、②配置転換、③昇進管理、④人事評価、⑤賃金管理、⑥福利厚生について学ぶ。
- 3) これら 1) と 2) の学習をつうじて、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料を音声解説した映像資料、および穴埋め式スライド資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

小テストについては、WebClass 上で提出後に正しい答えを確認できる仕組みとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第1回	教育訓練①：人材育成の役割	「人的資源管理Ⅱ」の概要、能力の可変性と人材育成、人材育成の多様な役割、など
第2回	教育訓練②：OJTの進め方と促進条件	OJTの進め方、知的熟練と幅広いOJT、OJTを促す条件、など
第3回	教育訓練③：教育訓練の多様な方法と教育訓練投資	Off-JTと自己啓発支援、教育訓練への投資、など
第4回	配置転換①：配置転換の機能と範囲	配置転換の機能、配置転換の範囲、配置転換の範囲、など
第5回	配置転換②：配置転換の決定方法と出向・転籍	配置転換の決定と人事部門の関わり、社員の意向の配置転換への反映、出向と転籍、など
第6回	昇進管理①：昇進・昇格の仕組みと機能	2重のランキング・システム、昇進における選抜の機能、など
第7回	昇進管理②：昇進選抜のタイミングの管理	昇進選抜のタイミング、「遅い」選抜の合理性、日本企業における昇進選抜の変化、など

第8回	人事評価①：人事評価の機能と評価方法	個別管理の手段としての人事評価、絶対評価法と相対評価法、など
第9回	人事評価②：人事評価制度の設計	評価要素の選択と組み合わせ、「成果主義」と目標管理制度、人事評価制度の設計と運用、など
第10回	賃金管理①：賃金水準の設定と人件費	人材確保と賃金相場、賃金と人件費、賃金の構成要素、など
第11回	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	総額賃金管理と総額人件費管理、個別賃金管理と賃金制度、など
第12回	賃金管理③：雇用関係と賃金制度	雇用関係の性格、雇用関係と賃金制度、賃金の「決め方」と「上がり方」、など
第13回	福利厚生①：法定福利と法定外福利	法定福利と法定外福利、法定外福利の多様な施策、など
第14回	福利厚生②：法定外福利・退職金・企業年金の機能	法定外福利の効果と課題、退職金と企業年金、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができるので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course Description】

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management and (11) employee benefits.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (11) in (II).

(III) Students will understand systematically and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

財務会計論Ⅰ

齋藤 真哉

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が外部の利害関係者に伝達する会計情報が基礎とする思考及び基準、並びに会計が果たす社会的役割について学ぶ。会計情報により、企業の実態（財務状況や業績等）を知ることができる。そのため、会計情報に関わる知識は、将来、企業等の組織で働く者にとっても、投資活動を行う者にとっても、不可欠な知識であると言える。財務会計論Ⅰでは、特に会計情報に関わる基礎的な思考を中心に学ぶ。そこで、本授業の目的は、会計情報に関する理論的枠組みを体系的に理解することである。

【到達目標】

- ・会計情報作成の基礎となる財務会計の諸概念を理解し、他者に説明ができること。
- ・企業会計制度の社会的役割を理解し、他者に説明ができること。
- ・会計情報作成のための基本的な会計処理を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「法学」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により、原則として対面により授業を実施する。オンライン（オンデマンドを含む。）により実施する場合があるが、その場合は事前に告知する。

授業は、教員が作成するレジュメ（スライド形式）を利用し、併せてテキストの内容を確認しながら進める。

授業中に、小テストを数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (オンデマンド方式により実施。学務のシステムを通して、アクセス情報を提供します。)	・授業の目的や内容、評価方法等についての説明 ・上記に関連して、財務会計の領域に関する説明
第2回	財務会計の基礎概念	・財務会計の仕組み ・財務会計の目的と機能 ・会計公準 ・会計主体
第3回	企業会計制度と会計基準	・企業会計をめぐる法規制 ・会社法会計 ・金融商品取引法会計 ・税務会計
第4回	資産会計総論	・企業会計におけるキャッシュフロー制約 ・資産の定義等 ・資産の分類と評価
第5回	流動資産	・現金・預金の会計処理 ・金銭債権の会計処理 ・有価証券の会計処理

第6回	棚卸資産	・棚卸資産の内容 ・棚卸資産の取得原価 ・棚卸資産の費用化 ・棚卸資産の期末評価
第7回	固定資産（1）	・固定資産の分類 ・有形固定資産の取得原価 ・有形固定資産の費用化（減価償却）
第8回	固定資産（2） (繰延資産を含む)	・無形固定資産の内容 ・無形固定資産の取得原価 ・無形固定資産の費用化 ・投資不動産 ・繰延資産
第9回	負債	・負債の分類 ・引当金 ・偶発債務
第10回	純資産（1）	・純資産の内容 ・株主資本の増減 ・自己株式 ・剰余金の分配制限
第11回	純資産（2）	・その他の純資産項目 ・評価・換算差額等 ・株式引受権 ・新株予約権
第12回	収益と費用	・収益と費用の意義 ・収益と費用の計算基準 ・顧客との契約による収益の認識 ・時間基準
第13回	財務諸表	・財務諸表の体系 ・貸借対照表の表示 ・損益計算書の表示 ・キャッシュ・フロー計算書の表示
第14回	企業会計をめぐる日本の現状	・株主資本等変動計算書の表示 ・日本における会計基準の整備状況 ・会計基準の国際化 ・サステナビリティ情報の開示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に該当するテキストの章については、事前に提示しますので、事前に読んで、理解に努めること。そして授業での説明を踏まえて、授業の内容をテキストや授業中に提示された参考書等を利用して、自らの理解を深めるようにすること。本授業では、準備学習 1.5 時間、復習 2.5 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

・佐藤信彦他編著『スタンダードテキスト 財務会計論Ⅰ 基本論点編 第19版』中央経済社、2026年。（2026年4月発刊予定の第19版（最新版）を使用する。）

【参考書】

・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年
・伊藤邦雄『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞社、2024年
・斎藤静樹『企業会計とディスクロージャー 第4版』東京大学出版会、2010年
・齋藤真哉『現代の会計』放送大学教育振興会、2020年

【成績評価の方法と基準】

評価は、次の2点に基づいて評価する。
①授業中に実施する小テスト（約30％）
②期末試験（約70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインによる回がありますので、その視聴を可能とするPC等を用意してください。
- ・配布レジュメには受講者が記入するための空欄があります。
デジタル情報に直接記入する場合は、タブレット等を授業に持参してください。
- ・もちろんプリントアウトして持参していただいても問題ありません。

【その他の重要事項】

簿記入門Ⅰ・Ⅱ及び会計学入門Ⅰ・Ⅱを履修していることを前提とした授業内容となっています。

【関連科目】

- ・簿記入門Ⅰ・Ⅱ
- ・会計学入門Ⅰ・Ⅱ
- ・国際会計論Ⅰ・Ⅱ
- ・税務会計論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) Students will learn the fundamental principles and standards underlying the accounting information companies communicate to external stakeholders, as well as the social role of accounting. Accounting information enables understanding of a company's actual state (financial position, performance, etc.). Therefore, knowledge related to accounting information is essential for both those who will work in organizations such as companies in the future and those who engage in investment activities. Financial Accounting I focuses particularly on learning the fundamental principles related to accounting information.

(Learning Objectives)

The objective of this course is to systematically understand the theoretical framework concerning accounting information.

(Learning activities outside of classroom)

Chapters in the textbook corresponding to the course content will be announced in advance. Students are expected to read these chapters beforehand and strive for understanding. Building upon the explanations given in class, students should deepen their understanding by utilizing the textbook and any reference materials presented during class. This course assumes a standard preparation time of 1.5 hours and a review time of 2.5 hours.

(Grading Criteria /Policy)

Grading is based on the following two components:

- ① In-class quizzes (approximately 30%)
- ② Final exam (approximately 70%)

MAN300FB（経営学 / Management 300）

財務会計論 II

齋藤 真哉

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が外部の利害関係者に伝達する会計情報が基礎とする思考及び基準、並びに会計が果たす社会的役割について学ぶ。会計情報により、企業の実態（財務状況や業績等）を知ることができる。そのため、会計情報に関わる知識は、将来、企業等の組織で働く者にとっても、投資活動を行う者にとっても、不可欠な知識であると言える。財務会計論 II では、特に会計情報作成に関わる会計処理を学び、会計基準間の整合性について検討する。そこで、本授業の目的は、会計情報作成に関わる個別の会計処理を習得するとともに、整合性かつ有用な会計情報について検討することである。

【到達目標】

- ・重要な経済事象について、その会計処理を習得し、他者に説明できること
- ・個々の事象に係る会計処理間での整合性について検討できること
- ・概念フレームワークについて、理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「法学」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義講義形式により、原則として対面で実施する。ただしオンラインにより実施する場合がある。その場合は事前に告知する。授業は、教員が作成するレジュメ（スライド形式）を利用し、併せてテキストの内容を確認しながら進める。なお、授業中に、小テストを数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と目的、進め方、評価方法についての説明
第2回	金融商品	・金融資産と金融負債 ・金融商品の発生 ・金融商品の消滅 ・金融商品の期末評価
第3回	デリバティブ	・デリバティブ取引の意義と目的 ・代表的デリバティブ取引と会計処理 ・ヘッジ会計
第4回	リース	・リースの意義 ・リースの識別 ・借手の会計処理 ・貸手の会計処理 ・リース・バック等の会計処理
第5回	固定資産の減損	・固定資産の減損の意義 ・減損の兆候 ・減損の認識 ・減損損失の測定 ・減損と減価償却の関係

第6回	研究開発費とソフトウェア	・研究開発費の意義 ・研究開発費の会計処理 ・ソフトウェアの意義 ・ソフトウェアの会計処理
第7回	退職給付	・企業退職年金制度 ・退職給付の概念 ・退職給付債務の算定 ・退職給付に係る負債（退職給付引当金）の算定
第8回	株式引受権・新株予約権	・株式引受権制度 ・株式引受権の会計処理 ・新株予約権の会計処理 （ストック・オプションの会計処理を含む。）
第9回	法人税等	・法人税等の範囲 ・税効果会計の考え方 ・一時差異等の把握 ・税効果額の算定 ・税効果額の勘定処理と財務諸表表示
第10回	企業結合	・繰延税金の期末評価 ・企業結合の意義と分類 （狭義の）企業結合に係る会計処理
第11回	収益認識（1）	・のれんの会計処理 ・株式交換等の会計処理 ・顧客との契約から生じる収益の認識に関する基本的考え方と5つのステップ
第12回	収益認識（2）	・履行義務の識別 ・取引価格の算定 ・取引価格の配分 ・収益の認識 ・特殊な取引における収益認識
第13回	概念フレームワーク（1）	・概念フレームワークの必要性 ・財務報告の目的 ・会計情報の質的特性
第14回	概念フレームワーク（2）	・財務諸表の構成要素 ・認識と測定 ・IASBの概念フレームワークの概要と日本との相違

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に該当するテキストの章については、事前に提示しますので、事前に読んで、理解に努めること。そして授業での説明を踏まえて、授業の内容をテキストや授業中に提示された参考書等を利用して、自らの理解を深めるようにすること。本授業では、準備学習1.5時間、復習2.5時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

・佐藤信彦他編著『スタンダードテキスト 財務会計論 II 応用論点編 第19版』中央経済社、2026年。
・佐藤信彦他編著『スタンダードテキスト 財務会計論 I 基本論点編 第19版』中央経済社、2026年。（概念フレームワークについて使用。）

【参考書】

・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年
・伊藤邦雄『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞社、2024年
・斎藤静樹『企業会計とディスクロージャー 第4版』東京大学出版会、2010年
・齋藤真哉『現代の会計』放送大学教育振興会、2020年

【成績評価の方法と基準】

評価は、次の2点に基づいて評価する。

①授業中に実施する小テスト（約30％）

②期末試験（約70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

【学生が準備すべき機器他】

・オンラインによる回がありますので、その視聴を可能とするPC等を用意してください。

・配布レジュメには受講者が記入するための空欄があります。

デジタル情報に直接記入する場合は、タブレット等を授業に持参してください。

もちろんプリントアウトして持参していただいても問題ありません。

【その他の重要事項】

簿記入門Ⅰ・Ⅱ及び会計学入門Ⅰ・Ⅱ、並びに財務会計論Ⅰを履修していることを前提とした内容となります。

授業内容及び指定したテキストで不明な点や疑問が生じた場合には、必ず、次の授業開始前または終了後に質問すること。

【関連科目】

- ・簿記入門Ⅰ・Ⅱ
- ・会計学入門Ⅰ・Ⅱ
- ・国際会計論Ⅰ・Ⅱ
- ・税務会計論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will learn about the underlying principles and standards of the accounting information communicated by companies to external stakeholders, as well as the social role fulfilled by accounting. Accounting information enables an understanding of a company's actual state (such as its financial position and performance). Therefore, knowledge concerning accounting information is essential for both those who will work in organisations such as companies in the future and those who engage in investment activities. Financial Accounting II focuses particularly on the accounting treatments of individual events for the purpose of preparing accounting information.

(Learning Objectives)

The objective of this course is to acquire knowledge of accounting treatments involved in the preparation of accounting information, while also examining the consistency and usefulness of such information.

(Learning activities outside of classroom)

The relevant chapters in the textbook corresponding to the course content will be provided in advance. Students should read these beforehand and endeavour to understand them. Furthermore, building upon the explanations given in class, students should deepen their own understanding by utilising the textbook and any reference materials presented during the lectures. For this course, the standard study time is 1.5 hours for preparatory learning and 2.5 hours for review.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be based on the following two components:

- ① In-class quizzes (approximately 30%)
- ② Final examination (approximately 70%)

MAN300FB（経営学 / Management 300）

監査論Ⅰ

小澤 康裕

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計監査（財務諸表監査）とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査のプロセス全般を対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。

本講義の目的は、受講者が保証業務を含む会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解を深めることである。

【到達目標】

受講者が、会計監査の目的や内容等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」、「法律」、「数学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。本講義では、監査のプロセスを説明することはもちろん、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。したがって、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。

この授業は個々人の発言を求め、インタラクティブに行われる。また、必要に応じて動画を用いる。

また、課題等に対するフィードバックとして、講義内において解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・監査とは何か	講義全体の概要や受講のルールを説明し、「監査」についての初歩的な理解を促す。
第2回	会計監査と財務諸表の虚偽表示	会計監査と財務諸表の虚偽表示との関係について説明する。
第3回	監査のニーズ	監査には自発的なニーズが存在することを解説する。
第4回	監査人としての公認会計士・監査法人	公認会計士とは何か、また、監査法人とはどのようなものかを説明する。
第5回	監査人の責任	監査人に課されている責任とはどのようなものかを解説する。
第6回	監査の品質管理	監査の質を担保するためにどのような方法があり、実施されているのかを説明する。
第7回	監査基準	監査基準のうち、主に一般基準について解説する。
第8回	監査戦略	「戦略的に監査を実施する」とはということかを説明する。
第9回	監査リスク・アプローチ	現在の監査方法の基本である「監査リスク・アプローチ」について解説する。

第10回	事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ	「事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ」とはどのようなものかについて説明する。
第11回	監査計画と監査上の重要性	「監査計画」と「重要性」について解説する。
第12回	サンプリングと監査手続	サンプリングとは何か、また、監査手続にはどのようなものが存在するかについて説明する。
第13回	分析の手続	分析の手続とは何か、また、その具体的な手法について演習問題を用いて解説する。
第14回	まとめと振り返り	監査論Ⅰの授業全体のまとめと振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。復習は必須である。

レポート（1回以上）の提出を求める。

また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際、受講者を指名して回答を求めるので、回答できるように前回の復習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回の授業で説明する。

山浦久司『監査論テキスト』（中央経済社）（最新版）

※旧版は、基準等が改正されていて内容が異なるので、最新版を購入すること。

【参考書】

亀岡恵理子, 福川裕徳, 永見尊, 烏羽至英『財務諸表監査 第3版』（国元書房）

林隆敏（編著）『財務諸表監査の基礎概念』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-レポート：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう協力してください。

【学生が準備すべき機器他】

一部、オンラインで学習支援システムを用いて、動画の視聴やレポートの提出を求めるため、パソコン等の機器が必要となる。

【その他の重要事項】

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【Outline (in English)】

• Outline and objectives

Financial statement audit (audit of financial statements) is the act of an auditor expressing an opinion from a professional perspective on the fairness (correctness or otherwise) of the financial statements published by an entity. This lecture covers the entire auditing process. It also emphasizes the latest topics, such as internal control of companies and window dressing cases, and includes case studies.

This course aims to enable participants to acquire a basic knowledge of the purpose, significance, and content of financial auditing, including assurance engagements, and to deepen their understanding of the importance of the role of auditing.

• Learning activities outside of classroom

As preparatory learning, students may be asked to watch a video. Review is compulsory.

Students are required to submit reports (at least once).

In addition, at the beginning of each session, a handout is used to review the previous session. The students will be nominated and asked to answer the questions, so the students should review the previous lesson so that they can answer the questions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

• Grading Criteria /Policy

The following distribution of grades will be given.

-Report: 20%.

-Final exam: 80%.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

監査論Ⅱ

小澤 康裕

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表監査の制度論および報告論の領域ならびに内部統制等について解説し、これらの基礎的な考え方を理解することを目的とする。

【到達目標】

学生が、財務諸表監査の制度の枠組みや監査報告書の内容、内部統制ならびに不正会計等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解することを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」、「法律」、「数学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。財務諸表監査とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査の結果を報告する監査報告書、監査制度、監査の歴史等を主たる対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。そのため、本講義では、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、現在、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。

この授業では必要に応じて動画を用いる。

また、課題等に対するフィードバックとして、講義内において解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方、評価方法等について説明する。また、監査意見とは何か、その概略を解説する。
第2回	監査の実施に係る制約事項と監査意見	監査の実施に係る制約事項と監査意見の関係について解説する。
第3回	財務諸表中の不公正事項と監査意見	財務諸表中の不公正事項と監査意見の関係、GC等について解説する。
第4回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法監査制度について解説する。
第5回	半期報告書と期中レビュー	半期報告書制度と期中レビューについて解説する。
第6回	会社機構と監査制度・会計監査人	会社機構と監査制度ならびに会計監査人について説明する。
第7回	不正と内部統制	様々な不正とそれに対応する内部統制について簡単に説明し、内部統制について理解を促す。
第8回	内部統制の基本的要素 1	内部統制の基本的要素について解説する。
第9回	内部統制の基本的要素 2・内部統制の限界	前回到続いて、内部統制の基本的要素について解説し、あわせて、内部統制の限界についても説明する。

第10回	内部統制の監査・監査の歴史	内部統制の監査について簡単に説明した後、監査の歴史を概観する。
第11回	粉飾決算の方法と事例	粉飾決算の方法と事例について説明する。
第12回	AIと会計・監査	人工知能技術の発展と会計・監査への影響について解説する。
第13回	KAM、不正会計の具体例	監査上の主要な検討事項（KAM）の概要、数値を用いた不正会計の具体例を説明し、監査の意義を再確認する。
第14回	振り返り	監査論Ⅱ全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。復習は必須である。

レポート（1回以上）の提出を求める。

また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際、受講者を指名して回答を求めるので、回答できるように前回の復習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回の授業で説明する。

山浦久司『監査論テキスト』（中央経済社）（最新版）

※旧版は、基準等が改正されていて内容が異なるので、最新版を購入すること。

【参考書】

亀岡恵理子、福川裕徳、永見尊、鳥羽至英『財務諸表監査』（第3版）（国元書房）

林隆敏（編著）『財務諸表監査の基礎概念』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-レポート：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう協力してください。

【学生が準備すべき機器他】

一部、オンラインで学習支援システムを用いて、動画の視聴やレポートの提出を求めるため、パソコン等の機器が必要となる。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

・ Learning Objectives)

This course aims to explain the areas of institutional and reporting theory of financial statement auditing, as well as internal control and other aspects, and to provide an understanding of the basic concepts of these areas.

・ Learning activities outside of classroom

As preparatory learning, students may be asked to watch a video. Review is compulsory.

Students are required to submit reports (at least once).

In addition, at the beginning of each session, a handout is used to review the previous session. The students will be nominated and asked to answer the questions, so the students should review the previous lesson so that they can answer the questions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ Grading Criteria /Policy

The following distribution of grades will be given.

-Report: 20%.

-Final exam: 80%

MAN300FB（経営学 / Management 300）

税務会計論Ⅰ

藤井 誠

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識の習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業の論点との関連に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。

国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法における出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅰでは、基本論点を中心に学習する。

【到達目標】

税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。

ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。

税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。

学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。課題等に対するフィードバックとして、次の回の講義冒頭または LMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび条文の読み方	講義の概要説明を行い、法人税法の読み方の基礎を学習する。
第2回	法人税の概要	法人税の種類および性質、法体系構造を学習する。
第3回	法人税の税率構造	法人税の税率構造と実効税率について学習する。
第4回	所得計算の通則①	課税所得計算における「益金」「損金」の意味と所得計算の基本構造を学習する。
第5回	所得計算の通則②	公正処理基準、資本等取引について学習する。
第6回	税務会計の一巡	所得計算および税額計算の一巡の流れを学習する。
第7回	法人概念と受取配当等の益金不算入制度	法人税法における「法人観」とそれに基づく所得概念を学習する。
第8回	所得税額控除制度、外国税額控除制度	所得税や外国法人税に関係する二重課税調整について学習する。
第9回	棚卸資産、有価証券	棚卸資産および有価証券の課税関係について学習する。
第10回	減価償却資産	減価償却の対象となる資産の課税関係について学習する。
第11回	圧縮記帳制度	法人税法および租税特別措置法に規定されている圧縮記帳制度について学習する。
第12回	同族会社関連規定	同族会社の定義および関連規定について学習する。
第13回	寄附金および交際費	寄附金および交際費の損金不算入制度について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じて PowerPoint のスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。

坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するための PC またはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4 サイズの PDF をスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。

「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate issues as necessary.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

税務会計論Ⅱ

藤井 誠

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識を習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業会計の論点との関連に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法における出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅱでは、応用論点を中心に学習する。

【到達目標】

税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。

ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。

税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。

学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。

また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしている。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS (Hoppii) において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと税務貸借対照表	講義の概要説明を行い、税務貸借対照表の存在意義とその構造について学習する。
第2回	給与、租税公課	給与および租税公課に関する課税関係について学習する。
第3回	貸倒損失、引当金	貸倒損失と法人税法上の引当金について学習する。
第4回	移転価格税制	移転価格を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第5回	過少資本税制	過少資本を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第6回	タックス・ヘイブン税制	タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第7回	株式交換・株式移転	株式交換や株式移転が行われた場合の課税関係を学習する。
第8回	企業組織再編税制	合併や分割等の企業組織再編税制を学習する。
第9回	グループ法人通算税制	親子会社等の企業集団課税について学習する。
第10回	グループ法人税制	親子会社間の内部取引に関わる課税関係について学習する。
第11回	収益認識と益金の関係	企業会計における収益認識基準と税務会計における益金との関係について学習する。
第12回	繰延資産、リース取引、外貨建取引	法人税法上の繰延資産、リース取引、外貨建取引の課税関係について学習する。
第13回	ヘッジ取引	ヘッジ取引の課税関係について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧める。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDF ファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。

坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。

「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate accounting topic as necessary.

In relation to national examinations, the course will mainly deal with topics that appear in the Corporate Tax Law of the Tax Accountant Examination and the Tax Law of the Certified Public Accountant Examination. Of these, Tax Accounting Theory II will focus on applied topics.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

管理会計論 I

北田 皓嗣

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

- Mid-term exam (10%), final exam (90%)

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを YouTube で配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答して、解説を確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費1	固定費と変動費、貢献利益
第3回	固定費と変動費2	損益分岐点
第4回	固定費と変動費3	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費4	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費5	セールズミックス
第7回	固定費と変動費6	固定分解
第8回	マネジメントコントロールシステム1	PDCA サイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム2	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム3	4つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム4	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画1	計画の種類
第13回	経営計画2	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画3	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

中間試験(10%)

期末試験(90%)

授業形式、中間試験はオンデマンドですが、期末試験は大学で実施することを予定しております。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

管理会計論 II

北田 皓嗣

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答して、解説を参照するようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基本	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター、プロフィットセンター
第3回	事業部制組織の管理会計 1	事業部の業績評価、内部振替価格、事業部の利益概念
第4回	事業部制組織の管理会計 2	ROCE, RI, 本社費・共通費の配賦
第5回	バランスド・スコアカード (BSC)	4つの視点
第6回	コストマネジメント 1	原価計算の考え方
第7回	コストマネジメント 2	ABCとABM
第8回	コストマネジメント 3	原価企画
第9回	コストマネジメント 4	原価維持、原価低減
第10回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第11回	CSR 2	CSRマネジメントの基礎
第12回	ESG投資	環境、社会、ガバナンスを考慮した投資活動
第13回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第14回	MFCA（マテリアルフローコスト会計）	資源生産性の管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

中間試験(10%)

期末試験(90%)

授業、中間試験はオンデマンドですが、期末試験は大学で実施することを予定しております。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Mid-term exam (10%), final exam (90%)

MAN300FB（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅰ

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業 / Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品一単位当たりの製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは、大きく費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算から構成されています。原価計算論Ⅰでは、これらの原価計算の一連の手続きについて理解することを目的とします。また、その前提として、これから原価計算論を学習する上で必要とされる基本的な用語および諸概念を理解し、それらの用語や諸概念をできるだけ自分の言葉を使って説明することができることを目的とします。また、原価計算の諸手続きの背後にある理論的な意味を説明できることを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅰの到達目標は次の3点です。第1に、原価計算に関連した基本的な用語や概念を自分の言葉で簡潔に説明できる。第2に、原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解し、その意味を説明できること。第3に、これらの理解に基づき、原価計算の基本的な計算問題また中級程度の計算問題、および理論的な問題を自分の力で解けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅰは、対面、また授業回の特徴に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。

授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて、原価計算の一連の手続き、およびその背後にある理論の説明を行います。また、授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い、原価計算の概念やその計算方法を確認します。さらに、計算問題を解いてみることで理解を深めます。授業内また授業後に確認および応用問題を課題として出すこともありますので、必ず自分の力で問題を解いてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所、また応用問題については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要および原価計算の必要性について	本授業の目的、内容また授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。また、なぜ企業にとって原価計算が必要とされるのかを説明します。
第2回	原価計算の諸目的と基本的な諸概念	原価計算基準に基づき、原価計算の諸目的および原価の一般概念について説明する。また、これから原価計算を学習する上で必要とされる重要な原価分類について紹介する。
第3回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。
第4回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を問題演習を交えながら、説明する。
第5回	材料費、労務費の計算に関わる重要な論点の復習と問題演習	材料費と労務費に関する重要なポイントのまとめとそれらに関連した問題演習を中心に行う。
第6回	製造間接費の意味およびその配賦方法	製造間接費の意味およびその配賦の必要性について説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第7回	製造間接費に関する補足とその問題演習	製造間接費の差異分析についての補足説明を行なったのちに、問題演習を行う。
第8回	個別原価計算	個別原価計算が適する生産形態およびその計算プロセスを詳しく説明する。
第9回	折り紙を使用した模擬生産とその結果に基づく個別原価計算表の作成	折り紙による模擬生産を行ってもらい、各自で個別原価計算表を作成する。

第10回	部門別原価計算の計算手続き	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に、部門別原価計算を行う意義およびその計算手続きについて説明する。
第11回	部門別原価計算の補足とその問題演習	部門別原価計算の一連の計算手続きを確認するとともに、問題演習を行う。
第12回	総合原価計算の意義および仕掛品の評価方法について	総合原価計算の意義を個別原価計算との比較で明らかにした後、仕掛品評価方法について説明する。
第13回	総合原価計算の問題演習	総合原価計算における仕掛品評価の平均法と先入先出法についての問題演習を行う。
第14回	工程別総合原価計算について	工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続きについて説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受ける前に、またはオンデマンドの教材を視聴する前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、授業支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいください。さらに、テキストの例題を自分なりに解き、わからない箇所を明確にした上で、対面またオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて、授業内また授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年(2,640円)

【参考書】

参考文献や自主学習に役立つと文献を講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅰの評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお、成績評価の配分は期末テスト70％、授業中また授業後の課題の提出30％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では、初学者を対象に基礎的なところから説明を行いたいと思います。その上で、発展的な問題についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

【その他の重要事項】

関連科目として管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting. For accomplishing this objective, students need to understand the basic terms and concepts, and to be able to explain these terms in their own words. In addition to these, the objective of this module is to help students to be able to explain the theories behind these procedures.

The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅱ

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが提供する原価情報が、企業内での原価管理および短期利益計画といった経営管理目的に果たす役割を理解することを目的とします。また、アメリカにおいて1980年代に実務の観察に基づいて提唱されたActivity-Based Costingの計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を、伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には、以下の点を目標とします。第1に、標準原価計算や直接原価計算およびCVP分析が提供する原価情報の経営管理目的での役立ちについて、自分の言葉で説明できること。第2に、製造間接費の配賦に関連したActivity-Based Costingの基本的なメカニズムを伝統的な配賦方法と比較して、その違いを自分の言葉で明確に説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは対面または授業回の特性に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。

授業では、狭義の原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびにCVP分析、さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことでActivity-Based Costingのメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために、折り紙を使用した模擬生産を行う予定です。また、必要に応じて授業中または授業終了後に課題を提示しますので、必ず自分の力で問題を解いてみてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所、また応用問題については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要紹介およびコスト・マネジメントの概要	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明するとともに、コスト・マネジメントの技法の一つである原価企画について紹介する。
第2回	標準原価計算の意義および原価標準の設定	標準原価計算の意義とその目的および原価標準の設定方法について説明する。
第3回	標準原価計算における原価差異分析（製造直接費を中心に）	製造直接費の原価差異分析の方法とその意味を説明する。
第4回	折り紙を使用した模擬生産とそれに基づく原価差異分析	折り紙を使った模擬生産を行い、標準原価による原価管理の一連の手続きについて、そのデータに基づいて、実施してみる
第5回	標準原価計算における原価差異分析（製造間接費を中心に）	製造間接費の原価差異分析の方法、特に四分法を中心に説明する。
第6回	原価差異分析に関する復習とその問題演習	標準原価計算における原価差異分析の補足説明を行うとともに、問題演習を行う。
第7回	CVP分析の意義	CVP分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第8回	コスト・ビヘイビアの分析手法	原価の固定分解の方法を説明するとともに、その問題演習を行う。
第9回	CVP分析の問題演習	CVP分析に関する問題の振り返りとその問題演習を行う。
第10回	直接原価計算の意義と損益計算書の作成	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。

第11回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。
第12回	直接原価計算の重要な論点の振り返りと問題演習	直接原価計算の計算プロセスの確認と問題演習を行う。
第13回	ABCの基礎的な概念と伝統的な製造間接費の配賦計算との比較	ABCの概念を説明するとともに、伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。
第14回	ABCの計算例または事例	ABCの事例に基づいて、実際の計算プロセスを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受けるまたはオンデマンドの教材を見る前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして対面またはオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて、授業内または授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年（2400円税別）

【参考書】

参考文献または自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅱの成績評価は、期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト70％、課題または宿題の提出30％とします。

【学生の意見等からの気づき】

折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算の実施方法が体感できる方法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

【Outline (in English)】

The objective of Cost Accounting II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning within companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.

In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

国際会計論 I

赤城 諭士

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計は多国籍企業の展開を背景に発展してきた企業会計の領域です。その主要な研究課題としては、各国の企業会計制度の比較研究と会計基準のコンバージェンス（国際的収斂）があります。国際会計論 I では主に会計基準のコンバージェンスを取り上げ、国際会計基準審議会（IASB）の成立と国際財務報告基準（IFRS）への各国の対応についてみていきます。また、IFRS の基本的な考え方を理解するため、IASB の概念フレームワークについても取り上げる予定です。

【到達目標】

会計基準のコンバージェンス（国際的収斂）の意味を理解し、これまでの展開を説明できるようになる。また、国際会計基準審議会（IASB）の公表した概念フレームワークを通じて、国際財務報告基準（IFRS）の基本的な考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。パワーポイントを用いて説明し、適宜、問題演習を行うことで理解度を確認します。問題演習後は解答を配布し、理解しておくべき内容や間違いやすいポイントについて解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、国際会計の概要説明
第2回	多国籍企業の出現と国際会計	国際会計論が生まれた背景と課題について
第3回	1970 年代の状況	1970 年代における各国財務諸表の比較
第4回	企業会計制度の類型化	大陸型会計と英米型会計
第5回	会計基準の国際的調和と限界	国際会計基準委員会の創設と限界
第6回	会計基準のコンバージェンス（国際的収斂）①	国際会計基準審議会の設立
第7回	会計基準のコンバージェンス（国際的収斂）②	国際財務報告基準（IFRS）に対する欧州、米国、日本の対応
第8回	概念フレームワーク①	IFRS の基礎的特徴と財務報告の目的
第9回	概念フレームワーク②	有用な財務情報の質的特徴
第10回	概念フレームワーク③	財務諸表と報告企業、財務諸表の構成要素
第11回	概念フレームワーク④	認識および認識の中止、測定
第12回	概念フレームワーク⑤	表示と開示、資本と資本維持概念
第13回	財務諸表の表示	財務諸表の体系、各財務諸表の内容
第14回	試験・まとめと解説	これまでの学習内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関連する文献で予習し、講義後には配布資料を読み直すこと。また、授業で実施した問題を復習すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

橋本尚・山田善隆著『IFRS 会計学基本テキスト（第8版）』中央経済社（2022 年）。森川 八洲男著『国際会計論』白桃書房（2015 年）、向 伊知郎著『ベーシック国際会計（第3版）』中央経済社（2019 年）、

【成績評価の方法と基準】

第14回の授業にて実施する試験（100 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、授業で使用する説明資料と問題のデータを Web で配信し、印刷物は配布しなかった。そのため、問題を解く際、説明資料と問題の2つのファイルを開いて解答する学生が多く見受けられ、またスマートフォンしか持参していない学生は2つを同時に開くことができずに苦勞しているようだった。そのため、今年度は問題については印刷・配布し、学生が内容理解に集中できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を使用することがあります。

【その他の重要事項】

会計学入門 I / II を履修していることが望ましい。財務会計論 I / II を並行履修することが望ましい。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces harmonization efforts of accounting standards, creation of the IASB, and IASB's conceptual framework to students taking this course.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand the meaning of convergence of accounting standards, be able to explain the developments to date, and acquire the basic concepts of International Financial Reporting Standards (IFRS).

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read the literature related to the class theme in advance, and to reread the handouts after the lecture. In addition, students should review the problems conducted in class. Your study time will be more than four.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the examination (100%) to be given in the 14th class.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

国際会計論Ⅱ

赤城 諭士

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計論Ⅱでは、会計基準のコンバージェンス（国際的収斂）を経てグローバル・スタンダードとなった国際財務報告基準（IFRS）を取り上げます。具体的には、財務諸表の作成にとって重要となる収益の認識、資産・負債項目の会計処理について、日本の会計基準と比較しながら説明していきます。

【到達目標】

国際財務報告基準にしたがって基本的な会計処理を行うことができるようになる。また、国際財務報告基準と日本の会計基準の違いについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。パワーポイントを用いて説明し、適宜、問題演習を行うことで理解度を確認します。問題演習後は解答を配布し、理解しておくべき内容や間違いやすいポイントについて解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、国際財務報告基準の基本思考（概念フレームワーク等）
第2回	収益認識の会計①	基本原則、顧客との契約の識別（第1ステップ）と履行義務の識別（第2ステップ）
第3回	収益認識の会計②	取引価格の算定（第3ステップ）、履行義務への配分（第4ステップ）
第4回	収益認識の会計③	収益の認識（第5ステップ）：一定時点での認識一定期間での認識
第5回	棚卸資産の会計	棚卸資産の範囲、測定（取得原価の決定と原価算定方法）、期末評価
第6回	有形固定資産の会計	有形固定資産の定義、認識規準、測定
第7回	無形資産の会計	無形資産の定義、認識規準、測定
第8回	減損の会計	減損処理のフローチャートにしたがった処理、減損損失の戻し入れ
第9回	リースの会計①	リースの識別、借り手の会計処理
第10回	リースの会計②	貸し手の会計処理
第11回	金融商品の会計	金融商品の定義、認識、測定
第12回	引当金の会計	引当金の意味、認識、測定
第13回	退職後給付の会計	退職給付の意味、退職後給付制度の分類、確定給付制度の下での会計処理
第14回	試験・まとめと解説	これまでの学習内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関連する文献で予習し、講義後には配布資料を読み直すこと。また、授業で実施した問題を復習すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋本尚・山田善隆著『IFRS 会計学基本テキスト（第8版）』中央経済社（2025年）税込3,960円。

【参考書】

秋葉賢一著『エッセンシャルIFRS（第8版）』中央経済社（2025年）。
西川郁生編著『国際会計論 15講』新世社（2024年）、平松一夫監修『IFRS 国際会計基準の基礎（第6版）』中央経済社（2020年）、森川八洲男著『国際会計論』白桃書房（2015年）、向 伊知郎著『ベーシック国際会計（第3版）』中央経済社（2025年）。

【成績評価の方法と基準】

第14回の授業にて実施する試験（100％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、授業で使用する説明資料と問題のデータをWebで配信し、印刷物は配布しなかった。そのため、問題を解く際、説明資料と問題の2つのファイルを開いて解答する学生が多く見受けられ、またスマートフォンしか持参していない学生は2つを同時に開くことができずに苦勞しているようだった。そのため、今年度は問題については印刷・配布し、学生が内容理解に集中できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を使用することがあります。

【その他の重要事項】

会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修していることが望ましい。財務会計論Ⅰ/Ⅱを並行履修することが望ましい。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces some International Financial Reporting Standards (IFRS), concentrating on standards that related to the recognition and measurement of revenue, assets and liabilities and major differences between IFRS and Japanese GAAP to students taking this course.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to perform basic accounting procedures in accordance with International Financial Reporting Standards (IFRS) and understand the differences between IFRS and Japanese accounting standards.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read the literature related to the class theme in advance, and to reread the handouts after the lecture. In addition, students should review the problems conducted in class. Your study time will be more than four.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the examination (100%) to be given in the 14th class.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅰ（教職用）

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業 / Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品一単位当たりの製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは、大きく費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算から構成されています。原価計算論Ⅰでは、これらの原価計算の一連の手続きについて理解することを目的とします。また、その前提として、これから原価計算論を学習する上で必要とされる基本的な用語および諸概念を理解し、それらの用語や諸概念をできるだけ自分の言葉を使って説明することができることを目的とします。また、原価計算の諸手続きの背後にある理論的な意味を説明できることを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅰの到達目標は次の3点です。第1に、原価計算に関連した基本的な用語や概念を自分の言葉で簡潔に説明できる。第2に、原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解し、その意味を説明できること。第3に、これらの理解に基づき、原価計算の基本的な計算問題また中級程度の計算問題、および理論的な問題を自分の力で解けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅰは、対面、また授業回の特徴に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。

授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて、原価計算の一連の手続き、およびその背後にある理論の説明を行います。また、授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い、原価計算の概念やその計算方法を確認します。さらに、計算問題を解いてみることで理解を深めます。授業内また授業後に確認および応用問題を課題として出すこともありますので、必ず自分の力で問題を解いてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所、また応用問題については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要および原価計算の必要性について	本授業の目的、内容また授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。また、なぜ企業にとって原価計算が必要とされるのかを説明します。
第2回	原価計算の諸目的と基本的な諸概念	原価計算基準に基づき、原価計算の諸目的および原価の一般概念について説明する。また、これから原価計算を学習する上で必要とされる重要な原価分類について紹介する。
第3回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。
第4回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を問題演習を交えながら、説明する。
第5回	材料費、労務費の計算に関わる重要な論点の復習と問題演習	材料費と労務費に関する重要なポイントのまとめとそれらに関連した問題演習を中心に行う。
第6回	製造間接費の意味およびその配賦方法	製造間接費の意味およびその配賦の必要性について説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第7回	製造間接費に関する補足とその問題演習	製造間接費の差異分析についての補足説明を行なったのちに、問題演習を行う。
第8回	個別原価計算	個別原価計算が適する生産形態およびその計算プロセスを詳しく説明する。
第9回	折り紙を使用した模擬生産とその結果に基づく個別原価計算表の作成	折り紙による模擬生産を行ってもらい、各自で個別原価計算表を作成する。

第10回	部門別原価計算の計算手続き	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に、部門別原価計算を行う意義およびその計算手続きについて説明する。
第11回	部門別原価計算の補足とその問題演習	部門別原価計算の一連の計算手続きを確認するとともに、問題演習を行う。
第12回	総合原価計算の意義および仕掛品の評価方法について	総合原価計算の意義を個別原価計算との比較で明らかにした後、仕掛品評価方法について説明する。
第13回	総合原価計算の問題演習	総合原価計算における仕掛品評価の平均法と先入先出法についての問題演習を行う。
第14回	工程別総合原価計算について	工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続について説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受ける前に、またはオンデマンドの教材を視聴する前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、授業支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解き、わからない箇所を明確にした上で、対面またオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて、授業内また授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年(2,640円)

【参考書】

参考文献や自主学習に役立つと文献を講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅰの評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお、成績評価の配分は期末テスト70％、授業中また授業後の課題の提出30％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では、初学者を対象に基礎的なところから説明を行いたいと思います。その上で、発展的な問題についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

【その他の重要事項】

関連科目として管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting. For accomplishing this objective, students need to understand the basic terms and concepts, and to be able to explain these terms in their own words. In addition to these, the objective of this module is to help students to be able to explain the theories behind these procedures.

The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅱ（教職用）

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが提供する原価情報が、企業内での原価管理および短期利益計画といった経営管理目的に果たす役割を理解することを目的とします。また、アメリカにおいて1980年代に実務の観察に基づいて提唱されたActivity-Based Costingの計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を、伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には、以下の点を目標とします。第1に、標準原価計算や直接原価計算およびCVP分析が提供する原価情報の経営管理目的での役立ちについて、自分の言葉で説明できること。第2に、製造間接費の配賦に関連したActivity-Based Costingの基本的なメカニズムを伝統的な配賦方法と比較して、その違いを自分の言葉で明確に説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは対面または授業回の特性に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。

授業では、狭義の原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびにCVP分析、さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことでActivity-Based Costingのメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために、折り紙を使用した模擬生産を行う予定です。また、必要に応じて授業中または授業終了後に課題を提示しますので、必ず自分の力で問題を解いてみてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所、また応用問題については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要紹介およびコスト・マネジメントの概要	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明するとともに、コスト・マネジメントの技法の一つである原価企画について紹介する。
第2回	標準原価計算の意義および原価標準の設定	標準原価計算の意義とその目的および原価標準の設定方法について説明する。
第3回	標準原価計算における原価差異分析（製造直接費を中心に）	製造直接費の原価差異分析の方法とその意味を説明する。
第4回	折り紙を使用した模擬生産とそれに基づく原価差異分析	折り紙を使った模擬生産を行い、標準原価による原価管理の一連の手続きについて、そのデータに基づいて、実施してみる
第5回	標準原価計算における原価差異分析（製造間接費を中心に）	製造間接費の原価差異分析の方法、特に四分法を中心に説明する。
第6回	原価差異分析に関する復習とその問題演習	標準原価計算における原価差異分析の補足説明を行うとともに、問題演習を行う。
第7回	CVP分析の意義	CVP分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第8回	コスト・ビヘイビアの分析手法	原価の固定分解の方法を説明するとともに、その問題演習を行う。
第9回	CVP分析の問題演習	CVP分析に関する問題の振り返りとその問題演習を行う。
第10回	直接原価計算の意義と損益計算書の作成	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。

第11回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。
第12回	直接原価計算の重要な論点の振り返りと問題演習	直接原価計算の計算プロセスの確認と問題演習を行う。
第13回	ABCの基礎的な概念と伝統的な製造間接費の配賦計算との比較	ABCの概念を説明するとともに、伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。
第14回	ABCの計算例または事例	ABCの事例に基づいて、実際の計算プロセスを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受けるまたはオンデマンドの教材を見る前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして対面またはオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて、授業内または授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年（2400円税別）

【参考書】

参考文献または自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅱの成績評価は、期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト70％、課題または宿題の提出30％とします。

【学生の意見等からの気づき】

折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算の実施方法が体感できる方法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

【Outline (in English)】

The objective of Cost Accounting II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning within companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.

In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン (1)	・組織構造
第10回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものだ。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回課題提出を行い、それと期末試験の合計得点（ウェイトは50：50）で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いがなかったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・The final grade depends on the total points of the assignment and the final exam (the weights are 50:50).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

奥西 好夫

経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン (1)	・組織構造
第10回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものと。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回、課題提出を行い、それと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。

履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

MAN200FC（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ（2019年度以降入学者）

木川 大輔

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

営2年J～L

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略を理解する視点は、大きく分けて①個別事業に焦点を当てた事業戦略、②複数事業からなる企業全体の方向性を示す全社戦略の2つから成り立ちます。経営戦略論Ⅰでは、事業戦略の視点、すなわち、どのようにすれば自社が競合他社よりも有利な状態を作り出すことができるかといった点を中心に学習を行います。事業戦略を中心とした経営戦略論の基本的な概念と分析手法、思考法を把握し、現実の企業に当てはめて考えるという取り組みを通じて、社会現象に対する関心や洞察力、問題解決力を高めていくことが教育目的です。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。
経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にしている経営戦略を学ぶ。経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。進行は、スクリーンに投影したスライドを中心にを行います。受講者の理解が進むよう、できるだけ身近な事例を用いたり、写真、グラフ、図などを多く使用します。また、ウェブアプリケーションのチャット機能を用いて、擬似的な双方向のコミュニケーションも毎回の授業で取り入れる予定です。授業内で提示した課題に対する回答はできるだけ授業時間中にリアルタイムで取り上げ、模範解答を取り上げて解説を行います。時間が不足する場合は次の回の授業の冒頭で前回は振り返りながら解説を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営戦略とはなにか	講義内容の説明、経営戦略とはなにか？、経営戦略の3階層
第2回	競争戦略に関する視点	基本戦略、外部環境と内部環境の適合、SWOT分析
第3回	コストリーダーシップ戦略	規模の経済、範囲の経済、経験（曲線）効果
第4回	製品差別化戦略	STPとマーケティング・ミックス、4P
第5回	顧客価値	PIMS、水平的差別化と垂直的差別化、ブルーオーシャン戦略
第6回	競争ポジションと戦略セオリー	競争地位別の戦略セオリー
第7回	ポジショニングアプローチ①	SCPパラダイム、業界の構造分析
第8回	ポジショニングアプローチ②	戦略グループ、移動障壁、先行者優位性
第9回	資源ベースアプローチ①	模倣困難な資源、VRIO
第10回	資源ベースアプローチ②	コアコンピタンスと見えざる資産
第11回	ゲームアプローチ①	価値相関図、競争と協調
第12回	ゲームアプローチ②	明示的共謀と暗黙的共謀
第13回	学習アプローチ	戦略計画学派と創発戦略学派、組織学習、学習の罠
第14回	春学期全体のまとめ	第1回から第13回の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論（第2版）』東洋経済新聞社、2017年
網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年
ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版]企業戦略論』（上中下）ダイヤモンド社、2021年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の演習課題、平常点（40%）、期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱは一貫した授業構成となっているため、続けて受講することを強くお勧めします。特に経営戦略論Ⅱ（秋学期）を先に受講した場合、翌年度に経営戦略論Ⅰを履修したうえで、もう一度、経営戦略論Ⅱの内容を復習することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This course, Strategic Management I, focuses on business strategy, with particular attention to how firms can create and sustain competitive advantages over their rivals. Students will learn a wide range of concepts and theories in business-level strategy and also study the strategies that firms actually pursue. The course aims to provide students with a solid foundation in strategic management, enabling them to explain what business strategy is and how firms formulate and implement it.

Classes will be conducted face-to-face, primarily through slide-based lectures that incorporate familiar examples, visual materials, and interactive discussion using a web-based chat tool. Evaluation will be based on class exercises and participation (40%) and a final examination (60%).

MAN200FC（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）

木川 大輔

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕
 営2年J～L

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略を理解する視点は、大きく分けて①個別事業に焦点を当てた事業戦略、②複数事業からなる企業全体の方向性を示す全社戦略の2つから成り立ちます。経営戦略論Ⅱでは、全社戦を中心に学びます。全社戦略の中心的な課題は、自社の事業範囲を決定することと、自社の経営資源を効率的に配分することです。全社戦略を中心とした経営戦略論の基本的な概念と分析手法、思考法を把握し、現実の企業に当てはめて考えるという取り組みを通じて、社会現象に対する関心や洞察力、問題解決力を高めていくことが教育目的です。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。
 経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。進行は、スクリーンに投影したスライドを中心にを行います。受講者の理解が進むよう、できるだけ身近な事例を用いたり、写真、グラフ、図などを多く使用します。また、ウェブアプリケーションのチャット機能を用いて、擬似的な双方向のコミュニケーションも毎回の授業で取り入れる予定です。授業内で提示した課題に対する回答はできるだけ授業時間中にリアルタイムで取り上げ、模範解答を取り上げて解説を行います。時間が不足する場合は次の回の授業の冒頭で前回は振り返りながら解説を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	事業戦略と全社戦略の違い
第2回	製品ライフサイクル	製品ライフサイクル、イノベーションの普及理論、ライフサイクル別の戦略セオリー
第3回	事業の定義と企業ドメイン	業の定義、3次元モデル、企業ドメイン、企業理念との関係
第4回	事業の多角化と多角化の効果①	多角化の動機、多角化の合成効果、多角化と経営成果
第5回	事業の多角化と多角化の効果②	ダイナミックシナジー、オーバーエクステンション
第6回	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント	製品ライフサイクル、市場地位別の戦略セオリーと製品ポートフォリオ
第7回	多角化と学習アプローチ	学習アプローチの復習と事業の多角化の動的相乗効果との関係
第8回	垂直統合と市場取引①	活動間の調整メカニズム、情報の非対称性、機会主義、取引コスト
第9回	垂直統合と市場取引②	垂直統合、水平分業のメリット・デメリット、情報粘性、中間組織
第10回	製品アーキテクチャ	製品アーキテクチャとは、モジュラー型、インテグラル型、製品アーキテクチャと産業構造
第11回	ネットワーク外部性とデファクト・スタンダード	標準化のタイプ、ネットワーク外部性の直接効果と間接効果、標準化と経営戦略
第12回	産業構造のレイヤー化とゲームアプローチ	モジュラー化、ソフトウェア化、ネットワーク化の進展による産業構造の変化
第13回	プラットフォーム・ビジネス	プラットフォーム、ネットワーク外部性、チキンエッグ問題、多面市場戦略
第14回	秋学期全体のまとめ	秋学期第1回から第13回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年
 伊丹敬之『経営戦略の論理< 第4版>—ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社、2012年
 近能善範・高井文子『コア・テキスト イノベーション・マネジメント新訂版』新世社、2024年
 根来龍之『プラットフォームの教科書—超速成長ネットワーク効果の基本と応用』日経BP社、2017年

【成績評価の方法と基準】

配分：毎回の授業の演習課題、平常点（40%）、期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱは一貫した授業構成となっているため、続けて受講することを強くお勧めします。特に経営戦略論Ⅱ（秋学期）を先に受講した場合、翌年度に経営戦略論Ⅰを履修したうえで、もう一度、経営戦略論Ⅱの内容を復習することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This course, Strategic Management II, focuses on corporate strategy, examining how firms determine the scope of their businesses and allocate resources effectively across them. Students will learn a wide range of concepts and theories in corporate-level strategy and also study the strategies that firms actually pursue. The course aims to provide students with a solid foundation in strategic management, enabling them to explain what corporate strategy is and how firms formulate and implement it.

Classes will be conducted face-to-face, primarily through slide-based lectures that incorporate familiar case examples, visual materials, and interactive use of a web-based chat tool. Evaluation will be based on class exercises and participation (40%) and a final examination (60%).

MAN200FC（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ（2019年度以降入学者）

李 瑞雪

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

営2年M～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1講 インTRODク ション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第2回	第2講 ブランニング・ アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第3回	第3講 ブランニング・ アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第4回	第4講 ポジショニング・ アプローチ（Ⅰ）	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動 - 経営業績モデル）、ファイブ・フォース・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第5回	第5講 ポジショニング・ アプローチ（Ⅱ）	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第6回	第6講 ポジショニング・ アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収獲戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第7回	第7講 ポジショニング・ アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。グローバル戦略、マルチナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破壊的競争など
第8回	第8講 リソース・ベ ース・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第9回	第9講 リソース・ベ ース・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
第10回	第10講 ゲーム・ア プローチ、コーピティ ション（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	第11講 ゲーム・ア プローチ、コーピティ ション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補充関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	第12講 学習ア プローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略

第13回	第13講 学習ア プローチ、創発戦略（Ⅰ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第14回	第14講 競争優位と 一般戦略	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加（+α）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（-α）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, and in-class contribution: 20%. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each

経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）

李 瑞雪

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

営2年M～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期は対面授業を実施する予定です。状況によってオンライン開催を余儀なくされる場合は、講義形式などの詳細について学習支援システムを通じて適宜提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1講 イントロダクション、一般戦略	春学期（経営戦略論Ⅰ）の内容の復習、秋学期講義内容の構成、3つの一般戦略と競争優位
第2回	第2講 ゲームアプローチ	価値相関図（バリュー・ネット）、戦略的補完関係、「付加価値」と価値貢献度、競争と協調、顧客への「本質的サービス」、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、意図的抑止
第3回	第3講 学習アプローチと創発戦略	意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略、学習の「場」、実験と「反省」による学習、ダイナミック・シナジ
第4回	第4講 競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第5回	第5講 ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、プラットフォーム戦略
第6回	第6講 イノベーションと競争優位	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、イノベーションのジレンマ、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション・イノベーション・フル・イノベーション
第7回	第7講 吸収合併（M&A）	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンス、ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策
第8回	第8講 戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略提携と業務提携、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク、アウトソーシング

第9回	第9講 垂直統合と競争優位	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第3の取引形態、取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第10回	第10講 サプライチェーンマネジメント（SCM）の戦略	SCMの定義、サプライチェーンのプロセス（SCORモデル）、プロセス統合、企業の競争基盤とサプライチェーンの貢献、SCM戦略の構成要素、制約理論（TOC）、投機と延期
第11回	第11講 調達戦略	調達戦略の多様な目標、TCOの最小化、調達方式の4類型、調達戦略のマトリクス、調達プロセスの基本原則、調達戦略と企業間コラボレーション
第12回	第12講 製造戦略と生産プロセス	ETO、MTO、ATO、MTO、ジョブショップ、バッチフロー、ライン・フロー、連続フロー、製品・工程マトリクス、製品・工程ライフサイクルと生産性ジレンマ、マスカスタマイゼーション、リーン生産システム
第13回	第13講 ロジスティクス戦略と競争優位	スピードの経済とロジスティクス戦略、ロジスティクス戦略の類型、ジャストインタイムの物流、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）、共同物流
第14回	第14講 秋学期の内容のまとめ	1回目から13回目までの授業内容のまとめ・総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に付け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料とリーディング資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習しておいてください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社
- 6) デビッド・コリス&シンシア・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

「平常点」20%、「小テスト」30%、「期末テスト」50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. Students will be expected to have read the relevant chapters from the references and other materials suggested by the teacher before each class meeting. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, and in-class contribution: 20%. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN200FC（経営学 / Management 200）	
国際経営論 I	
洞口 治夫	
経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]	
その他属性：〈実〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空（ANA）、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】

この授業では国際経営論の入門を解説します。国際経営論は「国際」的に行われる「経営」を「論」ずる、という意味ですから、経営学の学習を行うとともに、国境を越えた企業経営の基礎を学びます。つまり、経営とは何か、とともに、国家とは何か、を論ずる必要もあります。そうした講義によって、学生諸君が、将来、国際的なビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習します。

多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを知り、また、多国籍企業に関する理論を学習して、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを知ること目標とします。国家による経済政策を理解することで、さらに長期的な視点を獲得します。国際経営に関する日本語および英語の資料や新聞記事を読み、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、学習支援システムを利用したミニ・テストを行い、その回答をして正解を確認することで重要事項を理解します。オンデマンドの授業または Zoom を利用したオンライン授業を行う場合の Zoom の接続 URL は「学習支援システム」(Hoppii)の「お知らせ」に掲示しますので注意して確認して下さい。この授業ではパワーポイントや動画などの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスでは営業先での会話や交渉、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成など、自らノートにとって整理する必要があります。授業内では参加学生によるグループワークや音読も行い、専門用語の理解を確認します。様々な資料からの英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論 I の概要説明	講義目的と概要、経営学の理論と実務との関連。教科書第1章、経済活動のグローバル化。国際経営と資本主義、グローバリゼーション。
第2回	多国籍企業の組織	教科書第1章の復習。第2章、多国籍企業の参入形態。貿易と関税。対外直接投資。ライセンス。組織としての国家。資本主義の発展と進化。
第3回	多国籍企業の戦略	教科書第3章、グローバル化の歴史の変遷。戦略と資源をめぐる論争。スミス、マルクス、ハイマー、キンドルバーガー。
第4回	競争戦略論と資源戦略論	教科書第3章、グローバル化の歴史の変遷。ライセンス戦略と知識をめぐる論争。資本主義の七世代。
第5回	戦略と組織の認知	教科書第4章、多国籍企業と国際展開のリスク。リスクと不確実性。テロリズム、フォーカルポイント、ゲーム理論、囚人のジレンマ、両性の闘い、ナッシュ均衡、イテレイテッド・ストリクト・ドミナンス。

第6回	戦略策定と会計情報	財務と情報。投資決定の基準。利子率、割引率、インカムゲイン、キャピタルゲイン、損益計算書と貸借対照表。NPV、IRRとその投資への利用。
第7回	企業成長と組織	教科書第5章、多国籍企業の知識創造。知識創造の理論。暗黙知、形式知、集合知。科学哲学。
第8回	国際経営と日本的経営	教科書第6章、技術移転のサブシステム。芸術と契約。コアとコピャー。プロデューサーとディレクター。クリエイティブ・インダストリーの国際化と創造性のマネジメント。ホフステッドと不確実性の回避、権力格差、個人主義・集団主義、男性性と女性性。
第9回	多国籍企業と文化	教科書第7章、多国籍企業とM&A。新聞記事にみる合併・買収とTOB。
第10回	多国籍企業の知識管理 とイナクトメント	教科書第7章、多国籍企業とM&A。コーポレート・ガバナンス、デューデリジェンス、減損。
第11回	創造性のマネジメント	多国籍企業の参入戦略、オンデマンド教材での復習。対外間接投資、対外証券投資、キャピタルゲインとインカムゲイン。
第12回	国際経営とイノベーション	多国籍企業の知識創造、オンデマンド教材での復習。SECIモデルとWise Company。
第13回	国際経営研究の最前線	教科書第1章から第7章までの復習。参考書、第3章、第6章、第7章の復習。
第14回	企業倫理とCSR。授業内試験ないしレポート試験。	多国籍企業の管理。企業経営の国際展開と国際経営。授業内試験ないしレポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に参加する前に教科書として、原田順子・洞口治夫編著『企業経営の国際展開』2025年、放送大学教育振興会、2800円＋税を購入し、各章を読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。春学期は第1章から第7章までを学習します。

参考書として、洞口治夫・行本勢基著『入門 経営学(第2版)』2012年、同友館、の該当章を解説します。図書館などで手に取って読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。

期末試験問題は、これらの教科書と参考書から出題されます。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1)原田順子・洞口治夫編著『企業経営の国際展開』2025年、放送大学教育振興会、2800円＋税。

＜授業では、理解を確認するために授業内で音読をしますので単位取得を目指す諸君は購入して下さい。また毎回の授業でもmini-testを行います、その問題もこの教科書から出題します。＞

(2)そのほか適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】

(1)洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。＜期末試験問題は教科書(1)および参考書(1)から出題されます。試験で高得点をを目指す学生諸君には購入を薦めます。＞

(2)洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学してMBA取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。この参考書からは期末試験問題は出題しません。＞

(3)Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition).＜海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書は授業内容に関連しています。分厚い本なので図書館などで参照すると良いでしょう。＞

【成績評価の方法と基準】

成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。

(1)授業参加（授業支援システムの出席確認テスト（mini-test）の回答ないし課題レポート）（56％）

(2)期末試験（授業内試験）（44％）

良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。授業に参加せずに「授業支援システムの出席確認テスト」だけを受けた場合には、減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

過去のアンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」、「授業内容が就職活動に役立つ」といった感謝の言葉が並びました。学生とおして議論するグループワークについても「満足している」という意見が寄せられました。社会で活躍する洞口ゼミ卒業生のZ o o mでの講演や有名企業から内定を得た四年生のプレゼンテーションも好評でした。意外なことに「雑談が面白い」という意見も多く、この授業からの「気づき」といえます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内のテストに回答するためにWi-Fiの利用できるパソコン、スマホ、ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホが必要です。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードかつアップロードする必要があります。

【その他の重要事項】

対面、オンデマンド、オンラインなどの授業開講方式については、学習支援システムの「お知らせ」に告知しますので、その指示に注意してください。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始5分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

International Business explores how to address various challenges associated with the internationalization of corporate management. Students will examine key issues faced by businesses through a wide range of case studies, including Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disneyland, Yoshinoya, and McDonald's. The course aims to provide insights into how companies drive globalization while highlighting strategies for avoiding management failures from a social science perspective. Key questions include: What types of companies develop products for overseas markets or conduct international marketing? How should Japanese multinational corporations, facing challenges such as currency fluctuations, international competition, and cross-border human resource management, respond? Students will acquire foundational concepts essential for analyzing these issues.

【Learning Objectives】

This course provides an introduction to International Management, focusing on business administration and the fundamentals of cross-border corporate management. Students will explore not only the principles of management but also broader concepts, such as the role of nations in shaping business strategies.

Through lectures, students will develop foundational knowledge necessary for future roles in international business. Course goals include:

- ・ Understanding the impact of multinational corporations on modern society.
- ・ Learning key theories related to multinational corporations.
- ・ Developing critical perspectives on global business trends.
- ・ Cultivating an appreciation for theoretical thinking.

By analyzing economic policies and reading news articles on international management in both Japanese and English, students will gain a long-term, practical perspective on international business issues.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before participating in the class, you need to read the textbook "Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management)," and look up any unfamiliar terms. Students should also be prepared to engage with Japanese and English newspaper articles distributed in class. The recommended preparation and review time for this class is 2 hours each.

Textbooks:(1) Junko Harada and Haruo Horaguchi eds. (2025), Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management), Housoudaigaku kyoiku shinkokai, in Japanese.

(2)In addition, lecture materials will be handed out as needed, including English materials.

References: (1) Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto (2012), Nyumon Keieigaku (Introduction to Business Administration) (2nd Edition), Doyukan, in Japanese.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.

- (1) Class participation (responses to quizzes and/or assignment reports via the learning support system) (56%)
- (2) Final exam (Written exam in class and/or through the learning support system) (44%)

Regular attendance is essential for achieving higher grades.

国際経営論Ⅱ

洞口 治夫

経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導くための研究をする学問の総称です。三菱商事、三菱UFJ銀行、日産自動車、楽天、ユニクロなど豊富な事例を学びながら企業経営の課題を学びます。どのような企業が海外で製品開発を行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。為替レートの変動や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】

この授業では学生諸君が、将来、国際ビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習し、経営理論と関係づけて理解することを目標とします。マーケティングや人事労務管理という専門領域の理解を目標とします。多国籍企業が現代社会にどのような影響を与えているのかを知り、さらに、世界各国の政治、経済、文化、歴史が多国籍企業にどのような影響を与えてきたかを学習します。多国籍企業に関する理論を学習し、その動向への見通しを立てることの面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」として経営理論の内容を検討し、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。国際経営に関する標準的な教科書を読破することで、独自に国際経営の専門書を読めるようになるための学習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、学習支援システムを利用したミニ・テストを行い、その回答をして正解を確認することで重要事項を理解します。オンデマンドの授業またはZoomを利用したオンライン授業を行う場合のZoomの接続URLは「学習支援システム」(Hoppii)の「お知らせ」に掲示しますので注意して確認して下さい。この授業ではパワーポイントや動画などの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスでは営業先での会話や交渉、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成など、自らノートにとって整理する必要があります。授業内では参加学生によるグループワークや音読も行い、専門用語の理解を確認します。様々な資料からの英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論Ⅱの概要説明	講義目的と概要。教科書第8章、多国籍企業のグローバル競争。経営理論と実務との関連。歴史・地理・政治と国際経営。M&A、株式投資、コーポレート・ガバナンス。
第2回	多国籍企業とグローバル競争	教科書第8章。多国籍企業のグローバル競争。
第3回	グローバル競争と企業の進化論	教科書第9章、デジタル化と巨大IT企業の出現。経営資源、無形資産、ネットワーク効果、規模の経済性、範囲の経済性。
第4回	多国籍企業の実例研究	教科書第10章。IT機器産業における東アジア企業の成長。後発性の利益、後発性の不利益。
第5回	韓国・台湾・中国と世界情勢	教科書第11章、東アジア企業の能力構築。参考書第4章、国際経営。TSMCの重要度。
第6回	多国籍企業と外国為替レート	教科書第12章、多国籍企業と外国為替レート。購買力平価、金利平価、オーバーシュート、ランダムウォーク。
第7回	日本企業の国際ファイナンス	教科書第12章。直物、先物、オプション。オーバーシュート、ランダムウォークと確率分布。

第8回	多国籍企業のコーポレート・ガバナンス	教科書第13章、国際経営と資金調達。日本企業の現状。自己資本と他人資本、資本コスト、流動性、ADR。教科書第13章。財務諸表の読み方と経営戦略。株式投資の成果。配当と利回り。
第9回	国際ファイナンスの基礎理論	教科書第14章、多国籍企業の社会的責任。CSR、ESG、SDGs。教科書第15章。日本的人事慣行とワークライフバランス。職務と人事評価。
第10回	社会的責任と国際投資	教科書第15章、組織と文化。ダイバーシティ・マネジメントと女性活躍推進。
第11回	人事部の仕事	第8章から第15章の復習。期末試験問題の傾向と予測。
第12回	組織管理の国際潮流	21世紀の経営課題。地球環境問題とAI組織哲学。授業内試験（ウェブ試験）。
第13回	マネジメントの未来像	
第14回	組織理念	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に参加する前に教科書『企業経営の国際展開』の該当箇所を読み、わからない用語を調べる必要があります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。

【テキスト（教科書）】

- (1) 原田順子・洞口治夫編著『企業経営の国際展開』2025年、放送大学教育振興会、2800円＋税。
＜授業では、理解を確認するために授業内で音読をしますので単位取得を目指す諸君は購入して下さい。毎回の授業で行う出席確認テスト（mini-test）もこの教科書から出題します。＞
- (2) そのほかに適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】

- (1) 洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。＜秋学期の参考書ですが、試験問題はこの教科書からも出題されます。＞
- (2) 洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学してMBA取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。＞
- (3) Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). <海外留学を目指す大学生のための参考書です。＞

【成績評価の方法と基準】

- 成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
- (1) 授業参加（授業支援システムを用いたmini-testないし課題レポート）（56％）
 - (2) 期末試験（授業内筆記試験）（44％）
- 良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学習と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」といった言葉が並んでいます。授業内容が就職活動に役立つことは、この授業からの「気づき」といえます。20年近くにわたって一時期に授業時間が設定されてきましたが「国際経営論を一時間以外の時間に開講して欲しい」という声も、長年、学生諸君から寄せられてきました。学生諸君の声に応じて木曜日の二時限開講になりました。遅刻しないように授業に参加して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内試験および期末試験に回答するためのパソコン。ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書、AI検索用のスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードおよびアップロードできるパソコン。

【その他の重要事項】

洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始5分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。春学期と同様にグループワークを行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

International Management explores how to address various challenges associated with the internationalization of corporate management. Students will examine key issues faced by businesses through a wide range of case studies, including Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disneyland, Yoshinoya, and McDonald's. The course aims to provide insights into how companies drive globalization while highlighting strategies for avoiding management failures from a social science perspective. Key questions include: What types of companies develop products for overseas markets or conduct international marketing? How should Japanese multinational corporations, facing challenges such as currency fluctuations, international competition, and cross-border human resource management, respond? Students will acquire foundational concepts essential for analyzing these issues.

【Learning Objectives】

This course provides an introduction to International Management, focusing on business administration and the fundamentals of cross-border corporate management. Students will explore not only the principles of management but also broader concepts, such as the role of nations in shaping business strategies.

Through lectures, students will develop foundational knowledge necessary for future roles in international business. Course goals include:

- ・ Understanding the impact of multinational corporations on modern society.
- ・ Learning key theories related to multinational corporations.
- ・ Developing critical perspectives on global business trends.
- ・ Cultivating an appreciation for theoretical thinking.

By analyzing economic policies and reading news articles on international management in both Japanese and English, students will gain a long-term, practical perspective on international business issues.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before participating in the class, you need to read the textbook "Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management)," and look up any unfamiliar terms. Students should also be prepared to engage with Japanese and English newspaper articles distributed in class. The recommended preparation and review time for this class is 2 hours each.

Textbooks:(1) Junko Harada and Haruo Horaguchi eds. (2025), Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management), Housoudaigaku kyoiku shinkokai, in Japanese.

(2)In addition, lecture materials will be handed out as needed, including English materials.

References: (1) Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto (2012), Nyumon Keieigaku (Introduction to Business Administration) (2nd Edition), Doyukan, in Japanese.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.

- (1) Class participation (responses to quizzes and/or assignment reports via the learning support system) (56%)
- (2) Final exam (Written exam in class and/or through the learning support system) (44%)

Regular attendance is essential for achieving higher grades.

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

国際経済論Ⅰ

高橋 理香

経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、グローバル化の在り方が大きく変化し、国際取引の構造やその取引を支えるルール・枠組みも大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間でどのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われてきたのかを考察することで、グローバル化とは何か、グローバル化は私たちの暮らしや社会をどう変えるのか、理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】

この授業を通して、以下のスキルを身につけます

1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドによるビデオを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要とルール
第2回	日本の貿易の特徴	データで学ぶ日本の貿易
第3回	貿易と市場1	市場メカニズム（需要・供給分析）
第4回	貿易と市場2	市場の資源配分（余剰分析）
第5回	貿易と市場3	貿易による利益と市場競争
第6回	技術の違いと貿易パターン1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
第7回	技術の違いと貿易パターン2	比較優位理論
第8回	技術の違いと貿易パターン3	比較優位と貿易
第9回	新しい貿易理論と日本の貿易1	消費の多様性と貿易
第10回	新しい貿易理論と日本の貿易2	生産工程の細分化と貿易
第11回	新しい貿易理論と日本の貿易3	企業の技術力の違いと貿易
第12回	生産要素の国際間移動1	日本の外国人労働
第13回	生産要素の国際間移動2	生産要素の国際移動の理論
第14回	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか1冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第1回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】

【テキスト】

阿部顕三・實多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣、2013年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田真・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」 第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文真堂、2020年。
クルーグマン、P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy*, 12th edition, Pearson.

【読み物】

清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
富浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポート：40%

期末テスト：60%

宿題・レポート・期末テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。オフィスアワーはZoomで行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】

①ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。

②ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない人は、本授業と同時に並行で履修するか自習することを勧めます。

【関連科目】

経済学入門・ミクロ経済学入門・マクロ経済学・日本経済論・国際金融論・経営の経済学・産業組織論

【実務経験のある教員】

該当なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this class is to capture international transactions conducted in Japan and other countries, and to understand how these transactions have changed economies in these countries by using theoretical analysis tools and a variety of materials. In International Economics I, students study the basic and fundamental structure of trade and the international mobility of labor and capital, and in International Economics II, students study trade policies and global economic systems, theoretically and historically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to:

- (1) Understand key trade models.
- (2) Understand key concepts with respect to trade.
- (3) Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
- (4) Solve problem sets.
- (5) Read newspaper articles written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.

【Grading Criteria】

Homework and Exercises: 40 %
Final Examination: 60%

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

国際経済論 II

高橋 理香

経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、グローバル化の在り方が大きく変化し、国際取引の構造やその取引を支えるルール・枠組みも大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間でどのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われてきたのかを考察することで、グローバル化とは何か、グローバル化は私たちの暮らしや社会をどう変えるのか、理解を深めます。国際経済論 I では主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論 II では主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】

この授業を通して、以下のスキルを身につけます

1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
第2回	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
第3回	関税政策 1	関税政策の理論
第4回	関税政策 2	日本と外国の関税政策の実態
第5回	非関税障壁 1	輸入数量制限と日本の農業
第6回	非関税障壁 2	輸出自主規制と日本の自動車産業
第7回	国内不完全競争政策 1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
第8回	国内不完全競争政策 2	国内不完全競争政策と関税政策の比較
第9回	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
第10回	ダンピング 1	ダンピングの不当性
第11回	ダンピング 2	日米関係におけるアンチダンピング政策
第12回	国際経済システム 1	多角間交渉（GATT/WTO）
第13回	国際経済システム 2	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP）
第14回	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】

【テキスト】

阿部顕三・實多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023 年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世社、2022 年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023 年。
多和田真・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」 第 5 版』創成社、2022 年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文真堂、2020 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学: 理論と政策- (原書第 10 版) 上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy*, 12th edition, Pearson.

【読み物】

清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
富浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014 年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポート：40 %
期末テスト：60 %
宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行うことがあります。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題は Microsoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。オフィスアワーは Zoom で行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】

- ① I と II を通年で履修することを強く勧めます。
- ② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。経済学入門やミクロ経済学入門 I / II を履修していない人は、本授業と同時に並行で履修するか自習することを勧めます。

【関連科目】

経済学入門・ミクロ経済学入門・マクロ経済学・日本経済論・国際金融論・経営の経済学・産業組織論

【実務経験のある教員】

該当なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to:

- (1) Understand key trade models.
- (2) Understand key concepts with respect to trade.
- (3) Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
- (4) Solve problem sets.
- (5) Read newspaper articles written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.

【Grading Criteria】

Homework and Exercises: 40 %
Final Examination: 60%

MAN200FC（経営学 / Management 200）

戦略的意思決定論 I

福島 英史

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、経営戦略的意思決定について考えるための概念、論理、視角を学習することにあります。経営現象は、組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます。この授業では、日々の業務に直接関わる業務的意思決定や、開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく、特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます。現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な戦略的意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが到達目標です。戦略的意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があのか。また、自社のみならず、他社の意思決定を考えた場合に、結果としてどのような状況が産業に生じるのか。現実の会社がなぜ M&A 等で規模位を拡大しようとするのか。産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか。一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか。こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事業モデルの選択と競争上の位置取り、環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます。ある産業、あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか、といった問題にアプローチします。

授業中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。オンライン開講になる際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第2回	事業の組立と市場戦略1	製品事業の基本的観点
第3回	事業の組立と市場戦略2	市場戦略の枠組み
第4回	競争の構造と収益性1	競争構造の基本的観点
第5回	競争の構造と収益性2	プレーヤー間の代替関係
第6回	競争の構造と収益性3	プレーヤー間の補完関係
第7回	産業のライフサイクルと費用構造1	市場変動と費用構造
第8回	産業のライフサイクルと費用構造2	キャパシティ
第9回	事業背景と参入・撤退の決定1	参入企業の事業背景と競争
第10回	事業背景と参入・撤退の決定2	事業投資の意思決定と収益性
第11回	事業システムの視点1	事業システムの基本枠組み
第12回	事業システムの視点2	システム内外の競争と協調
第13回	利益配分とパワー構造の変革1	パワー分布と利益配分
第14回	利益配分とパワー構造の変革2	構造の変革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

講義中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（86％）と各回の課題（14％）の合計（100％）で評価します。期末試験を受けなかった場合、E 評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりと、企業等の事例を引き続き充実させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。授業中の迷惑行為が目に見える場合、本授業の単位を付与しません。理解の促進のため、戦略的意思決定論Ⅱ（秋学期）と併せて履修することが望ましいです。関連科目は、経営戦略や組織論、技術管理論、日本経営論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms, which leads subordinate operational or functional decisions. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to explain firms' move and industrial change using those logic and concepts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

MAN200FC（経営学 / Management 200）

戦略的意思決定論 II

福島 英史

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、経営戦略的意思決定について考えるための概念、論理、視角を学習することにあります。経営現象は、組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます。この授業では、日々の業務に直接関わる業務的意思決定や、開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく、特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます。現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な戦略的意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが到達目標です。戦略的意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか。また、自社のみならず、他社の意思決定を考えた場合に、結果としてどのような状況が産業に生じるのか。現実の会社がなぜ M&A 等で規模位を拡大しようとするのか。産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか。一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか。こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事業モデルの選択と競争上の位置取り、環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます。ある産業、あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか、といった問題にアプローチします。

授業中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。オンライン開講になる際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第2回	企業の成果尺度	企業戦略の成果を見る基本指標
第3回	ゲーム理論的発想1	基本枠組みの理解
第4回	ゲーム理論的発想2	競争戦略の新たな視点
第5回	基本戦略と大規模化1	規模を追う戦略の論理
第6回	基本戦略と大規模化2	規模を追わない戦略の論理
第7回	技術革新と基本戦略1	技術革新のライフサイクル
第8回	技術革新と基本戦略2	複数戦略の同時追求とコモディティ化の論理
第9回	技術革新と基本戦略3	技術・市場の発展と日米の戦略観
第10回	技術革新と市場地位	市場地位の交代が生じる論理
第11回	経営資源アプローチ1	狭義のリソース・ベースド・ビュー
第12回	経営資源アプローチ2	学習を重視する戦略観と日本企業の現状
第13回	全社的な意思決定1	企業の垂直的範囲と合理化の意思決定
第14回	全社的な意思決定2	事業の多様化と集約化の意思決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

講義中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（86％）と各回の課題（14％）の合計（100％）で評価します。期末試験を受けなかった場合、E 評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりと、企業等の事例を引き続き充実させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。授業中の迷惑行為が目に見える場合、本授業の単位を付与しません。理解の促進のため、戦略的意思決定論 II（秋学期）と併せて履修することが望ましいです。関連科目は、経営戦略や組織論、技術管理論、日本経営論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms, which leads subordinate operational or functional decisions. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to explain firms' move and industrial change using those logic and concepts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

日本経済論 I

平田 英明

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば…この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下での諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部にも所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるといえます。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知は Hoppii 上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、ご講演頂く予定です。

なお、対面とオンラインの日程については、学期の最初に最終確定したものをお示しします。また、授業の教材や資料、各種情報は Hoppii の科目のページに掲載するウェブシラバスに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明 マクロ的視点からの経済の捉え方 1	授業計画の紹介 1－3 章について講義します。
第 2 回	マクロ的視点からの経済の捉え方 2	1－3 章の続きを講義します。
第 3 回	マクロ的視点からの経済の捉え方 GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 4 回	日本の企業とその特徴 1	4 章について講義します。
第 5 回	日本の企業とその特徴 2	4 章の続きを講義します。

第 6 回	日本の企業とその特徴 GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 7 回	日本の労働とその特徴 1	5 章について講義します。
第 8 回	日本の労働とその特徴 2	5 章の続きを講義します。
第 9 回	日本の労働とその特徴 GS	労働に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 10 回	わが国の財政の特徴 1	7 章について講義します。
第 11 回	わが国の財政の特徴 2	7 章の続きを講義します。
第 12 回	わが国の財政の特徴 GS	財政に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 13 回	講演	ゲストスピーカーをお呼びする予定です。
第 14 回	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新 入門・日本経済』（有斐閣、2024）を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

A 3 所定用紙 1 枚のみ持ち込み可の期末試験（と GS）によって評価を行います。なお、+α として授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで追加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 成績の評価は a または b の方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

- S～D の評価
期末試験 100% + α で成績評価を行います。
- C～D の評価
問題数を絞った期末試験

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

3. 単位取得率は例年 95% 程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等を行うことがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【関連科目】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

- Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
- Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

日本経済論 II

平田 英明

経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば…この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下での諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部にも所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知は Hoppii 上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、ご講演頂く予定です。

なお、対面とオンラインの日程については、学期の最初に最終確定したものをお示しします。また、授業の教材や資料、各種情報は Hoppii の科目のページに掲載するウェブシラバスに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明 日本の社会保障とその特徴 1	授業計画の紹介 6 章について講義します。
第 2 回	日本の社会保障とその特徴 2	6 章の続きを講義します。
第 3 回	日本の社会保障とその特徴 GS	日本の社会保障に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 4 回	データ経済 1	経済を理解する上でのデータの重要性について解説します。
第 5 回	データ経済 2	データの経済分析における使われ方を紹介します。

第 6 回	日本の金融とその特徴 1	8 章について講義します。
第 7 回	データ経済 GS	データ経済に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 8 回	日本の金融とその特徴 2	8 章の続きを講義します。
第 9 回	日本の金融とその特徴 GS	日本の金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 10 回	国際貿易と国際金融の特徴 1	9 章とそれに関する国際金融の基本について講義します。
第 11 回	国際貿易と国際金融の特徴 2	9 章の続きとそれに関する国際金融の基本を講義します。
第 12 回	国際貿易と国際金融の特徴 GS	国際貿易と国際金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。または、ゲストスピーカーをお呼びします。
第 13 回	景気の国際的運動	景気変動が世界的に波及するメカニズムとその背景にあるグローバル化の動向を考えます。
第 14 回	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新 入門・日本経済』（有斐閣、2024）を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

A 3 所定用紙 1 枚のみ持ち込み可の期末試験（と GS）によって評価を行います。なお、+α として授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 成績の評価は a または b の方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

- S ～ D の評価
期末試験 100% + α で成績評価を行います。
 - C ～ D の評価
問題数を絞った期末試験
2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。
3. 単位取得率は例年 95% 程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の 방식을複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【関連科目】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class. At the time of the final exam, you can choose one of the following options. (a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

産業史Ⅰ

韓 載香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第2次世界大戦までを対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、政策、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料（Hoppii）を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもらう場合やグループで議論することがあります。課題については、受講生の提出内容を集約したうえで授業に関連したポイントを説明し、受講生全員に共有していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業史Ⅰのためのイントロダクション	「企業と産業と経済発展の歴史」から学ぶこと
第2回	I 産業史という方法：経済発展の鳥瞰	①産業という枠組みの有効性 ②産業構造変化の国際比較
第3回	II 欧米 ①産業革命前夜	階級とファッションー繊維産業勃興の条件
第4回	II 欧米 ②産業革命と綿工業と資本主義	グローバル経済とイギリスの綿工業1
第5回	II 欧米 ②産業革命と綿工業と資本主義	グローバル経済とイギリスの綿工業2
第6回	II 欧米 ③産業競争のダイナミズム	グローバル経済とドイツの鉄工業
第7回	II 欧米 ④大量生産方式の定着とその意義	アメリカの自動車産業1
第8回	II 欧米 ④大量生産方式の定着とその意義	アメリカの自動車産業2
第9回	III 日本 ①経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：産銅業の産業化と環境問題	生産の急増は自然が提供する原料の供給量とのバランスを狂わせたが、自然との調和のなかで営んでいた鉱山周辺の農業にも影響を及ぼし、環境問題を発生させた。その結果としての企業の対応過程を追いかけ、その意味合いについて考える。
第10回	III 日本 ②経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：別子暴動事件	産業化と働くということ：急激な需要増加によって生産増加が要求されたとき、産業内、企業はどのように対応し、産業成長の軌道に乗ることができるのでしょうか。労働の管理方法の変化やそれによる働き方の変容が見えてきます。

第11回	III 日本 ③経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業(1)	賃金制度と産業発展：映画「あゝ野麦峠」から学ぶ
第12回	III 日本 ④経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業(2)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第13回	III 日本 ⑤重化学工業化の進展と限界	第一次大戦と都市化がもたらした産業構造の変化として重化学工業化に注目します。それに伴う社会の在り方として、重化学工業の定着、大企業の台頭という組織変化、働き方の変容を明らかにし、産業発展とその限界を理解していただきます。
第14回	総まとめ	第2次世界大戦までの産業発展の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された資料（文献・論文）を事前に読んでください。講義関連で課される課題提出が求められます。本授業の準備・復習時間は、1.5時間を標準とします。提出課題については、優れた内容を取りまとめ、授業内容に関連する解説とともに他の受講生に共有していただきます。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

参考資料あり（Hoppii）

【参考書】

藤本隆宏『産業競争力 実証から理論へⅠ』産業競争力 実証から理論へⅡ』岩波書店、2025年、川北稔『洒落たちのイギリス史』平凡社、1993年、S.D. チャップマン（佐村明知訳）『産業革命のなかの綿工業』見洋書房、1990年、角山栄編『講座西洋経済史Ⅱ産業革命の時代』同文館1979年、井上昭一『GMの研究：アメリカ自動車経営史』ミネルヴァ書房、1982年、ジョン・B.レイ（岩崎玄他訳）『アメリカの自動車：その歴史的展望』小川出版、1969年、湯沢威他編『国際競争力の経営史』有斐閣、2009年、武田晴人『日本経済史の事件簿』日本経済評論社、2008年、ジャネット・ハンター『日本の工業化と女性労働』阿部武司他訳、有斐閣、2008年、中林真幸『近代資本主義の組織』東京大学出版会、2003年、橘川武郎『日本電力発展のダイナミズム』名古屋大学出版会、2004年、宮本又郎他編『1からの経営史』碩学舎、2014年、加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本企業』有斐閣、2013年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年

【成績評価の方法と基準】

小テスト(40%)＋期末テスト(60%)の合計で評価です。初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・関連映画や動画なども使用し、多面的な知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】

- ・金曜日 12：00～
- ・事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスはHoppiiの産業史Ⅰに提示します。

【関連科目】

日本経営史Ⅰ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities until the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

【Grading Criteria /Policy】

The grade will be calculated based on a total of 100 points, with the midterm examination accounting for 40 points and the final examination accounting for 60 points.

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

産業史Ⅱ

韓 載香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第二次世界大戦後を対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、政策、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べるができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料（Hoppii）を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもら場合やグループで議論することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業史Ⅱのためのイントロダクション	第2次世界大戦後の世界経済
第2回	IV 日本(2) 消費革命と産業構造の変化①	高度成長期の準備： 短期間で国際競争力を獲得した日本の産業として、電気機械産業の発展の要因について、企業間競争に注目して理解していただきます。
第3回	IV 日本(2) 消費革命と産業構造の変化②	高度成長期の準備： 短期間で国際競争力を獲得した日本の産業として、電気機械産業の発展の要因について、企業間競争に注目して理解していただきます。
第4回	IV 日本(2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式①	機械産業は中小企業を含む広い範囲の諸産業との関連性があり、且つ大量の雇用を生み出すため、高度成長をけん引する分野として意義深いです。日本と他国の自動車産業を比較します。
第5回	IV 日本(2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式②	トヨタ生産方式の長い道のりと今日的意義についてみていきます。
第6回	IV 日本(2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式③	トヨタ生産方式のラインで働く人々
第7回	IV 日本(2) 機械工業と部品工業①	中小企業群は技術的制約から成長に対しては懐疑的見方で見られていました。中小企業の成長可能性について、成長していく自動車における組立メーカーと部品企業の深い取引関係から考えます。
第8回	IV 日本(2) 機械工業と部品工業②	電気機械の成長における部品企業の役割について説明します。
第9回	IV 日本(2) サービス産業化①——映画鑑賞「焼肉ドラゴン」から焼肉レストランの発祥について考える	日本に定着した焼肉食文化はどのようにして始まったのでしょうか。マイノリティ集住地域に注目して、この点について考えます。

第10回	IV 日本(2) サービス産業化②——多様なニーズをビジネスに、焼肉の普及	娯楽業のなかでも大きな市場規模をもつのが外食産業ですが、独特な文化背景もった焼肉レストランの定着に注目します。
第11回	V アジア 東アジアにおける半導体産業の発展	日本、台湾、韓国における半導体産業の発展にはグローバル経済による興味深い連鎖的作用が影響し、また今日のようなあり方が予定されていたわけでも、国際競争力が約束されていたわけでもありませんでした。国別の特徴を持ちながら同地域で発展していく成長過程をたどります。台湾の半導体産業を取り上げます。従来の産業発展の発端は、製品にしても、生産方法にしても多くの場合、欧米日の諸国を発祥地とし、発展途上国はそれを受容する過程でした。アジア発のいくつかの文化産業－音楽、アニメーション、ドラマなどーを取り上げ、世界伝播の可能性を考える。アジア発の文化産業のビジネスを進化の観点からみる。産業史から学んだこと
第12回	V アジア アジアの文化産業①	
第13回	V アジア アジアの文化産業②	
第14回	総まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された資料(文献・論文)を事前に読んでください。講義関連で課される課題提出が求められます。本授業の準備・復習時間は、1.5時間を標準とします。提出課題については、優れた内容を取りまとめ、授業内容に関連する解説とともに他の受講生に共有していただきます。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。
参考資料あり（Hoppii）

【参考書】

藤本隆宏『産業競争力実証から理論へⅠ』産業競争力実証から理論へⅡ』岩波書店、2025年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年、中島裕喜『日本の電子部品産業 国際競争優位を生み出したもの』名古屋大学出版会、2019年、浅沼萬里『日本の企業組織 核心的適応のメカニズム 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997年、川上桃子『圧縮された産業発展－台湾ノートパソコン企業の成長メカニズム』名古屋大学出版会、2012年、韓載香『在日企業の産業経済史』名古屋大学出版会、2010年、韓載香『パチンコ産業史』名古屋大学出版会、2018年、金成政『K-POP 新感覚のメディア』岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

小テスト(40%)＋期末テスト(60%)の合計で評価します。
初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・関連映画や動画なども使用し、多方面の知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】

- ・金曜日 12：00～
- ・事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスはHoppiiの産業史Ⅰに提示します。

【関連科目】

日本経営史Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities after the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

【Grading Criteria /Policy】

The grade will be calculated based on a total of 100 points, with the midterm examination accounting for 40 points and the final examination accounting for 60 points.

中小企業論 I

稲垣 京輔

経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織行動について学びます。経営組織論と戦略論を理論的なベースとしながら、変革の主体としての中小企業、あるいはベンチャー企業の活動を事例を通じて理解を深めます。

本講義の目標は、一つは事業創造と起業について学ぶことです。第二に、中小企業のマネジメントについて学ぶことです。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業が存在します。

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

1 期末の定期試験：50 点満点（25 点未満は単位無効）

2 小テスト：50%（3 回以上の未受験は単位無効）

※小テストは 4 回以上おこない、講義内で指示する。

【到達目標】

本講義の目標は、一つは事業創造と起業について学ぶことです。第二に、中小企業のマネジメントについて学ぶことです。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業が存在します。

This lecture has the two main goal ; 1) to learn start-up and business creation; 2) to learn about SME management. In the process of responding to globalisation and rapid changes in technology and market needs, there are small and medium-sized enterprises that contribute to the revitalisation of the economy by building new business models.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は各回の PDF 版資料を講義前日までに hoppi に掲出します。講義の内容をレビューする小テストを講義内で 4～5 回ほど行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	イントロダクション 講義の進め方 起業の担い手、起業家を育む環境について
第 2 回	日本の事業創造の担い手	事業機会型と非事業機会型組織の事業創造
第 3 回	企業のしくみ(1)	【文献を読む】 小規模企業の組織
第 4 回	企業のしくみ(2)	大企業の組織と中小企業の比較
第 5 回	事業創造プロセス(1)	事業構想とスタートアップ・プロセス
第 6 回	事業創造プロセス(2)	事業発展のプロセス ベンチャー企業の成長と資源
第 7 回	事業創造プロセス(3)	企業家活動と戦略形成
第 8 回	事業戦略と組織マネジメント(1)	内なる戦略と競争優位性
第 9 回	事業戦略と組織マネジメント(2)	外への戦略と競争優位性
第 10 回	中小企業の変革マネジメント	プロジェクトベース組織 事業創造型組織 リーダーシップ
第 11 回	事業創造の支援(1)	社内ベンチャーと事業創造戦略
第 12 回	事業創造の支援(2)	大学発ベンチャーと産学官民連携
第 13 回	事業創造の支援(3)	インキュベーションと 企業家活動の活性化
第 14 回	まとめ	これまでの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

Review what you have learned in the class, and search for other cases that are different from the lecture in the assignment. The standard review time for this class is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料は、各自でダウンロードすること。

毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1 期末の定期試験：50 点満点（25 点未満は単位無効）

2 小テスト：50%（3 回以上の未受験は単位無効）

※小テストは 4 回以上おこない、講義内で指示する。

Regular exam at the end of the term: out of 50 points (invalid if less than 25 points)

Quizzes: 50% (Losing more than 3 times are invalid)

* The quiz will be given more than 4 times and will be instructed in the lecture.

【学生の意見等からの気づき】

期末試験だけでなく、より平常点や課題への積極的な取り組みを反映した評価をおこなうようにしました。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

This lecture has the two main goal ; 1) to learn start-up and business creation; 2) to learn about SME management. In the process of responding to globalization and rapid changes in technology and market needs, there are small and medium-sized enterprises that contribute to the revitalization of the economy by building new business models.

Review what you have learned in the class, and search for other cases that are different from the lecture in the assignment. The standard review time for this class is 4 hours.

Regular exam at the end of the term: out of 50 points (invalid if less than 25 points)

Quizzes: 50% (Losing more than 3 times are invalid) The quiz will be given more than 4 times and will be instructed in the lecture.

MAN200FC（経営学 / Management 200）

中小企業論 II

稲垣 京輔

経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 200 番台 経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織行動について学びます。経営組織論と戦略論を理論的なベースとしながら、変革の主体としての中小企業、あるいはベンチャー企業の活動を事例を通じて理解を深めます。

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

1 期末の定期試験：50 点満点（25 点未満は単位無効）

2 小テスト：50%（3 回以上の未受験は単位無効）

※小テストは 4 回以上おこない、講義内で指示する。

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

1 期末の定期試験：50 点満点（25 点未満は単位無効）

2 小テスト：50%（2 回以上の未受験は無効）

※小テストは 4 回以上おこない、講義内で指示する。

【到達目標】

中小企業論 II では、中小企業間の連携やネットワークといった企業間の関係のマネジメントを学習します。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業にフォーカスし、組織能力としてのネットワークについて学ぶことが目標です。

In this lecture, we learn about the management of inter-company relationships, such as collaboration and networks between small and medium-sized enterprises. In the process of responding to globalization and rapid changes in technology and market needs, we focus on small and medium-sized enterprises that are building new business models and contributing to economic revitalization, and our goal is to learn about networks as organizational capabilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は各回の PDF 版資料を講義前日までに hoppi に掲出します。講義の内容をレビューする小テストを講義内で 4～5 回ほど行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	イントロダクション 講義の進め方 中小企業とは何か ネットワーク組織論
第2回	ネットワークと組織 (1)	市場・組織・ネットワーク
第3回	ネットワークと組織 (2)	企業間のネットワーク 企業内ネットワーク
第4回	中小企業の戦略的ネットワーク (1)	下請け型ネットワークからの脱却
第5回	中小企業の戦略的ネットワーク (2)	中小企業のハブ グローバルニッチトップ企業
第6回	相互行為のネットワーク (1)	ネットワークの 2 面性について考える
第7回	相互行為のネットワーク (2)	連携と協働
第8回	ソーシャルキャピタル	新しい価値創造におけるネットワーク開発 ネットワーク構築による事業再生
第9回	地域とネットワーク (1)	中小企業のネットワーク化
第10回	地域とネットワーク (2)	地域ネットワークが育む企業活動と協働
第11回	中小企業のネットワーク活用	場の形成、コミュニティ、ワーク ショップによる開かれた協働の形
第12回	事業創造型のネットワーク構築	オープン型ネットワーク クローズド型ネットワーク
第13回	まとめ	これまでのまとめ
第14回	期末テスト	論述形式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

Review what you have learned in the class, and search for other cases that are different from the lecture in the assignment. The standard review time for this class is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料は、各自でダウンロードすること。

毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1 期末の定期試験：50 点満点（25 点未満は単位無効）

2 小テスト：50%（3 回以上の未受験は単位無効）

※小テストは 4～5 回おこない、講義内で指示する。

Regular exam at the end of the term: out of 50 points (invalid if less than 25 points)

Quizzes: 50% (loosing more than 3 times are invalid)

* The quiz will be given 4 or 5 times and will be instructed in the lecture.

【学生の意見等からの気づき】

期末試験だけではなく、より平常点や課題への積極的な取り組みを反映した評価をおこなうようにしました。

【関連科目】

経営社会学 I / II、経営組織論 I / II、組織行動論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、経営管理論 I / II、経営戦略論 I / II、日本経営論 I / II

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

In this lecture we mainly have a goal to learn on the management of relationships between SMEs such as collaboration and networks between SMEs. In the process of responding to globalization and rapid changes in technology and market needs, we will focus on SMEs that contribute to the revitalization of the economy by building new business models. The challenge is to learn why some SMEs with such outstanding abilities emerge and their management skills.

In this lecture, we learn about the management of inter-company relationships, such as collaboration and networks between small and medium-sized enterprises. In the process of responding to globalization and rapid changes in technology and market needs, we focus on small and medium-sized enterprises that are building new business models and contributing to economic revitalization, and our goal is to learn about networks as organizational capabilities.

Review what you have learned in the class, and search for other cases that are different from the lecture in the assignment. The standard review time for this class is 4 hours.

Regular exam at the end of the term: out of 50 points (invalid if less than 25 points)

Quizzes: 50% (Losing more than 3 times are invalid) The quiz will be given more than 4 times and will be instructed in the lecture.

MAN200FC（経営学 / Management 200）

オペレーションズ・マネジメント

吉村 喜予子

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、オペレーションズマネジメントの概念、原則、問題、および実践を紹介します。

コースのメインテーマは、製品を生産する組織およびサービスを提供する組織において、効果的なオペレーションのための管理プロセス（オペレーションプロセス）にあります。

各回のテーマには、オペレーション戦略、プロセス設計、生産能力の計画、施設の位置と設計、予測、生産スケジューリング、在庫管理、品質保証、およびプロジェクトマネジメントが含まれます。

これらのテーマは、実際の組織のオペレーションのシステムを想定して構築されています。

【到達目標】

このコースの目的は、企業組織の「オペレーションズマネジメントとは【なにか】、そして【どのように運営されるのか】について理解を深めることです。このコース修了時に学生に期待するのは以下の点です。

- 組織の製造およびオペレーションズマネジメント機能に対する理解が深まる。
- 組織や国における生産性と競争力の重要性を理解する。
- 組織における効果的な生産およびオペレーションズマネジメントの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業（#1セッションを除く）

このコースは、講義およびケースディスカッションによって、学生がオペレーションズマネジメントの基本的な知識を掴むことができます。

また、実際の企業管理を理解してもらう為に簡単なシュミレーションを実施します。

ケースが議論される際、そしてシュミレーション自習の際には、学生の積極的な参加を期待しています。教室内の発言や意見は「正しい」または「間違っている」ということはありません。したがって、学生に対しては、ディスカッションのスキル向上のために、質問や意見を述べることを期待します。課題のフィードバックはクラス内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要 オペレーションズ・マネジメントとは何か？
第2回	競争力と生産性	生産計画 競争上の優先事項
第3回	フォークキャストイング (Forecasting: 予測)	予測とは 需要の特性 予測と運用管理
第4回	製品・サービス設計	製品設計とはなにか サービス設計とはなにか
第5回	キャパシティプランニング	キャパシティとは？ リソースの予測と配置 製品とサービスのキャパシティプランニング 意思決定理論
第6回	プロセス・設備・レイアウトをデザイン（設計）する	プロセスとは プロセス、設備、レイアウトの必要性
第7回	業務の設計と測定	業務設計
第8回	中間クイズ 品質管理	業務の質と測定方法 品質とはなにか 品質は競争力である
第9回	サプライチェーン	サプライチェーン・マネジメント グルーパ・ルサプライ
第10回	シュミレーション(小規模生産シュミレーションの事例と考察)	シュミレーションを通じて、生産の課題・改善を学ぶ レポート提出あり

第11回	ケーススタディ	ケーススタディまたは外部講師の講義によるオペレーションマネジメントの理解を目指す プロジェクトとは何か？ スケジュール管理方法
第12回	プロジェクトのスケジュール設定と管理	JIT（Just-in-Time）およびリーン
第13回	JITとリーンオペレーション	(LEAN)オペレーション
第14回	最終クイズ・コースまとめ	最終クイズ・コースまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示される講義資料について予習（2時間）

授業後に講義でディスカッションされた内容について復習（2時間）

【テキスト（教科書）】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲載する。

No textbook. Course materials will be uploaded on Hoppi.

【参考書】

講義中に指示する。

Instructions will be given during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

各回小テスト（QUIZという）の累計：50%

中間クイズ：10%

ケースレポート（シュミレーションに基づく）：20%

最終クイズ（#14クラス内）：20%

合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

QUIZの際に、「わからなかったこと（もう少し説明してほしいこと）」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

中間・期末試験には携帯は使用できない。

【その他の重要事項】

教員は、実務経験のある教員である

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course focuses on the concepts, principles, issues, and practices of operations management. The main theme of the course is centered around the management processes (operation processes) for effective operations in organizations involved in the production of goods and the provision of services.

(Learning Objectives)

Each session's theme includes operation strategy, process design, production capacity planning, facility location and design, forecasting, production scheduling, inventory management, quality assurance, and project management.

These themes are constructed with the assumption of real organizational operation systems in mind.

(Learning activities outside of classroom)

Prepare for the lecture material presented before class (2 hours)

Review of the content discussed in the lecture after class (2 hours)

(Grading Criteria /Policy)

The cumulative total of each quiz (called QUIZ): 50%.

Mid-term quiz: 10%.

Case report (simulation): 20%.

Final quiz (#14 in-class): 20%.

Total: 100%.

MAN200FC（経営学 / Management 200）

オペレーションズ・マネジメント

吉村 喜予子

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、オペレーションズマネジメントの概念、原則、問題、および実践を紹介します。

コースのメインテーマは、製品を生産する組織およびサービスを提供する組織において、効果的なオペレーションのための管理プロセス（オペレーションプロセス）にあります。

各回のテーマには、オペレーション戦略、プロセス設計、生産能力の計画、施設の位置と設計、予測、生産スケジューリング、在庫管理、品質保証、およびプロジェクトマネジメントが含まれます。

これらのテーマは、実際の組織のオペレーションのシステムを想定して構築されています。

【到達目標】

このコースの目的は、企業組織の「オペレーションズマネジメントとは【なにか】、そして【どのように運営されるのか】について理解を深めることです。このコース修了時に学生に期待するのは以下の点です。

- 組織の製造およびオペレーションズマネジメント機能に対する理解が深まる。
- 組織や国における生産性と競争力の重要性を理解する。
- 組織における効果的な生産およびオペレーションズマネジメントの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業（＃1セッションを除く）

このコースは、講義およびケースディスカッションによって、学生がオペレーションズマネジメントの基本的な知識を掴むことができます。

また、実際の企業管理を理解してもらう為に簡単なシュミレーションを実施します。

ケースが議論される際、そしてシュミレーション自習の際には、学生の積極的な参加を期待しています。教室内の発言や意見は「正しい」または「間違っている」ということはありません。したがって、学生に対しては、ディスカッションのスキル向上のために、質問や意見を述べることを期待します。課題のフィードバックはクラス内で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要 オペレーションズ・マネジメントとは何か？
第2回	競争力と生産性	生産計画 競争上の優先事項
第3回	フォークキャストイング (Forecasting: 予測)	予測とは 需要の特性 予測と運用管理
第4回	製品・サービス設計	製品設計とはなにか サービス設計とはなにか
第5回	キャパシティプランニング	キャパシティとは？ リソースの予測と配置 製品とサービスのキャパシティプランニング 意思決定理論
第6回	プロセス・設備・レイアウトをデザイン（設計）する	プロセスとは プロセス、設備、レイアウトの必要性
第7回	業務の設計と測定	業務設計
第8回	中間クイズ 品質管理	業務の質と測定方法 品質とはなにか 品質は競争力である
第9回	サプライチェーン	サプライチェーン・マネジメント グルーパ・ルサプライ
第10回	シュミレーション (小規模生産シュミレーションの事例と考察)	シュミレーションを通じて、生産の課題・改善を学ぶ レポート提出あり

第11回	ケーススタディ	ケーススタディまたは、外部講師による講義によるオペレーションマネジメントの理解を目指す プロジェクトとは何か？ スケジュール管理方法
第12回	プロジェクトのスケジュール設定と管理	JIT（Just-in-Time）およびリーン
第13回	JITとリーンオペレーション	（LEAN）オペレーション
第14回	最終クイズ・コースまとめ	最終クイズ・コースまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示される講義資料について予習（2時間）

授業後に講義でディスカッションされた内容について復習（2時間）

【テキスト（教科書）】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲載する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回小テスト（QUIZという）の累計：50%

中間クイズ：10%

ケースレポート（シュミレーションに基づく）：20%

最終クイズ（＃14クラス内）：20%

合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

QUIZの際に、「わからなかったこと（もう少し説明してほしいこと）」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

携帯は、中間試験・期末試験には使えない。

【その他の重要事項】

教員は、実務経験のある教員である

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course focuses on the concepts, principles, issues, and practices of operations management. The main theme of the course is centered around the management processes (operation processes) for effective operations in organizations involved in the production of goods and the provision of services.

(Learning Objectives)

Each session's theme includes operation strategy, process design, production capacity planning, facility location and design, forecasting, production scheduling, inventory management, quality assurance, and project management.

These themes are constructed with the assumption of real organizational operation systems in mind.

(Learning activities outside of classroom)

Prepare for the lecture material presented before class (2 hours)

Review of the content discussed in the lecture after class (2 hours)

(Grading Criteria /Policy)

The cumulative total of each quiz (called QUIZ): 50%.

Mid-term quiz: 10%.

Case report (simulation): 20%.

Final quiz (#14 in-class): 20%.

Total: 100%.

ECN300FC（経済学 / Economics 300）

国際金融論 I

羅 鵬飛

経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、国際金融の基本的な概念と理論を学び、国際金融市場で発生する様々な事象に対する理論的かつ実践的な理解を深めることを目的とします。特に、国際金融市場のダイナミクス、為替レートの決定要因、国際金融政策の実務、さらには国際金融危機や規制の影響を理解することを通じて、経営学部生がグローバルビジネス環境で活用できる知識とスキルを習得することを目指します。

【到達目標】

国際金融論 I では、国際金融市場の基本構造や理論を理解し、それを市場で応用する力を養うことに重点を置きます。具体的には、主要な理論モデルの適用、為替レートの決定理論、国際収支のメカニズム、通貨危機のリスク管理を学びます。国際金融論 II では、開放マクロ経済の概念を深め、マクロ経済政策や国際協調を評価・考察する力を培います。これには、国際投資の影響、国際金融や多国籍企業の役割、新興市場などのトピックも含まれます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義資料を教室前方の画面に投影し、必要に応じて板書も併用しながら講義を行います。講義資料および追加資料は、授業支援システムを通じて配布します。小テスト等の解説は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国際金融の分析対象と理解に必要な知識を紹介
第2回	為替レート（1）	為替レートの概念、円安・円高、為替取引
第3回	為替レート（2）	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、為替レートが経済に与える影響
第4回	外国為替市場の概観	外国為替市場の構造、OTCとインターバンク市場、24時間取引、オーバーラップ取引 時間、為替取引の変遷と近況
第5回	国際収支統計	国際収支表の構成、経常収支、金融収支、資本移転収支、日本の国際収支統計
第6回	購買力平価	商品の裁定取引、一物一価、絶対購買力平価、相対購買力平価
第7回	前期授業の総括と中間試験	前期授業の内容総括、中間試験
第8回	金利平価（1）：カバー付き金利平価	金利裁定、CIPの導出
第9回	金利平価（2）：カバーなし金利平価	UIPとCIPの比較、UIPの導出、合理的期待仮説
第10回	国際通貨制度	国際通貨制度の定義、ブレトンウッズ体制、現行の国際通貨制度
第11回	国際通貨と基軸通貨	国際通貨・基軸通貨の役割、データで国際通貨使用状況の確認、日本の貿易建値通貨選択
第12回	基軸通貨国の特権	双子の赤字、対外資産・負債の通貨建ての非対称性、基軸通貨国の特権
第13回	ユーロ圏の行方	戦後の欧州統合とユーロの導入、最適通貨圏理論、欧州ソブリン危機、アジア通貨単位 (AMU)
第14回	後期授業の総括	後期授業内容の復習、質問対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。講義資料を開講後に授業支援システムにて配布します。

【参考書】

以下の参考書はおすすめです。

図書館蔵書：

佐々木百合、『国際金融論入門』、新世社、2017年

清水順子・大野早苗・松原・川崎健太郎、『徹底解説 国際金融（第2版）』日本評論社、2024年

伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』、新世社、2022年

橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ（新版）』、2019

【成績評価の方法と基準】

小テスト/中間試験 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、必要に応じて具体例や補足説明を加え、学生の理解を確認しながら授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

国際金融論 I と国際金融論 II はセメスター科目として独立して履修可能であるが、国際金融論 II は国際金融論 I の知識を前提とする場合があるので通年で履修することが望ましい。

【関連科目】

国際経済論 I / II、金融論 I / II、証券経済論 I / II、日本経済論 I / II、経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture series, "International Finance I / II," is designed to provide students with a solid foundation in the concepts and theories essential to understanding international financial markets. The course is divided into two parts. In the first part, students will explore the basic structure of international financial markets, key theoretical models, exchange rate determination, balance of payments mechanisms, and the management of currency crisis risks. The second part of the course will delve into open macroeconomic concepts, focusing on the evaluation and analysis of macroeconomic policies and international cooperation. Topics such as the impact of international investments, the roles of multinational corporations, and emerging markets will also be covered. Through this course, students will not only gain theoretical insights but also develop practical skills that can be applied in global business settings.

Students are required to download and print course materials from the learning management system in advance and bring them to class. Additionally, they should review the previous lecture's content before each session. The standard preparation and review time for each class is approximately two hours.

Assessment is based on four quizzes (30%), a mid-term exam (30%), and a final exam (40%). While "International Finance I" and "International Finance II" can be taken as independent semester courses, it is recommended to take both as the content of "International Finance II" builds on the knowledge acquired in "International Finance I."

ECN300FC（経済学 / Economics 300）

国際金融論Ⅱ

羅 鵬飛

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、国際金融の基本的な概念と理論を学び、国際金融市場で発生する様々な事象に対する理論的かつ実践的な理解を深めることを目的とします。特に、国際金融市場のダイナミクス、為替レートの決定要因、国際金融政策の実務、さらには国際金融危機や規制の影響を理解することを通じて、経営学部生がグローバルビジネス環境で活用できる知識とスキルを習得することを目指します。

【到達目標】

国際金融論Ⅰでは、国際金融市場の基本構造や理論を理解し、それを市場で応用する力を養うことに重点を置きます。具体的には、主要な理論モデルの適用、為替レートの決定理論、国際収支のメカニズム、通貨危機のリスク管理を学びます。国際金融論Ⅱでは、開放マクロ経済の概念を深め、マクロ経済政策や国際協調を評価・考察する力を培います。これには、国際投資の影響、国際金融や多国籍企業の役割、新興市場などのトピックも含まれます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義資料を教室前方の画面に投影し、必要に応じて板書も併用しながら講義を行います。講義資料および追加資料は、授業支援システムを通じて配布します。小テスト等の解説は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国際金融の分析対象と理解に必要な知識、国際金融論Ⅰ内容を復習
第2回	為替レート決定要因の再考	短期・長期為替決定モデルの制限を 実際データを利用して解説
第3回	伸縮価格マネタリー・アプローチ	伸縮価格マネタリー・アプローチの 導出、伸縮マネタリー・アプローチ による為替決定要因、データ確認
第4回	硬直価格マネタリー・アプローチ	貨幣の中立性、硬直価格マネタリー・ アプローチの導出、オーバーシュ ット、伸縮・硬直モデルの比較と政策 的インプリケーション
第5回	ポートフォリオ・アプローチ	ポートフォリオ、ポートフォリオ・ア プローチの導出、ポートフォリオ・ア プローチにおける為替相場決定要因
第6回	為替介入	為替介入の概念・目的・政策ツール、 不胎化政策、日本の非対称的介入
第7回	前期授業の総括と中間試験	前期授業の内容総括、中間試験
第8回	為替レートと貿易	国際収支の発展段階説、マーシャル・ ラーナー条件、 Jカーブの理論、交易条件
第9回	マンデル・フレミング・モデル（1）：基本モデル	閉鎖経済LS-LMモデル、開放経済へ の拡張、マンデル・フレミング・モ デルの導出
第10回	マンデル・フレミング・モデル（2）：固定相場制と変動相場制の経済政策効果	MFモデルの基本設定の再確認、財政 政策・金融政策の基礎、固定相場制に おける政策効果、変動相場制におけ る政策効果、日本のケーススタディ
第11回	非伝統的金融政策	伝統的な金融政策、非伝統的な金融 政策、Zero Lower Bound、日本の 量的質的緩和（QQE）
第12回	債券（1）	債券の種類、国債、債券の利回り、 債券価格の動向
第13回	債券（2）	債券のリスク、債券価格、信用格付 け、安全資産の米国国債、イールド カーブ
第14回	後期授業の総括	後期授業内容の復習、質問対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。講義資料を開講後に授業支援システムにて配布します。

【参考書】

以下の参考書はおすすめです。

図書館蔵書：

佐々木百合、『国際金融論入門』、新世社、2017年

清水順子・大野早苗・松原・川崎健太郎、『徹底解説 国際金融（第2版）』日本評論社、2024年

伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』、新世社、2022年

橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ（新版）』、2019

【成績評価の方法と基準】

小テスト/中間試験 40％、期末試験 60％

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、必要に応じて具体例や補足説明を加え、学生の理解を確認しながら授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

国際金融論Ⅰと国際金融論Ⅱはセメスター科目として独立して履修可能であるが、国際金融論Ⅱは国際金融論Ⅰの知識を前提とする場合があるので通年で履修することが望ましい。

【関連科目】

国際経済論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱ、経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture series, "International Finance I / II," is designed to provide students with a solid foundation in the concepts and theories essential to understanding international financial markets. The course is divided into two parts. In the first part, students will explore the basic structure of international financial markets, key theoretical models, exchange rate determination, balance of payments mechanisms, and the management of currency crisis risks. The second part of the course will delve into open macroeconomic concepts, focusing on the evaluation and analysis of macroeconomic policies and international cooperation. Topics such as the impact of international investments, the roles of multinational corporations, and emerging markets will also be covered. Through this course, students will not only gain theoretical insights but also develop practical skills that can be applied in global business settings.

Students are required to download and print course materials from the learning management system in advance and bring them to class. Additionally, they should review the previous lecture's content before each session. The standard preparation and review time for each class is approximately two hours.

Assessment is based on four quizzes (30%), a mid-term exam (30%), and a final exam (40%). While "International Finance I" and "International Finance II" can be taken as independent semester courses, it is recommended to take both as the content of "International Finance II" builds on the knowledge acquired in "International Finance I."

MAN300FC（経営学 / Management 300）

グローバル経営戦略論 I

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進んだ現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっています。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 海外市場への参入戦略、現地での経営戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式（オンデマンド）とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム(WebClass)に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法も、学習支援システムに掲載します。授業計画にある14回分を、毎週1回分ずつ公開していきます。授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題には締め切り日があります。多くの場合、オンデマンド授業が公開されてから2週間後です。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義に関するオリエンテーション 国際経営とは何か
第2回	グローバルイゼーション	グローバルイゼーションの促進要因 と企業への影響
第3回	グローバル・ビジネス環境（1）	企業が外国で直面する本国とは異なる政治・経済・法システム
第4回	グローバル・ビジネス環境（2）	新興経済と移行経済
第5回	文化的距離（1）	企業が外国で直面する本国とは異なる社会文化
第6回	文化的距離（2）	文化の次元
第7回	海外直接投資	海外直接投資の現状 海外直接投資の動機と類型
第8回	多国籍企業	多国籍企業の特徴
第9回	新興国からの多国籍企業	新興国を本国とする多国籍企業の特徴
第10回	企業の国際化理論（1）	企業の海外進出の動機を説明する理論
第11回	企業の国際化理論（2）	OLIパラダイム 内部化理論
第12回	企業の国際化理論（3）	企業の地理的多角化を説明する理論
第13回	エントリー戦略（1）	いつ、どこに参入するのか
第14回	エントリー戦略（2）	エントリー・モードの類型と各類型の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のための準備・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

- 1-2回：身近なグローバルイゼーションの例を見つける
- 3-4回：国を1つ選び、日本とのビジネス環境の違いを調べる
- 5-6回：国を1つ選び、日本との文化の違いを調べる
- 7-8回：企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる
- 9回：新興国を本国とする企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる
- 10-12回：企業の国際化に関する理論を調べる
- 13-14回：完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いを調べる

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

Hill, C.W.L. &Hult, G.T.M. 2018 International Business: Competing in the Global Marketplace (12th ed.). McGraw-Hill Education, NY.
Collinson, S., Narula, R. &Rugman, A.M. 2020. International Business (8th ed.). Pearson Education: UK.
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100%

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくことで理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

As globalization progresses, firms increasingly cross national borders. Not only large multinational enterprises but also small- and medium-sized firms and startups are becoming more actively engaged in international business. As a result, global business strategy has become an integral part of strategic management. However, due to differences between foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks in international business studies. Students will learn how firms gain competitive advantages in foreign markets and develop the ability to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal for students in this course is to understand the basics of global business strategy, including the global business environment, foreign direct investment, and entry strategy. Students are also expected to understand the theoretical foundations of global business strategy. By the end of this course, students will have developed the ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to complete assignments, read assigned materials, and review their lecture notes. More than four hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on a term-end examination (100%). Scores from in-class exercises will be added to the term-end examination scores as bonus points.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

グローバル経営戦略論 II

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進んだ現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっています。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 国際人材戦略、国際提携戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式（オンデマンド）とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム(WebClass)に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法も、学習支援システムに掲載します。授業計画にある14回分を、毎週1回分ずつ公開していきます。授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題には締め切り日があります。多くの場合、オンデマンド授業が公開されてから2週間後です。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義に関するオリエンテーション グローバル経営戦略論Iの復習
第2回	国際経営戦略（1）	経営戦略の基礎 グローバル・インテグレーションと ローカル・レスポンスビジネス
第3回	国際経営戦略（2）	グローバル戦略
第4回	国際経営戦略（3）	マルチドメスティック戦略
第5回	国際経営戦略（4）	多国籍企業が戦略を実行するための 組織
第6回	多国籍企業の地域戦略	多国籍企業の地域内拡大 地域内拡大のベネフィット
第7回	国際提携戦略（1）	国際戦略的提携の締結
第8回	国際提携戦略（2）	国際戦略的提携のマネジメント
第9回	国際提携戦略（3）	国際戦略的提携のリスク
第10回	言語障壁（1）	多国籍企業内での言語の役割
第11回	言語障壁（2）	言語障壁が多国籍企業に及ぼす影響
第12回	多国籍企業の人材戦略（1）	多国籍企業の人材政策の類型
第13回	多国籍企業の人材戦略（2）	海外派遣者のマネジメント
第14回	多国籍企業の人材戦略（3）	海外子会社の現地化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のための準備・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1回：グローバル経営戦略論Iの内容の復習

- 2-5回：製品やサービスを1つ選び、どのように海外に販売するか考える
6回：全世界にビジネスを拡大することと、ヨーロッパや東南アジアなど地域内でのみビジネスを拡大することの違いを考える
7-9回：国際戦略的提携の事例を調べる
10-11回：言葉の壁が多国籍企業の経営に与える影響を考える
12-14回：どのような場合に海外子会社の人材現地化を進めるべきか考える

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

Hill, C.W.L. &Hult, G.T.M. 2018 International Business: Competing in the Global Marketplace (12th ed.). McGraw-Hill Education, NY.
Collinson, S., Narula, R. &Rugman, A.M. 2020. International Business (8th ed.). Pearson Education: UK.
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100%

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Iと併せて履修してください。
経営戦略論I/IIを履修しておくとう理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

As globalization progresses, firms increasingly cross national borders. Not only large multinational enterprises but also small- and medium-sized firms and startups are becoming more actively engaged in international business. As a result, global business strategy has become an integral part of strategic management. However, due to differences between foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks in international business studies. Students will learn how firms gain competitive advantages in foreign markets and develop the ability to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal for students in this course is to understand the basics of global business strategy, including foreign subsidiary staffing, global strategic alliances, and standardization and localization strategies. Students are also expected to understand the theoretical foundations of global business strategy. By the end of this course, students will have developed the ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to complete assignments, read assigned materials, and review their lecture notes. More than four hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on a term-end examination (100%). Scores from in-class exercises will be added to the term-end examination scores as bonus points.

日本経営史Ⅰ

二階堂 行直

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
 ・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
 ・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
 ・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
 ・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
 ①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
 ②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）をこなす。
 ③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
 ・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。
 ・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。
 ・質疑応答は、基本的にはメールで対応します。全員に周知すべき質問は、別途取り上げます。受講者数がかなりの多数に上り、かつ課題の分量自体が多いため、提出された課題への一律・個別のフィードバックは困難な状況です。ご希望がありましたら、個別にメールをいただければ、可能な限り対応します。
 ・提出された課題において、不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。
 ※不正行為の定義・処分基準： https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第4回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第5回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第6回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第7回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第8回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬宰平
第9回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第10回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第11回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第12回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第13回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第14回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
 ・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
- ②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）
- ③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
- ④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）
- ⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
- ⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
- ⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
- ⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
- ⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橋川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）
- ⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60％（実施回数で均等配分）、期末課題40％で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。
 ・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
 ・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。
 ・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
 ・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
 ・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。
 ・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、勘弁に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
 ・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
 ・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ
 ・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
 ・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

- ・ Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

- ・ Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

- ・ After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.

- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。

・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。

・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。

・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。

・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。

①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。

②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）を何回かこなす。

③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。

・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。

・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

・質疑応答は、基本的にはメールで対応します。全員に周知すべき質問は、別途取り上げます。受講者数かなりの多数に上り、かつ課題の分量自体が多いため、提出された課題への一律・個別のフィードバックは困難な状況です。ご希望がありましたら、個別にメールをいただければ、可能な限り対応します。

・提出された課題において、不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。

※不正行為の定義・処分基準： https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_pdf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第3回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第4回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第5回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済①
第6回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済②
第7回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第8回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第9回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第10回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第11回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第12回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第13回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第14回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。

・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）

②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）

③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）

④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）

⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）

⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）

⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）

⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）

⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）

⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60%（実施回数で均等配分）、期末課題40%で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、動画中に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ

・日本経営論Ⅰ／Ⅱ

・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

- ・ After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.
- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

企業評価論 I

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えて、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュ・フロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H.ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

K.G.パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
2. Understand major financial ratios and performance indicators
3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis (Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

企業評価論Ⅱ

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目300 番台 経営戦略学科専門科目300 番台 経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解を復習する
第4回	収益性の分析（1）	純事業資産利益率を理解する。
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第7回	収益性の分析（4）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第8回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第9回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第10回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第11回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第12回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第13回	株主価値評価の理論（2）	超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する
第14回	貸借対照表項目と損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表と損益計算書を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

経営分析論Ⅰ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（１）財務諸表分析の基本的な枠組み（２）データベースを利用した財務指標の算出、（３）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFSおよび基礎統計学の適用	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセルのゴールシークを用いた損益分岐点の算出
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用』(朝日新書)朝日新聞出版、2012年。
- 7) 島邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析論 II

福多 裕志

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（１）株価関連指標、（２）総合評価の方法、（３）確実性、リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、（４）創出した情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	統計手法の確認、一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理の考え方
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

PRI300FC（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

経営のための統計学Ⅰ

牧草 夏実

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営・経済学のデータ分析に必要な統計学の発展的内容について学ぶ。基礎統計学の復習から始め、統計解析ソフトRを用いたデータ処理・可視化・推測統計・回帰分析・多変量解析までを扱い、実データ（経営・経済分野）を使用し、実務や研究に活用可能な分析スキルを習得する。

【到達目標】

- ・回帰分析や分散分析を経営事例に適用でき、統計的に正しく解釈・提案できる。
- ・統計モデルについて、数学的問題による解法を認識し、Rのパッケージを用いずに計算できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

統計学の理論や経営学・経済学分野での応用事例を講義形式で解説し、Rを用いた実習を行う。実習では、適宜時間をとりながら各自のノートPCで操作を行ってもらい。机間巡視を行い、困っている学生には個別にサポートを行うことで、全員が使いこなせるように支援する。

演習の解答例は授業内で解説し、提出課題については採点后に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・Rの基本操作	授業の進め方と評価方法を説明する。RとRStudioの導入方法および基本的な操作方法を習得する。
第2回	データの読み込みと整形	CSV・ExcelデータをRに読み込み、データフレーム操作や変数の型、欠損値処理方法を学ぶ。
第3回	データの可視化（基礎）	棒グラフ、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図を作成し、経営データの傾向を読み取る方法を習得する。
第4回	記述統計	平均、中央値、分散、標準偏差、相関係数などの指標を計算し、データを要約する方法を学ぶ。
第5回	確率の基礎	確率の定義、加法法則・乗法法則、条件付き確率を理解し、経営上のリスク分析に応用する。
第6回	確率分布	二項分布、正規分布、t分布などを理解し、Rで分布の描画や確率計算を行う。
第7回	標本分布と推定	標本平均の分布、点推定・区間推定の考え方を学ぶ。実データでサンプル抽出と推定値の計算演習を行う。
第8回	仮説検定1	母平均・母比率の仮説検定を学ぶ。Rでt検定・比率検定を実行し、結果の解釈を行う。
第9回	仮説検定2	2つの母集団の母平均・母比率の差の検定（等分散・不等分散）を学ぶ。Rでの実践演習と結果解釈を学ぶ。
第10回	単回帰分析	単回帰モデルの概念、最小二乗法による係数推定。Rで売上・広告費データを分析し、係数の解釈・決定係数について学ぶ。
第11回	重回帰分析	複数説明変数による売上予測モデルを構築し、多重共線性や変数選択の方法を学ぶ。Rで演習し、モデル改善方法を学ぶ。
第12回	一般化線形モデル（GLM）	ロジスティック回帰（購入/非購入などの二値データ）およびポアソン回帰（来店客数など件数データ）の概念、モデル構築、係数の解釈、Rでの実装を学ぶ。
第13回	モデル診断・応用演習	回帰診断（残差分析、外れ値検出）とモデル改善方法について学ぶ。公開経営データを用いた探索的分析からモデル作成までの演習を行う。

第14回 まとめ・発表

第13回の演習についての分析結果発表やディスカッションを行う。本授業全体の復習とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や指定のRスクリプトを確認し、基礎知識の予習・復習を行う。実習課題や演習問題を通して、Rでの操作を定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

本橋永至著『Rで学ぶ統計データ分析』オーム社
林 賢一著、下平 英寿編『Rで学ぶ統計的データ解析』講談社

【成績評価の方法と基準】

課題：50%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業の初回でRのインストールを行うため、ノートパソコンが学内のインターネットを利用できるように設定しておくこと。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学I/II
経営のための統計学II

【Outline (in English)】

This class will cover advanced statistical content necessary for data analysis in business and economics. Starting with a review of basic statistics, students will then use the statistical analysis software R to process data, create visualizations, and perform inferential statistics, regression analysis, and multivariate analysis. Using real data (from business and economics), students will acquire analytical skills applicable to practice and research.

Learning Objectives:

- ・ Be able to apply regression analysis and analysis of variance (ANOVA) to business cases, and interpret and make recommendations correctly from a statistical perspective.
- ・ Understand the solutions to statistical models from a mathematical standpoint and be able to perform calculations without relying on R packages.

Learning activities outside of classroom:
Prepare for and review basic knowledge by reviewing the distributed materials and designated R scripts. Students will master the operation of R through practical assignments and exercises. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading:

- Assignments 50%
- Final Report 50%

経営のための統計学Ⅱ

牧草 夏実

経営戦略学科専門科目300番 経営戦略学科専門科目300番 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経営・経済データ分析の応用力を養うため、回帰分析の発展的手法（リッジ回帰・ラッソ回帰・エラスティックネット回帰）やモデル評価、過学習の考え方、非線形手法までを学ぶ。Rを用いた実データ分析を通じて、複雑な経営データへの統計的アプローチを理解し、実務・研究で応用可能な分析力を習得することを目的とする。

【到達目標】

・線形回帰の発展的手法（リッジ・ラッソ・エラスティックネット回帰）を理解し、Rで適用できる。
・モデル評価や過学習の概念を理解し、適切な分析手法を選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

統計学の理論や経営学・経済学分野での応用事例を講義形式で解説し、Rを用いた実習を行う。実習では、適宜時間を取りながら各自のノートパソコンで操作を行ってもらい、机間巡視を行い、困っている学生には個別にサポートを行うことで、全員が使いこなせるように支援する。

演習の解答例は授業内で解説し、提出課題については採点后に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。RとRStudioの導入方法および基本的な操作方法を復習する。
第2回	Rの使い方	データフレーム操作、関数の使い方、データ可視化の復習。実務データを使った簡単な分析演習。
第3回	回帰の復習	単回帰・重回帰の復習。最小二乗法、回帰係数の解釈、決定係数、残差分析をRでの演習を通して復習する。
第4回	リッジ回帰1	リッジ回帰の理論（正則化の考え方）、正則化パラメータの意味について学ぶ。
第5回	リッジ回帰2	正則化パラメータの選択（クロスバリデーション）、モデルの解釈、予測精度の確認。
第6回	ラッソ回帰1	ラッソ回帰の理論（変数選択機能）、正則化パラメータの影響について学ぶ。
第7回	ラッソ回帰2	クロスバリデーションによる正則化パラメータの選択、重要変数の抽出と解釈について学ぶ。
第8回	エラスティックネット回帰1	リッジ回帰とラッソ回帰を組み合わせたエラスティックネット回帰の理論、2種のパラメータの意味について学ぶ。
第9回	エラスティックネット回帰2	実務データでモデル構築演習、パラメータ調整による変数選択と精度向上について学ぶ。
第10回	モデル評価の基本	予測精度評価（MSE、RMSE、R ² ）、交差検証、学習・テストデータ分割について学ぶ。
第11回	過学習の考え方	過学習とバイアス・分散トレードオフ、正則化手法の必要性を理解する。
第12回	非線形手法	多項式回帰、スプライン、決定木など非線形モデルの紹介。
第13回	実データ分析	公開経営データを用いて、回帰・正則化・モデル評価を一通り実施し、結果の解釈を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の分析結果を簡単に発表・ディスカッションを行い、授業全体の復習とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や指定のRスクリプトを確認し、基礎知識の予習・復習を行う。実習課題や演習問題を通して、Rでの操作を定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

本橋永至著『Rで学ぶ統計データ分析』オーム社
林 賢一著、下平 英寿編『Rで学ぶ統計的データ解析』講談社

【成績評価の方法と基準】

課題：50%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業の初回でRのインストールを行うため、ノートパソコンが学内のインターネットを利用できるように設定しておくこと。基礎統計学I/IIおよび経営のための統計学Iの知識を前提とする。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学I/II

経営のための統計学I

【Outline (in English)】

In this course, students will develop practical skills for business and economic data analysis by learning advanced regression techniques, including Ridge Regression, Lasso Regression, and Elastic Net Regression, as well as model evaluation, the concept of overfitting, and nonlinear methods. Through hands-on data analysis using R, students will gain an understanding of statistical approaches to complex business data and acquire analytical skills applicable to both professional practice and research.

Learning Objectives:

- ・ Understand advanced linear regression techniques (Ridge, Lasso, and Elastic Net regression) and be able to apply them using R.
- ・ Understand the concepts of model evaluation and overfitting, and be able to select appropriate analytical methods.

Learning activities outside of the classroom:

Review the distributed materials and designated R scripts in preparation for class. Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review. They will also master the operation of R through practical assignments and exercises.

Grading:

- Assignments: 50%
- Final Report: 50%

INF300FC（その他の情報学 / Information science 300）

システム管理論 I

高田 美樹

経営戦略学科専門科目300 番台経営戦略学科専門科目300 番台 経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（I）は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学の素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在 2 年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【補足】

本年度は、原則として「オンディマンド授業」である。各回の講義動画を受講し、アンケート、チェックテストに回答することで出席となる。各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。課題のフィードバックは Classroom を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第2回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第3回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第4回	要求分析（1）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第5回	要求分析（2）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第6回	外部設計（1）	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第7回	外部設計（2）	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第8回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第9回	テスト手法について（1）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第10回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第11回	IOTと社会（1）	IOTを用いた情報社会の基礎について学ぶ。
第12回	IOTと社会（2）	IOTを用いた情報社会の応用について学ぶ。
第13回	人工知能	人工知能について学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を WebClass より配布する。

【参考書】

「情報学基礎」(培風館) ISBN978-4-563-01605-0
http://www.baifukan.co.jp/cgi-bin/db/baifu_new_search.pl?ISBN=4-563-01605-5
 (後半の講義で使用)

【成績評価の方法と基準】

(課題) 定期試験 (80%)、確認テストおよび取り組み姿勢 (20%)
 【補足】

本年度は、オンディマンド授業であるので、具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィスアワー】

Classroom の限定公開コメントで双方向に対応する

【Outline (in English)】

【Course Outline】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

【Learning Objectives】

Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

INF300FC（その他の情報学 / Information science 300）

システム管理論Ⅱ

高田 美樹

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期（Ⅱ）は、ICTに関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】

情報学の基礎としてICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学の素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。課題のフィードバックはClassroomを通して行う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムとGoogle Classroomでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の定義について学ぶ。
第2回	情報セキュリティ	コンピュータウィルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第3回	新聞売り子問題（1）	新聞売り子問題について学ぶ。
第4回	新聞売り子問題（2）	新聞売り子問題について応用事情について学ぶ。
第5回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第6回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例について学ぶ。
第7回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第8回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第9回	ゲーム理論（3）確率用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第10回	データ理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第11回	データ理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第12回	線形計画法(1)	線形計画法について戦略を学ぶ。
第13回	線形計画法(2)	線形計画法の応用を学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料をWebClassより配布する。

【参考書】

開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

(課題) 確認テストおよび取り組み姿勢(20%)、定期試験 (80%)

【補足】

具体的な内容は学習支援システムとGoogle Classroomで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PC上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【オフィスアワー】

Classroomの限定公開コメントで双方向に対応する

【Outline (in English)】

【Course Outline】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

【Learning Objectives】

Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

日本経営史Ⅰ（教職用）

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）をこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。
・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。
・質疑応答は、基本的にはメールで対応します。全員に周知すべき質問は、別途取り上げます。受講者数がかなりの多数に上り、かつ課題の分量自体が多いため、提出された課題への一律・個別のフィードバックは困難な状況です。ご希望がありましたら、個別にメールをいただければ、可能な限り対応します。
・提出された課題において、不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。
※不正行為の定義・処分基準： https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第4回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第5回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第6回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第7回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第8回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬宰平
第9回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第10回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第11回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第12回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第13回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第14回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
- ②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）
- ③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
- ④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）
- ⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
- ⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
- ⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
- ⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
- ⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橋川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）
- ⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60％（実施回数で均等配分）、期末課題40％で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。
・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。
・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、勘弁に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

- ・ Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
- ・ Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.
- ・ After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.
- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

日本経営史Ⅱ（教職用）

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。

・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。

・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。

・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。

・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。

①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。

②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）を何回かこなす。

③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。

・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。

・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

・質疑応答は、基本的にはメールで対応します。全員に周知すべき質問は、別途取り上げます。受講者数かなりの多数に上り、かつ課題の分量自体が多いため、提出された課題への一律・個別のフィードバックは困難な状況です。ご希望がありましたら、個別にメールをいただければ、可能な限り対応します。

・提出された課題において、不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。

※不正行為の定義・処分基準： https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_pdf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第3回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第4回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第5回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済①
第6回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済②
第7回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第8回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第9回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第10回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第11回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第12回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第13回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第14回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。

・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）

②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）

③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）

④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）

⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）

⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）

⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）

⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）

⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）

⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60%（実施回数で均等配分）、期末課題40%で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は充分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、動画中に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ

・日本経営論Ⅰ／Ⅱ

・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

- ・ After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.
- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

産業史Ⅰ（教職用）

韓 載香

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 経営戦略学科専門科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第2次世界大戦までを対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、政策、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料（Hoppii）を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもらう場合やグループで議論することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業史Ⅰのためのイントロダクション	「企業と産業と経済発展の歴史」から学ぶこと
第2回	Ⅰ 産業史という方法：経済発展の鳥瞰	①産業という枠組みの有効性 ②産業構造変化の国際比較
第3回	Ⅱ 欧米 ①産業革命前夜	階級とファッションー繊維産業勃興の条件
第4回	Ⅱ 欧米 ②産業革命と綿工業と資本主義	グローバル経済とイギリスの綿工業1
第5回	Ⅱ 欧米 ②産業革命と綿工業と資本主義	グローバル経済とイギリスの綿工業2
第6回	Ⅱ 欧米 ③産業競争のダイナミズム	グローバル経済とドイツの鉄工業
第7回	Ⅱ 欧米 ④大量生産方式の定着とその意義	アメリカの自動車産業1
第8回	Ⅱ 欧米 ④大量生産方式の定着とその意義	アメリカの自動車産業2
第9回	Ⅲ 日本 ①経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：産銅業の産業化と環境問題	生産の急増は自然が提供する原料の供給量とのバランスを狂わせたが、自然との調和のなかで営んでいた鉱山周辺の農業にも影響を及ぼし、環境問題を発生させた。その結果としての企業の対応過程を追いかけ、その意味合いについて考える。
第10回	Ⅲ 日本 ②経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：別子暴動事件	産業化と働くということ：急激な需要増加によって生産増加が要求されたとき、産業内、企業はどのようにに対応し、産業成長の軌道に乗ることができるのでしょうか。労働の管理方法の変化やそれによる働き方の変容が見えてきます。
第11回	Ⅲ 日本 ③経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業(1)	賃金制度と産業発展：映画「あゝ野麦峠」から学ぶ

第12回 Ⅲ 日本
④経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業(2)

輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第一次大戦と都市化がもたらした産業構造の変化として重化学工業化に注目します。それに伴う社会の在り方として、重化学工業の定着、大企業の台頭という組織変化、働き方の変容を明らかにし、産業発展とその限界を理解していただきます。
第2次世界大戦までの産業発展の特徴

第13回 Ⅲ 日本
⑤重化学工業化の進展と限界

第14回 総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された資料（文献・論文）を事前に読んでください。講義関連で課される課題提出が求められます。本授業の準備・復習時間は、1.5時間を標準とします。提出課題については、優れた内容を取りまとめ、授業内容に関連する解説とともに他の受講生に共有していただきます。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。
参考資料あり（Hoppii）

【参考書】

藤本隆宏『産業競争力実証から理論へⅠ』産業競争力実証から理論へⅡ』岩波書店、2025年、川北稔『洒落たちのイギリス史』平凡社、1993年、S.D.チャップマン（佐村明知訳）『産業革命のなかの綿工業』見洋書房、1990年、角山栄編『講座西洋経済史Ⅱ産業革命の時代』同文館1979年、井上昭一『GMの研究：アメリカ自動車経営史』ミネルヴァ書房、1982年、ジョン・B.レイ（岩崎玄他訳）『アメリカの自動車：その歴史的展望』小川出版、1969年、湯沢威他編『国際競争力の経営史』有斐閣、2009年、武田晴人『日本経済史の事件簿』日本経済評論社、2008年、ジャネット・ハンター『日本の工業化と女性労働』阿部武司他訳、有斐閣、2008年、中林真幸『近代資本主義の組織』東京大学出版会、2003年、橋川武郎『日本電力発展のダイナミズム』名古屋大学出版会、2004年、宮本又郎他編『1からの経営史』碩学会、2014年、加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本企業』有斐閣、2013年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40％）＋期末テスト（60％）の合計で評価します。初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・関連映画や動画なども使用し、多面的な知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】
・金曜日12：00～
・事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスはHoppiiの産業史Ⅰに提示します。

【関連科目】

日本経営史Ⅰ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities until the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

【Grading Criteria /Policy】

The grade will be calculated based on a total of 100 points, with the midterm examination accounting for 40 points and the final examination accounting for 60 points.

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

産業史Ⅱ（教職用）

韓 載香

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目200番台 経営戦略学科専門科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第二次世界大戦後を対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、政策、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料（Hoppii）を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもらう場合やグループで議論することがあります。提出課題については、優れた内容を取りまとめ、授業内容に関連する解説とともに他の受講生に共有していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業史Ⅱのためのイントロダクション	第2次世界大戦後の世界経済
第2回	IV 日本(2) 消費革命と産業構造の変化①	高度成長期の準備： 短期間で国際競争力を獲得した日本の産業として、電気機械産業の発展の要因について、企業間競争に注目して理解していただきます。
第3回	IV 日本(2) 消費革命と産業構造の変化②	高度成長期の準備： 短期間で国際競争力を獲得した日本の産業として、電気機械産業の発展の要因について、企業間競争に注目して理解していただきます。
第4回	IV 日本(2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式①	機械産業は中小企業を含む広い範囲の諸産業との関連性があり、且つ大量の雇用を生み出すため、高度成長をけん引する分野として意義深いです。日本と他国の自動車産業を比較します。
第5回	IV 日本(2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式②	トヨタ生産方式の長い道のりと今日的意義についてみていきます。
第6回	IV 日本(2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式③	トヨタ生産方式のラインで働く人々
第7回	IV 日本(2) 機械工業と部品工業①	中小企業群は技術的制約から成長に対しては懐疑的見方で見られていました。中小企業の成長可能性について、成長していく自動車における組立メーカーと部品企業の深い取引関係から考えます。
第8回	IV 日本(2) 機械工業と部品工業②	電気機械の成長における部品企業の役割について説明します。
第9回	IV 日本(2) サービス産業化②――映画鑑賞「焼肉ドラゴン」から焼肉レストランの発祥について考える	日本に定着した焼肉食文化はどのようにして始まったのでしょうか。マイノリティ集住地域に注目して、この点について考えます。

第10回 IV 日本(2)
サービス産業化②――多様なニーズをビジネスに、焼肉の普及

第11回 V アジア
東アジアにおける半導体産業の発展①

第12回 V アジア
アジアの文化産業①

第13回 V アジア
アジアの文化産業②

第14回 総まとめ

娯楽業のなかでも大きな市場規模をもつのが外食産業ですが、独特な文化背景ともった焼肉レストランの定着に注目します。

日本、台湾、韓国における半導体産業の発展にはグローバル経済による興味深い連鎖的作用が影響し、また今日のようなあり方が予定されていたわけでも、国際競争力が約束されていたわけでもありませんでした。国別の特徴を持ちながら同地域で発展していく成長過程をたどります。台湾の半導体産業を取り上げます。従来の産業発展の発端は、製品にしても、生産方法にしても多くの場合、欧米の諸国を発祥地とし、発展途上国はそれを受容する過程でした。アジア発のいくつかの文化産業－音楽、アニメーション、ドラマなど－を取り上げ、世界伝播の可能性を考える。アジア発の文化産業のビジネスを進化の観点からみる。産業史から学んだこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された資料（文献・論文）を事前に読んでください。講義関連で課される課題提出が求められます。本授業の準備・復習時間は、1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。
参考資料あり（Hoppii）

【参考書】

藤本隆宏『産業競争力実証から理論へⅠ』『産業競争力実証から理論へⅡ』岩波書店、2025年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年、中島裕喜『日本の電子部品産業 国際競争優位を生み出したもの』名古屋大学出版会、2019年、浅沼萬里『日本の企業組織 核心的適応のメカニズム 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997年、川上桃子『圧縮された産業発展－台湾ノートパソコン企業の成長メカニズム』名古屋大学出版会、2012年、韓載香『在日企業の産業経済史』名古屋大学出版会、2010年、韓載香『パチンコ産業史』名古屋大学出版会、2018年、金成玖『K-POP 新感覚のメディア』岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40％）＋期末テスト（60％）の合計で評価します。詳しくは初回のとき説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・ 産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・ 関連映画や動画なども使用し、多面的な知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】

・ 金曜日 12：00～
・ 事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスはHoppiiの産業史Ⅰに提示します。

【関連科目】

日本経営史Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities after the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

【Grading Criteria /Policy】

The grade will be calculated based on a total of 100 points, with the midterm examination accounting for 40 points and the final examination accounting for 60 points.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅰ（2018年度以前入学者）

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅰでは、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論Ⅱでは、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論Ⅰの授業では、はじめに企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えて、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュ・フロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H.ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

K.G.パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

- 1.Understand financial statements in relation to corporate activities
- 2.Understand major financial ratios and performance indicators
- 3.Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis (Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅱ（2018年度以前入学者）

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解を復習する
第4回	収益性の分析（1）	純事業資産利益率を理解する。
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第7回	収益性の分析（4）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第8回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第9回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第10回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第11回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第12回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第13回	株主価値評価の理論（2）	超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する
第14回	貸借対照表項目と損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表と損益計算書を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析III（2018年度以前入学者）

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 〔春学期授業/Spring〕

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（１）財務諸表分析の基本的な枠組み（２）データベースを利用した財務指標の算出、（３）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFSおよび基礎統計学の適用	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセルのゴールシークを用いた損益分岐点の算出
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用』(朝日新書) 朝日新聞出版、2012年。
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅳ（2018年度以前入学者）

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（１）株価関連指標、（２）総合評価の方法、（３）確実性、リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、（４）創出した情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	統計手法の確認、一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理の考え方
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

国際経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進んだ現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっています。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 海外市場への参入戦略、現地での経営戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式（オンデマンド）とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム(WebClass)に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法も、学習支援システムに掲載します。授業計画にある14回分を、毎週1回分ずつ公開していきます。授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題には締め切り日があります。多くの場合、オンデマンド授業が公開されてから2週間後です。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義に関するオリエンテーション 国際経営とは何か
第2回	グローバル化	グローバル化の促進要因 と企業への影響
第3回	グローバル・ビジネス環境（1）	企業が外国で直面する本国とは異なる政治・経済・法システム
第4回	グローバル・ビジネス環境（2）	新興経済と移行経済
第5回	文化的距離（1）	企業が外国で直面する本国とは異なる社会文化
第6回	文化的距離（2）	文化の次元
第7回	海外直接投資	海外直接投資の現状 海外直接投資の動機と類型
第8回	多国籍企業	多国籍企業の特徴
第9回	新興国からの多国籍企業	新興国を本国とする多国籍企業の特徴
第10回	企業の国際化理論（1）	企業の海外進出の動機を説明する理論
第11回	企業の国際化理論（2）	OLIパラダイム 内部化理論
第12回	企業の国際化理論（3）	企業の地理的多角化を説明する理論
第13回	エントリー戦略（1）	いつ、どこに参入するのか
第14回	エントリー戦略（2）	エントリー・モードの類型と各類型の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のための準備・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

- 1-2回：身近なグローバル化の例を見つける
- 3-4回：国を1つ選び、日本とのビジネス環境の違いを調べる
- 5-6回：国を1つ選び、日本との文化の違いを調べる
- 7-8回：企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる
- 9回：新興国を本国とする企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる
- 10-12回：企業の国際化に関する理論を調べる
- 13-14回：完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いを調べる

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

Hill, C.W.L. &Hult, G.T.M. 2018 International Business: Competing in the Global Marketplace (12th ed.). McGraw-Hill Education, NY.
Collinson, S., Narula, R. &Rugman, A.M. 2020. International Business (8th ed.). Pearson Education: UK.
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100%

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくことで理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

As globalization progresses, firms increasingly cross national borders. Not only large multinational enterprises but also small- and medium-sized firms and startups are becoming more actively engaged in international business. As a result, global business strategy has become an integral part of strategic management. However, due to differences between foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks in international business studies. Students will learn how firms gain competitive advantages in foreign markets and develop the ability to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal for students in this course is to understand the basics of global business strategy, including the global business environment, foreign direct investment, and entry strategy. Students are also expected to understand the theoretical foundations of global business strategy. By the end of this course, students will have developed the ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to complete assignments, read assigned materials, and review their lecture notes. More than four hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on a term-end examination (100%). Scores from in-class exercises will be added to the term-end examination scores as bonus points.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

国際経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進んだ現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっています。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 国際人材戦略、国際提携戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式（オンデマンド）とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム(WebClass)に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法も、学習支援システムに掲載します。授業計画にある14回分を、毎週1回分ずつ公開していきます。授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題には締め切り日があります。多くの場合、オンデマンド授業が公開されてから2週間後です。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義に関するオリエンテーション グローバル経営戦略論Ⅰの復習
第2回	国際経営戦略（1）	経営戦略の基礎 グローバル・インテグレーションと ローカル・レスポンスビジネス
第3回	国際経営戦略（2）	グローバル戦略
第4回	国際経営戦略（3）	マルチドメスティック戦略
第5回	国際経営戦略（4）	多国籍企業が戦略を実行するための組織
第6回	多国籍企業の地域戦略	多国籍企業の地域内拡大 地域内拡大のベネフィット
第7回	国際提携戦略（1）	国際戦略的提携の締結
第8回	国際提携戦略（2）	国際戦略的提携のマネジメント
第9回	国際提携戦略（3）	国際戦略的提携のリスク
第10回	言語障壁（1）	多国籍企業内での言語の役割
第11回	言語障壁（2）	言語障壁が多国籍企業に及ぼす影響
第12回	多国籍企業の人材戦略（1）	多国籍企業の人材政策の類型
第13回	多国籍企業の人材戦略（2）	海外派遣者のマネジメント
第14回	多国籍企業の人材戦略（3）	海外子会社の現地化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のための準備・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1回：グローバル経営戦略論Ⅰの内容の復習

- 2-5回：製品やサービスを1つ選び、どのように海外に販売するか考える
6回：全世界にビジネスを拡大することと、ヨーロッパや東南アジアなど地域内でのみビジネスを拡大することの違いを考える
7-9回：国際戦略的提携の事例を調べる
10-11回：言葉の壁が多国籍企業の経営に与える影響を考える
12-14回：どのような場合に海外子会社の人材現地化を進めるべきか考える

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

Hill, C.W.L. &Hult, G.T.M. 2018 International Business: Competing in the Global Marketplace (12th ed.). McGraw-Hill Education, NY.
Collinson, S., Narula, R. &Rugman, A.M. 2020. International Business (8th ed.). Pearson Education: UK.
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100%

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰと併せて履修してください。
経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくとう理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

As globalization progresses, firms increasingly cross national borders. Not only large multinational enterprises but also small- and medium-sized firms and startups are becoming more actively engaged in international business. As a result, global business strategy has become an integral part of strategic management. However, due to differences between foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks in international business studies. Students will learn how firms gain competitive advantages in foreign markets and develop the ability to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal for students in this course is to understand the basics of global business strategy, including foreign subsidiary staffing, global strategic alliances, and standardization and localization strategies. Students are also expected to understand the theoretical foundations of global business strategy. By the end of this course, students will have developed the ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to complete assignments, read assigned materials, and review their lecture notes. More than four hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on a term-end examination (100%). Scores from in-class exercises will be added to the term-end examination scores as bonus points.

PRI300FC（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

統計学Ⅰ（2018年度以前入学者）

牧草 夏実

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 〔春学期授業/Spring〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営・経済学のデータ分析に必要な統計学の発展的内容について学ぶ。基礎統計学の復習から始め、統計解析ソフトRを用いたデータ処理・可視化・推測統計・回帰分析・多変量解析までを扱い、実データ（経営・経済分野）を使用し、実務や研究に活用可能な分析スキルを習得する。

【到達目標】

- ・回帰分析や分散分析を経営事例に適用でき、統計的に正しく解釈・提案できる。
- ・統計モデルについて、数学的問題による解法を認識し、Rのパッケージを用いずに計算できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

統計学の理論や経営学・経済学分野での応用事例を講義形式で解説し、Rを用いた実習を行う。実習では、適宜時間をとりながら各自のノートPCで操作を行ってもらい。机間巡視を行い、困っている学生には個別にサポートを行うことで、全員が使いこなせるように支援する。

演習の解答例は授業内で解説し、提出課題については採点后に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・Rの基本操作	授業の進め方と評価方法を説明する。RとRStudioの導入方法および基本的な操作方法を習得する。
第2回	データの読み込みと整形	CSV・ExcelデータをRに読み込み、データフレーム操作や変数の型、欠損値処理方法を学ぶ。
第3回	データの可視化（基礎）	棒グラフ、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図を作成し、経営データの傾向を読み取る方法を習得する。
第4回	記述統計	平均、中央値、分散、標準偏差、相関係数などの指標を計算し、データを要約する方法を学ぶ。
第5回	確率の基礎	確率の定義、加法法則・乗法法則、条件付き確率を理解し、経営上のリスク分析に応用する。
第6回	確率分布	二項分布、正規分布、t分布などを理解し、Rで分布の描画や確率計算を行う。
第7回	標本分布と推定	標本平均の分布、点推定・区間推定の考え方を学ぶ。実データでサンプル抽出と推定値の計算演習を行う。
第8回	仮説検定1	母平均・母比率の仮説検定を学ぶ。Rでt検定・比率検定を実行し、結果の解釈を行う。
第9回	仮説検定2	2つの母集団の母平均・母比率の差の検定（等分散・不等分散）を学ぶ。Rでの実践演習と結果解釈を学ぶ。
第10回	単回帰分析	単回帰モデルの概念、最小二乗法による係数推定。Rで売上・広告費データを分析し、係数の解釈・決定係数について学ぶ。
第11回	重回帰分析	複数説明変数による売上予測モデルを構築し、多重共線性や変数選択の方法を学ぶ。Rで演習し、モデル改善方法を学ぶ。
第12回	一般化線形モデル（GLM）	ロジスティック回帰（購入/非購入などの二値データ）およびポアソン回帰（来店客数など件数データ）の概念、モデル構築、係数の解釈、Rでの実装を学ぶ。
第13回	モデル診断・応用演習	回帰診断（残差分析、外れ値検出）とモデル改善方法について学ぶ。公開経営データを用いた探索的分析からモデル作成までの演習を行う。

第14回 まとめ・発表

第13回の演習についての分析結果発表やディスカッションを行う。本授業全体の復習とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や指定のRスクリプトを確認し、基礎知識の予習・復習を行う。実習課題や演習問題を通して、Rでの操作を定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

本橋永至著『Rで学ぶ統計データ分析』オーム社
林 賢一著、下平 英寿編『Rで学ぶ統計的データ解析』講談社

【成績評価の方法と基準】

課題：50%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業の初回でRのインストールを行うため、ノートパソコンが学内のインターネットを利用できるように設定しておくこと。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学I/II
経営のための統計学II

【Outline (in English)】

This class will cover advanced statistical content necessary for data analysis in business and economics. Starting with a review of basic statistics, students will then use the statistical analysis software R to process data, create visualizations, and perform inferential statistics, regression analysis, and multivariate analysis. Using real data (from business and economics), students will acquire analytical skills applicable to practice and research.

Learning Objectives:

- ・ Be able to apply regression analysis and analysis of variance (ANOVA) to business cases, and interpret and make recommendations correctly from a statistical perspective.
- ・ Understand the solutions to statistical models from a mathematical standpoint and be able to perform calculations without relying on R packages.

Learning activities outside of classroom:
Prepare for and review basic knowledge by reviewing the distributed materials and designated R scripts. Students will master the operation of R through practical assignments and exercises. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading:

- Assignments 50%
- Final Report 50%

PRI300FC（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

統計学Ⅱ（2018年度以前入学者）

牧草 夏実

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経営・経済データ分析の応用力を養うため、回帰分析の発展的手法（リッジ回帰・ラッソ回帰・エラスティックネット回帰）やモデル評価、過学習の考え方、非線形手法までを学ぶ。Rを用いた実データ分析を通じて、複雑な経営データへの統計的アプローチを理解し、実務・研究で応用可能な分析力を習得することを目的とする。

【到達目標】

・線形回帰の発展的手法（リッジ・ラッソ・エラスティックネット回帰）を理解し、Rで適用できる。
・モデル評価や過学習の概念を理解し、適切な分析手法を選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

統計学の理論や経営学・経済学分野での応用事例を講義形式で解説し、Rを用いた実習を行う。実習では、適宜時間を取りながら各自のノートパソコンで操作を行ってもらい、机間巡視を行い、困っている学生には個別にサポートを行うことで、全員が使いこなせるように支援する。

演習の解答例は授業内で解説し、提出課題については採点后に講評を提示する。また必要に応じて個別コメントを返却し、理解度の改善を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。RとRStudioの導入方法および基本的な操作方法を復習する。
第2回	Rの使い方	データフレーム操作、関数の使い方、データ可視化の復習。実務データを使った簡単な分析演習。
第3回	回帰の復習	単回帰・重回帰の復習。最小二乗法、回帰係数の解釈、決定係数、残差分析をRでの演習を通して復習する。
第4回	リッジ回帰1	リッジ回帰の理論（正則化の考え方）、正則化パラメータの意味について学ぶ。
第5回	リッジ回帰2	正則化パラメータの選択（クロスバリデーション）、モデルの解釈、予測精度の確認。
第6回	ラッソ回帰1	ラッソ回帰の理論（変数選択機能）、正則化パラメータの影響について学ぶ。
第7回	ラッソ回帰2	クロスバリデーションによる正則化パラメータの選択、重要変数の抽出と解釈について学ぶ。
第8回	エラスティックネット回帰1	リッジ回帰とラッソ回帰を組み合わせたエラスティックネット回帰の理論、2種のパラメータの意味について学ぶ。
第9回	エラスティックネット回帰2	実務データでモデル構築演習、パラメータ調整による変数選択と精度向上について学ぶ。
第10回	モデル評価の基本	予測精度評価（MSE、RMSE、R ² ）、交差検証、学習・テストデータ分割について学ぶ。
第11回	過学習の考え方	過学習とバイアス・分散トレードオフ、正則化手法の必要性を理解する。
第12回	非線形手法	多項式回帰、スプライン、決定木など非線形モデルの紹介。
第13回	実データ分析	公開経営データを用いて、回帰・正則化・モデル評価を一通り実施し、結果の解釈を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の分析結果を簡単に発表・ディスカッションを行い、授業全体の復習とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や指定のRスクリプトを確認し、基礎知識の予習・復習を行う。実習課題や演習問題を通して、Rでの操作を定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】

本橋永至著『Rで学ぶ統計データ分析』オーム社
林 賢一著、下平 英寿編『Rで学ぶ統計的データ解析』講談社

【成績評価の方法と基準】

課題：50%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業の初回でRのインストールを行うため、ノートパソコンが学内のインターネットを利用できるように設定しておくこと。基礎統計学I/IIおよび経営のための統計学Iの知識を前提とする。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学I/II

経営のための統計学I

【Outline (in English)】

In this course, students will develop practical skills for business and economic data analysis by learning advanced regression techniques, including Ridge Regression, Lasso Regression, and Elastic Net Regression, as well as model evaluation, the concept of overfitting, and nonlinear methods. Through hands-on data analysis using R, students will gain an understanding of statistical approaches to complex business data and acquire analytical skills applicable to both professional practice and research.

Learning Objectives:

- ・ Understand advanced linear regression techniques (Ridge, Lasso, and Elastic Net regression) and be able to apply them using R.
- ・ Understand the concepts of model evaluation and overfitting, and be able to select appropriate analytical methods.

Learning activities outside of the classroom:

Review the distributed materials and designated R scripts in preparation for class. Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review. They will also master the operation of R through practical assignments and exercises.

Grading:

- Assignments: 50%
- Final Report: 50%

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・マネジメント論Ⅰ

岡田 庄生

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（ブランドやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】

- ① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えたとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
- ② 毎回の授業での課題や中間・期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
- ③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、1回目の授業はオンライン（リアルタイム）ですが、2回目以降は対面授業となります。

- ① 授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業冒頭に授業の内容に関連した「授業中クイズ」を実施します。対面授業での授業中クイズは教室にいないと参加できません。
- ② 授業後：毎回の授業に関連する「授業後課題」を、期日までに提出します。提出された課題のうちいくつかを取り上げて、次の授業にてフィードバックを行います。
- ③ 中間テスト・学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は1回目の授業で説明しますので、必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・マーケティング・マネジメントとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	マーケティングの基礎概念	マーケティング・マネジメントの基本概念と市場環境分析
第3回	製品のマネジメント	製品開発のプロセスと製品ライフサイクル
第4回	価格のマネジメント	価格設定の考え方や適正価格の調査方法
第5回	ゲスト講師①：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第6回	広告のマネジメント	広告コミュニケーションによる市場創造
第7回	チャネルのマネジメント・中間テスト	メーカーによるチャネルの選択と管理
第8回	サプライチェーンのマネジメント	在庫管理と安定供給
第9回	顧客関係のマネジメント	カスタマーリレーションシップ
第10回	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルキャンバス、SWOT分析、アンゾフの成長マトリクス
第11回	ゲスト講師②：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第12回	顧客理解のマネジメント	顧客インサイトとマーケティングリサーチ
第13回	ブランド構築のマネジメント	ブランド構築の基礎概念
第14回	社会責任のマネジメント	企業における社会的責任の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。

また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。

上記以外に、中間テスト・学期末テストの準備があります。

中間テスト・学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。

テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第5版』碩学舎（2026年）

大学生協にて、電子テキスト版を購入することをお勧めします。

電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。

以下のページよりご確認をお願いします。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。

https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。

なお、紙版を選ぶことも可能です。

詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、スリーダー・バラスプラマニアン、恩蔵直人著、『コトラー・アームストロング、バラスプラマニアン、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版（2025年）

恩蔵直人、坂下玄哲編『マーケティングの力：最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中クイズ：30%
2. 授業後課題：30%
3. 中間テスト：10%
3. 学期末テスト：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを踏まえて、ゲスト講師やオンデマンド授業を取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

中間テストはPCのみ使用となりますので、中間テストの時には必ずPCを用意してください。スマートフォンやタブレットは使用できません。個人PCが持参できない学生は、富士見坂校舎の情報カフェテリアにてレンタルすることができます。

【その他の重要事項】

本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。

本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での事例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】

- ・マーケティング入門
- ・マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ
- ・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
- ・流通論Ⅰ/Ⅱ
- ・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
- ・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as branding and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.

Learning Objectives

1. Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.

2. Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.

3. Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. Midterm test: 10%
4. End-of-term test: 30%

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・マネジメント論Ⅱ

岡田 庄生

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（ブランドやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】

- ① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
- ② 毎回の授業での課題や学期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
- ③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、1回目の授業はオンライン（リアルタイム）ですが、2回目以降は対面授業となります。

- ①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業冒頭に授業の内容に関連した「授業中クイズ」を実施します。授業中クイズは教室にいないと参加できません。
- ②授業後：毎回の授業に関連する「授業後課題」を、期日までに提出します。提出された課題のうちいくつかを取り上げて、次の授業にてフィードバックを行います。
- ③中間テスト・学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は1回目の授業で説明しますので、必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・デジタル時代のマーケティングとは何か ・授業の進め方や評価方法について カスタマージャーニーやデジタルリテラシーについて
第2回	デジタル社会の消費者行動	プラットフォームと、その要因となるネットワーク効果
第3回	デジタル社会のビジネスモデル	顧客との協働、マーケティングミックス
第4回	デジタル・マーケティングの基本概念	最新線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第5回	ゲスト講師：マーケティングの現場より	デジタル材、IoTについて
第6回	デジタル時代の製品戦略：基本	ユーザーイノベーションの活用
第7回	デジタル時代の製品戦略：拡張・中間テスト	ダイナミックプライシング
第8回	デジタル時代の価格戦略：基本	消費者間取引と価格、電子決済
第9回	デジタル時代の価格戦略：拡張	最新線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第10回	ゲスト講師②：マーケティングの現場より	ダイレクトモデル、オムニチャネル
第11回	デジタル時代のチャネル戦略：基本	シェアリングエコノミー
第12回	デジタル時代のチャネル戦略：拡張	デジタルプロモーション戦略
第13回	デジタル時代のプロモーション戦略：基本	口コミや格付けの影響力
第14回	デジタル時代のプロモーション戦略：拡張	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。上記以外に、中間テスト・学期末テストの準備があります。中間テスト・学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタルマーケティング』碩学舎（2019年）大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。

電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。

以下のページよりご確認をお願いします。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。

なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。

詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、スリーダー・バラスブラマニアン、恩蔵直人著、『コトラー、アームストロング、バラスブラマニアン、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2025年)
恩蔵直人、坂下玄哲編『マーケティングの力：最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中クイズ：30%
2. 授業後課題：30%
3. 中間テスト：10%
3. 学期末テスト：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを踏まえて、ゲスト講師やクイズを取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

中間テストはPCのみ使用となりますので、中間テストの時には必ずPCを用意してください。スマートフォンやタブレットは使用できません。個人PCが持参できない学生は、富士見坂校舎の情報カフェテリアにてレンタルすることができます。

【その他の重要事項】

本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。

本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での事例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】

- ・マーケティング入門
- ・マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ
- ・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
- ・流通論Ⅰ/Ⅱ
- ・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
- ・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as branding and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.

Learning Objectives

1. Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.

2. Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.

3. Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. Midterm test: 10%
4. End-of-term test: 30%

金融論Ⅰ（2019年度以降入学者）

左三川 郁子

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースでは「おカネ」や「銀行」、「金融市場」、「金融政策」など金融論の基礎を学びます。金融とはお金の余っている人や企業から、お金の足りない人や企業に融通することです。銀行の主な仕事は両者をつなぐ金融仲介ですが、金融市場で直接、おカネを貸し借りすることもできます。また、中央銀行である日本銀行は金融政策を実施することで経済活動に影響を及ぼし、景気を刺激したり過熱感を和らげたりしています。特に1990年代末からの25年間は「非伝統的金融政策」と呼ばれる、それまでとは大きく異なる金融政策を実施していました。授業では、その週に報じられた経済・金融関連のニュースについても解説します。

【到達目標】

本コースでは、金融の理論と実務のつながりを理解し、金融ビジネス上の課題について自分なりの解決方法を見い出せるようになることを到達目標とします。金融に関する基礎的な知識（通貨、金利、株価、為替、金融機関、金融政策、金融規制など）を身につけ、テレビや新聞で報じられる金融関連のニュースについて自分の考えを述べ、議論できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ノートと指定テキストに基づいた授業を行います。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。課題等に対するフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅰの概要	フローとストック、制度部門、GDP、日銀短観
第2回	金融取引・金融市場・金融機関（1）貨幣	貨幣の機能と役割、マネタリーベースとマネーストック、預金取扱金融機関、保険会社、証券会社、ノンバンク、直接/間接金融
第3回	金融取引・金融市場・金融機関（2）金利	金利とは、単利と複利、固定金利と変動金利、直接金融と間接金融、預貸利ざや、金利規制と金融自由化、1990年代の不良債権問題と金融不安
第4回	金融取引・金融市場・金融機関（3）資金循環	資金循環統計（取引表・残高表・調整表）、企業部門の貯蓄超過、家計の金融資産残高、貯蓄から投資へ
第5回	金融仲介機能と銀行	銀行のBSとPL、信用創造、外生的/内生的貨幣供給論、バーゼル規制、不良債権問題、預貸率、預貸利ざや、金融機関の合併・統合（地銀再編）
第6回	金融市場（1）外国為替市場	国際通貨制度、購買力平価、実質レートと実効レート、現物市場と先物市場、金利平価、外国為替介入

第7回	金融市場（2）株式市場	発行市場と流通市場、資本コスト、配当割引モデル、株価の指標、東証ガバナンス改革、配当政策、自社株買い、企業価値、所有と経営の分離、エージェンシー問題、スチュワードシップ・コード
第8回	金融市場（3）短期金融市場と債券市場	インターバンク市場とオープン市場、債券の利回りと価格、国債と地方債、社債、格付、イールドカーブ
第9回	インフレーションとデフレーション	消費者物価、インフレ・ターゲット、物価水準目標、平均インフレ目標、名目金利と実質金利、自然利子率、GDPギャップ、中央銀行の独立性
第10回	中央銀行と金融政策	中央銀行の役割、伝統的な金融政策、金融市場調節、金融緩和と金融引き締め、主要国の中央銀行、ルールか裁量か、テ일러・ルール、中立金利
第11回	非伝統的金融政策（1）ゼロ金利政策と量的緩和政策	ゼロ金利制約（ZLB）と実効下限（ELB）、フォワード・ガイダンス、バランスシート政策、準備預金制度と超過準備、リスク性資産の買い入れ、波及経路
第12回	非伝統的金融政策（2）マイナス金利政策とYCC	金利と量の関係、当座預金の階層構造、米豪のイールドカーブ・コントロール政策、指し値オペ、国債補完供給（SLF）、銀行券と流動性のわな
第13回	非伝統的金融政策（3）出口	主要中央銀行の出口政策、最適バランスシート規模、補完当座預金制度と補完貸付制度、中央銀行の独立性、政府の債務管理政策、財政ファイナンス
第14回	非伝統的金融政策（4）中央銀行の財務分析	中央銀行の赤字と債務超過、金融政策運営への影響、通貨発行益（シニョレージ）と国庫納付金

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】

左三川郁子・日本経済研究センター『ポスト非伝統的金融政策 検証日本銀行』日本経済新聞出版、2025年

【参考書】

参考文献として、以下のテキストを参照します。

- ・田中茉莉子『金融論への招待』新世社、2022年
- ・内田浩史『金融 [新版]』有斐閣、2024年
- ・白塚重典『金融政策 理論と実践』慶應義塾大学出版会、2023年
- ・鎌田康一郎『金融論 Theory&Practice』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験（100％）に基づいて決定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。

【関連科目】

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamentals of finance, including money, banks, financial markets, and monetary policy. Finance involves allocating money from individuals and companies with surplus funds to those with shortages. While banks primarily act as intermediaries, connecting these parties, money can also be lent and borrowed directly in financial markets. Furthermore, as the central bank, the Bank of Japan influences economic activity by implementing monetary policy to stimulate the economy or cool overheating. Over the past 25 years, particularly since the late 1990s, the Bank of Japan implemented monetary policies significantly different from previous approaches. These policies are termed "unconventional monetary policy." Classes will also include explanations of economic and financial news reported that week.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to understand the connection between financial theory and practice, enabling students to develop their own solutions to challenges in the financial business. Students will acquire fundamental knowledge of finance including money, interest rates, stock prices, foreign exchange rates, financial institutions, monetary policy, and financial regulation, aiming to express their own opinions and engage in discussions about financial news reported on television and in newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time for preparatory study and review for this course is two hours each. For review, in addition to the reference materials listed below, consider how to apply what you have learned from a practical perspective by reading relevant newspaper and magazine articles.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅱ（2019年度以降入学者）

左三川 郁子

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策分析の基本モデルや経済変動と金融政策対応の動学的な関係、ファイナンスの基礎（ポートフォリオ選択、資産価格、企業金融など）について学びます。政策評価や、投資/資産価格の決定理論、経済における金融機関・金融市場の役割など、金融論は社会で生きていくうえで必須の知識です。授業では、その週に報じられた経済・金融関連のニュースについても解説します。

【到達目標】

本コースでは、金融の理論と実務のつながりを理解し、金融ビジネス上の課題について自分なりの解決方法を見い出せるようになることを到達目標とします。金融に関する基礎的な知識（通貨、金利、株価、為替、金融機関、金融政策、金融規制など）を身につけ、テレビや新聞で報じられる金融関連のニュースについて自分の考えを述べ、議論できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ノートと指定テキストに基づいた授業を行います。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。課題等に対するフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	「金融政策の多角的レビュー」、展望レポート（政策委員の大勢見通し）、金融政策決定会合のディレクティブ、議事録
第2回	伝統的金融政策と非伝統的金融政策	金利政策と量的拡大政策、金融市場調節、コール市場、オペレーション手段、コリドー方式、資金過不足の要因
第3回	テイラールールと自然利子率	テイラー原則、自然利子率、需給ギャップ、インフレ目標
第4回	インフレ率と失業率	インフレ率と失業率の関係、フィリップス曲線、自然失業率仮説
第5回	IS-MP/AD-AS モデル（1）	IS曲線、MP（金融政策）曲線、IS-MP分析
第6回	IS-MP/AD-AS モデル（2）	総需要＝総供給分析、ADショックとASショック
第7回	FRBとECBの金融政策	連邦準備銀行、FOMC、FF金利、ドットチャート、Summary of Economic Projections (SEP)
第8回	プルーデンス政策	バーゼル（BIS）規制、デジタル取り付け、最後の貸し手機能（LLR）と流動性供給、金融機関のモニタリング、預金保険制度とペイオフ、資本注入
第9回	デジタル通貨と決済システム	中央銀行デジタル通貨（CBDC）、電子マネー、仮想通貨、日銀ネット、全銀システム、決済リスク

第10回	リスクと期待効用関数	確率変数、期待値、標準偏差（リスク）、共分散、相関係数、期待効用理論、リスクプレミアム、平均分散アプローチ
第11回	ポートフォリオ理論	リスク分散、システマティック・リスクと固有リスク、2つの資産の組み合わせ、複数の資産の組み合わせ、効率的フロンティア
第12回	CAPM（資本資産価格モデル）	リスクフリーレート、市場リスクプレミアム、ベータ（β）、証券市場線、CAPMの前提条件と導出、解釈
第13回	債券	債券利回り、スポットレートと債券価格、金利の期間構造（純粋期待理論、流動性選好理論、特定期間選好理論）、デュレーション、タムプレミアム
第14回	企業とファイナンス	株式と負債、BSとPL、キャッシュフロー計算書、MM理論、ベッキング・オーダー理論、資本コスト、WACC

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】

左三川郁子・日本経済研究センター『ポスト非伝統的金融政策 検証日本銀行』日本経済新聞出版、2025年

【参考書】

参考文献として、以下のテキストを参照します。

- ・田中茉莉子『金融論への招待』新世社、2022年
- ・内田浩史『金融 [新版]』有斐閣、2024年
- ・白塚重典『金融政策 理論と実践』慶應義塾大学出版会、2023年
- ・鎌田康一郎『金融論 Theory&Practice』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験（100％）に基づいて決定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。

【関連科目】

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course builds upon the foundational knowledge of finance acquired in Money and Banking I during the spring semester. It covers basic models for analyzing monetary policy, the dynamic relationship between economic fluctuations and monetary policy responses, and the fundamentals of finance including portfolio selection, asset pricing, and corporate finance. Financial theory encompasses essential knowledge for navigating society, including policy evaluation, the theory of investment/asset pricing decisions, and the role of financial institutions and markets in the economy. Classes will also include commentary on economic and financial news reported that week.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to understand the connection between financial theory and practice, enabling students to develop their own solutions to challenges in the financial business. Students will acquire fundamental knowledge of finance including money, interest rates, stock prices, foreign exchange rates, financial institutions, monetary policy, and financial regulation, aiming to express their own opinions and engage in discussions about financial news reported on television and in newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time for preparatory study and review for this course is two hours each. For review, in addition to the reference materials listed below, consider how to apply what you have learned from a practical perspective by reading relevant newspaper and magazine articles.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019年度以降入学者）

西川 英彦

市場経営学科専門科目200番市場経営学科専門科目200番 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「どうしてこの商品は売れているんだろう?」「もっと良くするには何を变えればいいんだろう?」

この授業は、こうした疑問に対して、思いつきではなく、調査やデータにもとづいて答えを出す力を身につけることを目的としています。

身近な商品やサービスを題材に、インタビューや観察、アンケートなどの調査とその分析を通して、人の本音や行動を読み解き、そこから新しい商品やサービスのアイデアを考えるプロセスを学びます。

春学期は、インタビューや観察などの定性的調査を通して人の「本音」を探り、アイデアを生み出す方法を学びます。さらに、リサーチの実際として、コカ・コーラの部長や花王のグループ長によるゲスト講演も予定しています。

秋学期の本授業では、アンケート調査やデータ分析などの定量的調査を扱い、そのアイデアや仮説がどの程度妥当なのかを、データという根拠をもって検証できるようになることを目指します。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できます。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点です。

- ①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につけることです。
- ②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができず。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深めます。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行います。

質問は、事後課題（加点あり）あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	商品企画プロセス（テキスト1章） ・ライオン「トップナノックス」の事例 ・電子テキストについて
第2回	ゲスト講師①	日本コカ・コーラ株式会社 緑茶事業部長 助川公太 氏 ・綾鷹などのリサーチやマーケティングの実際
第3回	デプスインタビューから顧客ニーズを把握する	インタビュー法（テキスト2章） ・資生堂「マジヨリカマジヨルカ」の事例
第4回	観察から顧客ニーズを把握する	観察法（テキスト3章） ・デザイン企業IDEO「ATMのミラー」の事例
第5回	リード・ユーザー法からユーザー・イノベーションを知る	リード・ユーザー法（テキスト4章） ・フェリシモ「生活雑貨大賞」の事例
第6回	顧客ニーズからアイデアを発想する 最終レポートの説明	アイデア発想（テキスト5章） ・TOTO「クラッソ」の事例 ・最終レポートの説明 ・昨年の優秀例の紹介
第7回	アイデアをもとにコンセプトを開発する	コンセプト開発（テキスト6章） ・エースコック「JANJANソース焼きそば」の事例
第8回	コンセプトをもとに試作品を作成する	プロトタイピング（テキスト7章） ・IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング

第9回	コンセプトが顧客ニーズに合っているかを確認する	顧客ニーズの確認（テキスト10章） ・ハウス食品「C1000ビタミンレモンコラーゲン」の事例
第10回	いままでのことをまとめ、企画書を作成する	企画書作成（テキスト14章） ・フジッコ「フルーツセラビー」の事例
第11回	効果的なプレゼンテーションを行う	プレゼンテーション（テキスト15章） ・グリコ「メンズポッキー」の事例
第12回	ゲスト講師②	花王株式会社 化粧品事業部門 プレミアムブランドビジネスグループ グループ長 池辺順子氏 ・化粧品事業などのリサーチやマーケティングの実際
第13回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート報告 ・学生によるプレゼンテーション
第14回	優秀レポートの報告	最終優秀レポート報告 ・学生によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として、電子教科書の次の章を読んでくること。また、レポートを作成して、学期末に提出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、『1からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012年）の大学生協の電子テキストを使用します。大学生協の電子教科書（EDX UniText）を購入のこと。なお、紙版やKindle版もあるが、授業やフィードバックは大学生協の電子教科書をもとに進めるので注意すること。

- ・講師が、授業の補足情報を、電子教科書にアップするので、予習や復習がしやすくなるため、教科書は、大学生協の電子教科書を購入すること。
- ・こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子教科書へのメーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合があります。
- ・法政大学生協のホームページを確認して、早め購入すること。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_274.html
- ・電子テキストを購入後に、以下のURLからログインして、電子教科書（EDX UniText）を利用します。組織コードは、10035である。ログインID、パスワードは、購入後に設定できます。
<https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku>

【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年

【成績評価の方法と基準】

<通常の成績評価（100点満点）>

- ・授業中課題（授業中に、学習支援システムでの回答）：42%（なお、4月の授業中課題は4月末まで回答可にします）
- ・レポートの提出（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）：58%

<以下は、加点となる>

- ・授業中の発言：1点加点。
- ・事前課題：該当章の重要なキーワードとその事例を学習支援システムにアップ。紹介時に発言された場合に、2点加点。
- ・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1点加点。
- ・早期レポートの提出者：全体のレポートの質向上のため、10点加点。ただし、当日参加が条件。
- ・早期・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善しました。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介します。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用します。

【学生が準備すべき機器他】

電子教科書を利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨します。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施します。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. This course uses actual corporate cases and concrete research examples related to product development, where marketing research is frequently applied, to help students understand marketing research in an accessible and practical way.

The purpose of this course is to learn the theory and practice of qualitative research methods, such as interviews and observations. Through these methods, students will explore consumers' underlying needs and generate ideas for product planning.

Students are required to read the assigned chapters of the e-textbook before class, submit comments or questions after each class, and complete a final report in the form of a product planning proposal at the end of the semester.

Outside of class time, students are expected to review the course materials and work on their final report. The standard preparation and review time for this course is approximately two hours each.

Grades will be determined by in-class exercises (42%) and a final report (58%).

In Marketing Research I(spring semester), students focus on qualitative research methods such as interviews and observation. In Marketing Research II (fall semester), students study quantitative research methods such as questionnaire design and data analysis. By completing both courses, students can expect to gain a synergistic learning effect.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019年度以降入学者）

西川 英彦

市場経営学科専門科目200番市場経営学科専門科目200番 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ、この商品やサービスは人気があるのか?」「この施策は、どれくらい効果があったのか?」

この授業は、こうした疑問に対して、思いつきではなく、アンケート調査やデータ分析にもとづいて答えを出す力を身につけることを目的としています。身近な商品やサービスを題材に、アンケートの作成やデータ分析などの定量的調査を通して、消費者の傾向や行動の違いを数値から読み解き、商品企画やマーケティング施策の仮説を検証するプロセスを学びます。

春学期のマーケティング・リサーチ論Ⅰでは、インタビューや観察などの定性的調査を通して人の「本音」を探り、アイデアを生み出す方法を学びました。

秋学期の本授業では、アンケート調査やデータ分析などの定量的調査を扱い、そのアイデアや仮説がどの程度妥当なのかを、データという根拠をもって検証できるようになることを目指します。さらに、リサーチの実際として、リサーチの実務経験をもつゲストによる講演があります。春学期と秋学期の両方を学ぶことで、相乗効果が期待できます。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点です。

- ①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につけます。
- ②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深めます。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行います。

演習は、無料版の「RStudio」（統計分析ソフト「R」を便利につかえるアプリ）を用いますが、テキスト通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも安心ください。

質問は、事後課題（加点あり）あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜマーケティングに統計分析が必要なのか？	記述統計（テキスト第Ⅰ部、コラム：「Rで実践」を始める前に） ・RStudioの操作、パソコンを持参のこと（次週以降も同様） 標準偏差（テキスト1章） ・RStudioを使ったミニ演習
第2回	データは平均だけでなく「ばらつき」も大事	相関と連関（テキスト2章） ・RStudioを使ったミニ演習
第3回	2つの変数の関係は強い、弱い？	推測統計と仮説検定（テキスト第Ⅱ部-3章） 無相関検定（テキスト4章） ・RStudioを使ったミニ演習
第4回	その「仮説」はマーケティングに使えるか？	カイニ乗検定（テキスト5章） ・RStudioを使ったミニ演習
第5回	関係性をマーケティングに活かす	t検定（テキスト6章） ・RStudioを使ったミニ演習
第6回	クロス集計表から効果をあぶり出せ	単回帰分析（テキスト7章） ・RStudioを使ったミニ演習
第7回	その平均値の差に意味があるか、検証する	重回帰分析（テキスト8章） ・RStudioを使ったミニ演習
第8回	1変数の影響を確かめるモデルをつくる	
第9回	複数の変数の影響を考慮したモデルで現実近づく	
第10回	実験に必須の手法を学ぶ	分散分析 ・RStudioを使ったミニ演習
第11回	報告書のイメージをつかむ	レポートの説明 ・レポートの説明
第12回	ゲスト講師	現在調整中。
第13回	適切なアンケートの作成とサンプリングの仕方	アンケートとサンプリング ・アンケートフォームを実際に作成方を学ぶ

第14回 優秀レポートの報告 優秀レポートの報告とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備や復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・佐保圭(2026)『文系マーケティングのためのゼロから使える統計分析』日経BP

【参考書】

- ①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
- ②山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
- ③恩蔵直人・富田健司(編)(2022)『1からのマーケティング分析(第2版)』碩学舎
- ④南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

<通常の成績評価（100点満点）>

・授業中の課題（授業中に、学習支援システムへの回答）：42%

・レポートの提出：58%

<以下は、加点となる>

- ・授業中の発言：1点加点。
- ・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1点加点。
- ・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善しました。

①より理解が深まるように、基礎的なテキストを採用しました。

②レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、無料版アプリの「RStudio」を使うために、テキストと学習支援システムの資料を参考に、同ソフトと無料統計分析ソフトの「R」を、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施します。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through many examples of product planning. This course provides interactive lectures and exercises based on actual corporate cases related to product planning and marketing, where marketing research is frequently used.

In Marketing Research I (spring semester), students study qualitative research methods such as interviews and observation.

In Marketing Research II (fall semester), students focus on quantitative research methods, including questionnaire design and data analysis. By taking both courses, students can gain a synergistic learning effect.

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire design and data analysis, based on specific examples.
- (2) To conduct basic quantitative research and prepare a report to verify a hypothesis related to product planning.

In addition to class time, students are expected to review course materials and prepare a final report. The standard preparation and review time for this course is two hours each.

Grades will be determined by in-class exercises (42%) and a final report (58%).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

消費者行動論 I

新倉 貴士

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】

当科目の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、これまでに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようにすることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本年度は、オンライン型での開講を予定しています。「消費者行動論 I」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。

【授業の方法】

主に講義形式により授業を進めます。

毎回、配布資料を使用します。

課題等に対するフィードバックについては、学習支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とは何か、市場の把握と消費者理解、マーケティングの今日的課題と消費者行動分析について講義します。
第2回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルについて講義します。
第3回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流と系譜、モチベーション・リサーチの系譜、ブランド選択モデルの系譜、消費者情報処理研究の系譜、近年の展開について講義します。
第4回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費行動分析の3つのアプローチ、消費様式の選択メカニズムについて講義します。
第5回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化をどう捉えるか、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について講義します。
第6回	情報処理のメカニズム	情報処理システムとしての消費者、処理能力と処理資源の限界とその克服、消費者情報処理モデル、消費者情報処理とマーケティング対応について講義します。
第7回	情報処理の動機づけ	動機としての問題認識、動機づけとしての目標と目標階層、動機づけられるメカニズム、動機づけられた状態としての関与について講義します。
第8回	情報処理の能力	情報処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について講義します。
第9回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセス、伝統的な意思決定理論、情報過負荷の影響、情報処理の多様性について講義します。

第10回	購買前の情報処理	情報の内部探索、情報の外部探索、情報の解釈メカニズム、解釈の多様性について講義します。
第11回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について講義します。
第12回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について講義します。
第13回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスを捉える視点、情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント、購買意思決定とマーケティングとの関わりについて講義します。
第14回	購買意思決定の特性とマーケティング&ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション	購買意思決定と提案価値のデザイン、購買意思決定と価値伝達のデザイン、購買意思決定とインターネットについて講義します。さらに、コモディティ化からの脱却とブランド構築、ブランド構築のための視点、CBBEから見たマーケティング・マネジメントについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年。
上記のテキストの要約を印刷物として授業支援システムで配信します。

【参考書】

青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫、2010年
田中洋編著『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣アルマ、2023年
新倉貴士、『消費者の認知世界』、千倉書房、2005年

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を評価基準とした期末試験により評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

資料の投影に気をつけながら進める予定です。

音量と画像の鮮明度に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを利用できる機器を準備してください。

配布資料を用意する予定です。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

マーケティング論 I / II、マーケティング・リサーチ I / II

〔受講上の注意〕

マーケティング論 I / II を履修した上で受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy. To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn consumer information processing.

-To understand brand marketing strategy.

-To get creative skills of marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

消費者行動論 II

新倉 貴士

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】

当科目の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、これまでに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようになることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

授業の形態は、講義として進めます。講義中に紹介するアカデミックな内容について、実際の消費現象やマーケティング戦略と関連ながら理解を深めるように授業に取り組んでください。

「消費者行動論Ⅰ」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。これらを踏まえた「消費者行動論Ⅱ」では、メーカーと消費者との橋渡し役をするブランドに着目して、両者のコミュニケーションのあり方を様々な角度から理解していきます。

【授業の方法】

オンデマンドによる講義形式により授業を進めます。

毎回パワーポイントによるスライドを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	当科目についての全体的な概要を説明します。
第2回	消費者行動とブランドマーケティング	ブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係を説明します。
第3回	ブランドのアイデンティティとイメージ	メーカーの理想的なブランドアイデンティティが、消費者のブランドイメージにどのように変換されるかを説明します。
第4回	消費者行動とデジタル化	ブランド戦略の前提となるデジタル化による消費者行動への影響などについて説明します。
第5回	ブランド・ロイヤリティ	継続的に利用してもらうためのブランド設計について説明します。
第6回	ブランド認知	本物志向という視点から、ブランドの認知とスキーマについて説明します。
第7回	ブランドと消費者関与	ブランドと関与に焦点を当て、市場構造やカテゴリー化理論について説明します。
第8回	ブランドと消費者の目標	手段-目標連鎖モデルを取り上げ、消費者の目標と商品評価などについて説明します。
第9回	ブランドとエンゲージメント	ブランドに対するエンゲージメント概念について説明します。
第10回	ブランドと顧客経験	カスタマー・ジャーニー・マップを用いて、経験価値のマネジメントを説明します。
第11回	ブランドと時間価値	時間価値について、消費者の資源配分などを検討しながら説明します。

第12回	ブランドとライフ	ブランドについて、ライフスタイルとライフコースから説明します。
第13回	ブランドとサービス・マーケティング	サービス特性を理解しながら、ウェルビーイングなどを説明します。
第14回	ブランドとサービス・マネジメント	サービス・マネジメントによる差別化やロイヤリティ向上について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々なブランドについて、そのブランドと消費者行動を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考察してください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

新倉貴士・高橋広行編『ケースに学ぶ消費者行動』、有斐閣ブックス、2026年
青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を評価基準とした期末試験により評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

資料の投影に気をつけながら進める予定です。

音量と画像の鮮明度に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドに対応できるように情報処理機器を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ

【受講上の注意】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱを履修した上で受講することが望ましい。

消費者行動論Ⅰを履修した上で受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a series of lectures, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy. To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn consumer information processing.

-To understand brand marketing strategy.

-To get creative skills of marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

流通論 I

戸田 裕美子

市場経営学科専門科目 200 番市場経営学科専門科目 200 番 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、マーケティング入門で学んだ知識をもとに、流通の役割や機能、そしてその多様な担い手について学び、現代流通の諸相の理解を深めることを目的としている。具体的には、流通業者である小売業や卸売業の様々な形態や革新、日本の流通の伝統的な構造、小売業者によるマーチャンダイジング戦略としてのプライベート・ブランド開発戦略、マーケティング・チャネル戦略と流通などのトピックを取り上げる。

【到達目標】

流通の基本的な仕組みや原理を学び、流通とマーケティングの接点を理解することを到達目標とする。また、新聞や雑誌の記事、テキストに含まれた事例やコラムの内容を参照しながら、流通を取り巻く様々な今日的な課題について、その背景や仕組みを理解することにも到達目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面方式で講義を行う。履修者の人数にもよるが、受講生が多数の場合は、双方向的な質疑応答などは困難であると思われるので、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して、受講生の疑問に対応することを心がける。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	流通とは何か（テキスト序章）	流通を学ぶことの目的と意義を理解する
第2回	流通の役割と商業者の存在意義（テキスト第1章）	流通の本質と、商業者の存在意義を理解する
第3回	流通機能とその担当者（テキスト第1章）	流通の機能とその担い手、流通費用の概念を理解する
第4回	小売業の社会的役割と流通環境（テキスト第2章）	小売業の特徴と社会的役割を理解する
第5回	小売業の様々な形態と新たな潮流（テキスト第2章）	さまざまな小売業の経営形態を理解し、小売業における新たな潮流を理解する
第6回	小売業フォーマットの概念とその革新（テキスト第3章）	小売フォーマット（小売業態）の概念と、多様な形態を理解する
第7回	日本の小売業の構造と小売店舗形態発展論（テキスト第3章）	小売業態の所得長と、日本における業態の変化を理解する
第8回	小売業者によるプライベートブランド戦略（テキスト第4章）	小売業が企画・運営するプライベートブランドの構造を理解する

第9回	プライベートブランドの戦略的意義（テキスト第4章）	日本におけるプライベートブランドの歴史的発展を理解する
第10回	卸売業の役割（テキスト第5章）	卸売業者の構造的特徴を理解する
第11回	日本における卸売流通の特徴（テキスト第5章）	卸売業の今日的な課題と動向を理解する
第12回	マーケティング・チャネルの役割（テキスト第6章）	マーケティングにおける流通問題を理解し、チャネル戦略の根本を理解する
第13回	マーケティング・チャネルの構造設計（テキスト第6章）	チャネル戦略におけるチャネル構造設計の側面を理解する
第14回	マーケティング・チャネルの管理（テキスト第6章）	チャネル戦略におけるチャネル管理の原理を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使用するテキストの該当部分を事前に熟読する：1 時間
授業の講義内容をもとに、テキストの内容を事後的に復習する：1 時間

【テキスト（教科書）】

崔容熏，原頼利，東伸一編著『はじめての流通【新版】』有斐閣ストゥディア，2022 年

【参考書】

適宜、必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %、成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関する質問や疑問に可能な限り対応するため、ポータルサイトを活用して双方向のやり取りを可能な限り行うことを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料を印刷して配布しないため、講義資料を閲覧したり、関連する情報を探索するために、ノートパソコンやタブレットなどのデバイスを必要とする。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

(Learning Objectives) This course aims to deepen understanding of the various aspects of modern distribution by examining the roles and functions of distribution and the diverse actors involved, building on the knowledge acquired in the introductory marketing course. Specifically, it covers topics such as the various forms and innovations of retailers and wholesalers as distribution intermediaries, the traditional structure of Japanese distribution, private brand development strategies as merchandising strategies employed by retailers, and marketing channel strategies and distribution. (Learning activities outside of classroom) Students should spend approximately one hour reading the relevant textbook sections before class and one hour reviewing the material after class based on the lecture.

(Grading Criteria /Policy) Assessment will be based entirely on the final examination (100%). Scores are given on a 100-point scale, and a score of 60 or above is required to pass.

流通論 II

戸田 裕美子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、流通論 I で学んだ知識をもとに、流通に関するより応用的な内容を取りあげ、流通を取り巻く様々な実践や理論を深く学ぶことを目的としている。具体的には、流通と情報システムの関係、物流管理、小売業における国際化、サービス財の流通、産業財の流通、流通政策とまちづくりといった内容を取り扱い、より幅広い社会的文脈における流通の理解を深めることを目指す。

【到達目標】

流通とマーケティングは密接に関わる活動であり、その関係性を理解することは第一の到達目標である。さらに、国際的な流通活動の様相や、物財と異なるサービス財の流通の特性、さらに産業財の流通における独自の特徴の理解を通じて、流通活動の広がりをより深く考察することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面方式で講義を行う。履修者の人数にもよるが、受講生が多数の場合は、双方向的な質疑応答などは困難であると思われるので、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して、受講生の疑問に対応することを心がける。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	流通論 I の内容の振り返り (テキスト第 1 章から第 6 章の概略)	前期の授業の内容を概説して振り返りを行う
第2回	商品・在庫識別の情報技術と店舗における情報システムの仕組み (テキスト第 7 章)	情報技術の発展と流通の関係性について理解する
第3回	企業間の情報ネットワークと情報技術の展開 (テキスト第 7 章)	企業間の情報ネットワークと情報技術の発展と流通の関係を理解する
第4回	物流の役割と物流管理 (テキスト第 8 章)	物流管理の概念を理解する
第5回	物流における需要の不確実性への対応 (テキスト第 8 章)	物流における需要の不確実性への対応に関わる理論と実践を理解する
第6回	EC の発展と物流の今日的課題 (テキスト第 8 章)	IT 革命後の商取引の変化と、それに伴う物流の課題を理解する
第7回	グローバル流通の展開 (テキスト第 9 章)	小売業における国際化の課題を理解する

第8回	小売国際化の参入形態と標準化・適応化問題 (テキスト第 9 章)	小売国際化における参入方法の特徴と、標準化・適応化問題の特性を理解する
第9回	小売国際化における知識移転問題 (テキスト第 9 章)	小売業における今日的課題としての知識移転の諸問題を理解する
第10回	サービス財の流通 (テキスト第 10 章)	サービス社会の特徴と、サービス財の流通の課題を理解する
第11回	サービスの位置付けと消費のサービス化 (テキスト第 10 章)	サービスと流通の諸問題を理解する
第12回	産業財における流通経路の特殊性 (テキスト第 11 章)	産業財の特徴と、その流通の特殊性を理解する
第13回	流通の社会的役割と流通政策 (テキスト第 12 章)	流通政策の特性を理解する
第14回	流通政策とまちづくりに関わる諸法 (テキスト第 12 章)	流通政策における今日的課題を理解する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で使用するテキストの該当部分を事前に熟読する：1 時間
授業の講義内容をもとに、テキストの内容を事後的に復習する：1 時間

【テキスト (教科書)】

崔容熏, 原頼利, 東伸一編著『はじめての流通【新版】』有斐閣ストゥディア, 2022 年

【参考書】

適宜、必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %、成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関する質問や疑問に可能な限り対応するため、ポータルサイトを活用して双方向のやり取りを可能な限り行うことを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料を印刷して配布することはないため、講義資料を閲覧したり、関連する情報を探索するために、ノートパソコンやタブレットなどのデバイスが必要とする。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

(Learning Objectives) This course aims to deepen understanding of the various aspects of modern distribution by examining the roles and functions of distribution and the diverse actors involved, building on the knowledge acquired in the introductory marketing course. Specifically, it covers topics such as the various forms and innovations of retailers and wholesalers as distribution intermediaries, the traditional structure of Japanese distribution, private brand development strategies as merchandising strategies employed by retailers, and marketing channel strategies and distribution.

(Learning activities outside of classroom) Students should spend approximately one hour reading the relevant textbook sections before class and one hour reviewing the material after class based on the lecture.

(Grading Criteria /Policy) Assessment will be based entirely on the final examination (100%). Scores are given on a 100-point scale, and a score of 60 or above is required to pass.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

サービス・マネジメント論 I

木村 純子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はサービス・マネジメント論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエスチョンを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。【就活でも休めない対面授業です。】複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを知り技術を上げることになります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か（「ルール」）を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の「技術」を高めます。

【到達目標】

サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。活動を通じて、4つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識（リサーチ・クエスチョン）を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP5」に関連が特に強く、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎週金曜日 13 時 10 分～14 時 50 分まで対面授業を実施します。授業中、スマホと PC は一切使用不可
成績評価の方法は授業内レポート 100% です。
毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。
フィードバック、毎回採点して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 本講義の特徴	1) 授業中、スマホと PC は一切使用不可【就活中でも休めない授業】がキャッチコピーの本講義の説明をします。 2) マーケティングの基本的概念
第2回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論 枠組みの説明
第3回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論 を用いた事例研究
第4回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論 枠組みの説明
第5回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論 を用いた事例研究
第6回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論 枠組みの説明
第7回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論 を用いた事例研究
第8回	ゲストスピーカー	調整中
第9回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論 枠組みの説明
第10回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論 を用いた事例研究
第11回	ゲストスピーカー	調整中
第12回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論 枠組みの説明
第13回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論 を用いた事例研究
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外で、課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行います。

本授業の準備学習と復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100%
回数に関する事前予告なし。
毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。
【欠席の扱い】
欠席 4 回以上で不合格（成績は D）。
第 1 回授業を除く 13 回中 3 回以下（出席率 77% 以上）まで可能とします。欠席が 4 回以上（欠席率 23%）は D 評価となり不合格です。欠席回数が増えると平均点が D (0.7 未満) となる可能性があるのをご注意ください。
就職活動は欠席の理由になりません。欠席に対して別の課題をお出しすることはありません。コロナウイルスをはじめ体調にはくれぐれもご留意され授業に取り組んでください。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクションを望む声がありましたので、講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティブな演習形式を取り入れます。

【その他の重要事項】

履修すべき関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」「国際マーケティング論」
著作権と肖像権の問題から講義資料のスマートフォン等を用いたあらゆる撮影と録音を禁止させていただきます。
授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論 I」「サービス・マネジメント論 II」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の通りです。
(1) 4 年生春学期は就職活動で忙しくなる
4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずで、当該学期は単位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処すべきかも考えておくべきです。
(2) 本シラバスに記載されている
本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。
(3) 欠席理由の確認が取れない
本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていません。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公平性を欠くことになります。
(4) 公平性
就活生を特別扱いするということは、毎週真面目に授業に出席し課題に取り組んでいる学生に対する逆差別となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to, instead of making service management theory mere a theory on the desk, 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of service management, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

サービス・マネジメント論Ⅱ

木村 純子

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はサービス・マネジメント論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエストを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。秋学期のキャッチコピー「出席しているだけでは受からない授業」授業中、スマホとPCの使用は禁止。複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを知り技術を上げることになります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か（「ルール」）を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の「技術」を高めます。

【到達目標】

サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。

活動を通じて、4つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスト)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP5」に関連が特に強く、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎週金曜日 13 時 10 分～14 時 50 分まで対面授業を実施します。

授業の進め方と方法

教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。各受講生が理解したかどうかは毎回の授業内レポート課題によって確認します。レポートは学習支援システムを通じて 14 時 30 分までに提出します。（当日の授業の 14 時 50 分までに提出されたレポートのみ受け付けます。）授業後や後日の提出は不可です。

成績評価の方法は授業内レポート 100%です。毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

フィードバック、毎回採点して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 本講義の特徴	1)【就活中でも休めない授業】がキャッチコピーの本講義の説明をします。 2)マーケティングの基本的概念
第2回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論 枠組みの説明
第3回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論 を用いた事例研究
第4回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論 枠組みの説明
第5回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論 を用いた事例研究
第6回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論 枠組みの説明
第7回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論 を用いた事例研究
第8回	ゲストスピーカー	調整中
第9回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論 枠組みの説明
第10回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論 を用いた事例研究
第11回	ゲストスピーカー	調整中
第12回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論 枠組みの説明
第13回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論 を用いた事例研究

第14回 まとめ

春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行う場合があります。

本授業の準備学習と復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100%

回数に関する事前予告なし。

毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

【欠席の扱い】

欠席 4 回以上で不合格(成績は D)。

第1回授業(4月24日)を除く 13 回中 3 回以下(出席率 77%以上)まで可能とします。欠席が 4 回以上(欠席率 23%)は D 評価となり不合格です。欠席回数が増えると平均点が D(0.7 未満)となる可能性があるのご注意ください。就職活動は欠席の理由になりません。欠席に対して別の課題をお出しすることはありません。コロナウイルスをはじめ体調にはくれぐれもご留意され授業に取組んでください。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクションを望む声がありましたので、講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティブな演習形式も適宜取り入れます。

【その他の重要事項】

履修すべき関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」「国際マーケティング論」著作権と肖像権の問題から講義資料のスマートフォン等を用いたあらゆる撮影と録音を禁止させていただきます。授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論Ⅰ」「サービス・マネジメント論Ⅱ」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の通りです。

(1)4 年生春学期は就職活動で忙しくなる

4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずで、当該学期は単位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処すべきかも考えておくべきです。

(2)本シラバスに記載されている

本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。

(3)欠席理由の確認が取れない

本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていません。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公平性を欠くことになります。

(4)公平性

就活生を特別扱いするということは、毎週真面目に授業に出席し課題に取り組んでいる学生に対する逆差別となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to, instead of making service management theory mere a theory on the desk, 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of service management, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論 I

金 容度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス（企業統治）の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本の経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣

②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験（70％）、授業中の小試験（30％）である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on business management in Japan. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第11回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70%、授業中の小テスト30%(1回10%×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文(1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

製品開発論 I

田路 則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。

顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えると、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】

以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。

ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義

・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義

ハイテク製品の構造

・統合される多様な技術知識

・コスト構造

製品開発のプロセス

・研究、開発、製造、販売までのプロセス

・コンセプト・デザインの重要性

・マニュファクチャリング（製造）

イノベーション

・市場と技術の関係

・イノベーションの定義

・ドミナント・デザインの決定

製品開発戦略

・競争戦略論と資源蓄積論

・ライセンスリング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ

製品開発組織

・研究所と事業部

・プロジェクト・マネージャーの仕事

・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。

ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。フィードバックは、次回の講義で行うか、Hoppi を使って、間違いやすかった点や留意点を周知する。

春学期はラディカルイノベーション、コモディティ化、技術蓄積のテーマを扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	時計(セイコーのクォーツ1)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーション
2	時計(セイコーのクォーツ2)	コモディティ化と統合型企業のジレンマ
3	時計(セイコーのクォーツ3)	コモディティ化の考察解説とその後のイノベーション
4	時計(カシオのG-Shock1)	製品開発と事業化
5	時計(カシオのG-Shock2)	グローバルブランドの構築
6	スイッチ(NKK1)	技術蓄積
7	スイッチ(NKK2)	海外展開と新市場創出

8	アライアンスとオープン・イノベーション	戦略的提携と外部資源の活用
9	医療機器(テルモ1)	組織改革
10	医療機器(テルモ2)	技術蓄積
11	医療機器(テルモ3)	事業ドメインの構築
12	食品（不二製油1）	技術蓄積から新規事業へ
13	食品（不二製油2）	両利きの経営への挑戦
14	液晶テレビ(シャープ)	電子半導体産業におけるコモディティ化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2 時間程度の予習と、受講後の復習に 2 時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

- ①「イノベーション・マネジメント」近能善範・高井文子 新世社 2010 年
- ②『ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子 東洋経済新報社 2010 年
- ③『MOT“技術経営”入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

全部で 4 回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計 (50%) と最終課題 (50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

なじみのない製品を扱う回もあるが、映像や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドであるため、PC と wifi 環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】

関連科目は、技術管理論 I / II、経営戦略論 I / II、国際経営論 I / II 等

【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」

「グローバル戦略」

「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】

- ①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム－事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析－」田路則子・福岡路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学, 22 巻, pp.175-205, 2025 年.
- ②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43 号 4 巻, pp.31-42, 2024 年.
- ③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56 巻 3 号, 2023 年.
- ④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 37 巻, pp.73-77, 2021.
- ⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年.
- ⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号, pp.172-184, 2017 年.
- ⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014.
- ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年.
- ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻, 5 号, pp.211-231, 2009 年.
- ⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】: About four small reports (50%) and a final report/ test (50%)

MAN200FD（経営学 / Management 200）

製品開発論 II

田路 則子

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。

顧客の満足度を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えると、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】

以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。

ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義

・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義

ハイテク製品の構造

・統合される多様な技術知識

・コスト構造

製品開発のプロセス

・研究、開発、製造、販売までのプロセス

・コンセプト・デザインの重要性

・マニュファクチャリング（製造）

イノベーション

・市場と技術の関係

・イノベーションの定義

・ドミナント・デザインの決定

製品開発戦略

・競争戦略論と資源蓄積論

・ライセンスリング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ

製品開発組織

・研究所と事業部

・プロジェクト・マネージャーの仕事

・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。

ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。フィードバックは、次の講義で行うか、Hoppiを使って、間違いやすかった点や留意点を周知する。秋学期はビジネスプラットフォーム、グローバル化、日米のスタートアップの事例を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	カメラ(コダック)	イノベーションとドミナント・デザイン
第2回	カメラ(コダックと富士フィルム)	イノベーターのジレンマ
第3回	イメージセンサー(ソニー)	イノベーターズ・ジレンマと統合型企業のジレンマ
第4回	PC(Apple)	PCの誕生と進化
第5回	PC&スマートフォン(Apple)	ビジネス・プラットフォームの構築
第6回	ビジネスプラットフォーム	ビジネス・プラットフォーム
第7回	空調機(ダイキン工業1)	欧州におけるローカリゼーション

第8回	空調機(ダイキン工業2)	ダイキンのグローバル展開と人材育成・中国展開
第9回	スタートアップとは	スタートアップとは
第10回	シリコンバレーのスタートアップ1	シリコンバレーの起業エコシステム
第11回	シリコンバレーのスタートアップ2	シリコンバレーのITビジネス
第12回	日本のスタートアップ1	ITビジネスの起業プロセス・グラモ
第13回	日本のスタートアップ2	半導体ビジネスの起業プロセス・RAYTEX
第14回	シリコンバレーのスタートアップ3	半導体ビジネスの連続起業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2時間程度の予習と、受講後の復習に2時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

- ①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
- ②『ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子 東洋経済新報社 2010 年

【成績評価の方法と基準】

全部で4回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計(50%)と最終課題（50%）。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

なじみのない製品を扱う回もあるが、VTRや写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドであるため、PCとwifi環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】

関連科目は、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、国際経営論 I/II 等

【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズムー事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析ー」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学,22巻,pp.175-205,2025年. ②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年. ③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年. ④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割ーバルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021. ⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年. ⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年. ⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻5号,pp211-231,2009年. ⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】：About four small reports (50%) and a final report/ test (50%)

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

金 塔 晋

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待リターンが資本コストに衣替えします。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
- ・株式会社経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。クイズ、課題などに対するフィードバックは次の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
第2回	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
第3回	キャッシュフローの時間価値1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
第4回	キャッシュフローの時間価値2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、割引現在価値計算の応用、表計算ソフトを用いた計算例
第5回	債券と株式の評価	債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
第6回	投資の意思決定1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
第7回	投資の意思決定2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実例
第8回	投資の意思決定2	リアルオプション価値の考慮、標準的NPV法との比較
第9回	証券のリターンとリスク1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
第10回	証券のリターンとリスク2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
第11回	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意

第12回	企業価値評価1	DCF法（WACC法）
第13回	企業価値評価2	APV法、FTE法、RI法
第14回	企業価値評価3	EVA、MVA、諸企業価値評価手法の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
 新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
 久保田敏一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、クイズ20%

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.

By the end of the course, students should be able to:

- understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
- understand the relation between management and investors.
- understand the difference between financing choices.
- understand how to estimate the cost of capital.
- understand how to value the firm.
- understand how to pay out profits to shareholders.
- understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

金 瑠 晋

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待リターンが資本コストに衣替えします。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。クイズ、課題などに対するフィードバックは次の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本構成理論1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MMの命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
第2回	資本構成理論2	節税効果、修正MMの命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、トレードオフ理論
第3回	資本構成理論3	資金調達意思決定とエージェンシー費用、ベッキングオーダー仮説、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
第4回	ペイアウト政策1	内部留保 vs. ペイアウト 配当 vs. 自社株買い
第5回	ペイアウト政策2	ペイアウト政策に関するMMの無関連命題
第6回	ペイアウト政策3	現金保有のメリット・デメリット 最適ペイアウト政策
第7回	エクイティファイナンス1	ベンチャーファイナンス、新規株式公開
第8回	エクイティファイナンス2	公募増資、エクイティファイナンスの直接費用と間接費用
第9回	デットファイナンス	社債発行 vs. 借入 デットファイナンスの費用
第10回	合併・買収	M&Aの経済的メリット 、M&Aの意思決定
第11回	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスの仕組み、株主と利害関係者
第12回	財務リスク管理	財務リスクの管理、ヘッジ
第13回	国際財務管理	海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際資金調達
第14回	総括	補足と締め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

久保田敏一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験80％、クイズ20％

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましよう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.

By the end of the course, students should be able to:

- understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
- understand the relation between management and investors.
- understand the difference between financing choices.
- understand how to estimate the cost of capital.
- understand how to value the firm.
- understand how to pay out profits to shareholders.
- understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

山 寄 輝

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔春学期授業/Spring〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ

第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値
第13回	先渡取引（3）	金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90％、対面試験）と授業期間中の小テスト（10％、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山 寄 輝

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。

さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。

本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件

第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90%、対面試験）と授業期間中の小テスト（10%、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通常14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

投資入門（2019年度以降入学者）

芝田 隆志

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、金融資産への投資に関する重要な概念や、債券投資および株式投資の基礎的事項について講義します。具体的には、「時間価値」「名目金利」「実効金利」「複利効果」といった基本概念を学ぶとともに、債券投資において重要な「デュレーション」や、株式投資において重要な「割引配当モデル」について学習します。

【到達目標】

本講義での到達目標は、経済主体が資産形成を行う際における投資に関する知識・知見を習得することにあります。そのためには、次の点を理解する必要があります。

- ① 貨幣の時間価値、将来価値、現在価値について理解する。
- ② 複利効果とそのメカニズムについて理解する。
- ③ デュレーションやイールドカーブについての基礎的知識を習得する。
- ④ 株式についての基礎的な知識を習得する。
- ⑤ 効率的市場仮説についての基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式の対面講義となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法について説明する
第2回	貨幣の時間価値	利子率、現在価値、将来価値について学習する
第3回	内部収益率(資本の限界効率)	投資の意思決定について学習する
第4回	さまざまな複利期間に関する金利計算	月利複利下での現在価値と将来価値について学習する
第5回	金利計算の実例（1）	住宅ローン、自動車ローン、積立貯蓄、投資信託における利回り計算について学習する
第6回	金利計算の実例（2）	引き続き、住宅ローン、自動車ローン、積立貯蓄、投資信託における利回り計算について学習する
第7回	債券の基礎知識（1）	債券市場、債券の種類について学習する
第8回	債券の基礎知識（2）	債券価格とその利回り計算について学習する
第9回	債券の基礎知識（3）	債券投資のリスクについて学習する
第10回	債券の基礎知識（4）	デュレーションについて学習する
第11回	金利の期間構造	イールドカーブについて学習する
第12回	株式価値評価	割引配当モデルについて学習する
第13回	株式価値評価	引き続き、割引配当モデルについて学習する
第14回	効率的市場仮説	効率的市場仮説に沿って情報と証券価格について学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習を行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【参考書】

参考書については、講義中に適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%，小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

基礎的事項を丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

教員が事前に連絡した授業日には、Excelがインストールされたパソコンがあることが望ましい。

【関連科目】

ファイナンス入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門I/II，デリバティブ入門i/II，Excelで学ぶファイナンス理論I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of finance, especially, investment theory. The goals of the course are to understand the essential concept of investment theory. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

ポートフォリオ理論入門（2019年度以降入学者）

芝田 隆志

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、平均分散分析と呼ばれるポートフォリオ理論の基礎的事項について講義します。

いま、皆様の日常生活における意思決定を考えると、失敗は避けたい一方で、自分の満足度をできるだけ高めたいという状況に直面することが多いのではないのでしょうか。このような状況は、リスクとリターンが互いにトレードオフの関係にある状態であり、いわゆるハイリスク・ハイリターン現象と呼ばれます。

実社会において、私たち経済主体が金融市場で資金運用を行う際にも、このハイリスク・ハイリターンの現象に直面します。そこで本講義では、このような状況下における経済主体の最適化行動について考えます。具体的には、資金運用において一定水準以上のリターンを確保するという仮定の下で、リスクを最小化する方法を数学的に理論導出します。さらに、その最適行動のもとで成立する市場均衡を考察し、資金運用において成り立つリスクとリターンの関係について学習します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、最適ポートフォリオ理論や資本資産評価モデルを用いて、資金を運用する場合におけるリスクとリターンの相互作用、またそのメカニズムについて理解することにあります。そのためには、次の点を理解する必要があります。

1. ポートフォリオの収益率、その期待値、標準偏差、共分散を計算できる。
2. ポートフォリオの分散減少効果、そのメカニズムについて理解する。
3. ファイナンスにおける完全競争市場の条件とその意味について理解する。
4. CAPMを用いて、リスク資産のリスク量に応じた期待収益率を計算できる。
5. 実際の個別株価データを用いて、その株価に対する市場評価について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式の対面講義となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ポートフォリオ理論の学問的位置づけについて学習します。
第2回	収益率、対数収益率、確率変数	価格と収益率の関係、確率変数について学習します。
第3回	収益率の期待値と分散	期待値と分散、それらの性質について学習します。
第4回	収益率の共分散と相関係数	共分散と相関係数、それらの性質について学習します。
第5回	ポートフォリオ理論（1）	ポートフォリオ理論の仮定について学習します。
第6回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率、分散、標準偏差について学習します。
第7回	ポートフォリオ理論（3）	引き続き、ポートフォリオの収益率、分散、標準偏差について学習します。
第8回	ポートフォリオ理論（4）	ポートフォリオによる分散効果について学習します。
第9回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第10回	ポートフォリオ理論（6）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第11回	ポートフォリオ理論（7）	安全資産が存在する場合の投資機会集合について学習します。
第12回	ポートフォリオ理論（8）	安全資産が存在する場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第13回	資本資産評価モデル（1）	資本資産評価モデルについて学習します。
第14回	資本資産評価モデル（2）	引き続き、資本資産評価モデルについて学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習を行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸、2019、入門・証券投資論、有斐閣

【参考書】

参考書について、適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

学期末試験が80%、講義で実施する演習および講義参加が20%

【学生の意見等からの気づき】

図解にて視覚的に理解できるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

EXCEL演習を取り入れます

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II、Excelで学ぶファイナンス理論 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of portfolio theory called the mean-variance analysis. The goal of this course is to understand the interaction between risk and return when managing funds using optimal portfolio theory and the capital asset pricing model (CAPM). Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論 I

大木 良子

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目300番台 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の実証手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

春学期の産業組織論 I では、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場を分析し、自分の考えを論述することができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また対面での期末試験を行うことを予定している。

学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
第4回	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
第5回	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
第6回	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
第7回	中間試験	オンラインで中間試験を実施。これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
第8回	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が増えたり減ったりすると競争はどのように変わっていくか？
第9回	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い

第10回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
第11回	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
第12回	ゲーム理論（3）	競争政策の基礎を学ぶ。現実の競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。
第13回	競争政策と産業組織論・事例分析	春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。対面で実施予定の期末試験の概要を説明する。
第14回	問題演習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学 第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論 第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学 第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %
中間試験 15 %
期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論 I と II は密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期の I の内容を前提として秋学期の II が進められます。I を履修せず II を履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I / II、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I / II、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論 II

大木 良子

市場経営学科専門科目300番市場経営学科専門科目300番 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の実証手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

秋学期の産業組織論IIでは、春学期の産業組織論Iで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的な取引制限など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また対面で実施予定の期末試験を行う。

学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
第2回	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
第3回	製品差別化と競争（1）	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
第4回	製品差別化と競争（2）	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
第5回	製品差別化と競争（3）	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどうに決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響を検討する。
第8回	中間試験	オンラインで中間試験を実施する。これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
第9回	垂直的な取引制限（1）	垂直的な取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
第10回	垂直的な取引制限（2）	様々な垂直的な取引制限と市場競争との関係を理論分析する。
第11回	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係を考察する。
第12回	ネットワーク外部性（1）	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンやSNSのビジネスモデル）
第13回	ネットワーク外部性（2）	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介

第14回 事例研究

これまでの学習内容を最近の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。対面で実施予定の期末試験の概要を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『ブラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学 第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論 第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学 第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

宿題20%

中間試験15%

期末試験65%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論IとIIは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のIの内容を前提として秋学期のIIが進められます。Iを履修せずIIを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門I/II、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門I/II、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies. Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

COT300FD（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報技術論 I

入戸野 健

市場経営学科専門科目300 番市場経営学科専門科目300 番 市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材(講義資料)の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
第2回	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
第3回	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
第4回	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
第5回	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
第6回	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
第7回	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
第8回	基数の変換	数の表現方法として10進数・2進数などの性質や変換の方法について解説する。
第9回	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
第10回	コンピュータの構成装置(1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
第11回	コンピュータの構成装置(2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
第12回	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器をPCへ接続するためのインターフェースについて説明する。
第13回	ICとデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路(IC)の基礎について解説する。
第14回	デジタル機器とデジタル家電	PCやスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15%) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2～3回程度出題します。

期末考査 (70%) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

COT300FD（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報技術論 II

入戸野 健

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目300 番台 市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材(講義資料)の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
第2回	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
第3回	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
第4回	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
第5回	LANとその発展	LANや小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
第6回	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
第7回	Web技術とeコマース	Webによるサービスの展開方法を解説しeコマースの事例を考察する。
第8回	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
第9回	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
第10回	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
第11回	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
第12回	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
第13回	情報化と社会活動	新しい情報ツールが日常生活や組織活動へ与える影響について展望する
第14回	応用と展望	IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15％）：毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート（15％）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2～3回程度出題します。

期末考査（70％）：期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN300FD（経営学 / Management 300）

技術管理論 I

近能 善範

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目300番台 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術管理論とは、ごく簡単に言えば、「技術を武器にした経営戦略論」とでも言うべきもので、「技術を活用しつつ、どのようにビジネスを成功させるのか」を学ぶ授業です。「技術経営論」や「イノベーション・マネジメント」と呼ばれることもあります。

一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためには、戦略的なマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、研究・技術開発や生産のマネジメントはもちろん、いかにして技術を新たな顧客価値に結びつけ、ビジネスとして成立・成長させていくのか、といった点がより重要となります。

この授業では、こうした技術管理論に関わる基礎的な内容を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

この授業では、技術管理論に関わる基本的な考え方や概念などを身につけてもらうことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション(1)	技術管理論とはどのような学問か
第2回	イントロダクション(2)	イノベーションとは何か、どうして重要なのか
第3回	イノベーション・プロセス	イノベーション・プロセスのモデルと三つの関門
第4回	イノベーションのパートナー(1)	「製品ライフサイクル」
第5回	イノベーションのパートナー(2)	「普及曲線」
第6回	イノベーションのパートナー(3)	「技術進歩のS字曲線」
第7回	イノベーションのパートナー(4)	「A-Uモデル」の説明
第8回	イノベーションのパートナー(5)	「A-Uモデル」の応用：「機会の窓」と「シェイクアウト」
第9回	イノベーションのパートナー(6)	「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第10回	イノベーションと企業の競争力(1)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力(1)：「大企業病」
第11回	イノベーションと企業の競争力(2)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力(2)：「過去の資産の負債化」
第12回	イノベーションと企業の競争力(3)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第13回	イノベーションと企業の競争力(4)	「持続的イノベーション」／「分断的イノベーション」と企業の競争力
第14回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に求めませんが、毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノート、テキストの該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024年。

その他に、必要な場合には適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

I・IIとも、「期中のレポート（25点満点）＋授業内クイズ and ビデオ感想（15点満点）＋期末試験（60点満点）レポート」の総合計に基づいて評価します。

なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望が強いので、企業の具体的な事例を、なるべく数多く盛り込む予定です。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は、原則として法政大学学習支援システムを通じて配布する予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

また、授業内クイズも、法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、スマートフォン等、学習支援システムに接続できる何かしらの情報機器を持参してください。

【その他の重要事項】

(1) 技術管理論のIとIIは、できるだけ併せて履修することが望ましい。

(2) なお、授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。また、授業中の迷惑行為が目に見える場合には、本授業の単位を付与しません。以上を予めご承知の上で履修して下さい。

【関連科目】

関連科目は、戦略論入門、マーケティング入門、組織論入門、経営管理論I/II、経営戦略論I/II、マーケティング論I/II、製品開発論I/II、戦略的意思決定論I/II、国際経営戦略論I/II、中小企業論I/II、日本経営論I/II、経営情報論I/IIなどです。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

"Technology management" means a strategic management leveraged by technology. The goal of this class is to understand basic knowledge and ideas concerning "Technology management" with concrete examples from various industries.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: Report (25 %) + Quiz & Video feedback (15 %) + Test (60 %).

MAN300FD（経営学 / Management 300）

技術管理論 II

近能 善範

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目300 番台 市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術管理論とは、ごく簡単に言えば、「技術を武器にした経営戦略論」とでも言うべきもので、「技術を活用しつつ、どのようにビジネスを成功させるのか」を学ぶ授業です。「技術経営論」や「イノベーション・マネジメント」と呼ばれることもあります。

一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激しい競争に勝ち残っていくためには、戦略的なマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、研究・技術開発や生産のマネジメントはもちろん、いかにして技術力を新たな顧客価値に結びつけ、ビジネスとして成立・成長させていくのか、といった点がより重要となります。

この授業では、こうした技術管理論に関わる基礎的な内容を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

この授業では、技術管理論に関わる基本的な考え方や概念などを身につけてもらうことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	業界標準のマネジメント(1)	「業界標準」とは何か、なぜ重要か、三つの「業界標準」
第2回	業界標準のマネジメント(2)	デファクト・スタンダードを確立するための戦略:「ネットワーク外部性」、「クローズド・ポリシー」と「オープン・ポリシー」
第3回	業界標準のマネジメント(3)	デファクト・スタンダードの世代交代に伴う戦略
第4回	業界標準のマネジメント(4)	プラットフォームの戦略
第5回	新製品開発のマネジメント(1)	新製品開発のプロセス
第6回	新製品開発のマネジメント(2)	「製品コンセプト」の開発と「プロジェクト・スクリーニング」
第7回	新製品開発のマネジメント(3)	「機能設計」と市場投入後の戦略
第8回	新製品開発のマネジメント(4)	革新的新製品開発のマネジメント
第9回	企業間関係のマネジメント(1)	アウトソーシングのマネジメント
第10回	企業間関係のマネジメント(2)	アライアンスのマネジメント
第11回	企業間関係のマネジメント(3)	オープン・イノベーションのマネジメント
第12回	ビジネスモデルのマネジメント(1)	「ビジネスプロセス」のマネジメント
第13回	ビジネスモデルのマネジメント(2)	「収益モデル」のマネジメント
第14回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に求めませんが、毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノート、テキストの該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024 年。
その他に、必要な場合には適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

I・IIとも、「期中のレポート（25 点満点）＋授業内クイズ and ビデオ感想（15 点満点）＋期末試験（60 点満点）レポート」の総合計に基づいて評価します。

なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望が強いので、企業の具体的な事例を、なるべく数多く盛り込む予定です。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は、原則として法政大学学習支援システムを通じて配布する予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

また、授業内クイズも、法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、スマートフォン等、学習支援システムに接続できる何かしらの情報機器を持参してください。

【その他の重要事項】

(1)技術管理論の I と II は、できるだけ併せて履修することが望ましい。

(2)なお、授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2 回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。また、授業中の迷惑行為が目に見える場合には、本授業の単位を付与しません。以上を予めご承知の上で履修して下さい。

【関連科目】

関連科目は、戦略論入門、マーケティング入門、組織論入門、経営管理論 I / II、経営戦略論 I / II、マーケティング論 I / II、製品開発論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、国際経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、日本経営論 I / II、経営情報論 I / II などです。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

"Technology management" means a strategic management leveraged by technology. The goal of this class is to understand basic knowledge and ideas concerning "Technology management" with concrete examples from various industries.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: Report (25 %) + Quiz & Video feedback (15 %) + Test (60 %).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

経営のための経済学

宮澤 信二郎

市場経営学科専門科目300番市場経営学科専門科目300番 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】

以下の3点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の取引関係、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。各回とも、質疑・応答の時間を十分に取ります。また、簡単な例題を出題し、授業内で参加者の解答と正解を確認します。これらにより、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：企業を経営する	企業の経営に関して、まず何を把握しなくてはいけないのかについて考えたうえで、経営の意思決定の基礎を学びます。
2	生産：何をどうやって作るか	生産技術と生産の決定に関して学びます。
3	販売：誰にいくらで売るか	市場の環境に応じて、誰にいくらで売ることになるのかについて学びます。
4	交渉：儲けはどのように分けるか	特定の相手との間の交渉について学びます。
5	リスク：先のことはよくわからない	企業が直面する様々なリスクについて確認したのちに、リスクに直面するときの意思決定に関して学びます。
6	情報：相手のことはよくわからない	取引相手との間で情報の非対称性があるときにどのような問題が起こるのかについて学びます。また、これらの問題に対する対応方法について検討します。
7	中間試験と振り返り	第6回までの内容について試験を実施したうえで、これまでの振り返りを行います。
8	採用（1）：学歴で選ぶのはあり？	労働者の能力に関する情報の問題を確認したうえで、学歴のシグナリング機能に関して学びます。
9	採用（2）：仕事を選んでもらおう！	コース別採用のスクリーニング機能について学びます。
10	人材（1）：仕事を頑張ってもらおう！	労働者の努力に関する情報の問題を確認したうえで、成果給の役割と限界について学びます。
11	人材（2）：スキルアップしてもらおう！	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	財務（1）：いいビジネスなんだけどお金はどうする？	企業が必要な資金を調達する手段として、負債と株式の違いについて学びます。

13	財務（2）：どうしたらお金を出してもらえるの？	資金を調達する際にどのような問題が起こり得るのかについて学び、どのように資金調達をしたら良いのかについて検討します。また、企業の財務危機についてどのように考え、どのように対応したらよいのかについて学びます。
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施したうえで、全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞出版（2021年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）
デイビッド・ペサンコほか（奥村昭博・大林厚臣監訳）『戦略の経済学』ダイヤモンド社（2002年）
エドワード・ラジャー、マイケル・ギブス（樋口美雄監訳）『人事と組織の経済学実践編』日本経済新聞出版社（2017年）
などです。必要に応じて授業中に追加を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、中間試験（30％）、期末試験（40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過年度の授業中に回収したリアクションペーパーへの記載内容等を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。また、可能な限り、双方のやり取りをする時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 1) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群）を履修している、あるいは同等以上の内容を学習していることが望ましいです。
- 2) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」）、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
- 3) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance. You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.
- B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
- C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities. [Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on the mid-term examination, (30%), term-end examination (40%), and in class contribution (30%).

MAN300FD（経営学 / Management 300）

マーケティング・リサーチⅠ（2018年度以前入学者）

西川 英彦

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「どうしてこの商品は売れているんだろう？」「もっと良くするには何を变えればいいんだろう？」

この授業は、こうした疑問に対して、思いつきではなく、調査やデータにもとづいて答えを出す力を身につけることを目的としています。

身近な商品やサービスを題材に、インタビューや観察、アンケートなどの調査とその分析を通して、人の本音や行動を読み解き、そこから新しい商品やサービスのアイデアを考えるプロセスを学びます。

春学期は、インタビューや観察などの定性的調査を通して人の「本音」を探り、アイデアを生み出す方法を学びます。さらに、リサーチの実際として、コカ・コーラの部長や花王のグループ長によるゲスト講演も予定しています。

秋学期の本授業では、アンケート調査やデータ分析などの定量的調査を扱い、そのアイデアや仮説がどの程度妥当なのかを、データという根拠をもって検証できるようになることを目指します。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できます。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点です。

①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につけることです。

②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深めます。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行います。

質問は、事後課題（加点あり）あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	商品企画プロセス（テキスト1章） ・ライオン「トップナノックス」の事例 ・電子テキストについて
第2回	ゲスト講師①	日本コカ・コーラ株式会社 緑茶事業部長 助川公太 氏 ・綾鷹などのリサーチやマーケティングの実際
第3回	デプスインタビューから顧客ニーズを把握する	インタビュー法（テキスト2章） ・資生堂「マジョリカマジョルカ」の事例
第4回	観察から顧客ニーズを把握する	観察法（テキスト3章） ・デザイン企業IDEO「ATMのミラー」の事例
第5回	リード・ユーザー法からユーザー・インペーションを知る	リード・ユーザー法（テキスト4章） ・フェリシモ「生活雑貨大賞」の事例
第6回	顧客ニーズからアイデアを発想する 最終レポートの説明	アイデア発想（テキスト5章） ・TOTO「クラッソ」の事例 ・最終レポートの説明 ・昨年の優秀例の紹介
第7回	アイデアをもとにコンセプトを開発する	コンセプト開発（テキスト6章） ・エースコック「JANJANソース焼きそば」の事例
第8回	コンセプトをもとに試作品を作成する	プロトタイピング（テキスト7章） ・IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第9回	コンセプトが顧客ニーズに合っているかを確認する	顧客ニーズの確認（テキスト10章） ・ハウス食品「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の事例

第10回	いままでのことをまとめ、企画書を作成する	企画書作成（テキスト14章） ・フジッコ「フルーツセラビー」の事例
第11回	効果的なプレゼンテーションを行う	プレゼンテーション（テキスト15章） ・グリコ「メンズポッキー」の事例
第12回	ゲスト講師②	花王株式会社 化粧品事業部門 プレミアムブランドビジネスグループ グループ長 池辺順子氏 ・化粧品事業などのリサーチやマーケティングの実際
第13回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート報告 ・学生によるプレゼンテーション
第14回	優秀レポートの報告	最終優秀レポート報告 ・学生によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として、電子教科書の次の章を読んでくること。また、レポートを作成して、学期末に提出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、『1からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012年）の大学生協の電子テキストを使用します。大学生協の電子教科書（EDX UniText）を購入のこと。なお、紙版やKindle版もあるが、授業やフィードバックは大学生協の電子教科書をもとに進めるので注意すること。

・講師が、授業の補足情報を、電子教科書にアップするので、予習や復習がしやすくなるため、教科書は、大学生協の電子教科書を購入すること。
・こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子教科書へのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合があります。
・法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_274.html

・電子テキストを購入後に、以下のURLからログインして、電子教科書（EDX UniText）を利用します。組織コードは、10035である。ログインID、パスワードは、購入後に設定できます。

<https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku>

【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年

【成績評価の方法と基準】

<通常の成績評価（100点満点）>

・授業中課題（授業中に、学習支援システムでの回答）：42%（なお、4月の授業中課題は4月末まで回答可にします）
・レポートの提出（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）：58%

<以下は、加点となる>

・授業中の発言：1点加点。
・事前課題：該当章の重要なキーワードとその事例を学習支援システムにアップ。紹介時に発言された場合に、2点加点。
・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1点加点。
・早期レポートの提出者：全体のレポートの質向上のため、10点加点。ただし、当日参加が条件。
・早期・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善しました。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介します。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用します。

【学生が準備すべき機器他】

電子教科書を利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨します。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施します。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. This course uses actual corporate cases and concrete research examples related to product development, where marketing research is frequently applied, to help students understand marketing research in an accessible and practical way.

The purpose of this course is to learn the theory and practice of qualitative research methods, such as interviews and observations. Through these methods, students will explore consumers' underlying needs and generate ideas for product planning.

Students are required to read the assigned chapters of the e-textbook before class, submit comments or questions after each class, and complete a final report in the form of a product planning proposal at the end of the semester.

Outside of class time, students are expected to review the course materials and work on their final report. The standard preparation and review time for this course is approximately two hours each.

Grades will be determined by in-class exercises (42%) and a final report (58%).

In Marketing Research I (spring semester), students focus on qualitative research methods such as interviews and observation. In Marketing Research II (fall semester), students study quantitative research methods such as questionnaire design and data analysis. By completing both courses, students can expect to gain a synergistic learning effect.

MAN300FD（経営学 / Management 300）

マーケティング・リサーチⅡ（2018年度以前入学者）

西川 英彦

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ、この商品やサービスは人気があるのか?」「この施策は、どれくらい効果があったのか?」

この授業は、こうした疑問に対して、思いつきではなく、アンケート調査やデータ分析にもとづいて答えを出す力を身につけることを目的としています。

身近な商品やサービスを題材に、アンケートの作成やデータ分析などの定量的調査を通して、消費者の傾向や行動の違いを数値から読み解き、商品企画やマーケティング施策の仮説を検証するプロセスを学びます。

春学期のマーケティング・リサーチ論Ⅰでは、インタビューや観察などの定性的調査を通して人の「本音」を探り、アイデアを生み出す方法を学びました。

秋学期の本授業では、アンケート調査やデータ分析などの定量的調査を扱い、そのアイデアや仮説がどの程度妥当なのかを、データという根拠をもって検証できるようになることを目指します。さらに、リサーチの実際として、リサーチの実務経験をもつゲストによる講演があります。春学期と秋学期の両方を学ぶことで、相乗効果が期待できます。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点です。

- ①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につけます。
- ②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深めます。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行います。

演習は、無料版の「RStudio」（統計分析ソフト「R」を便利につかえるアプリ）を用いますが、テキスト通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも安心ください。

質問は、事後課題（加点あり）あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜマーケティングに統計分析が必要なのか？	記述統計（テキスト第Ⅰ部、コラム：「Rで実践」を始める前に） ・RStudioの操作、パソコンを持参のこと（次週以降も同様）
第2回	データは平均だけでなく「ばらつき」も大事	標準偏差（テキスト1章） ・RStudioを使ったミニ演習
第3回	2つの変数の関係は強い、弱い？	相関と連関（テキスト2章） ・RStudioを使ったミニ演習
第4回	その「仮説」はマーケティングに使えるか？	推測統計と仮説検定（テキスト第Ⅱ部-3章）
第5回	関係性をマーケティングに活かす	無相関検定（テキスト4章） ・RStudioを使ったミニ演習
第6回	クロス集計表から効果をあぶり出せ	カイニ乗検定（テキスト5章） ・RStudioを使ったミニ演習
第7回	その平均値の差に意味があるか、検証する	t検定（テキスト6章） ・RStudioを使ったミニ演習
第8回	1変数の影響を確かめるモデルをつくる	単回帰分析（テキスト7章） ・RStudioを使ったミニ演習
第9回	複数の変数の影響を考慮したモデルで現実近づける	重回帰分析（テキスト8章） ・RStudioを使ったミニ演習
第10回	実験に必須の手法を学ぶ	分散分析 ・RStudioを使ったミニ演習
第11回	報告書のイメージをつかむ	レポートの説明 ・レポートの説明
第12回	ゲスト講師	現在調整中。
第13回	適切なアンケートの作成とサンプリングの仕方	アンケートとサンプリング ・アンケートフォームを実際に作成
第14回	優秀レポートの報告	優秀レポートの報告とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備や復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・佐保圭(2026)『文系マーケティングのためのゼロから使える統計分析』日経BP

【参考書】

- ①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
- ②山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
- ③恩蔵直人・富田健司(編)(2022)『1からのマーケティング分析(第2版)』碩学舎
- ④南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

<通常の成績評価（100点満点）>

・授業中の課題（授業中に、学習支援システムへの回答）：42%

・レポートの提出：58%

<以下は、加点となる>

・授業中の発言：1点加点。

・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1点加点。

・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善しました。

①より理解が深まるように、基礎的なテキストを採用しました。

②レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、無料版アプリの「RStudio」を使うために、テキストと学習支援システムの資料を参考に、同ソフトと無料統計分析ソフトの「R」を、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施します。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through many examples of product planning. This course provides interactive lectures and exercises based on actual corporate cases related to product planning and marketing, where marketing research is frequently used.

In Marketing Research I (spring semester), students study qualitative research methods such as interviews and observation.

In Marketing Research II (fall semester), students focus on quantitative research methods, including questionnaire design and data analysis.

By taking both courses, students can gain a synergistic learning effect.

The goals of this course are as follows:

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire design and data analysis, based on specific examples.

(2) To conduct basic quantitative research and prepare a report to verify a hypothesis related to product planning.

In addition to class time, students are expected to review course materials and prepare a final report. The standard preparation and review time for this course is two hours each.

Grades will be determined by in-class exercises (42%) and a final report (58%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

企業財務論Ⅰ（2018年度以前入学者）

金 塔 晋

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待リターンが資本コストに衣替えします。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。クイズ、課題などに対するフィードバックは次回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
第2回	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
第3回	キャッシュフローの時間価値1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
第4回	キャッシュフローの時間価値2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、割引現在価値計算の応用、表計算ソフトを用いた計算例
第5回	債券と株式の評価	債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
第6回	投資の意思決定1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
第7回	投資の意思決定2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実例
第8回	投資の意思決定2	リアルオプション価値の考慮、標準的NPV法との比較
第9回	証券のリターンとリスク1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
第10回	証券のリターンとリスク2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
第11回	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
第12回	企業価値評価1	DCF法（WACC法）

第13回 企業価値評価2

第14回 企業価値評価3

APV法、FTE法、RI法

EVA、MVA、諸企業価値評価手法の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

久保田敏一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、クイズ20%

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.

By the end of the course, students should be able to:

- understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
- understand the relation between management and investors.
- understand the difference between financing choices.
- understand how to estimate the cost of capital.
- understand how to value the firm.
- understand how to pay out profits to shareholders.
- understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）

金 塔 晋

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待リターンが資本コストに衣替えします。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。クイズ、課題などに対するフィードバックは次の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本構成理論1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MMの命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
第2回	資本構成理論2	節税効果、修正MMの命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、トレードオフ理論
第3回	資本構成理論3	資金調達意思決定とエージェンシー費用、ベッキングオーダー仮説、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
第4回	ペイアウト政策1	内部留保vs. ペイアウト
第5回	ペイアウト政策2	配当vs. 自社株買い
第6回	ペイアウト政策3	ペイアウト政策に関するMMの無関連命題
第7回	エクイティファイナンス1	現金保有のメリット・デメリット
第8回	エクイティファイナンス2	最適ペイアウト政策 ベンチャーファイナンス、新規株式公開
第9回	デットファイナンス	公募増資、エクイティファイナンスの直接費用と間接費用 社債発行vs. 借入
第10回	合併・買収	デットファイナンスの費用 M&Aの経済的メリット
第11回	コーポレートガバナンス	、M&Aの意思決定 コーポレートガバナンスの仕組み、株主と利害関係者
第12回	財務リスク管理	財務リスクの管理、ヘッジ
第13回	国際財務管理	海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際資金調達
第14回	総括	補足と締め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
久保田敏一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験80％、クイズ20％

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.

By the end of the course, students should be able to:

- understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
- understand the relation between management and investors.
- understand the difference between financing choices.
- understand how to estimate the cost of capital.
- understand how to value the firm.
- understand how to pay out profits to shareholders.
- understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 〔春学期授業/Spring〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識 (1)	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識 (2)	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識 (3)	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識 (4)	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値 (1)	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値 (2)	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引 (1)	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引 (2)	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係 (1)	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係 (2)	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値

第13回 先渡取引 (3)

金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引

第14回 先渡取引 (4)

先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90%、対面試験）と授業期間中の小テスト（10%、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山 寄 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。

さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。

本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件

第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90%、対面試験）と授業期間中の小テスト（10%、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

証券経済論Ⅰ（2018年度以前入学者）

芝田 隆志

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、金融資産への投資に関する重要な概念や、債券投資および株式投資の基礎的事項について講義します。具体的には、「時間価値」「名目金利」「実効金利」「複利効果」といった基本概念を学ぶとともに、債券投資において重要な「デュレーション」や、株式投資において重要な「割引配当モデル」について学習します。

【到達目標】

本講義での到達目標は、経済主体が資産形成を行う際における投資に関する知識・知見を習得することにあります。そのためには、次の点を理解する必要があります。

- ①貨幣の時間価値、将来価値、現在価値について理解する。
- ②複利効果とそのメカニズムについて理解する。
- ③デュレーションやイールドカーブについての基礎的知識を習得する。
- ④株式についての基礎的な知識を習得する。
- ⑤効率的市場仮説についての基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式の対面講義となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法について説明する
第2回	貨幣の時間価値	利子率、現在価値、将来価値について学習する
第3回	内部収益率(資本の限界効率)	投資の意思決定について学習する
第4回	さまざまな複利期間に関する金利計算	月利複利下での現在価値と将来価値について学習する
第5回	金利計算の実例（1）	住宅ローン、自動車ローン、積立貯蓄、投資信託における利回り計算について学習する
第6回	金利計算の実例（2）	引き続き、住宅ローン、自動車ローン、積立貯蓄、投資信託における利回り計算について学習する
第7回	債券の基礎知識（1）	債券市場、債券の種類について学習する
第8回	債券の基礎知識（2）	債券価格とその利回り計算について学習する
第9回	債券の基礎知識（3）	債券投資のリスクについて学習する
第10回	債券の基礎知識（4）	デュレーションについて学習する
第11回	金利の期間構造	イールドカーブについて学習する
第12回	株式価値評価	割引配当モデルについて学習する
第13回	株式価値評価	引き続き、割引配当モデルについて学習する
第14回	効率的市場仮説	効率的市場仮説に沿って情報と証券価格について学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習を行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【参考書】

参考書については、講義中に適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%，小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

基礎的事項を丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

教員が事前に連絡した授業日には、Excelがインストールされたパソコンがあることが望ましい。

【関連科目】

ファイナンス入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門I/II，デリバティブ入門i/II，Excelで学ぶファイナンス理論I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of finance, especially, investment theory. The goals of the course are to understand the essential concept of investment theory. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

証券経済論Ⅱ（2018年度以前入学者）

芝田 隆志

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、平均分散分析と呼ばれるポートフォリオ理論の基礎的事項について講義します。

いま、皆様の日常生活における意思決定を考えると、失敗は避けたい一方で、自分の満足度をできるだけ高めたいという状況に直面することが多いのではないのでしょうか。このような状況は、リスクとリターンが互いにトレードオフの関係にある状態であり、いわゆるハイリスク・ハイリターン現象と呼ばれます。

実社会において、私たち経済主体が金融市場で資金運用を行う際にも、このハイリスク・ハイリターンの現象に直面します。そこで本講義では、このような状況下における経済主体の最適化行動について考えます。具体的には、資金運用において一定水準以上のリターンを確保するという仮定の下で、リスクを最小化する方法を数学的に理論導出します。さらに、その最適行動のもとで成立する市場均衡を考察し、資金運用において成り立つリスクとリターンの関係について学習します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、最適ポートフォリオ理論や資本資産評価モデルを用いて、資金を運用する場合におけるリスクとリターンの相互作用、またそのメカニズムについて理解することにあります。そのためには、次の点を理解する必要があります。

1. ポートフォリオの収益率、その期待値、標準偏差、共分散を計算できる。
2. ポートフォリオの分散減少効果、そのメカニズムについて理解する。
3. ファイナンスにおける完全競争市場の条件とその意味について理解する。
4. CAPMを用いて、リスク資産のリスク量に応じた期待収益率を計算できる。
5. 実際の個別株価データを用いて、その株価に対する市場評価について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式の対面講義となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ポートフォリオ理論の学問的位置づけについて学習します。
第2回	収益率、対数収益率、確率変数	価格と収益率の関係、確率変数について学習します。
第3回	収益率の期待値と分散	期待値と分散、それらの性質について学習します。
第4回	収益率の共分散と相関係数	共分散と相関係数、それらの性質について学習します。
第5回	ポートフォリオ理論（1）	ポートフォリオ理論の仮定について学習します。
第6回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率、分散、標準偏差について学習します。
第7回	ポートフォリオ理論（3）	引き続き、ポートフォリオの収益率、分散、標準偏差について学習します。
第8回	ポートフォリオ理論（4）	ポートフォリオによる分散効果について学習します。
第9回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第10回	ポートフォリオ理論（6）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第11回	ポートフォリオ理論（7）	安全資産が存在する場合の投資機会集合について学習します。
第12回	ポートフォリオ理論（8）	安全資産が存在する場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第13回	資本資産評価モデル（1）	資本資産評価モデルについて学習します。
第14回	資本資産評価モデル（2）	引き続き、資本資産評価モデルについて学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習を行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸、2019、入門・証券投資論、有斐閣

【参考書】

参考書について、適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

学期末試験が80%、講義で実施する演習および講義参加が20%

【学生の意見等からの気づき】

図解にて視覚的に理解できるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

EXCEL演習を取り入れます

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、コーポレートファイナンス入門 I/II, デリバティブ入門 I/II, Excelで学ぶファイナンス理論 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of portfolio theory called the mean-variance analysis. The goal of this course is to understand the interaction between risk and return when managing funds using optimal portfolio theory and the capital asset pricing model (CAPM). Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

Excelで学ぶファイナンス理論 II

山崎 輝

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目300番台 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、Microsoft社のExcelを使いながら、実践的なファイナンス理論を学びます。実際の金融取引や証券投資では、知識や理論を知っているだけでは不十分であり、様々な計算が必要になります。Excelを使うことで、ファイナンスに関連する計算が簡単に実行できるだけでなく、高度な理論でも直感的に理解できるという利点があります。本授業の目的は、実際のデータに基づいて、ファイナンスに関する諸々の計量分析ができるようになることです。今回は、平均・分散アプローチ、CAPM（Capital Asset Pricing Mode；資本資産価格モデル）、ジェンセンのアルファ、シミュレーションによるリスク管理といった投資理論を中心にスキルを身に付けます。金融業界を志す学生はもちろんのこと、個人の資産形成や株式投資に興味のある学生にも履修をお勧めします。初歩から始まりますが、授業後半には本格的な分析に取り組む予定です。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ① ファイナンス理論を正確かつ直感的に説明できる。
- ② 金融データの特徴を理解し、分析に必要なデータを取得・加工することができる。
- ③ Excelを使って証券投資の意思決定に関する分析ができる。
- ④ Excelを使って金融リスクの計測ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は情報実習室での対面授業です。講義とExcel演習を交互に行うことで授業を進めます。授業資料を配付しますが、黒板（ホワイトボード）にも板書するので、必要に応じてノートをとってください。Excel演習では、担当教員およびTA（teaching assistant）が積極的にサポートします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	現代の投資理論の概要（講義）	現代ポートフォリオ理論の紹介、ノーベル経済学賞を受賞した投資理論とは？
第3回	確率論の基礎（講義）	確率、確率変数、期待値、分散、標準偏差、共分散、相関係数などの概念と性質の解説
第4回	株価データの扱い方（Excel演習）	データベースの使い方、各種データの意味、株価データの加工および精査、基本統計量の計算
第5回	期待収益率とボラティリティ（講義）	個別株と株式ポートフォリオの期待収益率とボラティリティについての解説
第6回	期待収益率とボラティリティ（Excel演習）	Excelによる個別株と株式ポートフォリオの期待収益率（平均リターン）とボラティリティの計算
第7回	平均・分散アプローチ（講義）	期待効用、効用無差別曲線、効率的フロンティア、接点ポートフォリオ、二基金分離定理などの解説
第8回	平均・分散アプローチ（Excel演習）	Excelによる効率的フロンティアや接点ポートフォリオなどの計算、投資の意思決定
第9回	CAPMとジェンセンのアルファ（講義）	CAPM、証券市場線、マーケット・モデル、ジェンセンのアルファなどの解説
第10回	CAPMとジェンセンのアルファ（Excel演習）	ExcelによるCAPMのベータやジェンセンのアルファなどの計算
第11回	外国株式投資と為替リスク（講義）	外国株の円換算収益率、カントリーリスク、ホームバイアスなどの解説
第12回	外国株式投資と為替リスク（Excel演習）	Excelによる米国株と日本株の混合ポートフォリオとそのリスク・リターンの計算
第13回	VaRや期待ショートフォールによる金融リスク管理（講義）	VaR（Value at Risk）および期待ショートフォールによる金融リスクの計測手法の解説

第14回	VaRや期待ショートフォールによる金融リスク管理（Excel演習）	Excelを用いたモンテカルロ・シミュレーションによるVaRおよび期待ショートフォールの実装、金融リスク計測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel演習の課題をしっかりと完成させてください。指定した参考書を併用すると授業の理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。授業中に資料を配付します。

【参考書】

- ① 藤林宏 他、『エクセルで学ぶファイナンス 証券投資分析 第3版』、2009年、金融財政事情研究会
- ② 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- ③ 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- ④ 伊藤敬介 他、『新・証券投資論II 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

Excel演習の課題（80％）、平常点（20％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中にExcel演習の作業時間を十分に確保するように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の学習のために、Excelの使えるPCを用意してください。PCを所有していない学生は大学の施設や機器を利用してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門I/II、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門I/II、Excelで学ぶファイナンス理論I

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a practical theory of finance with Microsoft Excel as an analytical tool. [Learning objective] The objective of the course is to analyze financial markets based on real market data by using Excel. The three major subjects are: (1) quantitative analysis of financial markets; (2) rational decision making on investments; and (3) financial risk management. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises with Excel: 80%, in class contribution: 20%.

MAN300FD（経営学 / Management 300）

広告論

宮井 弘之

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目300 番台 市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。

学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。

広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。

広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ゲストスピーカーの講義は過去評判の良かったものを録画として上映する。その場合 ZOOM となる。数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。

また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。課題などに対するフィードバックは、適宜議論の土台となりそうな生徒のものを匿名で取り上げて解説することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店 営業部長（録画を利用）
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社 プランナー（録画を利用）
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店 クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ テレビ担当（録画を利用）
第10回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー（録画を利用）
第11回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介

第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の様々な手法 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務
第14回	これまでの総まとめ	これまでの総まとめ（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり4時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

1) 授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容 (50%)
2) 最終回におけるレポート課題 (50%)

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家になるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】

マーケティング論

【Outline (in English)】

【Outline】In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend about 4 hours per class for preparation and review.

【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (50%)
2. final report assignment (50%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

応用経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

宮澤 信二郎

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】

以下の3点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の取引関係、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。

各回とも、質疑・応答の時間を十分に取ります。また、簡単な例題を出題し、授業内で参加者の解答と正解を確認します。これらにより、受講者の理解度を確認しながら進めます。

受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：企業を経営する	企業の経営に関して、まず何を把握しなくてはいけないのかについて考えたうえで、経営の意思決定の基礎を学びます。
2	生産：何をどうやって作るか	生産技術と生産の決定に関して学びます。
3	販売：誰にいくらで売るか	市場の環境に応じて、誰にいくらで売ることになるのかについて学びます。
4	交渉：儲けはどうやって分け合うか	特定の相手との間の交渉について学びます。
5	リスク：先のことはよくわからない	企業が直面する様々なリスクについて確認したのちに、リスクに直面するときの意思決定に関して学びます。
6	情報：相手のことはよくわからない	取引相手との間で情報の非対称性があるときにどのような問題が起こるのかについて学びます。また、これらの問題に対する対応方法について検討します。
7	中間試験と振り返り	第6回までの内容について試験を実施したうえで、これまでの振り返りを行います。
8	採用（1）：学歴で選ぶのはあり？	労働者の能力に関する情報の問題を確認したうえで、学歴のシグナリング機能に関して学びます。
9	採用（2）：仕事を選んでもらおう！	コース別採用のスクリーニング機能について学びます。
10	人材（1）：仕事を頑張ってもらおう！	労働者の努力に関する情報の問題を確認したうえで、成果給の役割と限界について学びます。
11	人材（2）：スキルアップしてもらおう！	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	財務（1）：いいビジネスなんだけどお金はどうする？	企業が必要な資金を調達する手段として、負債と株式の違いについて学びます。

13 財務（2）：どうしたらお金を出してもらえるの？

資金を調達する際にどのような問題が起こり得るのかについて学び、どのように資金調達をしたら良いのかについて検討します。また、企業の財務危機についてどのように考え、どのように対応したらよいのかについて学びます。

14 期末試験とまとめ

期末試験を実施したうえで、全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞出版（2021年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）
デイビッド・ベサンコほか（奥村昭博・大林厚臣監訳）『戦略の経済学』ダイヤモンド社（2002年）
エドワード・ラジャー、マイケル・ギブス（樋口美雄監訳）『人事と組織の経済学実践編』日本経済新聞出版社（2017年）
などです。必要に応じて授業中に追加を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、中間試験（30％）、期末試験（40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過年度の授業中に回収したリアクションペーパーへの記載内容等を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。また、可能な限り、双方のやり取りをする時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

1) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群）を履修している、あるいは同等以上の内容を学習していることが望ましいです。
2) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」）、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
3) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.

You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.

B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities.

[Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on the mid-term examination, (30%), term-end examination (40%), and in class contribution (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

吉村 喜予子

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「外国語経営管理入門」では、ビジネス環境におけるさまざまなトピックを14週間にわたって学びます。

この講義では、テーマに関する講義と英語資料（記事、ニュース、文献）を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。学生は毎週、課題として英語の資料を事前に読むことが必須になります。講義を通じて、学生がビジネスで使用する英語に慣れることで、将来、グローバル環境で、自分で考えて、情報を組織に発信する」という基礎となることを期待します。

【到達目標】

この講義では、テーマに関する講義と英語資料（記事、ニュース、文献）を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。

講義の到達目標としては以下のとおり。

- 経営学の各テーマに関連する情報や用語を理解する。
- ビジネスで使われる英語単語に慣れること。
- グローバル環境の中で、言語を超えて参加意識を持つ準備が整うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（#1セッションを除く）

本講義は、英語を活用する企業を想定して、少しずつビジネスで使われる英語に慣れてもらうことを想定しています。

講義は日本語で行いますが、「入門外国語経営学」の講義として、提示するスライド等の多くは英語で作成されていることは、前提として理解してください。各週（各回）のテーマについて講義と課題として出された英語の資料（記事、ニュース、論文等）を読んだことを前提としたディスカッション（日本語）を行います。

ビジネスアイデアの実現を想定したシミュレーションを予定しています。学生にシミュレーションを体験してもらい、ビジネス上の課題発見や学びを想定しています。

特に、講義のなかでは、ディスカッションで交わされた内容が「正しい」か「間違っている」かは重要ではなく、将来企業で働く際に、「自分で考えて、情報を組織に発信する」という基礎作りを念頭に置いています。したがって、学生はディスカッションスキルの構築に参加することが期待されます。課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Introduction	コース概要 ビジネス環境を理解する
第2回	ビジネス環境を理解する。 Understanding the business environment	ビジネスの外部環境と内部環境
第3回	企業の倫理と社会的責任 Corporate ethics and social responsibility	企業倫理 業務における倫理 社会的責任
第4回	起業家精神とビジネスオーナーシップ I Entrepreneurship, and Business Ownership I	起業とは 起業の環境
第5回	起業家精神とビジネスオーナーシップ II Entrepreneurship, and Business Ownership II	起業を考える（シミュレーション） レポート提出あり
第6回	経営管理 Managing the business enterprise	マネージャーの役割 組織管理

第7回	組織管理 Organizing the business enterprise 中間クイズ	組織とは何か 組織における判断要件
第8回	オペレーションズ・マネジメントと品質管理 Operations management and Quality	オペレーション・マネジメントとは何か？ 品質管理の重要性
第9回	組織とモチベーション Motivating and leading employee	組織を作る 従業員の役割
第10回	リーダーシップと意思決定 Leadership and decision making	リーダーシップの重要性 ケース毎のリーダーシップの必要性
第11回	人財資源管理 Human Resource Management	人財とは 人財管理とはなにか
第12回	マーケティングプロセスと消費者行動 Marketing process and Consumer behavior	マーケティングとは 消費者行動とは
第13回	企業におけるITの役割 Information Technology	ITとはなにか ITの役割
第14回	企業リスク管理 Corporate Risk management 期末クイズ	企業リスクとはなにか 対応策とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週（各回）のテーマについて講義と課題として出された英語の資料（記事、ニュース、論文等）を読むこと。（2時間）

各週（各回）のテーマについて授業資料を復習すること。（2時間）

【テキスト（教科書）】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲示する。

【参考書】

特に定めない。各回、講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回小テスト（QUIZという）の累計：50%

中間Quiz: 10%

シミュレーションレポート：20%

最終クイズ：20%（14週の授業中に行います）

Total:100%

全体のトータルスコアに対して、%形式でグレーディングします。

【学生の意見等からの気づき】

QUIZの際に、「わからなかったこと（もう少し説明してほしいこと）」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

【その他の重要事項】

教員は、実務経験のある教員である。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

(Course Outline)

In "Introductory Foreign Language Business Administration Management," you will learn about various topics in the business environment over 14 weeks.

In this lecture, students will deepen their understanding of global business by reading lectures and English materials (articles, news, literature) regarding the theme.

Students must prepare for each week's assignment by reading English materials in advance. Through the course, the expectation is that students will become accustomed to the English used in business, enabling them to think independently and effectively communicate information within a global context in the future."

(Learning Objective)

In this lecture, students will deepen their understanding of global business through lectures on various themes and by reading English materials (articles, news, literature). The learning objectives of the course are as follows:

- To understand information and terminology related to various topics in business management.
- To become familiar with English vocabulary used in business.
- To be prepared to engage in a global environment, with an awareness of participation beyond language barriers.

(Learning activities outside of classroom)

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

In-class-Quiz: 50%

Mid-term Quiz: 10%

Report (Based on the simulation work): 20%

Final Quiz (in-class): 20%

Total: 100 %

MAN100FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

福多 裕志

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できる限り英語を使用する方向で努力したい。In this class, we will focus on several global companies and study their business approaches and trends through articles from international media. Except for the time allocated for Japanese translation, we will make every effort to use English as much as possible during the lessons.

【到達目標】

現在、どのような領域(職場、職種、地域等)において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと(英検準1級程度)を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and achieve success in various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて議論する予定である。また、発表や意見の表明については、可能な限り出席者間で有意義に論評しよう。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion. Presentations and statements of opinion made during class will, as far as possible, be subject to meaningful commentary and discussion among the participants.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	春学期授業計画の説明および英文記事の訳出
2	McDonald's (1)	McDonald's - Business vocabulary and reading
3	MacDonald's (2)	McDonald's - Reading comprehension
4	McDonald's (3)	McDonald's - Group discussion
5	Presentation on Job Trends in the world 1	Participants are expected to make an effective presentation. If there are no volunteers for presentations, this time will be used for discussions on management- and economics-related topics.
6	Ted (1)	Ted - Business vocabulary and reading
7	Ted (2)	Ted - Reading comprehension
8	Ted (3)	Ted - Group Discussion
9	Presentation on Job Trends in the world 2	Participants are expected to make an effective presentation. If there are no volunteers for presentations, this time will be used for discussions on management- and economics-related topics.

10	Amazon (1)	Amazon - Business vocabulary and reading
11	Amazon (2)	Amazon - Reading comprehension
12	Amazon (3)	Amazon - Discussion
13	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation. If there are no volunteers for presentations, this time will be used for discussions on management- and economics-related topics.
14	In-class closed-book term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各英文記事の日本語訳出、グループディスカッションのための準備を毎回確実にすること。授業支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. The standard amount of time designated for preparatory study and post-class review for this course is two hours, respectively.

【テキスト(教科書)】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor, *Challenges of Global Enterprises*, Kinseido (金星堂). ¥2,200+tax

【参考書】

ビジネスおよび経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて授業支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Course Management System(CMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

・授業履修者数が20名以下の場合：発表、議論等の授業貢献(30%)、口述試験(40%)、最終授業において参照不可の筆記試験(30%)を実施する。
・履修者数が21名以上の場合：発表、議論等の授業貢献(20%)および最終授業における参照不可の筆記試験(80%)を実施し、口述試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the CMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

In this course, a continuous learning attitude is required. It is important to attend classes regularly and participate in discussions.

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

[Learning Objectives]

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media. In this day and age having an adequate command of English would be essential for anyone.

[Goal]

The goal of the course is to develop students' abilities to interact more successfully in the real world (business scenes) and pass various qualification exams.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. Presentations and statements of opinion made during class will, as far as possible, be subject to meaningful commentary and discussion among the participants. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

If the number of students enrolled in the class is 20 or fewer, the evaluation will consist of class contributions (30%) such as presentations and discussions, an oral examination (40%), and a closed-book written exam in the final class (30%). If the number of students is 21 or more, the evaluation will be based on class contributions such as presentations and discussions (30%) and a closed-book written exam in the final class (70%), with no oral examination.

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

福多 裕志

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できる限り英語を使用する方向で努力したい。In this class, we will focus on several global companies and study their business approaches and trends through articles from international media. Except for the time allocated for Japanese translation, we will make every effort to use English as much as possible during the lessons.

【到達目標】

現在、どのような領域(職場、職種、地域等)において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと(英検準1級程度)を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and achieve success in various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて議論する予定である。また、発表や意見の表明については、可能な限り出席者間で有意義に論評しあう。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion. Presentations and statements of opinion made during class will, as far as possible, be subject to meaningful commentary and discussion among the participants.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	秋学期授業計画の説明および英文記事の訳出
2	McDonald's (1)	McDonald's - Business vocabulary and reading
3	MacDonald's (2)	McDonald's - Reading comprehension
4	McDonald's (3)	McDonald's - Group discussion
5	Presentation on Job Trends in the world 1	Participants are expected to make an effective presentation.If there are no volunteers for presentations, this time will be used for discussions on management- and economics-related topics.
6	Ted (1)	Ted - Business vocabulary and reading
7	Ted (2)	Ted - Reading comprehension
8	Ted (3)	Ted - Group Discussion
9	Presentation on Job Trends in the world 2	Participants are expected to make an effective presentation.If there are no volunteers for presentations, this time will be used for discussions on management- and economics-related topics.

10	Amazon (1)	Amazon - Business vocabulary and reading
11	Amazon (2)	Amazon - Reading comprehension
12	Amazon (3)	Amazon - Discussion
13	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation.If there are no volunteers for presentations, this time will be used for discussions on management- and economics-related topics.
14	In-class closed-book term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各英文記事の日本語訳出、グループディスカッションのための準備を毎回確実にすること。授業支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions.The standard amount of time designated for preparatory study and post-class review for this course is two hours, respectively.

【テキスト(教科書)】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor, *Challenges of Global Enterprises*, Kinseido (金星堂). ¥2,200+tax

【参考書】

ビジネスおよび経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて授業支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Course Management System(CMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

・授業履修者数が20名以下の場合：発表、議論等の授業貢献(30%)、口述試験(40%)、最終授業において参照不可の筆記試験(30%)を実施する。
・履修者数が21名以上の場合：発表、議論等の授業貢献(20%)および最終授業における参照不可の筆記試験(80%)を実施し、口述試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the CMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

In this course, a continuous learning attitude is required. It is important to attend classes regularly and participate in discussions.

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

[Learning Objectives]

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media. In this day and age having an adequate command of English would be essential for anyone.

[Goal]

The goal of the course is to develop students' abilities to interact more successfully in the real world (business scenes) and pass various qualification exams.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. Presentations and statements of opinion made during class will, as far as possible, be subject to meaningful commentary and discussion among the participants.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

If the number of students enrolled in the class is 20 or fewer, the evaluation will consist of class contributions(30%) such as presentations and discussions, an oral examination (40%), and a closed-book written exam in the final class (30%). If the number of students is 21 or more, the evaluation will be based on class contributions such as presentations and discussions (30%) and a closed-book written exam in the final class (70%), with no oral examination.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

檜野 智子

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれたミクロ経済学の教科書の内容について、プレゼンテーションをしてもらいます。

ミクロ経済学とは、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらがどのように関わりあっているかを研究する学問であり、経済学の様々な分野の基礎となっています。この授業で、ミクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを学ぶことができます。

またプレゼンテーションを行うことにより、教科書の内容をより深く理解でき、更に人に何かをわかりやすく説明するという社会人に必須の技術を磨くことができます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

<授業の進め方と方法>

- ・対面授業を行います。
- ・教科書の担当箇所について、パワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。

<課題に対するフィードバック方法>

- ・プレゼンテーション実施時に、スライドや発表方法について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個人の最適化戦略	ディシジョンツリー
第2回	個人の最適化戦略	現在価値
第3回	個人の最適化戦略	リスク
第4回	個人の最適化戦略	交換の利益
第5回	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
第6回	相互関係における最適化戦略	パレート効率性
第7回	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
第8回	相互関係における最適化戦略	オークション
第9回	相互関係における最適化戦略	競争市場
第10回	市場における最適化戦略	需要と供給
第11回	市場における最適化戦略	税金
第12回	市場における最適化戦略	限界効用
第13回	市場における最適化戦略	弾力性
第14回	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をしてください。本授業の準備学習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill &Wang Pub 出版年:2010
(電子書籍あり <https://amzn.to/3dmv46T>)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』
ヨラム・パウマン、グレディ・クライン、
ダイヤモンド社、2011年

『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』

ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト

東洋経済新報社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションのスライド 50%

プレゼンテーション及び授業への参加度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「学習支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録を済ませておいてください。
- ・オンライン授業ではZoomを使用します。授業開始までにZoomでパワーポイントの画面を共有しプレゼンテーションを行えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。
- ・「学習支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics and develop their presentation skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Materials for presentations:50%

In class contribution and presentations:50%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

檜野 智子

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれたミクロ経済学の教科書の内容について、プレゼンテーションをしてもらいます。

ミクロ経済学とは、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらがどのように関わりあっているかを研究する学問であり、経済学の様々な分野の基礎となっています。この授業で、ミクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを学ぶことができます。

またプレゼンテーションを行うことにより、教科書の内容をより深く理解でき、更に人に何かをわかりやすく説明するという社会人に必須の技術を磨くことができます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

<授業の進め方と方法>

- ・対面授業を行います。
- ・教科書の担当箇所について、パワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。

<課題に対するフィードバック方法>

- ・プレゼンテーション実施時に、スライドや発表方法について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個人の最適化戦略	ディシジョンツリー
第2回	個人の最適化戦略	現在価値
第3回	個人の最適化戦略	リスク
第4回	個人の最適化戦略	交換の利益
第5回	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
第6回	相互関係における最適化戦略	パレート効率性
第7回	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
第8回	相互関係における最適化戦略	オークション
第9回	相互関係における最適化戦略	競争市場
第10回	市場における最適化戦略	需要と供給
第11回	市場における最適化戦略	税金
第12回	市場における最適化戦略	限界効用
第13回	市場における最適化戦略	弾力性
第14回	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をしてください。本授業の準備学習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill &Wang Pub 出版年:2010
(電子書籍あり <https://amzn.to/3dmv46T>)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』
ヨラム・パウマン、グレディ・クライン、
ダイヤモンド社、2011年

『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』

ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト

東洋経済新報社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションのスライド 50%

プレゼンテーション及び授業への参加度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「学習支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録を済ませておいてください。
- ・オンライン授業ではZoomを使用します。授業開始までにZoomでパワーポイントの画面を共有しプレゼンテーションを行えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。
- ・「学習支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics and develop their presentation skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Materials for presentations:50%

In class contribution and presentations:50%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

依田 光広

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車（モビリティ＝移動）産業とその注目の企業を対象に、CASE戦略（つながるクルマ、自動運転、シェアリング・サービス、EVなどの電動車）を技術・地政学なども含めて先端動向を学びます。講義教材は教師作成の日本語資料（英語の図表・動画を含む）で、課題は英語となります。

こうした講義や課題を通じ、実際にビジネスの現場や海外生活でも使える英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。これらの学習により、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。準備学習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）が中心となります。復習は、講義資料と課題のレビューです。それぞれ2時間程度必要です。

成績は、平常点(40%)、課題(40%)、講義での発表・質問(20%)により総合的に評価します。

【到達目標】

理解力：教師による日本語での戦略の講義を一定程度理解する。

読む力：課題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。

聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半は教師が主に日本語でのCASE戦略（英語の資料・動画を含む）関する講義を実施します。後半は関連するビジネス英文の説明を行い、指名された数名の生徒は英語で発表を行います。課題（英語）が与えられた時は「課題」フォルダーへの提出が必要となります。課題へのフィードバックは教師が模範解答とOne Point Adviceなどに行います。

なお講義資料や動画は、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞、日経、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、履修希望者は必ず出席（Online）してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and Objectives）、グローバル自動車産業（Global Automotive Industry）
第2回	Electric (1)	電動車（EVを中心）のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：中BYD、日Nissan、Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background、日メーカー
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler、中メーカー etc.
第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Alphabetの子会社)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier IV
第10回	Field Work	訪問先：自動車企業の施設（Automotive Company Facilities）
第11回	Shared &Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）のTrend & Background
第12回	Shared &Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared &Service (3)	対象企業：日Toyota etc.

第14回 Conclusion, Discussion

総括講義Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（直訳・要旨）や英語での要旨の作成です。

復習は、講義資料と課題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。当該教材は履修者限定で持出しは禁止です。

【参考書】

木村将之Masayuki Kimura 他2名『モビリティ X』（2022）日経BP社 → 購入は任意

中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE 革命』（2018）日本経済新聞出版社 → 購入は任意

NEC『CASEとは？ 自動車業界で期待される技術革新とその影響』

<https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/ss/mobility/column/15/index.html>

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点(40%)、適宜指定する課題(40%)、講義での発表と質疑(20%)により総合的に評価します。期末試験は実施しませんが、講義全体を通して学んだことをベースに最終課題(通常より評価点が高い)を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

CASE戦略の最先端の動向(技術・地政学を含む)を、英語の図表や動画などを使用して分かりやすく説明し、同時にフィールドワークでそれらを実際に体験・学習します。また課題では英ビジネス文書や英語動画により英語力の向上をはかってもらいます。

一方、履修する学生の意見や希望を逐次考慮したいと思いますので、講義やオフィスアワー（適宜実施）を通じ積極的な提案もお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意してください。課題の作成・提出、後席でスクリーンの教材が読みにくい時、講義後半の英語でのSpeakingの時に使用すると便利です。

【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびに同社100%子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、国際企業経営、CASE、自動車産業・企業全般、イノベーション、IoT戦略（Internet of Things）、標準化、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系マーケティング会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI（Robot Revolution & Industrial IoT Initiative、産官学団体）の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした講義を心がけます。

生成AIについては、講義全般で使用することを推奨します。留意点としては、結果が完全に正しいわけではないことがありますので必ず自分でチェックしてください。なお課題の作成に際し生成AIの使用は自身の学力の向上につながるものでないで禁止とします。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is one of the world's core industries and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials(including English materials and videos) and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared &Services, Electric) and improve English reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the content of the lecture. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(40%), homework(40%), and English speaking etc.(20%).

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

依田 光広

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車（モビリティ＝移動）産業とその中の注目企業を対象に、CASE戦略（つながるクルマ、自動運転、シェアリング・サービス、EVなどの電動車）を技術・地政学なども含めて先端動向を学びます。講義教材は教師作成の日本語資料（英語の図表・動画を含む）で、課題は英語となります。

こうした講義や課題を通じ、実際にビジネスの現場や海外生活でも使える英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。これらの学習により、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。準備学習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）が中心となります。復習は、講義資料と課題のレビューです。それぞれ2時間程度必要です。

成績は、平常点(40%)、課題(40%)、講義での発表・質問(20%)により総合的に評価します。

【到達目標】

理解力：教師による日本語での戦略の講義を一定程度理解する。

読む力：課題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。

聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半は教師が主に日本語でのCASE戦略（英語の資料・動画を含む）関する講義を実施します。後半は関連するビジネス英文の説明を行い、指名された数名の生徒は英語で発表を行います。課題（英語）が与えられた時は「課題」フォルダーへの提出が必要となります。課題へのフィードバックは教師が模範解答とOne Point Adviceなどに行います。

なお講義資料や動画は、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞、日経、マークライنز社のデータベースなどから引用します。第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、履修希望者は必ず出席（Online）してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and Objectives）、グローバル自動車産業（Global Automotive Industry）
第2回	Electric (1)	電動車（EVを中心）のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：中BYD、日Nissan、Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background、日メーカー
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler、中メーカー etc.
第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Alphabetの子会社)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier IV
第10回	Field Work	訪問先：自動車企業の施設（Automotive Company Facilities）
第11回	Shared &Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）のTrend & Background
第12回	Shared &Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared &Service (3)	対象企業：日Toyota etc.

第14回 Conclusion, Discussion

総括講義Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（直訳・要旨）や英語での要旨の作成です。

復習は、講義資料と課題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。当該教材は履修者限定で持出し禁止です。

【参考書】

木村将之Masayuki Kimura 他2名『モビリティ X』（2022）日経BP社 → 購入は任意

中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE 革命』（2018）日本経済新聞出版社 → 購入は任意

NEC『CASEとは？ 自動車業界で期待される技術革新とその影響』

<https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/ss/mobility/column/15/index.html>

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点(40%)、適宜指定する課題(40%)、講義での発表と質疑(20%)により総合的に評価します。期末試験は実施しませんが、講義全体を通して学んだことをベースに最終課題(通常より評価点が高い)を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

CASE戦略の最先端の動向(技術・地政学を含む)を、英語の図表や動画などを使用して分かりやすく説明し、同時にフィールドワークでそれらを実際に体験・学習します。また課題では英ビジネス文書や英語動画により英語力の向上をはかってもらいます。

一方、履修する学生の意見や希望を逐次考慮したいと思いますので、講義やオフィスアワー（適宜実施）を通じ積極的な提案もお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意してください。課題の作成・提出、後席でスクリーンの教材が読みにくい時、講義後半の英語でのSpeakingの時に使用すると便利です。

【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびに同社100%子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、国際企業経営、CASE、自動車産業・企業全般、イノベーション、IoT戦略（Internet of Things）、標準化、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系マーケティング会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI（Robot Revolution & Industrial IoT Initiative、産官学団体）の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした講義を心がけます。

生成AIについては、講義全般で使用することを推奨します。留意点としては、結果が完全に正しいわけではないことがありますので必ず自分でチェックしてください。なお課題の作成に際し生成AIの使用は自身の学力の向上につながらないので禁止とします。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is one of the world's core industries and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials(including English materials and videos) and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared &Services, Electric) and improve English reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the content of the lecture. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(40%), homework(40%), and English speaking etc.(20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

秋友 一広

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。さらに、本授業の一環として、近隣地域における企業・事業者の活動を題材としたフィールドトリップを実施する。教科書で学ぶ人的資源管理（HR戦略）やステークホルダーとの関係性といった概念が、実際の企業活動や地域社会との関わりの中でどのように現れているかを実地で観察し、理論と実践を結びつけて理解する機会とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修登録完了後、受講者をいくつかのグループに分け、各グループが担当章の要約と関連分野の課題について英語で発表する。

第1回授業では、「Your Career in Business」（教科書第17章）および企業経営に不可欠な職能別組織（経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング〔グローバル展開含む〕、物流、ITなど）について講義を行う。各自、卒業後の進路を念頭に興味のある分野を選択すること。グループは可能な限り同じ分野に関心を持つ者同士で編成し、担当章もその分野に関連する内容を優先的に割り当てる。

第3回以降は、担当グループが章の要約、現代社会における課題、およびその解決策を発表し、その後、他グループとの質疑応答・討議を行う。最後に講師が解説と総括を行う。

第5回にはフィールドワークを実施し、地域コミュニティと企業の関わりについて学ぶ。終了後は個人レポートを提出する。

【フィードバック方法】

発表およびレポートに対しては、内容理解、課題分析力、解決策の具体性、英語表現力、協働姿勢等の観点から講師が講評する。また、発表後には他グループから英語で質問・コメントを行い、相互に学びを深める。評価は結果のみでなく、思考過程と成長を重視する。平常点での評価項目。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	※本授業の概要、進め方 ※講師による教科書の第17章 Your Career in Businessの説明 ※一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	※講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion ※チーム編成

第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	※チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion ※講師総括
第4回	第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	※チームによる第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion ※講師総括 ※翌週のフィールドワークの準備
第5回	フィールドトリップ	※海外顧客への直接輸出を積極的に 行い、また高度外国人材を採用して いる近隣県の中小製造企業が主催す る地域コミュニティとの交流会への 参加 ※第5回からの継続：チームによる 第7章、第8章、第9章の説明、 Q & A, Discussion ※講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures	※チームによる第11章、第12章 の説明、Q & A, Discussion ※講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	※テスト時間は1時間 ※残りの時間はディスカッション ※チームによる第3章、 第5章の説明、Q & A, Discussion ※講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	※チームによる第10章の説明、 Q & A, Discussion、 ※講師総括 ※効果的なプレゼンテーションの 方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	※チームによる第13章の説明、 Q & A, Discussion ※講師総括 ※英語でのプレゼンテーションに 使われる繋ぎの言い回し、表現につ いて
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	※チームによる第15章、Appendix の説明、Q & A, Discussion ※講師総括 ※効果的なプレゼンテーション資料 作成方法
第13回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	※チームによる第6章、第2章 Appendixの説明、Q & A, Discussion ※講師総括 ※効果的なプレゼンテーション資料 作成方法
第14回	期末テスト / Final Exam	※テスト時間は1時間 ※コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする

6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.

Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワーク・プレゼンテーション、フィールドワークレポート含む）20%－遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師へ連絡のこと。 2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCとハイスピードインターネット（オンラインの場合）MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

【その他の重要事項】

1. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にWeb抽選を行う。

3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。また、2025年より、地方自治体と連携し、中小企業を主な対象とする産業振興施策の企画・実行を担う公益財団法人の理事長を務めている。

【関連科目】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

As part of the course, a field trip will be conducted to observe real-world business activities in a nearby prefecture. The field trip will provide students with an opportunity to examine how concepts discussed in class — such as human resource management strategies, organizational design, and relationships with external stakeholders — are manifested in actual business and community contexts. By directly observing and reflecting on these practices, students will deepen their understanding of the connection between business theory and practice.

Grading and Attendance Policy

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

Learning Activities Outside of the Classroom

Before each class, carefully read the chapter specified in the syllabus and prepare your questions in English.

The presentation team must summarize the content in English using MS PowerPoint and deliver their presentation in English.

The presentation team must identify a modern corporate management issue related to their assigned chapter and propose a solution in their presentation.

Each student must create a vocabulary notebook for key business-related terms from the chapter and write their definitions in English.

Students should spend approximately two hours preparing for and reviewing each class.

When preparing for or reviewing a class, do not look up an English-to-Japanese dictionary whenever you encounter unknown English words. To focus on speed reading, use the dictionary only when the unknown words are critical to understanding the context of a whole sentence.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

秋友 一広

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を実得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business”（教科書第17章 P655 - P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT 他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business	＊講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion ＊チーム編成
第3回	第4章 Forms of Business Ownership 第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括

第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括
第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	＊テスト時間は1時間 ＊残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	＊チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使用される繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	＊テスト時間は1時間 ＊コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management、OpenStax, Rice University.

Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%－遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師へ連絡のこと。2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

【その他の重要事項】

1. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にWeb抽選を行う。

3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。また、2025年より、地方自治体と連携し、中小企業を主な対象とする産業振興施策の企画・実行を担う公益財団法人の理事長を務めている。

【関連科目】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

【Learning activities outside of the classroom】

1. Before each class, carefully read the chapter specified in the syllabus and prepare your questions in English.

2. The presentation team must summarize the content in English using MS PowerPoint and deliver their presentation in English.

3. The presentation team must identify a modern corporate management issue related to their assigned chapter and propose a solution in their presentation.

4. Each student must create a vocabulary notebook for key business-related terms from the chapter and write their definitions in English.

5. Students should spend approximately two hours preparing for and reviewing each class.

6. When preparing for or reviewing a class, do not look up an English-to-Japanese dictionary whenever you encounter unknown English words. To focus on speed reading, use the dictionary only when the unknown words are critical to understanding the context of a whole sentence.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

岡本 慶子

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングや戦略的マネジメントに関する教材、および中学校レベルの数学を題材として、英語を学習します。
英語で話す・書く際に必要となる論理的思考力を養うことが、本授業の主な目標です。そのため、日本語でのディスカッションや文章作成にも力を入れて取り組みます。
今年度は新たに、リスニングや短い英会話の練習を取り入れる予定です。

【到達目標】

異なる文化的背景を持つ人々と、英語を用いて基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指して、以下の力を養います。
1. マーケティングの題材を通じて、英語と日本語で論理的に考える力を身に付ける。
2. 数学の教材を通して、実践的な英語表現に慣れる。
3. リスニングや短い英会話の練習を通じて、英語に対する理解と運用力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、リーディング、リスニング等の宿題があります。
授業はその宿題に基づいて進めますので、内容の理解、又は不明点を明確にした上で授業に出席してください。授業では宿題の内容を元に、自分の考えをまとめたり、日本語でグループでディスカッションを行ったりします。
また、自分の考えを日本語で記載するリアペは、毎回の講評を参考に徐々長い文章に挑戦します。期末には数週間グループメンバーを固定してグループプロジェクトに取り組んでいただきます。
提出物、宿題は次の授業までにコメントを付けて返却し、授業では講評、解説します。学んだことは次の課題、宿題に反映させてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面予定	*Course overview & Self-Introduction
第2回	AI Generated Art 1	*He Used AI to Win a Fine-Arts Competition - Listening Practice *Understanding the Japanese Language
第3回	AI Generated Art 1	*He Used AI to Win a Fine-Arts Competition *Comparing Japanese and English Languages
第4回	The Art and Science of Satisfying Customers 1	*Vineyard Vines Market the Good Life *Understanding the Characteristics of the Japanese Language
第5回	The Art and Science of Satisfying Customers 2	*Vineyard Vines Market the Good Life - Listening Practice
第6回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	*PepsiCo Brands Target Different Markets - Cultures Behind Languages
第7回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	*PepsiCo Brands Target Different Markets - Strategic Comparison
第8回	Global Marketing 1	*Walmart Extends its Global Reach - Listening &Video Viewing
第9回	Global Marketing 2	*Walmart Extends its Global Reach - Analysis of Business Strategy
第10回	Strategic Shifts in Marketing 1	*Document Analysis- Walmart Annual Reports

第11回	Strategic Shifts in Marketing 2 Group Project 1	*Group Project - Collaborative Document Analysis &Discussion
第12回	Strategic Shifts in Marketing 3 Group Project 2	*Group Project -Collaborative Discussion &Presentation Planning
第13回	Student Presentations on Strategic Analysis Group Project Review	*Group Project - Student Presentations &Peer Reviews
第14回	Final exam	*Wrap Up *Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は授業前々日の 23:59 までに授業支援システムで提出

宿題1. 課題の予習、復習、グループプロジェクトの準備など

宿題2. 課題のリスニング

宿題3. 単語帳作成、質問

宿題4. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。（合計2時間）

【テキスト（教科書）】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と宿題の提出 40 %

リアペと宿題の評価（個人、グループワーク含む）、期末レポート、プレゼンなど 40 %

期末テスト 20 %

評価、宿題、課題については初回授業で説明します。

*欠席や宿題の未提出は、その分の点数が下がるだけでなく、授業内容に基づいて採点される他の課題の評価に影響が出る場合があります。

*毎回グループワークがあるので、欠席や宿題をせずに参加するとグループメンバーに迷惑をかけることにもなります。

*就職活動などで欠席が続く場合、出席や課題提出が評価に反映されるため、結果として成績に影響が出ます。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度に履修した学生からのフィードバック

「継続を提案する課題」

*グループワーク

*リスニング

*リアペ（記述課題）

*単語帳作成

「後輩にこのクラスを紹介する一言」

*グループワークが多い

*毎週宿題がある

*授業内容をしっかり理解できれば自分の成長が感じられる

【学生が準備すべき機器他】

*授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。

*お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。コメントもHoppi経由で返信します。

*Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。

*タブレット、パソコンと筆記用具など

【その他の重要事項】

*対面授業です。

*仮登録者が定員内であれば、初回授業から対面で行う予定です。変更がある場合は、初回授業の3日前までにHoppiにてお知らせしますので、Hoppiからの「お知らせメール」を受け取れるよう設定してください。

*授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

*リアクションペーパーや復習課題などの提出物は、授業内容に基づいて採点されるため、欠席した場合は十分な得点を得ることが難しくなる可能性があります。

*無断欠席は、グループワークに支障を及ぼしたり、授業全体の進行に影響を与えるかねませんので、自覚ある行動を心がけてください。

*授業に出席、グループワークに参加が必須事項ですので、就職活動などで出席できない回数が多発することがわかっている学生は履修について慎重に検討してください。

【関連科目】

なし

【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation & Homework submission - 40%

Reaction paper, Homework, Group & Individual works (including essay & presentation) - 40%

Final exam - 20%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

小島 泰友

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ビジネス英語】

この科目では、企業の国際経営におけるビジネス英語の教科書を使いながら、人と組織を対象とする経営学、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどの学習との関係を理解します。この科目を通じて、国際経営における英語によるビジネスシーンをイメージすることができると考えます。この授業での重点は、オーラル・リーディング（音読）、スピーキング、リスニングにあります。良い発音・抑揚・チャンキング（Chunking：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で英語を読めるヒトは、ネイティブ・スピーカーの喋る英語も聞き取れるようになります。

AI翻訳の精度が高まり、英文和訳や和文英訳は、人間の仕事からAIの仕事になりました。しかし、自分の耳で英語を聞き、自分の声で英語を喋り、自分の目で英文を読解し、自分の頭で英文を考え自分の手で英文を書くという作業が、人間にとっての楽しい活動として残されています。自動車のほうが人間よりも速く走ることがわかっていても、人間は、マラソンでスピードを競い、駅伝でチームワークを競い、ジョギングを楽しみます。この科目を履修することで、機械に頼らず、実生活やビジネス等で自分で実践する英語を習得する楽しさを知ってほしいと思います。

またこの科目履修を、大学卒業を目的とした単位取得のためだけではなく、実生活やビジネス等の場面で英語で自らコミュニケーションできるようにするための実践的な英語の習得の第一歩にして下さい。

【到達目標】

①この科目では、英文音読(Oral reading)の練習を通じて、良い発音、抑揚、チャンキング（Chunking: 複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で、英語をスムーズに読めるようになることを目指します。良い発音とは、ネイティブ・スピーカーが聞いて理解できる水準での英語の発音という意味です。

②音読を通じて、英語を話す能力(Speaking ability)を改善することが目標のひとつです。

③また同時に、音読を通じて、英語を聞き取り理解する能力(Listening comprehension)を改善することも目標のひとつです。教科書のダウンロード(DL) 音声聴いたり、リスニング用動画や英語の音楽を視聴したりして、英語を楽しみながら、英語を聞き取り理解する能力の向上を図ります。

④このようにオーラル・リーディング（音読）を英語学習上のエンジンとして繰り返し練習することで、英語のスピーキングとリスニングの基礎的能力を伸ばし、将来的に英語でのコミュニケーション能力（双方向での英会話能力）の向上につながる基礎・土台を築くことが、最終的な到達目標となります。

⑤教科書に登場する国際経営関連分野における英語のキーワードを習得するとともに、グローバルビジネスで避けて通れないノンネイティブの発音にも慣れるようにします。

⑥教科書の国際ビジネスのストーリーを通じて、経営学の各専門的分野と実際の企業経営とのつながりを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①まず、YouTube動画など、ウェブ上のリスニング用動画や音楽を視聴して、発音、抑揚、チャンキング（Chunking：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）の確認を行います。②教科書のDL 音声を聴いて、その後、教科書の音読の練習をします。③教科書を音読しながら、その内容の理解に努めるとともに、特に、発音、抑揚、チャンキングの練習をします。④DL 音声を利用しながら、シャドウイングによる音読の練習をします。⑤プリント教材ないしパワーポイント資料によって、文法やチャンキング等について、追加的な説明を行います。⑥教科書の国際ビジネスの内容や関連事項について、必要な解説を行います。

なお、発音、抑揚、チャンキングの練習において矯正すべき点があれば、その都度その場で各々の学生に対して改善点等をフィードバックして発音等を矯正し、それを繰り返しながら、英語でのコミュニケーションの基礎的能力の向上を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本科目の学習内容の概要等の説明。 リスニングや教科書音読等。第1章：暗中模索（序盤）	この科目で学習する内容の概要を説明します。 教科書01～03のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第2回	第1章：暗中模索（中盤）	教科書04～06のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第3回	第1章：暗中模索（終盤）	教科書07～09のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第4回	第2章：スタートライン（序盤）	教科書10～12のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第5回	第2章：スタートライン（中盤）	教科書13～15のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第6回	第2章：スタートライン（終盤）	教科書16～18のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第7回	第3章：現実との乖離（序盤）	教科書19～21のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第8回	第3章：現実との乖離（中盤）	教科書22～24のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第9回	第3章：現実との乖離（終盤）	教科書25～27のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第10回	第4章：価値の創造（序盤）	教科書28～30のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第11回	第4章：価値の創造（中盤1）	教科書31～33のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。

第12回	第4章：価値の創造（中盤2）	教科書34～36のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第13回	第4章：価値の創造（終盤）	教科書37～40のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第14回	授業内容の理解度の確認を目的とした授業内期末試験の実施。	授業期間内に期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業に備えて、指定された教科書のダウンロード（DL）音声聴いて、事前に自ら音読をしておいて下さい。配布されたプリント、パワーポイント資料、リスニング用動画（音楽を含む）などの内容も確認しておいて下さい。大学設置基準における予習・復習にかけられるべき標準時間は、1回の授業につき4時間です。

【テキスト（教科書）】

株式会社アルク出版編集部【音声DL付】『改訂版 究極のビジネス英語リスニング Vol.3』2021年、1,980円。

<通販サイトで注文すると1週間以内に届きます。音声はスマホやPCにダウンロードできるので、授業で利用します。>

（※）注意：類似したタイトル、表紙カバー、表紙カラーの教材が多数販売されているので、購入の際は教科書を間違えないように注意して、必ず上記のタイトルの教科書を購入してください。

【参考書】

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業出席、受講態度、授業参加の積極性（主に音読）に対して、30%配点。
- ②授業内の出席確認テスト（教科書の文法、リスニング）に対して、35%配点。
- ③期末テスト（教科書の文法、スピーキング）に対して、35%配点。

【学生の意見等からの気づき】

毎週コンスタントにスピーキング能力の向上を図るため、教科書の音読（オーラル・リーディング）については、各授業で教科書を可能な限り3セッションずつ進めるようにします。同様に、リスニング能力の向上を図るため、可能な限り各授業でリスニング用動画（音楽を含む）を視聴するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での出席確認テストに解答するために、学習支援システムにアクセスできるパソコンないしスマホ。英和・和英辞書（電子辞書ないしスマホ）。教科書のDL音声を聞くための機器は必須です。

【その他の重要事項】

この授業は、海外の英語圏の国々に合計1か月以上滞在したことがなく、ビジネス英語を初めて学習する学生を対象としています。ただし、初級以上のレベルの単語も多く含む教科書を学習して、英語力を初級以上のレベルに高めることを目標としています。ゆえに、教科書を事前に読み、DL音声を聴いてその内容を理解する準備を整えた学生を対象にしています。

履修希望者が一定数を超える場合には、第1回の授業でクイズ等を実施し、その成績や目的意識が高く学習意欲が強い順に履修を許可する予定です。その理由としては、この科目は、実生活やビジネス等での実践的な英語力の習得を目的に、毎回の授業ですべての学生に英語の音読等で直接的かつ積極的に授業に参加してもらうことを想定しているからです。

なお、本授業は、「実務経験のある教員による授業」ですので、外務省、農林水産省、公正取引委員会、大学教員、海外大学客員研究員などの実務経験の知見（外交実務、農業・食品関連市場、独占禁止法、競争政策、企業結合（合併）審査、経済分析、計量経済学的な実証分析、取引実態調査、学術調査など）を交えながら、教科書の内容に関連して解説する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

【Business English Course】

In this course, students will use a textbook for international business in English, leading them to study business administration, business strategy, marketing and so on. Through this course, students will be able to imagine the business scene of international business by English. With the increasing accuracy of machine translation, such as Google Translate, the task of translating between English and Japanese has shifted from humans to AI; however, what remains for humans is to listen to English with our own ears, speak in English with our own voice, read English with our own eyes, think in English with our own minds, and write in English with our own hands. Despite the fact that we are aware of cars being faster than humans, we still compete in marathons for speed, relay races for teamwork, and enjoy jogging. The emphasis in this class is on enjoying learning practical English skills by improving speaking ability and listening comprehension through reading aloud (oral reading) with our own voice. Students who can read English with good pronunciation, intonation and chunking will be able to speak English well and to understand English spoken by native speakers.

【Learning Objectives】

(1) The aim of this course is to enable students to read English (oral reading) with good pronunciation, intonation and chunking (including shortened and abbreviated forms). Good pronunciation implies pronouncing English at a level that native speakers can easily hear and understand.

(2) Another objective is to enhance your speaking ability through oral reading.

(3) Besides, the other objective is to enhance your listening comprehension through oral reading. Students practice this skill while enjoying English by using DL audio provided with textbook(s), watching videos for listening, and listening to music.

(4) Students will acquire key vocabularies in English related to international business management, as featured in the topics of textbook(s).

(5) Through reading textbook(s), students will grasp the link between the specialized field of business administration and real-world corporate management.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

30% for class attendance, attitude toward regular class and active class participation (mainly oral reading).

35% for in-class attendance check tests (grammar and listening).

35% for the final exam (grammar and speaking).

MAN104FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

小島 泰友

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ビジネス英語】

この科目では、企業の国際経営におけるビジネス英語の教科書を使いながら、人と組織を対象とする経営学、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどの学習との関係を理解します。この科目を通じて、国際経営における英語によるビジネスシーンをイメージすることができると考えます。この授業での重点は、オーラル・リーディング（音読）、スピーキング、リスニングにあります。良い発音・抑揚・チャンキング（Chunking：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で英語を読めるヒトは、ネイティブ・スピーカーの喋る英語も聞き取れるようになります。

AI翻訳の精度が高まり、英文和訳や和文英訳は、人間の仕事からAIの仕事になりました。しかし、自分の耳で英語を聞き、自分の声で英語を喋り、自分の目で英文を読解し、自分の頭で英文を考え自分の手で英文を書くという作業が、人間にとっての楽しい活動として残されています。自動車のほうが人間よりも速く走ることがわかっていても、人間は、マラソンでスピードを競い、駅伝でチームワークを競い、ジョギングを楽しみます。この科目を履修することで、機械に頼らず、実生活やビジネス等で自分で実践する英語を習得する楽しさを知ってほしいと思います。

またこの科目履修を、大学卒業を目的とした単位取得のためだけではなく、実生活やビジネス等の場面で英語で自らコミュニケーションできるようにするための実践的な英語の習得の第一歩にして下さい。

【到達目標】

①この科目では、英文音読(Oral reading)の練習を通じて、良い発音、抑揚、チャンキング（Chunking: 複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で、英語をスムーズに読めるようになることを目指します。良い発音とは、ネイティブ・スピーカーが聞いて理解できる水準での英語の発音という意味です。

②音読を通じて、英語を話す能力(Speaking ability)を改善することが目標のひとつです。

③また同時に、音読を通じて、英語を聞き取り理解する能力(Listening comprehension)を改善することも目標のひとつです。教科書のダウンロード(DL) 音声聴いたり、リスニング用動画や英語の音楽を視聴したりして、英語を楽しみながら、英語を聞き取り理解する能力の向上を図ります。

④このようにオーラル・リーディング（音読）を英語学習上のエンジンとして繰り返し練習することで、英語のスピーキングとリスニングの基礎的能力を伸ばし、将来的に英語でのコミュニケーション能力（双方向での英会話能力）の向上につながる基礎・土台を築くことが、最終的な到達目標となります。

⑤教科書に登場する国際経営関連分野における英語のキーワードを習得するとともに、グローバルビジネスで避けて通れないノンネイティブの発音にも慣れるようにします。

⑥教科書の国際ビジネスのストーリーを通じて、経営学の各専門的分野と実際の企業経営とのつながりを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①まず、YouTube動画など、ウェブ上のリスニング用動画や音楽を視聴して、発音、抑揚、チャンキング（Chunking：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）の確認を行います。②教科書のDL 音声を聴いて、その後、教科書の音読の練習をします。③教科書を音読しながら、その内容の理解に努めるとともに、特に、発音、抑揚、チャンキングの練習をします。④DL 音声を利用しながら、シャドウイングによる音読の練習をします。⑤プリント教材ないしパワーポイント資料によって、文法やチャンキング等について、追加的な説明を行います。⑥教科書の国際ビジネスの内容や関連事項について、必要な解説を行います。

なお、発音、抑揚、チャンキングの練習において矯正すべき点があれば、その都度その場で各々の学生に対して改善点等をフィードバックして発音等を矯正し、それを繰り返しながら、英語でのコミュニケーションの基礎的能力の向上を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本科目の学習内容の概要等の説明。 リスニングや教科書音読等。第1章：暗中模索（序盤）	この科目で学習する内容の概要を説明します。 教科書01～03のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第2回	第1章：暗中模索（中盤）	教科書04～06のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第3回	第1章：暗中模索（終盤）	教科書07～09のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第4回	第2章：スタートライン（序盤）	教科書10～12のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第5回	第2章：スタートライン（中盤）	教科書13～15のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第6回	第2章：スタートライン（終盤）	教科書16～18のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第7回	第3章：現実との乖離（序盤）	教科書19～21のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第8回	第3章：現実との乖離（中盤）	教科書22～24のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第9回	第3章：現実との乖離（終盤）	教科書25～27のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第10回	第4章：価値の創造（序盤）	教科書28～30のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第11回	第4章：価値の創造（中盤1）	教科書31～33のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。

第12回	第4章：価値の創造（中盤2）	教科書34～36のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第13回	第4章：価値の創造（終盤）	教科書37～40のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第14回	授業内容の理解度の確認を目的とした授業内期末試験の実施。	授業期間内に期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業に備えて、指定された教科書のダウンロード（DL）音声聴いて、事前に自ら音読をしておいて下さい。配布されたプリント、パワーポイント資料、リスニング用動画（音楽を含む）などの内容も確認しておいて下さい。大学設置基準における予習・復習にかけられるべき標準時間は、1回の授業につき4時間です。

【テキスト（教科書）】

株式会社アルク出版編集部【音声DL付】『改訂版 究極のビジネス英語リスニング Vol.3』2021年、1,980円。

<通販サイトで注文すると1週間以内に届きます。音声はスマホやPCにダウンロードできるので、授業で利用します。>

（※）注意：類似したタイトル、表紙カバー、表紙カラーの教材が多数販売されているので、購入の際は教科書を間違えないように注意して、必ず上記のタイトルの教科書を購入してください。

【参考書】

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業出席、受講態度、授業参加の積極性（主に音読）に対して、30%配点。
- ②授業内の出席確認テスト（教科書の文法、リスニング）に対して、35%配点。
- ③期末テスト（教科書の文法、スピーキング）に対して、35%配点。

【学生の意見等からの気づき】

毎週コンスタントにスピーキング能力の向上を図るため、教科書の音読（オーラル・リーディング）については、各授業で教科書を可能な限り3セッションずつ進めるようにします。同様に、リスニング能力の向上を図るため、可能な限り各授業でリスニング用動画（音楽を含む）を視聴するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での出席確認テストに解答するために、学習支援システムにアクセスできるパソコンないしスマホ。英和・和英辞書（電子辞書ないしスマホ）。教科書のDL音声を聞くための機器は必須です。

【その他の重要事項】

この授業は、海外の英語圏の国々に合計1か月以上滞在したことがなく、ビジネス英語を初めて学習する学生を対象としています。ただし、初級以上のレベルの単語も多く含む教科書を学習して、英語力を初級以上のレベルに高めることを目標としています。ゆえに、教科書を事前に読み、DL音声を聴いてその内容を理解する準備を整えた学生を対象にしています。

履修希望者が一定数を超える場合には、第1回の授業でクイズ等を実施し、その成績や目的意識が高く学習意欲が強い順に履修を許可する予定です。その理由としては、この科目は、実生活やビジネス等での実践的な英語力の習得を目的に、毎回の授業ですべての学生に英語の音読等で直接的かつ積極的に授業に参加してもらうことを想定しているからです。

なお、本授業は、「実務経験のある教員による授業」ですので、外務省、農林水産省、公正取引委員会、大学教員、海外大学客員研究員などの実務経験の知見（外交実務、農業・食品関連市場、独占禁止法、競争政策、企業結合（合併）審査、経済分析、計量経済学的な実証分析、取引実態調査、学術調査など）を交えながら、教科書の内容に関連して解説する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

【Business English Course】

In this course, students will use a textbook for international business in English, leading them to study business administration, business strategy, marketing and so on. Through this course, students will be able to imagine the business scene of international business by English. With the increasing accuracy of machine translation, such as Google Translate, the task of translating between English and Japanese has shifted from humans to AI; however, what remains for humans is to listen to English with our own ears, speak in English with our own voice, read English with our own eyes, think in English with our own minds, and write in English with our own hands. Despite the fact that we are aware of cars being faster than humans, we still compete in marathons for speed, relay races for teamwork, and enjoy jogging. The emphasis in this class is on enjoying learning practical English skills by improving speaking ability and listening comprehension through reading aloud (oral reading) with our own voice. Students who can read English with good pronunciation, intonation and chunking will be able to speak English well and to understand English spoken by native speakers.

【Learning Objectives】

(1) The aim of this course is to enable students to read English (oral reading) with good pronunciation, intonation and chunking (including shortened and abbreviated forms). Good pronunciation implies pronouncing English at a level that native speakers can easily hear and understand.

(2) Another objective is to enhance your speaking ability through oral reading.

(3) Besides, the other objective is to enhance your listening comprehension through oral reading. Students practice this skill while enjoying English by using DL audio provided with textbook(s), watching videos for listening, and listening to music.

(4) Students will acquire key vocabularies in English related to international business management, as featured in the topics of textbook(s).

(5) Through reading textbook(s), students will grasp the link between the specialized field of business administration and real-world corporate management.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

30% for class attendance, attitude toward regular class and active class participation (mainly oral reading).

35% for in-class attendance check tests (grammar and listening).

35% for the final exam (grammar and speaking).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

羅 鵬飛

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は、人間社会における経済現象、特に財・サービスの生産・交換・消費に関する法則を研究する学問であり、経営学部の学生にとって不可欠な知識である。

本授業では、英語で書かれた経済学の入門書および経済ニュースを題材に、英語で経済学の基礎知識を学ぶ。授業は、日本語による教員の説明、英語と日本語による学生のプレゼンテーション・ディスカッションを組み合わせて進行する。経済学に関する基本的な英語の用語や表現を学び、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

【到達目標】

本授業の目標は、経済に関する英語の書籍やニュースを独力で読み、英語でプレゼンテーションを行う能力を養うことである。具体的には、以下のスキルの向上を目指す。

1. 経済学入門レベルの英語テキストを理解する力の習得
2. 英語の専門書やニュースを読解する能力の向上
3. 英語で専門講義を受けるための基礎力の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学生はグループに分かれ、担当部分を発表する。授業は以下の流れで進行する：

1. グループによるプレゼンテーション
2. 他グループによる質疑応答
3. 教員によるコメントと解説
4. 全体ディスカッションとまとめ

発表内容、課題等に関するフィードバックは授業中に行う。

授業の後半では、ビジネスに関連する英語の原書や記事を読解し、発表・議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス / Course Guidance	授業の進め方の説明、経済学の概要
第2回	Chapter 1: Macroeconomic History	グループ確定、教員による内容説明、ディスカッション
第3回	Chapter 2: Trust	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第4回	Chapter 3: Communities	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第5回	Additional Topic 1: Economic Indicators	教員による内容説明、ディスカッション
第6回	Chapter 4: Markets	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第7回	Chapter 5: Science and Technology as Institutions	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第8回	Chapter 6: Households and Firms	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第9回	Additional Topic 2: Exchange Rate	教員による内容説明、ディスカッション
第10回	Chapter 7: Sustainable Economic Development	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第11回	Chapter 8: Social Well-being and Democratic Government	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第12回	Additional Topic 3: Trade	教員による内容説明、ディスカッション
第13回	期末発表 1 / Final Presentation 1	英語プレゼンテーション、フィードバック

第14回 期末発表 2 / Final Presentation 2

英語プレゼンテーション、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各回の準備・復習時間は、それぞれ2時間、合計で4時間とする。
2. 授業前に指定された章を精読し、英語で質問を準備すること。
3. 発表チームは、担当章をMS PowerPointに英語でまとめ、英語で発表すること。
4. 発表チームは、担当章に関連する経済ニュースを調査し、経済問題と解決策を考察しながら発表に組み込むこと。

【テキスト（教科書）】

初回授業でテキストの使用方法について説明するため、事前購入は不要。

Partha Dasgupta, Economics: A Very Short Introduction. Oxford University Press. 2007.Kindle版 900円。
大学図書館で蔵書・電子ブックの利用可能。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業内の議論・質疑応答への参加 40%

出席確認テスト 30%

期末発表 30%

評価については初回授業で詳細に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、必要に応じて具体例や補足説明を加え、学生の理解を確認しながら授業を行う。また、発表に対するフィードバックを行い、発表能力の向上につなげる。

【学生が準備すべき機器他】

個人PC、電子辞書等（報告・資料調査に使用）

【その他の重要事項】

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン（Zoom）での実施も可能。その場合、事前に受講方法（Zoomリンクなど）を通知する。また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行う。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連するが、履修は必須ではない。

【Outline (in English)】

Economics is the study of economic phenomena in human society, particularly the laws governing the production, exchange, and consumption of goods and services. It is essential knowledge for students in the Faculty of Business Administration.

This course introduces fundamental economic concepts using an English-language introductory economics textbook along with economic news articles. The class combines instructor explanations in Japanese with student presentations and discussions in both English and Japanese. Through this process, students will become familiar with key economic terminology in English and develop the ability to effectively communicate economic concepts in English.

The preparation and review time for each session is approximately two hours each, for a total of four hours. Before each class, students must carefully read the assigned chapter and prepare questions in English. Presentation teams are required to summarize their assigned chapter in English using MS PowerPoint and present in English. They must also research related economic news, analyze economic issues, and incorporate their findings into the presentation.

Assessment will be based on class participation in discussions and Q&A (40%), attendance quizzes (30%), and a final presentation (30%). Grading details will be explained in the first session.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

羅 鵬飛

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は、人間社会における経済現象、特に財・サービスの生産・交換・消費に関する法則を研究する学問であり、経営学部の学生にとって不可欠な知識である。

本授業では、英語で書かれた経済学の入門書および経済ニュースを題材に、英語で経済学の基礎知識を学ぶ。授業は、日本語による教員の説明、英語と日本語による学生のプレゼンテーション・ディスカッションを組み合わせて進行する。経済学に関する基本的な英語の用語や表現を学び、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

【到達目標】

本授業の目標は、経済に関する英語の書籍やニュースを独力で読み、英語でプレゼンテーションを行う能力を養うことである。具体的には、以下のスキルの向上を目指す。

1. 経済学入門レベルの英語テキストを理解する力の習得
2. 英語の専門書やニュースを読解する能力の向上
3. 英語で専門講義を受けるための基礎力の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学生はグループに分かれ、担当部分を発表する。授業は以下の流れで進行する：

1. グループによるプレゼンテーション
2. 他グループによる質疑応答
3. 教員によるコメントと解説
4. 全体ディスカッションとまとめ

発表内容、課題等に関するフィードバックは授業中に行う。

授業の後半では、ビジネスに関連する英語の原書や記事を読解し、発表・議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス / Course Guidance	授業の進め方の説明、経済学の概要
第2回	Chapter 1: Macroeconomic History	グループ確定、教員による内容説明、ディスカッション
第3回	Chapter 2: Trust	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第4回	Chapter 3: Communities	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第5回	Additional Topic 1: Economic Indicators	教員による内容説明、ディスカッション
第6回	Chapter 4: Markets	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第7回	Chapter 5: Science and Technology as Institutions	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第8回	Chapter 6: Households and Firms	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第9回	Additional Topic 2: Exchange Rate	教員による内容説明、ディスカッション
第10回	Chapter 7: Sustainable Economic Development	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第11回	Chapter 8: Social Well-being and Democratic Government	グループ報告、教員による内容説明、ディスカッション
第12回	Additional Topic 3: Trade	教員による内容説明、ディスカッション
第13回	期末発表 1 / Final Presentation 1	英語プレゼンテーション、フィードバック

第14回 期末発表 2 / Final Presentation 2

英語プレゼンテーション、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各回の準備・復習時間は、それぞれ2時間、合計で4時間とする。
2. 授業前に指定された章を精読し、英語で質問を準備すること。
3. 発表チームは、担当章をMS PowerPointに英語でまとめ、英語で発表すること。
4. 発表チームは、担当章に関連する経済ニュースを調査し、経済問題と解決策を考察しながら発表に組み込むこと。

【テキスト（教科書）】

初回授業でテキストの使用方法について説明するため、事前購入は不要。

Partha Dasgupta, Economics: A Very Short Introduction. Oxford University Press. 2007.Kindle版 900円。
大学図書館で蔵書・電子ブックの利用可能。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業内の議論・質疑応答への参加 40%

出席確認テスト 30%

期末発表 30%

評価については初回授業で詳細に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、必要に応じて具体例や補足説明を加え、学生の理解を確認しながら授業を行う。また、発表に対するフィードバックを行い、発表能力の向上につなげる。

【学生が準備すべき機器他】

個人PC、電子辞書等（報告・資料調査に使用）

【その他の重要事項】

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン（Zoom）での実施も可能。その場合、事前に受講方法（Zoomリンクなど）を通知する。また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行う。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連するが、履修は必須ではない。

【Outline (in English)】

Economics is the study of economic phenomena in human society, particularly the laws governing the production, exchange, and consumption of goods and services. It is essential knowledge for students in the Faculty of Business Administration.

This course introduces fundamental economic concepts using an English-language introductory economics textbook along with economic news articles. The class combines instructor explanations in Japanese with student presentations and discussions in both English and Japanese. Through this process, students will become familiar with key economic terminology in English and develop the ability to effectively communicate economic concepts in English.

The preparation and review time for each session is approximately two hours each, for a total of four hours. Before each class, students must carefully read the assigned chapter and prepare questions in English. Presentation teams are required to summarize their assigned chapter in English using MS PowerPoint and present in English. They must also research related economic news, analyze economic issues, and incorporate their findings into the presentation.

Assessment will be based on class participation in discussions and Q&A (40%), attendance quizzes (30%), and a final presentation (30%). Grading details will be explained in the first session.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

左三川 郁子

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済学や金融論のテキストは、英語で読んだ方がわかりやすい場合があります。本コースでは英語で書かれた経済学のテキストを用いて、経済学と金融の基礎に加えて、英語のテクニカルターム (専門用語) を習得します。また、Financial Timesなどの新聞記事を題材に、経済やビジネスに関する時事問題についても学びます。

【到達目標】

経済・金融の基礎を英語で学び、経済や金融の理論だけでなく、関連するニュースの背景や将来に向けた課題について、自分の言葉で語れるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初の80分はテキストの内容について講義を行い、残りの20分で経済・マーケットニュースに関する英語の記事を題材に、最近の時事問題について解説します。記事は、前半の講義パートで習った内容に関連するものを選択する予定です。教科書で習った経済学の知識が、現実の世界でどのように役立つかをお伝えします。課題等に対するフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	The current status of Japan's economy, stocks and flows, institutional sectors, business cycles (short-run fluctuations)
第2回	Measuring the Economy	Expenditure, income, and production approaches, nominal vs. real GDP, GDP deflator, components of expenditure
第3回	Measuring the Cost of Living	Consumer Price Index (CPI), inflation rate, real vs. nominal values, adaptive expectations
第4回	Unemployment and the Labor Market	Types of unemployment, labor force participation rate, unemployment rate, Phillips curve trade-off
第5回	The Monetary System	Functions of money, central banks, money supply, bank notes, demand for money, bank deposits, bank lending
第6回	Money Growth and Inflation	Quantity theory of money, real vs. nominal interest rates, inflation and interest rates, demand for money, velocity, seigniorage
第7回	IS-LM Model (Closed Economy)	IS curve (goods market), LM curve (money market), policy multipliers, interest rate
第8回	Aggregate Demand and Aggregate Supply (AD-AS) I	Derivation of the aggregate demand curve, IS-LM framework

第9回	Aggregate Demand and Aggregate Supply (AD-AS) II	Short-run and long-run AS curves, output gap, demand shocks, supply shocks
第10回	Fiscal Policy and the Multiplier Effect	Government spending and taxation multipliers, fiscal crowding out, inter-temporal budget constraint, Ricardian equivalence, debt dynamics
第11回	Monetary Policy and Central Banking	Open market operations, interest rate targeting, zero lower bound, inflation targeting
第12回	The Open Economy	Trade balance, real exchange rate, capital flows, exchange rates, Mundell-Fleming Model
第13回	Long-Run Economic Growth	Productivity, capital accumulation, technological progress, Solow model intuition
第14回	Policy Challenges and Review	Policy coordination, macroeconomic stability, future challenges (population decrease, public debt), inequality, climate change

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えて下さい。

【テキスト (教科書)】

N. Gregory Mankiw, "Macroeconomics" を用います。記事については、授業中に配布します。

【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験 (100 %) に基づいて決定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

新聞社の系列シンクタンクで30年間、金融政策や金融機関経営の研究をしていました。経済・金融の時事問題については新聞記事をベースに解説していきます。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Economics and finance textbooks are often easier to understand when read in English. This course uses English-language economics textbooks to cover the fundamentals of economics and finance while also teaching English technical terms. Additionally, using newspaper articles from sources like the Financial Times, students will study current economic and business issues. Grading is based solely on the final exam (100%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

左三川 郁子

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済学や金融論のテキストは、英語で読んだ方がわかりやすい場合があります。本コースでは英語で書かれた経済学のテキストを用いて、経済学と金融の基礎に加えて、英語のテクニカルターム (専門用語) を習得します。また、Financial Timesなどの新聞記事を題材に、経済やビジネスに関する時事問題についても学びます。

【到達目標】

経済・金融の基礎を英語で学び、経済や金融の理論だけでなく、関連するニュースの背景や将来に向けた課題について、自分の言葉で語れるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初の80分はテキストの内容について講義を行い、残りの20分で経済・マーケットニュースに関する英語の記事を題材に、最近の時事問題について解説します。記事は、前半の講義パートで習った内容に関連するものを選択する予定です。教科書で習った経済学の知識が、現実の世界でどのように役立つかをお伝えします。課題等に対するフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	The current status of Japan's economy, stocks and flows, institutional sectors, business cycles (short-run fluctuations)
第2回	Measuring the Economy	Expenditure, income, and production approaches, nominal vs. real GDP, GDP deflator, components of expenditure
第3回	Measuring the Cost of Living	Consumer Price Index (CPI), inflation rate, real vs. nominal values, adaptive expectations
第4回	Unemployment and the Labor Market	Types of unemployment, labor force participation rate, unemployment rate, Phillips curve trade-off
第5回	The Monetary System	Functions of money, central banks, money supply, bank notes, demand for money, bank deposits, bank lending
第6回	Money Growth and Inflation	Quantity theory of money, real vs. nominal interest rates, inflation and interest rates, demand for money, velocity, seigniorage
第7回	IS-LM Model (Closed Economy)	IS curve (goods market), LM curve (money market), policy multipliers, interest rate
第8回	Aggregate Demand and Aggregate Supply (AD-AS) I	Derivation of the aggregate demand curve, IS-LM framework

第9回	Aggregate Demand and Aggregate Supply (AD-AS) II	Short-run and long-run AS curves, output gap, demand shocks, supply shocks
第10回	Fiscal Policy and the Multiplier Effect	Government spending and taxation multipliers, fiscal crowding out, inter-temporal budget constraint, Ricardian equivalence, debt dynamics
第11回	Monetary Policy and Central Banking	Open market operations, interest rate targeting, zero lower bound, inflation targeting
第12回	The Open Economy	Trade balance, real exchange rate, capital flows, exchange rates, Mundell-Fleming Model
第13回	Long-Run Economic Growth	Productivity, capital accumulation, technological progress, Solow model intuition
第14回	Policy Challenges and Review	Policy coordination, macroeconomic stability, future challenges (population decrease, public debt), inequality, climate change

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えて下さい。

【テキスト (教科書)】

N. Gregory Mankiw, "Macroeconomics" を用います。記事については、授業中に配布します。

【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験 (100 %) に基づいて決定します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

新聞社の系列シンクタンクで30年間、金融政策や金融機関経営の研究をしていました。経済・金融の時事問題については新聞記事をベースに解説していきます。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Economics and finance textbooks are often easier to understand when read in English. This course uses English-language economics textbooks to cover the fundamentals of economics and finance while also teaching English technical terms. Additionally, using newspaper articles from sources like the Financial Times, students will study current economic and business issues. Grading is based solely on the final exam (100%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学学生）

芝田 隆志

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学学生で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれたファイナンスのテキストを読みながら、ファイナンスの基本概念について学習します。学生は、英語で書かれたファイナンスのテキストを事前に読むことが必須となります。

【到達目標】

本講義での到達目標は、ファイナンスの基礎概念の一部を、英語のテキストによって理解することにあります。また、プレゼンテーションを通じて、口頭発表の手法について習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は演習形式となります。履修者は、文献の読み方、レジメの作成方法、口頭発表資料の作成方法、口頭発表方法などを学びます。授業中、レジメや口頭発表資料の内容、口頭発表方法について、個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法について説明する
第2回	安全資産と危険資産	安全資産と危険資産について学習します
第3回	利子率、将来価値、現在価値(1)	利子率、将来価値、現在価値について学習します
第4回	利子率、将来価値、現在価値(2)	引き続き、利子率、将来価値、現在価値について学習します
第5回	利子率、将来価値、現在価値(3)	引き続き、利子率、将来価値、現在価値について学習します
第6回	無裁定取引	無裁定取引について学習します
第7回	リスクとリターン	リスクとリターンについて学習します
第8回	二項モデル(1)	二項モデルについて学習します
第9回	二項モデル(2)	引き続き、二項モデルについて学習します
第10回	二項モデル(3)	引き続き、二項モデルについて学習します
第11回	デリバティブ	デリバティブについて学習します
第12回	デリバティブ	引き続き、デリバティブについて学習します
第13回	複製と無裁定取引	複製と無裁定取引について学習します
第14回	不確実性下の現在価値の評価法	不確実性下の現在価値の評価法について学習します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を事前に読んできて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料を配布します

【参考書】

参考書については、講義中に適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、プレゼンテーション(30%)、講義への貢献度(20%)により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義することを心掛けます。

【関連科目】

ファイナンス入門

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of finance by using textbook written by English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (50%), students' presentation performance (30%) and its contribution (20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

高橋 慎

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】 本授業では、海外の主要メディア（BBC, Reuters, Bloomberg等）が報じる最新のビジネス、経済、時事ニュースを題材に、生きた英語を学びます。学生は NotebookLM などの AI ツールを「思考のパートナー」として活用し、膨大な英語情報の中から重要なトピックを抽出・整理し、自らの考えを英語でプレゼンテーションする手法を習得します。

【授業の目的・意義】 学生が、英語で発信される世界の動きを自分なりに読み解き、AIを適切に使いこなしながら、客観的なデータや事実に基づいた意見発信ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

学生はこの授業を履修することで、以下のことができるようになります。

- ・信頼できる海外メディアから、興味のあるビジネス・経済ニュースを自ら選定し、その概要を説明できる。
- ・NotebookLM などの AI ツールを活用して、長い英文記事や複数の資料から「何が論点か」を迅速に構造化できる。
- ・調査した時事問題について、図表や具体的な事例を交えながら、英語で平易にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・授業方法：本授業は「演習」形式で行います。
- ・アクティブラーニング：時事問題の調査を通じた課題解決型学習（PBL）を取り入れ、個人またはグループによるプレゼンテーションを行います。
- ・NotebookLMの活用：各自が気になったニュースを NotebookLM に読み込ませ、情報を整理・分析するワークショップ形式の時間を設けます。
- ・フィードバック方法：課題（NotebookLMの分析ログ等）に対しては、翌週の授業内での全体講評、または学習支援システムを通じて個別のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と主要な英語ニュースサイトの紹介
第2回	ニュース英語の基礎	記事の見出しやリード文によく使われる表現の習得
第3回	情報収集の実践	Reuters や BBC 等から関心のあるトピックを探す
第4回	AI活用術(1)	NotebookLM を用いた英文要約と用語解説の生成
第5回	AI活用術(2)	AIの回答を鵜呑みにしない「ソース（原典）確認」の技術
第6回	トピック分析(1) テクノロジー	AIやDXに関する最新ニュースの分析
第7回	トピック分析(2) グローバル経済	為替や市場動向に関するニュースの読解
第8回	トピック分析(3) 社会と経営	ESGや環境問題に関する企業の取り組み
第9回	トピック分析(4) 社会問題	労働環境や消費トレンドの変化
第10回	情報の構造化演習	複数の記事を NotebookLM に読み込ませて比較・分析する
第11回	プレゼンテーション準備(1)	聴衆に伝わる構成（イントロ・ボディ・結論）の作成
第12回	プレゼンテーション準備(2)	AIを用いたデリバリー（話し方・表現）の推敲
第13回	学生発表(1)	各自が選定した最新トピックのプレゼンと質疑応答
第14回	学生発表(2)	各自が選定した最新トピックのプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習：次のテーマに関連する英語記事を最低1つ読み、不明な単語を調べておく必要があります。

- ・復習・宿題: NotebookLM を用いて作成した分析メモやプレゼン資料を、授業計画に沿って指定の期日までに提出してください。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

到達目標の達成度を以下の要素から総合的に評価します。

- ・平常点 (30%)：授業内での発言、ディスカッションへの貢献度、課題の内容で評価します。
- ・NotebookLM 分析レポート (30%)：ニュース情報の正確な構造化と、AIの回答を批判的に検討できているかを評価基準とします。
- ・最終プレゼンテーション (40%)：適切な情報源（ソース）に基づき、自分の考えを英語で論理的に伝えられているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器：個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

生成AI（NotebookLM等）の取り扱い：本授業では AI を「分析の補助ツール」として積極的に使用しますが、AIの生成物をそのまま自分の成果物として提出することは剽窃とみなします。必ず引用元を明記し、自らの解釈を加えてください。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

Course outline: This course focuses on understanding contemporary business and economic trends through international news media. Students will use NotebookLM to analyze English articles and develop their presentation skills.

Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to summarize English business news and express their own perspectives using AI tools effectively.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend at least four hours per week researching news topics and preparing for class discussions.

Grading Criteria / Policy: Your final grade will be based on: Analysis Reports (30%), Final Presentation (40%), and in-class contribution (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

ANDREW CHANG

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本語と英語を使管理 ID：用しながら、マネジメントの基本的な考え方を学びます。初めて経営学を学ぶ学生でも安心して取り組めるように、計画・組織・リーダーシップ・統制といったマネジメントの基礎機能について、やさしい英語とビジュアル教材を使って解説します。ケーススタディやグループワークを通じて、英語でのビジネス用語や論理的思考、簡単なプレゼンテーションの方法も身につけます。

【到達目標】

授業を通じて、以下の力を身につけることを目指します：

- 1 経営学の基本概念を英語で理解・説明できる
- 2 外国語を使ってビジネスの基本的な会話や発表ができる
- 3 簡単な意思決定・チームマネジメント・リーダーシップについて理解する
- 4 ケーススタディを通じて、学んだ理論を現実に応用する力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は日本語と英語で行いますが、基礎的な語彙・表現を使用します。わかりやすい図表・例を用いて説明を行い、学生同士の英語によるペアワークやグループディスカッションも行います。課題については、提出後に授業内で講評・解説を行うほか、必要に応じて個別にコメントを返し、改善点や学習の方向性をフィードバックします。また、英語でのスピーキング力やプレゼンテーション力を高めるため、授業内で少なくとも3回の発表（プレゼンテーション）を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとマネジメントの基礎	授業の目的・評価方法の説明、経営理論の歴史と主要機能の紹介
第2回	経営環境と企業の社会的責任	経営に影響する内外環境、倫理・サステナビリティの重要性
第3回	戦略的・業務的計画	戦略と業務レベルの計画策定、目標設定、SWOT分析など
第4回	組織構造・設計と組織文化	様々な組織構造、デザイン原則、組織文化の役割と影響
第5回	意思決定と問題解決	マネジメントにおける意思決定手法と創造的問題解決
第6回	モチベーションとリーダーシップ	モチベーション理論（マズロー、ハーズバーグ等）とリーダーシップスタイル
第7回	コミュニケーションとチームワーク	組織内コミュニケーションとチーム構築・ダイナミクス
第8回	人事管理とパフォーマンス管理	採用、研修、評価、報酬などのHR機能とパフォーマンス管理
第9回	ケーススタディ討論	実際のマネジメント事例を用いたグループ討論
第10回	戦略的経営と競争優位	戦略の策定、競争ポジショニング、イノベーションの役割
第11回	変革・イノベーションと危機管理	変革管理モデル、創造性、危機対応とリスク評価
第12回	グローバルと異文化マネジメント	グローバル化の影響、異文化間のリーダーシップ能力の習得
第13回	倫理・ガバナンスと交渉	倫理的意思決定、コーポレート・ガバナンス、交渉と紛争解決
第14回	将来のトレンド・最終発表と総括	AI、DX、リモートワーク等の新潮流、最終プレゼン・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回につき予習・復習時間として2時間を確保してください。課題の読解、個人レポート、グループワークの進行を含みます。

【テキスト（教科書）】

著者：Stephen P. Robbins, Mary A. Coulter

書名：Management (15th edition)

出版社：Pearson, 2021

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

出席：10%

授業参加（英語発言等）：20%

個人ワーク（小レポートなど）：30%

グループプロジェクト（発表含む）：40%

発表では、英語を使って簡単なスライドを作成し、わかりやすく説明することを目指します。出席率が低い場合や、プロジェクトへの参加が不十分な場合は成績に反映されます。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the fundamental concepts of management while using English. Even those who are studying management for the first time can participate with confidence, as the core functions of management, planning, organizing, leadership, and control, will be explained using simple English and visual materials. Through case studies and group work, students will also acquire basic business vocabulary in English, logical thinking skills, and techniques for simple presentations.

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

小島 泰友

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ビジネス英語】

この科目では、企業の国際経営におけるビジネス英語の教科書を使いながら、人と組織を対象とする経営学、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどの学習との関係を理解します。この科目を通じて、国際経営における英語によるビジネスシーンをイメージすることができると考えます。この授業での重点は、オーラル・リーディング（音読）、スピーキング、リスニングにあります。良い発音・抑揚・チャンキング（**Chunking**：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で英語を読めるヒトは、ネイティブ・スピーカーの喋る英語も聞き取れるようになります。

AI翻訳の精度が高まり、英文和訳や和文英訳は、人間の仕事からAIの仕事になりました。しかし、自分の耳で英語を聞き、自分の声で英語を喋り、自分の目で英文を読解し、自分の頭で英文を考え自分の手で英文を書くという作業が、人間にとっての楽しい活動として残されています。自動車のほうが人間よりも速く走ることがわかっていても、人間は、マラソンでスピードを競い、駅伝でチームワークを競い、ジョギングを楽しみます。この科目を履修することで、機械に頼らず、実生活やビジネス等で自分で実践する英語を習得する楽しさを知ってほしいと思います。

またこの科目履修を、大学卒業を目的とした単位取得のためだけではなく、実生活やビジネス等の場面で英語で自らコミュニケーションできるようにするための実践的な英語の習得の第一歩にして下さい。

【到達目標】

①この科目では、英文音読(Oral reading)の練習を通じて、良い発音、抑揚、チャンキング（**Chunking**：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で、英語をスムーズに読めるようになることを目指します。良い発音とは、ネイティブ・スピーカーが聞いて理解できる水準での英語の発音という意味です。

②音読を通じて、英語を話す能力(Speaking ability)を改善することが目標のひとつです。

③また同時に、音読を通じて、英語を聞き取り理解する能力(Listening comprehension)を改善することも目標のひとつです。教科書のダウンロード(DL) 音声聴いたり、リスニング用動画や英語の音楽を視聴したりして、英語を楽しみながら、英語を聞き取り理解する能力の向上を図ります。

④このようにオーラル・リーディング（音読）を英語学習上のエンジンとして繰り返し練習することで、英語のスピーキングとリスニングの基礎的能力を伸ばし、将来的に英語でのコミュニケーション能力（双方向での英会話能力）の向上につながる基礎・土台を築くことが、最終的な到達目標となります。

⑤教科書に登場する国際経営関連分野における英語のキーワードを習得するとともに、グローバルビジネスで避けて通れないノンネイティブの発音にも慣れるようにします。

⑥教科書の国際ビジネスのストーリーを通じて、経営学の各専門的分野と実際の企業経営とのつながりを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①まず、YouTube動画など、ウェブ上のリスニング用動画や音楽を視聴して、発音、抑揚、チャンキング（**Chunking**：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）の確認を行います。②教科書のDL 音声を聴いて、その後、教科書の音読の練習をします。③教科書を音読しながら、その内容の理解に努めるとともに、特に、発音、抑揚、チャンキングの練習をします。④DL 音声を利用しながら、シャドウイングによる音読の練習をします。⑤プリント教材ないしパワーポイント資料によって、文法やチャンキング等について、追加的な説明を行います。⑥教科書の国際ビジネスの内容や関連事項について、必要な解説を行います。

なお、発音、抑揚、チャンキングの練習において矯正すべき点があれば、その都度その場で各々の学生に対して改善点等をフィードバックして発音等を矯正し、それを繰り返しながら、英語でのコミュニケーションの基礎的能力の向上を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本科目の学習内容の概要等の説明。 リスニングや教科書音読等。第1章：暗中模索（序盤）	この科目で学習する内容の概要を説明します。 教科書01～03のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第2回	第1章：暗中模索（中盤）	教科書04～06のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第3回	第1章：暗中模索（終盤）	教科書07～09のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第4回	第2章：スタートライン（序盤）	教科書10～12のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第5回	第2章：スタートライン（中盤）	教科書13～15のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第6回	第2章：スタートライン（終盤）	教科書16～18のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第7回	第3章：現実との乖離（序盤）	教科書19～21のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第8回	第3章：現実との乖離（中盤）	教科書22～24のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第9回	第3章：現実との乖離（終盤）	教科書25～27のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第10回	第4章：価値の創造（序盤）	教科書28～30のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第11回	第4章：価値の創造（中盤1）	教科書31～33のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。

第12回	第4章：価値の創造（中盤2）	教科書34～36のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第13回	第4章：価値の創造（終盤）	教科書37～40のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第14回	授業内容の理解度の確認を目的とした授業内期末試験の実施。	授業期間内に期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業に備えて、指定された教科書のダウンロード（DL）音声聴いて、事前に自ら音読をしておいて下さい。配布されたプリント、パワーポイント資料、リスニング用動画（音楽を含む）などの内容も確認しておいて下さい。大学設置基準における予習・復習にかけられるべき標準時間は、1回の授業につき4時間です。

【テキスト（教科書）】

株式会社アルク出版編集部【音声DL付】『改訂版 究極のビジネス英語リスニング Vol.3』2021年、1,980円。

<通販サイトで注文すると1週間以内に届きます。音声はスマホやPCにダウンロードできるので、授業で利用します。>

（※）注意：類似したタイトル、表紙カバー、表紙カラーの教材が多数販売されているので、購入の際は教科書を間違えないように注意して、必ず上記のタイトルの教科書を購入してください。

【参考書】

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業出席、受講態度、授業参加の積極性（主に音読）に対して、30%配点。
- ②授業内の出席確認テスト（教科書の文法、リスニング）に対して、35%配点。
- ③期末テスト（教科書の文法、スピーキング）に対して、35%配点。

【学生の意見等からの気づき】

毎週コンスタントにスピーキング能力の向上を図るため、教科書の音読（オーラル・リーディング）については、各授業で教科書を可能な限り3セッションずつ進めるようにします。同様に、リスニング能力の向上を図るため、可能な限り各授業でリスニング用動画（音楽を含む）を視聴するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での出席確認テストに解答するために、学習支援システムにアクセスできるパソコンないしスマホ。英和・和英辞書（電子辞書ないしスマホ）。教科書のDL音声を聞くための機器は必須です。

【その他の重要事項】

この授業は、海外の英語圏の国々に合計1か月以上滞在したことがなく、ビジネス英語を初めて学習する学生を対象としています。ただし、初級以上のレベルの単語も多く含む教科書を学習して、英語力を初級以上のレベルに高めることを目標としています。ゆえに、教科書を事前に読み、DL音声を聴いてその内容を理解する準備を整えた学生を対象にしています。

履修希望者が一定数を超える場合には、第1回の授業でクイズ等を実施し、その成績や目的意識が高く学習意欲が強い順に履修を許可する予定です。その理由としては、この科目は、実生活やビジネス等での実践的な英語力の習得を目的に、毎回の授業ですべての学生に英語の音読等で直接的かつ積極的に授業に参加してもらうことを想定しているからです。

なお、本授業は、「実務経験のある教員による授業」ですので、外務省、農林水産省、公正取引委員会、大学教員、海外大学客員研究員などの実務経験の知見（外交実務、農業・食品関連市場、独占禁止法、競争政策、企業結合（合併）審査、経済分析、計量経済学的な実証分析、取引実態調査、学術調査など）を交えながら、教科書の内容に関連して解説する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

【Business English Course】

In this course, students will use a textbook for international business in English, leading them to study business administration, business strategy, marketing and so on. Through this course, students will be able to imagine the business scene of international business by English. With the increasing accuracy of machine translation, such as Google Translate, the task of translating between English and Japanese has shifted from humans to AI; however, what remains for humans is to listen to English with our own ears, speak in English with our own voice, read English with our own eyes, think in English with our own minds, and write in English with our own hands. Despite the fact that we are aware of cars being faster than humans, we still compete in marathons for speed, relay races for teamwork, and enjoy jogging. The emphasis in this class is on enjoying learning practical English skills by improving speaking ability and listening comprehension through reading aloud (oral reading) with our own voice. Students who can read English with good pronunciation, intonation and chunking will be able to speak English well and to understand English spoken by native speakers.

【Learning Objectives】

(1) The aim of this course is to enable students to read English (oral reading) with good pronunciation, intonation and chunking (including shortened and abbreviated forms). Good pronunciation implies pronouncing English at a level that native speakers can easily hear and understand.

(2) Another objective is to enhance your speaking ability through oral reading.

(3) Besides, the other objective is to enhance your listening comprehension through oral reading. Students practice this skill while enjoying English by using DL audio provided with textbook(s), watching videos for listening, and listening to music.

(4) Students will acquire key vocabularies in English related to international business management, as featured in the topics of textbook(s).

(5) Through reading textbook(s), students will grasp the link between the specialized field of business administration and real-world corporate management.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

30% for class attendance, attitude toward regular class and active class participation (mainly oral reading).

35% for in-class attendance check tests (grammar and listening).

35% for the final exam (grammar and speaking).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will study business topics with an overview of the business-economic workplace. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, note-taking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

【到達目標】

The goal of the course is to help students communicate their ideas and opinions about business topics and to gain confidence speaking in English. The basic structure of a paragraph and an essay will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid students in their preparation for team presentations on reading assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Active participation is essential. Class activities include listening to lectures, reading articles and news reports, participating in discussions, keeping a vocabulary notebook, and giving team presentations. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Syllabus, expectations & grading criteria / Writing emails
Week 2	Understanding Economic Systems and Business	Lecture, Q&A, Discussion
Week 3	Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	Lecture, Q&A, Discussion
Week 4	Competing in a Global Market	Lecture, Q&A, Discussion
Week 5	Forms of Business Ownership	Lecture, Q&A, Discussion
Week 6	Entrepreneurship	Lecture, Q&A, Discussion
Week 7	Mid-term Exam	Review of key concepts and vocabulary
Week 8	The Role of Management and Leadership	Lecture, Q&A, Discussion
Week 9	Achieving World-Class Operations Management	Lecture, Q&A, Discussion
Week 10	Creating Products and Pricing Strategies	Lecture, Q&A, Discussion
Week 11	Distributing and Promoting Products and Services	Lecture, Q&A, Discussion
Week 12	Using Technology to Manage Information	Lecture, Q&A, Discussion
Week 13	Using Financial Information & Accounting	Lecture, Q&A, Discussion
Week 14	Final Exam	Review. Final Remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Classes will be held face-to-face in the classroom. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. It is important that you are well prepared before each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Each student will be asked to prepare a vocabulary notebook with business words and definitions from the readings and lectures.

University guidelines suggest preparation and review for a one-credit course to be around two hours a week.

【テキスト（教科書）】

A textbook is assigned in the first class for this course.

Handouts and reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for team presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework assignments and team presentations 40%

Mid-term exam 20%

Final exam 20%

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

In this course, students will study business topics with an overview of the business-economic workplace. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, note-taking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

戸田 裕美子

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、日本におけるマーケティングの発展と、消費文化の形成を歴史的に学ぶことを目的としている。日本企業のマーケティング戦略の特殊性や、消費者の消費行動の独自性を著作の講読を通じて理解する。

【到達目標】

英文の購読を通じて、日本における企業によるマーケティング行為と、消費者の行動の特殊性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方と英文講読のやり方を概説する
第2回	'Reeks of butter and milk'? Marketing of Western-style sweets through the Keiretsu retail network	テキスト第1章を講読する
第3回	'Reeks of butter and milk'? Marketing of Western-style sweets through the Keiretsu retail network	テキスト第1章を講読する
第4回	'Miss Shiseido': marketing an image with the help of Keiretsu	テキスト第2章を講読する
第5回	'Miss Shiseido': marketing an image with the help of Keiretsu	テキスト第2章を講読する
第6回	Lighting as enlightenment: consumer life with modern Western technologies	テキスト第3章を講読する

第7回 'Tomorrow I will go to Mitsukoshi': the department store, a dream or a threat of modernity? テキスト第4章を講読する

第8回 'Tomorrow I will go to Mitsukoshi': the department store, a dream or a threat of modernity? テキスト第4章を講読する

第9回 'Discount is my philosophy': consumption of everyday necessities from super テキスト第5章を講読する

第10回 'Discount is my philosophy': consumption of everyday necessities from super テキスト第5章を講読する

第11回 'Sacred treasures' for every home: keiretsu vs. independent retailers of electrical products テキスト第6章を講読する

第12回 'Sacred treasures' for every home: keiretsu vs. independent retailers of electrical products テキスト第6章を講読する

第13回 convenience stores everywhere: born in America and revived in Japan テキスト第7章を講読する

第14回 convenience stores everywhere: born in America and revived in Japan テキスト第7章を講読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に熟読すること、発表の前には準備を行うこと

【テキスト（教科書）】

Usui, K. Marketing and Consumption in Modern Japan, Rouledge

【参考書】

適宜指定する

【成績評価の方法と基準】

授業の準備及び報告の成果、ディスカッションへの参加や貢献に基づき、平常点で評定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のディスカッションなどを通じて、円滑なコミュニケーションを行うことを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料はオンラインで配信するので、パソコンやタブレットを持参すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

This course aims to examine the historical development of marketing in Japan and the formation of consumer culture. Through reading and discussing key texts, students will gain an understanding of the distinctive characteristics of Japanese firms' marketing strategies and the unique features of consumer behavior in Japan.

MAN105FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

小島 泰友

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ビジネス英語】

この科目では、企業の国際経営におけるビジネス英語の教科書を使いながら、人と組織を対象とする経営学、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどの学習との関係を理解します。この科目を通じて、国際経営における英語によるビジネスシーンをイメージすることができると考えます。この授業での重点は、オーラル・リーディング（音読）、スピーキング、リスニングにあります。良い発音・抑揚・チャンキング（Chunking：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で英語を読めるヒトは、ネイティブ・スピーカーの喋る英語も聞き取れるようになります。

AI翻訳の精度が高まり、英文和訳や和文英訳は、人間の仕事からAIの仕事になりました。しかし、自分の耳で英語を聞き、自分の声で英語を喋り、自分の目で英文を読解し、自分の頭で英文を考え自分の手で英文を書くという作業が、人間にとっての楽しい活動として残されています。自動車のほうが人間よりも速く走ることがわかっていても、人間は、マラソンでスピードを競い、駅伝でチームワークを競い、ジョギングを楽しみます。この科目を履修することで、機械に頼らず、実生活やビジネス等で自分で実践する英語を習得する楽しさを知ってほしいと思います。

またこの科目履修を、大学卒業を目的とした単位取得のためだけではなく、実生活やビジネス等の場面で英語で自らコミュニケーションできるようにするための実践的な英語の習得の第一歩にして下さい。

【到達目標】

①この科目では、英文音読(Oral reading)の練習を通じて、良い発音、抑揚、チャンキング（Chunking: 複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）で、英語をスムーズに読めるようになることを目指します。良い発音とは、ネイティブ・スピーカーが聞いて理解できる水準での英語の発音という意味です。

②音読を通じて、英語を話す能力(Speaking ability)を改善することが目標のひとつです。

③また同時に、音読を通じて、英語を聞き取り理解する能力(Listening comprehension)を改善することも目標のひとつです。教科書のダウンロード(DL) 音声聴いたり、リスニング用動画や英語の音楽を視聴したりして、英語を楽しみながら、英語を聞き取り理解する能力の向上を図ります。

④このようにオーラル・リーディング（音読）を英語学習上のエンジンとして繰り返し練習することで、英語のスピーキングとリスニングの基礎的能力を伸ばし、将来的に英語でのコミュニケーション能力（双方向での英会話能力）の向上につながる基礎・土台を築くことが、最終的な到達目標となります。

⑤教科書に登場する国際経営関連分野における英語のキーワードを習得するとともに、グローバルビジネスで避けて通れないノンネイティブの発音にも慣れるようにします。

⑥教科書の国際ビジネスのストーリーを通じて、経営学の各専門的分野と実際の企業経営とのつながりを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①まず、YouTube動画など、ウェブ上のリスニング用動画や音楽を視聴して、発音、抑揚、チャンキング（Chunking：複数の英単語の発音上の接合。短縮形や省略形も含みます）の確認を行います。②教科書のDL 音声を聴いて、その後、教科書の音読の練習をします。③教科書を音読しながら、その内容の理解に努めるとともに、特に、発音、抑揚、チャンキングの練習をします。④DL 音声を利用しながら、シャドウイングによる音読の練習をします。⑤プリント教材ないしパワーポイント資料によって、文法やチャンキング等について、追加的な説明を行います。⑥教科書の国際ビジネスの内容や関連事項について、必要な解説を行います。

なお、発音、抑揚、チャンキングの練習において矯正すべき点があれば、その都度その場で各々の学生に対して改善点等をフィードバックして発音等を矯正し、それを繰り返しながら、英語でのコミュニケーションの基礎的能力の向上を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本科目の学習内容の概要等の説明。 リスニングや教科書音読等。第1章：暗中模索（序盤）	この科目で学習する内容の概要を説明します。 教科書01～03のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第2回	第1章：暗中模索（中盤）	教科書04～06のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第3回	第1章：暗中模索（終盤）	教科書07～09のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第4回	第2章：スタートライン（序盤）	教科書10～12のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第5回	第2章：スタートライン（中盤）	教科書13～15のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第6回	第2章：スタートライン（終盤）	教科書16～18のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第7回	第3章：現実との乖離（序盤）	教科書19～21のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第8回	第3章：現実との乖離（中盤）	教科書22～24のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第9回	第3章：現実との乖離（終盤）	教科書25～27のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第10回	第4章：価値の創造（序盤）	教科書28～30のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第11回	第4章：価値の創造（中盤1）	教科書31～33のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。

第12回	第4章：価値の創造（中盤2）	教科書34～36のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第13回	第4章：価値の創造（終盤）	教科書37～40のリスニング、音読、シャドウイング、英語習得上の注意点と解説。 Youtubeなど、リスニング用動画や音楽等を視聴し、発音、抑揚、チャンキングを練習。
第14回	授業内容の理解度の確認を目的とした授業内期末試験の実施。	授業期間内に期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業に備えて、指定された教科書のダウンロード（DL）音声聴いて、事前に自ら音読をしておいて下さい。配布されたプリント、パワーポイント資料、リスニング用動画（音楽を含む）などの内容も確認しておいて下さい。大学設置基準における予習・復習にかけられるべき標準時間は、1回の授業につき4時間です。

【テキスト（教科書）】

株式会社アルク出版編集部【音声DL付】『改訂版 究極のビジネス英語リスニング Vol.3』2021年、1,980円。

<通販サイトで注文すると1週間以内に届きます。音声はスマホやPCにダウンロードできるので、授業で利用します。>

（※）注意：類似したタイトル、表紙カバー、表紙カラーの教材が多数販売されているので、購入の際は教科書を間違えないように注意して、必ず上記のタイトルの教科書を購入してください。

【参考書】

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業出席、受講態度、授業参加の積極性（主に音読）に対して、30%配点。
- ②授業内の出席確認テスト（教科書の文法、リスニング）に対して、35%配点。
- ③期末テスト（教科書の文法、スピーキング）に対して、35%配点。

【学生の意見等からの気づき】

毎週コンスタントにスピーキング能力の向上を図るため、教科書の音読（オーラル・リーディング）については、各授業で教科書を可能な限り3セッションずつ進めるようにします。同様に、リスニング能力の向上を図るため、可能な限り各授業でリスニング用動画（音楽を含む）を視聴するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での出席確認テストに解答するために、学習支援システムにアクセスできるパソコンないしスマホ。英和・和英辞書（電子辞書ないしスマホ）。教科書のDL音声を聞くための機器は必須です。

【その他の重要事項】

この授業は、海外の英語圏の国々に合計1か月以上滞在したことがなく、ビジネス英語を初めて学習する学生を対象としています。ただし、初級以上のレベルの単語も多く含む教科書を学習して、英語力を初級以上のレベルに高めることを目標としています。ゆえに、教科書を事前に読み、DL音声を聴いてその内容を理解する準備を整えた学生を対象にしています。

履修希望者が一定数を超える場合には、第1回の授業でクイズ等を実施し、その成績や目的意識が高く学習意欲が強い順に履修を許可する予定です。その理由としては、この科目は、実生活やビジネス等での実践的な英語力の習得を目的に、毎回の授業ですべての学生に英語の音読等で直接的かつ積極的に授業に参加してもらうことを想定しているからです。

なお、本授業は、「実務経験のある教員による授業」ですので、外務省、農林水産省、公正取引委員会、大学教員、海外大学客員研究員などの実務経験の知見（外交実務、農業・食品関連市場、独占禁止法、競争政策、企業結合（合併）審査、経済分析、計量経済学的な実証分析、取引実態調査、学術調査など）を交えながら、教科書の内容に関連して解説する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

【Business English Course】

In this course, students will use a textbook for international business in English, leading them to study business administration, business strategy, marketing and so on. Through this course, students will be able to imagine the business scene of international business by English. With the increasing accuracy of machine translation, such as Google Translate, the task of translating between English and Japanese has shifted from humans to AI; however, what remains for humans is to listen to English with our own ears, speak in English with our own voice, read English with our own eyes, think in English with our own minds, and write in English with our own hands. Despite the fact that we are aware of cars being faster than humans, we still compete in marathons for speed, relay races for teamwork, and enjoy jogging. The emphasis in this class is on enjoying learning practical English skills by improving speaking ability and listening comprehension through reading aloud (oral reading) with our own voice. Students who can read English with good pronunciation, intonation and chunking will be able to speak English well and to understand English spoken by native speakers.

【Learning Objectives】

(1) The aim of this course is to enable students to read English (oral reading) with good pronunciation, intonation and chunking (including shortened and abbreviated forms). Good pronunciation implies pronouncing English at a level that native speakers can easily hear and understand.

(2) Another objective is to enhance your speaking ability through oral reading.

(3) Besides, the other objective is to enhance your listening comprehension through oral reading. Students practice this skill while enjoying English by using DL audio provided with textbook(s), watching videos for listening, and listening to music.

(4) Students will acquire key vocabularies in English related to international business management, as featured in the topics of textbook(s).

(5) Through reading textbook(s), students will grasp the link between the specialized field of business administration and real-world corporate management.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

30% for class attendance, attitude toward regular class and active class participation (mainly oral reading).

35% for in-class attendance check tests (grammar and listening).

35% for the final exam (grammar and speaking).

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

韓 載香

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界経済の発展とともに人と資本の移動は年々増加しています。経済的目的をもった人々の移動は移動先において様々な経済機会やビジネスを生み出します。そこで、入門外国語購読では、人々の移動に伴って登場するエスニックビジネス、移民のアントレプレナーシップ、移民アントレプレナー (以下、エスニックビジネス) に関連する英語の学術論文を題材にそれらの特徴とともに理解する枠組みを習得することを目指します。具体的に、第一に何故エスニック・ビジネスに注目する学問的意義について考えます。第二に、エスニック・ビジネスとは何かを、事例に基づいてイメージづくりをします。第三に、それらの特徴を知り、適切な評価軸を得ます。第四に、ビジネスや産業構造の歴史的变化を通じてそれらの発展可能性を考察します。

【到達目標】

1. エスニック・ビジネスに注目する意義を説明することができる。
2. エスニック・ビジネスとは何かを説明することができる。
3. エスニック・ビジネスの特徴について解説することができる。
4. エスニック・ビジネスの長期的な発展の方向性について述べるることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

参加者全員は、教員が提示する英語論文を読んで、質問を用意して授業で提出します。

参加者は、順番で各論文について報告をします。

授業では、一つの論文を二回の授業で取り上げます。1回目は、報告者による発表を行い、(参加者の)質問を中心に議論をしていきます。

2回目の授業では、教員から、理論的な点の関連を解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・エスニック・ビジネスとはなにか ・エスニック・ビジネスを英語で読む意義
第2回	エスニック・ビジネスのフレームワーク①	M. T. M. Sithas and H. A. K. N. S. Surangi(), "Systematic Literature Review on Ethnic Minority Entrepreneurship", Journal of Ethnic and Cultural Studies, August 2021, Vol. 8, No. 3.
第3回	エスニック・ビジネスのフレームワーク①	解説及びディスカッション
第4回	エスニック・ビジネスのフレームワーク②	Hartmut Berghoff(2020), "Immigrant Entrepreneurship: A Typology Based on Historical and Contemporary Evidence", https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190224851.013.270
第5回	エスニック・ビジネスのフレームワーク②	解説及びディスカッション
第6回	エスニック・ビジネスのフレームワーク③	Yemisi Freda Awotoye and Robert P. Singh(2018), "Immigrant entrepreneurs in the USA", New England Journal of Entrepreneurship, Vol. 21 No. 2, 2018.
第7回	エスニック・ビジネスのフレームワーク③	解説及びディスカッション
第8回	社会構造と移民アントレプレナーシップ①	Alejandro Portes(1993), "Embeddedness and Immigration: Notes on the Social Determinants of Economic Action", American Journal of Sociology, May 1993.

第9回	社会構造と移民アントレプレナーシップ②	解説及びディスカッション
第10回	エスニックタウンとエスニックビジネス①	Sugiura Tadashi(2013), "Ethnic Town as a Place for Reproducing Ethnicity", Japanese Journal of Human Geography 65-6. 解説及びディスカッション
第11回	エスニックタウンとエスニックビジネス②	
第12回	在日韓国・朝鮮人のビジネスの特徴①	Jaehyang Han(2024), "Dynamics of Ethnic Business in Japan"(forthcoming) 解説及びディスカッション
第13回	在日韓国・朝鮮人のビジネスの特徴②	
第14回	まとめ	エスニックアントレプレナー、エスニックアントレプレナーシップをどのように理解するか。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前にテキストの該当内容を読み、疑問点をまとめて提出してください。参加者は、取り上げる論文リストから一つを選び、授業で報告をします (初回にて担当論文を決めます)。授業の準備・復習時間は、平均4時間です。

【テキスト (教科書)】

1. M. T. M. Sithas and H. A. K. N. S. Surangi. "Systematic Literature Review on Ethnic Minority Entrepreneurship". Journal of Ethnic and Cultural Studies. Vol. 8, No. 3 (August 2021).
2. Hartmut Berghoff. "Immigrant Entrepreneurship: A Typology Based on Historical and Contemporary Evidence". <https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190224851.013.270>. 2020.
3. Yemisi Freda Awotoye and Robert P. Singh. "Immigrant entrepreneurs in the USA". New England Journal of Entrepreneurship, Vol. 21, No. 2. 2018.
5. Alejandro Portes. "Embeddedness and Immigration: Notes on the Social Determinants of Economic Action". American Journal of Sociology. May 1993.
5. Sugiura Tadashi. "Ethnic Town as a Place for Reproducing Ethnicity". Japanese Journal of Human Geography 65-6 (2013).
6. Jaehyang Han. "Dynamics of Ethnic Business in Japan"(forthcoming 2024)

【参考書】

- (1) Léo-Paul Dana ed. Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship. Gloucester: Edward Elgar. 2007.
- (2) Ursula Apitzsch. "Gaining Autonomy in Self-employment Processes. The Biographical Embeddedness of Women's and Migrants' Business". International Review of Sociology. Vol. 13, No.1. 2003

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%)

疑問点提示など議論への参加度及び報告 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

報告、論点提示、意見交換など、全員参加の機会を充実化し、評価基準を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

特にございません。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about ethnic businesses and immigration entrepreneurship (including immigration entrepreneurs). I will provide the framework helping to understand ethnic businesses and immigration entrepreneurship. I will also give specific cases related to ethnic town and ethnic Korean entrepreneurship.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain the meaning of why we should focus on ethnic businesses.

To explain what ethnic businesses are.

To explain what the characteristics of ethnic businesses are.

To explain the changes in the industrial structure of ethnic businesses and its directions.

【Learning activities outside of classroom】

Please read the paper in advance and submit any questions during the class. Students will select one paper from the list of articles and present it in class (the paper will be assigned in the first class). The average preparation and review time for each class is four hours.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated according to the following process.

- ・ In-class contribution (discussion, participation in the class including question submission and presentation regarding the article) 40 percent
- ・ Final exam 60 percent

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

宮澤 信二郎

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経済学の入門テキスト（英文）を輪読します。また、これを通じて、経済学の基礎を理解し、英文で表現する能力を身につけます。また、まとまった量の英文を読み、その内容を把握する能力を身につけます。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- 1) 経済学の基礎を英文のまま理解できる。
- 2) 経済学の内容を英文で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

入門的な経済学の英文テキストを輪読します。具体的には以下のように進めます。

- 1) キーワードおよび各パラグラフの内容について確認する。
- 2) 学習内容に関するクイズなどを実施し、授業内で参加者の解答と正解を確認することで、理解の定着を図る。
- 3) 中間および期末に授業内試験を実施して理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容・進め方について説明します。
2	需要と供給（1）	テキスト3章の内容と英文による表現を確認する。
3	需要と供給（2）	前回に引き続いて、テキスト3章の英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
4	価格規制	テキスト4章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
5	価格弾力性	テキスト5章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
6	市場の効率性	テキストから離れて、市場の効率性に関する英文による表現を確認し、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
7	復習	第2回から第6回の内容の復習をする。
8	中間テスト／小括	第7回までの内容に関する中間テストを実施し、その解説をすることで、理解の確認をする。
9	完全競争と独占	テキスト9章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
10	負の外部性	テキスト12章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
11	正の外部性	テキスト13章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
12	公共財	テキスト14章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。

13	情報の非対称性	テキスト17章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
14	期末テスト／まとめ	第11回～第13回までの内容についてのテストを実施し、その解説をすることで、理解の確認をする。また全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、テキストの指定された箇所を事前に読みます。また、授業後に、学習内容の復習をします。本授業の準備と復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下をテキストにする予定ですが、履修者数や履修者の希望により変更する可能性があります。

"The Instant Economist," T. Taylor, Plume, 2012, 2,570円（Amazon価格）

【参考書】

テキストのほかに、以下の文献を適宜参照します（[2]の文献は[1]の文献の邦訳です。）。[1] "Principles of Microeconomics (10th edition)," N. G. Mankiw, Cengage Learning, 2024,

[2] 『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』、マンキュー（片桐ほか訳）、セーンゲージャーニング、2025年

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）、中間テスト（15％）、期末テスト（15％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過去（直近では2022年度）に実施した際の経験を踏まえ、内容理解と英文読解の両方を十分なものとするため、進度を少しゆっくり目にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用してファイルのやり取りなどを行います。

【その他の重要事項】

1) この授業では、「経済学入門」および「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」の教科書（参考書[2]）を参照しつつ、ミクロ経済学の基礎を学習します。上記科目との同時履修がおすすめです。

2) 要望があれば、英文の新聞や雑誌の記事を読む、他のテキストを読むなど、内容の一部または全部を変更する場合があります。

3) 議論などは基本的に日本語で行いますが、英文を音読してもらう場合があります。また、授業内容に英文で解答するワークシートを利用する予定です。

4) 毎回出席することを前提に進めます。無断欠席は厳禁で、2回以上無断欠席した場合には単位を修得できません。体調不良などやむを得ない理由で欠席する場合には、当日の朝10時までに学習支援システムを利用して連絡してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, students will read the introductory textbook of economics in English, and learn the basics of economics and its expression in English.

[Learning Objectives] The goals of this course are to understand the basics of economics and to be able to express the contents of economics in English.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the textbook and to complete the required assignments.

[Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on mid-term examination (15%), term-end examination (15%), and in class contribution (70%).

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

宮澤 信二郎

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経済学の入門テキスト（英文）を輪読します。また、これを通じて、経済学の基礎を理解し、英文で表現する能力を身につけます。また、まとまった量の英文を読み、その内容を把握する能力を身につけます。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- 1) 経済学の基礎を英文のまま理解できる。
- 2) 経済学の内容を英文で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

入門的な経済学の英文テキストを輪読します。具体的には以下のように進めます。

- 1) キーワードおよび各パラグラフの内容について確認する。
- 2) 学習内容に関するクイズなどを実施し、授業内で参加者の解答と正解を確認することで、理解の定着を図る。
- 3) 中間および期末に授業内試験を実施して理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容・進め方について説明します。
2	需要と供給（1）	テキスト3章の内容と英文による表現を確認する。
3	需要と供給（2）	前回に引き続いて、テキスト3章の英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
4	価格規制	テキスト4章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
5	価格弾力性	テキスト5章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
6	市場の効率性	テキストから離れて、市場の効率性に関する英文による表現を確認し、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
7	復習	第2回から第6回の内容の復習をする。
8	中間テスト／小括	第7回までの内容に関する中間テストを実施し、その解説をすることで、理解の確認をする。
9	完全競争と独占	テキスト9章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
10	負の外部性	テキスト12章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
11	正の外部性	テキスト13章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
12	公共財	テキスト14章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。

13	情報の非対称性	テキスト17章の内容と英文による表現を確認する。また、適宜、内容の補足をするとともに、クイズなどを通じて、内容理解の定着を図る。
14	期末テスト／まとめ	第11回～第13回までの内容についてのテストを実施し、その解説をすることで、理解の確認をする。また全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、テキストの指定された箇所を事前に読みます。また、授業後に、学習内容の復習をします。本授業の準備と復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下をテキストにする予定ですが、履修者数や履修者の希望により変更する可能性があります。

"The Instant Economist," T. Taylor, Plume, 2012, 2,570円（Amazon価格）

【参考書】

テキストのほかに、以下の文献を適宜参照します（[2]の文献は[1]の文献の邦訳です。）。

[1] "Principles of Microeconomics (10th edition)," N. G. Mankiw, Cengage Learning, 2024,

[2] 『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』、マンキュー（片桐ほか訳）、セーンゲージャーニング、2025年

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）、中間テスト（15％）、期末テスト（15％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過去（直近では2022年度）に実施した際の経験を踏まえ、内容理解と英文読解の両方を十分なものとするため、進度を少しゆっくり目にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用してファイルのやり取りなどを行います。

【その他の重要事項】

1) この授業では、「経済学入門」および「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」の教科書（参考書[2]）を参照しつつ、ミクロ経済学の基礎を学習します。上記科目との同時履修がおすすめです。

2) 要望があれば、英文の新聞や雑誌の記事を読む、他のテキストを読むなど、内容の一部または全部を変更する場合があります。

3) 議論などは基本的に日本語で行いますが、英文を音読してもらう場合があります。また、授業内容に英文で解答するワークシートを利用する予定です。

4) 毎回出席することを前提に進めます。無断欠席は厳禁で、2回以上無断欠席した場合には単位を修得できません。体調不良などやむを得ない理由で欠席する場合には、当日の朝10時までに学習支援システムを利用して連絡してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, students will read the introductory textbook of economics in English, and learn the basics of economics and its expression in English.

[Learning Objectives] The goals of this course are to understand the basics of economics and to be able to express the contents of economics in English.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the textbook and to complete the required assignments.

[Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on mid-term examination (15%), term-end examination (15%), and in class contribution (70%).

MAN104FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students will study business topics with an overview of the business-economic workplace. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, note-taking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

【到達目標】

The goal of the course is to help students communicate their ideas and opinions about business topics and to gain confidence speaking in English. The basic structure of a paragraph and an essay will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid students in their preparation for team presentations on reading assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Active participation is essential. Class activities include listening to lectures, reading articles and news reports, participating in discussions, keeping a vocabulary notebook, and giving team presentations. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Syllabus, expectations & grading criteria / Writing emails
Week 2	Understanding Economic Systems and Business	Lecture, Q&A, Discussion
Week 3	Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	Lecture, Q&A, Discussion
Week 4	Competing in a Global Market	Lecture, Q&A, Discussion
Week 5	Forms of Business Ownership	Lecture, Q&A, Discussion
Week 6	Entrepreneurship	Lecture, Q&A, Discussion
Week 7	Mid-term Exam	Review of key concepts and vocabulary
Week 8	The Role of Management and Leadership	Lecture, Q&A, Discussion
Week 9	Achieving World-Class Operations Management	Lecture, Q&A, Discussion
Week 10	Creating Products and Pricing Strategies	Lecture, Q&A, Discussion
Week 11	Distributing and Promoting Products and Services	Lecture, Q&A, Discussion
Week 12	Using Technology to Manage Information	Lecture, Q&A, Discussion
Week 13	Using Financial Information & Accounting	Lecture, Q&A, Discussion
Week 14	Final Exam	Review. Final Remarks.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Classes will be held face-to-face in the classroom. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. It is important that you are well prepared before each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Each student will be asked to prepare a vocabulary notebook with business words and definitions from the readings and lectures.

University guidelines suggest preparation and review for a one-credit course to be around two hours a week.

【テキスト (教科書)】

A textbook is assigned in the first class for this course.

Handouts and reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for team presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework assignments and team presentations 40%

Mid-term exam 20%

Final exam 20%

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

In this course, students will study business topics with an overview of the business-economic workplace. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, note-taking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

岡本 慶子

グローバル・ビジネス/GBP科目グローバル・ビジネス/GBP科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングや戦略的マネジメントに関する教材、および中学校レベルの数学を題材として、英語を学習します。
英語で話す・書く際に必要となる論理的思考力を養うことが、本授業の主な目標です。そのため、日本語でのディスカッションや文章作成にも力を入れて取り組みます。
今年度は新たに、リスニングや短い英会話の練習を取り入れる予定です。

【到達目標】

異なる文化的背景を持つ人々と、英語を用いて基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指して、以下の力を養います。
1. マーケティングの題材を通じて、英語と日本語で論理的に考える力を身に付ける。
2. 数学の教材を通して、実践的な英語表現に慣れる。
3. リスニングや短い英会話の練習を通じて、英語に対する理解と運用力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、リーディング、リスニング等の宿題があります。
授業はその宿題に基づいて進めますので、内容の理解、又は不明点を明確にした上で授業に出席してください。授業では宿題の内容を元に、自分の考えをまとめたり、日本語でグループでディスカッションを行ったりします。
また、自分の考えを日本語で記載するリアペは、毎回の講評を参考に徐々長い文章に挑戦します。期末には数週間グループメンバーを固定してグループプロジェクトに取り組んでいただきます。
提出物、宿題は次の授業までにコメントを付けて返却し、授業では講評、解説します。学んだことは次の課題、宿題に反映させてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面予定	*Course overview & Self-Introduction
第2回	AI Generated Art 1	*He Used AI to Win a Fine-Arts Competition - Listening Practice *Understanding the Japanese Language
第3回	AI Generated Art 1	*He Used AI to Win a Fine-Arts Competition *Comparing Japanese and English Languages
第4回	The Art and Science of Satisfying Customers 1	*Vineyard Vines Market the Good Life *Understanding the Characteristics of the Japanese Language
第5回	The Art and Science of Satisfying Customers 2	*Vineyard Vines Market the Good Life - Listening Practice
第6回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	*PepsiCo Brands Target Different Markets - Cultures Behind Languages
第7回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	*PepsiCo Brands Target Different Markets - Strategic Comparison
第8回	Global Marketing 1	*Walmart Extends its Global Reach - Listening &Video Viewing
第9回	Global Marketing 2	*Walmart Extends its Global Reach - Analysis of Business Strategy
第10回	Strategic Shifts in Marketing 1	*Document Analysis- Walmart Annual Reports

第11回	Strategic Shifts in Marketing 2 Group Project 1	*Group Project - Collaborative Document Analysis &Discussion
第12回	Strategic Shifts in Marketing 3 Group Project 2	*Group Project -Collaborative Discussion &Presentation Planning
第13回	Student Presentations on Strategic Analysis Group Project Review	*Group Project - Student Presentations &Peer Reviews
第14回	Final exam	*Wrap Up *Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題は授業前々日の 23:59 までに授業支援システムで提出
宿題 1. 課題の予習、復習、グループプロジェクトの準備など
宿題 2. 課題のリスニング
宿題 3. 単語帳作成、質問
宿題 4. 数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。（合計 2 時間）

【テキスト（教科書）】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と宿題の提出 40 %
リアペと宿題の評価（個人、グループワーク含む）、期末レポート、プレゼンなど 40 %
期末テスト 20 %
評価、宿題、課題については初回授業で説明します。
*欠席や宿題の未提出は、その分の点数が下がるだけでなく、授業内容に基づいて採点される他の課題の評価に影響が出る場合があります。
*毎回グループワークがあるので、欠席や宿題をせずに参加するとグループメンバーに迷惑をかけることにもなります。
*就職活動などで欠席が続く場合、出席や課題提出が評価に反映されるため、結果として成績に影響が出ます。

【学生の意見等からの気づき】

2025 年度に履修した学生からのフィードバック
「継続を提案する課題」
*グループワーク
*リスニング
*リアペ（記述課題）
*単語帳作成
「後輩にこのクラスを紹介する一言」
*グループワークが多い
*毎週宿題がある
*授業内容をしっかり理解できれば自分の成長が感じられる

【学生が準備すべき機器他】

*授業履修を考えている人は初回授業までに Hoppi に仮登録してください。
*お知らせ、課題、宿題、資料配布等は Hoppi を利用します。コメントも Hoppi 経由で返信します。
*Hoppi で配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
*タブレット、パソコンと筆記用具など

【その他の重要事項】

*対面授業です。
*仮登録者が定員内であれば、初回授業から対面で行う予定です。変更がある場合は、初回授業の 3 日前までに Hoppi にてお知らせしますので、Hoppi からの「お知らせメール」を受け取れるよう設定してください。
*授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。
*リアクションペーパーや復習課題などの提出物は、授業内容に基づいて採点されるため、欠席した場合は十分な得点を得ることが難しくなる可能性があります。
*無断欠席は、グループワークに支障を及ぼしたり、授業全体の進行に影響を与えるかねませんので、自覚ある行動を心がけてください。
*授業に出席、グループワークに参加が必須事項ですので、就職活動などで出席できない回数が多発することがわかっている学生は履修について慎重に検討してください。

【関連科目】

なし

【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation & Homework submission - 40%

Reaction paper, Homework, Group & Individual works (including essay & presentation) - 40%

Final exam - 20%

MAN200FA (経営学 / Management 200)

国際コミュニケーション論Ⅰ (2019年度以降入学者)

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 2～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

The first class and most other classes in Spring 2026 will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to International Communication I	Syllabus, expectations & grading criteria
Week 2	Unit 1 What is communication?	Communication styles
Week 3	Unit 2 What is culture?	Culture iceberg / Perspectives of culture & invisible aspects
Week 4	Japanese culture & identity	Characteristics of culture / Identity and groups
Week 5	Unit 3 Nonverbal communication	Paralanguage / body communication
Week 6	Unit 4 Communicating clearly	Communication styles / Effect of Aima and Amae
Week 7	Mid-term exam	Students will take an exam and write a short essay.
Week 8	Unit 4 Communicating clearly	Communication styles / Effect of Honne to Tatemaie
Week 9	Unit 5 Culture and values	Values of Japanese and Americans / Foreigners in Japan.
Week 10	Unit 5 Culture and values	Traveling abroad / American & British cultures
Week 11	Unit 6 Culture and perception	Different ways of seeing things
Week 12	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback
Week 13	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback
Week 14	Final review and remarks	Final comments and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Most classes will be held face-to-face in the classroom. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around two hours a week.

【テキスト (教科書)】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

20% Mid-term exam

20% Final presentation

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

国際コミュニケーション論Ⅱ (2019年度以降入学者)

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

The first class and most other classes in Fall 2026 will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction Unit 7 Stereotypes and Generalizations	Syllabus, expectations, & grading criteria Subcultures & prejudice
Week 2	Unit 7 Stereotypes and Generalizations	Immigration policies
Week 3	Unit 8 Diversity	Diversity & subcultures
Week 4	Unit 8 Diversity	Prejudice & tolerance
Week 5	Unit 9 Culture Shock	The Stress of Culture Shock
Week 6	Unit 9 Culture Shock	Reverse Culture Shock / Reaction Paragraph
Week 7	Mid-term essay	Essay based on readings, research, and personal opinions
Week 8	Unit 10 Culture and Change	Pros and cons of Globalization
Week 9	Unit 10 Culture and Change	Change and Culture / Reaction Paragraph
Week 10	Unit 11 Talking about Japan	Japanese Words / Individualistic & Group-oriented Cultures
Week 11	Unit 11 Talking about Japan	The Changing Japanese Culture / Taboos & Subcultures
Week 12	Unit 12 Becoming a Global Person	Global Village / Intercultural sensitivity
Week 13	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback
Week 14	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback Final comments

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Most classes will be held face-to-face in the classroom. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around two hours a week.

【テキスト (教科書)】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

20% Mid-term Essay

20% Final presentation

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

LAN200FA

ビジネス英語Ⅰ（初級）

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 選択_外国語経営学科目 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（初級）

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

Through this class you, the student, will learn practical English skills, with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

【到達目標】

The purpose of this class is to give you, the student, confidence through practice. Part I focuses on grammar and vocabulary and practice in a business context.

With that in mind by the end of each class you will have put to use the particular grammar and language you have studied and your teacher will be able to assess your progress through constant personal communication.

Your progress will be personally monitored, and you will be given face to face feedback regularly.

The goal of the course is for you, the student to feel confident in your ability to explain yourself and respond to others in English with confidence, and to be able to present your ideas clearly and correctly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Using set text and teacher-provided materials as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

Each class includes individual, pair and group work, with the teacher moving around the class to listen, participate and supervise.

This means that every student is personally in touch with the teacher in every lesson, and your progress can be encouraged and assessed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Class selection
第2回	Meeting People	Introductions at work and elsewhere. Simple greetings and good manners will be practiced.
第3回	Your Company	What is a company? Companies in Japan and around the world. Vocabulary around description of countries and companies.
第4回	Your Company 2	Company histories and how they operate. Focusing through the topic on past tenses in English.
第5回	Routines	Planning your days. What do you do and when? The grammar of frequency and time.
第6回	Business in Progress	The workplace; the office, shopfloor and saleroom. Grammar and vocabulary of specific locations.
第7回	Business in Progress 2	The workplace; describing a working environment. Grammar and vocabulary of daily office activity.

第8回	Presentation Preparation	Presentations on business themes, topics, plans and tips on practical presentations. Students will form small groups and decide on their own chosen topic. Instructions on the practicalities of group presentation. Practical presenting in small groups to the rest of the class. Peer assessment will follow each presentation.
第9回	Presentations	How different types of business operate in Japan. An opportunity to explain Japanese business customs and practices to foreign audiences.
第10回	Businesses.	international Business. How is it different and how much the same? Grammar and vocabulary of comparison and superlatives.
第11回	Businesses 2.	Practical class on using the telephone in English. Manners and language. Practice in listening to conversational English and responding clearly.
第12回	On the Telephone	Situations and practice for speaking in international situations. Continuing the theme of 12, but in more specific office situations.
第13回	On the Telephone 2	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process This is an opportunity for each student to assess their own performance and then discuss the outcomes of the class in small interview groups.
第14回	Interviews	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation for presentations. After each lesson there will be opportunities for personal review and preparation for the following week's vocabulary and grammar. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Assessment is continuous. Attendance is mandatory. Testing by interview.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合はE-mailで受け付ける。

メールアドレスはWeb掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

Through this class you, the student, will learn practical English skills, with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

LAN200FA

ビジネス英語Ⅱ（初級）

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 選択_外国語経営学科目 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（初級）

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

Through this class you, the student, will learn practical English skills, with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

【到達目標】

The purpose of this class is to give students confidence through practice. part II will focus on real business environments.

With that in mind by the end of each class you will have put to use the particular grammar and language you have studied and your teacher will be able to assess your progress through constant personal communication.

Your progress will be personally monitored, and you will be given face to face feedback regularly.

The goal of the course is for you, the student to feel confident in your ability to explain yourself and respond to others in English with confidence, and to be able to present your ideas clearly and correctly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Using set text and teacher-provided materials as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

Each class includes individual, pair and group work, with the teacher moving around the class to listen, participate and supervise.

This means that every student is personally in touch with the teacher in every lesson, and your progress can be encouraged and assessed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction and review	Looking at the ground that we have covered and what we aim to do next.
第2回	Transport	How we get around by land air and even sea. The grammar and vocabulary of transportation and movement.
第3回	Travel	The reasons, destinations and practicalities of International travel. The grammar and vocabulary of describing and giving opinions on foreign locations.
第4回	Working overseas	A look at the different environments and customs we encounter working overseas. The grammar and vocabulary of international manners and customs.
第5回	Your culture	Talking about Japanese life and culture. Explaining Japan to visitors and colleagues. Practice in explaining the everyday of our lives to those with different life experiences and expectations.

第6回	Socialising 1	How to make visitors to Japan welcome and comfortable. The grammar and vocabulary of smalltalk and the exploration of social taboos.
第7回	Socialising 2	How to cope with social situations abroad. Using your English to communicate outside your comfort zones.
第8回	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Topics, plans and tips on practical presentations.
第9回	Presentations	Students will make their own decisions about topic and style. Practical presenting in small groups to the rest of the class. Peer assessment will follow each presentation.
第10回	Meetings	Agenda, Minutes, Structure. How to prepare for meetings in English. How to write and follow the specific vocabulary of meetings in English-speaking countries, including practical exercises.
第11回	Businesses	international Business. How is it different and how much the same? A discussion group class about the issues of globalised commerce.
第12回	Products	Product description. How to put a product in front of the consumer. The vocabulary and grammar of description and euphemism.
第13回	Advertising	How to make people want the product we are selling. A practical lesson in creating an attractive image and selling a product.
第14回	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation for presentations. After each lesson there will be opportunities for personal review and preparation for the following week's vocabulary and grammar. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Assessment is continuous. Attendance is mandatory. Testing by interview.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かると、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合はE-mailで受け付ける。

メールアドレスはWeb掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

Through this class you, the student, will learn practical English skills with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

LAN200FA

ビジネス英語Ⅰ（中級）

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 選択_外国語経営学科目 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（中級）

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English. Through this class you, the student will learn practical English skills with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

【到達目標】

The purpose of this class is to give you, the student, confidence through practice.

Part I focuses on grammar and vocabulary practice in a business context.

With that in mind by the end of each class you will have put to use the particular grammar and language you have studied and your teacher will be able to assess your progress through constant personal communication.

Your progress will be personally monitored, and you will be given face to face feedback regularly.

The goal of the course is for you, the student to feel confident in your ability to explain yourself and respond to others in English with confidence and to be able to present your ideas clearly and correctly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Using the set text and teacher-provided materials as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is experienced in a business environment.

Each class includes individual, pair and group work, with the teacher moving around the class to listen, participate and supervise. This means that every student is personally in touch with the teacher in each lesson and your progress can be encouraged and assessed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction.	Class selection and an introduction to the course.
第2回	Work.	Describing what you do now and what you may do in the future. The grammar and vocabulary to describe a job and explain a working environment.
第3回	Leisure.	How we spend free time together and alone. The grammar and vocabulary of sports, entertainment and leisure activities as part of social conversation.
第4回	Problems.	Explaining what has gone wrong in the workplace. The grammar of how things work and how to explain problems.
第5回	Problems 2.	Finding solutions and assisting others. The grammar and vocabulary of giving advice and instructions.
第6回	Travel 1.	Getting away, getting back. Transport practicalities. The grammar and vocabulary of booking and undertaking journeys.
第7回	Travel 2.	What we need to know about foreign travel and how to make the most of the experience.

第8回	Presentation Preparation.	Planning a small group presentation for the classroom. Instruction will be given about best presentation practice and students will form their own groups and decide on topics themselves.
第9回	Presentations.	Giving presentations to your peers in the classroom. Peer assessment will follow each presentation.
第10回	Food and Entertaining.	What to eat and how from the point of view of the visitor to Japan and the Japanese traveler abroad. Manners, customs and the grammar and vocabulary of describing food.
第11回	Sales 1.	Products. How we decide on a product and describe it. The grammar and vocabulary of descriptions and euphemism.
第12回	Sales 2.	Strategies for marketing the products we have identified. Students will prepare a pair presentation of a specific product.
第13回	Sales 3.	Advertising and Sales plans for the products we have identified. Presenting the product form the previous class with peer assessment.
第14回	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews. This is a chance for students to assess themselves for the teacher and for group interviews to discuss achievements and strategies for the future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation for presentations. After each lesson there will be opportunities for personal review and preparation for the following week's vocabulary and grammar.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かれば、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合はE-mailで受け付ける。

メールアドレスはWeb掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

ビジネス英語（中級）

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English. Through this class you, the student will learn practical English skills with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

LAN200FA

ビジネス英語Ⅱ（中級）

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP科目 グローバル・ビジネス/GBP科目 選択_外国語経営学科目 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（中級）

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English. Through this class you, the student will learn practical English skills with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

【到達目標】

The purpose of this class is to give you, the student, confidence through practice. Part II focuses on real situations in Business with opportunities for practice meetings and presentations about real companies and marketing strategies.

With that in mind, by the end of each class you will have put to use the particular grammar and language you have studied and your teacher will be able to assess your progress through constant personal communication.

Your progress will be personally monitored and you will be given regular face-to-face feedback.

The goal of the course is for you, the student, to feel confident in your ability to explain yourself and respond to others in English with confidence and to be able to present your ideas clearly and correctly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Using the set text and teacher-provided materials as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

Each class includes individual, pair and group work, with the teacher moving around the class to listen, participate and supervise. This means that every student is personally in touch with the teacher in every lesson and your progress can be encouraged and assessed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction and review	Looking back at last semester and forward to the new ideas ahead.
第2回	Jobs	What we do now and how we do it. The practicalities of work. The grammar and vocabulary of the working environment.
第3回	People 1	Customers. How to deal with the public in a working environment. Practical interview exercises.
第4回	people 2	Staff. How to talk to your colleagues both Junior and Senior. Manners and Customs pertaining to work and the different formulations of polite and relaxed language.
第5回	Advertising 1	Images and slogans. The most communicative ideas. How to use English in its most persuasive context.
第6回	Advertising Persentation	Campaigns. How to persuade others with effective English. Pair presentations of a self-determined product, followed by peer assessment.
第7回	Markets	Who buys what from whom and why? The grammar and vocabulary of describing markets.

第8回	Companies 1	Describing companies and explaining their structure and history.
第9回	Companies 2	What company would you start? A group exercise in imaginative English. Each group will invent and describe their own company.
第10回	Presentations 1	Preparation for group presentations. Students will form their own groups and chose a topic covered in class about which they would like to give a presentation.
第11回	Presentations 2	Group presentations in class. Peer assessment will follow each presentation.
第12回	The Internet	Business on the net. The beauties and dangers of online commercial activity. How to identify suspicious or inappropriate language.
第13回	Diversity is good.	Why we should not be afraid of different business cultures. The grammar and vocabulary of diversity and discussion of correct practice on the issues in business.
第14回	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be occasional preparation for presentations. After each lesson there will be opportunities for personal review and preparation for the following week's grammar and vocabulary.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かれば、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合はE-mailで受け付ける。
メールアドレスはWeb掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English. Through this class you, the student will learn practical English skills with the focus on effective communication in real situations you may encounter in life.

The objective of the class is to increase your confidence in using English and to expand the functionality of the language you have learned.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

ANDREW CHANG

1～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本語と英語を使管理 ID：用しながら、マネジメントの基本的な考え方を学びます。初めて経営学を学ぶ学生でも安心して取り組めるように、計画・組織・リーダーシップ・統制といったマネジメントの基礎機能について、やさしい英語とビジュアル教材を使って解説します。ケーススタディやグループワークを通じて、英語でのビジネス用語や論理的思考、簡単なプレゼンテーションの方法も身につけます。

【到達目標】

授業を通じて、以下の力を身につけることを目指します：

- 1 経営学の基本概念を英語で理解・説明できる
- 2 外国語を使ってビジネスの基本的な会話や発表ができる
- 3 簡単な意思決定・チームマネジメント・リーダーシップについて理解する
- 4 ケーススタディを通じて、学んだ理論を現実に応用する力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は日本語と英語で行いますが、基礎的な語彙・表現を使用します。わかりやすい図表・例を用いて説明を行い、学生同士の英語によるペアワークやグループディスカッションも行います。課題については、提出後に授業内で講評・解説を行うほか、必要に応じて個別にコメントを返し、改善点や学習の方向性をフィードバックします。また、英語でのスピーキング力やプレゼンテーション力を高めるため、授業内で少なくとも3回の発表（プレゼンテーション）を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとマネジメントの基礎	授業の目的・評価方法の説明、経営理論の歴史と主要機能の紹介
第2回	経営環境と企業の社会的責任	経営に影響する内外環境、倫理・サステナビリティの重要性
第3回	戦略的・業務的計画	戦略と業務レベルの計画策定、目標設定、SWOT分析など
第4回	組織構造・設計と組織文化	様々な組織構造、デザイン原則、組織文化の役割と影響
第5回	意思決定と問題解決	マネジメントにおける意思決定手法と創造的問題解決
第6回	モチベーションとリーダーシップ	モチベーション理論（マズロー、ハーズバーグ等）とリーダーシップスタイル
第7回	コミュニケーションとチームワーク	組織内コミュニケーションとチーム構築・ダイナミクス
第8回	人事管理とパフォーマンス管理	採用、研修、評価、報酬などのHR機能とパフォーマンス管理
第9回	ケーススタディ討論	実際のマネジメント事例を用いたグループ討議
第10回	戦略的経営と競争優位	戦略の策定、競争ポジショニング、イノベーションの役割
第11回	変革・イノベーションと危機管理	変革管理モデル、創造性、危機対応とリスク評価
第12回	グローバルと異文化マネジメント	グローバル化の影響、異文化間のリーダーシップ能力の習得
第13回	倫理・ガバナンスと交渉	倫理的意思決定、コーポレート・ガバナンス、交渉と紛争解決
第14回	将来のトレンド・最終発表と総括	AI、DX、リモートワーク等の新潮流、最終プレゼン・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回につき予習・復習時間として2時間を確保してください。課題の読解、個人レポート、グループワークの進行を含みます。

【テキスト（教科書）】

著者：Stephen P. Robbins, Mary A. Coulter

書名：Management (15th edition)

出版社：Pearson, 2021

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

出席：10%

授業参加（英語発言等）：20%

個人ワーク（小レポートなど）：30%

グループプロジェクト（発表含む）：40%

発表では、英語を使って簡単なスライドを作成し、わかりやすく説明することを目指します。出席率が低い場合や、プロジェクトへの参加が不十分な場合は成績に反映されます。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the fundamental concepts of management while using English. Even those who are studying management for the first time can participate with confidence, as the core functions of management, planning, organizing, leadership, and control, will be explained using simple English and visual materials. Through case studies and group work, students will also acquire basic business vocabulary in English, logical thinking skills, and techniques for simple presentations.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

国際コミュニケーション論Ⅰ (2018年度以前入学者)

THOMAS G POWER

選択_キャリアプログラム科目 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

The first class and most other classes in Spring 2026 will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to International Communication I	Syllabus, expectations & grading criteria
Week 2	Unit 1 What is communication?	Communication styles
Week 3	Unit 2 What is culture?	Culture iceberg / Perspectives of culture & invisible aspects
Week 4	Japanese culture & identity	Characteristics of culture / Identity and groups
Week 5	Unit 3 Nonverbal communication	Paralanguage / body communication
Week 6	Unit 4 Communicating clearly	Communication styles / Effect of Aima and Amae
Week 7	Mid-term exam	Students will take an exam and write a short essay.
Week 8	Unit 4 Communicating clearly	Communication styles / Effect of Honne to Tatemaie
Week 9	Unit 5 Culture and values	Values of Japanese and Americans / Foreigners in Japan.
Week 10	Unit 5 Culture and values	Traveling abroad / American & British cultures
Week 11	Unit 6 Culture and perception	Different ways of seeing things
Week 12	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback
Week 13	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback
Week 14	Final review and remarks	Final comments and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Most classes will be held face-to-face in the classroom. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around two hours a week.

【テキスト (教科書)】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

20% Mid-term exam

20% Final presentation

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

国際コミュニケーション論Ⅱ (2018年度以前入学者)

THOMAS G POWER

選択_キャリアプログラム科目 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

The first class and most other classes in Fall 2026 will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction Unit 7 Stereotypes and Generalizations	Syllabus, expectations, & grading criteria Subcultures & prejudice
Week 2	Unit 7 Stereotypes and Generalizations	Immigration policies
Week 3	Unit 8 Diversity	Diversity & subcultures
Week 4	Unit 8 Diversity	Prejudice & tolerance
Week 5	Unit 9 Culture Shock	The Stress of Culture Shock
Week 6	Unit 9 Culture Shock	Reverse Culture Shock / Reaction Paragraph
Week 7	Mid-term essay	Essay based on readings, research, and personal opinions
Week 8	Unit 10 Culture and Change	Pros and cons of Globalization
Week 9	Unit 10 Culture and Change	Change and Culture / Reaction Paragraph
Week 10	Unit 11 Talking about Japan	Japanese Words / Individualistic & Group-oriented Cultures
Week 11	Unit 11 Talking about Japan	The Changing Japanese Culture / Taboos & Subcultures
Week 12	Unit 12 Becoming a Global Person	Global Village / Intercultural sensitivity
Week 13	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback
Week 14	Final presentations	Presentation rubrics Peer feedback Final comments

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Most classes will be held face-to-face in the classroom. When necessary, some classes will be held on Zoom or in on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around two hours a week.

【テキスト (教科書)】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

20% Mid-term essay

20% Final presentation

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅰ（2018年度以前入学者）

近藤 大輔

選択_キャリアプログラム科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】

検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 簿記一巡、財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第3回	【議論・発表・表彰】 簿記一巡、財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第4回	【講義】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲、分類など
第5回	【議論・発表・表彰】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲、分類など
第6回	【講義】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入、売却など 割賦購入など
第7回	【議論・発表・表彰】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入、売却など 割賦購入など
第8回	【講義】 リース取引 無形固定資産と研究開発費、引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費、引当金
第9回	【議論・発表・表彰】 リース取引 無形固定資産と研究開発費、引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費、引当金
第10回	【講義】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第11回	【議論・発表・表彰】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第12回	【講義】 株式の発行と剰余金の 配当と処分 決算手続きと収益認識 基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など

第13回 【議論・発表・表彰】
株式の発行と剰余金の
配当と処分
決算手続きと収益認識
基準

株式申込証拠金など
契約資産と債券など

第14回 ゲストスピーカー講演
ビジネスパーソンの講演、質疑応答、
議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解く必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅱ（2018年度以前入学者）

近藤 大輔

選択_キャリアプログラム科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】

検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し、期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第3回	【議論・発表・表彰】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第4回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第5回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第6回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第7回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第8回	【講義】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第9回	【議論・発表・表彰】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第10回	【講義】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第11回	【議論・発表・表彰】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第12回	【講義】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第13回	【議論・発表・表彰】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級（工業簿記）－ver10.0』2024年
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義－2級工業簿記2024年度版』中央経済社
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック－2級工業簿記2024年度版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅠ（2018年度以前入学者）

小川 憲彦

選択_キャリアプログラム科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

【到達目標】

- ①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での実施を予定しています。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。

- ①他人の迷惑になる行為を行わないこと
 - ②授業に関係のないことをしないこと
 - ③その他については、教員の指示に従うこと
- ・Zoomの場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。

- ①音声は指示がない場合は原則としてオフ
- ②動画カメラは原則オン
（ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたくてオフを許可します）
- ③表示する氏名は漢字
（仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベット可）

・適宜リアクションペーパーを課します。

・質問があれば授業内もしくは教材でフィードバックします。

・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第8回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第9回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）

第10回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第11回	キャリア発達理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第12回	キャリア発達理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。

鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。

エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験ないしレポート（80％）、平常点（20％：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

Iは理論編、IIは事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。IIは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2、3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはIIのシラバスを見てください（過年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】

Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will might be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (80%) and in-class attitudes and regular assignments (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅡ（2018年度以前入学者）

小川 憲彦

選択_キャリアプログラム科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の若手男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
②社会人との交流が適切に行えること

Students who complete the course will be expected to:

(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。
・質問があれば授業内もしくは教材でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（菓子メーカー）	40代人事部長（1社内でのタテ型のキャリア）
第6回	ゲスト（リクルート）	リクルート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト（鉄道会社）	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト（サービス・販売）	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト（三菱電機）	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト（アクセンチュア）	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト（中国でのキャリア）	外国籍の女性による中国でのキャリア（日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員）
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	パウンダリレス・キャリア（転職等の効果について）
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや課題図書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。

鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。

エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（リアクションペーパーや小レポート等含む）

・出席は取りません。
・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設ける予定です。

ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。

（質の低さ、コピペ、読めないものなど）

・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

各回の内容は過年度のものです。ゲストは毎年変更しています。

参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。

①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画をのったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。

②程度によっては、減点や単位不認定もあります。なお、仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合は退出等を命じることがあります。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,

(2) be able to communicate and exchange opinions with working people (guests) in an adequate manner.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on in-class attitudes and regular assignments (100%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門演習

鈴木 真奈美

演習演習 1年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では主に4つのテーマについて学習します。1) 大学における学習法について。2) 大学における研究手法について。3) 自分のこれまでの人生について内省し、将来について考察し、計画すること。4) 国際語としての英語コミュニケーション能力の向上。

【到達目標】

この授業では、まず今までのライフスタイルについて見直し、4年間の大学生活をいかに充実したものにしていくかについて考察します。

効果的な学習技能（シャドウイング、要約法、動機づけ）、時間管理、健康維持、社会人としてのあり方やマナー（コンピューター、インターネットの活用法、英語や日本語による手紙やEメールの書き方、コミュニケーション能力、礼儀作法など）、またキャリアの探求について、関連資料や文献を読んだり、討論したり、自分の考えを文章に書くことなどを、実践を通して学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

英語コミュニケーション能力の向上のためなるべく授業は英語で行う予定です（授業言語に関してはみなさんと相談しながら決定します）。文献等は日本語で書かれたものも使用します。またペアワークやグループワークを通じて共同学習を行います。より良い学習環境の構築を目指し、積極的な授業の参加が求められます。課題等に関しては個々にあるいはクラス内でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 目標設定 大学生活について	I will introduce this course to you. You will set your goals for this semester and this seminar course. I will provide you with the information about Hosei University.
第2回	自己紹介 手紙の書き方 Eメールの書き方	You will introduce yourself to the class. You will learn how to write a card and an e-mail in English.
第3回	論文等の読み方 シャドウイングと要約 I AIの活用について	You will learn reading strategies. You will read an article about shadowing and summarizing. You will also learn how to use AI for learning.
第4回	リーディングストラテジーの復習 シャドウイングと要約 II	You will review reading strategies, such as skimming. You will watch a DVD about Shadowing and Summarizing.
第5回	文献検索 期末レポートと発表のテーマ	You will learn how to search literature on a theme of your study. You will decide a theme for your term paper and select three books about the theme.
第6回	シャドウイングと要約の復習 ディベートの準備	You will review Shadowing and Summarizing. You will learn how to debate and prepare for your debate with your team members.
第7回	ディベート インタビュー調査	You will have a debate. You will conduct interviews and prepare for the report.

第8回	論文の書き方 インタビューレポート 期末レポートの要約	You will learn writing strategies. You will report the interview in class. You will show the outline of your term paper.
第9回	ライティングストラテジーの復習 ブックレビュー（書評）の仕方	You will review writing strategies, such as the organization of English writing, topic sentences, supporting sentences, and thesis statement. You will discuss the assigned book.
第10回	Dream Map Lifeline Chart 研究方法 期末レポート・発表の準備	You will make a dream map and a lifeline chart and reflect on your life. You will learn different types of research methodologies. You will prepare for your term paper and presentation.
第11回	プレゼンテーション	You will submit your term paper. You will make a presentation.
第12回 第13回	プレゼンテーション ディスカッション	You will make a presentation. You will discuss your favorite topics with your classmates.
第14回	復習 振り返り	You will review what you learn in this semester. You will reflect on your academic performance this semester. You will set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read the assigned reading before the class.
 - 2) to look up words you don't know in the dictionary when you read reading assignments before the class.
 - 3) to watch or listen to an English program regularly
 - 4) to do assignments, submit them, and meet the deadline
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

外山 滋比古 (1986) 『思考の整理学』ちくま文庫（図書館での借可用）handouts

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、課題（10%）、ディベート（必須、10%）、プレゼンテーション（必須、20%）、期末レポート（必須、40%）

*If you have four absences per semester without permission, do not participate in a debate, do not make a presentation, or do not submit a term paper, you cannot get a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

なるべく受講して下さったみなさんの意見も取り入れながら授業を展開していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, Computer (Word and Power Point), USB

【その他の重要事項】

- 1) Although some of you may not have enough confidence in your English, your effort to learn English is important in this class. I hope that you will come to like studying English as an international language and communicate with people all over the world in English.
- 2) Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. You will do a lot of pair work and group work. I would like you to make a good learning community with your classmates and me.

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline (in English)】

Course outline:

There are four themes of this course: 1) Development of your study skills for learning in university; 2) Learning research methods; 3) Reflection on your life and plan for your future life; and 4) Development of your English communication skills.

Objectives:

This course aims at four goals: 1) To improve study skills; 2) To learn research methodologies; 3) To have opportunities to think of yourself and develop yourself for your future career, and 4) To develop your English communication skills.

Learning activities outside of classroom:

You are expected:

- 1) to read the assigned reading before the class.
- 2) to look up words you don't know in the dictionary when you read reading assignments before the class.
- 3) to watch or listen to an English program regularly
- 4) to do assignments, submit them, and meet the deadline.

The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

Grading Criteria:

class participation (20%), assignments (10%), debate (10%), presentations (20%), and final report(40%)

*If you have four absences per semester without permission, do not participate in a debate, do not make a presentation, or do not submit a final report, you cannot get a credit for this course.

入門演習

左三川 郁子

演習演習 1年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、①自分の頭で論理的に考え、②わかりやすい文章でレポートを作成し、③プレゼンテーション資料を使って相手に伝わるような発表をするスキルを身につけることを目的とします。少人数の入門演習では、レポートやプレゼンテーション資料、発表の内容について、互いに講評し合う双方向型授業とします。自分の言葉で文章にまとめ、口頭で説明するという作業は、社会に出てからも続きます。単に「伝える」のではなく、どうすれば相手に「伝わる」かを考えていきます。

【到達目標】

到達目標は、以下6つの作業を自分でできるようになることです。

- (1) テーマ（自分なりの問い）を決め、関連文献や資料、データを見つける⇒テーマの設定
- (2) 筋道を立てて考え、自分なりの結論を導き出す⇒スケルトンの作成
- (3) 自分の考えをわかりやすい文章にまとめる⇒レポートの執筆
- (4) 自分の考えをサポートするようなグラフや表を作成する⇒図表の作成
- (5) レポートの内容をプレゼンテーション資料にまとめる⇒報告資料の作成
- (6) 相手に伝わるようなプレゼンテーションをする⇒口頭発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に、①レポートの執筆（Word）、②図表の作成（Excel）、③プレゼンテーション資料のまとめ方（Power Point）に重点を置きます。成果物については、出席者全員で相互にコメントし合います。他人が書いたレポートやプレゼンテーション資料を読むこともまた、自身の文章や報告資料の質を高めてくれるからです。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、参考資料、到達目標、成績評価などを説明します。
第2回	自己紹介とテーマ設定	自分自身について紹介した後、本演習でどのようなテーマでレポートを書きたいか（問題意識）をプレゼンテーションします。
第3回	参考文献や資料、データの見つけ方	自分のテーマに関係する文献や資料をどのように見つけてくるかを学びます。
第4回	スケルトンの作成と文章の書き方	参考文献や資料の読み方、わかりやすい文章の書き方、引用の仕方を学びます。
第5回	図表の作成とプレゼンテーション資料の作り方	図表やプレゼンテーション資料の作り方・見せ方について考えます。
第6回	プレゼンテーションの仕方	自分がまとめたレポートの内容を、相手に「伝わる」ように口頭で発表する方法を考えます。
第7回	レポートの作成と講評①	設定したテーマで自分の考えをスケルトンにまとめ、Wordで短いレポートを書きます。

第8回	レポートの作成と講評②	設定したテーマで自分の考えをスケルトンにまとめ、Wordで短いレポートを書きます。
第9回	レポートの作成と講評③	設定したテーマで自分の考えをスケルトンにまとめ、Wordで短いレポートを書きます。
第10回	プレゼンテーション資料の作成と講評①	Excelで作成した図表をPowerPointのプレゼンテーション資料にまとめます。
第11回	プレゼンテーション資料の作成と講評②	Excelで作成した図表をPowerPointのプレゼンテーション資料にまとめます。
第12回	プレゼンテーション資料の作成と講評③	Excelで作成した図表をPowerPointのプレゼンテーション資料にまとめます。
第13回	口頭発表と講評①	プレゼンテーション資料を使い、一人ずつ口頭発表します。
第14回	口頭発表と講評②	プレゼンテーション資料を使い、一人ずつ口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スケルトンやレポートの執筆、図表やプレゼンテーション資料の作成、口頭発表の準備が必要です。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書や参考書は授業内で紹介します。新聞記事などのコピーも配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（30%）、プレゼンテーション資料（30%）、口頭発表と平常点（40%）。積極的な授業姿勢も評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPointなどのソフトウェアを利用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

定員は20名程度を予定しています。大幅に超えるような場合には抽選を行います。新聞社の系列シンクタンクで30年間、金融政策や金融機関経営の研究をしていました。読みやすいレポートの書き方など、研究機関で培ったスキルをお伝えします。

【関連科目】

すべての科目に関連する授業となります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This seminar aims to develop the following skills: ① thinking logically for yourself, ② writing logical reports, and ③ delivering presentations using materials that effectively communicate your ideas to others. In this small-group introductory exercise, we will conduct interactive sessions where students provide mutual feedback on reports, presentation materials, and presentation content. The process of summarizing ideas in your own words and explaining them orally is a skill that continues long after entering the workforce. We will focus not merely on “communicating,” but on how to ensure your message is effectively “received” by your audience.

【Learning Activities Outside the Classroom】

Students are required to read the textbook before class. Standard preparation and review time for this course is two hours per class.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on reaction papers and assignments (100%).
Regular attendance is essential, and absences will significantly
impact your grade.

入門演習

左三川 郁子

演習演習 1年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、①自分の頭で論理的に考え、②わかりやすい文章でレポートを作成し、③プレゼンテーション資料を使って相手に伝わるような発表をするスキルを身につけることを目的とします。少人数の入門演習では、レポートやプレゼンテーション資料、発表の内容について、互いに講評し合う双方向型授業とします。自分の言葉で文章にまとめ、口頭で説明するという作業は、社会に出てからも続きます。単に「伝える」のではなく、どうすれば相手に「伝わる」かを考えていきます。

【到達目標】

到達目標は、以下6つの作業を自分でできるようになることです。
 (1) テーマ（自分なりの問い）を決め、関連文献や資料、データを見つける⇒テーマの設定
 (2) 筋道を立てて考え、自分なりの結論を導き出す⇒スケルトンの作成
 (3) 自分の考えをわかりやすい文章にまとめる⇒レポートの執筆
 (4) 自分の考えをサポートするようなグラフや表を作成する⇒図表の作成
 (5) レポートの内容をプレゼンテーション資料にまとめる⇒報告資料の作成
 (6) 相手に伝わるようなプレゼンテーションをする⇒口頭発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に、①レポートの執筆（Word）、②図表の作成（Excel）、③プレゼンテーション資料のまとめ方（Power Point）に重点を置きます。成果物については、出席者全員で相互にコメントし合います。他人が書いたレポートやプレゼンテーション資料を読むこともまた、自身の文章や報告資料の質を高めてくれるからです。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、参考資料、到達目標、成績評価などを説明します。
第2回	自己紹介とテーマ設定	自分自身について紹介した後、本演習でどのようなテーマでレポートを書きたいか（問題意識）をプレゼンテーションします。
第3回	参考文献や資料、データの見つけ方	自分のテーマに関係する文献や資料をどのように見つけてくるかを学びます。
第4回	スケルトンの作成と文章の書き方	参考文献や資料の読み方、わかりやすい文章の書き方、引用の仕方を学びます。
第5回	図表の作成とプレゼンテーション資料の作り方	図表やプレゼンテーション資料の作り方・見せ方について考えます。
第6回	プレゼンテーションの仕方	自分がまとめたレポートの内容を、相手に「伝わる」ように口頭で発表する方法を考えます。
第7回	レポートの作成と講評①	設定したテーマで自分の考えをスケルトンにまとめ、Wordで短いレポートを書きます。

第8回	レポートの作成と講評②	設定したテーマで自分の考えをスケルトンにまとめ、Wordで短いレポートを書きます。
第9回	レポートの作成と講評③	設定したテーマで自分の考えをスケルトンにまとめ、Wordで短いレポートを書きます。
第10回	プレゼンテーション資料の作成と講評①	Excelで作成した図表をPowerPointのプレゼンテーション資料にまとめます。
第11回	プレゼンテーション資料の作成と講評②	Excelで作成した図表をPowerPointのプレゼンテーション資料にまとめます。
第12回	プレゼンテーション資料の作成と講評③	Excelで作成した図表をPowerPointのプレゼンテーション資料にまとめます。
第13回	口頭発表と講評①	プレゼンテーション資料を使い、一人ずつ口頭発表します。
第14回	口頭発表と講評②	プレゼンテーション資料を使い、一人ずつ口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スケルトンやレポートの執筆、図表やプレゼンテーション資料の作成、口頭発表の準備が必要です。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書や参考書は授業内で紹介します。新聞記事などのコピーも配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（30%）、プレゼンテーション資料（30%）、口頭発表と平常点（40%）。積極的な授業姿勢も評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPointなどのソフトウェアを利用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

定員は20名程度を予定しています。大幅に超えるような場合には抽選を行います。

新聞社の系列シンクタンクで30年間、金融政策や金融機関経営の研究をしていました。読みやすいレポートの書き方など、研究機関で培ったスキルをお伝えします。

【関連科目】

すべての科目に関連する授業となります。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop the following skills: ① thinking logically for yourself, ② writing logical reports, and ③ delivering presentations using materials that effectively communicate your ideas to others. In this small-group introductory exercise, we will conduct interactive sessions where students provide mutual feedback on reports, presentation materials, and presentation content. The process of summarizing ideas in your own words and explaining them orally is a skill that continues long after entering the workforce. We will focus not merely on “communicating,” but on how to ensure your message is effectively “received” by your audience.

【Course Outline】

This seminar aims to develop the following skills: ① thinking logically for yourself, ② writing logical reports, and ③ delivering presentations using materials that effectively communicate your ideas to others. In this small-group introductory exercise, we will conduct interactive sessions where students provide mutual feedback on reports, presentation materials, and presentation content. The process of summarizing ideas in your own words and explaining them orally is a skill that continues long after entering the workforce. We will focus not merely on “communicating,” but on how to ensure your message is effectively “received” by your audience.

【Learning Activities Outside the Classroom】

Students are required to read the textbook before class. Standard preparation and review time for this course is two hours per class.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on reaction papers and assignments (100%). Regular attendance is essential, and absences will significantly impact your grade.

入門演習

山崎 輝

演習演習 1年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「大学での学び」に必要な基本的なスキルを身につけることを目的としています。大学では、「必要な情報を自ら収集し、それを基に論理的に筋道を立てて考える」能力や、「自分の考えを正確に自分の言葉や文章で相手に伝える」能力が求められます。本演習では、少人数で行うアクティブラーニング型の授業を通じて、これらのスキルを習得する機会を提供します。具体的には、『人工知能（AI）時代の社会や暮らし』に関する教材を用い、プレゼンテーション資料を活用した口頭発表を行います。また、文章によるコミュニケーション能力を高めるためにレポート作成にも取り組みます。

【到達目標】

本演習では、次の3つを到達目標に掲げます。

1. 必要な情報を自ら収集し、それを整理・再構成できる。
2. 論理的な考え方をを用いて、自分で筋道を立てて考えることができる。
3. 自分の考えを適切な言葉や文章で、明確かつ効果的に相手に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

履修希望者は初回授業までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。本演習に関する連絡は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。

本演習では、次の3つの課題に取り組みます。まず1つ目は、「大学での学び」に関する基本的な作法を習得することです。具体的には、大学の教科書やテキストの効果的な読み方、レポートの適切な書き方、プレゼンテーション資料の作成方法、そして口頭発表の手順やルールを学びます。2つ目は、口頭発表に取り組むことです。基本的な作法に基づき、テキストを読み解き、個人で発表資料を作成し、その内容を口頭で発表します。3つ目は、レポート作成です。基本的な作法を踏まえて、与えられた課題に対する個人の考えを整理し、レポートとしてまとめます。口頭発表やレポート作成では『人工知能（AI）時代の社会や暮らし』に関する教材を用います。授業中には、口頭発表やレポートの内容に関して個別にフィードバックを行い、スキルの向上を支援します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方、到達目標、成績評価などを説明します。
第2回	自己紹介	自己紹介によって自分自身のプレゼンテーションをします。
第3回	テキストの読み方	大学の教科書やテキストをどのようにして読むかを学びます。
第4回	レポートの書き方	レポート作成の作法（引用と剽窃の違い、参考文献リストの作成方法など）を学びます。
第5回	発表資料の作り方	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学びます。
第6回	口頭発表のやり方	聞き手にわかりやすい口頭発表の方法を学びます。
第7回	プレゼンテーション資料の作成（前半）	与えられた課題に対して、口頭発表するためのプレゼンテーション資料を作成します。前半は情報収集および情報の整理が主となります。
第8回	プレゼンテーション資料の作成（後半）	与えられた課題に対して、口頭発表するためのプレゼンテーション資料を作成します。後半はスライド資料の作成が主となります。
第9回	口頭発表の実施（前半）	作成したプレゼンテーション資料に基づき、個人による口頭発表をします。前半グループに割り当てられた学生がプレゼンテーションを行います。

第10回	口頭発表の実施（後半）	作成したプレゼンテーション資料に基づき、個人による口頭発表をします。後半グループに割り当てられた学生がプレゼンテーションを行います。
第11回	レポートの作成（前半）	与えられた課題に対して、レポートを作成します。前半は情報収集および情報の整理が主となります。
第12回	レポートの作成（後半）	与えられた課題に対して、レポートを作成します。後半はレポートの執筆が主となります。
第13回	レポートの講評（前半）	提出されたレポートの講評を行います。前半では、好事例となるレポートを紹介します。
第14回	レポートの講評（後半）	提出されたレポートの講評を行います。後半では、レポートの改善点や注意点を指摘します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外でのプレゼンテーション資料の作成、レポートの作成、口頭発表の準備などが必要になります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①法政大学編、『学習支援ハンドブック』、2026年、法政大学
- ②『人工知能（AI）時代の社会や暮らし』に関する書籍（授業中に指定します）

【参考書】

- ①世界思想社編、『大学生 学びのハンドブック [改訂版]』、2011年、世界思想社
- ②佐藤智明他、『大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』、2014年、ナカニシヤ出版
- ③石井一成、『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』、2011年、ナツメ社

【成績評価の方法と基準】

口頭発表（30%）、レポート（30%）、平常点（40%）
口頭発表とレポートの提出は必須で単位修得の必要条件となります。発表やレポートの内容はもちろんのこと、資料やレポートの体裁、プレゼンテーション技術、文章の正確性、積極的な授業姿勢なども評価の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

「大学の学び」において便利なツールやアプリなどを紹介します。ITの活用やDX化によって快適な学習環境を整えましょう。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション資料やレポートはPC（PowerPoint、Wordなど）を利用して作成して下さい。

【その他の重要事項】

履修希望者は初回授業までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。本授業に関する連絡は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に送信します。本授業の履修人数は教室定員（24名）が上限となります。履修希望者が教室定員を上回った場合には選別を行いますので、予めご了承ください。

【関連科目】

すべての科目に関連する授業となります。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course is designed to familiarize students with the fundamental academic skills necessary for successful study at Hosei University. Students will learn the academic etiquette involved in reading textbooks, writing reports, as well as engaging in presentations and group discussions. [Learning Objectives] The aim of this course is for students to cultivate the academic skills outlined above within an interactive learning environment. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours preparing for the course. [Grading Criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 30%, report: 30%, in class contribution: 40%.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門演習

芝田 隆志

演習演習 1年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「大学での学ぶ」ために必要な基本スキルを習得します。大学では、「論理的に考えること」や「自分の考えを正確に伝えること」が必要となります。少人数の双方向型授業によって、こうしたスキルを習得します。具体的には、文献の読み方、レジメの作成手法、プレゼンテーション手法について学習します。

【到達目標】

本演習では、次の3つを到達目標とします。

1. 必要な情報を収集し、整理できる能力の習得
2. 問題に対して論理的な考え方の習得
3. 自分の考えを適切に伝える手法の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は演習形式です。履修者は、文献の読み方、レジメの作成方法、口頭発表資料の作成方法、口頭発表方法などを学びます。授業中、レジメや口頭発表資料の内容、口頭発表方法について、個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方、成績評価方法について説明します
第2回	自己紹介	スライドを用いた自己紹介
第3回	文献や書籍の読み方(1)	文献や書籍の読み方を学習します
第4回	文献や書籍の読み方(2)	引き続き、文献や書籍の読み方を学習します
第5回	文献や書籍の読み方(3)	引き続き、文献や書籍の読み方を学習します
第6回	プレゼンテーション資料の作成方法(1)	スライドの作成方法について学習します
第7回	プレゼンテーション資料の作成方法(2)	引き続き、スライドの作成方法について学習します
第8回	プレゼンテーション資料の作成方法(3)	引き続き、スライドの作成方法について学習します
第9回	プレゼンテーション発表方法(1)	発表方法について学習します
第10回	プレゼンテーション発表方法(2)	引き続き、発表方法について学習します
第11回	レポート作成方法(1)	レポートの作成方法について学習します
第12回	レポート作成方法(2)	引き続き、レポートの作成方法について学習します
第13回	口頭発表の実施(1)	個人各自による口頭発表をします
第14回	口頭発表の実施(2)	引き続き、個人各自による口頭発表をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外において、スライドの作成、口頭発表の準備などが必要となり、準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは、授業内で紹介します。

【参考書】

参考書についても、講義中に適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】

口頭発表(50%)、平常点(30%)、レポート(20%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連科目】

全ての科目が関連する授業となります

【Outline (in English)】

The objective of this course is to obtain how to read the article or book, precisely, make a resume for your ideas, and give a presentation. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

入門演習

島田 由美子

演習演習 1年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大学における学習や研究をどうやって行っていくのかを、少人数で、きめ細かく、ゆっくりと学んでいきます。生成AIについても、大学の学びの中での使い方も含め、解説します。これからの大学での学びについて不安がある人、大学生活をより良いものとしたい人はぜひ履修して下さい。

本講義は、1、2回のオンライン授業を除き、対面授業で実施する予定です。ただし、状況によっては、授業形式を変更する場合があります。

【到達目標】

この講義の到達目標は、大学での学びに必要なスキルを獲得してもらうことです。

大学で学ぶ際にぜひ活用してもらいたい図書館、情報カフェテリアの利用方法、授業やゼミでの輪講、レジュメの作成法、レポートの作成法、プレゼンテーションの仕方を丁寧なフィードバックを交えて学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

大学での学び、研究に必要なスキルを実際に演習してもらいながら獲得していきます。

提出してもらった課題については、個人別に改善部分についてフィードバックさせていただきます。

さらに、プレゼンテーションとレジュメ作成課題については、全員ですべてのフィードバック内容を共有し、今後の各自の課題作成の際に生かしていけるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の内容、進め方について説明します 自己紹介 電子メール、WebClassの使い方
第2回	コンピュータを使ってみよう	Word, Excel, PowerPoint どのくらい使えますか ファイルとフォルダの管理 ショートカットキー 生成AIって何？
第3回	コンピュータをうまく使ってみよう	情報カフェテリアに行ってみよう Windows のうまい使い方 大学と自宅でうまく作業をするには 生成AIの使い方 1
第4回	図書館に行ってみよう	必要な文献やデータを自分で探してみよう
第5回	プレゼンテーションってどうやるの？	プレゼンテーションの基本について学びます PowerPoint の使い方から学んでいきます

第6回	プレゼンテーションうまくなりたい	プレゼンテーションをブラッシュアップ 図解、グラフ作成のコツ、スライドの構成について学びます
第7回	プレゼンテーションの準備	実際にプレゼンテーションの準備をすることを通して、スライド作成のコツをつかみます 配布資料の作り方も学びます
第8回	プレゼンテーション実践 1	プレゼンテーションをやってみましょう 聞いている人は、質問のしかたについて学びます
第9回	プレゼンテーション実践 2	プレゼンテーションをやってみましょう 質問もさらに積極的にしましょう
第10回	レポートってどう書くの？	レポートの構成はどうしたらよいの？ レポートを作成するときのうまいWordの使い方は？
第11回	プレストって何？	レポートやプレゼンテーションの準備をするときのプレスト、クラスタリングについて学びます 生成AIの使い方 2
第12回	オンラインプレゼンテーションうまくなりたい	オンラインプレゼンテーションのコツを学びます その準備で、プレストなどを行い、レジュメの作成の仕方についても学びます
第13回	オンラインプレゼンテーションをやってみよう	オンラインプレゼンテーションのやり方、コツの解説と実践
第14回	まとめと今後の課題	講義のまとめと今後の大学生活への展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通常は時間外時間は1時間を標準としますが、できる限り授業内で理解し、作業がはかどるように留意していきます。（授業内ですべての作業が完結することが目標です）

【テキスト（教科書）】

講義資料はWebClassからダウンロードできます。
教科書は授業が始まってからご紹介する予定です。

【参考書】

講義資料はWebClassからダウンロードできます。
参考書は授業が始まってからご紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション実践 30% 平常点 70%
期末試験期間中の試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

少人数で行う利点を生かし、できるだけきめ細かく授業を進めていきます。特に、大授業では難しい質問、フィードバックの時間を多くとるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

自分のあるいは貸与パソコンを持ってきて下さい。
多くの授業回でパソコンを利用します。授業は、Windows11の利用を想定した内容となります。
初回の授業の前に、大学内でインターネット接続をして、WebClassを利用できるところまで準備してきてください。

【その他の重要事項】

質問・相談は講義中に適宜受け付けます。

授業時間まで待てない時には、電子メールでの質問も受け付けます。講師からの連絡は、WebClassを利用することが多くなります。特に、授業の前日、当日はWebClassを確認してから参加するようにしてください。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, students will learn how to conduct learning and research at Hosei University in a small, detailed and unhurried manner. I will also explain generative AI, including its use within university learning.

If you have any worries about your university studies or if you want to improve your university life, please take this course.

This course will be conducted in face-to-face classes, with the exception of one or two online classes.

Integrated Certification account ID, mail address and password are needed every class.

[Learning Objectives]

The goal of this course is to help students acquire the skills necessary to study at Hosei University.

Students learn effective methods for making resumes, reports and presentations in the class and seminar.

You also learn how to use the library and information cafeteria, which they are strongly encouraged to use when studying at the university.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to spend more than one hour to understand the course contents. I will try to help you understand as much as possible in class so that you can work efficiently.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on presentation (30%) and in-class contribution (70%).

入門演習

島田 由美子

演習演習 1年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大学における学習や研究をどうやって行っていくのかを、少人数で、きめ細かく、ゆっくりと学んでいきます。生成AIについても、大学の学びの中での使い方も含め、解説します。これからの大学での学びについて不安がある人、大学生活をより良いものになりたい人はぜひ履修して下さい。

本講義は、1、2回のオンライン授業を除き、対面授業で実施する予定です。ただし、状況によっては、授業形式を変更する場合があります。

【到達目標】

この講義の到達目標は、大学での学びに必要なスキルを獲得してもらうことです。

大学で学ぶ際にぜひ活用してもらいたい図書館、情報カフェテリアの利用方法、授業やゼミでの輪講、レジュメの作成法、レポートの作成法、プレゼンテーションの仕方を丁寧なフィードバックを交えて学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

大学での学び、研究に必要なスキルを実際に演習してもらいながら獲得していきます。

提出してもらった課題については、個人別に改善部分についてフィードバックさせていただきます。

さらに、プレゼンテーションとレジュメ作成課題については、全員ですべてのフィードバック内容を共有し、今後の各自の課題作成の際に生かしていただけるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の内容、進め方について説明します 自己紹介 電子メール、WebClassの使い方
第2回	コンピュータを使ってみよう	Word, Excel, PowerPointのどのくらい使えますか ファイルとフォルダの管理 ショートカットキー 生成AIって何？
第3回	コンピュータをうまく使ってみよう	情報カフェテリアに行ってみよう Windowsのうまい使い方 大学と自宅でもうまく作業をするには生成AIの使い方 1
第4回	図書館に行ってみよう	必要な文献やデータを自分で探してみよう
第5回	プレゼンテーションってどうやるの？	プレゼンテーションの基本について学びます PowerPointの使い方から学んでいきます
第6回	プレゼンテーションうまくなりた	プレゼンテーションをブラッシュアップ 図解、グラフ作成のコツ、スライドの構成について学びます
第7回	プレゼンテーションの準備	実際にプレゼンテーションの準備をすることを通して、スライド作成のコツをつかみます
第8回	プレゼンテーション実践 1	配布資料の作り方も学びます プレゼンテーションをやってみましょう 聞いている人は、質問のしかたについて学びます
第9回	プレゼンテーション実践 2	プレゼンテーションをやってみましょう 質問もさらに積極的にしましょう

第10回	レポートってどう書くの？	レポートの構成はどうしたらよいの？ レポートを作成するときのうまいWordの使い方は？
第11回	プレストって何？	レポートやプレゼンテーションの準備をするときのプレスト、クラスターリングについて学びます 生成AIの使い方 2
第12回	オンラインプレゼンテーションうまくなりた	オンラインプレゼンテーションのコツを学びます その準備で、プレストなどを行い、レジュメの作成の仕方についても学びます
第13回	オンラインプレゼンテーションをやってみよう	オンラインプレゼンテーションのやり方、コツの解説と実践
第14回	まとめと今後の課題	講義のまとめと今後の大学生活への展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通常は時間外時間は1時間を標準としますが、できる限り授業内で理解し、作業がはかどるように留意していきます。（授業内ですべての作業が完結することが目標です）

【テキスト（教科書）】

講義資料はWebClassからダウンロードできます。
教科書は授業が始まってからご紹介する予定です。

【参考書】

講義資料はWebClassからダウンロードできます。
参考書は授業が始まってからご紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション実践 30% 平常点 70%
期末試験期間中の試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

少人数で行う利点を生かし、できるだけきめ細かく授業を進めていきます。特に、大授業では難しい質問、フィードバックの時間を多くとるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

自分のあるいは貸与パソコンを持ってきて下さい。
多くの授業回でパソコンを利用します。授業は、Windows11の利用を想定した内容となります。
初回の授業の前に、大学内でインターネット接続をして、WebClassを利用できるところまで準備してきてください。

【その他の重要事項】

質問・相談は講義中に適宜受け付けます。
授業時間まで待てない時には、電子メールでの質問も受け付けます。
講師からの連絡は、WebClassを利用することが多くなります。特に、授業の前日、当日はWebClassを確認してから参加するようにしてください。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, students will learn how to conduct learning and research at Hosei University in a small, detailed and unhurried manner. I will also explain generative AI, including its use within university learning. If you have any worries about your university studies or if you want to improve your university life, please take this course.

This course will be conducted in face-to-face classes, with the exception of one or two online classes.

Integrated Certification account ID, mail address and password are needed every class.

[Learning Objectives]

The goal of this course is to help students acquire the skills necessary to study at Hosei University.

Students learn effective methods for making resumes, reports and presentations in the class and seminar.

You also learn how to use the library and information cafeteria, which they are strongly encouraged to use when studying at the university.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to spend more than one hour to understand the course contents. I will try to help you understand as much as possible in class so that you can work efficiently.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on presentation (30%) and in-class contribution (70%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

安藤 直紀

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいはEメールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	グループ研究①（1）	グループ研究のテーマ設定
第3回	方法論	社会科学の研究手法 質的研究
第4回	グループ研究①（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第5回	グループ研究①（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第6回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第7回	データ分析（2）	データセットの分析
第8回	ケース・スタディ	企業的事例研究
第9回	グループ研究①（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第10回	グループ研究①（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第11回	グループ研究①（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第12回	グループ研究①（7）	グループ研究の発表準備
第13回	グループ研究①（8）	グループ研究の発表
第14回	中間発表	個人研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回3時間（合計6時間）を標準とします。

1-2回：グループ研究のテーマを考える

3回：質的研究方法について調べる

4-5回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13回：グループで研究発表の準備をする

14回：個人研究の中間発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第1週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。
クラスへの貢献：60％
グループまたは個人によるレポート：40％
クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。また、出席しないとクラスへの貢献ができないことも理解してください。
レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。
様々な作業を講義中にしますので、欠席が多いと、成績評価ができません。

【関連科目】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
(Course outline)

This seminar covers a range of topics in global business strategy, with a particular focus on multinational enterprises' strategies in emerging economies and cross-cultural management. Through research and discussion, students will learn how firms enter foreign markets, compete with local rivals, manage cultural and language barriers, and achieve competitive advantages.

(Learning objectives)

The goal for students in this seminar is to understand global business environments, global business strategy, the theoretical foundations underlying global business strategy, and research methods in social science. By the end of the seminar, students are expected to have developed the ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to engage in both group and individual research and data analysis, read assigned materials, and complete assignments. More than six hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on in-class contributions (60%) and group and individual projects (40%). In-class contributions include participation in discussions, research activities, and presentations.

演習2

安藤 直紀

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいはEメールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	グループ研究②（1）	グループ研究のテーマ設定
第3回	方法論	社会科学の研究手法 量的研究
第4回	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第5回	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第6回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第7回	データ分析（2）	仮説の構築 データセットの分析 分析結果の解釈
第8回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第9回	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第10回	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第11回	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第12回	グループ研究②（7）	グループ研究の発表準備
第13回	グループ研究②（8）	グループ研究の発表
第14回	最終発表	個人研究の発表（最終報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回3時間（合計6時間）を標準とします。

1-2回：グループ研究のテーマを考える

3回：量的研究方法について調べる

4-5回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13回：グループで研究発表の準備をする

14回：個人研究の最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第1週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

高根正昭（1979） 創造の方法学 講談社現代新書

その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。また、出席しないクラスへの貢献ができないことも理解してください。レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができていたかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、欠席が多いと、成績評価ができません。

【関連科目】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar covers a range of topics in global business strategy, with a particular focus on multinational enterprises' strategies in emerging economies and cross-cultural management. Through research and discussion, students will learn how firms enter foreign markets, compete with local rivals, manage cultural and language barriers, and achieve competitive advantages.

(Learning objectives)

The goal for students in this seminar is to understand global business environments, global business strategy, the theoretical foundations underlying global business strategy, and research methods in social science. By the end of the seminar, students are expected to have developed the ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to engage in both group and individual research and data analysis, read assigned materials, and complete assignments. More than six hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on in-class contributions (60%) and group and individual projects (40%). In-class contributions include participation in discussions, research activities, and presentations.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

安藤 直紀

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいはEメールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	グループ研究①（1）	グループ研究のテーマ設定
第3回	方法論	社会科学の研究手法 質的研究
第4回	グループ研究①（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第5回	グループ研究①（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第6回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第7回	データ分析（2）	データセットの分析
第8回	ケース・スタディ	企業的事例研究
第9回	グループ研究①（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第10回	グループ研究①（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第11回	グループ研究①（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第12回	グループ研究①（7）	グループ研究の発表準備
第13回	グループ研究①（8）	グループ研究の発表
第14回	中間発表	個人研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回3時間（合計6時間）を標準とします。

1-2回：グループ研究のテーマを考える

3回：質的研究方法について調べる

4-5回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13回：グループで研究発表の準備をする

14回：個人研究の中間発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第1週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。
クラスへの貢献：60％
グループまたは個人によるレポート：40％
クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。また、出席しないとクラスへの貢献ができないことも理解してください。
レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。
様々な作業を講義中にしますので、欠席が多いと、成績評価ができません。

【関連科目】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar covers a range of topics in global business strategy, with a particular focus on multinational enterprises' strategies in emerging economies and cross-cultural management. Through research and discussion, students will learn how firms enter foreign markets, compete with local rivals, manage cultural and language barriers, and achieve competitive advantages.

(Learning objectives)

The goal for students in this seminar is to understand global business environments, global business strategy, the theoretical foundations underlying global business strategy, and research methods in social science. By the end of the seminar, students are expected to have developed the ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to engage in both group and individual research and data analysis, read assigned materials, and complete assignments. More than six hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on in-class contributions (60%) and group and individual projects (40%). In-class contributions include participation in discussions, research activities, and presentations.

演習4

安藤 直紀

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいはEメールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	グループ研究②（1）	グループ研究のテーマ設定
第3回	方法論	社会科学の研究手法 量的研究
第4回	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第5回	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第6回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第7回	データ分析（2）	仮説の構築 データセットの分析 分析結果の解釈
第8回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第9回	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第10回	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第11回	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第12回	グループ研究②（7）	グループ研究の発表準備
第13回	グループ研究②（8）	グループ研究の発表
第14回	最終発表	個人研究の発表（最終報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回3時間（合計6時間）を標準とします。

1-2回：グループ研究のテーマを考える

3回：量的研究方法について調べる

4-5回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13回：グループで研究発表の準備をする

14回：個人研究の最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第1週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

高根正昭（1979） 創造の方法学 講談社現代新書

その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。また、出席しないクラスへの貢献ができないことも理解してください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、欠席が多いと、成績評価ができません。

【関連科目】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar covers a range of topics in global business strategy, with a particular focus on multinational enterprises' strategies in emerging economies and cross-cultural management. Through research and discussion, students will learn how firms enter foreign markets, compete with local rivals, manage cultural and language barriers, and achieve competitive advantages.

(Learning objectives)

The goal for students in this seminar is to understand global business environments, global business strategy, the theoretical foundations underlying global business strategy, and research methods in social science. By the end of the seminar, students are expected to have developed the ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to engage in both group and individual research and data analysis, read assigned materials, and complete assignments. More than six hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on in-class contributions (60%) and group and individual projects (40%). In-class contributions include participation in discussions, research activities, and presentations.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

安藤 直紀

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいはEメールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	グループ研究①（1）	グループ研究のテーマ設定
第3回	方法論	社会科学の研究手法 質的研究
第4回	グループ研究①（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第5回	グループ研究①（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第6回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第7回	データ分析（2）	データセットの分析
第8回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第9回	グループ研究①（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第10回	グループ研究①（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第11回	グループ研究①（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第12回	グループ研究①（7）	グループ研究の発表準備
第13回	グループ研究①（8）	グループ研究の発表
第14回	中間発表	個人研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回3時間（合計6時間）を標準とします。

1-2回：グループ研究のテーマを考える

3回：質的研究方法について調べる

4-5回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13回：グループで研究発表の準備をする

14回：個人研究の中間発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第1週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。
クラスへの貢献：60％
グループまたは個人によるレポート：40％
クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。また、出席しないとクラスへの貢献ができないことも理解してください。
レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。
様々な作業を講義中にしますので、欠席が多いと、成績評価ができません。

【関連科目】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
(Course outline)

This seminar covers a range of topics in global business strategy, with a particular focus on multinational enterprises' strategies in emerging economies and cross-cultural management. Through research and discussion, students will learn how firms enter foreign markets, compete with local rivals, manage cultural and language barriers, and achieve competitive advantages.

(Learning objectives)

The goal for students in this seminar is to understand global business environments, global business strategy, the theoretical foundations underlying global business strategy, and research methods in social science. By the end of the seminar, students are expected to have developed the ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to engage in both group and individual research and data analysis, read assigned materials, and complete assignments. More than six hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on in-class contributions (60%) and group and individual projects (40%). In-class contributions include participation in discussions, research activities, and presentations.

演習6

安藤 直紀

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいはEメールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	グループ研究②（1）	グループ研究のテーマ設定
第3回	方法論	社会科学の研究手法 量的研究
第4回	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第5回	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第6回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第7回	データ分析（2）	仮説の構築 データセットの分析 分析結果の解釈
第8回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第9回	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第10回	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第11回	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第12回	グループ研究②（7）	グループ研究の発表準備
第13回	グループ研究②（8）	グループ研究の発表
第14回	最終発表	個人研究の発表（最終報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回3時間（合計6時間）を標準とします。

1-2回：グループ研究のテーマを考える

3回：量的研究方法について調べる

4-5回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13回：グループで研究発表の準備をする

14回：個人研究の最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第1週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

高根正昭（1979） 創造の方法学 講談社現代新書

その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。また、出席しないクラスへの貢献ができないことも理解してください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができていたかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、欠席が多いと、成績評価ができません。

【関連科目】

グローバル経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar covers a range of topics in global business strategy, with a particular focus on multinational enterprises' strategies in emerging economies and cross-cultural management. Through research and discussion, students will learn how firms enter foreign markets, compete with local rivals, manage cultural and language barriers, and achieve competitive advantages.

(Learning objectives)

The goal for students in this seminar is to understand global business environments, global business strategy, the theoretical foundations underlying global business strategy, and research methods in social science. By the end of the seminar, students are expected to have developed the ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to engage in both group and individual research and data analysis, read assigned materials, and complete assignments. More than six hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated based on in-class contributions (60%) and group and individual projects (40%). In-class contributions include participation in discussions, research activities, and presentations.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

戎谷 梓

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織マネジメントをテーマに、受講者主体のプロジェクトベースで学習を進めます。学生はペアまたはグループになって、組織マネジメントに関する多様な下位テーマを設定し、実社会の課題分析・解決を目指します。文献調査、ケーススタディ、フィールドワークを活用しながら研究プロジェクトを行うことにより、テーマに関する実践的な知見を深めるとともに、論理的思考力や主体的な学びと協働能力を養成します。

【到達目標】

本授業を通して、受講者には以下の達成が期待できます。

1. 組織マネジメントの理論と実践の理解：文献調査やケーススタディを通じて、組織マネジメントに関する主要な理論や概念を理解し、実社会の課題に適用できるようにする。
2. 問題解決力と論理的思考力の向上：設定した下位テーマに基づき、データ分析やフィールドワークを実施し、論理的なアプローチで課題の本質を見極め、実践的な解決策を提案できるようにする。
3. 主体的な学習態度と協働スキルの育成：ペアまたはグループでの研究活動を通じて、積極的に学習を進める姿勢を身につけるとともに、協働による意思決定やプレゼンテーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、テーマに関連する文献の輪読と、ペアまたはグループワークを組み合わせた形式で進めます。前半は組織マネジメントに関する理論を学び、ケーススタディを通じて理解を深めます。中盤では、各ペアまたはグループが設定した下位テーマに基づき、文献調査やフィールドワークを実施し、課題の分析を行います。後半では、得られた知見をもとに論理的に解決策を検討し、プレゼンテーションを行います。これらの活動を通じて、理論の実践的応用、問題解決力、主体的な学びと協働スキルの向上を目指します。なお、輪読する文献は英語で書かれたものなので、受講生には一定程度の英語読解能力が求められます。

学期を通して、ペアまたはグループで(1)設定したテーマに関する発表、(2)文献調査に基づく発表、(3)プロジェクトの進捗報告を行い、これらが本授業の主な課題となります。プロジェクトに関する相談や発表・報告に対するフィードバックは、授業時間中や授業の前後に適宜行うとともに、メールやその他のコミュニケーションツールも使いながら行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・グループ分けとテーマ設定のガイダンス
第2回	文献輪読①	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第3回	文献輪読②	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第4回	文献輪読③	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第5回	テーマ設定と発表準備	・ペアまたはグループで下位テーマを決定 ・テーマ発表の準備
第6回	テーマの発表	・ペアまたはグループで設定した下位テーマの発表 ・先行研究調査の進め方を確認
第7回	文献調査①	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築
第8回	文献調査②	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築

第9回	文献調査③	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築 ・発表準備
第10回	文献調査に基づく発表	・調査した文献の概要とポイントを発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第11回	フィールド調査の計画①	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第12回	フィールド調査の計画②	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第13回	フィールド調査の計画③	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第14回	進捗発表	・計画中のフィールド調査に関する発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、プロジェクト期間中には調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均2-3時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表（ペアまたはグループ）：20%
文献に基づく発表（ペアまたはグループ）：20%
フィールド調査デザインの発表（ペアまたはグループ）：30%
各発表の資料提出（ペアまたはグループ）：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は通年開講の授業なので、春学期・秋学期の両方を受講することが推奨されます。また、1年を通じてフィールドワークに基づく分析やディスカッションを行うため、授業時間外や夏休み期間にも積極的にプロジェクトに取り組む態度が求められます。履修に際しての英語能力については、読解能力があれば問題なく授業に参加することができます。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is a student-led, project-based learning course on the theme of organizational management. Students work in pairs or groups to analyze and solve real-world problems by setting up various subthemes related to organizational management. By conducting research projects while utilizing literature research, case studies, and fieldwork, students will deepen their practical knowledge of the theme and cultivate their logical thinking, independent learning, and collaboration skills.

Through this course, students will be able to (1) understand the theory and practice of organizational management, (2) improve problem-solving and logical thinking skills, and (3) develop independent learning attitudes and collaborative skills.

Students are required to read through the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class to fully understand the content. Students will also be expected to prepare and conduct research during the project period, which will require them to work with team members outside of class. On average, 2-3 hours per week will be required outside of class time for preparation, review, and project-related activities.

In addition, this course will be graded as follows: 20% for theme presentation (pair or group), 20% for literature-based presentation (pair or group), 30% for field-research design presentation (pair or group), and 30% for submission of materials for each presentation (pair or group).

演習2

戎谷 梓

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織マネジメントをテーマに、受講者主体のプロジェクトベースで学習を進めます。学生はペアまたはグループになって、組織マネジメントに関する多様な下位テーマを設定し、実社会の課題分析・解決を目指します。文献調査、ケーススタディ、フィールドワークを活用しながら研究プロジェクトを行うことにより、テーマに関する実践的な知見を深めるとともに、論理的思考力や主体的な学びと協働能力を養成します。

【到達目標】

- 本授業を通して、受講者には以下の達成が期待できます。
1. データ分析手法の理解と活用：データ分析の基礎を学び、フィールド調査で得たデータを適切な手法で分析できるようになる。
 2. 問題解決力と論理的思考力の向上：調査結果をもとに論理的に課題を整理し、データに基づいた実践的な解決策を提案できるようになる。
 3. 主体的な学習態度と協働スキルの育成：ペアまたはグループワークを通じて、自発的に学びを深めるとともに、他者と協力しながら調査・分析・発表を進める力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、テーマに関連する文献の輪読と、ペアまたはグループワークを組み合わせた形式で進めます。前半はデータ分析のさまざまな手法について学び、理解を深めます。中盤では、各ペアまたはグループが実施したフィールド調査の結果に基づく分析を行います。後半では、調査から得られた知見をもとに論理的に解決策を検討し、最終発表を行います。これらの活動を通じて、理論の実践的応用、問題解決力、主体的な学びと協働スキルの向上を目指します。なお、輪読する文献は英語で書かれたものなので、受講生には一定程度の英語読解能力が求められます。

学期を通して、ペアまたはグループで(1)実施した調査の概要報告、(2)調査分析の進捗報告、(3)プロジェクトの最終発表を行い、これらが本授業の主な課題となります。プロジェクトに関する相談や発表・報告に対するフィードバックは、授業時間中や授業の前後に適宜行うとともに、メールやその他のコミュニケーションツールも使いながら行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・春学期の学びの振り返り ・秋学期の授業の進め方の説明
第2回	フィールド調査の実施報告の準備	・各自が収集したフィールド調査のデータ整理 ・ペアまたはグループで発表の準備
第3回	フィールド調査の実施報告	・ペアまたはグループで実施した調査の概要報告 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第4回	文献の輪読①	・多様なデータの分析方法とそのメリット／デメリットの確認 ・ディスカッション
第5回	文献の輪読②	・多様なデータの分析方法とそのメリット／デメリットの確認 ・ディスカッション
第6回	文献の輪読③	・多様なデータの分析方法とそのメリット／デメリットの確認 ・ディスカッション
第7回	データの分析①	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・フォローアップ調査
第8回	データの分析②	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・フォローアップ調査
第9回	データの分析③	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・進捗報告の準備

第10回	分析の進捗報告	・採用した分析方法と分析の進捗報告 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第11回	考察①	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察
第12回	考察②	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察
第13回	考察③	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察 ・最終発表の準備
第14回	プロジェクトの最終発表	・プロジェクトを通して明らかになったことやその意義についての発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、学期中にフォローアップ調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均2-3時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

調査の実施報告（ペアまたはグループ）：20%
調査分析の進捗報告（ペアまたはグループ）：20%
プロジェクトの最終発表（ペアまたはグループ）：30%
各発表の資料提出（ペアまたはグループ）：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は通年開講の授業なので、春学期から継続して受講することが推奨されます。履修に際しての英語能力については、読解能力があれば問題なく授業に参加することができます。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn on the theme of organizational management in a student-centered, project-based learning environment. Students work in pairs or groups to analyze and solve real-world problems by setting up various subthemes related to organizational management. By conducting research projects while utilizing literature research, case studies, and fieldwork, students will deepen their practical knowledge of the theme and cultivate their logical thinking, independent learning, and collaboration skills.

Through this course, students are expected to (1) understand and effectively utilize data analysis methods, (2) improve problem-solving and logical thinking skills through data analysis, and (3) develop independent learning attitudes and collaborative skills through pair or group work.

Students are required to read through the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class to fully understand the content. Students will also be expected to prepare and conduct follow-up surveys during the project period, which will require them to work with team members outside of class. The amount of time outside of class time required for preparation, review, and activities related to the project will require an average of 2-3 hours per week.

Grading for this study will be as follows: 20% for report of survey implementation (pair or group), 20% for progress report of survey analysis (pair or group), 30% for final project presentations (pair or group), and 30% for submission of materials for each presentation (pair or group).

演習3

戎谷 梓

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織マネジメントをテーマに、受講者主体のプロジェクトベースで学習を進めます。学生はペアまたはグループになって、組織マネジメントに関する多様な下位テーマを設定し、実社会の課題分析・解決を目指します。文献調査、ケーススタディ、フィールドワークを活用しながら研究プロジェクトを行うことにより、テーマに関する実践的な知見を深めるとともに、論理的思考力や主体的な学びと協働能力を養成します。

【到達目標】

- 本授業を通して、受講者には以下の達成が期待できます。
1. 組織マネジメントの理論と実践の理解：文献調査やケーススタディを通じて、組織マネジメントに関する主要な理論や概念を理解し、実社会の課題に適用できるようにする。
 2. 問題解決力と論理的思考力の向上：設定した下位テーマに基づき、データ分析やフィールドワークを実施し、論理的なアプローチで課題の本質を見極め、実践的な解決策を提案できるようにする。
 3. 主体的な学習態度と協働スキルの育成：ペアまたはグループでの研究活動を通じて、積極的に学習を進める姿勢を身につけるとともに、協働による意思決定やプレゼンテーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、テーマに関連する文献の輪読と、ペアまたはグループワークを組み合わせた形式で進めます。前半は組織マネジメントに関する理論を学び、ケーススタディを通じて理解を深めます。中盤では、各ペアまたはグループが設定した下位テーマに基づき、文献調査やフィールドワークを実施し、課題の分析を行います。後半では、得られた知見をもとに論理的に解決策を検討し、プレゼンテーションを行います。これらの活動を通じて、理論の実践的応用、問題解決力、主体的な学びと協働スキルの向上を目指します。なお、輪読する文献は英語で書かれたものなので、受講生には一定程度の英語読解能力が求められます。

学期を通して、ペアまたはグループで(1)設定したテーマに関する発表、(2)文献調査に基づく発表、(3)プロジェクトの進捗報告を行い、これらが本授業の主な課題となります。プロジェクトに関する相談や発表・報告に対するフィードバックは、授業時間中や授業の前後に適宜行うとともに、メールやその他のコミュニケーションツールも使いながら行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・グループ分けとテーマ設定のガイダンス
第2回	文献輪読①	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第3回	文献輪読②	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第4回	文献輪読③	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第5回	テーマ設定と発表準備	・ペアまたはグループで下位テーマを決定 ・テーマ発表の準備
第6回	テーマの発表	・ペアまたはグループで設定した下位テーマの発表 ・先行研究調査の進め方を確認
第7回	文献調査①	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築
第8回	文献調査②	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築

第9回	文献調査③	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築 ・発表準備
第10回	文献調査に基づく発表	・調査した文献の概要とポイントを発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第11回	フィールド調査の計画①	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第12回	フィールド調査の計画②	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第13回	フィールド調査の計画③	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第14回	進捗発表	・計画中のフィールド調査に関する発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、プロジェクト期間中には調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均2-3時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表（ペアまたはグループ）：20%
 文献に基づく発表（ペアまたはグループ）：20%
 フィールド調査デザインの発表（ペアまたはグループ）：30%
 各発表の資料提出（ペアまたはグループ）：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は通年開講の授業なので、春学期・秋学期の両方を受講することが推奨されます。また、1年を通じてフィールドワークに基づく分析やディスカッションを行うため、授業時間外や夏休み期間にも積極的にプロジェクトに取り組む態度が求められます。履修に際しての英語能力については、読解能力があれば問題なく授業に参加することができます。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is a student-led, project-based learning course on the theme of organizational management. Students work in pairs or groups to analyze and solve real-world problems by setting up various subthemes related to organizational management. By conducting research projects while utilizing literature research, case studies, and fieldwork, students will deepen their practical knowledge of the theme and cultivate their logical thinking, independent learning, and collaboration skills.

Through this course, students will be able to (1) understand the theory and practice of organizational management, (2) improve problem-solving and logical thinking skills, and (3) develop independent learning attitudes and collaborative skills.

Students are required to read through the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class to fully understand the content. Students will also be expected to prepare and conduct research during the project period, which will require them to work with team members outside of class. On average, 2-3 hours per week will be required outside of class time for preparation, review, and project-related activities.

In addition, this course will be graded as follows: 20% for theme presentation (pair or group), 20% for literature-based presentation (pair or group), 30% for field-research design presentation (pair or group), and 30% for submission of materials for each presentation (pair or group).

演習4

戎谷 梓

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織マネジメントをテーマに、受講者主体のプロジェクトベースで学習を進めます。学生はペアまたはグループになって、組織マネジメントに関する多様な下位テーマを設定し、実社会の課題分析・解決を目指します。文献調査、ケーススタディ、フィールドワークを活用しながら研究プロジェクトを行うことにより、テーマに関する実践的な知見を深めるとともに、論理的思考力や主体的な学びと協働能力を養成します。

【到達目標】

本授業を通して、受講者には以下の達成が期待できます。

1. データ分析手法の理解と活用：データ分析の基礎を学び、フィールド調査で得たデータを適切な手法で分析できるようになる。
2. 問題解決力と論理的思考力の向上：調査結果をもとに論理的に課題を整理し、データに基づいた実践的な解決策を提案できるようになる。
3. 主体的な学習態度と協働スキルの育成：ペアまたはグループワークを通じて、自発的に学びを深めるとともに、他者と協力しながら調査・分析・発表を進める力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、テーマに関連する文献の輪読と、ペアまたはグループワークを組み合わせた形式で進めます。前半はデータ分析のさまざまな手法について学び、理解を深めます。中盤では、各ペアまたはグループが実施したフィールド調査の結果に基づく分析を行います。後半では、調査から得られた知見をもとに論理的に解決策を検討し、最終発表を行います。これらの活動を通じて、理論の実践的応用、問題解決力、主体的な学びと協働スキルの向上を目指します。なお、輪読する文献は英語で書かれたものなので、受講生には一定程度の英語読解能力が求められます。

学期を通して、ペアまたはグループで(1)実施した調査の概要報告、(2)調査分析の進捗報告、(3)プロジェクトの最終発表を行い、これらが本授業の主な課題となります。プロジェクトに関する相談や発表・報告に対するフィードバックは、授業時間中や授業の前後に適宜行うとともに、メールやその他のコミュニケーションツールも使いながら行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・春学期の学びの振り返り ・秋学期の授業の進め方の説明
第2回	フィールド調査の実施報告の準備	・各自が収集したフィールド調査のデータ整理 ・ペアまたはグループで発表の準備
第3回	フィールド調査の実施報告	・ペアまたはグループで実施した調査の概要報告 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第4回	文献の輪読①	・多様なデータの分析方法とそのメリット/デメリットの確認 ・ディスカッション
第5回	文献の輪読②	・多様なデータの分析方法とそのメリット/デメリットの確認 ・ディスカッション
第6回	文献の輪読③	・多様なデータの分析方法とそのメリット/デメリットの確認 ・ディスカッション
第7回	データの分析①	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・フォローアップ調査
第8回	データの分析②	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・フォローアップ調査
第9回	データの分析③	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・進捗報告の準備

第10回	分析の進捗報告	・採用した分析方法と分析の進捗報告 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第11回	考察①	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察
第12回	考察②	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察
第13回	考察③	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察 ・最終発表の準備
第14回	プロジェクトの最終発表	・プロジェクトを通して明らかになったことやその意義についての発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、学期中にフォローアップ調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均2-3時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

調査の実施報告（ペアまたはグループ）：20%
調査分析の進捗報告（ペアまたはグループ）：20%
プロジェクトの最終発表（ペアまたはグループ）：30%
各発表の資料提出（ペアまたはグループ）：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は通年開講の授業なので、春学期から継続して受講することが推奨されます。履修に際しての英語能力については、読解能力があれば問題なく授業に参加することができます。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn on the theme of organizational management in a student-centered, project-based learning environment. Students work in pairs or groups to analyze and solve real-world problems by setting up various subthemes related to organizational management. By conducting research projects while utilizing literature research, case studies, and fieldwork, students will deepen their practical knowledge of the theme and cultivate their logical thinking, independent learning, and collaboration skills.

Through this course, students are expected to (1) understand and effectively utilize data analysis methods, (2) improve problem-solving and logical thinking skills through data analysis, and (3) develop independent learning attitudes and collaborative skills through pair or group work.

Students are required to read through the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class to fully understand the content. Students will also be expected to prepare and conduct follow-up surveys during the project period, which will require them to work with team members outside of class. The amount of time outside of class time required for preparation, review, and activities related to the project will require an average of 2-3 hours per week.

Grading for this study will be as follows: 20% for report of survey implementation (pair or group), 20% for progress report of survey analysis (pair or group), 30% for final project presentations (pair or group), and 30% for submission of materials for each presentation (pair or group).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

戎谷 梓

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織マネジメントをテーマに、受講者主体のプロジェクトベースで学習を進めます。学生はペアまたはグループになって、組織マネジメントに関する多様な下位テーマを設定し、実社会の課題分析・解決を目指します。文献調査、ケーススタディ、フィールドワークを活用しながら研究プロジェクトを行うことにより、テーマに関する実践的な知見を深めるとともに、論理的思考力や主体的な学びと協働能力を養成します。

【到達目標】

- 本授業を通して、受講者には以下の達成が期待できます。
1. 組織マネジメントの理論と実践の理解：文献調査やケーススタディを通じて、組織マネジメントに関する主要な理論や概念を理解し、実社会の課題に適用できるようにする。
 2. 問題解決力と論理的思考力の向上：設定した下位テーマに基づき、データ分析やフィールドワークを実施し、論理的なアプローチで課題の本質を見極め、実践的な解決策を提案できるようにする。
 3. 主体的な学習態度と協働スキルの育成：ペアまたはグループでの研究活動を通じて、積極的に学習を進める姿勢を身につけるとともに、協働による意思決定やプレゼンテーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、テーマに関連する文献の輪読と、ペアまたはグループワークを組み合わせた形式で進めます。前半は組織マネジメントに関する理論を学び、ケーススタディを通じて理解を深めます。中盤では、各ペアまたはグループが設定した下位テーマに基づき、文献調査やフィールドワークを実施し、課題の分析を行います。後半では、得られた知見をもとに論理的に解決策を検討し、プレゼンテーションを行います。これらの活動を通じて、理論の実践的応用、問題解決力、主体的な学びと協働スキルの向上を目指します。なお、輪読する文献は英語で書かれたものなので、受講生には一定程度の英語読解能力が求められます。

学期を通して、ペアまたはグループで(1)設定したテーマに関する発表、(2)文献調査に基づく発表、(3)プロジェクトの進捗報告を行い、これらが本授業の主な課題となります。プロジェクトに関する相談や発表・報告に対するフィードバックは、授業時間中や授業の前後に適宜行うとともに、メールやその他のコミュニケーションツールも使いながら行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・グループ分けとテーマ設定のガイダンス
第2回	文献輪読①	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第3回	文献輪読②	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第4回	文献輪読③	・ケーススタディに基づく企業や組織の成功および失敗要因の分析 ・ディスカッション
第5回	テーマ設定と発表準備	・ペアまたはグループで下位テーマを決定 ・テーマ発表の準備
第6回	テーマの発表	・ペアまたはグループで設定した下位テーマの発表 ・先行研究調査の進め方を確認
第7回	文献調査①	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築
第8回	文献調査②	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築

第9回	文献調査③	・ペアまたはグループで収集した文献に基づくディスカッション ・先行研究に基づく仮説の構築 ・発表準備
第10回	文献調査に基づく発表	・調査した文献の概要とポイントを発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第11回	フィールド調査の計画①	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第12回	フィールド調査の計画②	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第13回	フィールド調査の計画③	・課題分析のためのデータ収集計画 ・アンケート、インタビュー、参与観察の設計
第14回	進捗発表	・計画中のフィールド調査に関する発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、プロジェクト期間中には調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均2-3時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表（ペアまたはグループ）：20%
文献に基づく発表（ペアまたはグループ）：20%
フィールド調査デザインの発表（ペアまたはグループ）：30%
各発表の資料提出（ペアまたはグループ）：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は通年開講の授業なので、春学期・秋学期の両方を受講することが推奨されます。また、1年を通じてフィールドワークに基づく分析やディスカッションを行うため、授業時間外や夏休み期間にも積極的にプロジェクトに取り組む態度が求められます。履修に際しての英語能力については、読解能力があれば問題なく授業に参加することができます。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is a student-led, project-based learning course on the theme of organizational management. Students work in pairs or groups to analyze and solve real-world problems by setting up various subthemes related to organizational management. By conducting research projects while utilizing literature research, case studies, and fieldwork, students will deepen their practical knowledge of the theme and cultivate their logical thinking, independent learning, and collaboration skills.

Through this course, students will be able to (1) understand the theory and practice of organizational management, (2) improve problem-solving and logical thinking skills, and (3) develop independent learning attitudes and collaborative skills.

Students are required to read through the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class to fully understand the content. Students will also be expected to prepare and conduct research during the project period, which will require them to work with team members outside of class. On average, 2-3 hours per week will be required outside of class time for preparation, review, and project-related activities.

In addition, this course will be graded as follows: 20% for theme presentation (pair or group), 20% for literature-based presentation (pair or group), 30% for field-research design presentation (pair or group), and 30% for submission of materials for each presentation (pair or group).

演習6

戎谷 梓

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織マネジメントをテーマに、受講者主体のプロジェクトベースで学習を進めます。学生はペアまたはグループになって、組織マネジメントに関する多様な下位テーマを設定し、実社会の課題分析・解決を目指します。文献調査、ケーススタディ、フィールドワークを活用しながら研究プロジェクトを行うことにより、テーマに関する実践的な知見を深めるとともに、論理的思考力や主体的な学びと協働能力を養成します。

【到達目標】

- 本授業を通して、受講者には以下の達成が期待できます。
1. データ分析手法の理解と活用：データ分析の基礎を学び、フィールド調査で得たデータを適切な手法で分析できるようになる。
 2. 問題解決力と論理的思考力の向上：調査結果をもとに論理的に課題を整理し、データに基づいた実践的な解決策を提案できるようになる。
 3. 主体的な学習態度と協働スキルの育成：ペアまたはグループワークを通じて、自発的に学びを深めるとともに、他者と協力しながら調査・分析・発表を進める力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、テーマに関連する文献の輪読と、ペアまたはグループワークを組み合わせた形式で進めます。前半はデータ分析のさまざまな手法について学び、理解を深めます。中盤では、各ペアまたはグループが実施したフィールド調査の結果に基づく分析を行います。後半では、調査から得られた知見をもとに論理的に解決策を検討し、最終発表を行います。これらの活動を通じて、理論の実践的応用、問題解決力、主体的な学びと協働スキルの向上を目指します。なお、輪読する文献は英語で書かれたものなので、受講生には一定程度の英語読解能力が求められます。

学期を通して、ペアまたはグループで(1)実施した調査の概要報告、(2)調査分析の進捗報告、(3)プロジェクトの最終発表を行い、これらが本授業の主な課題となります。プロジェクトに関する相談や発表・報告に対するフィードバックは、授業時間中や授業の前後に適宜行うとともに、メールやその他のコミュニケーションツールも使いながら行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・春学期の学びの振り返り ・秋学期の授業の進め方の説明
第2回	フィールド調査の実施報告の準備	・各自が収集したフィールド調査のデータ整理 ・ペアまたはグループで発表の準備
第3回	フィールド調査の実施報告	・ペアまたはグループで実施した調査の概要報告 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第4回	文献の輪読①	・多様なデータの分析方法とそのメリット／デメリットの確認 ・ディスカッション
第5回	文献の輪読②	・多様なデータの分析方法とそのメリット／デメリットの確認 ・ディスカッション
第6回	文献の輪読③	・多様なデータの分析方法とそのメリット／デメリットの確認 ・ディスカッション
第7回	データの分析①	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・フォローアップ調査
第8回	データの分析②	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・フォローアップ調査
第9回	データの分析③	・ペアまたはグループで採用した手法に基づくデータ分析 ・進捗報告の準備

第10回	分析の進捗報告	・採用した分析方法と分析の進捗報告 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック
第11回	考察①	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察
第12回	考察②	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察
第13回	考察③	・進捗報告で受けたフィードバックに基づく方向性の調整 ・分析結果の考察 ・最終発表の準備
第14回	プロジェクトの最終発表	・プロジェクトを通して明らかになったことやその意義についての発表 ・教員および他のペアまたはグループからのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、学期中にフォローアップ調査の準備や実施があり、その際には授業外の時間にチームメンバーと活動する必要も生じます。事前準備や復習、プロジェクトに関する活動に必要な授業時間外の時間は、週に平均2-3時間ほど必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

調査の実施報告（ペアまたはグループ）：20%
調査分析の進捗報告（ペアまたはグループ）：20%
プロジェクトの最終発表（ペアまたはグループ）：30%
各発表の資料提出（ペアまたはグループ）：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は通年開講の授業なので、春学期から継続して受講することが推奨されます。履修に際しての英語能力については、読解能力があれば問題なく授業に参加することができます。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn on the theme of organizational management in a student-centered, project-based learning environment. Students work in pairs or groups to analyze and solve real-world problems by setting up various subthemes related to organizational management. By conducting research projects while utilizing literature research, case studies, and fieldwork, students will deepen their practical knowledge of the theme and cultivate their logical thinking, independent learning, and collaboration skills.

Through this course, students are expected to (1) understand and effectively utilize data analysis methods, (2) improve problem-solving and logical thinking skills through data analysis, and (3) develop independent learning attitudes and collaborative skills through pair or group work.

Students are required to read through the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class to fully understand the content. Students will also be expected to prepare and conduct follow-up surveys during the project period, which will require them to work with team members outside of class. The amount of time outside of class time required for preparation, review, and activities related to the project will require an average of 2-3 hours per week.

Grading for this study will be as follows: 20% for report of survey implementation (pair or group), 20% for progress report of survey analysis (pair or group), 30% for final project presentations (pair or group), and 30% for submission of materials for each presentation (pair or group).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

池田 宏一郎

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択（準備）
第2回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択（検討）
第3回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択（決定）
第4回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（準備）
第5回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（検討）
第6回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（決定）
第7回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（準備）
第8回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（検討）
第9回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（まとめ）
第10回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（準備）
第11回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（検討）
第12回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（まとめ）
第13回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（検討）
第14回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（決定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力をレポート（30%）および発表（50%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」、「教養数学A/B」、「確率の世界A/B」、「発展数学Ⅰ/Ⅱ」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

池田 宏一郎

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択（準備）
第2回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択（検討）
第3回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択（決定）
第4回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（準備）
第5回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（検討）
第6回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（決定）
第7回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（準備）
第8回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（検討）
第9回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（まとめ）
第10回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（準備）
第11回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（検討）
第12回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（まとめ）
第13回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（検討）
第14回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（決定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力をレポート（30%）および発表（50%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」、「教養数学A/B」、「確率の世界A/B」、「発展数学LL/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

池田 宏一郎

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択（準備）
第2回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択（検討）
第3回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択（決定）
第4回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（準備）
第5回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（検討）
第6回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（決定）
第7回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（準備）
第8回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（検討）
第9回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（まとめ）
第10回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（準備）
第11回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（検討）
第12回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（まとめ）
第13回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（検討）
第14回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（決定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力をレポート（30%）および発表（50%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」、「教養数学A/B」、「確率の世界A/B」、「発展数学Ⅰ/Ⅱ」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

池田 宏一郎

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択（準備）
第2回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択（検討）
第3回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択（決定）
第4回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（準備）
第5回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（検討）
第6回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（決定）
第7回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（準備）
第8回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（検討）
第9回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（まとめ）
第10回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（準備）
第11回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（検討）
第12回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（まとめ）
第13回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（検討）
第14回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（決定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力をレポート（30%）および発表（50%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」、「教養数学A/B」、「確率の世界A/B」、「発展数学Ⅰ/Ⅱ」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

池田 宏一郎

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択（準備）
第2回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択（検討）
第3回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択（決定）
第4回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（準備）
第5回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（検討）
第6回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（決定）
第7回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（準備）
第8回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（検討）
第9回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（まとめ）
第10回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（準備）
第11回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（検討）
第12回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（まとめ）
第13回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（検討）
第14回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（決定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力をレポート（30%）および発表（50%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」、「教養数学A/B」、「確率の世界A/B」、「発展数学Ⅰ/Ⅱ」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

池田 宏一郎

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択（準備）
第2回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択（検討）
第3回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択（決定）
第4回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（準備）
第5回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（検討）
第6回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定（決定）
第7回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（準備）
第8回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（検討）
第9回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習（まとめ）
第10回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（準備）
第11回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（検討）
第12回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに確認（まとめ）
第13回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（検討）
第14回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較（決定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力をレポート（30%）および発表（50%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」、「教養数学A/B」、「確率の世界A/B」、「発展数学Ⅰ/Ⅱ」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

稲垣 京輔

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスト）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

サブゼミを、各グループ毎に開催し、研究課題を導出し、それぞれの関連文献の購読を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第2回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第3回	グループワーク	研究テーマの選定
第4回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第5回	グループワーク	研究テーマの選定
第6回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第7回	グループワーク	文献の探索
第8回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第9回	グループワーク	文献の探索
第10回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第11回	グループワーク	フィールド調査の計画
第12回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第13回	グループワーク	フィールド調査の計画
第14回	研究中間報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
- ・課題レポート（前期・後期）40%
- ・ゼミへのコミットメント30%

（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要。今年度から対面となります。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in their field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. ... Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

稲垣 京輔

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

秋学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

サブゼミを、各グループ毎に開催し、研究課題を導出し、それぞれの関連文献の購読を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第2回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第3回	グループワーク	研究テーマの選定
第4回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第5回	グループワーク	研究テーマの選定
第6回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第7回	グループワーク	文献の探索
第8回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第9回	グループワーク	文献の探索
第10回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第11回	グループワーク	フィールド調査の計画
第12回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第13回	グループワーク	フィールド調査の計画
第14回	研究報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定しますが、以下のものと考えてます。

清水洋「アントレプレナーシップ」有斐閣

長内、水野他「イノベーション・マネジメント」中央経済社

【参考書】

参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定しますが、以下のものと考えてます。

シルバースタイン他「発注を事業化するイノベーション・ツールキット：機会の特長から実現性の証明まで」英知出版

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
 - ・課題レポート（前期・後期）40%
 - ・ゼミへのコミットメント30%
- （留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【その他の重要事項】

- ・春学期・秋学期合わせての履修が必要です
- 今年度から対面に切り替えます。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in the field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

稲垣 京輔

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスト）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

サブゼミを、各グループ毎に開催し、研究課題を導出し、それぞれの関連文献の購読を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第2回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第3回	グループワーク	研究テーマの選定
第4回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第5回	グループワーク	研究テーマの選定
第6回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第7回	グループワーク	文献の探索
第8回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第9回	グループワーク	文献の探索
第10回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第11回	グループワーク	フィールド調査の計画
第12回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第13回	グループワーク	フィールド調査の計画
第14回	研究中間報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
- ・課題レポート（前期・後期）40%
- ・ゼミへのコミットメント30%

（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要。今年度から対面となります。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in their field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. ... Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

稲垣 京輔

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

秋学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

サブゼミを、各グループ毎に開催し、研究課題を導出し、それぞれの関連文献の購読を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第2回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第3回	グループワーク	研究テーマの選定
第4回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第5回	グループワーク	研究テーマの選定
第6回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第7回	グループワーク	文献の探索
第8回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第9回	グループワーク	文献の探索
第10回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第11回	グループワーク	フィールド調査の計画
第12回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第13回	グループワーク	フィールド調査の計画
第14回	研究報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定しますが、以下のものと考えてます。

清水洋「アントレプレナーシップ」有斐閣

長内、水野他「イノベーション・マネジメント」中央経済社

【参考書】

参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定しますが、以下のものと考えてます。

シルバースタイン他「発注を事業化するイノベーション・ツールキット：機会の特典から実現性の証明まで」英知出版

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
 - ・課題レポート（前期・後期）40%
 - ・ゼミへのコミットメント30%
- （留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【その他の重要事項】

- ・春学期・秋学期合わせての履修が必要です
- 今年度から対面に切り替えます。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in the field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

稲垣 京輔

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスション）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

サブゼミを、各グループ毎に開催し、研究課題を導出し、それぞれの関連文献の購読を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第2回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第3回	グループワーク	研究テーマの選定
第4回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第5回	グループワーク	研究テーマの選定
第6回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第7回	グループワーク	文献の探索
第8回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第9回	グループワーク	文献の探索
第10回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第11回	グループワーク	フィールド調査の計画
第12回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第13回	グループワーク	フィールド調査の計画
第14回	研究中間報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
- ・課題レポート（前期・後期）40%
- ・ゼミへのコミットメント30%

（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要。今年度から対面となります。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in their field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. ... Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

稲垣 京輔

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

秋学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

サブゼミを、各グループ毎に開催し、研究課題を導出し、それぞれの関連文献の購読を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第2回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第3回	グループワーク	研究テーマの選定
第4回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第5回	グループワーク	研究テーマの選定
第6回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第7回	グループワーク	文献の探索
第8回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第9回	グループワーク	文献の探索
第10回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第11回	グループワーク	フィールド調査の計画
第12回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第13回	グループワーク	フィールド調査の計画
第14回	研究報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定しますが、以下のものと考えてます。

清水洋「アントレプレナーシップ」有斐閣

長内、水野他「イノベーション・マネジメント」中央経済社

【参考書】

参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定しますが、以下のものと考えてます。

シルバースタイン他「発注を事業化するイノベーション・ツールキット：機会の特長から実現性の証明まで」英知出版

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
 - ・課題レポート（前期・後期）40%
 - ・ゼミへのコミットメント30%
- （留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【その他の重要事項】

- ・春学期・秋学期合わせての履修が必要です
- 今年度から対面に切り替えます。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in the field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

中西 善信

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは、社会生活を豊かにする上で非常に重要である。

本ゼミは、これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し、組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため、関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて、自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。

このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は、各スキルの背景となる理論の理解に加え、下級生の指導を通じて、コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】

1. 組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
2. 組織内での問題解決に向け、働きかけることができる。
3. アイスブレイク、傾聴、アサーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ライティングの各技法について、基本的な指導を行うことができる（組織において、これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に、参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは、様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を、各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは、ディスカッションのほか、ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。

そして、これらワークのテーマや工程の立案、当日の進行も、ゼミ生（通常、2、3名程度のグループ）が主体的に行う。

内容については、授業計画を基本としつつ、参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

課題等に対しては、演習時間中に主に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレイク
第2回	アイスブレイクのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の希望も踏まえ、別途指定する。

【参考書】

別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習の程度（30%）

ゼミへの参加の程度（55%）

まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学習内容を日常生活と関連づけて考えさせることを心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため、パソコンが必要。

【関連科目】

経営管理論I/II, 経営組織論, 組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.

[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.

[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Degree of preparation (30%)

Extent of participation (55%)

Contents of summary presentation (15%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

中西 善信

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは、社会生活を豊かにする上で非常に重要である。

本ゼミは、これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し、組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため、関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて、自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。

このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は、各スキルの背景となる理論の理解に加え、下級生の指導を通じて、コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】

1. 組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
2. 組織内での問題解決に向け、働きかけることができる。
3. アイスブレイク、傾聴、アサーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ライティングの各技法について、基本的な指導を行うことができる（組織において、これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に、参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは、様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を、各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは、ディスカッションのほか、ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。

そして、これらワークのテーマや工程の立案、当日の進行も、ゼミ生（通常、2、3名程度のグループ）が主体的に行う。

内容については、授業計画を基本としつつ、参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

課題等に対しては、演習時間中に主に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレイク
第2回	アイスブレイクのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の希望も踏まえ、別途指定する。

【参考書】

別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習の程度（30%）

ゼミへの参加の程度（55%）

まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学習内容を日常生活と関連づけて考えさせることを心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため、パソコンが必要。

【関連科目】

経営管理論I/II, 経営組織論, 組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.

[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.

[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Degree of preparation (30%)

Extent of participation (55%)

Contents of summary presentation (15%)

演習3

中西 善信

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは、社会生活を豊かにする上で非常に重要である。

本ゼミは、これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し、組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため、関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて、自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。

このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は、各スキルの背景となる理論の理解に加え、下級生の指導を通じて、コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】

1. 組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
2. 組織内での問題解決に向け、働きかけることができる。
3. アイスブレイク、傾聴、アサーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ライティングの各技法について、基本的な指導を行うことができる（組織において、これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に、参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは、様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を、各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは、ディスカッションのほか、ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。

そして、これらワークのテーマや工程の立案、当日の進行も、ゼミ生（通常、2、3名程度のグループ）が主体的に行う。

内容については、授業計画を基本としつつ、参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

課題等に対しては、演習時間中に主に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレイク
第2回	アイスブレイクのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の希望も踏まえ、別途指定する。

【参考書】

別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習の程度（30%）

ゼミへの参加の程度（55%）

まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学習内容を日常生活と関連づけて考えさせることを心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため、パソコンが必要。

【関連科目】

経営管理論I/II、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.

[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.

[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Degree of preparation (30%)

Extent of participation (55%)

Contents of summary presentation (15%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

中西 善信

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは、社会生活を豊かにする上で非常に重要である。

本ゼミは、これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し、組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため、関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて、自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。

このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は、各スキルの背景となる理論の理解に加え、下級生の指導を通じて、コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】

1. 組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
2. 組織内での問題解決に向け、働きかけることができる。
3. アイスブレイク、傾聴、アサーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ライティングの各技法について、基本的な指導を行うことができる（組織において、これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に、参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは、様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を、各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは、ディスカッションのほか、ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。

そして、これらワークのテーマや工程の立案、当日の進行も、ゼミ生（通常、2、3名程度のグループ）が主体的に行う。

内容については、授業計画を基本としつつ、参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

課題等に対しては、演習時間中に主に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレイク
第2回	アイスブレイクのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の希望も踏まえ、別途指定する。

【参考書】

別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習の程度（30%）

ゼミへの参加の程度（55%）

まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学習内容を日常生活と関連づけて考えさせることを心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため、パソコンが必要。

【関連科目】

経営管理論I/II、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.

[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.

[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Degree of preparation (30%)

Extent of participation (55%)

Contents of summary presentation (15%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

中西 善信

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは、社会生活を豊かにする上で非常に重要である。

本ゼミは、これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し、組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため、関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて、自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。

このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は、各スキルの背景となる理論の理解に加え、下級生の指導を通じて、コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】

1. 組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
2. 組織内での問題解決に向け、働きかけることができる。
3. アイスブレイク、傾聴、アサーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ライティングの各技法について、基本的な指導を行うことができる（組織において、これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に、参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは、様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を、各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは、ディスカッションのほか、ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。

そして、これらワークのテーマや工程の立案、当日の進行も、ゼミ生（通常、2、3名程度のグループ）が主体的に行う。

内容については、授業計画を基本としつつ、参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

課題等に対しては、演習時間中に主に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレイク
第2回	アイスブレイクのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の希望も踏まえ、別途指定する。

【参考書】

別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習の程度（30%）

ゼミへの参加の程度（55%）

まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学習内容を日常生活と関連づけて考えさせることを心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため、パソコンが必要。

【関連科目】

経営管理論I/II, 経営組織論, 組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.

[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.

[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Degree of preparation (30%)

Extent of participation (55%)

Contents of summary presentation (15%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

中西 善信

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは、社会生活を豊かにする上で非常に重要である。

本ゼミは、これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し、組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため、関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて、自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。

このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は、各スキルの背景となる理論の理解に加え、下級生の指導を通じて、コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】

1. 組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
2. 組織内での問題解決に向け、働きかけることができる。
3. アイスブレイク、傾聴、アサーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ライティングの各技法について、基本的な指導を行うことができる（組織において、これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に、参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは、様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を、各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは、ディスカッションのほか、ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。

そして、これらワークのテーマや工程の立案、当日の進行も、ゼミ生（通常、2、3名程度のグループ）が主体的に行う。

内容については、授業計画を基本としつつ、参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

課題等に対しては、演習時間中に主に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレイク
第2回	アイスブレイクのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の希望も踏まえ、別途指定する。

【参考書】

別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習の程度（30%）

ゼミへの参加の程度（55%）

まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学習内容を日常生活と関連づけて考えさせることを心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため、パソコンが必要。

【関連科目】

経営管理論I/II, 経営組織論, 組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.

[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.

[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Degree of preparation (30%)

Extent of participation (55%)

Contents of summary presentation (15%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

大木 良子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1～2万字程度のレポートを執筆します。課題等に対するフィードバック方法としては、毎回の授業での各自の提出物、プレゼンテーションへの教員からのコメントに加え、レポートに対しては学期終了後に学習支援システム等を通じて個別にコメントを共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキスト報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。 その他ゼミの進め方について情報共有し、スケジュールや役割分担等を決定する。
第2回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト0章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第3回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト1章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第4回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト2章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第5回	ロジックツリーの理解	・日本語論文を読み、グループごとにそのロジックツリーを作成する ・ロジックツリーに基づき論文の要約を作成する。
第6回	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
第7回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト3章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第8回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト4章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理

第9回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト5章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第10回	テキストに関する復習	テキストについてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
第11回	学術的な文章の書き方	例題を通じて、アカデミックな文章のルールについて学ぶ。
第12回	グループディスカッション：事例研究	産業組織論を用いて、最近の競争政策事例についてグループごとに分析する。
第13回	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
第14回	インゼミ準備	担当テーマに基づき、夏休み期間中の調査計画をたて、グループ内で分担を行う 現段階でのテーマの共通理解、仮説を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく受講生に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。
事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 2018年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50%

指定された提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
 2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
 3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

大木 良子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
 2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
 3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
 4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1～2万字程度のレポートを執筆します。
- 課題等に対するフィードバック方法としては、毎回の授業での各自の提出物、プレゼンテーションへの教員からのコメントに加え、レポートに対しては学期終了後に学習支援システム等を通じて個別にコメントを共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インゼミテーマごとの調査報告	夏休みに進めた調査内容を各自報告し、各テーマで今後の取りまとめ方針を決定する。
第2回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト6章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第3回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト7章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第4回	・テキストの輪読・ロジカルシンキング ・インゼミ準備	・テキスト8章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第5回	インゼミテーマ中間報告会	テーマごとにプレゼンテーションを行い、参加者からの質疑応答を受けて、この先の作業方針を固める。
第6回	インゼミ準備	プレゼンテーションのメインメッセージを確定し、プレゼンテーションの構成を考える。
第7回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト9章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第8回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト10章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備

第9回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト11章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第10回	インゼミ予行練習	当日と同様のプレゼンテーションを行い、仕上げの作業を行う。
第11回	期末レポートテーマ発表・学術的な文章の書き方	インゼミテーマに基づき、論文テーマや構成を考える。学術的論文のルールを確認する。
第12回	インゼミ	テーマごとに、プレゼンテーション、討論、質疑応答を行う。担当教員からの講評をもらう。
第13回	テキスト復習	輪読したテキストの内容を応用した練習問題をチームに分かれて解く。
第14回	期末レポート報告会	インゼミテーマに基づいた各自の期末レポートを受講生全員で読み合い、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50%

指定された提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

大木 良子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
 2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
 3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
 4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1～2万字程度のレポートを執筆します。
- 課題等に対するフィードバック方法としては、毎回の授業での各自の提出物、プレゼンテーションへの教員からのコメントに加え、レポートに対しては学期終了後に学習支援システム等を通じて個別にコメントを共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキスト報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。 その他ゼミの進め方について情報共有し、スケジュールや役割分担等を決定する。
第2回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト0章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第3回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト1章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第4回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト2章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第5回	ロジックツリーの理解	・日本語論文を読み、グループごとにそのロジックツリーを作成する ・ロジックツリーに基づき論文の要約を作成する。
第6回	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
第7回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト3章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第8回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト4章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理

第9回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト5章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第10回	テキストに関する復習	テキストについてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
第11回	学術的な文章の書き方	例題を通じて、アカデミックな文章のルールについて学ぶ。
第12回	グループディスカッション：事例研究	産業組織論を用いて、最近の競争政策事例についてグループごとに分析する。
第13回	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
第14回	インゼミ準備	担当テーマに基づき、夏休み期間中の調査計画をたて、グループ内で分担を行う 現段階でのテーマの共通理解、仮説を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく受講生に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 2018年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50%

指定された提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
 2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
 3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

大木 良子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
 2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
 3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
 4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1～2万字程度のレポートを執筆します。
- 課題等に対するフィードバック方法としては、毎回の授業での各自の提出物、プレゼンテーションへの教員からのコメントに加え、レポートに対しては学期終了後に学習支援システム等を通じて個別にコメントを共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インゼミテーマごとの調査報告	夏休みに進めた調査内容を各自報告し、各テーマで今後の取りまとめ方針を決定する。
第2回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト6章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第3回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト7章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第4回	・テキストの輪読・ロジカルシンキング ・インゼミ準備	・テキスト8章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第5回	インゼミテーマ中間報告会	テーマごとにプレゼンテーションを行い、参加者からの質疑応答を受けて、この先の作業方針を固める。
第6回	インゼミ準備	プレゼンテーションのメインメッセージを確定し、プレゼンテーションの構成を考える。
第7回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト9章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第8回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト10章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備

第9回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト11章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第10回	インゼミ予行練習	当日と同様のプレゼンテーションを行い、仕上げの作業を行う。
第11回	期末レポートテーマ発表・学術的な文章の書き方	インゼミテーマに基づき、論文テーマや構成を考える。学術的論文のルールを確認する。
第12回	インゼミ	テーマごとに、プレゼンテーション、討論、質疑応答を行う。担当教員からの講評をもらう。
第13回	テキスト復習	輪読したテキストの内容を応用した練習問題をチームに分かれて解く。
第14回	期末レポート報告会	インゼミテーマに基づいた各自の期末レポートを受講生全員で読み合い、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50%

指定された提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

大木 良子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
 2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
 3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
 4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1～2万字程度のレポートを執筆します。
- 課題等に対するフィードバック方法としては、毎回の授業での各自の提出物、プレゼンテーションへの教員からのコメントに加え、レポートに対しては学期終了後に学習支援システム等を通じて個別にコメントを共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキスト報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。 その他ゼミの進め方について情報共有し、スケジュールや役割分担等を決定する。
第2回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト0章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第3回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト1章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第4回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト2章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第5回	ロジックツリーの理解	・日本語論文を読み、グループごとにそのロジックツリーを作成する ・ロジックツリーに基づき論文の要約を作成する。
第6回	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
第7回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト3章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第8回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト4章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理

第9回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト5章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第10回	テキストに関する復習	テキストについてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
第11回	学術的な文章の書き方	例題を通じて、アカデミックな文章のルールについて学ぶ。
第12回	グループディスカッション：事例研究	産業組織論を用いて、最近の競争政策事例についてグループごとに分析する。
第13回	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
第14回	インゼミ準備	担当テーマに基づき、夏休み期間中の調査計画をたて、グループ内で分担を行う 現段階でのテーマの共通理解、仮説を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく受講生に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 2018年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50%

指定された提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
 2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
 3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

大木 良子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
 2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
 3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
 4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1～2万字程度のレポートを執筆します。
- 課題等に対するフィードバック方法としては、毎回の授業での各自の提出物、プレゼンテーションへの教員からのコメントに加え、レポートに対しては学期終了後に学習支援システム等を通じて個別にコメントを共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インゼミテーマごとの調査報告	夏休みに進めた調査内容を各自報告し、各テーマで今後の取りまとめ方針を決定する。
第2回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト6章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第3回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト7章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第4回	・テキストの輪読・ロジカルシンキング ・インゼミ準備	・テキスト8章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第5回	インゼミテーマ中間報告会	テーマごとにプレゼンテーションを行い、参加者からの質疑応答を受けて、この先の作業方針を固める。
第6回	インゼミ準備	プレゼンテーションのメインメッセージを確定し、プレゼンテーションの構成を考える。
第7回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト9章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第8回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト10章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備

第9回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト11章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理 ・テーマごとに分かれてインゼミ準備
第10回	インゼミ予行練習	当日と同様のプレゼンテーションを行い、仕上げの作業を行う。
第11回	期末レポートテーマ発表・学術的な文章の書き方	インゼミテーマに基づき、論文テーマや構成を考える。学術的論文のルールを確認する。
第12回	インゼミ	テーマごとに、プレゼンテーション、討論、質疑応答を行う。担当教員からの講評をもらう。
第13回	テキスト復習	輪読したテキストの内容を応用した練習問題をチームに分かれて解く。
第14回	期末レポート報告会	インゼミテーマに基づいた各自の期末レポートを受講生全員で読み合い、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50%

指定された提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

演習 1

藤井 誠

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発表や討論というインタラクティブな学びを通じて、税務会計および財務会計の論理的な思考能力の向上を目的とする。

【到達目標】

学生は、財務会計および税務会計の情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった理論体系を習得することができる。

2・3年生は、財務会計および税務会計の理論体系を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。あわせて、Word、Excel、PowerPoint等のソフトウェア使用のスキル向上を目指すことができる。

4年生は、財務会計および税務会計の特定の問題を深く研究し、これを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、理論的な矛盾なく、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とし、一部オンデマンドとする。

2・3年生は財務会計および税務会計の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし、全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくが必要になる。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかる。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめる。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介などを行う。
第2回	企業会計を学ぶ	2・3年生はテキスト第1章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第3回	企業会計の役割	2・3年生はテキスト第2章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第4回	企業会計の仕組み	2・3年生はテキスト第3章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第5回	資本と利益の情報	2・3年生はテキスト第4章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第6回	収益認識のルール	2・3年生はテキスト第5章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第7回	費用の認識と配分	2・3年生はテキスト第6章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第8回	負債の認識と測定	2・3年生はテキスト第7章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第9回	純資産の開示	2・3年生はテキスト第8章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第10回	純資産の規制	2・3年生はテキスト第9章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

第11回	企業結合の会計情報	2・3年生はテキスト第10章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第12回	連結会計	2・3年生はテキスト第11章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第13回	日本の会計制度改革①	2・3年生はテキスト第12章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第14回	日本の会計制度改革②	2・3年生はテキスト第13章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用いる。

斎藤静樹（2016）『企業会計入門【補訂版】』有斐閣。

伊藤邦夫（2024）『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞出版。

岩田巖（1956）『利潤計算原理』同文館（第1編）。

のいずれかを使用する予定であるが、初回の授業で、学生と相談のうえ決定する。

【参考書】

初回の授業において、学生と相談のうえ、決定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）およびテキストの担当章の報告（50%）（2・3年生の場合）または卒業論文中間報告（50%）（4年生の場合）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

会計・税務データの表層的な規定を「知る」のではなく、その根底にある理論体系を「理解」することができるような取り組みを進める。

【その他の重要事項】

本ゼミは税務会計の分野を中心に学習するので、1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is to improve logical thinking skills in tax accounting and financial accounting through interactive learning such as presentations and discussions.

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%),in class contribution(50%).

演習2

藤井 誠

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発表や討論というインタラクティブな学びを通じて、税務会計および財務会計の論理的な思考能力の向上を目的とする。

【到達目標】

受講生は、財務会計および税務会計の情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった理論体系を習得することができる。

2・3年生は、財務会計および税務会計の理論体系を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。あわせて、Word、Excel、PowerPoint等のソフトウェア使用のスキル向上を目指すことができる。

4年生は、財務会計および税務会計の特定の問題を深く研究し、これを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、理論的な矛盾なく、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とし、一部オンデマンドとする。

2・3年生は財務会計および税務会計の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし、全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくが必要になる。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかる。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめる。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介などを行う。
第2回	課税所得の計算構造	3年生はテキスト第1章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第3回	益金の会計	3年生はテキスト第2章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第4回	損金の会計	3年生はテキスト第3章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第5回	課税所得・税額の計算	3年生はテキスト第4章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第6回	申告・納付	3年生はテキスト第5章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第7回	同族会社課税	3年生はテキスト第6章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第8回	グループ通算制度	3年生はテキスト第7章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第9回	グループ法人単体課税制度	3年生はテキスト第8章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第10回	組織再編税制	3年生はテキスト第9章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

第11回	国際課税	3年生はテキスト第10章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第12回	外国法人に対する課税	3年生はテキスト第11章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第13回	国際的二重課税	3年生はテキスト第12章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第14回	国際的租税回避防止	3年生はテキスト第13章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

税務会計・租税法のスタンダードなテキストを用いる。

成道秀雄・坂本雅士（2025）『現代税務会計論 第8版』中央経済社。

水野忠恒（2022）『テキストブック租税法 第3版』中央経済社。

金子宏他（2023）『ケースブック租税法 第6版』弘文堂。

のいずれかを使用する予定であるが、初回の授業で、学生と相談のうえ決定する。

【参考書】

初回の授業において、学生と相談のうえ、決定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）およびテキストの担当章の報告（50%）（2・3年生の場合）または卒業論文中間報告（50%）（4年生の場合）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

会計・税務データの表層的な規定を「知る」のではなく、その根底にある理論体系を「理解」することができるような取り組みを進める。

【その他の重要事項】

本ゼミは税務会計の分野を中心に学習するので、1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is to improve logical thinking skills in tax accounting and financial accounting through interactive learning such as presentations and discussions.

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%),in class contribution(50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

藤井 誠

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発表や討論というインタラクティブな学びを通じて、税務会計および財務会計の論理的な思考能力の向上を目的とする。

【到達目標】

学生は、財務会計および税務会計の情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった理論体系を習得することができる。

2・3年生は、財務会計および税務会計の理論体系を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。あわせて、Word、Excel、PowerPoint等のソフトウェア使用のスキル向上を目指すことができる。

4年生は、財務会計および税務会計の特定の問題を深く研究し、これを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、理論的な矛盾なく、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とし、一部オンデマンドとする。

2・3年生は財務会計および税務会計の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし、全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくが必要になる。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかる。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめる。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介などを行う。
第2回	企業会計を学ぶ	2・3年生はテキスト第1章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第3回	企業会計の役割	2・3年生はテキスト第2章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第4回	企業会計の仕組み	2・3年生はテキスト第3章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第5回	資本と利益の情報	2・3年生はテキスト第4章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第6回	収益認識のルール	2・3年生はテキスト第5章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第7回	費用の認識と配分	2・3年生はテキスト第6章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第8回	負債の認識と測定	2・3年生はテキスト第7章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第9回	純資産の開示	2・3年生はテキスト第8章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第10回	純資産の規制	2・3年生はテキスト第9章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

第11回	企業結合の会計情報	2・3年生はテキスト第10章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第12回	連結会計	2・3年生はテキスト第11章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第13回	日本の会計制度改革①	2・3年生はテキスト第12章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第14回	日本の会計制度改革②	2・3年生はテキスト第13章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用いる。

斎藤静樹（2016）『企業会計入門【補訂版】』有斐閣。

伊藤邦夫（2024）『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞出版。

岩田巖（1956）『利潤計算原理』同文館（第1編）。

のいずれかを使用する予定であるが、初回の授業で、学生と相談のうえ決定する。

【参考書】

初回の授業において、学生と相談のうえ、決定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）およびテキストの担当章の報告（50%）（2・3年生の場合）または卒業論文中間報告（50%）（4年生の場合）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

会計・税務データの表層的な規定を「知る」のではなく、その根底にある理論体系を「理解」することができるような取り組みを進める。

【その他の重要事項】

本ゼミは税務会計の分野を中心に学習するので、1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is to improve logical thinking skills in tax accounting and financial accounting through interactive learning such as presentations and discussions.

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%),in class contribution(50%).

演習4

藤井 誠

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発表や討論というインタラクティブな学びを通じて、税務会計および財務会計の論理的な思考能力の向上を目的とする。

【到達目標】

受講生は、財務会計および税務会計の情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった理論体系を習得することができる。

2・3年生は、財務会計および税務会計の理論体系を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。あわせて、Word、Excel、PowerPoint等のソフトウェア使用のスキル向上を目指すことができる。

4年生は、財務会計および税務会計の特定の問題を深く研究し、これを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、理論的な矛盾なく、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とし、一部オンデマンドとする。

2・3年生は財務会計および税務会計の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし、全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくが必要になる。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかる。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめる。

課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介などを行う。
第2回	課税所得の計算構造	3年生はテキスト第1章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第3回	益金の会計	3年生はテキスト第2章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第4回	損金の会計	3年生はテキスト第3章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第5回	課税所得・税額の計算	3年生はテキスト第4章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第6回	申告・納付	3年生はテキスト第5章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第7回	同族会社課税	3年生はテキスト第6章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第8回	グループ通算制度	3年生はテキスト第7章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第9回	グループ法人単体課税制度	3年生はテキスト第8章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第10回	組織再編税制	3年生はテキスト第9章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

第11回	国際課税	3年生はテキスト第10章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第12回	外国法人に対する課税	3年生はテキスト第11章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第13回	国際的二重課税	3年生はテキスト第12章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第14回	国際的租税回避防止	3年生はテキスト第13章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

税務会計・租税法のスタンダードなテキストを用いる。

成道秀雄・坂本雅士（2025）『現代税務会計論 第8版』中央経済社。

水野忠恒（2022）『テキストブック租税法 第3版』中央経済社。

金子宏他（2023）『ケースブック租税法 第6版』弘文堂。

のいずれかを使用する予定であるが、初回の授業で、学生と相談のうえ決定する。

【参考書】

初回の授業において、学生と相談のうえ、決定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）およびテキストの担当章の報告（50%）（2・3年生の場合）または卒業論文中間報告（50%）（4年生の場合）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

会計・税務データの表層的な規定を「知る」のではなく、その根底にある理論体系を「理解」することができるような取り組みを進める。

【その他の重要事項】

本ゼミは税務会計の分野を中心に学習するので、1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is to improve logical thinking skills in tax accounting and financial accounting through interactive learning such as presentations and discussions.

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%),in class contribution(50%).

演習5

藤井 誠

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発表や討論というインタラクティブな学びを通じて、税務会計および財務会計の論理的な思考能力の向上を目的とする。

【到達目標】

学生は、財務会計および税務会計の情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった理論体系を習得することができる。

2・3年生は、財務会計および税務会計の理論体系を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。あわせて、Word、Excel、PowerPoint等のソフトウェア使用のスキル向上を目指すことができる。

4年生は、財務会計および税務会計の特定の問題を深く研究し、これを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、理論的な矛盾なく、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とし、一部オンデマンドとする。

2・3年生は財務会計および税務会計の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし、全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくが必要になる。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかる。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめる。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介などを行う。
第2回	企業会計を学ぶ	2・3年生はテキスト第1章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第3回	企業会計の役割	2・3年生はテキスト第2章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第4回	企業会計の仕組み	2・3年生はテキスト第3章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第5回	資本と利益の情報	2・3年生はテキスト第4章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第6回	収益認識のルール	2・3年生はテキスト第5章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第7回	費用の認識と配分	2・3年生はテキスト第6章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第8回	負債の認識と測定	2・3年生はテキスト第7章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第9回	純資産の開示	2・3年生はテキスト第8章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第10回	純資産の規制	2・3年生はテキスト第9章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

第11回	企業結合の会計情報	2・3年生はテキスト第10章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第12回	連結会計	2・3年生はテキスト第11章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第13回	日本の会計制度改革①	2・3年生はテキスト第12章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第14回	日本の会計制度改革②	2・3年生はテキスト第13章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用いる。

斎藤静樹（2016）『企業会計入門【補訂版】』有斐閣。

伊藤邦夫（2024）『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞出版。

岩田巖（1956）『利潤計算原理』同文館（第1編）。

のいずれかを使用する予定であるが、初回の授業で、学生と相談のうえ決定する。

【参考書】

初回の授業において、学生と相談のうえ、決定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）およびテキストの担当章の報告（50%）（2・3年生の場合）または卒業論文中間報告（50%）（4年生の場合）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

会計・税務データの表層的な規定を「知る」のではなく、その根底にある理論体系を「理解」することができるような取り組みを進める。

【その他の重要事項】

本ゼミは税務会計の分野を中心に学習するので、1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is to improve logical thinking skills in tax accounting and financial accounting through interactive learning such as presentations and discussions.

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%),in class contribution(50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

藤井 誠

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発表や討論というインタラクティブな学びを通じて、税務会計および財務会計の論理的な思考能力の向上を目的とする。

【到達目標】

受講生は、財務会計および税務会計の情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった理論体系を習得することができる。

2・3年生は、財務会計および税務会計の理論体系を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。あわせて、Word、Excel、PowerPoint等のソフトウェア使用のスキル向上を目指すことができる。

4年生は、財務会計および税務会計の特定の問題を深く研究し、これを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、理論的な矛盾なく、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とし、一部オンデマンドとする。

2・3年生は財務会計および税務会計の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし、全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくが必要になる。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかる。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめる。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介などを行う。
第2回	課税所得の計算構造	3年生はテキスト第1章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第3回	益金の会計	3年生はテキスト第2章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第4回	損金の会計	3年生はテキスト第3章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第5回	課税所得・税額の計算	3年生はテキスト第4章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第6回	申告・納付	3年生はテキスト第5章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第7回	同族会社課税	3年生はテキスト第6章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第8回	グループ通算制度	3年生はテキスト第7章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第9回	グループ法人単体課税制度	3年生はテキスト第8章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第10回	組織再編税制	3年生はテキスト第9章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

第11回	国際課税	3年生はテキスト第10章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第12回	外国法人に対する課税	3年生はテキスト第11章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第13回	国際的二重課税	3年生はテキスト第12章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。
第14回	国際的租税回避防止	3年生はテキスト第13章の報告・議論を行う。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

税務会計・租税法のスタンダードなテキストを用いる。

成道秀雄・坂本雅士（2025）『現代税務会計論 第8版』中央経済社。

水野忠恒（2022）『テキストブック租税法 第3版』中央経済社。

金子宏他（2023）『ケースブック租税法 第6版』弘文堂。

のいずれかを使用する予定であるが、初回の授業で、学生と相談のうえ決定する。

【参考書】

初回の授業において、学生と相談のうえ、決定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）およびテキストの担当章の報告（50%）（2・3年生の場合）または卒業論文中間報告（50%）（4年生の場合）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

会計・税務データの表層的な規定を「知る」のではなく、その根底にある理論体系を「理解」することができるような取り組みを進める。

【その他の重要事項】

本ゼミは税務会計の分野を中心に学習するので、1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is to improve logical thinking skills in tax accounting and financial accounting through interactive learning such as presentations and discussions.

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%),in class contribution(50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

小川 憲彦

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来の意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって特殊なケースを除き、卒論を書きたくないという方は基本的に応募・履修をしないで下さい。

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more initiatively and independently.

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/ seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連す

る議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。

各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもら予定です。

・4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

・研究進捗や委員会活動報告等へのFBは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが

自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記（3割）に加え、卒論の評価が大きなウェイト（7割）を占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください（北海道、九州、関西など年度により異なります）。当然自費です。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

- ②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
- ⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行います。以降は退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
- 履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of the class

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

小川 憲彦

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は特殊なケースを除き応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってみたいと思います。 Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more inititively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連す

る議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。

各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもら予定です。

・4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

・研究進捗や委員会活動報告等へのFBは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが

自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウェイトを占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと（当然自費です）。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

- ②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
- ⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
- 履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

小川 憲彦

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来の意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は特殊なケースを除き応募・履修をしないで下さい。

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more initiatively and independently.

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/ seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連す

る議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。

各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもら予定です。

・4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

・研究進捗や委員会活動報告等へのFBは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが

自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記（3割）に加え、卒論の評価が大きなウェイト（7割）を占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください（北海道、九州、関西など年度により異なります）。当然自費です。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

- ②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
- ⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行います。以降は退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
- 履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of the class

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

小川 憲彦

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は特殊なケースを除き、原則として応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってみたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連す

る議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。

各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもら予定です。

・4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

・研究進捗や委員会活動報告等へのFBは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが

自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウェイトを占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと（当然自費です）。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

- ②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
- ⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
- 履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

小川 憲彦

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は、特殊なケースを除き、原則応募・履修をしないで下さい。

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってみたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more initiatively and independently.

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/ seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連す

る議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。

各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもら予定です。

・4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

・研究進捗や委員会活動報告等へのFBは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが

自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記（3割）に加え、卒論の評価が大きなウェイト（7割）を占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください（北海道、九州、関西など年度により異なります）。当然自費です。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

- ②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
- ⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行います。以降は退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
- 履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of the class

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

演習6

小川 憲彦

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来の意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は、特殊なケースを除き、原則として応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more inititively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連す

る議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。

各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもら予定です。

・4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

・研究進捗や委員会活動報告等へのFBは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが

自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウェイトを占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと（当然自費です）。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

- ②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
- ⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
- 履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

演習 1

奥西 好夫

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・各組の報告やゼミ卒論には、報告の都度コメントする。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 8 ・同 Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 12 ・同 Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 14 ・同 Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 25 ・同 Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27 ・同 Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35 ・同 Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 37 ・同 Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 39 ・同 Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 52 ・同 Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 54 ・同 Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

奥西 好夫

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・各組の報告やゼミ卒論には、報告の都度コメントする。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011)のCase 66 ・同Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同Case 76 ・同Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同Case 78 ・同Case 85
第5回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同Case 88 ・同Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同Case 90 ・同Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同Case 99 ・同Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同Case 104 ・同Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ1)
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ2)
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

- ・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞社、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることもある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

演習3

奥西 好夫

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・各組の報告やゼミ卒論には、報告の都度コメントする。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 8 ・同 Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 12 ・同 Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 14 ・同 Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 25 ・同 Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27 ・同 Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35 ・同 Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 37 ・同 Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 39 ・同 Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 52 ・同 Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 54 ・同 Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

演習4

奥西 好夫

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・各組の報告やゼミ卒論には、報告の都度コメントする。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011)のCase 66 ・同Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同Case 76 ・同Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同Case 78 ・同Case 85
第5回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同Case 88 ・同Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同Case 90 ・同Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同Case 99 ・同Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同Case 104 ・同Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ1)
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ2)
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

- ・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞社、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることもある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

演習5

奥西 好夫

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・各組の報告やゼミ卒論には、報告の都度コメントする。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 8 ・同 Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 12 ・同 Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 14 ・同 Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 25 ・同 Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27 ・同 Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35 ・同 Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 37 ・同 Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 39 ・同 Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 52 ・同 Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 54 ・同 Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

奥西 好夫

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・各組の報告やゼミ卒論には、報告の都度コメントする。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011)のCase 66 ・同Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同Case 76 ・同Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同Case 78 ・同Case 85
第5回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同Case 88 ・同Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同Case 90 ・同Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同Case 99 ・同Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同Case 104 ・同Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告（グループ1）
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告（グループ2）
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

- ・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞社、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることもある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

演習1

戸田 裕美子

演習演習 選択_演習 2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・マーケティングを取り巻く今日的な課題を理解し、その理論的・実践的問題に対する問題解決に向けた論文を執筆する。

【到達目標】

流通やマーケティングに関わる文献の輪読を行い、基礎的な知識を養う。

その上で、各自の関心に適合的なテーマを選択し、論文の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方についての説明	演習の内容や進め方を説明し、課題の分担などを決定する
第2回	テキストの輪読（1）	-商業・流通の基礎概念 -日本の近代化と流通業 -百貨店の勃興と大衆化
第3回	テキストの輪読（2）	-百貨店の発展と第一次百貨店法 -通信販売の歴史的役割 -チェーンストアの模索と限界
第4回	テキストの輪読（3）	-流通系列化の成立 -公的小売市場の設立 -商店街の成立
第5回	テキストの輪読（4）	-戦時・敗戦直後の流通機構 -日本の経済成長と流通業 -百貨店の復興と第二次百貨店法
第6回	テキストの輪読（5）	-総合スーパーの成立と展開 -総合スーパーの発展と大規模小売店舗法 -食品スーパーの経営課題とその克服
第7回	テキストの輪読（6）	-流通系列化の展開 -流通革命論の展開と日本型流通システム
第8回	テキストの輪読（7）	-商店街の発展と競争構造 -商店街によるまちづくりへの展開 -1980年代以降の流通構造の歴史の変容

第9回	テキストの輪読（8）	-コンビニエンス・ストアの成立と展開 -コンビニエンス・ストアの発展 -専門量販店の台頭
第10回	テキストの輪読（9）	-小売業のグローバル化と日本市場 -ショッピングセンターの発展 -Eコマースの急成長
第11回	テキストの輪読（10）	-プラットフォームの台頭 -商店街の苦境とまちづくり3法
第12回	論文のテーマに関する発表（1）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う
第13回	論文のテーマに関する発表（2）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う
第14回	論文のテーマに関する発表（3）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読のテキストを熟読すること、担当章の発表の準備を行うこと

【テキスト（教科書）】

満園勇『日本流通史 -小売業の近現代』有斐閣、2021年

【参考書】

適宜指定する

【成績評価の方法と基準】

輪読の準備の状況、発表の成果、ディスカッションへの参加及び貢献度など平常点をもとに評定する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の中での議論や対話を通じて、より円滑なコミュニケーションが実現できるよう工夫する

【学生が準備すべき機器他】

テキストを準備すること。授業で使用する資料等はデータで配信することになるので、パソコンやタブレットなどを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

Students will develop an understanding of contemporary issues surrounding distribution and marketing and write a paper aimed at addressing theoretical and practical problems related to these issues.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

戸田 裕美子

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・マーケティングを取り巻く今日的な課題を理解し、その理論的・実践的問題に対する問題解決に向けた論文を執筆する。

【到達目標】

流通やマーケティングに関わる文献の輪読を行い、基礎的な知識を養う。

その上で、各自の関心に適合的なテーマを選択し、論文の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方について説明	後期の演習の進め方を概説する
第2回	各自のテーマに関連する論文の発表（1）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第3回	各自のテーマに関連する論文の発表（2）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第4回	各自のテーマに関連する論文の発表（3）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第5回	各自のテーマに関連する論文の発表（4）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第6回	各自のテーマに関連する論文の発表（5）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第7回	各自のテーマに関連する論文の発表（6）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第8回	論文の書き方講座	論文の書き方に関する形式的な説明を行う
第9回	論文の進捗に関する報告（1）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第10回	論文の進捗に関する報告（2）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う

第11回	論文の進捗に関する報告（3）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第12回	論文の進捗に関する報告（4）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第13回	論文の進捗に関する報告（5）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第14回	論文の進捗に関する報告（6）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心にあった論文を熟読し、その概要を発表するための準備をする

各自で論文の執筆に向けた準備をする

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

適宜、紹介する

【成績評価の方法と基準】

報告の準備の状況、発表の成果など、平常点を中心に評定する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の中での議論や対話を通じて、より円滑なコミュニケーションが実現できるよう工夫する

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料等はデータで配信することになるので、パソコンやタブレットなどを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

Students will develop an understanding of contemporary issues surrounding distribution and marketing and write a paper aimed at addressing theoretical and practical problems related to these issues.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

戸田 裕美子

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・マーケティングを取り巻く今日的な課題を理解し、その理論的・実践的問題に対する問題解決に向けた論文を執筆する。

【到達目標】

流通やマーケティングに関わる文献の輪読を行い、基礎的な知識を養う。その上で、各自の関心に適切なテーマを選択し、論文の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方についての説明	演習の内容や進め方を説明し、課題の分担などを決定する
第2回	テキストの輪読（1）	-商業・流通の基礎概念 -日本の近代化と流通業 -百貨店の勃興と大衆化
第3回	テキストの輪読（2）	-百貨店の発展と第一次百貨店法 -通信販売の歴史的役割 -チェーンストアの模索と限界
第4回	テキストの輪読（3）	-流通系列化の成立 -公的小売市場の設立 -商店街の成立
第5回	テキストの輪読（4）	-戦時・敗戦直後の流通機構 -日本の経済成長と流通業 -百貨店の復興と第二次百貨店法
第6回	テキストの輪読（5）	-総合スーパーの成立と展開 -総合スーパーの発展と大規模小売店舗法
第7回	テキストの輪読（6）	-食品スーパーの経営課題とその克服 -流通系列化の展開 -流通革命論の展開と日本型流通システム
第8回	テキストの輪読（7）	-商店街の発展と競争構造 -商店街によるまちづくりへの展開 -1980年代以降の流通構造の歴史的変容
第9回	テキストの輪読（8）	-コンビニエンス・ストアの成立と展開 -コンビニエンス・ストアの発展 -専門量販店の台頭
第10回	テキストの輪読（9）	-小売業のグローバル化と日本市場 -ショッピングセンターの発展 -Eコマースの急成長
第11回	テキストの輪読（10）	-プラットフォームの台頭 -商店街の苦境とまちづくり3法
第12回	論文のテーマに関する発表（1）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う
第13回	論文のテーマに関する発表（2）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う
第14回	論文のテーマに関する発表（3）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読のテキストを熟読すること、担当章の発表の準備を行うこと

【テキスト（教科書）】

満園勇『日本流通史-小売業の近現代』有斐閣、2021年

【参考書】

適宜指定する

【成績評価の方法と基準】

輪読の準備の状況、発表の成果、ディスカッションへの参加及び貢献度など平常点をもとに評定する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の中での議論や対話を通じて、より円滑なコミュニケーションが実現できるよう工夫する

【学生が準備すべき機器他】

テキストを準備すること。授業で使用する資料等はデータで配信することになるので、パソコンやタブレットなどを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

Students will develop an understanding of contemporary issues surrounding distribution and marketing and write a paper aimed at addressing theoretical and practical problems related to these issues.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

戸田 裕美子

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・マーケティングを取り巻く今日的な課題を理解し、その理論的・実践的問題に対する問題解決に向けた論文を執筆する。

【到達目標】

流通やマーケティングに関わる文献の輪読を行い、基礎的な知識を養う。その上で、各自の関心に適切なテーマを選択し、論文の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方について説明	後期の演習の進め方を概説する
第2回	各自のテーマに関連する論文の発表（1）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第3回	各自のテーマに関連する論文の発表（2）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第4回	各自のテーマに関連する論文の発表（3）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第5回	各自のテーマに関連する論文の発表（4）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第6回	各自のテーマに関連する論文の発表（5）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第7回	各自のテーマに関連する論文の発表（6）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第8回	論文の書き方講座	論文の書き方に関する形式的な説明を行う
第9回	論文の進捗に関する報告（1）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第10回	論文の進捗に関する報告（2）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第11回	論文の進捗に関する報告（3）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第12回	論文の進捗に関する報告（4）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第13回	論文の進捗に関する報告（5）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第14回	論文の進捗に関する報告（6）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心にあった論文を熟読し、その概要を発表するための準備をする
各自で論文の執筆に向けた準備をする

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

適宜、紹介する

【成績評価の方法と基準】

報告の準備の状況、発表の成果など、平常点を中心に評定する。

【学生の意見等からの気づき】

演習中での議論や対話を通じて、より円滑なコミュニケーションが実現できるよう工夫する

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料等はデータで配信することになるので、パソコンやタブレットなどを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

Students will develop an understanding of contemporary issues surrounding distribution and marketing and write a paper aimed at addressing theoretical and practical problems related to these issues.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

戸田 裕美子

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・マーケティングを取り巻く今日的な課題を理解し、その理論的・実践的問題に対する問題解決に向けた論文を執筆する。

【到達目標】

流通やマーケティングに関わる文献の輪読を行い、基礎的な知識を養う。その上で、各自の関心に適切なテーマを選択し、論文の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方についての説明	演習の内容や進め方を説明し、課題の分担などを決定する
第2回	テキストの輪読（1）	-商業・流通の基礎概念 -日本の近代化と流通業 -百貨店の勃興と大衆化
第3回	テキストの輪読（2）	-百貨店の発展と第一次百貨店法 -通信販売の歴史的役割 -チェーンストアの模索と限界
第4回	テキストの輪読（3）	-流通系列化の成立 -公的小売市場の設立 -商店街の成立
第5回	テキストの輪読（4）	-戦時・敗戦直後の流通機構 -日本の経済成長と流通業 -百貨店の復興と第二次百貨店法
第6回	テキストの輪読（5）	-総合スーパーの成立と展開 -総合スーパーの発展と大規模小売店舗法
第7回	テキストの輪読（6）	-食品スーパーの経営課題とその克服 -流通系列化の展開 -流通革命論の展開と日本型流通システム
第8回	テキストの輪読（7）	-商店街の発展と競争構造 -商店街によるまちづくりへの展開 -1980年代以降の流通構造の歴史的変容
第9回	テキストの輪読（8）	-コンビニエンス・ストアの成立と展開 -コンビニエンス・ストアの発展
第10回	テキストの輪読（9）	-専門量販店の台頭 -小売業のグローバル化と日本市場 -ショッピングセンターの発展 -Eコマースの急成長
第11回	テキストの輪読（10）	-プラットフォームの台頭 -商店街の苦境とまちづくり3法
第12回	論文のテーマに関する発表（1）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う
第13回	論文のテーマに関する発表（2）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う
第14回	論文のテーマに関する発表（3）	輪読の内容を踏まえて、各自が関心のあるテーマに関して報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読のテキストを熟読すること、担当章の発表の準備を行うこと

【テキスト（教科書）】

満園勇『日本流通史-小売業の近現代』有斐閣、2021年

【参考書】

適宜指定する

【成績評価の方法と基準】

輪読の準備の状況、発表の成果、ディスカッションへの参加及び貢献度など平常点をもとに評定する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の中での議論や対話を通じて、より円滑なコミュニケーションが実現できるよう工夫する

【学生が準備すべき機器他】

テキストを準備すること。授業で使用する資料等はデータで配信することになるので、パソコンやタブレットなどを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

Students will develop an understanding of contemporary issues surrounding distribution and marketing and write a paper aimed at addressing theoretical and practical problems related to these issues.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

戸田 裕美子

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・マーケティングを取り巻く今日的な課題を理解し、その理論的・実践的問題に対する問題解決に向けた論文を執筆する。

【到達目標】

流通やマーケティングに関わる文献の輪読を行い、基礎的な知識を養う。その上で、各自の関心に適切なテーマを選択し、論文の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を行う際には、学生が担当章の要約を行い、その章で議論すべき論点をまとめて発表し、ディスカッションをリードする。輪読の後、各自で関心のあるテーマを選定し、論文の執筆の準備を行い、進捗の報告を行う。課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能などを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方について説明	後期の演習の進め方を概説する
第2回	各自のテーマに関連する論文の発表（1）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第3回	各自のテーマに関連する論文の発表（2）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第4回	各自のテーマに関連する論文の発表（3）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第5回	各自のテーマに関連する論文の発表（4）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第6回	各自のテーマに関連する論文の発表（5）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第7回	各自のテーマに関連する論文の発表（6）	各自の研究テーマに関連する主要な文献の内容について概説する
第8回	論文の書き方講座	論文の書き方に関する形式的な説明を行う
第9回	論文の進捗に関する報告（1）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第10回	論文の進捗に関する報告（2）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第11回	論文の進捗に関する報告（3）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第12回	論文の進捗に関する報告（4）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第13回	論文の進捗に関する報告（5）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う
第14回	論文の進捗に関する報告（6）	論文の進捗に関する報告を行い、次年度における本格的な執筆に向けた準備を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心にあった論文を熟読し、その概要を発表するための準備をする
各自で論文の執筆に向けた準備をする

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

適宜、紹介する

【成績評価の方法と基準】

報告の準備の状況、発表の成果など、平常点を中心に評定する。

【学生の意見等からの気づき】

演習中での議論や対話を通じて、より円滑なコミュニケーションが実現できるよう工夫する

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料等はデータで配信することになるので、パソコンやタブレットなどを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

Students will develop an understanding of contemporary issues surrounding distribution and marketing and write a paper aimed at addressing theoretical and practical problems related to these issues.

演習 1

川島 健司

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、日本の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するか議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2コマ200分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第2回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第3回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第4回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第5回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第7回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第8回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第9回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第10回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第11回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第12回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第13回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第14回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・潮清孝・林尚史・妹尾剛好『ソニーの経理パーソンになる』中央経済社,2025年。
・中野誠・高須悠介・調勇二・吉永裕登『入門講義 会計&ファイナンス』中央経済社,2025年。
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第6版, 日本経済新聞出版社,2024年。
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年。
・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕（第17版）』中央経済社（2024年）
・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第2版, 中央経済社, 2021年。

・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。

B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数：200～500のレベル。

A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数：500～800のレベル。

S評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数：800以上のレベル。

※標準的な上級の財務会計の教科書では約1,000の語彙が使用されている。

【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」です。3年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

川島 健司

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するか議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2コマ200分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第2回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第3回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第4回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第5回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第7回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第8回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第9回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第10回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第11回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第12回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第13回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第14回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・潮清孝・林尚史・妹尾剛好『ソニーの経理パーソンになる』中央経済社,2025年。
・中野誠・高須悠介・調勇二・吉永裕登『入門講義 会計&ファイナンス』中央経済社,2025年。
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第7版, 日本経済新聞出版社,2026年。
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年。
・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕（第17版）』中央経済社（2024年）
・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第2版, 中央経済社, 2021年。

・吉田栄介・花王株式会社社会会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。

B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数＊：200～500のレベル。

A評価: B評価に加えて、自ら文献を読み解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数＊：500～800のレベル。

S評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数＊：800以上のレベル。

＊標準的な上級の財務会計の教科書では約1,000の語彙が使用されている。

【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」です。3年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

演習3

川島 健司

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するか議論したいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2コマ200分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第2回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第3回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第4回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第5回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第7回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第8回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第9回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第10回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第11回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第12回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第13回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第14回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・潮清孝・林尚史・妹尾剛好『ソニーの経理パーソンになる』中央経済社,2025年。
・中野誠・高須悠介・調勇二・吉永裕登『入門講義 会計&ファイナンス』中央経済社,2025年。
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第7版, 日本経済新聞出版社,2026年。
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年。
・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕（第17版）』中央経済社（2024年）
・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第2版, 中央経済社, 2021年。

・吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。

B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数＊：200～500のレベル。

A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数＊：500～800のレベル。

S評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数＊：800以上のレベル。

＊標準的な上級の財務会計の教科書では約1,000の語彙が使用されている。

【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」です。3年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

川島 健司

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するか議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2コマ200分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第2回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第3回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第4回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第5回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第7回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第8回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第9回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第10回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第11回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第12回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第13回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第14回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・潮清孝・林尚史・妹尾剛好『ソニーの経理パーソンになる』中央経済社,2025年.
・中野誠・高須悠介・調勇二・吉永裕登『入門講義 会計&ファイナンス』中央経済社,2025年.
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年.

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第7版, 日本経済新聞出版社,2026年.
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年.
・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕（第17版）』中央経済社（2024年）
・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第2版, 中央経済社, 2021年.

・吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020年.

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。

B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数＊：200～500のレベル。

A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数＊：500～800のレベル。

S評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数＊：800以上のレベル。

＊標準的な上級の財務会計の教科書では約1,000の語彙が使用されている。

【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」です。3年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

演習5

川島 健司

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するか議論したいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2コマ200分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第2回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第3回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第4回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第5回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第7回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第8回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第9回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第10回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第11回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第12回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第13回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第14回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・潮清孝・林尚史・妹尾剛好『ソニーの経理パーソンになる』中央経済社,2025年。
・中野誠・高須悠介・調勇二・吉永裕登『入門講義 会計&ファイナンス』中央経済社,2025年。
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第7版, 日本経済新聞出版社,2026年。
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年。
・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕（第17版）』中央経済社（2024年）
・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第2版, 中央経済社, 2021年。

・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。

B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数*: 200～500のレベル。

A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数*: 500～800のレベル。

S評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数*: 800以上のレベル。

*標準的な上級の財務会計の教科書では約1,000の語彙が使用されている。

【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」です。3年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

川島 健司

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するか議論したいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2コマ200分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第2回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第3回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第4回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第5回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第7回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第8回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第9回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第10回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第11回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第12回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第13回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第14回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・潮清孝・林尚史・妹尾剛好『ソニーの経理パーソンになる』中央経済社,2025年。
・中野誠・高須悠介・調勇二・吉永裕登『入門講義 会計&ファイナンス』中央経済社,2025年。
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第7版, 日本経済新聞出版社,2026年。
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年。
・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕（第17版）』中央経済社（2024年）
・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第2版, 中央経済社, 2021年。

・吉田栄介・花王株式会社社会会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。

B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数＊：200～500のレベル。

A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数＊：500～800のレベル。

S評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数＊：800以上のレベル。

＊標準的な上級の財務会計の教科書では約1,000の語彙が使用されている。

【学生の意見等からの気づき】

4年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」です。3年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

河内谷 幸子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象やITビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

ITビジネスやIT時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようになる。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。Webマーケティングの資格を取得する。MOS試験の合格レベルに向けて演習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業ですが、数回Zoomオンライン授業の日があります。毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かどうかを確認して下さい。

授業では、講義・ディスカッション・IT時事問題の調査・資格試験の勉強などを行います。学期に1回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムHoppii(WebClass)に提示します。

下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題がテーマになったり、順番が前後するなどで計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
第2回	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第3回	IoT	IoT(モノのインターネット)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第4回	AI、生成AI	AI(人工知能)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第5回	Fintech、金融とIT	クラウドファンディング、金融とITについて、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第6回	半導体	半導体の需要供給などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第7回	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第8回	巨大IT企業	巨大IT企業の競争力や課題について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第9回	スマート農業	農業とITについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第10回	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)、メタバース	AR、VR、MR、メタバースについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第11回	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第12回	ブロックチェーン、NFT、暗号資産（仮想通貨）	ブロックチェーン、NFT、暗号資産（仮想通貨）について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第13回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第14回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

野村総合研究所『AIで拡張する社会』東洋経済、2025年。
板津木綿子、久野愛『AIから読み解く社会』東京大学出版会、2023年。
佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会、2022年。
山中直明、中村武宏、崔 真淑『ビヨンド5Gが描く未来 2030年の技術・暮らし・ビジネス』慶應義塾大学出版会、2022年。
羽室英太郎『サイバーセキュリティ入門』慶應義塾大学出版会、2022年。
ニック・クドリー著、山腰修三訳『メディア・社会・世界 デジタルメディアと社会理論』慶應義塾大学出版会、2018年。
我妻幸長『生成AIプロンプトエンジニアリング入門』翔泳社、2023年。
田中道昭『GAFAM+テスラ 帝国の存亡 ビッグ・テック企業の未来はどうなるのか?』翔泳社、2023年
田中道昭『世界最先端8社の大戦略「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代』日経BP、2021年
西村あさひ法律事務所『デジタルトランスフォーメーション法制実務ハンドブックー社会的価値を実現するDXガバナンス』商事法務、2020年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使えるパソコンを自宅で準備します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ

入ゼミ直前にはITの知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

ゼミの前日には必ず学習支援システムHoppii(WebClass)の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。
4年生は10月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出します。卒業論文集を電子的に配布します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation.

You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

演習2

河内谷 幸子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象やITビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。
Webマーケティングの資格を取得する。MOS試験の合格レベルに向けて演習する。

【到達目標】

ITビジネスやIT時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1と同じ形式です。基本的には対面授業ですが、数回Zoomオンライン授業の日があります。毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

授業では、講義・ディスカッション・IT時事問題の調査・資格取得の勉強などを行います。学期に1回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題が授業内容になったり、順番が前後するなど、計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	調査・発表の方法について確認する。
第2回	レアメタル・半導体	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて、および半導体について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第3回	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPSを使った行動ターゲティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
第4回	セキュリティーITと法	セキュリティー、暗号などについて、および著作権法をはじめとするIT関連の法律や倫理について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第5回	Webマーケティング	Webマーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第6回	量子コンピュータ	量子コンピュータと量子暗号について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第7回	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第8回	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第9回	X-Tech(クロステック)、ITと他分野の融合	医療とIT、政治とIT、教育とITなどITを利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第10回	ITとデザイン	3Dプリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース(使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ(いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン(文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計)について調べて学び議論する。

第11回	4年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
第12回	4年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第13回	3年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第14回	3年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

野村総合研究所『AIで拡張する社会』東洋経済、2025年。
板津木綿子、久野愛『AIから読み解く社会』東京大学出版会、2023年。
佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会、2022年。
山中直明、中村武宏、崔 真淑『ビヨンド5Gが描く未来 2030年の技術・暮らし・ビジネス』慶應義塾大学出版会、2022年。
羽室英太郎『サイバーセキュリティ入門』慶應義塾大学出版会、2022年。
ニック・クドリー著、山腰修三訳『メディア・社会・世界 デジタルメディアと社会理論』慶應義塾大学出版会、2018年。
我妻幸長『生成AIプロンプトエンジニアリング入門』翔泳社、2023年。
田中道昭『GAFAM+テスラ 帝国の存亡 ビッグ・テック企業の未来はどうなるのか?』翔泳社、2023年。
田中道昭『世界最先端8社の大戦略 「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代』日経BP、2021年。
西村あさひ法律事務所『デジタルトランスフォーメーション法制実務ハンドブックー社会的価値を実現するDXガバナンス』商事法務、2020年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で1人1台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ

毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。
入ゼミ直前にはITの知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。
4年生は9月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出する。卒業論文集を電子的に配布します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them. It takes 2 hours to prepare/review. You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

河内谷 幸子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象やITビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

ITビジネスやIT時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようになる。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。Webマーケティングの資格を取得する。MOS試験の合格レベルに向けて演習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業ですが、数回Zoomオンライン授業の日があります。毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かどうかを確認して下さい。

授業では、講義・ディスカッション・IT時事問題の調査・資格試験の勉強などを行います。学期に1回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムHoppii(WebClass)に提示します。

下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題がテーマになったり、順番が前後するなどで計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
第2回	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第3回	IoT	IoT(モノのインターネット)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第4回	AI、生成AI	AI(人工知能)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第5回	Fintech、金融とIT	クラウドファンディング、金融とITについて、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第6回	半導体	半導体の需要供給などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第7回	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第8回	巨大IT企業	巨大IT企業の競争力や課題について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第9回	スマート農業	農業とITについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第10回	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)、メタバース	AR、VR、MR、メタバースについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第11回	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第12回	ブロックチェーン、NFT、暗号資産（仮想通貨）	ブロックチェーン、NFT、暗号資産（仮想通貨）について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第13回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第14回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

野村総合研究所『AIで拡張する社会』東洋経済、2025年。
板津木綿子、久野愛『AIから読み解く社会』東京大学出版会、2023年。
佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会、2022年。
山中直明、中村武宏、崔 真淑『ビヨンド5Gが描く未来 2030年の技術・暮らし・ビジネス』慶應義塾大学出版会、2022年。
羽室英太郎『サイバーセキュリティ入門』慶應義塾大学出版会、2022年。
ニック・クドリー著、山腰修三訳『メディア・社会・世界 デジタルメディアと社会理論』慶應義塾大学出版会、2018年。
我妻幸長『生成AIプロンプトエンジニアリング入門』翔泳社、2023年。
田中道昭『GAFAM+テスラ 帝国の存亡 ビッグ・テック企業の未来はどうなるのか?』翔泳社、2023年。
田中道昭『世界最先端8社の大戦略「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代』日経BP、2021年。
西村あさひ法律事務所『デジタルトランスフォーメーション法制実務ハンドブックー社会的価値を実現するDXガバナンス』商事法務、2020年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使えるパソコンを自宅で準備します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ

入ゼミ直前にはITの知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

ゼミの前日には必ず学習支援システムHoppii(WebClass)の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。
4年生は10月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出します。卒業論文集を電子的に配布します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation.

You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

演習4

河内谷 幸子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象やITビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。
Webマーケティングの資格を取得する。MOS試験の合格レベルに向けて演習する。

【到達目標】

ITビジネスやIT時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1と同じ形式です。基本的には対面授業ですが、数回Zoomオンライン授業の日があります。毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

授業では、講義・ディスカッション・IT時事問題の調査・資格取得の勉強などを行います。学期に1回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題が授業内容になったり、順番が前後するなど、計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	調査・発表の方法について確認する。
第2回	レアメタル・半導体	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて、および半導体について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第3回	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPSを使った行動ターゲティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
第4回	セキュリティーITと法	セキュリティー、暗号などについて、および著作権法をはじめとするIT関連の法律や倫理について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第5回	Webマーケティング	Webマーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第6回	量子コンピュータ	量子コンピュータと量子暗号について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第7回	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第8回	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第9回	X-Tech(クロステック)、ITと他分野の融合	医療とIT、政治とIT、教育とITなどITを利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第10回	ITとデザイン	3Dプリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース(使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ(いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン(文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計)について調べて学び議論する。

第11回	4年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
第12回	4年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第13回	3年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第14回	3年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

野村総合研究所『AIで拡張する社会』東洋経済、2025年。
板津木綿子、久野愛『AIから読み解く社会』東京大学出版会、2023年。
佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会、2022年。
山中直明、中村武宏、崔 真淑『ビヨンド5Gが描く未来 2030年の技術・暮らし・ビジネス』慶應義塾大学出版会、2022年。
羽室英太郎『サイバーセキュリティ入門』慶應義塾大学出版会、2022年。
ニック・クドリー著、山腰修三訳『メディア・社会・世界 デジタルメディアと社会理論』慶應義塾大学出版会、2018年。
我妻幸長『生成AIプロンプトエンジニアリング入門』翔泳社、2023年。
田中道昭『GAFAM+テスラ 帝国の存亡 ビッグ・テック企業の未来はどうなるのか?』翔泳社、2023年。
田中道昭『世界最先端8社の大戦略 「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代』日経BP、2021年。
西村あさひ法律事務所『デジタルトランスフォーメーション法制実務ハンドブックー社会的価値を実現するDXガバナンス』商事法務、2020年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で1人1台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ
毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。
入ゼミ直前にはITの知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。
4年生は9月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出する。卒業論文集を電子的に配布します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them. It takes 2 hours to prepare/review. You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

河内谷 幸子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象やITビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

ITビジネスやIT時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようになる。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。Webマーケティングの資格を取得する。MOS試験の合格レベルに向けて演習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業ですが、数回Zoomオンライン授業の日があります。毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かどうかを確認して下さい。

授業では、講義・ディスカッション・IT時事問題の調査・資格試験の勉強などを行います。学期に1回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムHoppii(WebClass)に提示します。

下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題がテーマになったり、順番が前後するなどで計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
第2回	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第3回	IoT	IoT(モノのインターネット)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第4回	AI、生成AI	AI(人工知能)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第5回	Fintech、金融とIT	クラウドファンディング、金融とITについて、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第6回	半導体	半導体の需要供給などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第7回	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第8回	巨大IT企業	巨大IT企業の競争力や課題について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第9回	スマート農業	農業とITについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第10回	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)、メタバース	AR、VR、MR、メタバースについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第11回	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第12回	ブロックチェーン、NFT、暗号資産（仮想通貨）	ブロックチェーン、NFT、暗号資産（仮想通貨）について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第13回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第14回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

野村総合研究所『AIで拡張する社会』東洋経済、2025年。
板津木綿子、久野愛『AIから読み解く社会』東京大学出版会、2023年。
佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会、2022年。
山中直明、中村武宏、崔 真淑『ビヨンド5Gが描く未来 2030年の技術・暮らし・ビジネス』慶應義塾大学出版会、2022年。
羽室英太郎『サイバーセキュリティ入門』慶應義塾大学出版会、2022年。
ニック・クドリー著、山腰修三訳『メディア・社会・世界 デジタルメディアと社会理論』慶應義塾大学出版会、2018年。
我妻幸長『生成AIプロンプトエンジニアリング入門』翔泳社、2023年。
田中道昭『GAFAM+テスラ 帝国の存亡 ビッグ・テック企業の未来はどうなるのか?』翔泳社、2023年。
田中道昭『世界最先端8社の大戦略「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代』日経BP、2021年。
西村あさひ法律事務所『デジタルトランスフォーメーション法制実務ハンドブックー社会的価値を実現するDXガバナンス』商事法務、2020年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使えるパソコンを自宅で準備します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ

入ゼミ直前にはITの知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

ゼミの前日には必ず学習支援システムHoppii(WebClass)の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。
4年生は10月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出します。卒業論文集を電子的に配布します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation.

You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

演習6

河内谷 幸子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象やITビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。
Webマーケティングの資格を取得する。MOS試験の合格レベルに向けて演習する。

【到達目標】

ITビジネスやIT時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1と同じ形式です。基本的には対面授業ですが、数回Zoomオンライン授業の日があります。毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

授業では、講義・ディスカッション・IT時事問題の調査・資格取得の勉強などを行います。学期に1回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題が授業内容になったり、順番が前後するなど、計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	調査・発表の方法について確認する。
第2回	レアメタル・半導体	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて、および半導体について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第3回	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPSを使った行動ターゲティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
第4回	セキュリティ ITと法	セキュリティ、暗号などについて、および著作権法をはじめとするIT関連の法律や倫理について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第5回	Webマーケティング	Webマーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第6回	量子コンピュータ	量子コンピュータと量子暗号について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第7回	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第8回	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第9回	X-Tech(クロステック)、 ITと他分野の融合	医療とIT、政治とIT、教育とITなどITを利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第10回	ITとデザイン	3Dプリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース(使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ(いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン(文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計)について調べて学び議論する。

第11回	4年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
第12回	4年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第13回	3年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第14回	3年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

野村総合研究所『AIで拡張する社会』東洋経済、2025年。
板津木綿子、久野愛『AIから読み解く社会』東京大学出版会、2023年。
佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会、2022年。
山中直明、中村武宏、崔 真淑『ビヨンド5Gが描く未来 2030年の技術・暮らし・ビジネス』慶應義塾大学出版会、2022年。
羽室英太郎『サイバーセキュリティ入門』慶應義塾大学出版会、2022年。
ニック・クドリー著、山腰修三訳『メディア・社会・世界 デジタルメディアと社会理論』慶應義塾大学出版会、2018年。
我妻幸長『生成AIプロンプトエンジニアリング入門』翔泳社、2023年。
田中道昭『GAFAM+テスラ 帝国の存亡 ビッグ・テック企業の未来はどうなるのか?』翔泳社、2023年。
田中道昭『世界最先端8社の大戦略 「デジタル×グリーン×エクイティ」の時代』日経BP、2021年。
西村あさひ法律事務所『デジタルトランスフォーメーション法制実務ハンドブックー社会的価値を実現するDXガバナンス』商事法務、2020年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で1人1台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ

毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。
入ゼミ直前にはITの知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。
4年生は9月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出する。卒業論文集を電子的に配布します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them. It takes 2 hours to prepare/review. You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

演習 1

木川 大輔

演習演習 選択_演習 2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。実在する企業の事例をベースに、現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について、経営戦略論の知見を用いながら議論することを通じて、理論面への理解、現象を読み解く力の両方を養います。

【到達目標】

- ・経営戦略・ビジネスモデルに関する文献を読み、内容を理解した上で要約し他者に説明できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを用いて実在する企業や社会現象などを分析できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを活用しながら、他者との協働を通じて、実在する企業の課題を発見できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習の基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。演習の前半では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかのフレームワーク（時間分析枠組み）を用いて分析します。皆さんがよく知っている企業を題材に挙げながら、その企業のビジネスモデルはどのような点が優れているのか、といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。演習の後半では、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か、どうしたらその企業の収益を高めることができるか、といった点を議論します。実在する企業の経営課題を学生自身が発見したうえで、それに対する解決策のを考案し、3、4人の実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）してもらいます。

授業（演習）は一貫してプロジェクト形式で進行されるため、毎回教員から特定の課題を提示するというよりは、次回までに行ってくるべきタスクがあれば、それを各自で完成させて次の回の演習に臨むというサイクルが想定されます。ただし、課題に取り組むにあたり、指導教員とのコミュニケーションやフォローアップが必要な場合は、学習支援システムや、その他演習内で定めたコミュニケーション方法を用いてインタラクティブな指導を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本演習で取り扱う対象の学問領域についての説明、ゼミの運営について
第2回	ビジネスモデルと経営戦略①	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第3回	ビジネスモデルと経営戦略②	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第4回	ビジネスモデルと経営戦略③	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第5回	ビジネスモデルと経営戦略④	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第6回	ビジネスモデルと経営戦略⑤	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第7回	ビジネスモデルと経営戦略⑥	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第8回	ビジネスモデルの分析①	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する

第9回	ビジネスモデルの分析②	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第10回	ビジネスモデルの分析③	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第11回	ビジネスモデルの分析④	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第12回	ビジネスモデルの分析⑤	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第13回	ビジネスモデルの分析⑥	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第14回	ビジネスモデルの分析⑦	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

アレックス・オスターワルダー＝イヴ・ビニョール（著）、小山龍介（翻訳）『ビジネスモデル・ジェネレーション[コンパクト版]ビジネスモデル設計書』翔泳社、2025年
 会社四季報業界地図編集部（編）・井上達彦（監修）『もうけの仕組み：ビジネスモデル大図鑑 404社を徹底検証!』東洋経済新報社、2025年
 根来龍之・富樫佳織・足代訓史『この一冊で全部わかる ビジネスモデル』SBクリエイティブ、2020年
 その他必要な文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（40％）、複数回の担当課題・発表の合計（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

グループでの活動が中心であるため、出席を重視します。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this seminar is to analyze the business models of real companies using several analytical frameworks. Through case-based discussions grounded in strategic management, students will learn what makes contemporary business models effective and under what conditions they are viable, while developing both theoretical understanding and the ability to use analytical frameworks to interpret real-world business phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the following components: ordinary performance and class engagement (40%), and a combination of assigned tasks and presentations conducted throughout the seminar (60%).

演習2

木川 大輔

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。実在する企業の事例をベースに、現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について、経営戦略論の知見を用いながら議論することを通じて、理論面への理解、現象を読み解く力の両方を養います。

【到達目標】

- ・経営戦略・ビジネスモデルに関する文献を読み、内容を理解した上で要約し他者に説明できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを用いて実在する企業や社会現象などを分析できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを活用しながら、他者との協働を通じて、実在する企業の課題を発見できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習の基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。演習の前半では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかのフレームワーク（時間分析枠組み）を用いて分析します。皆さんがよく知っている企業を題材に挙げながら、その企業のビジネスモデルはどのような点が優れているのか、といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。演習の後半では、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か、どうしたらその企業の収益を高めることができるか、といった点を議論します。実在する企業の経営課題を学生自身が発見したうえで、それに対する解決策のを考案し、3、4人の実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）してもらいます。

授業（演習）は一貫してプロジェクト形式で進行されるため、毎回教員から特定の課題を提示するというよりは、次回までに行ってくるべきタスクがあれば、それを各自で完成させて次の回の演習に臨むというサイクルが想定されます。ただし、課題に取り組むにあたり、指導教員とのコミュニケーションやフォローアップが必要な場合は、学習支援システムや、その他演習内で定めたコミュニケーション方法を用いてインタラクティブな指導を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクト活動につ	秋学期のプロジェクト活動について
第2回	プロジェクト活動①	の説明とグループぎめを行なう 実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第3回	プロジェクト活動②	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第4回	プロジェクト活動③	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第5回	プロジェクト活動④	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第6回	プロジェクト活動⑤	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第7回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第8回	中間発表	プロジェクト活動の成果の中間発表を行なう
第9回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第10回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第11回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう

第12回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第13回	最終発表	プロジェクト活動の成果の最終発表を行なう
第14回	全体の振り返り	1年間の演習全体の振り返りを行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

アレックス・オスターワルダー＝イヴ・ピニユール（著）、小山龍介（翻訳）『ビジネスモデル・ジェネレーション[コンパクト版]ビジネスモデル設計書』翔泳社、2025年
会社四季報業界地図編集部（編）・井上達彦（監修）『もうけの仕組み：ビジネスモデル大図鑑 404社を徹底検証!』東洋経済新報社、2025年
根来龍之・富樫佳織・足代訓史『この一冊で全部わかる ビジネスモデル』SBクリエイティブ、2020年
その他必要な文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（40％）、複数回の担当課題・発表の合計（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

グループでの活動が中心であるため、出席を重視します。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this seminar is to analyze the business models of real companies using several analytical frameworks. Through case-based discussions grounded in strategic management, students will learn what makes contemporary business models effective and under what conditions they are viable, while developing both theoretical understanding and the ability to use analytical frameworks to interpret real-world business phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the following components: ordinary performance and class engagement (40%), and a combination of assigned tasks and presentations conducted throughout the seminar (60%).

演習3

木川 大輔

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。実在する企業の事例をベースに、現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について、経営戦略論の知見を用いながら議論することを通じて、理論面への理解、現象を読み解く力の両方を養います。

【到達目標】

- ・経営戦略・ビジネスモデルに関する文献を読み、内容を理解した上で要約し他者に説明できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを用いて実在する企業や社会現象などを分析できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを活用しながら、他者との協働を通じて、実在する企業の課題を発見できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習の基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。演習の前半では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかのフレームワーク（時間分析枠組み）を用いて分析します。皆さんがよく知っている企業を題材に挙げながら、その企業のビジネスモデルはどのような点が優れているのか、といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。演習の後半では、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か、どうしたらその企業の収益を高めることができるか、といった点を議論します。実在する企業の経営課題を学生自身が発見したうえで、それに対する解決策のを考案し、3、4人の実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）してもらいます。

授業（演習）は一貫してプロジェクト形式で進行されるため、毎回教員から特定の課題を提示するというよりは、次回までに行ってくるべきタスクがあれば、それを各自で完成させて次の回の演習に臨むというサイクルが想定されます。ただし、課題に取り組むにあたり、指導教員とのコミュニケーションやフォローアップが必要な場合は、学習支援システムや、その他演習内で定めたコミュニケーション方法を用いてインタラクティブな指導を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本演習で取り扱う対象の学問領域についての説明、ゼミの運営について
第2回	ビジネスモデルと経営戦略①	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第3回	ビジネスモデルと経営戦略②	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第4回	ビジネスモデルと経営戦略③	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第5回	ビジネスモデルと経営戦略④	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第6回	ビジネスモデルと経営戦略⑤	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第7回	ビジネスモデルと経営戦略⑥	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第8回	ビジネスモデルの分析①	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する

第9回	ビジネスモデルの分析②	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第10回	ビジネスモデルの分析③	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第11回	ビジネスモデルの分析④	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第12回	ビジネスモデルの分析⑤	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第13回	ビジネスモデルの分析⑥	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第14回	ビジネスモデルの分析⑦	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

アレックス・オスターワルダー＝イヴ・ビニョール（著）、小山龍介（翻訳）『ビジネスモデル・ジェネレーション[コンパクト版]ビジネスモデル設計書』翔泳社、2025年
 会社四季報業界地図編集部（編）・井上達彦（監修）『もうけの仕組み：ビジネスモデル大図鑑 404社を徹底検証!』東洋経済新報社、2025年
 根来龍之・富樫佳織・足代訓史『この一冊で全部わかる ビジネスモデル』SBクリエイティブ、2020年
 その他必要な文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（40％）、複数回の担当課題・発表の合計（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

グループでの活動が中心であるため、出席を重視します。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this seminar is to analyze the business models of real companies using several analytical frameworks. Through case-based discussions grounded in strategic management, students will learn what makes contemporary business models effective and under what conditions they are viable, while developing both theoretical understanding and the ability to use analytical frameworks to interpret real-world business phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the following components: ordinary performance and class engagement (40%), and a combination of assigned tasks and presentations conducted throughout the seminar (60%).

演習4

木川 大輔

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。実在する企業の事例をベースに、現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について、経営戦略論の知見を用いながら議論することを通じて、理論面への理解、現象を読み解く力の両方を養います。

【到達目標】

- ・経営戦略・ビジネスモデルに関する文献を読み、内容を理解した上で要約し他者に説明できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを用いて実在する企業や社会現象などを分析できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを活用しながら、他者との協働を通じて、実在する企業の課題を発見できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習の基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。演習の前半では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかのフレームワーク（時間分析枠組み）を用いて分析します。皆さんがよく知っている企業を題材に挙げながら、その企業のビジネスモデルはどのような点が優れているのか、といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。演習の後半では、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か、どうしたらその企業の収益を高めることができるか、といった点を議論します。実在する企業の経営課題を学生自身が発見したうえで、それに対する解決策をを考案し、3、4人の実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）してもらいます。

授業（演習）は一貫してプロジェクト形式で進行されるため、毎回教員から特定の課題を提示するというよりは、次回までに行ってくるべきタスクがあれば、それを各自で完成させて次の回の演習に臨むというサイクルが想定されます。ただし、課題に取り組むにあたり、指導教員とのコミュニケーションやフォローアップが必要な場合は、学習支援システムや、その他演習内で定めたコミュニケーション方法を用いてインタラクティブな指導を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクト活動につ	秋学期のプロジェクト活動について
第2回	プロジェクト活動①	の説明とグループぎめを行なう 実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第3回	プロジェクト活動②	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第4回	プロジェクト活動③	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第5回	プロジェクト活動④	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第6回	プロジェクト活動⑤	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第7回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第8回	中間発表	プロジェクト活動の成果の中間発表を行なう
第9回	プロジェクト活動⑦	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第10回	プロジェクト活動⑧	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第11回	プロジェクト活動⑨	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう

第12回	プロジェクト活動⑩	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第13回	最終発表	プロジェクト活動の成果の最終発表を行なう
第14回	全体の振り返り	1年間の演習全体の振り返りを行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

アレックス・オスターワルダー＝イヴ・ピニユール（著）、小山龍介（翻訳）『ビジネスモデル・ジェネレーション[コンパクト版]ビジネスモデル設計書』翔泳社、2025年
会社四季報業界地図編集部（編）・井上達彦（監修）『もうけの仕組み：ビジネスモデル大図鑑 404社を徹底検証!』東洋経済新報社、2025年
根来龍之・富樫佳織・足代訓史『この一冊で全部わかる ビジネスモデル』SBクリエイティブ、2020年
その他必要な文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（40％）、複数回の担当課題・発表の合計（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

グループでの活動が中心であるため、出席を重視します。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this seminar is to analyze the business models of real companies using several analytical frameworks. Through case-based discussions grounded in strategic management, students will learn what makes contemporary business models effective and under what conditions they are viable, while developing both theoretical understanding and the ability to use analytical frameworks to interpret real-world business phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the following components: ordinary performance and class engagement (40%), and a combination of assigned tasks and presentations conducted throughout the seminar (60%).

演習5

木川 大輔

演習演習 選択_演習 4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。実在する企業の事例をベースに、現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について、経営戦略論の知見を用いながら議論することを通じて、理論面への理解、現象を読み解く力の両方を養います。

【到達目標】

- ・経営戦略・ビジネスモデルに関する文献を読み、内容を理解した上で要約し他者に説明できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを用いて実在する企業や社会現象などを分析できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを活用しながら、他者との協働を通じて、実在する企業の課題を発見できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習の基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。演習の前半では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかのフレームワーク（時間分析枠組み）を用いて分析します。皆さんがよく知っている企業を題材に挙げながら、その企業のビジネスモデルはどのような点が優れているのか、といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。演習の後半では、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か、どうしたらその企業の収益を高めることができるか、といった点を議論します。実在する企業の経営課題を学生自身が発見したうえで、それに対する解決策のを考案し、3、4人の実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）してもらいます。

授業（演習）は一貫してプロジェクト形式で進行されるため、毎回教員から特定の課題を提示するというよりは、次回までに行ってくるべきタスクがあれば、それを各自で完成させて次の回の演習に臨むというサイクルが想定されます。ただし、課題に取り組むにあたり、指導教員とのコミュニケーションやフォローアップが必要な場合は、学習支援システムや、その他演習内で定めたコミュニケーション方法を用いてインタラクティブな指導を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本演習で取り扱う対象の学問領域についての説明、ゼミの運営について
第2回	ビジネスモデルと経営戦略①	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第3回	ビジネスモデルと経営戦略②	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第4回	ビジネスモデルと経営戦略③	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第5回	ビジネスモデルと経営戦略④	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第6回	ビジネスモデルと経営戦略⑤	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第7回	ビジネスモデルと経営戦略⑥	担当グループによる担当箇所の発表とそれに基づくディスカッションを行なう（内容は毎回異なる）
第8回	ビジネスモデルの分析①	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する

第9回	ビジネスモデルの分析②	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第10回	ビジネスモデルの分析③	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第11回	ビジネスモデルの分析④	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第12回	ビジネスモデルの分析⑤	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第13回	ビジネスモデルの分析⑥	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する
第14回	ビジネスモデルの分析⑦	実在する企業のビジネスモデルを分析し、強みや弱み、競合他社との違いを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

アレックス・オスターワルダー＝イヴ・ビニョール（著）、小山龍介（翻訳）『ビジネスモデル・ジェネレーション[コンパクト版]ビジネスモデル設計書』翔泳社、2025年
 会社四季報業界地図編集部（編）・井上達彦（監修）『もうけの仕組み：ビジネスモデル大図鑑 404社を徹底検証!』東洋経済新報社、2025年
 根来龍之・富樫佳織・足代訓史『この一冊で全部わかる ビジネスモデル』SBクリエイティブ、2020年
 その他必要な文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（40％）、複数回の担当課題・発表の合計（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

グループでの活動が中心であるため、出席を重視します。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this seminar is to analyze the business models of real companies using several analytical frameworks. Through case-based discussions grounded in strategic management, students will learn what makes contemporary business models effective and under what conditions they are viable, while developing both theoretical understanding and the ability to use analytical frameworks to interpret real-world business phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the following components: ordinary performance and class engagement (40%), and a combination of assigned tasks and presentations conducted throughout the seminar (60%).

演習6

木川 大輔

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。実在する企業の事例をベースに、現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について、経営戦略論の知見を用いながら議論することを通じて、理論面への理解、現象を読み解く力の両方を養います。

【到達目標】

- ・経営戦略・ビジネスモデルに関する文献を読み、内容を理解した上で要約し他者に説明できるようになる。
- ・学んだ理論やフレームワークを用いて実在する企業や社会現象などを分析できるようにする。
- ・学んだ理論やフレームワークを活用しながら、他者との協働を通じて、実在する企業の課題を発見できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習の基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。演習の前半では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかのフレームワーク（時間分析枠組み）を用いて分析します。皆さんがよく知っている企業を題材に挙げながら、その企業のビジネスモデルはどのような点が優れているのか、といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。演習の後半では、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か、どうしたらその企業の収益を高めることができるか、といった点を議論します。実在する企業の経営課題を学生自身が発見したうえで、それに対する解決策のを考案し、3、4人の実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）してもらいます。

授業（演習）は一貫してプロジェクト形式で進行されるため、毎回教員から特定の課題を提示するというよりは、次回までに行ってくるべきタスクがあれば、それを各自で完成させて次の回の演習に臨むというサイクルが想定されます。ただし、課題に取り組むにあたり、指導教員とのコミュニケーションやフォローアップが必要な場合は、学習支援システムや、その他演習内で定めたコミュニケーション方法を用いてインタラクティブな指導を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクト活動につ	秋学期のプロジェクト活動について
第2回	プロジェクト活動①	の説明とグループぎめを行なう 実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第3回	プロジェクト活動②	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第4回	プロジェクト活動③	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第5回	プロジェクト活動④	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第6回	プロジェクト活動⑤	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第7回	プロジェクト活動⑥	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第8回	中間発表	プロジェクト活動の成果の中間発表を行なう
第9回	プロジェクト活動⑦	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第10回	プロジェクト活動⑧	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第11回	プロジェクト活動⑨	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう

第12回	プロジェクト活動⑩	実在する企業の課題分析、課題解決策の検討をグループで行なう
第13回	最終発表	プロジェクト活動の成果の最終発表を行なう
第14回	全体の振り返り	1年間の演習全体の振り返りを行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。毎回の授業前に必要な資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

アレックス・オスターワルダー＝イヴ・ピニユール（著）、小山龍介（翻訳）『ビジネスモデル・ジェネレーション[コンパクト版]ビジネスモデル設計書』翔泳社、2025年
会社四季報業界地図編集部（編）・井上達彦（監修）『もうけの仕組み: ビジネスモデル大図鑑 404社を徹底検証!』東洋経済新報社、2025年
根来龍之・富樫佳織・足代訓史『この一冊で全部わかる ビジネスモデル』SBクリエイティブ、2020年
その他必要な文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（40％）、複数回の担当課題・発表の合計（60％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

グループでの活動が中心であるため、出席を重視します。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this seminar is to analyze the business models of real companies using several analytical frameworks. Through case-based discussions grounded in strategic management, students will learn what makes contemporary business models effective and under what conditions they are viable, while developing both theoretical understanding and the ability to use analytical frameworks to interpret real-world business phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the following components: ordinary performance and class engagement (40%), and a combination of assigned tasks and presentations conducted throughout the seminar (60%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

芝田 隆志

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスの基礎について学習します。ファイナンスは、投資家の立場から考える投資論、企業家の立場から考えるコーポレートファイナンスに大別することができます。本演習では、ファイナンスの基礎概念を理解し、各自が設定した独自の研究テーマについて分析します。

【到達目標】

本演習では、次の4つを到達目標とします。

1. ファイナンス理論における基本的な概念を習得する
2. ファイナンスの問題に対する論理的な考え方の習得
3. 表計算ソフトを用いた計量分析や数値実験方法の習得
4. 導出した結果を適切に伝える手法の習得(レポート作成および口頭発表)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習ではテキストを輪読するため、各自（全員）は事前にテキストを読んでおく必要があります。輪読の担当者は、本演習において担当章の内容を報告します。全員でその内容についてディスカッションを行います。また、毎週の演習開始時には前回の内容を復習するための小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方や成績評価方法について説明
第2回	テキストの輪読	金融資産の評価方法について学習します
第3回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第4回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第5回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第6回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第7回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第8回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第9回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第10回	研究計画について発表	各自の研究計画について発表します
第11回	研究内容について発表	各自の研究内容について発表します
第12回	研究内容について発表	引き続き、各自の研究内容について発表します
第13回	研究レポート発表	各自の研究レポートについて発表します
第14回	研究レポート発表	引き続き、各自の研究レポートについて発表します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生と相談の上で決定する

【参考書】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(約50%)また演習への貢献度(約50%)にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心がけます。

【関連科目】

ファイナンス入門，投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，デリバティブ入門 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students master the basic concepts of finance. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

芝田 隆志

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスの基礎について学習します。ファイナンスは、投資家の立場から考える投資論、企業家の立場から考えるコーポレートファイナンスに大別することができます。本演習では、ファイナンスの基礎概念を理解し、各自が設定した独自の研究テーマについて分析します。

【到達目標】

本演習では、次の4つを到達目標とします。

1. ファイナンス理論における基本的な概念を習得する
2. ファイナンスの問題に対する論理的な考え方の習得
3. 表計算ソフトを用いた計量分析や数値実験方法の習得
4. 導出した結果を適切に伝える手法の習得(レポート作成および口頭発表)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習ではテキストを輪読するため、各自（全員）は事前にテキストを読んでおく必要があります。輪読の担当者は、本演習において担当章の内容を報告します。全員でその内容についてディスカッションを行います。また、毎週の演習開始時には前回の内容を復習するための小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方や成績評価方法について説明
第2回	テキストの輪読	金融資産の評価方法について学習します
第3回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第4回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第5回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第6回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第7回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第8回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第9回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第10回	研究計画について発表	各自の研究計画について発表します
第11回	研究内容について発表	各自の研究内容について発表します
第12回	研究内容について発表	引き続き、各自の研究内容について発表します
第13回	研究レポート発表	各自の研究レポートについて発表します
第14回	研究レポート発表	引き続き、各自の研究レポートについて発表します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生と相談の上で決定する

【参考書】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(約50%)また演習への貢献度(約50%)にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心がけます。

【関連科目】

ファイナンス入門，投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，デリバティブ入門 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students master the basic concepts of finance. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

芝田 隆志

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスの基礎について学習します。ファイナンスは、投資家の立場から考える投資論、企業家の立場から考えるコーポレートファイナンスに大別することができます。本演習では、ファイナンスの基礎概念を理解し、各自が設定した独自の研究テーマについて分析します。

【到達目標】

本演習では、次の4つを到達目標とします。

1. ファイナンス理論における基本的な概念を習得する
2. ファイナンスの問題に対する論理的な考え方の習得
3. 表計算ソフトを用いた計量分析や数値実験方法の習得
4. 導出した結果を適切に伝える手法の習得(レポート作成および口頭発表)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習ではテキストを輪読するため、各自（全員）は事前にテキストを読んでおく必要があります。輪読の担当者は、本演習において担当章の内容を報告します。全員でその内容についてディスカッションを行います。また、毎週の演習開始時には前回の内容を復習するための小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方や成績評価方法について説明
第2回	テキストの輪読	金融資産の評価方法について学習します
第3回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第4回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第5回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第6回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第7回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第8回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第9回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第10回	研究計画について発表	各自の研究計画について発表します
第11回	研究内容について発表	各自の研究内容について発表します
第12回	研究内容について発表	引き続き、各自の研究内容について発表します
第13回	研究レポート発表	各自の研究レポートについて発表します
第14回	研究レポート発表	引き続き、各自の研究レポートについて発表します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生と相談の上で決定する

【参考書】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(約50%)また演習への貢献度(約50%)にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心がけます。

【関連科目】

ファイナンス入門，投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，デリバティブ入門 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students master the basic concepts of finance. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

芝田 隆志

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスの基礎について学習します。ファイナンスは、投資家の立場から考える投資論、企業家の立場から考えるコーポレートファイナンスに大別することができます。本演習では、ファイナンスの基礎概念を理解し、各自が設定した独自の研究テーマについて分析します。

【到達目標】

本演習では、次の4つを到達目標とします。

1. ファイナンス理論における基本的な概念を習得する
2. ファイナンスの問題に対する論理的な考え方の習得
3. 表計算ソフトを用いた計量分析や数値実験方法の習得
4. 導出した結果を適切に伝える手法の習得(レポート作成および口頭発表)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習ではテキストを輪読するため、各自（全員）は事前にテキストを読んでおく必要があります。輪読の担当者は、本演習において担当章の内容を報告します。全員でその内容についてディスカッションを行います。また、毎週の演習開始時には前回の内容を復習するための小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方や成績評価方法について説明
第2回	テキストの輪読	金融資産の評価方法について学習します
第3回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第4回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第5回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第6回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第7回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第8回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第9回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第10回	研究計画について発表	各自の研究計画について発表します
第11回	研究内容について発表	各自の研究内容について発表します
第12回	研究内容について発表	引き続き、各自の研究内容について発表します
第13回	研究レポート発表	各自の研究レポートについて発表します
第14回	研究レポート発表	引き続き、各自の研究レポートについて発表します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生と相談の上で決定する

【参考書】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(約50%)また演習への貢献度(約50%)にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心がけます。

【関連科目】

ファイナンス入門，投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，デリバティブ入門 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students master the basic concepts of finance. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

芝田 隆志

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスの基礎について学習します。ファイナンスは、投資家の立場から考える投資論、企業家の立場から考えるコーポレートファイナンスに大別することができます。本演習では、ファイナンスの基礎概念を理解し、各自が設定した独自の研究テーマについて分析します。

【到達目標】

本演習では、次の4つを到達目標とします。

1. ファイナンス理論における基本的な概念を習得する
2. ファイナンスの問題に対する論理的な考え方の習得
3. 表計算ソフトを用いた計量分析や数値実験方法の習得
4. 導出した結果を適切に伝える手法の習得(レポート作成および口頭発表)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習ではテキストを輪読するため、各自（全員）は事前にテキストを読んでおく必要があります。輪読の担当者は、本演習において担当章の内容を報告します。全員でその内容についてディスカッションを行います。また、毎週の演習開始時には前回の内容を復習するための小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方や成績評価方法について説明
第2回	テキストの輪読	金融資産の評価方法について学習します
第3回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第4回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第5回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第6回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第7回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第8回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第9回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第10回	研究計画について発表	各自の研究計画について発表します
第11回	研究内容について発表	各自の研究内容について発表します
第12回	研究内容について発表	引き続き、各自の研究内容について発表します
第13回	研究レポート発表	各自の研究レポートについて発表します
第14回	研究レポート発表	引き続き、各自の研究レポートについて発表します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生と相談の上で決定する

【参考書】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(約50%)また演習への貢献度(約50%)にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心がけます。

【関連科目】

ファイナンス入門，投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，デリバティブ入門 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students master the basic concepts of finance. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

芝田 隆志

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスの基礎について学習します。ファイナンスは、投資家の立場から考える投資論、企業家の立場から考えるコーポレートファイナンスに大別することができます。本演習では、ファイナンスの基礎概念を理解し、各自が設定した独自の研究テーマについて分析します。

【到達目標】

本演習では、次の4つを到達目標とします。

1. ファイナンス理論における基本的な概念を習得する
2. ファイナンスの問題に対する論理的な考え方の習得
3. 表計算ソフトを用いた計量分析や数値実験方法の習得
4. 導出した結果を適切に伝える手法の習得(レポート作成および口頭発表)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習ではテキストを輪読するため、各自（全員）は事前にテキストを読んでおく必要があります。輪読の担当者は、本演習において担当章の内容を報告します。全員でその内容についてディスカッションを行います。また、毎週の演習開始時には前回の内容を復習するための小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方や成績評価方法について説明
第2回	テキストの輪読	金融資産の評価方法について学習します
第3回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第4回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第5回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第6回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第7回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第8回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第9回	テキストの輪読	引き続き、金融資産の評価方法について学習します
第10回	研究計画について発表	各自の研究計画について発表します
第11回	研究内容について発表	各自の研究内容について発表します
第12回	研究内容について発表	引き続き、各自の研究内容について発表します
第13回	研究レポート発表	各自の研究レポートについて発表します
第14回	研究レポート発表	引き続き、各自の研究レポートについて発表します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生と相談の上で決定する

【参考書】

岸本直樹・池田昌幸，2019，入門・証券投資論，有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習での発表(約50%)また演習への貢献度(約50%)にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心がけます。

【関連科目】

ファイナンス入門，投資入門，ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門 I/II，デリバティブ入門 I/II

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students master the basic concepts of finance. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Grading will be decided based on the students' presentation performance (50%) and its report (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

北田 皓嗣

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家はESG(Environmental, Social, Governance)の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals)に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業のCSR担当者の方に向けて発表してもらいます。提出されたレポートやグループワークの進捗にフィードバックをしていきます。夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第3回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第4回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第5回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第8回	サステナビリティ	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第9回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第10回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第11回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第12回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第13回	統合報告	通常の財務報告とCSR報告書の関係について考えます。
第14回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、サステナビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

北田 皓嗣

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家はESG(Environmental, Social, Governance)の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals)に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業のCSR担当者の方に向けて発表してもらいます。提出されたレポートやグループワークの進捗にフィードバックをしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第3回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第4回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第5回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第8回	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第9回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第10回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第11回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第12回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第13回	統合報告	通常の財務報告とCSR報告書の関係について考えます。
第14回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）

4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSRや公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。

経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

北田 皓嗣

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家はESG(Environmental, Social, Governance)の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals)に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業のCSR担当者の方に向けて発表してもらいます。提出されたレポートやグループワークの進捗にフィードバックをしていきます。夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第3回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第4回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第5回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第8回	サステナビリティ	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第9回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第10回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第11回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第12回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第13回	統合報告	通常の財務報告とCSR報告書の関係について考えます。
第14回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、サステナビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

北田 皓嗣

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家はESG(Environmental, Social, Governance)の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals)に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業のCSR担当者の方に向けて発表してもらいます。提出されたレポートやグループワークの進捗にフィードバックをしていきます。夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第3回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第4回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第5回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第8回	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第9回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第10回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第11回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第12回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第13回	統合報告	通常の財務報告とCSR報告書の関係について考えます。
第14回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSRや公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。経営学部多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives. The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

北田 皓嗣

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家はESG(Environmental, Social, Governance)の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals)に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業のCSR担当者の方に向けて発表してもらいます。提出されたレポートやグループワークの進捗にフィードバックをしていきます。夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第3回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第4回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第5回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第8回	サステナビリティ	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第9回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第10回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第11回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第12回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第13回	統合報告	通常の財務報告とCSR報告書の関係について考えます。
第14回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、サステナビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

北田 皓嗣

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家はESG(Environmental, Social, Governance)の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs(Sustainable Development Goals)に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業のCSR担当者の方に向けて発表してもらいます。提出されたレポートやグループワークの進捗にフィードバックをしていきます。夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第3回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第4回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第5回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第8回	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第9回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第10回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第11回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第12回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第13回	統合報告	通常の財務報告とCSR報告書の関係について考えます。
第14回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSRや公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives. The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

木原 章

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を200字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じてZoomによるオンライン方式で授業を行います。なお課題等に対するフィードバックは、授業の場で行いますが、必要に応じてメール等の個人的コミュニケーションにおける対応も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	新聞などのマスコミ報道の抽出・要約入門	新聞などのマスコミ報道を200字程度で要約するためのトレーニングを行います。
第2回	ニュース要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
第3回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）全国民のDNA採取の義務化は受け入れられるか？
第4回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）日本のゴミ問題
第5回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）クローン技術は是か非か
第6回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）捕鯨問題について
第7回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）臓器移植について
第8回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）脳死は死か？
第9回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）原発を無くすには？
第10回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）生物多様性
第11回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）ホットなバイオ市場
第12回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）有用動物
第13回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）遺伝子組み換え表示規制
第14回	夏ゼミ合宿テーマ選定	（過去の例）バイオ燃料

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず30分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50%）、質疑応答への参加度合い（25%）、グループディスカッションでの貢献率（25%）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに2回以上欠席した場合は、不合格とします。就活等による欠席は自己都合によるものです。従って、例え届けを出したとしても、公欠とは認められません。出席が大幅に少ない場合は単位の付与は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用のWebを使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will browse the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should browse and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

木原 章

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意を通じて探索し、④その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を200字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じてZoomによるオンライン方式で授業を行います。なお課題等に対するフィードバックは、授業の場で行いますが、必要に応じてメール等の個人的コミュニケーションにおける対応も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例)築地移転問題
第2回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)風力発電の可能性
第3回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)原発を支えたエネルギー政策
第4回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)ブラック企業
第5回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)マクドナルド研究
第6回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)再生医療(実状と未来)
第7回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)日本のバイオベンチャー研究
第8回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)地方再生
第9回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)バイオミメティクス
第10回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)プロスポーツビジネス
第11回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)インバウンド消費
第12回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)バイオエタノールの行方
第13回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)クローン人間の悲劇性についての考察
第14回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず30分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50％）、質疑応答への参加度合い（25％）、グループディスカッションでの貢献率（25％）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに2回以上欠席した場合は、不合格とします。就活等による欠席は自己都合によるものです。従って、例え届けを出したとしても、公欠とは認められません。出席が大幅に少ない場合は単位の付与は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用のWebを使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。ゼミのサイトは <http://bionews.i.hosei.ac.jp/> 経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

演習3

木原 章

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を200字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じてZoomによるオンライン方式で授業を行います。なお課題等に対するフィードバックは、授業の場で行いますが、必要に応じてメール等の個人的コミュニケーションにおける対応も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	新聞などのマスコミ報道の抽出・要約入門	新聞などのマスコミ報道を200字程度で要約するためのトレーニングを行います。
第2回	ニュース要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
第3回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）全国民のDNA採取の義務化は受け入れられるか？
第4回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）日本のゴミ問題
第5回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）クローン技術は是か非か
第6回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）捕鯨問題について
第7回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）臓器移植について
第8回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）脳死は死か？
第9回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）原発を無くすには？
第10回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）生物多様性
第11回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）ホットなバイオ市場
第12回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）有用動物
第13回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）遺伝子組み換え表示規制
第14回	夏ゼミ合宿テーマ選定	（過去の例）バイオ燃料

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず30分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50%）、質疑応答への参加度合い（25%）、グループディスカッションでの貢献率（25%）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに2回以上欠席した場合は、不合格とします。就活等による欠席は自己都合によるものです。従って、例え届けを出したとしても、公欠とは認められません。出席が大幅に少ない場合は単位の付与は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用のWebを使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will browse the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should browse and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

木原 章

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意を通じて探索し、④その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を200字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じてZoomによるオンライン方式で授業を行います。なお課題等に対するフィードバックは、授業の場で行いますが、必要に応じてメール等の個人的コミュニケーションにおける対応も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例) 築地移転問題
第2回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 風力発電の可能性
第3回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 原発を支えたエネルギー政策
第4回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) ブラック企業
第5回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) マクドナルド研究
第6回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 再生医療(実状と未来)
第7回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 日本のバイオベンチャー研究
第8回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 地方再生
第9回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオミメティクス
第10回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) プロスポーツビジネス
第11回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) インバウンド消費
第12回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオエタノールの行方
第13回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) クロヨン人間の悲劇性についての考察
第14回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず30分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50%）、質疑応答への参加度合い（25%）、グループディスカッションでの貢献率（25%）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに2回以上欠席した場合は、不合格とします。就活等による欠席は自己都合によるものです。従って、例え届けを出したとしても、公欠とは認められません。出席が大幅に少ない場合は単位の付与は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用のWebを使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。ゼミのサイトは <http://bionews.i.hosei.ac.jp/> 経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

演習5

木原 章

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を200字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じてZoomによるオンライン方式で授業を行います。なお課題等に対するフィードバックは、授業の場で行いますが、必要に応じてメール等の個人的コミュニケーションにおける対応も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	新聞などのマスコミ報道の抽出・要約入門	新聞などのマスコミ報道を200字程度で要約するためのトレーニングを行います。
第2回	ニュース要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
第3回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）全国民のDNA採取の義務化は受け入れられるか？
第4回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）日本のゴミ問題
第5回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）クローン技術は是か非か
第6回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）捕鯨問題について
第7回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）臓器移植について
第8回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）脳死は死か？
第9回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）原発を無くすには？
第10回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）生物多様性
第11回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）ホットなバイオ市場
第12回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）有用動物
第13回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）遺伝子組み換え表示規制
第14回	夏ゼミ合宿テーマ選定	（過去の例）バイオ燃料

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず30分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50%）、質疑応答への参加度合い（25%）、グループディスカッションでの貢献率（25%）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに2回以上欠席した場合は、不合格とします。就活等による欠席は自己都合によるものです。従って、例え届けを出したとしても、公欠とは認められません。出席が大幅に少ない場合は単位の付与は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用のWebを使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will browse the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should browse and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

木原 章

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意を通じて探索し、④その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を200字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じてZoomによるオンライン方式で授業を行います。なお課題等に対するフィードバックは、授業の場で行いますが、必要に応じてメール等の個人的コミュニケーションにおける対応も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例)築地移転問題
第2回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)風力発電の可能性
第3回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)原発を支えたエネルギー政策
第4回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)ブラック企業
第5回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)マクドナルド研究
第6回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)再生医療(実状と未来)
第7回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)日本のバイオベンチャー研究
第8回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)地方再生
第9回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)バイオミメティクス
第10回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)プロスポーツビジネス
第11回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)インバウンド消費
第12回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)バイオエタノールの行方
第13回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)クローン人間の悲劇性についての考察
第14回	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例)遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず30分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50％）、質疑応答への参加度合い（25％）、グループディスカッションでの貢献率（25％）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに2回以上欠席した場合は、不合格とします。就活等による欠席は自己都合によるものです。従って、例え届けを出したとしても、公欠とは認められません。出席が大幅に少ない場合は単位の付与は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用のWebを使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。ゼミのサイトは <http://bionews.i.hosei.ac.jp/> 経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

金 瑤晋

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産への投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&Aの意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
- ・受講者は、次の学習内容について予習を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
- ・他のグループや講師から補足を行う。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。

④単位取得

- ・単位取得のためには2/3以上の出席が求められる。

発表、課題、質問などに対するフィードバックは授業中にその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業の資金調達手段	証券の発行、借入など
第2回	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率の決定
第3回	資本構成理論：基礎1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MMの命題
第4回	資本構成理論：基礎2	負債利用の節税効果、修正MM命題、倒産コスト、個人税とMM命題
第5回	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
第6回	エクイティファイナンス1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
第7回	エクイティファイナンス2	公募増資の現状と費用
第8回	デットファイナンス1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
第9回	デットファイナンス2	担保と借入、担保と企業再生
第10回	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
第11回	ペイアウト政策1	配当政策におけるMMの命題、税制と顧客効果
第12回	ペイアウト政策2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
第13回	ペイアウト政策3	自社株買い、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
第14回	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるように心がけましょう。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告30%、平常点（質問、コメントなどの授業参加度）40%、報告30%に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、または報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、学習支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

金 塔晋

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&Aの意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
- ・受講者は、次の学習内容について予習を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
- ・他のグループや講師から補足を行う。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。

④単位取得

- ・単位取得のためには2/3以上の出席が求められる。

発表、課題、質問などに対するフィードバックは授業中にその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクトの発表	報告1, 報告2
第2回	プロジェクトの発表	報告3, 報告4
第3回	プロジェクトの発表	報告5, 報告6
第4回	プロジェクトの発表	報告7, 報告8
第5回	入ゼミ関連行事	入ゼミ希望者の面接と選考
第6回	プロジェクトの発表	報告9, 報告10
第7回	プロジェクトの発表	報告11, 報告12
第8回	プロジェクトの発表	報告13, 報告14
第9回	プロジェクトの発表	報告15, 報告16
第10回	プロジェクトの発表	報告17, 報告18
第11回	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
第12回	プロジェクトの発表	報告19, 報告20
第13回	プロジェクトの発表	報告21, 報告22
第14回	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けて下さい。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期はテキストを指定しません。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

質問、コメントなど授業参加度50%、プロジェクトの発表50%。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

金 瑠晋

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産への投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&Aの意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
- ・受講者は、次の学習内容について予習を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
- ・他のグループや講師から補足を行う。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。

④単位取得

- ・単位取得のためには2/3以上の出席が求められる。

発表、課題、質問などに対するフィードバックは授業中にその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業の資金調達手段	証券の発行、借入など
第2回	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率の決定
第3回	資本構成理論：基礎1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MMの命題
第4回	資本構成理論：基礎2	負債利用の節税効果、修正MM命題、倒産コスト、個人税とMM命題
第5回	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
第6回	エクイティファイナンス1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
第7回	エクイティファイナンス2	公募増資の現状と費用
第8回	デットファイナンス1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
第9回	デットファイナンス2	担保と借入、担保と企業再生
第10回	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
第11回	ペイアウト政策1	配当政策におけるMMの命題、税制と顧客効果
第12回	ペイアウト政策2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
第13回	ペイアウト政策3	自社株買い、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
第14回	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるように心がけましょう。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告30%、平常点（質問、コメントなどの授業参加度）40%、報告30%に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、または報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、学習支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

金 塔晋

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&Aの意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
- ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
- ・他のグループや講師から補足を行う。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。

④単位取得

- ・単位取得のためには2/3以上の出席が求められる。

発表、課題、質問などに対するフィードバックは授業中にその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクトの発表	報告1, 報告2
第2回	プロジェクトの発表	報告3, 報告4
第3回	プロジェクトの発表	報告5, 報告6
第4回	プロジェクトの発表	報告7, 報告8
第5回	入ゼミ関連行事	入ゼミ希望者の面接と選考
第6回	プロジェクトの発表	報告9, 報告10
第7回	プロジェクトの発表	報告11, 報告12
第8回	プロジェクトの発表	報告13, 報告14
第9回	プロジェクトの発表	報告15, 報告16
第10回	プロジェクトの発表	報告17, 報告18
第11回	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
第12回	プロジェクトの発表	報告19, 報告20
第13回	プロジェクトの発表	報告21, 報告22
第14回	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けて下さい。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期はテキストを指定しません。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

質問、コメントなど授業参加度50%、プロジェクトの発表50%。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

金 瑠晋

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産への投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&Aの意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
- ・受講者は、次の学習内容について予習を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
- ・他のグループや講師から補足を行う。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。

④単位取得

- ・単位取得のためには2/3以上の出席が求められる。

発表、課題、質問などに対するフィードバックは授業中にその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業の資金調達手段	証券の発行、借入など
第2回	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率の決定
第3回	資本構成理論：基礎1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MMの命題
第4回	資本構成理論：基礎2	負債利用の節税効果、修正MM命題、倒産コスト、個人税とMM命題
第5回	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
第6回	エクイティファイナンス1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
第7回	エクイティファイナンス2	公募増資の現状と費用
第8回	デットファイナンス1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
第9回	デットファイナンス2	担保と借入、担保と企業再生
第10回	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
第11回	ペイアウト政策1	配当政策におけるMMの命題、税制と顧客効果
第12回	ペイアウト政策2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
第13回	ペイアウト政策3	自社株買い、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
第14回	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるように心がけましょう。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告30%、平常点（質問、コメントなどの授業参加度）40%、報告30%に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、または報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、学習支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

金 塔晋

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&Aの意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が育われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
- ・受講者は、次の学習内容について予習を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
- ・他のグループや講師から補足を行う。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。

④単位取得

- ・単位取得のためには2/3以上の出席が求められる。

発表、課題、質問などに対するフィードバックは授業中にその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクトの発表	報告1, 報告2
第2回	プロジェクトの発表	報告3, 報告4
第3回	プロジェクトの発表	報告5, 報告6
第4回	プロジェクトの発表	報告7, 報告8
第5回	入ゼミ関連行事	入ゼミ希望者の面接と選考
第6回	プロジェクトの発表	報告9, 報告10
第7回	プロジェクトの発表	報告11, 報告12
第8回	プロジェクトの発表	報告13, 報告14
第9回	プロジェクトの発表	報告15, 報告16
第10回	プロジェクトの発表	報告17, 報告18
第11回	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
第12回	プロジェクトの発表	報告19, 報告20
第13回	プロジェクトの発表	報告21, 報告22
第14回	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けて下さい。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期はテキストを指定しません。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

質問、コメントなど授業参加度50%、プロジェクトの発表50%。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

金 容度

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析、また、ディスカッションに参加することによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を理解することができる。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表(4年生)を通じて、論理的な思考とその適切な表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外企業も多数取り上げられる。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。毎週提出されるレポートについて、次の週の授業でコメントする。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションと新入ゼミ生の報告	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。また、新入ゼミ生(春合宿欠席者)の報告を行う。
第2回	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
第3回	メルカリとブックオフの比較	CtoCプラットフォームと実店舗リユース業態の価値創出・価格決定構造を分析、ディスカッションする。
第4回	アップルストアー	APP Storeの展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
第5回	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
第6回	セブンイレブン	セブンイレブンのオペレーションシステムについて分析、ディスカッションする。
第7回	ダイキン工業	エアコンのトップメーカーであるダイキン工業の海外戦略を分析、ディスカッションする。
第8回	星野リゾート	リゾート再生事業で成長してきた星野リゾートの成長要因を分析、議論する。
第9回	トヨタ自動車	トヨタ自動車のトップマネジメントのキャリアパスを分析、議論する。
第10回	稲森和夫と京セラ	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及びKDDIの事業展開について議論する。
第11回	アイリス・オーヤマ	地方中小メーカーから大企業に成長したアイリス・オーヤマの戦略を分析し、議論する。
第12回	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
第13回	ディズニランド	各国のディズニランドの経営を比較分析し、議論する。
第14回	卒業論文中間発表会	4年生による卒業論文の中間発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 加藤健太、大石直樹(2025)『ケースに学ぶ日本の企業 第2版』有斐閣
- (2) 沼上幹, 加藤俊彦(2020)『一橋MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新報社
- (3) 東北大学経営学グループ(2019)『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣ブックス
- (4) 沼上幹(2018)『一橋MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(20%)、毎週のレポート(30%)、授業中の議論への貢献度(30%)、合宿時の報告内容および参加度(20%)等で評価する。なお、4年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文(発表会での報告内容、論文内容)を成績評価基準(50%)に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、より多様な産業の企業事例を取り上げる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

金 容度

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業事例及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数企業の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。毎週提出されるレポートについて、次の週の授業でコメントする。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の発表・作成(4年生)を通じて論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業である。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ヤマトグループ	物流会社、ヤマトの標準化とオープン化戦略を分析、議論する。
第2回	エヌビディアとTSMC	AI向け半導体市場で急成長しているエヌビディアと、世界半導体産業のトップを座を占めるTSMCの成長過程と戦略を分析し、ディスカッションする。
第3回	ワークマン	アウトドアやスポーツウェア分野で伸びているワークマンの変革の軌跡と成長要因を分析、議論する。
第4回	任天堂	ゲーム機器企業の任天堂の成長過程とビジネスモデルを分析する。
第5回	入ゼミ面接試験	演習入試の面接試験を行う。
第6回	リクルート	リクルートの経営理念と企業文化を分析、ディスカッションする。
第7回	食品商社	食品商社の課題と役割について議論する。
第8回	スーパーホテル	全国ホテルチェーンであるスーパーホテルの組織改革と戦略転換を分析し、ディスカッションする。
第9回	宝塚歌劇団と劇団四季	宝塚歌劇団と劇団四季のビジネスモデルと成功要因を議論する。
第10回	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
第11回	旭酒造	「獺祭」で知られる旭酒造の改革と成長の軌跡を分析し、議論する。
第12回	卒業論文の最終発表会(1)	4年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第13回	卒業論文の最終発表会(2)	4年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第14回	Gunosy	スマートフォン向け情報を開発、運営するGunosy(グノシー)の成長過程を分析し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 加藤健太、大石直樹(2025)『ケースに学ぶ日本の企業 第2版』有斐閣
- (2) 沼上幹、加藤俊彦(2020)『一橋MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新報社
- (3) 東北大学経営学グループ(2019)『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣ブックス
- (4) 沼上幹(2018)『一橋MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社
- (5) 沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ(2017)『一橋MBA戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (6) 沼上幹(2016)『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(20%)、毎週のレポート(50%)、授業中の議論への貢献度(30%)等で評価する。なお、4年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文(発表会での報告内容、論文内容)を成績評価基準(50%)に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年秋の授業では、より多様な産業の企業をケースとして取り上げる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

金 容度

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析、また、ディスカッションに参加することによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を理解することができる。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表(4年生)を通じて、論理的な思考とその適切な表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外企業も多数取り上げられる。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。毎週提出されるレポートについて、次の週の授業でコメントする。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションと新入ゼミ生の報告	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。また、新入ゼミ生(春合宿欠席者)の報告を行う。
第2回	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
第3回	メルカリとブックオフの比較	CtoCプラットフォームと実店舗リユース業態の価値創出・価格決定構造を分析、ディスカッションする。
第4回	アップルストアー	APP Storeの展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
第5回	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
第6回	セブンイレブン	セブンイレブンのオペレーションシステムについて分析、ディスカッションする。
第7回	ダイキン工業	エアコンのトップメーカーであるダイキン工業の海外戦略を分析、ディスカッションする。
第8回	星野リゾート	リゾート再生事業で成長してきた星野リゾートの成長要因を分析、議論する。
第9回	トヨタ自動車	トヨタ自動車のトップマネジメントのキャリアパスを分析、議論する。
第10回	稲森和夫と京セラ	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及びKDDIの事業展開について議論する。
第11回	アイリス・オーヤマ	地方中小メーカーから大企業に成長したアイリス・オーヤマの戦略を分析し、議論する。
第12回	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
第13回	ディズニランド	各国のディズニランドの経営を比較分析し、議論する。
第14回	卒業論文中間発表会	4年生による卒業論文の中間発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 加藤健太、大石直樹(2025)『ケースに学ぶ日本の企業 第2版』有斐閣
- (2) 沼上幹, 加藤俊彦(2020)『一橋MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新報社
- (3) 東北大学経営学グループ(2019)『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣ブックス
- (4) 沼上幹(2018)『一橋MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(20%)、毎週のレポート(30%)、授業中の議論への貢献度(30%)、合宿時の報告内容および参加度(20%)等で評価する。なお、4年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文(発表会での報告内容、論文内容)を成績評価基準(50%)に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、より多様な産業の企業事例を取り上げる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

金 容度

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業事例及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数企業の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の発表・作成(4年生)を通じて論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業である。

授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。毎週提出されるレポートについて、次の週の授業でコメントする。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ヤマトグループ	物流会社、ヤマトの標準化とオープン化戦略を分析、議論する。
第2回	エヌビディアとTSMC	AI向け半導体市場で急成長しているエヌビディアと、世界半導体産業のトップを座を占めるTSMCの成長過程と戦略を分析し、ディスカッションする。
第3回	ワークマン	アウトドアやスポーツウェア分野で伸びているワークマンの変革の軌跡と成長要因を分析、議論する。
第4回	任天堂	ゲーム機器企業の任天堂の成長過程とビジネスモデルを分析する。
第5回	入ゼミ面接試験	演習入試の面接試験を行う。
第6回	リクルート	リクルートの経営理念と企業文化を分析、ディスカッションする。
第7回	食品商社	食品商社の課題と役割について議論する。
第8回	スーパーホテル	全国ホテルチェーンであるスーパーホテルの組織改革と戦略転換を分析し、ディスカッションする。
第9回	宝塚歌劇団と劇団四季	宝塚歌劇団と劇団四季のビジネスモデルと成功要因を議論する。
第10回	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
第11回	旭酒造	「獺祭」で知られる旭酒造の改革と成長の軌跡を分析し、議論する。
第12回	卒業論文の最終発表会(1)	4年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第13回	卒業論文の最終発表会(2)	4年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第14回	Gunosy	スマートフォン向け情報を開発、運営するGunosy(グノシー)の成長過程を分析し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 加藤健太、大石直樹(2025)『ケースに学ぶ日本の企業 第2版』有斐閣
- (2) 沼上幹、加藤俊彦(2020)『一橋MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新報社
- (3) 東北大学経営学グループ(2019)『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣ブックス
- (4) 沼上幹(2018)『一橋MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社
- (5) 沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ(2017)『一橋MBA戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (6) 沼上幹(2016)『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(20%)、毎週のレポート(50%)、授業中の議論への貢献度(30%)等で評価する。なお、4年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文(発表会での報告内容、論文内容)を成績評価基準(50%)に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年秋の授業では、より多様な産業の企業をケースとして取り上げる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

金 容度

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析、また、ディスカッションに参加することによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を理解することができる。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表(4年生)を通じて、論理的な思考とその適切な表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外企業も多数取り上げられる。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。毎週提出されるレポートについて、次の週の授業でコメントする。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションと新入ゼミ生の報告	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。また、新入ゼミ生(春合宿欠席者)の報告を行う。
第2回	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
第3回	メルカリとブックオフの比較	CtoCプラットフォームと実店舗リユース業態の価値創出・価格決定構造を分析、ディスカッションする。
第4回	アップルストアー	APP Storeの展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
第5回	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
第6回	セブンイレブン	セブンイレブンのオペレーションシステムについて分析、ディスカッションする。
第7回	ダイキン工業	エアコンのトップメーカーであるダイキン工業の海外戦略を分析、ディスカッションする。
第8回	星野リゾート	リゾート再生事業で成長してきた星野リゾートの成長要因を分析、議論する。
第9回	トヨタ自動車	トヨタ自動車のトップマネジメントのキャリアパスを分析、議論する。
第10回	稲森和夫と京セラ	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及びKDDIの事業展開について議論する。
第11回	アイリス・オーヤマ	地方中小メーカーから大企業に成長したアイリス・オーヤマの戦略を分析し、議論する。
第12回	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
第13回	ディズニランド	各国のディズニランドの経営を比較分析し、議論する。
第14回	卒業論文中間発表会	4年生による卒業論文の中間発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 加藤健太、大石直樹(2025)『ケースに学ぶ日本の企業 第2版』有斐閣
- (2) 沼上幹, 加藤俊彦(2020)『一橋MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新報社
- (3) 東北大学経営学グループ(2019)『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣ブックス
- (4) 沼上幹(2018)『一橋MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(20%)、毎週のレポート(30%)、授業中の議論への貢献度(30%)、合宿時の報告内容および参加度(20%)等で評価する。なお、4年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文(発表会での報告内容、論文内容)を成績評価基準(50%)に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、より多様な産業の企業事例を取り上げる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

金 容度

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業事例及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数企業の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の発表・作成(4年生)を通じて論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業である。

授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。毎週提出されるレポートについて、次の週の授業でコメントする。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ヤマトグループ	物流会社、ヤマトの標準化とオープン化戦略を分析、議論する。
第2回	エヌビディアとTSMC	AI向け半導体市場で急成長しているエヌビディアと、世界半導体産業のトップを座を占めるTSMCの成長過程と戦略を分析し、ディスカッションする。
第3回	ワークマン	アウトドアやスポーツウェア分野で伸びているワークマンの変革の軌跡と成長要因を分析、議論する。
第4回	任天堂	ゲーム機器企業の任天堂の成長過程とビジネスモデルを分析する。
第5回	入ゼミ面接試験	演習入試の面接試験を行う。
第6回	リクルート	リクルートの経営理念と企業文化を分析、ディスカッションする。
第7回	食品商社	食品商社の課題と役割について議論する。
第8回	スーパーホテル	全国ホテルチェーンであるスーパーホテルの組織改革と戦略転換を分析し、ディスカッションする。
第9回	宝塚歌劇団と劇団四季	宝塚歌劇団と劇団四季のビジネスモデルと成功要因を議論する。
第10回	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
第11回	旭酒造	「獺祭」で知られる旭酒造の改革と成長の軌跡を分析し、議論する。
第12回	卒業論文の最終発表会(1)	4年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第13回	卒業論文の最終発表会(2)	4年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第14回	Gunosy	スマートフォン向け情報を開発、運営するGunosy(グノシー)の成長過程を分析し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 加藤健太、大石直樹(2025)『ケースに学ぶ日本の企業 第2版』有斐閣
- (2) 沼上幹、加藤俊彦(2020)『一橋MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新報社
- (3) 東北大学経営学グループ(2019)『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣ブックス
- (4) 沼上幹(2018)『一橋MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新報社
- (5) 沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ(2017)『一橋MBA戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (6) 沼上幹(2016)『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(20%)、毎週のレポート(50%)、授業中の議論への貢献度(30%)等で評価する。なお、4年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文(発表会での報告内容、論文内容)を成績評価基準(50%)に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年秋の授業では、より多様な産業の企業をケースとして取り上げる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

木村 純子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習で、履修生はマーケティングの中でも、1次産業(農林水産業)の振興に取り組みます。日本の食料安全保障と農家の食料主権を確立するため、単なる商品の販売促進ではなく、社会構造や人々の価値観を変えるためにはどうすればよいのかを考えられるようになります。

具体的には、2026年度は岩手県をフィールドにして、岩手大学農学部のご協力を得て、畜産を通じた地域再生に取り組みます。積極的にフィールドワークも行います。

理論を用いて現実を説明できる力をつけることも目標にしています。

【到達目標】

活動を通じて4つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

農産物を工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、人の手で育てられる生き物として捉え、畜産、地域活性化、食文化といった広い学問分野にわたって農産物マーケティングの基本概念と理論を理解していきます。そのために、フィールド調査と当事者へのインタビューを実施し、日本の農業の問題点や課題を明らかにした上で、解決策を導き出します。課題等に対するフィードバック方法として、授業内で、指導・アドバイス・総括を教授します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第3回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第4回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第5回	フィールド調査	岩手県へのフィールド調査とインタビュー調査、岩手大学農学部との合同ゼミ
第6回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第7回	ゼミ内中間発表	プロジェクトの進捗状況の中間発表
第8回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第9回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第10回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第11回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第12回	報告会	調査協力者への中間報告
第13回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第14回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はゼミ全体の活動とは別に、グループごとでもテーマに合わせたフィールドワークを行います。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ: 農業が変わる社会』白桃書房。

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略: 甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点
- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) グループ活動

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1) 木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)『日本型テリトリーオ形成の論理: 鹿児島県大隅の事例を手がかりに』『イノベーション・マネジメント』23。

(3) Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study,” Vandecastelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer, 321-332. ISBN:978-3-031-71640-9

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

演習2

木村 純子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習で、履修生はマーケティングの中でも、1次産業(農林水産業)の振興に取り組みます。日本の食料安全保障と農家の食料主権を確立するため、単なる産品の販売促進ではなく、社会構造や人々の価値観を変えるためにはどうすればよいのかを考えられるようになります。

具体的には、2026年度は岩手県の畜産をフィールドにして、岩手大学農学部さんのご協力を得て、畜産業振興と地域再生に取り組みます。積極的にフィールドワークも行います。理論を用いて現実を説明できる力をつけることも目標にしています。

【到達目標】

活動を通じて4つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な産品を用いて明らかにします。

また、農産物を工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、農場で育てられた生き物として捉え、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野にわたって農産物マーケティングの基本概念と理論を理解していきます。そのために、フィールド調査と当事者へのインタビューを実施し、日本の農業の問題点や課題を明らかにした上で、解決策を導き出します。

。課題等に対するフィードバック方法として、授業内で、指導・アドバイス・総括を教授します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第3回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第4回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第5回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第6回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第7回	中間報告	調査協力者への進捗状況のご報告
第8回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第9回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第10回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第11回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第12回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第13回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第14回	報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2) 木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ: 農業が変える社会』白桃書房。

(3) 木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略: 甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点
 - 2) 自己評価
 - 3) peer evaluation
 - 4) 個人発表
- 以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かった次、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「国際マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】

テリトリーオ、地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1) 木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)『日本型テリトリーオ形成の論理: 鹿児島県大隅の事例を手がかりに』『イノベーション・マネジメント』23。

(3) Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study,” Vandecandelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer, 321-332. ISBN:978-3-031-71640-9

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

演習3

木村 純子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習で、履修生はマーケティングの中でも、1次産業(農林水産業)の振興に取り組みます。日本の食料安全保障と農家の食料主権を確立するため、単なる製品の販売促進ではなく、社会構造や人々の価値観を変えるためにはどうすればよいのかを考えられるようになります。

具体的には、2026年度は岩手県をフィールドにして、岩手大学農学部さんのご協力を得て、農業振興と地域再生に取り組みます。積極的にフィールドワークも行います。

理論を用いて現実を説明できる力をつけることも目標にしています。

【到達目標】

活動を通じて4つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

農産物を工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、農場で育てられた生き物として捉え、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野にわたって農産物マーケティングの基本概念と理論を理解していきます。そのために、フィールド調査と当事者へのインタビューを実施し、日本の農業の問題点や課題を明らかにした上で、解決策を導き出します。課題等に対するフィードバック方法として、授業内で、指導・アドバイス・総括を教授します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第3回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第4回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第5回	フィールド調査	岩手へのフィールド調査とインタビュー調査、岩手大学農学部さんとの合同ゼミ
第6回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第7回	ゼミ内中間発表	プロジェクトの進捗状況の中間発表
第8回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第9回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第10回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第11回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第12回	報告会	調査協力者への中間報告
第13回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第14回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はゼミ全体の活動とは別に、グループごとでもテーマに合わせたフィールドワークを行います。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ:農業が変える社会』白桃書房。
- (2)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ:農業が変える社会』白桃書房。

- (3)木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点
- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) グループ活動

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1)木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ:デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「日本型テリトリーオ形成の論理:鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23。

(3)Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study,” Vandecastelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer, 321-332. ISBN:978-3-031-71640-9

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

演習4

木村 純子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習で、履修生はマーケティングの中でも、1次産業(農林水産業)の振興に取り組みます。日本の食料安全保障と農家の食料主権を確立するため、単なる産品の販売促進ではなく、社会構造や人々の価値観を変えるためにはどうすればよいのかを考えられるようになります。

具体的には、2026年度は岩手県をフィールドにして、岩手大学農学部さんのご協力を得て、農業振興と地域再生に取り組みます。積極的にフィールドワークも行います。

理論を用いて現実を説明できる力をつけることも目標にしています。

【到達目標】

活動を通じて4つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な産品を用いて明らかにします。

また、農産物を工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、農場で育てられた生き物として捉え、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野にわたって農産物マーケティングの基本概念と理論を理解していきます。そのために、フィールド調査と当事者へのインタビューを実施し、日本の農業の問題点や課題を明らかにした上で、解決策を導き出します。課題等に対するフィードバック方法として、授業内で、指導・アドバイスを総括を教授します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第3回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第4回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第5回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第6回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第7回	中間報告	調査協力者への進捗状況のご報告
第8回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第9回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第10回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第11回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第12回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第13回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第14回	報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ：農業が変える社会』白桃書房。

(2)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ：農業が変える社会』白桃書房。

(3)木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点
- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) 個人発表

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「国際マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1)木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ：デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「日本型テリトリーオ形成の論理：鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23。

(3)Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study,” Vandecandelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer, 321-332. ISBN:978-3-031-71640-9

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

演習5

木村 純子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習で、履修生はマーケティングの中でも、1次産業(農林水産業)の振興に取り組みます。日本の食料安全保障と農家の食料主権を確立するため、単なる製品の販売促進ではなく、社会構造や人々の価値観を変えるためにはどうすればよいのかを考えられるようになります。

具体的には、2026年度は岩手県をフィールドにして、岩手大学農学部さんのご協力を得て、農業振興と地域再生に取り組みます。積極的にフィールドワークも行います。

理論を用いて現実を説明できる力をつけることも目標にしています。

【到達目標】

活動を通じて4つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

農産物を工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、農場で育てられた生き物として捉え、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野にわたって農産物マーケティングの基本概念と理論を理解していきます。そのために、フィールド調査と当事者へのインタビューを実施し、日本の農業の問題点や課題を明らかにした上で、解決策を導き出します。課題等に対するフィードバック方法として、授業内で、指導・アドバイス・総括を教授します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第3回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第4回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第5回	フィールド調査	岩手県へのフィールド調査とインタビュー調査、岩手大学農学部さんとの合同ゼミ
第6回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第7回	ゼミ内中間発表	プロジェクトの進捗状況の中間発表
第8回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第9回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第10回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第11回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第12回	報告会	調査協力者への中間報告
第13回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第14回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はゼミ全体の活動とは別に、グループごとでもテーマに合わせたフィールドワークを行います。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ：農業が変える社会』白桃書房。
- (2)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ：農業が変える社会』白桃書房。

- (3)木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点
- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) グループ活動

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1)木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ：デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「日本型テリトリーオ形成の論理：鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23。

(3)Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study,” Vandecastelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer, 321-332. ISBN:978-3-031-71640-9

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

演習6

木村 純子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習で、履修生はマーケティングの中でも、1次産業(農林水産業)の振興に取り組みます。日本の食料安全保障と農家の食料主権を確立するため、単なる産品の販売促進ではなく、社会構造や人々の価値観を変えるためにはどうすればよいのかを考えられるようになります。

具体的には、2026年度は岩手県をフィールドにして、岩手大学農学部さんのご協力を得て、農業振興と地域再生に取り組みます。積極的にフィールドワークも行います。

理論を用いて現実を説明できる力をつけることも目標にしています。

【到達目標】

活動を通じて4つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な産品を用いて明らかにします。

また、農産物を工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、農場で育てられた生き物として捉え、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野にわたって農産物マーケティングの基本概念と理論を理解していきます。そのために、フィールド調査と当事者へのインタビューを実施し、日本の農業の問題点や課題を明らかにした上で、解決策を導き出します。課題等に対するフィードバック方法として、授業内で、指導・アドバイスを総括を教授します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第3回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第4回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第5回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第6回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第7回	中間報告	調査協力者への進捗状況のご報告
第8回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第9回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第10回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第11回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第12回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第13回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第14回	報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ：農業が変える社会』白桃書房。

(2)木村純子・陣内秀信(2024)『南イタリアの食とテリトリーオ：農業が変える社会』白桃書房。

(3)木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点
- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) 個人発表

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「国際マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1)木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトリーオ：デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房。

(2)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「日本型テリトリーオ形成の論理：鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23。

(3)Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study,” Vandecandelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer, 321-332. ISBN:978-3-031-71640-9

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

演習 1

倉田 俊彦

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPIや公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の2つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
- これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第2回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分を習得する。
第3回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分を習得する。
第4回	微分の実用	経済学に関連する微分の実用について学習する。
第5回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第6回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第7回	積分の実用	具体的な例題を通して積分の実用について学習する。
第8回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の計算法を習得する。
第9回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算法を習得する。
第10回	偏微分の実用	経済学に関連する偏微分の実用について学習する。
第11回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。

第12回	戦略型ゲームの戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第13回	混合戦略における均衡	混合戦略におけるナッシュ均衡の存在を理解する。
第14回	展開型ゲームの理論	部分ゲーム完全均衡について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容が関連する科目]

基礎数学 I/II

発展数学 L I/L II

教養数学 A/B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enables us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

演習2

倉田 俊彦

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPIや公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の2つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
- これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計算環境の準備	Pythonを使用する際に必要な準備知識を纏める。
第2回	Pythonの型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第3回	Pythonの式	演算子や式を利用したプログラミングの例を学習する。
第4回	Pythonの制御文	制御文を利用したプログラミングの例を学習する。
第5回	Pythonのクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第6回	Pythonと機械学習(1)	scikit-learnを使った分類・回帰の分析方法を学ぶ。
第7回	Pythonと機械学習(2)	scikit-learnを使ったクラスタリングの分析方法を学ぶ。
第8回	プログラミングの応用	各自の興味を持つ問題に対してプログラムによる分析を行う。
第9回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景と幾何学的な解法を理解する。
第10回	線形計画法の基礎	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第11回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。

第12回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法とプログラムを解説する。
第13回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価と計算方法を理解する。
第14回	包絡分析法の応用	包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、教えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容が関連する科目]

基礎数学 I / II

発展数学 L I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enables us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

演習3

倉田 俊彦

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPIや公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の2つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
- これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第2回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分を習得する。
第3回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分を習得する。
第4回	微分の実用	経済学に関連する微分の実用について学習する。
第5回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第6回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第7回	積分の実用	具体的な例題を通して積分の実用について学習する。
第8回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の計算法を習得する。
第9回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算法を習得する。
第10回	偏微分の実用	経済学に関連する偏微分の実用について学習する。
第11回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。

第12回	戦略型ゲームの戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第13回	混合戦略における均衡	混合戦略におけるナッシュ均衡の存在を理解する。
第14回	展開型ゲームの理論	部分ゲーム完全均衡について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容が関連する科目]

基礎数学 I/II

発展数学 L I/L II

教養数学 A/B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enables us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

倉田 俊彦

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPIや公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の2つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
- これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計算環境の準備	Pythonを使用する際に必要な準備知識を纏める。
第2回	Pythonの型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第3回	Pythonの式	演算子や式を利用したプログラミングの例を学習する。
第4回	Pythonの制御文	制御文を利用したプログラミングの例を学習する。
第5回	Pythonのクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第6回	Pythonと機械学習(1)	scikit-learnを使った分類・回帰の分析方法を学ぶ。
第7回	Pythonと機械学習(2)	scikit-learnを使ったクラスターリングの分析方法を学ぶ。
第8回	プログラミングの応用	各自の興味を持つ問題に対してプログラムによる分析を行う。
第9回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景と幾何学的な解法を理解する。
第10回	線形計画法の基礎	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第11回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。

第12回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法とプログラムを解説する。
第13回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価と計算方法を理解する。
第14回	包絡分析法の応用	包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、教えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容が関連する科目]

基礎数学 I / II

発展数学 L I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enables us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

演習5

倉田 俊彦

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPIや公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の2つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
- これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第2回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分を習得する。
第3回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分を習得する。
第4回	微分の実用	経済学に関連する微分の実用について学習する。
第5回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第6回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第7回	積分の実用	具体的な例題を通して積分の実用について学習する。
第8回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の計算方法を習得する。
第9回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算方法を習得する。
第10回	偏微分の実用	経済学に関連する偏微分の実用について学習する。
第11回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。

第12回	戦略型ゲームの戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第13回	混合戦略における均衡	混合戦略におけるナッシュ均衡の存在を理解する。
第14回	展開型ゲームの理論	部分ゲーム完全均衡について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容が関連する科目]

基礎数学 I/II

発展数学 L I/L II

教養数学 A/B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enables us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

倉田 俊彦

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPIや公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の2つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
- これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計算環境の準備	Pythonを使用する際に必要な準備知識を纏める。
第2回	Pythonの型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第3回	Pythonの式	演算子や式を利用したプログラミングの例を学習する。
第4回	Pythonの制御文	制御文を利用したプログラミングの例を学習する。
第5回	Pythonのクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第6回	Pythonと機械学習(1)	scikit-learnを使った分類・回帰の分析方法を学ぶ。
第7回	Pythonと機械学習(2)	scikit-learnを使ったクラスタリングの分析方法を学ぶ。
第8回	プログラミングの応用	各自の興味を持つ問題に対してプログラムによる分析を行う。
第9回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景と幾何学的な解法を理解する。
第10回	線形計画法の基礎	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第11回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。

第12回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法とプログラムを解説する。
第13回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価と計算方法を理解する。
第14回	包絡分析法の応用	包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、教えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容が関連する科目]

基礎数学 I / II

発展数学 L I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enables us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

児玉 靖司

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。マーケティングや経営情報学をテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主にマーケティングや経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、LMS(Learning Management System)などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、WEBマーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3人までからなるグループに分け、2・3年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目指す。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【補足】

質問対応や、課題へのフィードバックは学習支援システム(Webclassや、Google Classroom)に掲載して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第2回	グループ分け、テーマ設定(1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第3回	グループ分け、テーマ設定(2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第4回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第5回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第6回	輪読(1)	選定した本の輪読を行う。
第7回	輪読(2)	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読(3)	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読(4)	選定した本の輪読を行う。
第10回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第11回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第12回	輪読(5)	選定した本の輪読を行う。
第13回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第14回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点(50%)、発表内容について(50%)で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2、3年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点(50%)、発表、論文の内容について(50%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

演習2

児玉 靖司

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、LMS(Learning Management System)などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、WEBマーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3人までからなるグループに分け、2・3年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読み、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。

2、3年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【補足】

質問対応や、課題へのフィードバックは学習支援システム(Webclassや、Google Classroom)に掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第2回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第3回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第4回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第5回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第6回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第7回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第10回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第11回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第12回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第13回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第14回	学期のまとめ	学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2、3年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

児玉 靖司

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。マーケティングや経営情報学をテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主にマーケティングや経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、LMS(Learning Management System)などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、WEBマーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3人までからなるグループに分け、2・3年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目指す。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【補足】

質問対応や、課題へのフィードバックは学習支援システム(Webclassや、Google Classroom)に掲示して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第2回	グループ分け、テーマ設定(1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第3回	グループ分け、テーマ設定(2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第4回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第5回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第6回	輪読(1)	選定した本の輪読を行う。
第7回	輪読(2)	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読(3)	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読(4)	選定した本の輪読を行う。
第10回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第11回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第12回	輪読(5)	選定した本の輪読を行う。
第13回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第14回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点(50%)、発表内容について(50%)で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2、3年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点(50%)、発表、論文の内容について(50%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%). [Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

児玉 靖司

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、LMS(Learning Management System)などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、WEBマーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3人までからなるグループに分け、2・3年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読み、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。

2・3年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【補足】

質問対応や、課題へのフィードバックは学習支援システム(Webclassや、Google Classroom)に掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第2回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第3回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第4回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第5回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第6回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第7回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第10回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第11回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第12回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第13回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第14回	学期のまとめ	学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2・3年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

児玉 靖司

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。マーケティングや経営情報学をテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主にマーケティングや経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、LMS(Learning Management System)などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、WEBマーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3人までからなるグループに分け、2・3年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目指す。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【補足】

質問対応や、課題へのフィードバックは学習支援システム(Webclassや、Google Classroom)に掲示して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第2回	グループ分け、テーマ設定(1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第3回	グループ分け、テーマ設定(2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第4回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第5回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第6回	輪読(1)	選定した本の輪読を行う。
第7回	輪読(2)	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読(3)	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読(4)	選定した本の輪読を行う。
第10回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第11回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第12回	輪読(5)	選定した本の輪読を行う。
第13回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第14回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点(50%)、発表内容について(50%)で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2、3年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点(50%)、発表、論文の内容について(50%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

児玉 靖司

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。マーケティングや経営情報学をテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主にマーケティングや経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、LMS(Learning Management System)などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、WEBマーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3人までからなるグループに分け、2・3年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目指す。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【補足】

質問対応や、課題へのフィードバックは学習支援システム(Webclassや、Google Classroom)に掲示して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第2回	グループ分け、テーマ設定(1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第3回	グループ分け、テーマ設定(2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第4回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第5回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第6回	輪読(1)	選定した本の輪読を行う。
第7回	輪読(2)	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読(3)	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読(4)	選定した本の輪読を行う。
第10回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第11回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第12回	輪読(5)	選定した本の輪読を行う。
第13回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第14回	学期のまとめ	学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点(50%)、発表内容について(50%)で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2、3年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点(50%)、発表、論文の内容について(50%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

近藤 大輔

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では管理会計、経営者育成をテーマにします。学生の各グループで興味を湧くビジネスを考え、実践するプロセスで、どのように管理会計が使われ、どのようなスキルが経営者に求められるのかを勉強してもらいます。

【到達目標】

- ①論文を読んで理解する
 - ②関連情報を調べる
 - ③自分の意見・考えを持つ
 - ④それらを取りまとめてプレゼンする
 - ⑤ビジネスを実践する
- など総合力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・グループに分かれてプロジェクトを進めます。
- ・合宿については夏休みに実施予定です。
- ・10,11月にインナー大会、12月にアカウンティングコンペティションといったビジネスプレゼンテーションに参加予定です。
- ・年数回、大人（ビジネスパーソン）をお招きしてプロジェクト発表をする大人向けプレゼンを実施します。
- ・プロジェクトについて改善点などを授業中に説明し大会に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	管理会計の基礎	組織と管理会計
第3回	利益	なぜ利益か
第4回	利益とキャッシュの違い	現金を意識させる管理会計
第5回	組織と業績測定	組織構造と責任センター
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	原価計算	原価管理と原価計算
第8回	プロフィットセンター	事業部の利益計算
第9回	資産効率	資産効率の管理
第10回	アメーバ経営	時間当たり採算
第11回	予算管理	予算編成、統制
第12回	投資採算計算	NPV法、IRR法、PP法
第13回	研究開発管理	研究開発の特徴
第14回	影響システム	多様な影響システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計一人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版、2016年
その他、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎にゼミ活動に応用してもらいます。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand management and developing management. The goal of this class is ①Read and understand the paper, ② Check related information, ③ Have your own opinions and ideas, ④ Collect them and present them, ⑤ Practice business. Students will be required to write a report assignment outside of class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%) .

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

近藤 大輔

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では管理会計、経営者育成をテーマにします。学生の各グループで興味を湧くビジネスを考え、実践するプロセスで、どのように管理会計が使われ、どのようなスキルが経営者に求められるのかを勉強してもらいます。

【到達目標】

- ①論文を読んで理解する
 - ②関連情報を調べる
 - ③自分の意見・考えを持つ
 - ④それらを取りまとめてプレゼンする
 - ⑤ビジネスを実践する
- など総合力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・グループに分かれてプロジェクトを進めます。
- ・合宿については夏休みに実施予定です。
- ・10,11月にインナー大会、12月にアカウンティングコンペティションといったビジネスプレゼンテーションに参加予定です。
- ・年数回、大人（ビジネスパーソン）をお招きしてプロジェクト発表をする大人向けプレゼンを実施します。
- ・プロジェクトについて改善点などを授業中に説明し大会に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	管理会計の基礎	組織と管理会計
第3回	利益	なぜ利益か
第4回	利益とキャッシュの違い	現金を意識させる管理会計
第5回	組織と業績測定	組織構造と責任センター
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	原価計算	原価管理と原価計算
第8回	プロフィットセンター	事業部の利益計算
第9回	資産効率	資産効率の管理
第10回	アメーバ経営	時間当たり採算
第11回	予算管理	予算編成、統制
第12回	投資採算計算	NPV法、IRR法、PP法
第13回	研究開発管理	研究開発の特徴
第14回	影響システム	多様な影響システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計一人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版、2016年
その他、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50％）、レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎にゼミ活動に応用してもらいます。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand management and developing management. The goal of this class is ①Read and understand the paper, ② Check related information, ③ Have your own opinions and ideas, ④ Collect them and present them, ⑤ Practice business. Students will be required to write a report assignment outside of class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%) .

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習3

近藤 大輔

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では管理会計、経営者育成をテーマにします。学生の各グループで興味を湧くビジネスを考え、実践するプロセスで、どのように管理会計が使われ、どのようなスキルが経営者に求められるのかを勉強してもらいます。

【到達目標】

- ①論文を読んで理解する
 - ②関連情報を調べる
 - ③自分の意見・考えを持つ
 - ④それらを取りまとめてプレゼンする
 - ⑤ビジネスを実践する
- など総合力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・グループに分かれてプロジェクトを進めます。
- ・合宿については夏休みに実施予定です。
- ・10,11月にインナー大会、12月にアカウンティングコンペティションといったビジネスプレゼンテーションに参加予定です。
- ・年数回、大人（ビジネスパーソン）をお招きしてプロジェクト発表をする大人向けプレゼンを実施します。
- ・プロジェクトについて改善点などを授業中に説明し大会に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	管理会計の基礎	組織と管理会計
第3回	利益	なぜ利益か
第4回	利益とキャッシュの違い	現金を意識させる管理会計
第5回	組織と業績測定	組織構造と責任センター
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	原価計算	原価管理と原価計算
第8回	プロフィットセンター	事業部の利益計算
第9回	資産効率	資産効率の管理
第10回	アメーバ経営	時間当たり採算
第11回	予算管理	予算編成、統制
第12回	投資採算計算	NPV法、IRR法、PP法
第13回	研究開発管理	研究開発の特徴
第14回	影響システム	多様な影響システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計一人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版、2016年
その他、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎にゼミ活動に応用してもらいます。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand management and developing management. The goal of this class is ①Read and understand the paper, ② Check related information, ③ Have your own opinions and ideas, ④ Collect them and present them, ⑤ Practice business. Students will be required to write a report assignment outside of class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%) .

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習4

近藤 大輔

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では管理会計、経営者育成をテーマにします。学生の各グループで興味を湧くビジネスを考え、実践するプロセスで、どのように管理会計が使われ、どのようなスキルが経営者に求められるのかを勉強してもらいます。

【到達目標】

- ①論文を読んで理解する
 - ②関連情報を調べる
 - ③自分の意見・考えを持つ
 - ④それらを取りまとめてプレゼンする
 - ⑤ビジネスを実践する
- など総合力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・グループに分かれてプロジェクトを進めます。
- ・合宿については夏休みに実施予定です。
- ・10,11月にインナー大会、12月にアカウンティングコンペティションといったビジネスプレゼンテーションに参加予定です。
- ・年数回、大人（ビジネスパーソン）をお招きしてプロジェクト発表をする大人向けプレゼンを実施します。
- ・プロジェクトについて改善点などを授業中に説明し大会に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	管理会計の基礎	組織と管理会計
第3回	利益	なぜ利益か
第4回	利益とキャッシュの違い	現金を意識させる管理会計
第5回	組織と業績測定	組織構造と責任センター
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	原価計算	原価管理と原価計算
第8回	プロフィットセンター	事業部の利益計算
第9回	資産効率	資産効率の管理
第10回	アメーバ経営	時間当たり採算
第11回	予算管理	予算編成、統制
第12回	投資採算計算	NPV法、IRR法、PP法
第13回	研究開発管理	研究開発の特徴
第14回	影響システム	多様な影響システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計一人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版、2016年
その他、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50％）、レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎にゼミ活動に応用してもらいます。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand management and developing management. The goal of this class is ①Read and understand the paper, ② Check related information, ③ Have your own opinions and ideas, ④ Collect them and present them, ⑤ Practice business. Students will be required to write a report assignment outside of class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%) .

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習5

近藤 大輔

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では管理会計、経営者育成をテーマにします。学生の各グループで興味を湧くビジネスを考え、実践するプロセスで、どのように管理会計が使われ、どのようなスキルが経営者に求められるのかを勉強してもらいます。

【到達目標】

- ①論文を読んで理解する
 - ②関連情報を調べる
 - ③自分の意見・考えを持つ
 - ④それらを取りまとめてプレゼンする
 - ⑤ビジネスを実践する
- など総合力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・グループに分かれてプロジェクトを進めます。
- ・合宿については夏休みに実施予定です。
- ・10,11月にインナー大会、12月にアカウンティングコンペティションといったビジネスプレゼンテーションに参加予定です。
- ・年数回、大人（ビジネスパーソン）をお招きしてプロジェクト発表をする大人向けプレゼンを実施します。
- ・プロジェクトについて改善点などを授業中に説明し大会に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	管理会計の基礎	組織と管理会計
第3回	利益	なぜ利益か
第4回	利益とキャッシュの違い	現金を意識させる管理会計
第5回	組織と業績測定	組織構造と責任センター
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	原価計算	原価管理と原価計算
第8回	プロフィットセンター	事業部の利益計算
第9回	資産効率	資産効率の管理
第10回	アメーバ経営	時間当たり採算
第11回	予算管理	予算編成、統制
第12回	投資採算計算	NPV法、IRR法、PP法
第13回	研究開発管理	研究開発の特徴
第14回	影響システム	多様な影響システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計一人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版、2016年
その他、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎にゼミ活動に応用してもらいます。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand management and developing management. The goal of this class is ①Read and understand the paper, ② Check related information, ③ Have your own opinions and ideas, ④ Collect them and present them, ⑤ Practice business. Students will be required to write a report assignment outside of class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%) .

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習6

近藤 大輔

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では管理会計、経営者育成をテーマにします。学生の各グループで興味を湧くビジネスを考え、実践するプロセスで、どのように管理会計が使われ、どのようなスキルが経営者に求められるのかを勉強してもらいます。

【到達目標】

- ①論文を読んで理解する
 - ②関連情報を調べる
 - ③自分の意見・考えを持つ
 - ④それらを取りまとめてプレゼンする
 - ⑤ビジネスを実践する
- など総合力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・グループに分かれてプロジェクトを進めます。
- ・合宿については夏休みに実施予定です。
- ・10,11月にインナー大会、12月にアカウンティングコンペティションといったビジネスプレゼンテーションに参加予定です。
- ・年数回、大人（ビジネスパーソン）をお招きしてプロジェクト発表をする大人向けプレゼンを実施します。
- ・プロジェクトについて改善点などを授業中に説明し大会に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第2回	管理会計の基礎	組織と管理会計
第3回	利益	なぜ利益か
第4回	利益とキャッシュの違い	現金を意識させる管理会計
第5回	組織と業績測定	組織構造と責任センター
第6回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第7回	原価計算	原価管理と原価計算
第8回	プロフィットセンター	事業部の利益計算
第9回	資産効率	資産効率の管理
第10回	アメーバ経営	時間当たり採算
第11回	予算管理	予算編成、統制
第12回	投資採算計算	NPV法、IRR法、PP法
第13回	研究開発管理	研究開発の特徴
第14回	影響システム	多様な影響システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計一人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版、2016年
その他、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎にゼミ活動に応用してもらいます。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand management and developing management. The goal of this class is ①Read and understand the paper, ② Check related information, ③ Have your own opinions and ideas, ④ Collect them and present them, ⑤ Practice business. Students will be required to write a report assignment outside of class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%) .

演習 1

近能 善範

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味しています。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうした「イノベーションを武器にした経営戦略」、あるいは「イノベーションを軸にいかにしてビジネスを成功させるのか」について学ぶ、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていきます。このステップでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行っていただきます。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告や大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスとイントロダクション
第2回	戦略論(1)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	戦略論(2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	戦略論(3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	戦略論(4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	戦略論(5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(1)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第8回	イノベーション・マネジメント(2)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第9回	イノベーション・マネジメント(3)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第10回	イノベーション・マネジメント(4)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)

第11回	イノベーション・マネジメント(5)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第12回	グループワーク(1)	ケース企業についてのグループワーク(ただし内容は毎回異なる)(1)
第13回	グループワーク(2)	ケース企業についてのグループワーク(ただし内容は毎回異なる)(2)
第14回	グループワーク(3)	ケース企業についてのグループワーク発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35％）、②発表（20％）、③グループ研究／卒業論文（20％）、④議論への参加（15％）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10％）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も春学期の後半および秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿や大会への参加等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

近能 善範

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味しています。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうした「イノベーションを武器にした経営戦略」、あるいは「イノベーションを軸にいかにしてビジネスを成功させるのか」について学ぶ、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていきます。このステップでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行っていただきます。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告や大会でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスとイントロダクション
第2回	イノベーション・マネジメント(1)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	イノベーション・マネジメント(2)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	イノベーション・マネジメント(3)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	イノベーション・マネジメント(4)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	イノベーション・マネジメント(5)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(6)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(6)
第8回	イノベーション・マネジメント(7)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(7)
第9回	イノベーション・マネジメント(8)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(8)
第10回	イノベーション・マネジメント(9)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(9)
第11回	イノベーション・マネジメント(10)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(10)
第12回	イノベーション・マネジメント(11)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(11)

第13回 イノベーション・マネジメント(12) グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(12)

第14回 イノベーション・マネジメント(13) グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35％）、②発表（20％）、③グループ研究／卒業論文（20％）、④議論への参加（15％）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10％）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も春学期後半及び秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿や大会への参加等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

演習3

近能 善範

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味しています。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうした「イノベーションを武器にした経営戦略」、あるいは「イノベーションを軸にいかにしてビジネスを成功させるのか」について学ぶ、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていきます。このステップでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行っていただきます。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告や大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスとイントロダクション
第2回	戦略論(1)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	戦略論(2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	戦略論(3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	戦略論(4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	戦略論(5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(1)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第8回	イノベーション・マネジメント(2)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第9回	イノベーション・マネジメント(3)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第10回	イノベーション・マネジメント(4)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)

第11回	イノベーション・マネジメント(5)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第12回	グループワーク(1)	ケース企業についてのグループワーク(ただし内容は毎回異なる)(1)
第13回	グループワーク(2)	ケース企業についてのグループワーク(ただし内容は毎回異なる)(2)
第14回	グループワーク(3)	ケース企業についてのグループ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35％）、②発表（20％）、③グループ研究／卒業論文（20％）、④議論への参加（15％）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10％）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も春学期後半および秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿や大会への参加等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

近能 善範

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味しています。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうした「イノベーションを武器にした経営戦略」、あるいは「イノベーションを軸にいかにしてビジネスを成功させるのか」について学ぶ、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていきます。このステップでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行っていただきます。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告や大会でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスとイントロダクション
第2回	イノベーション・マネジメント(1)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	イノベーション・マネジメント(2)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	イノベーション・マネジメント(3)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	イノベーション・マネジメント(4)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	イノベーション・マネジメント(5)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(6)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(6)
第8回	イノベーション・マネジメント(7)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(7)
第9回	イノベーション・マネジメント(8)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(8)
第10回	イノベーション・マネジメント(9)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(9)
第11回	イノベーション・マネジメント(10)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(10)
第12回	イノベーション・マネジメント(11)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(11)

第13回 イノベーション・マネジメント(12) グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(12)

第14回 イノベーション・マネジメント(13) グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35％）、②発表（20％）、③グループ研究／卒業論文（20％）、④議論への参加（15％）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10％）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も春学期後半及び秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿や大会への参加等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

演習5

近能 善範

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味しています。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうした「イノベーションを武器にした経営戦略」、あるいは「イノベーションを軸にいかにしてビジネスを成功させるのか」について学ぶ、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていきます。このステップでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行っていただきます。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告や大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスとイントロダクション
第2回	戦略論(1)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	戦略論(2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	戦略論(3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	戦略論(4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	戦略論(5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(1)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第8回	イノベーション・マネジメント(2)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第9回	イノベーション・マネジメント(3)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第10回	イノベーション・マネジメント(4)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)

第11回	イノベーション・マネジメント(5)	イノベーションマネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第12回	グループワーク(1)	ケース企業についてのグループワーク(ただし内容は毎回異なる)(1)
第13回	グループワーク(2)	ケース企業についてのグループワーク(ただし内容は毎回異なる)(2)
第14回	グループワーク(3)	ケース企業についてのグループ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35％）、②発表（20％）、③グループ研究／卒業論文（20％）、④議論への参加（15％）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10％）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も春学期後半及び秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿や大会への参加等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

近能 善範

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味しています。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなどのネットサービスや、ChatGPTを代表とする生成AIの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうした「イノベーションを武器にした経営戦略」、あるいは「イノベーションを軸にいかにしてビジネスを成功させるのか」について学ぶ、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、大会等でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていきます。このステップでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行っていただきます。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告や大会でのプレゼンテーション、卒業論文作成（共同で分担執筆）等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

なお、課題等は「学習支援システム」を通じて提出していただき、フィードバックは授業中の講評にて全体に対して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスとイントロダクション
第2回	イノベーション・マネジメント(1)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	イノベーション・マネジメント(2)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	イノベーション・マネジメント(3)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	イノベーション・マネジメント(4)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	イノベーション・マネジメント(5)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(6)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(6)
第8回	イノベーション・マネジメント(7)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(7)
第9回	イノベーション・マネジメント(8)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(8)
第10回	イノベーション・マネジメント(9)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(9)
第11回	イノベーション・マネジメント(10)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(10)
第12回	イノベーション・マネジメント(11)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(11)

第13回	イノベーション・マネジメント(12)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(12)
第14回	イノベーション・マネジメント(13)	グループワーク(ただし内容は毎回異なる)(13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35％）、②発表（20％）、③グループ研究／卒業論文（20％）、④議論への参加（15％）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10％）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も春学期後半及び秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿や大会への参加等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになります。3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

演習 1

坂上 学

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3年生は統合報告書の分析に取り組み、レポートをまとめ提出する。4年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は統合報告書の分析と日経統合報告書アワードに取り組み、4年生は卒論の制作に取り組む。テキストの内容や卒論作成に関する質問については、随時受け付け、授業中に適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第2回	証券投資における財務諸表の意義	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第3回	証券投資における財務諸表の役立ち	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第4回	業績変化と株価との関係	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第5回	業績変化が株価に与える影響	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第6回	決算発表と株価との関係	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第7回	決算発表が株価に与える影響	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第8回	不確実性リスクの意義	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第9回	不確実性リスクの評価	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第10回	資本資産評価モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第11回	資本資産評価モデルの展開	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第12回	割引配当モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第13回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第14回	残余利益モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第9版〉』（中央経済社、2024、税込定価3,740円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価6,300円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価3,465円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめ報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

課外活動が実施して良かったという意見が多かったので、今年度も積極的に課外活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクターを使い発表すること。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will analyze the integrated report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

坂上 学

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3年生は統合報告書の分析に取り組み、レポートをまとめ提出する。4年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は統合報告書の分析と日経統合報告書アワードに取り組み、4年生は卒論の制作に取り組む。テキストの内容や卒論作成に関する質問については、随時受け付け、授業中に適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方と、チームの決定	ストックリーグに参加するチームを確定する。
第2回	投資テーマの意義	投資テーマを策定することの意義について学ぶ。
第3回	投資テーマの洗い出し	各チームごとに、投資テーマの洗い出しを行う。
第4回	投資テーマのクラスタリング	各チームごとに、投資テーマのクラスタリングを行う。
第5回	投資テーマの決定	各チームごとに、最終的な投資テーマを決定する。
第6回	投資企業の業界分析	各チームごとに、投資企業の業界分析を行う。
第7回	投資企業候補の洗い出し	各チームごとに、投資対象の候補となる企業の洗い出し作業を行う。
第8回	投資企業の財務分析	各チームごとに、投資対象となった企業の財務分析を行う。
第9回	投資企業の決定	各チームごとに、投資対象とする企業を決定する。
第10回	投資結果の株価の推移	投資した企業の株価の推移を観察する。
第11回	投資結果の採集データの収集	投資対象となった企業の株価の結果を収集する。
第12回	投資結果の分析	投資結果について分析を行う。
第13回	投資結果レポートの作成	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第14回	日経ストックリーグの結果報告	各チームの投資結果レポートの内容について、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてサブゼミを実施して、投資テーマ、投資企業の決定、投資結果レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第9版〉』（中央経済社、2024、税込定価3,740円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価6,300円）

W・H・ピーパー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価3,465円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

議論への参加とレポート作成への貢献などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

課外活動が実施して良かったという意見が多かったので、今年度も積極的に課外活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

企業データのダウンロードや財務データの分析にパソコンが必須なので、各自で用意して欲しい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will analyze the integrated report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

演習3

坂上 学

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3年生は統合報告書の分析に取り組み、レポートをまとめ提出する。4年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は統合報告書の分析と日経統合報告書アワードに取り組み、4年生は卒論の制作に取り組む。テキストの内容や卒論作成に関する質問については、随時受け付け、授業中に適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第2回	証券投資における財務諸表の意義	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第3回	証券投資における財務諸表の役立ち	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第4回	業績変化と株価との関係	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第5回	業績変化が株価に与える影響	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第6回	決算発表と株価との関係	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第7回	決算発表が株価に与える影響	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第8回	不確実性リスクの意義	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第9回	不確実性リスクの評価	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第10回	資本資産評価モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第11回	資本資産評価モデルの展開	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第12回	割引配当モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第13回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第14回	残余利益モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第9版〉』（中央経済社、2024、税込定価3,740円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価6,300円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価3,465円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめ報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

課外活動が実施して良かったという意見が多かったので、今年度も積極的に課外活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクターを使い発表すること。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will analyze the integrated report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

坂上 学

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3年生は統合報告書の分析に取り組み、レポートをまとめ提出する。4年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は統合報告書の分析と日経統合報告書アワードに取り組み、4年生は卒論の制作に取り組む。テキストの内容や卒論作成に関する質問については、随時受け付け、授業中に適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方と、チームの決定	ストックリーグに参加するチームを確定する。
第2回	投資テーマの意義	投資テーマを策定することの意義について学ぶ。
第3回	投資テーマの洗い出し	各チームごとに、投資テーマの洗い出しを行う。
第4回	投資テーマのクラスタリング	各チームごとに、投資テーマのクラスタリングを行う。
第5回	投資テーマの決定	各チームごとに、最終的な投資テーマを決定する。
第6回	投資企業の業界分析	各チームごとに、投資企業の業界分析を行う。
第7回	投資企業候補の洗い出し	各チームごとに、投資対象の候補となる企業の洗い出し作業を行う。
第8回	投資企業の財務分析	各チームごとに、投資対象となった企業の財務分析を行う。
第9回	投資企業の決定	各チームごとに、投資対象とする企業を決定する。
第10回	投資結果の株価の推移	投資した企業の株価の推移を観察する。
第11回	投資結果の採集データの収集	投資対象となった企業の株価の結果を収集する。
第12回	投資結果の分析	投資結果について分析を行う。
第13回	投資結果レポートの作成	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第14回	日経ストックリーグの結果報告	各チームの投資結果レポートの内容について、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてサブゼミを実施して、投資テーマ、投資企業の決定、投資結果レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

春学期で輪読したテキストを引き続き使用する。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第8版〉』（中央経済社、2020、税込定価3,740円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価6,300円）

W・H・ピーパー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価3,465円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

議論への参加とレポート作成への貢献などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

課外活動が実施して良かったという意見が多かったので、今年度も積極的に課外活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

企業データのダウンロードや財務データの分析にパソコンが必須なので、各自で用意して欲しい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will analyze the integrated report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

演習5

坂上 学

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3年生は統合報告書の分析に取り組み、レポートをまとめ提出する。4年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は統合報告書の分析と日経統合報告書アワードに取り組み、4年生は卒論の制作に取り組む。テキストの内容や卒論作成に関する質問については、随時受け付け、授業中に適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第2回	証券投資における財務諸表の意義	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第3回	証券投資における財務諸表の役立ち	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第4回	業績変化と株価との関係	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第5回	業績変化が株価に与える影響	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第6回	決算発表と株価との関係	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第7回	決算発表が株価に与える影響	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第8回	不確実性リスクの意義	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第9回	不確実性リスクの評価	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第10回	資本資産評価モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第11回	資本資産評価モデルの展開	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第12回	割引配当モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第13回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第14回	残余利益モデルの基礎	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第9版〉』（中央経済社、2024、税込定価3,740円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価6,300円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価3,465円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめ報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

課外活動が実施して良かったという意見が多かったので、今年度も積極的に課外活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクターを使い発表すること。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will analyze the integrated report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

坂上 学

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3年生は統合報告書の分析に取り組み、レポートをまとめ提出する。4年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は統合報告書の分析と日経統合報告書アワードに取り組み、4年生は卒論の制作に取り組む。テキストの内容や卒論作成に関する質問については、随時受け付け、授業中に適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の進め方と、チームの決定	ストックリーグに参加するチームを確定する。
第2回	投資テーマの意義	投資テーマを策定することの意義について学ぶ。
第3回	投資テーマの洗い出し	各チームごとに、投資テーマの洗い出しを行う。
第4回	投資テーマのクラスタリング	各チームごとに、投資テーマのクラスタリングを行う。
第5回	投資テーマの決定	各チームごとに、最終的な投資テーマを決定する。
第6回	投資企業の業界分析	各チームごとに、投資企業の業界分析を行う。
第7回	投資企業候補の洗い出し	各チームごとに、投資対象の候補となる企業の洗い出し作業を行う。
第8回	投資企業の財務分析	各チームごとに、投資対象となった企業の財務分析を行う。
第9回	投資企業の決定	各チームごとに、投資対象とする企業を決定する。
第10回	投資結果の株価の推移	投資した企業の株価の推移を観察する。
第11回	投資結果の採集データの収集	投資対象となった企業の株価の結果を収集する。
第12回	投資結果の分析	投資結果について分析を行う。
第13回	投資結果レポートの作成	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第14回	日経ストックリーグの結果報告	各チームの投資結果レポートの内容について、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてサブゼミを実施して、投資テーマ、投資企業の決定、投資結果レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第9版〉』（中央経済社、2024、税込定価3,740円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価6,300円）

W・H・ピーパー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価3,465円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

議論への参加とレポート作成への貢献などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

課外活動が実施して良かったという意見が多かったので、今年度も積極的に課外活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

企業データのダウンロードや財務データの分析にパソコンが必須なので、各自で用意して欲しい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will analyze the integrated report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

演習 1

佐野 哲

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残って いく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心にを行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

なお、上記の活動の中で提出のあった発表資料や活動レポートなどについては、優れた回答や共通する誤解等を修正してとりまとめ、教員より定期的に講義内でフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価

第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂 3 版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与とサービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- 50% Class participation;
- 50% Group work/Case studies/Presentations.

演習2

佐野 哲

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」。

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向するESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

なお、上記の活動の中で提出のあった発表資料や活動レポートなどについては、優れた回答や共通する誤解等を修正してとりまとめ、教員より定期的に講義内でフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価

第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBAマネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与とサービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- 50% Class participation;
- 50% Group work/Case studies/Presentations.

演習3

佐野 哲

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残って いく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向するESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心にを行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

なお、上記の活動の中で提出のあった発表資料や活動レポートなどについては、優れた回答や共通する誤解等を修正してとりまとめ、教員より定期的に講義内でフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価

第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBAマネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与とサービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- 50% Class participation;
- 50% Group work/Case studies/Presentations.

演習4

佐野 哲

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」。

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向するESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

なお、上記の活動の中で提出のあった発表資料や活動レポートなどについては、優れた回答や共通する誤解等を修正してとりまとめ、教員より定期的に講義内でフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価

第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBAマネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- 50% Class participation;
- 50% Group work/Case studies/Presentations.

演習5

佐野 哲

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残って いく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向するESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

なお、上記の活動の中で提出のあった発表資料や活動レポートなどについては、優れた回答や共通する誤解等を修正してとりまとめ、教員より定期的に講義内でフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価

第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBAマネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- 50% Class participation;
- 50% Group work/Case studies/Presentations.

演習6

佐野 哲

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」。

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向するESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

なお、上記の活動の中で提出のあった発表資料や活動レポートなどについては、優れた回答や共通する誤解等を修正してとりまとめ、教員より定期的に講義内でフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価

第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBAマネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- 50% Class participation;
- 50% Group work/Case studies/Presentations.

演習 1

佐野 嘉秀

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。プレゼンテーションのための調査研究などの課題は、授業内での発表の際のコメントをつづじてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
第2回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第3回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第4回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第6回	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション

第7回	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第8回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第9回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第10回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第11回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

- 1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
- 2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

演習2

佐野 嘉秀

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。プレゼンテーションのための調査研究などの課題は、授業内での発表の際のコメントをつづじてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総合研究①	春学期の学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
第2回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第3回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第4回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	総合研究②	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定

第6回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第7回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第8回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第9回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第10回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第11回	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究③	秋学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.

2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

演習3

佐野 嘉秀

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。プレゼンテーションのための調査研究などの課題は、授業内での発表の際のコメントをつづじてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
第2回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第3回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第4回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第6回	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション

第7回	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第8回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第9回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第10回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第11回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

- 1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
- 2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

演習4

佐野 嘉秀

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。プレゼンテーションのための調査研究などの課題は、授業内での発表の際のコメントをつづじてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総合研究①	春学期の学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
第2回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第3回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第4回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	総合研究②	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定

第6回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第7回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第8回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第9回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第10回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第11回	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究③	秋学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる

2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.

2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

演習5

佐野 嘉秀

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。プレゼンテーションのための調査研究などの課題は、授業内での発表の際のコメントをつづじてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
第2回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第3回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第4回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第6回	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション

第7回	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第8回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第9回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第10回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第11回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

- 1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
- 2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

演習6

佐野 嘉秀

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。プレゼンテーションのための調査研究などの課題は、授業内での発表の際のコメントをつづいてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総合研究①	春学期の学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
第2回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第3回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第4回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	総合研究②	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定

第6回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第7回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第8回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第9回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第10回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第11回	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究③	秋学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる

2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.

2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

高橋 慎

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】本ゼミでは、企業の公開データ（財務データ、ESG指標等）を対象に、プログラミング言語Rと生成AIを組み合わせたデータ分析プロジェクトを推進します。学生は自らの関心に基づき、個人またはチーム単位で「問いの立案、AIを用いたRコードの生成、実証分析、結果の解釈」というサイクルを自発的に回します。教員は、学生が自走するプロセスにおいて、専門の見地からの対話や技術的な支援を行います。

【授業の目的・意義】学生が主語となり、正解のないビジネス課題に対してデータを武器に挑むプロセスを体験します。AIを高度に使いこなしつつ、自らの論理的思考で結果を読み解く「自発的な学習能力」と「データに基づく意思決定力」を養うことが本授業の到達点です。

【到達目標】

学生は、本授業を履修することで以下のことができるようになります：

- ・AI（生成AI）を適切に活用し、目的のデータ処理を行うためのRコードを自律的に生成・実行できる。
- ・企業の財務データやESG指標の構造を理解し、独自の仮説に基づいたデータセットを個人またはチームで構築できる。
- ・分析の結果得られた統計的指標を、企業の経営戦略や社会背景と結びつけて論理的に解釈できる。
- ・プロジェクトにおいて直面する課題を特定し、自発的にリサーチを前進させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回、以下のワークショップ形式でプロジェクトを推進します：

- ・Check-in: 個人またはチームごとの進捗状況と分析目標の共有。
- ・Analysis & Workshop: AIとRを駆使したデータ解析の実装。教員は随時、学生の自発的な問いに対してフィードバックや助言を行います。
- ・Reflection: 分析プロセスの振り返りと次週に向けたタスク整理。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自発的学習の動機付け
第2回	AI×R 基礎(1)	生成AIを用いたR環境のセットアップと基本操作
第3回	AI×R 基礎(2)	プロンプトによるデータ読み込みとクリーニングの実装
第4回	データ可視化(1)	ggplot2を用いた基本統計量の視覚化
第5回	データ可視化(2)	データの背景にあるストーリーを伝えるグラフ作成
第6回	企業データの理解(1)	財務諸表の構造とデータ取得(EDINET等)
第7回	企業データの理解(2)	非財務情報(ESG・SDGs)の指標化
第8回	仮説構築演習	「問い」を立て、データで検証可能な形に落とし込む
第9回	相関分析の実践	変数間の関係性をAIと共に探索する
第10回	記述統計の総括	収集データの特性を網羅的に把握する演習
第11回	中間報告会(1)	個人またはチームによる初期分析の共有
第12回	中間報告会(2)	相互フィードバックによる分析の洗練
第13回	回帰分析の初歩	原因と結果を数値で捉える試み
第14回	春学期のまとめ	秋学期に向けた個別リサーチデザインの確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・学生は授業前に、分析対象企業のニュースや統合報告書を確認し、AIに与えるべきプロンプト案を作成して臨むことが求められます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、随時資料やコードを配布します。

【参考書】

- ・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%): ゼミ内の議論への貢献、自発的な問いかけ、ピアレビューへの参加度。
- ・毎週の活動ログ (40%): 授業内の分析プロセス、Rコード、AI活用の工夫。
- ・最終成果物 (30%): 分析の独創性、論理性、およびプレゼンテーションの質。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器: 個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習2

【Outline (in English)】

【Course outline】This course provides a practical workshop on corporate data analysis using the R programming language and generative AI. Students will engage in proactive learning, working individually or in teams to solve real-world business problems by analyzing financial and non-financial (ESG) data.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

- Execute data analysis projects independently using R and AI tools.
- Formulate hypotheses and provide data-driven insights on corporate sustainability.
- Interpret statistical results in the context of corporate strategy and finance.
- Manage a research project from data collection to final presentation.

【Learning activities outside of classroom】Before and after each class meeting, students are expected to spend at least four hours on independent study. This includes collecting data, reviewing R scripts, and preparing for group or individual project milestones.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Weekly Research Logs: 40%
- Final Project Output (Report and Presentation): 30%
- In-class Proactive Contribution: 30%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

高橋 慎

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 授業の概要と目的（何を学ぶか）

【授業概要】本ゼミでは、企業の公開データ（財務データ、ESG指標等）を対象に、プログラミング言語Rと生成AIを組み合わせたデータ分析プロジェクトを推進します。学生は自らの関心に基づき、個人またはチーム単位で「問いの立案、AIを用いたRコードの生成、実証分析、結果の解釈」というサイクルを自発的に回します。教員は、学生が自走するプロセスにおいて、専門的見地からの対話や技術的な支援を行います。

【授業の目的・意義】学生が主語となり、正解のないビジネス課題に対してデータを武器に挑むプロセスを体験します。AIを高度に使いこなしつつ、自らの論理的思考で結果を読み解く「自発的な学習能力」と「データに基づく意思決定力」を養うことが本授業の到達点です。

【到達目標】

学生は、本授業を履修することで以下のことができるようになります：

- ・AI（生成AI）を適切に活用し、目的のデータ処理を行うためのRコードを自律的に生成・実行できる。
- ・企業の財務データやESG指標の構造を理解し、独自の仮説に基づいたデータセットを個人またはチームで構築できる。
- ・分析の結果得られた統計的指標を、企業の経営戦略や社会背景と結びつけて論理的に解釈できる。
- ・プロジェクトにおいて直面する課題を特定し、自発的にリサーチを前進させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回、以下のワークショップ形式でプロジェクトを推進します：

- ・Check-in: 個人またはチームごとの進捗状況と分析目標の共有。
- ・Analysis & Workshop: AIとRを駆使したデータ解析の実装。教員は随時、学生の自発的な問いに対してフィードバックや助言を行います。
- ・Reflection: 分析プロセスの振り返りと次週に向けたタスク整理。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクト再始動	夏季課題の共有と分析データの再検証
第2回	高度なデータ加工	複数ソースの統合とAIによる自動化
第3回	因果推論の枠組み(1)	「たまたま」か「必然」かを見極める考え方
第4回	因果推論の枠組み(2)	企業の施策効果を推定するモデル構築
第5回	集中分析スプリント(1)	Rを用いた実証分析の実践とエラー解消
第6回	集中分析スプリント(2)	分析結果の頑健性（タフさ）のチェック
第7回	アドバイザー対話(1)	教員との雑談を通じた解釈の深掘り
第8回	アドバイザー対話(2)	論理の飛躍やバイアスの指摘と改善
第9回	ストーリーテリング	分析結果をビジネス提言に変換するワーク
第10回	レポート執筆(1)	図表の整理と論理構成の最終確認
第11回	レポート執筆(2)	ピアレビュー（学生間相互評価）による質向上
第12回	最終成果発表会(1)	自発的学習の成果としての企業分析プレゼン
第13回	最終成果発表会(2)	全体討論と1年間の学びの抽象化
第14回	試験・まとめと解説	成果総括とデータサイエンススキルの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各回につき4時間を標準とします。
- ・学生は授業前に、分析対象企業のニュースや統合報告書を確認し、AIに与えるべきプロンプト案を作成して臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、随時資料やコードを配布します。

【参考書】

伊藤 公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%): ゼミ内の議論への貢献、自発的な問いかけ、ピアレビューへの参加度。
- ・毎週の活動ログ (40%): 授業内の分析プロセス、Rコード、AI活用の工夫。
- ・最終成果物 (30%): 分析の独創性、論理性、およびプレゼンテーションの質。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器：個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習 1

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a practical workshop on corporate data analysis using the R programming language and generative AI. Students will engage in proactive learning, working individually or in teams to solve real-world business problems by analyzing financial and non-financial (ESG) data.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

- Execute data analysis projects independently using R and AI tools.
- Formulate hypotheses and provide data-driven insights on corporate sustainability.
- Interpret statistical results in the context of corporate strategy and finance.
- Manage a research project from data collection to final presentation.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class meeting, students are expected to spend at least four hours on independent study. This includes collecting data, reviewing R scripts, and preparing for group or individual project milestones.

【Grading Criteria / Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Weekly Research Logs: 40%
- Final Project Output (Report and Presentation): 30%
- In-class Proactive Contribution: 30%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

高橋 慎

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】本ゼミでは、企業の公開データ（財務データ、ESG指標等）を対象に、プログラミング言語Rと生成AIを組み合わせたデータ分析プロジェクトを推進します。学生は自らの関心に基づき、個人またはチーム単位で「問いの立案、AIを用いたRコードの生成、実証分析、結果の解釈」というサイクルを自発的に回します。教員は、学生が自走するプロセスにおいて、専門の見地からの対話や技術的な支援を行います。

【授業の目的・意義】学生が主語となり、正解のないビジネス課題に対してデータを武器に挑むプロセスを体験します。AIを高度に使いこなしつつ、自らの論理的思考で結果を読み解く「自発的な学習能力」と「データに基づく意思決定力」を養うことが本授業の到達点です。

【到達目標】

学生は、本授業を履修することで以下のことができるようになります：

- ・AI（生成AI）を適切に活用し、目的のデータ処理を行うためのRコードを自律的に生成・実行できる。
- ・企業の財務データやESG指標の構造を理解し、独自の仮説に基づいたデータセットを個人またはチームで構築できる。
- ・分析の結果得られた統計的指標を、企業の経営戦略や社会背景と結びつけて論理的に解釈できる。
- ・プロジェクトにおいて直面する課題を特定し、自発的にリサーチを前進させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回、以下のワークショップ形式でプロジェクトを推進します：

- ・Check-in: 個人またはチームごとの進捗状況と分析目標の共有。
- ・Analysis & Workshop: AIとRを駆使したデータ解析の実装。教員は随時、学生の自発的な問いに対してフィードバックや助言を行います。
- ・Reflection: 分析プロセスの振り返りと次週に向けたタスク整理。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自発的学習の動機付け
第2回	AI×R 基礎(1)	生成AIを用いたR環境のセットアップと基本操作
第3回	AI×R 基礎(2)	プロンプトによるデータ読み込みとクリーニングの実装
第4回	データ可視化(1)	ggplot2を用いた基本統計量の視覚化
第5回	データ可視化(2)	データの背景にあるストーリーを伝えるグラフ作成
第6回	企業データの理解(1)	財務諸表の構造とデータ取得(EDINET等)
第7回	企業データの理解(2)	非財務情報(ESG・SDGs)の指標化
第8回	仮説構築演習	「問い」を立て、データで検証可能な形に落とし込む
第9回	相関分析の実践	変数間の関係性をAIと共に探索する
第10回	記述統計の総括	収集データの特性を網羅的に把握する演習
第11回	中間報告会(1)	個人またはチームによる初期分析の共有
第12回	中間報告会(2)	相互フィードバックによる分析の洗練
第13回	回帰分析の初歩	原因と結果を数値で捉える試み
第14回	春学期のまとめ	秋学期に向けた個別リサーチデザインの確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・学生は授業前に、分析対象企業のニュースや統合報告書を確認し、AIに与えるべきプロンプト案を作成して臨むことが求められます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、随時資料やコードを配布します。

【参考書】

- ・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%): ゼミ内の議論への貢献、自発的な問いかけ、ピアレビューへの参加度。
- ・毎週の活動ログ (40%): 授業内の分析プロセス、Rコード、AI活用の工夫。
- ・最終成果物 (30%): 分析の独創性、論理性、およびプレゼンテーションの質。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器: 個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習2

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a practical workshop on corporate data analysis using the R programming language and generative AI. Students will engage in proactive learning, working individually or in teams to solve real-world business problems by analyzing financial and non-financial (ESG) data.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

- Execute data analysis projects independently using R and AI tools.
- Formulate hypotheses and provide data-driven insights on corporate sustainability.
- Interpret statistical results in the context of corporate strategy and finance.
- Manage a research project from data collection to final presentation.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class meeting, students are expected to spend at least four hours on independent study. This includes collecting data, reviewing R scripts, and preparing for group or individual project milestones.

【Grading Criteria / Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Weekly Research Logs: 40%
- Final Project Output (Report and Presentation): 30%
- In-class Proactive Contribution: 30%

演習4

高橋 慎

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 授業の概要と目的（何を学ぶか）

【授業概要】本ゼミでは、企業の公開データ（財務データ、ESG指標等）を対象に、プログラミング言語Rと生成AIを組み合わせたデータ分析プロジェクトを推進します。学生は自らの関心に基づき、個人またはチーム単位で「問いの立案、AIを用いたRコードの生成、実証分析、結果の解釈」というサイクルを自発的に回します。教員は、学生が自走するプロセスにおいて、専門的見地からの対話や技術的な支援を行います。

【授業の目的・意義】学生が主語となり、正解のないビジネス課題に対してデータを武器に挑むプロセスを体験します。AIを高度に使いこなしつつ、自らの論理的思考で結果を読み解く「自発的な学習能力」と「データに基づく意思決定力」を養うことが本授業の到達点です。

【到達目標】

学生は、本授業を履修することで以下のことができるようになります：

- ・AI（生成AI）を適切に活用し、目的のデータ処理を行うためのRコードを自律的に生成・実行できる。
- ・企業の財務データやESG指標の構造を理解し、独自の仮説に基づいたデータセットを個人またはチームで構築できる。
- ・分析の結果得られた統計的指標を、企業の経営戦略や社会背景と結びつけて論理的に解釈できる。
- ・プロジェクトにおいて直面する課題を特定し、自発的にリサーチを前進させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回、以下のワークショップ形式でプロジェクトを推進します：

- ・Check-in: 個人またはチームごとの進捗状況と分析目標の共有。
- ・Analysis & Workshop: AIとRを駆使したデータ解析の実装。教員は随時、学生の自発的な問いに対してフィードバックや助言を行います。
- ・Reflection: 分析プロセスの振り返りと次週に向けたタスク整理。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクト再始動	夏季課題の共有と分析データの再検証
第2回	高度なデータ加工	複数ソースの統合とAIによる自動化
第3回	因果推論の枠組み(1)	「たまたま」か「必然」かを見極める考え方
第4回	因果推論の枠組み(2)	企業の施策効果を推定するモデル構築
第5回	集中分析スプリント(1)	Rを用いた実証分析の実践とエラー解消
第6回	集中分析スプリント(2)	分析結果の頑健性（タフさ）のチェック
第7回	アドバイザー対話(1)	教員との雑談を通じた解釈の深掘り
第8回	アドバイザー対話(2)	論理の飛躍やバイアスの指摘と改善
第9回	ストーリーテリング	分析結果をビジネス提言に変換するワーク
第10回	レポート執筆(1)	図表の整理と論理構成の最終確認
第11回	レポート執筆(2)	ピアレビュー（学生間相互評価）による質向上
第12回	最終成果発表会(1)	自発的学習の成果としての企業分析プレゼン
第13回	最終成果発表会(2)	全体討論と1年間の学びの抽象化
第14回	試験・まとめと解説	成果総括とデータサイエンススキルの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各回につき4時間を標準とします。
- ・学生は授業前に、分析対象企業のニュースや統合報告書を確認し、AIに与えるべきプロンプト案を作成して臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、随時資料やコードを配布します。

【参考書】

伊藤 公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%): ゼミ内の議論への貢献、自発的な問いかけ、ピアレビューへの参加度。
- ・毎週の活動ログ (40%): 授業内の分析プロセス、Rコード、AI活用の工夫。
- ・最終成果物 (30%): 分析の独創性、論理性、およびプレゼンテーションの質。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器：個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習 1

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a practical workshop on corporate data analysis using the R programming language and generative AI. Students will engage in proactive learning, working individually or in teams to solve real-world business problems by analyzing financial and non-financial (ESG) data.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

- Execute data analysis projects independently using R and AI tools.
- Formulate hypotheses and provide data-driven insights on corporate sustainability.
- Interpret statistical results in the context of corporate strategy and finance.
- Manage a research project from data collection to final presentation.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class meeting, students are expected to spend at least four hours on independent study. This includes collecting data, reviewing R scripts, and preparing for group or individual project milestones.

【Grading Criteria / Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Weekly Research Logs: 40%
- Final Project Output (Report and Presentation): 30%
- In-class Proactive Contribution: 30%

演習5

高橋 慎

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】本ゼミでは、企業の公開データ（財務データ、ESG指標等）を対象に、プログラミング言語Rと生成AIを組み合わせたデータ分析プロジェクトを推進します。学生は自らの関心に基づき、個人またはチーム単位で「問いの立案、AIを用いたRコードの生成、実証分析、結果の解釈」というサイクルを自発的に回します。教員は、学生が自走するプロセスにおいて、専門の見地からの対話や技術的な支援を行います。

【授業の目的・意義】学生が主語となり、正解のないビジネス課題に対してデータを武器に挑むプロセスを体験します。AIを高度に使いこなしつつ、自らの論理的思考で結果を読み解く「自発的な学習能力」と「データに基づく意思決定力」を養うことが本授業の到達点です。

【到達目標】

学生は、本授業を履修することで以下のことができるようになります：

- ・AI（生成AI）を適切に活用し、目的のデータ処理を行うためのRコードを自律的に生成・実行できる。
- ・企業の財務データやESG指標の構造を理解し、独自の仮説に基づいたデータセットを個人またはチームで構築できる。
- ・分析の結果得られた統計的指標を、企業の経営戦略や社会背景と結びつけて論理的に解釈できる。
- ・プロジェクトにおいて直面する課題を特定し、自発的にリサーチを前進させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回、以下のワークショップ形式でプロジェクトを推進します：

- ・Check-in: 個人またはチームごとの進捗状況と分析目標の共有。
- ・Analysis & Workshop: AIとRを駆使したデータ解析の実装。教員は随時、学生の自発的な問いに対してフィードバックや助言を行います。
- ・Reflection: 分析プロセスの振り返りと次週に向けたタスク整理。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自発的学習の動機付け
第2回	AI×R 基礎(1)	生成AIを用いたR環境のセットアップと基本操作
第3回	AI×R 基礎(2)	プロンプトによるデータ読み込みとクリーニングの実装
第4回	データ可視化(1)	ggplot2を用いた基本統計量の視覚化
第5回	データ可視化(2)	データの背景にあるストーリーを伝えるグラフ作成
第6回	企業データの理解(1)	財務諸表の構造とデータ取得(EDINET等)
第7回	企業データの理解(2)	非財務情報(ESG・SDGs)の指標化
第8回	仮説構築演習	「問い」を立て、データで検証可能な形に落とし込む
第9回	相関分析の実践	変数間の関係性をAIと共に探索する
第10回	記述統計の総括	収集データの特性を網羅的に把握する演習
第11回	中間報告会(1)	個人またはチームによる初期分析の共有
第12回	中間報告会(2)	相互フィードバックによる分析の洗練
第13回	回帰分析の初歩	原因と結果を数値で捉える試み
第14回	春学期のまとめ	秋学期に向けた個別リサーチデザインの確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・学生は授業前に、分析対象企業のニュースや統合報告書を確認し、AIに与えるべきプロンプト案を作成して臨むことが求められます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、随時資料やコードを配布します。

【参考書】

- ・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%): ゼミ内の議論への貢献、自発的な問いかけ、ピアレビューへの参加度。
- ・毎週の活動ログ (40%): 授業内の分析プロセス、Rコード、AI活用の工夫。
- ・最終成果物 (30%): 分析の独創性、論理性、およびプレゼンテーションの質。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器: 個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習2

【Outline (in English)】

【Course outline】This course provides a practical workshop on corporate data analysis using the R programming language and generative AI. Students will engage in proactive learning, working individually or in teams to solve real-world business problems by analyzing financial and non-financial (ESG) data.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

- Execute data analysis projects independently using R and AI tools.
- Formulate hypotheses and provide data-driven insights on corporate sustainability.
- Interpret statistical results in the context of corporate strategy and finance.
- Manage a research project from data collection to final presentation.

【Learning activities outside of classroom】Before and after each class meeting, students are expected to spend at least four hours on independent study. This includes collecting data, reviewing R scripts, and preparing for group or individual project milestones.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Weekly Research Logs: 40%
- Final Project Output (Report and Presentation): 30%
- In-class Proactive Contribution: 30%

演習6

高橋 慎

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 授業の概要と目的（何を学ぶか）

【授業概要】本ゼミでは、企業の公開データ（財務データ、ESG指標等）を対象に、プログラミング言語Rと生成AIを組み合わせたデータ分析プロジェクトを推進します。学生は自らの関心に基づき、個人またはチーム単位で「問いの立案、AIを用いたRコードの生成、実証分析、結果の解釈」というサイクルを自発的に回します。教員は、学生が自走するプロセスにおいて、専門的見地からの対話や技術的な支援を行います。

【授業の目的・意義】学生が主語となり、正解のないビジネス課題に対してデータを武器に挑むプロセスを体験します。AIを高度に使いこなしつつ、自らの論理的思考で結果を読み解く「自発的な学習能力」と「データに基づく意思決定力」を養うことが本授業の到達点です。

【到達目標】

学生は、本授業を履修することで以下のことができるようになります：

- ・AI（生成AI）を適切に活用し、目的のデータ処理を行うためのRコードを自律的に生成・実行できる。
- ・企業の財務データやESG指標の構造を理解し、独自の仮説に基づいたデータセットを個人またはチームで構築できる。
- ・分析の結果得られた統計的指標を、企業の経営戦略や社会背景と結びつけて論理的に解釈できる。
- ・プロジェクトにおいて直面する課題を特定し、自発的にリサーチを前進させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回、以下のワークショップ形式でプロジェクトを推進します：

- ・Check-in: 個人またはチームごとの進捗状況と分析目標の共有。
- ・Analysis & Workshop: AIとRを駆使したデータ解析の実装。教員は随時、学生の自発的な問いに対してフィードバックや助言を行います。
- ・Reflection: 分析プロセスの振り返りと次週に向けたタスク整理。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロジェクト再始動	夏季課題の共有と分析データの再検証
第2回	高度なデータ加工	複数ソースの統合とAIによる自動化
第3回	因果推論の枠組み(1)	「たまたま」か「必然」かを見極める考え方
第4回	因果推論の枠組み(2)	企業の施策効果を推定するモデル構築
第5回	集中分析スプリント(1)	Rを用いた実証分析の実践とエラー解消
第6回	集中分析スプリント(2)	分析結果の頑健性（タフさ）のチェック
第7回	アドバイザー対話(1)	教員との雑談を通じた解釈の深掘り
第8回	アドバイザー対話(2)	論理の飛躍やバイアスの指摘と改善
第9回	ストーリーテリング	分析結果をビジネス提言に変換するワーク
第10回	レポート執筆(1)	図表の整理と論理構成の最終確認
第11回	レポート執筆(2)	ピアレビュー（学生間相互評価）による質向上
第12回	最終成果発表会(1)	自発的学習の成果としての企業分析プレゼン
第13回	最終成果発表会(2)	全体討論と1年間の学びの抽象化
第14回	試験・まとめと解説	成果総括とデータサイエンススキルの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各回につき4時間を標準とします。
- ・学生は授業前に、分析対象企業のニュースや統合報告書を確認し、AIに与えるべきプロンプト案を作成して臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、随時資料やコードを配布します。

【参考書】

伊藤 公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%): ゼミ内の議論への貢献、自発的な問いかけ、ピアレビューへの参加度。
- ・毎週の活動ログ (40%): 授業内の分析プロセス、Rコード、AI活用の工夫。
- ・最終成果物 (30%): 分析の独創性、論理性、およびプレゼンテーションの質。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・機器：個人所有または貸与PCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習 1

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a practical workshop on corporate data analysis using the R programming language and generative AI. Students will engage in proactive learning, working individually or in teams to solve real-world business problems by analyzing financial and non-financial (ESG) data.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

- Execute data analysis projects independently using R and AI tools.
- Formulate hypotheses and provide data-driven insights on corporate sustainability.
- Interpret statistical results in the context of corporate strategy and finance.
- Manage a research project from data collection to final presentation.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class meeting, students are expected to spend at least four hours on independent study. This includes collecting data, reviewing R scripts, and preparing for group or individual project milestones.

【Grading Criteria / Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Weekly Research Logs: 40%
- Final Project Output (Report and Presentation): 30%
- In-class Proactive Contribution: 30%

演習 1

岡田 庄生

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。

ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】

- ①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
- ③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。

①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。

②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。

プロジェクトに対するフィードバックは授業の中で講師より行われます。課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業概要の説明 ・年間計画の検討
第2回	プロジェクト：企業課題Ⅰ①	オリエンテーション：課題の説明
第3回	プロジェクト：企業課題Ⅰ②	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：企業課題Ⅰ③	グループディスカッション
第5回	プロジェクト：企業課題Ⅰ④	グループディスカッション
第6回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑤	中間報告
第7回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑥	グループディスカッション
第8回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑦	グループディスカッション
第9回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑧	グループディスカッション
第10回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑨	最終プレゼンテーション
第11回	プロジェクト：学会発表①	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：学会発表②	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：学会発表③	グループディスカッション
第14回	春学期の振り返り	・春学期の振り返り ・秋学期に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】

山口 義宏『デジタル時代の基礎知識『ブランディング』第2版 事業に貢献するAI時代のブランド論』翔泳社、2026年

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表：50%

演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望をうけて、KJ法などを新しい発想法の提供を随時実施します。

【学生が準備すべき機器他】

課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。

本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組み場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】

Course outline

This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.

Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.

Learning Objectives

1. Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2. Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3. Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

1. Individual and group presentations: 50%
2. Contribution to exercises and activities: 50%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

岡田 庄生

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。

ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】

- ①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
- ③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。

①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。

②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。

プロジェクトに対するフィードバックは授業の中で講師より行われます。課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	・授業概要の説明 ・秋学期の計画の検討
第2回	プロジェクト：学会発表④	中間報告
第3回	プロジェクト：学会発表⑤	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：学会発表⑥	最終報告
第5回	プロジェクト：学会発表⑦	学会発表ふりかえり
第6回	プロジェクト：企業課題Ⅱ①	オリエンテーション
第7回	プロジェクト：企業課題Ⅱ①	グループディスカッション
第8回	プロジェクト：企業課題Ⅱ②	グループディスカッション
第9回	プロジェクト：企業課題Ⅱ③	グループディスカッション
第10回	プロジェクト：企業課題Ⅱ④	中間報告
第11回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑤	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑥	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑦	最終プレゼンテーション
第14回	年間の振り返り	・秋学期の振り返り ・次年度に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】

山口 義宏『デジタル時代の基礎知識『ブランディング』第2版 事業に貢献するAI時代のブランド論』翔泳社、2026年

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表：50%

演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望をうけて、KJ法などを新しい発想法の提供を随時実施します。

【学生が準備すべき機器他】

課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。

本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組み場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】

Course outline

This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.

Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.

Learning Objectives

1. Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2. Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.

3. Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

1. Individual and group presentations: 50%
2. Contribution to exercises and activities: 50%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

岡田 庄生

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。

ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】

- ①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
- ③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。

- ①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
 - ②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
- 上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
- プロジェクトに対するフィードバックは授業の中で講師より行われます。課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業概要の説明 ・年間計画の検討
第2回	プロジェクト：企業課題Ⅰ①	オリエンテーション：課題の説明
第3回	プロジェクト：企業課題Ⅰ②	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：企業課題Ⅰ③	グループディスカッション
第5回	プロジェクト：企業課題Ⅰ④	グループディスカッション
第6回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑤	中間報告
第7回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑥	グループディスカッション
第8回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑦	グループディスカッション
第9回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑧	グループディスカッション
第10回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑨	最終プレゼンテーション
第11回	プロジェクト：学会発表①	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：学会発表②	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：学会発表③	グループディスカッション
第14回	春学期の振り返り	・春学期の振り返り ・秋学期に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】

山口 義宏『デジタル時代の基礎知識『ブランディング』第2版 事業に貢献するAI時代のブランド論』翔泳社、2026年

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望をうけて、KJ法などを新しい発想法の提供を随時実施します。

【学生が準備すべき機器他】

課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。

本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組み場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】

Course outline

This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.

Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.

Learning Objectives

1. Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2. Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3. Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

1. Individual and group presentations: 50%
2. Contribution to exercises and activities: 50%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

岡田 庄生

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。

ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】

- ①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
- ③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。

①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。

②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。

プロジェクトに対するフィードバックは授業の中で講師より行われます。課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	・授業概要の説明 ・秋学期の計画の検討
第2回	プロジェクト：学会発表④	中間報告
第3回	プロジェクト：学会発表⑤	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：学会発表⑥	最終報告
第5回	プロジェクト：学会発表⑦	学会発表ふりかえり
第6回	プロジェクト：企業課題Ⅱ①	オリエンテーション
第7回	プロジェクト：企業課題Ⅱ①	グループディスカッション
第8回	プロジェクト：企業課題Ⅱ②	グループディスカッション
第9回	プロジェクト：企業課題Ⅱ③	グループディスカッション
第10回	プロジェクト：企業課題Ⅱ④	中間報告
第11回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑤	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑥	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑦	最終プレゼンテーション
第14回	年間の振り返り	・秋学期の振り返り ・次年度に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】

山口 義宏『デジタル時代の基礎知識『ブランディング』第2版 事業に貢献するAI時代のブランド論』翔泳社、2026年

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表：50%

演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望をうけて、KJ法などを新しい発想法の提供を随時実施します。

【学生が準備すべき機器他】

課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。

本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】

Course outline

This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.

Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.

Learning Objectives

1. Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2. Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3. Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

1. Individual and group presentations: 50%
2. Contribution to exercises and activities: 50%

演習5

岡田 庄生

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。

ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】

- ①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
- ③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。

①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。

②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。

プロジェクトに対するフィードバックは授業の中で講師より行われます。課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業概要の説明 ・年間計画の検討
第2回	プロジェクト：企業課題Ⅰ①	オリエンテーション：課題の説明
第3回	プロジェクト：企業課題Ⅰ②	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：企業課題Ⅰ③	グループディスカッション
第5回	プロジェクト：企業課題Ⅰ④	グループディスカッション
第6回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑤	中間報告
第7回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑥	グループディスカッション
第8回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑦	グループディスカッション
第9回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑧	グループディスカッション
第10回	プロジェクト：企業課題Ⅰ⑨	最終プレゼンテーション
第11回	プロジェクト：学会発表①	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：学会発表②	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：学会発表③	グループディスカッション
第14回	春学期の振り返り	・春学期の振り返り ・秋学期に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】

山口 義宏『デジタル時代の基礎知識『ブランディング』第2版 事業に貢献するAI時代のブランド論』翔泳社、2026年

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表：50%

演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望をうけて、KJ法などを新しい発想法の提供を随時実施します。

【学生が準備すべき機器他】

課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。

本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組み場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】

Course outline

This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.

Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.

Learning Objectives

- 1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
- 2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
- 3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

- 1.Individual and group presentations: 50%
- 2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

岡田 庄生

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。

ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】

- ①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
- ③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。

①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。

②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。

プロジェクトに対するフィードバックは授業の中で講師より行われます。課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	・授業概要の説明 ・秋学期の計画の検討
第2回	プロジェクト：学会発表④	中間報告
第3回	プロジェクト：学会発表⑤	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：学会発表⑥	最終報告
第5回	プロジェクト：学会発表⑦	学会発表ふりかえり
第6回	プロジェクト：企業課題Ⅱ①	オリエンテーション
第7回	プロジェクト：企業課題Ⅱ①	グループディスカッション
第8回	プロジェクト：企業課題Ⅱ②	グループディスカッション
第9回	プロジェクト：企業課題Ⅱ③	グループディスカッション
第10回	プロジェクト：企業課題Ⅱ④	中間報告
第11回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑤	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑥	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：企業課題Ⅱ⑦	最終プレゼンテーション
第14回	年間の振り返り	・秋学期の振り返り ・次年度に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】

山口 義宏『デジタル時代の基礎知識『ブランディング』第2版 事業に貢献するAI時代のブランド論』翔泳社、2026年

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表：50%

演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望をうけて、KJ法などを新しい発想法の提供を随時実施します。

【学生が準備すべき機器他】

課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。

本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】

Course outline

This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.

Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.

Learning Objectives

1. Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2. Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3. Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

1. Individual and group presentations: 50%
2. Contribution to exercises and activities: 50%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習Ⅰ

高橋 理香

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3年生はグループ発表やレポート作成に取り組み、4年生は3年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法や物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論と実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は主に以下の内容を実施します。

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。課題等に対するフィードバックは、授業内で学生とのコミュニケーションを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスを行います。
第2回	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
第3回	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
第4回	経済理論および現実の経済に関する学習1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第5回	論文テーマの決め方	卒業論文やグループ研究のテーマの決め方を学びます。
第6回	経済理論および現実の経済に関する学習2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第7回	卒論中間報告会1	卒業論文のテーマを報告します。
第8回	経済理論および現実の経済に関する学習3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第9回	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
第10回	経済理論および現実の経済に関する学習4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第11回	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
第12回	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
第13回	卒論中間報告会2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
第14回	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は国際経済学やミクロ経済学の応用分野に関連するテキストを輪読しています。また、論文の作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回ゼミで説明します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】

伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣スタジオ、2016年。
棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。

山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020年。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第2版』日本評論社、2017年。

戸堂康之『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』サイエンス社、2023年。

花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣スタジオ）』有斐閣、2018年。

【論文作成】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年。

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書、2022年。

佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の基準は以下の通りです。

【2・3・4年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容：50%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は、通常のゼミ活動の他、高崎経済大学とのインターゼミナールを実施しました。また、年度末には、4年生の歓送会も予定しています。ゼミ生からは、フィールドワーク・合宿・OB会等の開催希望、という声がありましたので、2026年度には、それらを含めてゼミでどのような活動をしたいのか、皆で話し合いをしたいと思います。

さらに、本ゼミは留学希望者が多いので、留学経験のあるゼミ生や卒業生から話を聞く機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等はGoogle Classroomを使用します。英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT)の記事を採り上げます。法政大学のアカウントからFTの登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。また、対外的な情報発信を目的として設けたSNS上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）・他大学とのインターゼミナール・本ゼミ卒業生との交流会（OB会、卒業生によるミニレクチャー）などを行うことがあります。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills. Sophomore and junior students will work on group presentations. In addition to group presentations, senior students will prepare their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Spring semester grades for sophomore, junior, and senior students are based on presentations (50%) and contributions in class (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

高橋 理香

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3年生はグループ発表とレポート作成に取り組み、4年生は3年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

秋学期は主に以下の内容を実施します。

- ①英字新聞記事を用いた発表と議論
- ②インターゼミナールに向けてのグループ研究の報告
- ③レポート／卒業論文の作成と報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。課題等に対するフィードバックは、授業内およびオンラインで、学生とのコミュニケーションを通じて行います。

今年度・秋学期にも他大学とのインターゼミナール（グループ研究の発表会）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
第2回	レポートとグループ研究の準備	レポートやグループ研究のテーマと今後の研究計画を発表します。
第3回	日常生活に対する経済学的分析1	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション1
第4回	卒業論文中間報告会3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第5回	日常生活に対する経済学的分析2	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション2
第6回	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
第7回	日常生活に対する経済学的分析3	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション3
第8回	レポートとグループ研究の準備2	レポートとグループ研究に関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第9回	卒業論文中間報告会4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第10回	日常生活に対する経済学的分析4	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション4
第11回	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
第12回	グループ研究報告	グループ研究の発表を行います。
第13回	レポートと卒業論文最終報告会	レポートと卒業論文の最終発表会を行います。
第14回	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。2・3年生にはレポート作成を、4年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期は、春学期に学んだテキストを応用して自分で課題を決めてレポートを作成する予定です。レポート作成のための文献は学生と教員との議論に基づいて個別に決めます。また、論文作成に関する文献も使用します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】

伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。

棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。

山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020年。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第2版』日本評論社、2017年。

戸堂康之『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』サイエンス社、2023年。

【論文作成】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年。

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書、2022年。

佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の基準は以下の通りです。

【2・3年生】

レポート：40%

発表内容（インターゼミナールのグループ発表も含む）：40%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

【4年生】

卒業論文：50%

発表内容：30%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

卒業論文：50%

発表内容：30%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は、通常のゼミ活動の他、高崎経済大学とのインターゼミナールを実施しました。また、年度末には、4年生の歓送会も予定しています。ゼミ生からは、フィールドワーク・合宿・OB会等の開催希望、という声がありましたので、2026年度には、それらを含めてゼミでどのような活動をしたいのか、皆で話し合いをしたいと思います。さらに、本ゼミは留学希望者が多いので、留学経験のあるゼミ生や卒業生から話を聞く機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等はGoogle Classroomを使用します。英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT)の記事を探り上げます。法政大学のアカウントからFTの登録を行うと、無料で記事を購入できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。また、対外的な情報発信を目的として設けたSNS上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）・他大学とのインターゼミナール・本ゼミ卒業生との交流会（OB会、卒業生によるミニレクチャー）などを行うことがあります。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report and discuss English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills. Sophomore and junior students will work on reports and group presentations. Senior students will work on group presentations and their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, fall semester grades are based on reports(40%), presentations including inter-seminar presentations (40%), and contributions in class (20%).

For senior students, fall semester grades are based on thesis (50%), presentations (30%), and contributions in class (20%). If students do not submit the thesis, their grade will be D or E.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

高橋 理香

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3年生はグループ発表やレポート作成に取り組み、4年生は3年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法や物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論と実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は主に以下の内容を実施します。

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。課題等に対するフィードバックは、授業内で学生とのコミュニケーションを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスを行います。
第2回	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
第3回	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
第4回	経済理論および現実の経済に関する学習1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第5回	論文テーマの決め方	卒業論文やグループ研究のテーマの決め方を学びます。
第6回	経済理論および現実の経済に関する学習2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第7回	卒論中間報告会1	卒業論文のテーマを報告します。
第8回	経済理論および現実の経済に関する学習3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第9回	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
第10回	経済理論および現実の経済に関する学習4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第11回	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
第12回	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
第13回	卒論中間報告会2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
第14回	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は国際経済学やミクロ経済学の応用分野に関連するテキストを輪読しています。また、論文の作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回ゼミで説明します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】

伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。

黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣スタジオ、2016年。

棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。

山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020年。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第2版』日本評論社、2017年。

戸堂康之『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』サイエンス社、2023年。

花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣スタジオ）』有斐閣、2018年。

【論文作成】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年。

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書、2022年。

佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の基準は以下の通りです。

【2・3・4年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容：50%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は、通常のゼミ活動の他、高崎経済大学とのインターゼミナールを実施しました。また、年度末には、4年生の歓送会も予定しています。ゼミ生からは、フィールドワーク・合宿・OB会等の開催希望、という声がありましたので、2026年度には、それらを含めてゼミでどのような活動をしたいのか、皆で話し合いをしたいと思います。

さらに、本ゼミは留学希望者が多いので、留学経験のあるゼミ生や卒業生から話を聞く機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等はGoogle Classroomを使用します。英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT)の記事を採り上げます。法政大学のアカウントからFTの登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。また、対外的な情報発信を目的として設けたSNS上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）・他大学とのインターゼミナール・本ゼミ卒業生との交流会（OB会、卒業生によるミニレクチャー）などを行うことがあります。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills. Sophomore and junior students will work on group presentations. In addition to group presentations, senior students will prepare their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Spring semester grades for sophomore, junior, and senior students are based on presentations (50%) and contributions in class (50%).

演習4

高橋 理香

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3年生はグループ発表とレポート作成に取り組み、4年生は3年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

秋学期は主に以下の内容を実施します。

- ①英字新聞記事を用いた発表と議論
- ②インターゼミナールに向けてのグループ研究の報告
- ③レポート／卒業論文の作成と報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。課題等に対するフィードバックは、授業内およびオンラインで、学生とのコミュニケーションを通じて行います。

今年度・秋学期にも他大学とのインターゼミナール（グループ研究の発表会）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
第2回	レポートとグループ研究の準備	レポートやグループ研究のテーマと今後の研究計画を発表します。
第3回	日常生活に対する経済学的分析1	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション1
第4回	卒業論文中間報告会3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第5回	日常生活に対する経済学的分析2	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション2
第6回	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
第7回	日常生活に対する経済学的分析3	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション3
第8回	レポートとグループ研究の準備2	レポートとグループ研究に関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第9回	卒業論文中間報告会4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第10回	日常生活に対する経済学的分析4	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション4
第11回	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
第12回	グループ研究報告	グループ研究の発表を行います。
第13回	レポートと卒業論文最終報告会	レポートと卒業論文の最終発表会を行います。
第14回	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。2・3年生にはレポート作成を、4年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期は、春学期に学んだテキストを応用して自分で課題を決めてレポートを作成する予定です。レポート作成のための文献は学生と教員との議論に基づいて個別に決めます。また、論文作成に関する文献も使用します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】

伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。

棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。

山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020年。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第2版』日本評論社、2017年。

戸堂康之『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』サイエンス社、2023年。

【論文作成】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年。

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書、2022年。

佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の基準は以下の通りです。

【2・3年生】

レポート：40%

発表内容（インターゼミナールのグループ発表も含む）：40%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

【4年生】

卒業論文：50%

発表内容：30%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

卒業論文：50%

発表内容：30%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は、通常のゼミ活動の他、高崎経済大学とのインターゼミナールを実施しました。また、年度末には、4年生の歓送会も予定しています。ゼミ生からは、フィールドワーク・合宿・OB会等の開催希望、という声がありましたので、2026年度には、それらを含めてゼミでどのような活動をしたいのか、皆で話し合いをしたいと思います。

さらに、本ゼミは留学希望者が多いので、留学経験のあるゼミ生や卒業生から話を聞く機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等はGoogle Classroomを使用します。英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT)の記事を探り上げます。法政大学のアカウントからFTの登録を行うと、無料で記事を購入できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。また、対外的な情報発信を目的として設けたSNS上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）・他大学とのインターゼミナール・本ゼミ卒業生との交流会（OB会、卒業生によるミニレクチャー）などを行うことがあります。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report and discuss English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills. Sophomore and junior students will work on reports and group presentations. Senior students will work on group presentations and their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, fall semester grades are based on reports(40%), presentations including inter-seminar presentations (40%), and contributions in class (20%).

For senior students, fall semester grades are based on thesis (50%), presentations (30%), and contributions in class (20%). If students do not submit the thesis, their grade will be D or E.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

高橋 理香

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3年生はグループ発表やレポート作成に取り組み、4年生は3年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法や物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論と実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は主に以下の内容を実施します。

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。課題等に対するフィードバックは、授業内で学生とのコミュニケーションを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスを行います。
第2回	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
第3回	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
第4回	経済理論および現実の経済に関する学習1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第5回	論文テーマの決め方	卒業論文やグループ研究のテーマの決め方を学びます。
第6回	経済理論および現実の経済に関する学習2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第7回	卒論中間報告会1	卒業論文のテーマを報告します。
第8回	経済理論および現実の経済に関する学習3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第9回	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
第10回	経済理論および現実の経済に関する学習4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第11回	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
第12回	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
第13回	卒論中間報告会2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
第14回	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は国際経済学やミクロ経済学の応用分野に関連するテキストを輪読しています。また、論文の作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回ゼミで説明します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】

伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣スタジオ、2016年。
棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。

山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020年。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第2版』日本評論社、2017年。

戸堂康之『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』サイエンス社、2023年。

花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣スタジオ）』有斐閣、2018年。

【論文作成】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年。

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書、2022年。

佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の基準は以下の通りです。

【2・3・4年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容：50%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は、通常のゼミ活動の他、高崎経済大学とのインターゼミナールを実施しました。また、年度末には、4年生の歓送会も予定しています。ゼミ生からは、フィールドワーク・合宿・OB会等の開催希望、という声がありましたので、2026年度には、それらを含めてゼミでどのような活動をしたいのか、皆で話し合いをしたいと思います。

さらに、本ゼミは留学希望者が多いので、留学経験のあるゼミ生や卒業生から話を聞く機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等はGoogle Classroomを使用します。英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT)の記事を採り上げます。法政大学のアカウントからFTの登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。また、対外的な情報発信を目的として設けたSNS上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）・他大学とのインターゼミナール・本ゼミ卒業生との交流会（OB会、卒業生によるミニレクチャー）などを行うことがあります。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills. Sophomore and junior students will work on group presentations. In addition to group presentations, senior students will prepare their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Spring semester grades for sophomore, junior, and senior students are based on presentations (50%) and contributions in class (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

高橋 理香

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3年生はグループ発表とレポート作成に取り組み、4年生は3年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

秋学期は主に以下の内容を実施します。

- ①英字新聞記事を用いた発表と議論
- ②インターゼミナールに向けてのグループ研究の報告
- ③レポート／卒業論文の作成と報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。課題等に対するフィードバックは、授業内およびオンラインで、学生とのコミュニケーションを通じて行います。

今年度・秋学期にも他大学とのインターゼミナール（グループ研究の発表会）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
第2回	レポートとグループ研究の準備	レポートやグループ研究のテーマと今後の研究計画を発表します。
第3回	日常生活に対する経済学的分析1	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション1
第4回	卒業論文中間報告会3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第5回	日常生活に対する経済学的分析2	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション2
第6回	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
第7回	日常生活に対する経済学的分析3	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション3
第8回	レポートとグループ研究の準備2	レポートとグループ研究に関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第9回	卒業論文中間報告会4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第10回	日常生活に対する経済学的分析4	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション4
第11回	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
第12回	グループ研究報告	グループ研究の発表を行います。
第13回	レポートと卒業論文最終報告会	レポートと卒業論文の最終発表会を行います。
第14回	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。2・3年生にはレポート作成を、4年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期は、春学期に学んだテキストを応用して自分で課題を決めてレポートを作成する予定です。レポート作成のための文献は学生と教員との議論に基づいて個別に決めます。また、論文作成に関する文献も使用します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】

伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。

棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。

山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020年。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第2版』日本評論社、2017年。

戸堂康之『経済学って何だろう：現実の社会問題から学ぶ経済学入門』サイエンス社、2023年。

【論文作成】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024年。

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書、2022年。

佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の基準は以下の通りです。

【2・3年生】

レポート：40%

発表内容（インターゼミナールのグループ発表も含む）：40%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

【4年生】

卒業論文：50%

発表内容：30%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

卒業論文：50%

発表内容：30%

平常点・ゼミへの貢献度：20%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は、通常のゼミ活動の他、高崎経済大学とのインターゼミナールを実施しました。また、年度末には、4年生の歓送会も予定しています。ゼミ生からは、フィールドワーク・合宿・OB会等の開催希望、という声がありましたので、2026年度には、それらを含めてゼミでどのような活動をしたいのか、皆で話し合いをしたいと思います。さらに、本ゼミは留学希望者が多いので、留学経験のあるゼミ生や卒業生から話を聞く機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等はGoogle Classroomを使用します。英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT)の記事を探り上げます。法政大学のアカウントからFTの登録を行うと、無料で記事を購入できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。また、対外的な情報発信を目的として設けたSNS上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）・他大学とのインターゼミナール・本ゼミ卒業生との交流会（OB会、卒業生によるミニレクチャー）などを行うことがあります。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report and discuss English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills. Sophomore and junior students will work on reports and group presentations. Senior students will work on group presentations and their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, fall semester grades are based on reports(40%), presentations including inter-seminar presentations (40%), and contributions in class (20%).

For senior students, fall semester grades are based on thesis (50%), presentations (30%), and contributions in class (20%). If students do not submit the thesis, their grade will be D or E.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

田路 則子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によってZOOMを使用したインタラクティブを予定している。

通常は5時限をチームのコラボレーションの時間にします。

ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、議論を深める。その進め方は、Hoppiを通じて提出された回答に対する講評を教員がした後で、議論すべき点に絞ってチームに分かれて議論を行う。そのチームごとの発表に対して、全体で議論をし、最後に教員がまとめを行う。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目指す。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスプランとは	要素の説明
第2回	アイデアジェネレーション1 / アイスブレイキング	ビジネスモデルキャンバス1
第3回	アイデアジェネレーション2 / チーム結成	ビジネスモデルキャンバス2
第4回	財務知識の確認1 / アイデア創出1	Cash Flow
第5回	財務知識の確認2 / アイデア創出2	BS/PL
第6回	スタートアップの事例分析1 / アイデア創出3	日本の事例
第7回	スタートアップの事例分析1 / アイデアまとめ	日本の事例
第8回	中間発表	チーム発表
第9回	起業家概念/ブラッシュアップ1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
第10回	イノベーションの担い手/ブラッシュアップ2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
第11回	日本の起業家活動/ブラッシュアップ3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
第12回	成長のマネジメント/ブラッシュアップ4	機会発見と成長プロセス
第13回	財務計画とマーケティング/ビジネスプラン1	ビジネスプランの書き方
第14回	資金調達/ビジネスプラン2	マルストーン投資、資本政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュース・ザカラキス、日経BP社、2009年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健、日本経済新聞社、2008年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ(20%)、議論への貢献(40%)、グループで行うビジネスプランニング(40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【関連科目】

製品開発論 I / II、技術管理論 I / II、経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、国際経営戦略論 I / II

【業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム - 事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析-」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーション・マネジメント』法政大学、22巻、pp.175-205、2025年。②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻、pp.31-42、2024年。③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号、2023年。④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会、第37巻、pp.73-77、2021。⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年。⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号、pp.172-184、2017年。⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014。⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略-オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010年。⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也、『赤門マネジメント・レビュー』東京大学、第8巻、5号、pp.211-231、2009年。⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子、白桃書房、2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

演習2

田路 則子

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によってZOOMを使用したインタラクティブを予定している。

通常は5時限をチームのコラボレーションの時間にします。

ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、議論を深める。その進め方は、Hoppiを通じて提出された回答に対する講評を教員がした後で、議論すべき点に絞ってチームに分かれて議論を行う。そのチームごとの発表に対して、全体で議論をし、最後に教員がまとめを行う。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目指す。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスプラン進捗報告	発表と質疑
第2回	ビジネスプラン修正	修正と発表
第3回	ビジネスプランコンテスト応募募プラン作成	解説
第4回	新規事業の事例分析1/コンテスト応募プラン作成	サービス産業
第5回	日本企業の新規事業を担う組織体制/応募プラン作成	解説
第6回	新規事業の事例分析2/コンテスト応募プラン作成	製造業
第7回	新規事業の事例分析2/コンテスト応募プラン完成	製造業続き
第8回	外部スピーカー	新規事業担当者
第9回	新規事業の事例分析3（解説と始め）	製造業
第10回	新規事業の事例分析4（最終まとめ）	製造業続き
第11回	キャリア・デザイン理論と実例	理論と実例
第12回	スタートアップの事例分析1（解説と始め）	米国の事例（IT）

第13回 スタートアップの事例分 米国の事例（IT）続き
析2（最終まとめ）

第14回 スタートアップの事例分 日本の事例
析3（米国との比較）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年

【参考書】

「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュース・ザラキス, 日経BP社, 2009年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社, 2008年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ(20%)、議論への貢献(40%)、グループで行うビジネスプランニング(40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【関連科目】

製品開発論 I / II、技術管理論 I / II、経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、国際経営戦略論 I / II

【業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム－事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析」田路則子・福岡路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学, 22巻, pp.175-205, 2025年. ②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42, 2024年. ③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年. ④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77, 2021. ⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年. ⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号, pp.172-184, 2017年. ⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略-オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻, 5号, pp.211-231, 2009年. ⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

田路 則子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によってZOOMを使用したインタラクティブを予定している。

通常は5時限をチームのコラボレーションの時間にしている。

ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、議論を深める。その進め方は、Hoppiを通じて提出された回答に対する講評を教員がした後で、議論すべき点に絞ってチームに分かれて議論を行う。そのチームごとの発表に対して、全体で議論をし、最後に教員がまとめを行う。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目指す。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスプランとは	要素の説明
第2回	アイデアジェネレーション1 / アイスブレイキング	ビジネスモデルキャンバス1
第3回	アイデアジェネレーション2 / チーム結成	ビジネスモデルキャンバス2
第4回	財務知識の確認1 / アイデア創出1	Cash Flow
第5回	財務知識の確認2 / アイデア創出2	BS/PL
第6回	スタートアップの事例分析1 / アイデア創出3	日本の事例
第7回	スタートアップの事例分析1 / アイデアまとめ	日本の事例
第8回	中間発表	チーム発表
第9回	起業家概念/ブラッシュアップ1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
第10回	イノベーションの担い手/ブラッシュアップ2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
第11回	日本の起業家活動/ブラッシュアップ3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
第12回	成長のマネジメント/ブラッシュアップ4	機会発見と成長プロセス
第13回	財務計画とマーケティング/ビジネスプラン1	ビジネスプランの書き方
第14回	資金調達/ビジネスプラン2	マルストーン投資、資本政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】特になし

【参考書】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュース・ザカラキス、日経BP社、2009年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健、日本経済新聞社、2008年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ(20%)、議論への貢献(40%)、グループで行うビジネスプランニング(40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】PC

【関連科目】

製品開発論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム－事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析－」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーション・マネジメント』法政大学、22巻、pp.175-205、2025年。②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻、pp.31-42、2024年。③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号、2023年。④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会、第37巻、pp.73-77、2021。⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年。⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号、pp.172-184、2017年。⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014。⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略－オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010年。⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也、『赤門マネジメント・レビュー』東京大学、第8巻、5号、pp.211-231、2009年。⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子、白桃書房、2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

演習4

田路 則子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

原則として5時限をチームのコラボレーションの時間にします。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、議論を深める。その進め方は、Hoppiを通じて提出された回答に対する講評を教員がした後で、議論すべき点に絞ってチームに分かれて議論を行う。そのチームごとの発表に対して、全体で議論をし、最後に教員がまとめを行う。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミのために、英語によるプレゼンテーションを練習する。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスプラン進捗報告	発表と質疑
第2回	ビジネスプラン修正	修正と発表
第3回	ビジネスプランコンテスト応募募プラン作成	解説
第4回	新規事業の事例分析1/コンテスト応募プラン作成	サービス産業
第5回	日本企業の新規事業を担う組織体制/応募プラン作成	解説
第6回	新規事業の事例分析2/コンテスト応募プラン作成	製造業
第7回	新規事業の事例分析2/コンテスト応募プラン完成	製造業続き
第8回	外部スピーカー	新規事業担当者
第9回	新規事業の事例分析3（解説と始め）	製造業
第10回	新規事業の事例分析4（最終まとめ）	製造業続き
第11回	キャリア・デザイン理論と実例	理論と実例
第12回	スタートアップの事例分析1（解説と始め）	米国の事例（IT）
第13回	スタートアップの事例分析2（最終まとめ）	米国の事例（IT）続き

第14回 スタートアップの事例分析3（米国との比較）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年

【参考書】

「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュース・ザラクス, 日経BP社, 2009年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社, 2008年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ(20%)、議論への貢献(40%)、グループで行うビジネスプランニング(40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【関連科目】

製品開発論 I / II、技術管理論 I / II、経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、国際経営戦略論 I / II

【業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム－事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析－」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学, 22巻, pp.175-205, 2025年. ②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42, 2024年. ③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年. ④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77, 2021. ⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年. ⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号, pp.172-184, 2017年. ⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略－オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻5号, pp.211-231, 2009年. ⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

田路 則子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によってZOOMを使用したインタラクティブを予定している。

通常は5時限をチームのコラボレーションの時間にしている。

ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、議論を深める。その進め方は、Hoppiを通じて提出された回答に対する講評を教員がした後で、議論すべき点に絞ってチームに分かれて議論を行う。そのチームごとの発表に対して、全体で議論をし、最後に教員がまとめを行う。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目指す。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスプランとは	要素の説明
第2回	アイデアジェネレーション1 / アイスブレイキング	ビジネスモデルキャンバス1
第3回	アイデアジェネレーション2 / チーム結成	ビジネスモデルキャンバス2
第4回	財務知識の確認1 / アイデア創出1	Cash Flow
第5回	財務知識の確認2 / アイデア創出2	BS/PL
第6回	スタートアップの事例分析1 / アイデア創出3	日本の事例
第7回	スタートアップの事例分析1 / アイデアまとめ	日本の事例
第8回	中間発表	チーム発表
第9回	起業家概念/ブラッシュアップ1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
第10回	イノベーションの担い手/ブラッシュアップ2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
第11回	日本の起業家活動/ブラッシュアップ3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
第12回	成長のマネジメント/ブラッシュアップ4	機会発見と成長プロセス
第13回	財務計画とマーケティング/ビジネスプラン1	ビジネスプランの書き方
第14回	資金調達/ビジネスプラン2	マルストーン投資、資本政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュース・ザカラキス、日経BP社、2009年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健、日本経済新聞社、2008年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ(20%)、議論への貢献(40%)、グループで行うビジネスプランニング(40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【関連科目】

製品開発論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム－事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析－」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーション・マネジメント』法政大学、22巻、pp.175-205,2025年。②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻、pp.31-42,2024年。③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号、2023年。④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会、第37巻、pp.73-77,2021。⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年。⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号、pp.172-184,2017年。⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014。⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略－オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010年。⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也、『赤門マネジメント・レビュー』東京大学、第8巻、5号、pp.211-231,2009年。⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子、白桃書房、2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

田路 則子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

原則として5時限をチームのコラボレーションの時間にします。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、議論を深める。その進め方は、Hoppiを通じて提出された回答に対する講評を教員がした後で、議論すべき点に絞ってチームに分かれて議論を行う。そのチームごとの発表に対して、全体で議論をし、最後に教員がまとめを行う。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミのために、英語によるプレゼンテーションを練習する。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスプラン進捗報告	発表と質疑
第2回	ビジネスプラン修正	修正と発表
第3回	ビジネスプランコンテスト応募募プラン作成	解説
第4回	新規事業の事例分析1/コンテスト応募プラン作成	サービス産業
第5回	日本企業の新規事業を担う組織体制/応募プラン作成	解説
第6回	新規事業の事例分析2/コンテスト応募プラン作成	製造業
第7回	新規事業の事例分析2/コンテスト応募プラン完成	製造業続き
第8回	外部スピーカー	新規事業担当者
第9回	新規事業の事例分析3（解説と始め）	製造業
第10回	新規事業の事例分析4（最終まとめ）	製造業続き
第11回	キャリア・デザイン理論と実例	理論と実例
第12回	スタートアップの事例分析1（解説と始め）	米国の事例（IT）
第13回	スタートアップの事例分析2（最終まとめ）	米国の事例（IT）続き

第14回 スタートアップの事例分析3（米国との比較）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年

【参考書】

「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュース・ザラクス, 日経BP社, 2009年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社, 2008年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ(20%)、議論への貢献(40%)、グループで行うビジネスプランニング(40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【関連科目】

製品開発論 I / II、技術管理論 I / II、経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、国際経営戦略論 I / II

【業績】

①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム－事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析－」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学, 22巻, pp.175-205, 2025年. ②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42, 2024年. ③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年. ④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」築田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77, 2021. ⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年. ⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号, pp.172-184, 2017年. ⑦ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略－オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻5号, pp.211-231, 2009年. ⑩『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

演習 1

筒井 知彦

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については2年次に履修した「会計学入門」および3年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自1社（合計3、4社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

これまでは、ゲーム、清涼飲料、冷凍食品等の業界を分析した。2026年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。以下の授業計画は以前の業界をもとに記入していることに注意されたい。

【フィードバックの方法】

メールにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム業界の分析①（経営戦略分析）	ゲーム業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第2回	ゲーム業界の分析②	セガサミーの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第3回	ゲーム業界の分析③	バンダイナムコの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第4回	ゲーム業界の分析④	スクウェア・エニックスの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第5回	ゲーム業界の分析⑤、清涼飲料業界の分析①	ゲーム業界のまとめ、清涼飲料業界の仕組み、特徴
第6回	清涼飲料業界の分析②	清涼飲料業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、コカ・コーラの特徴、経営戦略
第7回	清涼飲料業界の分析③	コカ・コーラの課題の報告とディスカッション、ヤクルト本社の特徴、経営戦略

第8回	清涼飲料業界の分析④	ヤクルト本社の課題の報告とディスカッション、伊藤園の特徴、経営戦略
第9回	清涼飲料業界の分析⑤	伊藤園の課題の報告とディスカッション、清涼飲料業界のまとめ、冷凍食品業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第10回	冷凍食品業界の分析①	ニチレイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第11回	冷凍食品業界の分析②	ニッスイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第12回	冷凍食品業界の分析③	マルハニチロの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第13回	冷凍食品業界の分析④	冷凍食品業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けてのPDCAプラン策定
第14回	冷凍食品業界の分析⑤、まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4年生は2・3年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

板井久勝『財務諸表分析第4版』中央経済社

パレブ他『企業分析入門第2版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については毎回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

・Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation:70%,Report:30%

演習2

筒井 知彦

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については2年次に履修した「会計学入門」および3年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自1社（合計3、4社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

これまでは、ゲーム、清涼飲料、冷凍食品等の業界を分析した。2026年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。以下の授業計画は以前の業界をもとに記入していることに注意されたい。

【フィードバックの方法】

メールにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム業界の分析①（財務分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第2回	ゲーム業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第3回	ゲーム業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第4回	ゲーム業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション

第5回	入ゼミ面接	入ゼミ希望者に面接を行う
第6回	清涼飲料業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第7回	清涼飲料業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第8回	清涼飲料業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第9回	清涼飲料業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第10回	冷凍食品業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第11回	冷凍食品業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第12回	冷凍食品業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第13回	冷凍食品業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第14回	まとめ	秋学期の振り返りと最終発表（春合宿）に向けてのPDCA

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4年生は2・3年生の各グループをサポートするとともに卒業論文完成に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第4版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第2版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

(Learning Objectives)

・Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis
(Learning activities outside of classroom)
Preparing for your presentation.
(Grading Criteria /Policy)
Presentation:70%,Report:30%

演習3

筒井 知彦

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については2年次に履修した「会計学入門」および3年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

- ①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる
- ②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる
- ③さまざまな会計ルールを理解できる
- ④企業分析ができる
- ⑤チームで力を発揮できる
- ⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

〔授業の概要〕

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自1社（合計3、4社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

〔授業の方法〕

- ① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

〔授業計画〕

これまでは、ゲーム、清涼飲料、冷凍食品等の業界を分析した。2026年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。以下の授業計画は以前の業界をもとに記入していることに注意されたい。

〔フィードバックの方法〕

メールにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム業界の分析①（経営戦略分析）	ゲーム業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第2回	ゲーム業界の分析②	セガサミーの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第3回	ゲーム業界の分析③	バンダイナムコの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第4回	ゲーム業界の分析④	スクウェア・エニックスの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第5回	ゲーム業界の分析⑤、清涼飲料業界の分析①	ゲーム業界のまとめ、清涼飲料業界の仕組み、特徴
第6回	清涼飲料業界の分析②	清涼飲料業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、コカ・コーラの特徴、経営戦略
第7回	清涼飲料業界の分析③	コカ・コーラの課題の報告とディスカッション、ヤクルト本社の特徴、経営戦略

第8回	清涼飲料業界の分析④	ヤクルト本社の課題の報告とディスカッション、伊藤園の特徴、経営戦略
第9回	清涼飲料業界の分析⑤	伊藤園の課題の報告とディスカッション、清涼飲料業界のまとめ、冷凍食品業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第10回	冷凍食品業界の分析①	ニチレイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第11回	冷凍食品業界の分析②	ニッスイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第12回	冷凍食品業界の分析③	マルハニチロの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第13回	冷凍食品業界の分析④	冷凍食品業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けてのPDCAプラン策定
第14回	冷凍食品業界の分析⑤、まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4年生は2・3年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

板井久勝『財務諸表分析第4版』中央経済社

パレブ他『企業分析入門第2版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については毎回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline (in English)】
(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

- ・Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

- ・Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

筒井 知彦

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については2年次に履修した「会計学入門」および3年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自1社（合計3、4社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

これまでは、ゲーム、清涼飲料、冷凍食品等の業界を分析した。2026年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。以下の授業計画は以前の業界をもとに記入していることに注意されたい。

【フィードバックの方法】

メールにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム業界の分析①（財務分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第2回	ゲーム業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第3回	ゲーム業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第4回	ゲーム業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション

第5回	入ゼミ面接	入ゼミ希望者に面接を行う
第6回	清涼飲料業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第7回	清涼飲料業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第8回	清涼飲料業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第9回	清涼飲料業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第10回	冷凍食品業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第11回	冷凍食品業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第12回	冷凍食品業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第13回	冷凍食品業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第14回	まとめ	秋学期の振り返りと最終発表（春合宿）に向けてのPDCA

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4年生は2・3年生の各グループをサポートするとともに卒業論文完成に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第4版』中央経済社
 パレブ他『企業分析入門第2版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

(Learning Objectives)

・Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis
(Learning activities outside of classroom)
Preparing for your presentation.
(Grading Criteria /Policy)
Presentation:70%,Report:30%

演習5

筒井 知彦

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については2年次に履修した「会計学入門」および3年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自1社（合計3、4社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

これまでは、ゲーム、清涼飲料、冷凍食品等の業界を分析した。2026年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。以下の授業計画は以前の業界をもとに記入していることに注意されたい。

【フィードバックの方法】

メールにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム業界の分析①（経営戦略分析）	ゲーム業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第2回	ゲーム業界の分析②	セガサミーの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第3回	ゲーム業界の分析③	バンダイナムコの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第4回	ゲーム業界の分析④	スクウェア・エニックスの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第5回	ゲーム業界の分析⑤、清涼飲料業界の分析①	ゲーム業界のまとめ、清涼飲料業界の仕組み、特徴
第6回	清涼飲料業界の分析②	清涼飲料業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、コカ・コーラの特徴、経営戦略
第7回	清涼飲料業界の分析③	コカ・コーラの課題の報告とディスカッション、ヤクルト本社の特徴、経営戦略

第8回	清涼飲料業界の分析④	ヤクルト本社の課題の報告とディスカッション、伊藤園の特徴、経営戦略
第9回	清涼飲料業界の分析⑤	伊藤園の課題の報告とディスカッション、清涼飲料業界のまとめ、冷凍食品業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第10回	冷凍食品業界の分析①	ニチレイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第11回	冷凍食品業界の分析②	ニッスイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第12回	冷凍食品業界の分析③	マルハニチロの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第13回	冷凍食品業界の分析④	冷凍食品業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けてのPDCAプラン策定
第14回	冷凍食品業界の分析⑤、まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4年生は2・3年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

板井久勝『財務諸表分析第4版』中央経済社

パレブ他『企業分析入門第2版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については毎回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

・Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation:70%,Report:30%

演習6

筒井 知彦

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については2年次に履修した「会計学入門」および3年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自1社（合計3、4社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

これまでは、ゲーム、清涼飲料、冷凍食品等の業界を分析した。2026年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。以下の授業計画は以前の業界をもとに記入していることに注意されたい。

【フィードバックの方法】

メールにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム業界の分析①（財務分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第2回	ゲーム業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第3回	ゲーム業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第4回	ゲーム業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション

第5回	入ゼミ面接	入ゼミ希望者に面接を行う
第6回	清涼飲料業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第7回	清涼飲料業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第8回	清涼飲料業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第9回	清涼飲料業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第10回	冷凍食品業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第11回	冷凍食品業界の分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第12回	冷凍食品業界の分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第13回	冷凍食品業界の分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第14回	まとめ	秋学期の振り返りと最終発表（春合宿）に向けてのPDCA

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4年生は2・3年生の各グループをサポートするとともに卒業論文完成に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第4版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第2版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

(Learning Objectives)

・Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis
(Learning activities outside of classroom)
Preparing for your presentation.
(Grading Criteria /Policy)
Presentation:70%,Report:30%

演習 1

長岡 健

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力を身につける様々な学習活動に取り組みます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。ゼミ生同士で協力しながら、様々な参加型・体験型の学習を行います。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

また、ゼミ活動を通じて、一人ひとりが関心あるテーマを見つけることも、重要な活動です。そのために、大学キャンパスを飛び出し、社会で行われている様々な活動を体験するフィールドワーク（＝越境活動）にも挑戦します。長岡ゼミでは「ビジネス&マネジメント」に関連したテーマだけでなく、「人々の豊かで楽しい暮らし」全般を視野に置いています。具体的には、以下に挙げられるような「仕事一辺倒ではないライフスタイル」「新しい家族の在り方」「居心地のいい仕事場」など、いわゆるワーク・イン・ライフと呼ばれるテーマに関わる多様な分野にフィールドワークを行います。そして、社会人や他大学生とも積極的に協働することを通じて、「豊かで楽しい暮らし」について考えながら、自分にとって関心あるテーマを探索します。

（0）ワーク・イン・ライフ関連：仕事と人生のより良い関係を探る

【テーマ例】パラレルキャリア；内発的動機付け；成長的能力観；心理的安全性；ジョブクラフティング

（1）ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らす

【テーマ例】多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

（2）ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現する

【テーマ例】共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

（3）コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくる

【テーマ例】まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

（4）ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくる

【テーマ例】ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；アクティブラーニング；プロジェクト型学習

【到達目標】

- （1）主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- （2）多様な人々との積極的な交流を実践する
- （3）社会に情報発信するリテラシーを身につける
- （4）試行錯誤型の活動スタイルを実践する
- （5）アウトプット型の学習スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」とあるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、以下の（1）～（8）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- （1）ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- （2）ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- （3）読書会
- （4）フィールドワーク
- （5）対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- （6）ラジオ（ポッドキャスト）番組の制作
- （7）ブログ記事・フリーペーパーの制作
- （8）プレゼンテーション

活動（1）～（8）については、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動のねらいと進め方を理解するためのワークショップを実施する
第2回	4年生の活動報告	4年生が卒論で取り組むテーマについて発表し、全員で議論する
第3回	読書会	『プレイフル・シンキング』の読書会を実施する
第4回	プレゼンの方法	「プレゼンの方法」に関する体験学習を実施する
第5回	対話イベントの準備	第6回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第6回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第7回	対話イベントの省察	第6回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第8回	文章執筆の方法	「文章執筆の方法」に関する体験学習を実施する
第9回	フィールドワーク	路上観察の体験学習を実施する
第10回	対話イベントの準備	第11回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第11回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第12回	対話イベントの省察	第6回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第13回	3年生の活動報告	3年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第14回	ラップアップ	今学期の学習活動に関する振り返りワークショップを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組めます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

（1）対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組みます。

（2）越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

（3）マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- （1）上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- （2）長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社
- （3）上平崇仁『コ・デザイン：デザインすることをみんなの手に』NTT出版

【参考書】

- （4）横石崇（編）『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- （5）D. ピンク『フリーエージェント社会の到来 [新装版]：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- （6）リンダ・グラットン『ワークシフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- （7）仲山進也『「組織のネコ」という働き方』翔泳社
- （8）平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- （9）平野翔大『ポストイクメンの男性育児：妊娠初期から始まる育業のススメ』中公新書

- (10) 白木夏子『ファッションの仕事で世界を変える：エシカル・ビジネスによる社会貢献』筑摩書房
(11) 小川明子『ケアする声のメディア：ホスピタルラジオという希望』青弓社
(12) 石山恒貴・編著『サードプレイスを生み出す17のストーリー：ゆるい場をつくる人々』学芸出版社
(13) 加藤文俊『キャンプ論：あたらしいフィールドワーク』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40 %
[評価基準] 対話イベントの企画・運営への参画度を総合的に評価
(2) プレゼンテーション実施 : 30 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
(3) ブログ記事執筆 : 30 %
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどネットワークを積極的に活用します。
(2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
(2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
(3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
(4) 長岡ゼミのX（旧ツイッター）
<https://twitter.com/tnlabmelc>
(5) 長岡ゼミのインスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmelc/>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
(2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
(3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (40%), presentation about field works (30%), and academic essays (30%).

演習2

長岡 健

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力を身につける様々な学習活動に取り組みます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。ゼミ生同士で協力しながら、様々な参加型・体験型の学習を行います。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

また、ゼミ活動を通じて、一人ひとりが関心あるテーマを見つけることも、重要な活動です。そのために、大学キャンパスを飛び出し、社会で行われている様々な活動を体験するフィールドワーク（＝越境活動）にも挑戦します。長岡ゼミでは「ビジネス&マネジメント」に関連したテーマだけでなく、「人々の豊かで楽しい暮らし」全般を視野に置いています。具体的には、以下に挙げるような「仕事一辺倒ではないライフスタイル」「新しい家族の在り方」「居心地のいい仕事場」など、いわゆるワーク・イン・ライフと呼ばれるテーマに関わる多様な分野にフィールドワークを行います。そして、社会人や他大学生とも積極的に協働することを通じて、「豊かで楽しい暮らし」について考えながら、自分にとって関心あるテーマを探索します。

（0）ワーク・イン・ライフ関連：仕事と人生のより良い関係を探る

【テーマ例】パラレルキャリア；内発的動機付け；成長的能力観；心理的安全性；ジョブクラフティング

（1）ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らす

【テーマ例】多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

（2）ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現する

【テーマ例】共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

（3）コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくる

【テーマ例】まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

（4）ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくる

【テーマ例】ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；アクティブラーニング；プロジェクト型学習

【到達目標】

- （1）主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- （2）多様な人々との積極的な交流を実践する
- （3）社会に情報発信するリテラシーを身につける
- （4）試行錯誤型の活動スタイルを実践する
- （5）アウトプット型の学習スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」であるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の（1）～（8）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- （1）ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- （2）ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- （3）読書会
- （4）フィールドワーク
- （5）対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- （6）ラジオ（ポッドキャスト）番組の制作
- （7）ブログ記事・フリーペーパーの制作
- （8）プレゼンテーション

活動（1）～（8）については、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	読書会	『みんなのアンラーニング論』の読書会を実施する
第3回	WEB マガジンの制作	WEB マガジン『妄想紙』の記事を執筆する
第4回	対話イベントの準備	第5回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第5回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第6回	対話イベントの省察	第5回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第7回	フィールドワーク	路上観察の体験学習を実施する
第8回	対話イベントの準備	第9回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第9回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第10回	対話イベントの省察	第9回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第11回	3年生の活動報告	3年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第12回	2年生の活動報告	2年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第13回	WEB マガジンの制作	WEB マガジン『妄想紙』の記事を執筆する
第14回	ラップアップ	今学期の学習活動に関する振り返りワークショップを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

（1）対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

（2）越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

（3）マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- （1）上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- （2）長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社
- （3）上平崇仁『コ・デザイン：デザインすることをみんなの手に』NTT出版

【参考書】

- （4）横石崇（編）『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- （5）ダニエル・ピンク『フリーエージェント社会の到来 [新装版]：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- （6）リンダ・グラットン『ワークシフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- （7）仲山進也『組織のネコ』という働き方』翔泳社
- （8）平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- （9）平野翔太『ポストイクメンの男性育児：妊娠初期から始まる育業のススメ』中公新書
- （10）白木夏子『ファッションの仕事で世界を変える：エシカル・ビジネスによる社会貢献』筑摩書房

- (11) 小川明子『ケアする声のメディア：ホスピタルラジオという希望』青弓社
(12) 石山恒貴・編著『サードプレイスを生み出す17のストーリー：ゆるい場をつくる人々』学芸出版社
(13) 加藤文俊『キャンプ論：あたらしいフィールドワーク』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40 %
[評価基準] 対話イベントの企画・運営への参画度を総合的に評価
(2) プレゼンテーション実施 : 30 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
(3) ブログ記事執筆 : 30 %
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどを積極的に活用します。
(2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていこうと思います。既存概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探索する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
(2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
(3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
(4) 長岡ゼミのX（旧ツイッター）
<https://twitter.com/tnlabmelc>
(5) 長岡ゼミのインスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmelc/>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are:

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (40%), presentation about field works (30%), and academic essays (30%).

演習3

長岡 健

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力を身につける様々な学習活動に取り組みます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。ゼミ生同士で協力しながら、様々な参加型・体験型の学習を行います。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

また、ゼミ活動を通じて、一人ひとりが関心あるテーマを見つけることも、重要な活動です。そのために、大学キャンパスを飛び出し、社会で行われている様々な活動を体験するフィールドワーク（＝越境活動）にも挑戦します。長岡ゼミでは「ビジネス&マネジメント」に関連したテーマだけでなく、「人々の豊かで楽しい暮らし」全般を視野に置いています。具体的には、以下に挙げられるような「仕事一辺倒ではないライフスタイル」「新しい家族の在り方」「居心地のいい仕事場」など、いわゆるワーク・イン・ライフと呼ばれるテーマに関わる多様な分野にフィールドワークを行います。そして、社会人や他大学生とも積極的に協働することを通じて、「豊かで楽しい暮らし」について考えながら、自分にとって関心あるテーマを探索します。

（0）ワーク・イン・ライフ関連：仕事と人生のより良い関係を探る

【テーマ例】パラレルキャリア；内発的動機付け；成長的能力観；心理的安全性；ジョブクラフティング

（1）ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らす

【テーマ例】多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

（2）ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現する

【テーマ例】共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

（3）コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくる

【テーマ例】まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

（4）ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくる

【テーマ例】ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；アクティブラーニング；プロジェクト型学習

【到達目標】

- （1）主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- （2）多様な人々との積極的な交流を実践する
- （3）社会に情報発信するリテラシーを身につける
- （4）試行錯誤型の活動スタイルを実践する
- （5）アウトプット型の学習スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」とあるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、以下の（1）～（8）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- （1）ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- （2）ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- （3）読書会
- （4）フィールドワーク
- （5）対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- （6）ラジオ（ポッドキャスト）番組の制作
- （7）ブログ記事・フリーペーパーの制作
- （8）プレゼンテーション

活動（1）～（8）については、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動のねらいと進め方を理解するためのワークショップを実施する
第2回	4年生の活動報告	4年生が卒論で取り組むテーマについて発表し、全員で議論する
第3回	読書会	『プレイフル・シンキング』の読書会を実施する
第4回	プレゼンの方法	「プレゼンの方法」に関する体験学習を実施する
第5回	対話イベントの準備	第6回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第6回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第7回	対話イベントの省察	第6回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第8回	文章執筆の方法	「文章執筆の方法」に関する体験学習を実施する
第9回	フィールドワーク	路上観察の体験学習を実施する
第10回	対話イベントの準備	第11回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第11回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第12回	対話イベントの省察	第11回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第13回	3年生の活動報告	3年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第14回	ラップアップ	今学期の学習活動に関する振り返りワークショップを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組めます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

（1）対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組みます。

（2）越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

（3）マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- （1）上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- （2）長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社
- （3）上平崇仁『コ・デザイン：デザインすることをみんなの手に』NTT出版

【参考書】

- （4）横石崇（編）『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- （5）D. ピンク『フリーエージェント社会の到来 [新装版]：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- （6）リンダ・グラットン『ワークシフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- （7）仲山進也『「組織のネコ」という働き方』翔泳社
- （8）平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- （9）平野翔大『ポストイクメンの男性育児：妊娠初期から始まる育業のススメ』中公新書

- (10) 白木夏子『ファッションの仕事で世界を変える：エシカル・ビジネスによる社会貢献』筑摩書房
(11) 小川明子『ケアする声のメディア：ホスピタルラジオという希望』青弓社
(12) 石山恒貴・編著『サードプレイスを生み出す17のストーリー：ゆるい場をつくる人々』学芸出版社
(13) 加藤文俊『キャンプ論：あたらしいフィールドワーク』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40 %
[評価基準] 対話イベントの企画・運営への参画度を総合的に評価
(2) プレゼンテーション実施 : 30 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
(3) ブログ記事執筆 : 30 %
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどネットワークを積極的に活用します。
(2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
(2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
(3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
(4) 長岡ゼミのX（旧ツイッター）
<https://twitter.com/tnlabmelc>
(5) 長岡ゼミのインスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmelc/>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
(2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
(3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (40%), presentation about field works (30%), and academic essays (30%).

演習4

長岡 健

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力を身につける様々な学習活動に取り組みます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。ゼミ生同士で協力しながら、様々な参加型・体験型の学習を行います。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

また、ゼミ活動を通じて、一人ひとりが関心あるテーマを見つけることも、重要な活動です。そのために、大学キャンパスを飛び出し、社会で行われている様々な活動を体験するフィールドワーク（＝越境活動）にも挑戦します。長岡ゼミでは「ビジネス&マネジメント」に関連したテーマだけでなく、「人々の豊かで楽しい暮らし」全般を視野に置いています。具体的には、以下に挙げるような「仕事一辺倒ではないライフスタイル」「新しい家族の在り方」「居心地のいい仕事場」など、いわゆるワーク・イン・ライフと呼ばれるテーマに関わる多様な分野にフィールドワークを行います。そして、社会人や他大学生とも積極的に協働することを通じて、「豊かで楽しい暮らし」について考えながら、自分にとって関心あるテーマを探索します。

（0）ワーク・イン・ライフ関連：仕事と人生のより良い関係を探る

【テーマ例】パラレルキャリア；内発的動機付け；成長的能力観；心理的安全性；ジョブクラフティング

（1）ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らす

【テーマ例】多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

（2）ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現する

【テーマ例】共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

（3）コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくる

【テーマ例】まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

（4）ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくる

【テーマ例】ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；アクティブラーニング；プロジェクト型学習

【到達目標】

- （1）主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- （2）多様な人々との積極的な交流を実践する
- （3）社会に情報発信するリテラシーを身につける
- （4）試行錯誤型の活動スタイルを実践する
- （5）アウトプット型の学習スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」であるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、以下の（1）～（8）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- （1）ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- （2）ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- （3）読書会
- （4）フィールドワーク
- （5）対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- （6）ラジオ（ポッドキャスト）番組の制作
- （7）ブログ記事・フリーペーパーの制作
- （8）プレゼンテーション

活動（1）～（8）については、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	読書会	『みんなのアンラーニング論』の読書会を実施する
第3回	WEB マガジンの制作	WEB マガジン『妄想紙』の記事を執筆する
第4回	対話イベントの準備	第5回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第5回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第6回	対話イベントの省察	第5回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第7回	フィールドワーク	路上観察の体験学習を実施する
第8回	対話イベントの準備	第9回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第9回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第10回	対話イベントの省察	第9回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第11回	3年生の活動報告	3年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第12回	2年生の活動報告	2年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第13回	WEB マガジンの制作	WEB マガジン『妄想紙』の記事を執筆する
第14回	ラップアップ	今学期の学習活動に関する振り返りワークショップを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

（1）対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

（2）越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

（3）マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- （1）上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- （2）長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社
- （3）上平崇仁『コ・デザイン：デザインすることをみんなの手に』NTT出版

【参考書】

- （4）横石崇（編）『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- （5）D. ピンク『フリーエージェンツ社会の到来 [新装版]：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- （6）リンダ・グラットン『ワークシフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- （7）仲山進也『組織のネコ』という働き方』翔泳社
- （8）平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- （9）平野翔太『ポストイクメンの男性育児：妊娠初期から始まる育業のススメ』中公新書
- （10）白木夏子『ファッションの仕事で世界を変える：エシカル・ビジネスによる社会貢献』筑摩書房

- (11) 小川明子『ケアする声のメディア：ホスピタルラジオという希望』青弓社
(12) 石山恒貴・編著『サードプレイスを生み出す17のストーリー：ゆるい場をつくる人々』学芸出版社
(13) 加藤文俊『キャンプ論：あたらしいフィールドワーク』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40 %
[評価基準] 対話イベントの企画・運営への参画度を総合的に評価
(2) プレゼンテーション実施 : 30 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
(3) ブログ記事執筆 : 30 %
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどを積極的に活用します。
(2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既存概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探索する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
(2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
(3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
(4) 長岡ゼミのX（旧ツイッター）
<https://twitter.com/tnlabmelc>
(5) 長岡ゼミのインスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmelc/>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (40%), presentation about field works (30%), and academic essays (30%).

演習5

長岡 健

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力を身につける様々な学習活動に取り組みます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。ゼミ生同士で協力しながら、様々な参加型・体験型の学習を行います。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

また、ゼミ活動を通じて、一人ひとりが関心あるテーマを見つけることも、重要な活動です。そのために、大学キャンパスを飛び出し、社会で行われている様々な活動を体験するフィールドワーク（＝越境活動）にも挑戦します。長岡ゼミでは「ビジネス&マネジメント」に関連したテーマだけでなく、「人々の豊かで楽しい暮らし」全般を視野に置いています。具体的には、以下に挙げられるような「仕事一辺倒ではないライフスタイル」「新しい家族の在り方」「居心地のいい仕事場」など、いわゆるワーク・イン・ライフと呼ばれるテーマに関わる多様な分野にフィールドワークを行います。そして、社会人や他大学生とも積極的に協働することを通じて、「豊かで楽しい暮らし」について考えながら、自分にとって関心あるテーマを探索します。

（0）ワーク・イン・ライフ関連：仕事と人生のより良い関係を探る

【テーマ例】パラレルキャリア；内発的動機付け；成長的能力観；心理的安全性；ジョブクラフティング

（1）ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らす

【テーマ例】多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

（2）ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現する

【テーマ例】共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

（3）コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくる

【テーマ例】まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

（4）ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくる

【テーマ例】ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；アクティブラーニング；プロジェクト型学習

【到達目標】

- （1）主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- （2）多様な人々との積極的な交流を実践する
- （3）社会に情報発信するリテラシーを身につける
- （4）試行錯誤型の活動スタイルを実践する
- （5）アウトプット型の学習スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」とあるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、以下の（1）～（8）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- （1）ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- （2）ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- （3）読書会
- （4）フィールドワーク
- （5）対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- （6）ラジオ（ポッドキャスト）番組の制作
- （7）ブログ記事・フリーペーパーの制作
- （8）プレゼンテーション

活動（1）～（8）については、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動のねらいと進め方を理解するためのワークショップを実施する
第2回	4年生の活動報告	4年生が卒論で取り組むテーマについて発表し、全員で議論する
第3回	読書会	『プレイフル・シンキング』の読書会を実施する
第4回	プレゼンの方法	「プレゼンの方法」に関する体験学習を実施する
第5回	対話イベントの準備	第6回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第6回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第7回	対話イベントの省察	第6回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第8回	文章執筆の方法	「文章執筆の方法」に関する体験学習を実施する
第9回	フィールドワーク	路上観察の体験学習を実施する
第10回	対話イベントの準備	第11回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第11回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第12回	対話イベントの省察	第6回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第13回	3年生の活動報告	3年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第14回	ラップアップ	今学期の学習活動に関する振り返りワークショップを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組めます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

（1）対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組みます。

（2）越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

（3）マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- （1）上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- （2）長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社
- （3）上平崇仁『コ・デザイン：デザインすることをみんなの手に』NTT出版

【参考書】

- （4）横石崇（編）『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- （5）D. ビンク『フリーエージェント社会の到来 [新装版]：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- （6）リンダ・グラットン『ワークシフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- （7）仲山進也『「組織のネコ」という働き方』翔泳社
- （8）平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- （9）平野翔大『ポストイクメンの男性育児：妊娠初期から始まる育業のススメ』中公新書

- (10) 白木夏子『ファッションの仕事で世界を変える：エシカル・ビジネスによる社会貢献』筑摩書房
(11) 小川明子『ケアする声のメディア：ホスピタルラジオという希望』青弓社
(12) 石山恒貴・編著『サードプレイスを生み出す17のストーリー：ゆるい場をつくる人々』学芸出版社
(13) 加藤文俊『キャンプ論：あたらしいフィールドワーク』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40 %
[評価基準] 対話イベントの企画・運営への参画度を総合的に評価
(2) プレゼンテーション実施 : 30 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
(3) ブログ記事執筆 : 30 %
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどネットワークを積極的に活用します。
(2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
(2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
(3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
(4) 長岡ゼミのX（旧ツイッター）
<https://twitter.com/tnlabmelc>
(5) 長岡ゼミのインスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmelc/>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
(2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
(3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (40%), presentation about field works (30%), and academic essays (30%).

演習6

長岡 健

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力を身につける様々な学習活動に取り組みます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。ゼミ生同士で協力しながら、様々な参加型・体験型の学習を行います。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

また、ゼミ活動を通じて、一人ひとりが関心あるテーマを見つけることも、重要な活動です。そのために、大学キャンパスを飛び出し、社会で行われている様々な活動を体験するフィールドワーク（＝越境活動）にも挑戦します。長岡ゼミでは「ビジネス&マネジメント」に関連したテーマだけでなく、「人々の豊かで楽しい暮らし」全般を視野に置いています。具体的には、以下に挙げるような「仕事一辺倒ではないライフスタイル」「新しい家族の在り方」「居心地のいい仕事場」など、いわゆるワーク・イン・ライフと呼ばれるテーマに関わる多様な分野にフィールドワークを行います。そして、社会人や他大学生とも積極的に協働することを通じて、「豊かで楽しい暮らし」について考えながら、自分にとって関心あるテーマを探索します。

（0）ワーク・イン・ライフ関連：仕事と人生のより良い関係を探る

【テーマ例】パラレルキャリア；内発的動機付け；成長的能力観；心理的安全性；ジョブクラフティング

（1）ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らす

【テーマ例】多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

（2）ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現する

【テーマ例】共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

（3）コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくる

【テーマ例】まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

（4）ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくる

【テーマ例】ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；アクティブラーニング；プロジェクト型学習

【到達目標】

- （1）主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- （2）多様な人々との積極的な交流を実践する
- （3）社会に情報発信するリテラシーを身につける
- （4）試行錯誤型の活動スタイルを実践する
- （5）アウトプット型の学習スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）」の場ではなく、「知的トレーニングの場」とあるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、以下の（1）～（8）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- （1）ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- （2）ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- （3）読書会
- （4）フィールドワーク
- （5）対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- （6）ラジオ（ポッドキャスト）番組の制作
- （7）ブログ記事・フリーペーパーの制作
- （8）プレゼンテーション

活動（1）～（8）については、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	読書会	『みんなのアンラーニング論』の読書会を実施する
第3回	WEB マガジンの制作	WEB マガジン『妄想紙』の記事を執筆する
第4回	対話イベントの準備	第5回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第5回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第6回	対話イベントの省察	第5回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第7回	フィールドワーク	路上観察の体験学習を実施する
第8回	対話イベントの準備	第9回授業で開催する対話イベントの企画会議を実施する
第9回	対話イベントの実施	対話イベント「カフェゼミ」を開催する
第10回	対話イベントの省察	第9回授業で開催した対話イベントの振り返りを行う
第11回	3年生の活動報告	3年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第12回	2年生の活動報告	2年生が行った越境活動について発表し、全員で議論する
第13回	WEB マガジンの制作	WEB マガジン『妄想紙』の記事を執筆する
第14回	ラップアップ	今学期の学習活動に関する振り返りワークショップを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

（1）対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

（2）越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

（3）マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- （1）上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- （2）長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社
- （3）上平崇仁『コ・デザイン：デザインすることをみんなの手に』NTT出版

【参考書】

- （4）横石崇（編）『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- （5）D. ピンク『フリーエージェンツ社会の到来 [新装版]：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- （6）リンダ・グラットン『ワークシフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- （7）仲山進也『組織のネコ』という働き方』翔泳社
- （8）平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- （9）平野翔太『ポストイクメンの男性育児：妊娠初期から始まる育業のススメ』中公新書
- （10）白木夏子『ファッションの仕事で世界を変える：エシカル・ビジネスによる社会貢献』筑摩書房

- (11) 小川明子『ケアする声のメディア：ホスピタルラジオという希望』青弓社
(12) 石山恒貴・編著『サードプレイスを生み出す17のストーリー：ゆるい場をつくる人々』学芸出版社
(13) 加藤文俊『キャンプ論：あたらしいフィールドワーク』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40 %
[評価基準] 対話イベントの企画・運営への参画度を総合的に評価
(2) プレゼンテーション実施 : 30 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
(3) ブログ記事執筆 : 30 %
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどを積極的に活用します。
(2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていこうと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探索する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
(2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
(3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
(4) 長岡ゼミのX（旧ツイッター）
<https://twitter.com/tnlabmelc>
(5) 長岡ゼミのインスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmelc/>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
(2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
(3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (40%), presentation about field works (30%), and academic essays (30%).

演習 1

新倉 貴士

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
- ②マーケティングリサーチの基礎知識の獲得を目指します。
- ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面により実施する予定です。グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
2	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
3	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
4	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
5	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
6	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
7	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
10	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

11 グループ活動②-3

既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

12 グループ活動②-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

13 グループ活動②-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

14 春学期最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、6時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年
- ②田中洋編著、『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣、2023年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、最終プレゼンテーション（50%）、ショートレポート（25%）、ゼミでの貢献度（25%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn marketing research method.

-To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

新倉 貴士

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
- ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
- ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。
- ②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
- ③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面により実施する予定です。

グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
第2回	グループ活動③-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第3回	グループ活動③-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第4回	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第5回	グループ活動③-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第6回	グループ活動③-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第7回	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第8回	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第9回	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第10回	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

第11回 グループ活動④-3

既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第12回 グループ活動④-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第13回 グループ活動④-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第14回 秋学期最終報告会

グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年
- ②田中洋編著、『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣、2023年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、最終プレゼンテーション（50%）、ショートレポート（25%）、ゼミでの貢献度（25%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn marketing research method.

-To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%

演習3

新倉 貴士

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面により実施する予定です。グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
2	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
3	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
4	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
5	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
6	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
7	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
10	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

11 グループ活動②-3

既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

12 グループ活動②-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

13 グループ活動②-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

14 春学期最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年
- ②田中洋編著、『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣、2023年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、最終プレゼンテーション（50%）、ショートレポート（25%）、ゼミでの貢献度（25%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing research method.
- To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

新倉 貴士

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。
②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面により実施する予定です。
グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
第2回	グループ活動③-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第3回	グループ活動③-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第4回	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第5回	グループ活動③-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第6回	グループ活動③-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第7回	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第8回	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第9回	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第10回	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

第11回	グループ活動④-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第12回	グループ活動④-4	仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第13回	グループ活動④-5	仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第14回	秋学期最終報告会	グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年
- ②田中洋編著、『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣、2023年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、最終プレゼンテーション（50%）、ショートレポート（25%）、ゼミでの貢献度（25%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマのスケジューリングを調整して進める予定です。
協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。
3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。
「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn marketing research method.

-To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%

演習5

新倉 貴士

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面により実施する予定です。グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
2	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
3	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
4	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
5	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
6	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
7	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
10	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

11 グループ活動②-3

既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

12 グループ活動②-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

13 グループ活動②-5

14 春学期最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年
- ②田中洋編著、『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣、2023年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、最終プレゼンテーション（50%）、ショートレポート（25%）、ゼミでの貢献度（25%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing research method.
- To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate marketing plans. Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end presentation: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

新倉 貴士

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。
②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面により実施する予定です。
グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
第2回	グループ活動③-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第3回	グループ活動③-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第4回	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第5回	グループ活動③-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第6回	グループ活動③-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第7回	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第8回	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第9回	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第10回	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

第11回 グループ活動④-3

既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第12回 グループ活動④-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第13回 グループ活動④-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第14回 秋学期最終報告会

グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年
- ②田中洋編著、『デジタル時代のブランド戦略』、有斐閣、2023年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、最終プレゼンテーション（50%）、ショートレポート（25%）、ゼミでの貢献度（25%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマのスケジューリングを調整して進める予定です。
協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。
3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。
「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn marketing research method.

-To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate marketing plans.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

二階堂 行宣

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
- ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
- ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
- ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

- ・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
- ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
- ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
- ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
- ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
- ・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
- ・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
- ・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
- ・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。
- ・報告等に対するコメントやフィードバックについては、基本的には、教室内にて担当教員よりお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第2回	導入①	参加者の自己紹介を行う。
第3回	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
第4回	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
第5回	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち1人～2人目が担当する。
第6回	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち3人～4人目が担当する。
第7回	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち5人～6人目が担当する。
第8回	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち7人～8人目が担当する。
第9回	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち9人～10人目が担当する。
第10回	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち11人目以降が担当する。

第11回	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第12回	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第13回	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第14回	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
- ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
- ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
- ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

- ・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
- ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
- ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
- ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
- ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

- ・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
- ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

- ・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

- ・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

- ・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

演習2

二階堂 行宣

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
- ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
- ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
- ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

- ・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
- ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
- ・社会科学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
- ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視角から分析し、理解する能力を養う。
- ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
- ・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
- ・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視角から対象を分析するように心がけてください。
- ・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
- ・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視角、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
- ・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
- ・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。
- ・卒業論文の進捗状況の確認や、研究に対するアドバイス等は、毎回の授業において、個別に時間を設けて対応します。そのため、参加者は授業に参加するにあたり、毎週の進捗を報告することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第2回	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第3回	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第4回	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第5回	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。
第6回	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち1人～2人目が担当する。

第7回	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち3人～4人目が担当する。
第8回	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち5人～6人目が担当する。
第9回	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち7人～8人目が担当する。
第10回	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち9人目以降が担当する。
第11回	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第12回	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第13回	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第14回	最終報告④	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
- ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
- ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
- ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

- ・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
- ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
- ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
- ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
- ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

- ・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
- ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

- ・This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.
- ・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

- ・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

演習3

二階堂 行宣

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
- ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
- ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
- ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

- ・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
- ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
- ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
- ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
- ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
- ・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
- ・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
- ・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
- ・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。
- ・報告等に対するコメントやフィードバックについては、基本的には、教室内にて担当教員よりお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第2回	導入①	参加者の自己紹介を行う。
第3回	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
第4回	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
第5回	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち1人～2人目が担当する。
第6回	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち3人～4人目が担当する。
第7回	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち5人～6人目が担当する。
第8回	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち7人～8人目が担当する。
第9回	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち9人～10人目が担当する。
第10回	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち11人目以降が担当する。

第11回	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第12回	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第13回	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第14回	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
- ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
- ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
- ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

- ・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
- ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
- ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
- ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
- ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

- ・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
- ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

- ・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.
- ・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

- ・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

演習4

二階堂 行宣

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
- ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
- ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
- ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

- ・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
- ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
- ・社会科学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
- ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視角から分析し、理解する能力を養う。
- ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
- ・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
- ・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視角から対象を分析するように心がけてください。
- ・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
- ・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視角、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
- ・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
- ・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。
- ・卒業論文の進捗状況の確認や、研究に対するアドバイス等は、毎回の授業において、個別に時間を設けて対応します。そのため、参加者は授業に参加するにあたり、毎週の進捗を報告することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第2回	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第3回	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第4回	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第5回	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。
第6回	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち1人～2人目が担当する。

第7回	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち3人～4人目が担当する。
第8回	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち5人～6人目が担当する。
第9回	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち7人～8人目が担当する。
第10回	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち9人目以降が担当する。
第11回	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第12回	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第13回	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第14回	最終報告④	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
- ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
- ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
- ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

- ・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
- ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
- ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
- ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
- ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

- ・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
- ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

- ・This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.
- ・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

二階堂 行宣

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
- ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
- ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
- ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

- ・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
- ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
- ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
- ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
- ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
- ・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
- ・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
- ・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
- ・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。
- ・報告等に対するコメントやフィードバックについては、基本的には、教室内にて担当教員よりお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第2回	導入①	参加者の自己紹介を行う。
第3回	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
第4回	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
第5回	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち1人～2人目が担当する。
第6回	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち3人～4人目が担当する。
第7回	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち5人～6人目が担当する。
第8回	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち7人～8人目が担当する。
第9回	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち9人～10人目が担当する。
第10回	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。参加者のうち11人目以降が担当する。

第11回	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第12回	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第13回	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第14回	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
- ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
- ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
- ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

- ・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
- ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
- ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
- ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
- ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

- ・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
- ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

- ・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

- ・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

- ・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

演習6

二階堂 行宣

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
- ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
- ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
- ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

- ・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
- ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
- ・社会科学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
- ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視角から分析し、理解する能力を養う。
- ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
- ・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
- ・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視角から対象を分析するように心がけてください。
- ・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
- ・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視角、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
- ・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
- ・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。
- ・卒業論文の進捗状況の確認や、研究に対するアドバイス等は、毎回の授業において、個別に時間を設けて対応します。そのため、参加者は授業に参加するにあたり、毎週の進捗を報告することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第2回	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第3回	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第4回	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第5回	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。
第6回	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち1人～2人目が担当する。

第7回	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち3人～4人目が担当する。
第8回	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち5人～6人目が担当する。
第9回	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち7人～8人目が担当する。
第10回	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。参加者のうち9人目以降が担当する。
第11回	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち1人～3人目が担当する。
第12回	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち4人～6人目が担当する。
第13回	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち7人～9人目が担当する。
第14回	最終報告④	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。参加者のうち10人目以降が担当する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
- ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
- ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
- ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

- ・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
- ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
- ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
- ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
- ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

- ・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
- ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

- ・This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.
- ・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

- ・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

西川 英彦

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、『楽しい』をカタチにする実践的マーケティングである。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1では、主には3つのプロジェクトを実施する。

- ①2-3年生による、宣伝会議主催の「販促コンペ」に応募。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

質問は、授業中あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 販促コンペ①、カンファレンス発表①、プロジェクト開始	演習概要 カンファレンス研究のリサーチプロポーザル報告 販促コンペのチーム分け
第2回	販促コンペ②	販促コンペの中間報告
第3回	カンファレンス②	カンファレンス研究の第1回中間報告
第4回	販促コンペ③	販促コンペの最終報告
第5回	カンファレンス③	カンファレンス研究の第2回中間報告
第6回	Sカレ①	Sカレの第1回中間報告
第7回	カンファレンス④	カンファレンス研究の第3回中間報告
第8回	Sカレ②	Sカレの第2回中間報告
第9回	カンファレンス⑤	カンファレンス研究の第4回中間報告
第10回	Sカレ③	Sカレの第3回中間報告
第11回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第12回	Sカレ	Sカレの中間報告
第13回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第14回	Sカレ	Sカレの中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン 『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』 早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦 『1からの消費者行動（第2版）』 碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 『R によるやさしい統計学』 オーム社、2008年。
- ④ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット 『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』 碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン 『ソロモン 消費者行動論』 丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷覚編著 『1からのデジタル・マーケティング』 碩学舎、2019年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%

演習活動への貢献50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

西川 英彦

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、『楽しい』をカタチにする実践的マーケティングである。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習2では、主には4つのプロジェクトを実施する。

- ①2年生による、無印良品に企画提案する「MUJI プロジェクト」の実施。
- ②3年生による、S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。
- ④4年生によるカンファレンス研究をもとにした「卒業論文」の執筆。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

質問は、授業中あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カンファレンス⑥	カンファレンス研究の最終報告
第2回	Sカレ④	Sカレの第4回中間報告
第3回	MUJI プロジェクト①	キックオフ
第4回	Sカレ⑤	Sカレの第5回中間報告
第5回	卒業論文①	卒業論文の第1回中間報告
第6回	MUJI プロジェクト②	MUJI プロジェクトの第1回中間報告
第7回	Sカレ⑥	Sカレの第6回中間報告
第8回	卒業論文②	卒業論文の第2回中間報告
第9回	MUJI プロジェクト③	MUJI プロジェクトの第2回中間報告
第10回	Sカレ⑦	Sカレの第7回最終報告
第11回	卒業論文③	卒業論文の第3回中間報告
第12回	MUJI プロジェクト④	MUJI プロジェクトの第3回中間報告
第13回	卒業論文④	卒業論文の第4回中間報告
第14回	MUJI プロジェクト⑤	MUJI プロジェクトの最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル バルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%
演習活動への貢献50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

西川 英彦

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、『楽しい』をカタチにする実践的マーケティングである。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1では、主には3つのプロジェクトを実施する。

- ①2-3年生による、宣伝会議主催の「販促コンペ」に応募。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

質問は、授業中あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 販促コンペ①、カンファ レンス発表①、プロジェ クト開始	演習概要 カンファレンス研究のリサーチプロ ポーザル報告 販促コンペのチーム分け
第2回	販促コンペ②	販促コンペの中間報告
第3回	カンファレンス②	カンファレンス研究の第1回中間報告
第4回	販促コンペ③	販促コンペの最終報告
第5回	カンファレンス③	カンファレンス研究の第2回中間報告
第6回	Sカレ①	Sカレの第1回中間報告
第7回	カンファレンス④	カンファレンス研究の第3回中間報告
第8回	Sカレ②	Sカレの第2回中間報告
第9回	カンファレンス⑤	カンファレンス研究の第4回中間報告
第10回	Sカレ③	Sカレの第3回中間報告
第11回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第12回	Sカレ	Sカレの中間報告
第13回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第14回	Sカレ	Sカレの中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン 『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』 早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦 『1からの消費者行動（第2版）』 碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 『R によるやさしい統計学』 オーム社、2008年。
- ④ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット 『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』 碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン 『ソロモン 消費者行動論』 丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷覚編著 『1からのデジタル・マーケティング』 碩学舎、2019年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%

演習活動への貢献50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

西川 英彦

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、『楽しい』をカタチにする実践的マーケティングである。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習2では、主には4つのプロジェクトを実施する。

- ①2年生による、無印良品に企画提案する「MUJI プロジェクト」の実施。
- ②3年生による、S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。
- ④4年生によるカンファレンス研究をもとにした「卒業論文」の執筆。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

質問は、授業中あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カンファレンス⑥	カンファレンス研究の最終報告
第2回	Sカレ④	Sカレの第4回中間報告
第3回	MUJI プロジェクト①	キックオフ
第4回	Sカレ⑤	Sカレの第5回中間報告
第5回	卒業論文①	卒業論文の第1回中間報告
第6回	MUJI プロジェクト②	MUJI プロジェクトの第1回中間報告
第7回	Sカレ⑥	Sカレの第6回中間報告
第8回	卒業論文②	卒業論文の第2回中間報告
第9回	MUJI プロジェクト③	MUJI プロジェクトの第2回中間報告
第10回	Sカレ⑦	Sカレの第7回最終報告
第11回	卒業論文③	卒業論文の第3回中間報告
第12回	MUJI プロジェクト④	MUJI プロジェクトの第3回中間報告
第13回	卒業論文④	卒業論文の第4回中間報告
第14回	MUJI プロジェクト⑤	MUJI プロジェクトの最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル バルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定量的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%
演習活動への貢献50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

西川 英彦

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、『楽しい』をカタチにする実践的マーケティングである。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1では、主には3つのプロジェクトを実施する。

- ①2-3年生による、宣伝会議主催の「販促コンペ」に応募。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

質問は、授業中あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 販促コンペ①、カンファレンス発表①、プロジェクト開始	演習概要 カンファレンス研究のリサーチプロポーザル報告 販促コンペのチーム分け
第2回	販促コンペ②	販促コンペの中間報告
第3回	カンファレンス②	カンファレンス研究の第1回中間報告
第4回	販促コンペ③	販促コンペの最終報告
第5回	カンファレンス③	カンファレンス研究の第2回中間報告
第6回	Sカレ①	Sカレの第1回中間報告
第7回	カンファレンス④	カンファレンス研究の第3回中間報告
第8回	Sカレ②	Sカレの第2回中間報告
第9回	カンファレンス⑤	カンファレンス研究の第4回中間報告
第10回	Sカレ③	Sカレの第3回中間報告
第11回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第12回	Sカレ	Sカレの中間報告
第13回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第14回	Sカレ	Sカレの中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%

演習活動への貢献50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

西川 英彦

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、『楽しい』をカタチにする実践的マーケティングである。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習2では、主には4つのプロジェクトを実施する。

- ①2年生による、無印良品に企画提案する「MUJI プロジェクト」の実施。
- ②3年生による、S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。
- ④4年生によるカンファレンス研究をもとにした「卒業論文」の執筆。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

質問は、授業中あるいは個別にメールで連絡ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カンファレンス⑥	カンファレンス研究の最終報告
第2回	Sカレ④	Sカレの第4回中間報告
第3回	MUJI プロジェクト①	キックオフ
第4回	Sカレ⑤	Sカレの第5回中間報告
第5回	卒業論文①	卒業論文の第1回中間報告
第6回	MUJI プロジェクト②	MUJI プロジェクトの第1回中間報告
第7回	Sカレ⑥	Sカレの第6回中間報告
第8回	卒業論文②	卒業論文の第2回中間報告
第9回	MUJI プロジェクト③	MUJI プロジェクトの第2回中間報告
第10回	Sカレ⑦	Sカレの第7回最終報告
第11回	卒業論文③	卒業論文の第3回中間報告
第12回	MUJI プロジェクト④	MUJI プロジェクトの第3回中間報告
第13回	卒業論文④	卒業論文の第4回中間報告
第14回	MUJI プロジェクト⑤	MUJI プロジェクトの最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル バルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%
演習活動への貢献50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

西川 真規子

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性が高まる現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し、収集したデータを分析・解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、ゼミの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法についても学習を進めます。さらに、ディベート等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。授業内での発表や課題に対して都度口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
第2回	テキスト研究 1 卒論研究 1	今後の授業の進め方 卒論のテーマを決定
第3回	テキスト研究 2 卒論研究 2	テキスト発表の仕方 卒論のテーマを決定
第4回	テキスト研究 3 文献調査の方法 1	テキストの議論の仕方 先行研究の探索・検討
第5回	テキスト研究 4 卒論研究 3	①科学の考え方 先行研究の探索・検討
第6回	テキスト研究 5 卒論研究 4	②人格論の誤謬 先行文献の探索・検討
第7回	テキスト研究 6 文献調査の方法 2	③主体再考 先行文献と研究上の問い
第8回	テキスト研究 7 卒論研究 5	④心理現象の社会性 研究上の問の設定
第9回	ディベート テキスト研究 8	全員でディベートテーマを決め、 ディベートを実施
第10回	テキスト研究 9 卒論研究 6	⑤心理学のジレンマ 先行研究のまとめ
第11回	テキスト研究 10 卒論研究 7	テキスト小括 先行研究をふまえ、仮説・課題の設定へ
第12回	中間発表準備 1 卒論研究 8	2,3年はこれまでテキストで扱った テーマや、ディスカッションの内容 をもとにグループプロジェクトを開始/4年は先行研究をふまえ、仮説・ 課題の設定へ
第13回	中間発表準備 2 卒論研究 9	2,3年はグループプロジェクトを実施 /4年は研究仮説・課題とその検証方 法を検討
第14回	中間発表準備 3 卒論研究 10	2,3年はグループプロジェクトを実施 /4年は研究仮説・課題とその検証方 法を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小坂井敏晶、『社会心理学講義-閉ざされた社会> とく 開かれた社会> 』、2021年、筑摩選書、ISBN978-4-480-01576-1

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019年
各学生の必要に応じてその他の参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年:発表・議論等への参加を含む平常点30%、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解30%、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献40%

4年:発表・議論等への参加を含む平常点20%、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮30%、卒業論文の報告・提出50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

西川 真規子

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性が高まる現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッションを春学期に引き続き実施します。また、来年度の卒論研究に向けてテーマを探索、決定します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。卒論研究を通じて、文献調査や社会調査の方法、データ分析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、課外授業等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。授業内での発表や課題に対して都度口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間発表	2,3年はグループプロジェクト発表/4年卒論中間発表
第2回	テキスト研究1 1 卒論研究1 1	⑥認知不協和理論の人間像 調査方法の確定
第3回	テキスト研究1 2 卒論研究1 2	⑦認知不協和理論の射程 調査方法の確定
第4回	テキスト研究1 3 卒論研究1 3	⑧自由と支配 調査の実施
第5回	テキスト研究1 4 卒論研究1 4	⑨影響理論の歴史 調査の実施
第6回	テキスト研究1 5 卒論研究1 5	⑩少数派の力 調査の実施
第7回	テキスト研究1 6 卒論研究1 6	⑪変化の認識論 調査の実施
第8回	テキスト研究1 7 卒論研究1 7	⑫同一性と変化の矛盾 調査結果の分析
第9回	課外学習	課外学習を実施
第10回	テキスト研究1 8 卒論研究1 8	⑬日本の西洋化 調査結果の分析
第11回	テキスト研究1 9 卒論研究1 9	⑭時間と社会 分析結果のまとめ
第12回	テキスト研究2 0 卒論研究2 0	テキストまとめ 論文執筆
第13回	最終発表会の準備	テキスト発表・議論 論文執筆
第14回	卒論発表会 プロポーザル発表会	4年は卒論の最終成果を発表／3年は来年度の卒論研究プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小坂井敏晶、『社会心理学講義-＜閉ざされた社会＞と＜開かれた社会＞』、2021年、筑摩選書、ISBN978-4-480-01576-1

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019年
各学生の必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年:発表・議論等への参加を含む平常点30%、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解30%、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献40%

4年:発表・議論等への参加を含む平常点20%、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮30%、卒業論文の報告・提出50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布と共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方向型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

西川 真規子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性が高まる現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し、収集したデータを分析・解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、ゼミの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法についても学習を進めます。さらに、ディベート等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。授業内での発表や課題に対して都度口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
第2回	テキスト研究1 卒論研究1	今後の授業の進め方 卒論のテーマを決定
第3回	テキスト研究2 卒論研究2	テキスト発表の仕方 卒論のテーマを決定
第4回	テキスト研究3 文献調査の方法1	テキストの議論の仕方 先行研究の探索・検討
第5回	テキスト研究4 卒論研究3	①科学の考え方 先行研究の探索・検討
第6回	テキスト研究5 卒論研究4	②人格論の誤謬 先行文献の探索・検討
第7回	テキスト研究6 文献調査の方法2	③主体再考 先行文献と研究上の問
第8回	テキスト研究7 卒論研究5	④心理現象の社会性 研究上の問の設定
第9回	ディベート テキスト研究8	全員でディベートテーマを決め、 ディベートを実施
第10回	テキスト研究9 卒論研究6	⑤心理学のジレンマ 先行研究のまとめ
第11回	テキスト研究10 卒論研究7	テキスト小括 先行研究をふまえ、仮説・課題の設定へ
第12回	中間発表準備1 卒論研究8	2,3年はこれまでテキストで扱った テーマや、ディスカッションの内容 をもとにグループプロジェクトを開始/4年は先行研究をふまえ、仮説・ 課題の設定へ
第13回	中間発表準備2 卒論研究9	2,3年はグループプロジェクトを実施 /4年は研究仮説・課題とその検証方 法を検討
第14回	中間発表準備3 卒論研究10	2,3年はグループプロジェクトを実施 /4年は研究仮説・課題とその検証方 法を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小坂井敏晶、『社会心理学講義-く 閉ざされた社会> とく 開かれた社会> 』、2021年、筑摩選書、ISBN978-4-480-01576-1

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019年
各学生の必要に応じてその他の参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年:発表・議論等への参加を含む平常点30%、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解30%、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献40%

4年:発表・議論等への参加を含む平常点20%、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮30%、卒業論文の報告・提出50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

西川 真規子

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性が高まる現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッションを春学期に引き続き実施します。また、来年度の卒論研究に向けてテーマを探索、決定します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。卒論研究を通じて、文献調査や社会調査の方法、データ分析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、課外授業等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。授業内での発表や課題に対して都度口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間発表	2,3年はグループプロジェクト発表/4年卒論中間発表
第2回	テキスト研究1 1 卒論研究1 1	⑥認知不協和理論の人間像 調査方法の確定
第3回	テキスト研究1 2 卒論研究1 2	⑦認知不協和理論の射程 調査方法の確定
第4回	テキスト研究1 3 卒論研究1 3	⑧自由と支配 調査の実施
第5回	テキスト研究1 4 卒論研究1 4	⑨影響理論の歴史 調査の実施
第6回	テキスト研究1 5 卒論研究1 5	⑩少数派の力 調査の実施
第7回	テキスト研究1 6 卒論研究1 6	⑪変化の認識論 調査の実施
第8回	テキスト研究1 7 卒論研究1 7	⑫同一性と変化の矛盾 調査結果の分析
第9回	課外学習	課外学習を実施
第10回	テキスト研究1 8 卒論研究1 8	⑬日本の西洋化 調査結果の分析
第11回	テキスト研究1 9 卒論研究1 9	⑭時間と社会 分析結果のまとめ
第12回	テキスト研究2 0 卒論研究2 0	テキストまとめ 論文執筆
第13回	最終発表会の準備	テキスト発表・議論 論文執筆
第14回	卒論発表会 プロポーザル発表会	4年は卒論の最終成果を発表／3年は来年度の卒論研究プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小坂井敏晶、『社会心理学講義-＜閉ざされた社会＞と＜開かれた社会＞』、2021年、筑摩選書、ISBN978-4-480-01576-1

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019年
各学生の必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年:発表・議論等への参加を含む平常点30%、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解30%、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献40%

4年:発表・議論等への参加を含む平常点20%、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮30%、卒業論文の報告・提出50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布と共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方向型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

西川 真規子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性が高まる現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し、収集したデータを分析・解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、ゼミの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法についても学習を進めます。さらに、ディベート等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。授業内での発表や課題に対して都度口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
第2回	テキスト研究1 卒論研究1	今後の授業の進め方 卒論のテーマを決定
第3回	テキスト研究2 卒論研究2	テキスト発表の仕方 卒論のテーマを決定
第4回	テキスト研究3 文献調査の方法1	テキストの議論の仕方 先行研究の探索・検討
第5回	テキスト研究4 卒論研究3	①科学の考え方 先行研究の探索・検討
第6回	テキスト研究5 卒論研究4	②人格論の誤謬 先行文献の探索・検討
第7回	テキスト研究6 文献調査の方法2	③主体再考 先行文献と研究上の問
第8回	テキスト研究7 卒論研究5	④心理現象の社会性 研究上の問の設定
第9回	ディベート テキスト研究8	全員でディベートテーマを決め、 ディベートを実施
第10回	テキスト研究9 卒論研究6	⑤心理学のジレンマ 先行研究のまとめ
第11回	テキスト研究10 卒論研究7	テキスト小括 先行研究をふまえ、仮説・課題の設定へ
第12回	中間発表準備1 卒論研究8	2,3年はこれまでテキストで扱った テーマや、ディスカッションの内容 をもとにグループプロジェクトを開始/4年は先行研究をふまえ、仮説・ 課題の設定へ
第13回	中間発表準備2 卒論研究9	2,3年はグループプロジェクトを実施 /4年は研究仮説・課題とその検証方 法を検討
第14回	中間発表準備3 卒論研究10	2,3年はグループプロジェクトを実施 /4年は研究仮説・課題とその検証方 法を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小坂井敏晶、『社会心理学講義-く 閉ざされた社会> とく 開かれた社会> 』、2021年、筑摩選書、ISBN978-4-480-01576-1

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019年
各学生の必要に応じてその他の参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年:発表・議論等への参加を含む平常点30%、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解30%、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献40%

4年:発表・議論等への参加を含む平常点20%、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮30%、卒業論文の報告・提出50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

西川 真規子

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性が高まる現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッションを春学期に引き続き実施します。また、来年度の卒論研究に向けてテーマを探索、決定します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。卒論研究を通じて、文献調査や社会調査の方法、データ分析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、課外授業等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。授業内での発表や課題に対して都度口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間発表	2,3年はグループプロジェクト発表/4年卒論中間発表
第2回	テキスト研究1 1 卒論研究1 1	⑥認知不協和理論の人間像 調査方法の確定
第3回	テキスト研究1 2 卒論研究1 2	⑦認知不協和理論の射程 調査方法の確定
第4回	テキスト研究1 3 卒論研究1 3	⑧自由と支配 調査の実施
第5回	テキスト研究1 4 卒論研究1 4	⑨影響理論の歴史 調査の実施
第6回	テキスト研究1 5 卒論研究1 5	⑩少数派の力 調査の実施
第7回	テキスト研究1 6 卒論研究1 6	⑪変化の認識論 調査の実施
第8回	テキスト研究1 7 卒論研究1 7	⑫同一性と変化の矛盾 調査結果の分析
第9回	課外学習	課外学習を実施
第10回	テキスト研究1 8 卒論研究1 8	⑬日本の西洋化 調査結果の分析
第11回	テキスト研究1 9 卒論研究1 9	⑭時間と社会 分析結果のまとめ
第12回	テキスト研究2 0 卒論研究2 0	テキストまとめ 論文執筆
第13回	最終発表会の準備	テキスト発表・議論 論文執筆
第14回	卒論発表会 プロポーザル発表会	4年は卒論の最終成果を発表／3年は来年度の卒論研究プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小坂井敏晶、『社会心理学講義-＜閉ざされた社会＞と＜開かれた社会＞』、2021年、筑摩選書、ISBN978-4-480-01576-1

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019年
各学生の必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年:発表・議論等への参加を含む平常点30%、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解30%、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献40%

4年:発表・議論等への参加を含む平常点20%、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮30%、卒業論文の報告・提出50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布と共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方向型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

入戸野 健

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析を大枠としてのテーマとする。その中で、各々が興味を持った事例や分野において輪読や研究活動を行えるようになることを目的とする。論理的な思考を行う能力や質疑・ディスカッションを通じた情報・意見の交換を行うコミュニケーション能力を身につけることが重要となるため、毎回の授業ではそれらの向上を目指した演習(ゼミ活動)を行う。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

授業は原則として対面で行うが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがある。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
第2回	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
第3回	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
第4回	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
第5回	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外観する。
第6回	インターネット広告	Googleの検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
第7回	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
第8回	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
第9回	人工知能(AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
第10回	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
第11回	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
第12回	事例研究	Google, Amazon等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
第13回	プロジェクト活動	グループ単位でテーマを持ち、調査研究を行い報告する。
第14回	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視(70%)する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出(30%)してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノートPCを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門Ⅰ/Ⅱ

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short repots along current topics (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

入戸野 健

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析を大枠としてのテーマとする。その中で、各々が興味を持った事例や分野において輪読や研究活動を行えるようになることを目的とする。論理的な思考を行う能力や質疑・ディスカッションを通じた情報・意見の交換を行うコミュニケーション能力を身につけることが重要となるため、毎回の授業ではそれらの向上を目指した演習(ゼミ活動)を行う。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

授業は原則として対面で行うが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがある。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
第2回	研究テーマの検討	4年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
第3回	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
第4回	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
第5回	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
第6回	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
第7回	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
第8回	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
第9回	プログラム開発環境	主に3年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
第10回	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
第11回	HTMLとコンテンツ表現	Webサイトのコンテンツの表現方法を身につける。
第12回	Webサーバ構築	Webサーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
第13回	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
第14回	卒業研究発表	4年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視(70%)する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出(30%)してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノートPCを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門Ⅰ/Ⅱ

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short repots along current topics (30%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

入戸野 健

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析を大枠としてのテーマとする。その中で、各々が興味を持った事例や分野において輪読や研究活動を行えるようになることを目的とする。論理的な思考を行う能力や質疑・ディスカッションを通じた情報・意見の交換を行うコミュニケーション能力を身につけることが重要となるため、毎回の授業ではそれらの向上を目指した演習(ゼミ活動)を行う。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

授業は原則として対面で行うが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがある。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
第2回	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
第3回	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
第4回	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
第5回	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外観する。
第6回	インターネット広告	Googleの検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
第7回	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
第8回	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
第9回	人工知能(AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
第10回	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
第11回	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
第12回	事例研究	Google, Amazon等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
第13回	プロジェクト活動	グループ単位でテーマを持ち、調査研究を行い報告する。
第14回	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視(70%)する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出(30%)してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノートPCを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門Ⅰ/Ⅱ

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short repots along current topics (30%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

入戸野 健

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析を大枠としてのテーマとする。その中で、各々が興味を持った事例や分野において輪読や研究活動を行えるようになることを目的とする。論理的な思考を行う能力や質疑・ディスカッションを通じた情報・意見の交換を行うコミュニケーション能力を身につけることが重要となるため、毎回の授業ではそれらの向上を目指した演習(ゼミ活動)を行う。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

授業は原則として対面で行うが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがある。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
第2回	研究テーマの検討	4年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
第3回	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
第4回	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
第5回	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
第6回	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
第7回	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
第8回	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
第9回	プログラム開発環境	主に3年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
第10回	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
第11回	HTMLとコンテンツ表現	Webサイトのコンテンツの表現方法を身につける。
第12回	Webサーバ構築	Webサーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
第13回	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
第14回	卒業研究発表	4年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視(70%)する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出(30%)してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノートPCを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門Ⅰ/Ⅱ

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short repots along current topics (30%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

入戸野 健

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析を大枠としてのテーマとする。その中で、各々が興味を持った事例や分野において輪読や研究活動を行えるようになることを目的とする。論理的な思考を行う能力や質疑・ディスカッションを通じた情報・意見の交換を行うコミュニケーション能力を身につけることが重要となるため、毎回の授業ではそれらの向上を目指した演習(ゼミ活動)を行う。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

授業は原則として対面で行うが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがある。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
第2回	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
第3回	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
第4回	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
第5回	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外観する。
第6回	インターネット広告	Googleの検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
第7回	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
第8回	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
第9回	人工知能(AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
第10回	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
第11回	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
第12回	事例研究	Google, Amazon等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
第13回	プロジェクト活動	グループ単位でテーマを持ち、調査研究を行い報告する。
第14回	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視(70%)する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出(30%)してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノートPCを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門Ⅰ/Ⅱ

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short repots along current topics (30%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

入戸野 健

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析を大枠としてのテーマとする。その中で、各々が興味を持った事例や分野において輪読や研究活動を行えるようになることを目的とする。論理的な思考を行う能力や質疑・ディスカッションを通じた情報・意見の交換を行うコミュニケーション能力を身につけることが重要となるため、毎回の授業ではそれらの向上を目指した演習(ゼミ活動)を行う。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

授業は原則として対面で行うが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがある。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
第2回	研究テーマの検討	4年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
第3回	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
第4回	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
第5回	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
第6回	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
第7回	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
第8回	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
第9回	プログラム開発環境	主に3年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
第10回	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
第11回	HTMLとコンテンツ表現	Webサイトのコンテンツの表現方法を身につける。
第12回	Webサーバ構築	Webサーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
第13回	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
第14回	卒業研究発表	4年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視(70%)する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出(30%)してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノートPCを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門Ⅰ/Ⅱ

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short repots along current topics (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

長谷川 翔平

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品Aを買った人は次に商品Bを買う傾向が多いと分かれば、商品Aを買った人に商品Bを推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。1回の授業では報告担当となったグループに、(1)テキスト内容の報告、(2)関連する学術論文の調査・報告、(3)データ収集と統計解析ソフトRを使った分析を行ってもらい。報告後には教員からフィードバックを行う。春学期の後半からはテキストの輪読と並行して、データ分析コンテストの参加準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	テキスト1・2章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
第3回	テキスト3章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
第4回	テキスト4章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
第5回	テキスト5章：市場反応分析(I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
第6回	テキスト6章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
第7回	テキスト7章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
第8回	テキスト8章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
第9回	テキスト9章：新製品の普及	パスモデルによる新製品普及構造の理解
第10回	テキスト10章：顧客の管理	RMF分析による顧客管理
第11回	テキスト11章：市場反応分析(II)	離散選択モデルによる購買予測
第12回	テキスト12章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解

第13回	テキスト13章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
第14回	テキスト14章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
- ・報告担当者は発表資料を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ 新版』有斐閣（2022）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・ウィラワ・勝又『Rによるマーケティング・データ分析』（2023）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『RユーザーのためのRStudio「実践」入門（改訂2版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100％）

4年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

分析コンテストや卒論での学生の研究・報告スケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフトRで簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA帰国生および転編入学生の募集は4月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・マーケティング論
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.

(Learning activities outside of classroom)

Students prepare the textbook and presentation materials for class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

演習2

長谷川 翔平

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品Aを買った人は次に商品Bを買う傾向が多いと分かれば、商品Aを買った人に商品Bを推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読】

輪読する教科書は受講生の関心に応じて授業内で決定する。報告グループは、教科書内容、関連する学術論文、データ分析例の報告を行う。報告後には教員からフィードバックを行う。

【外部のデータ分析コンテストに参加】

企業や学会などが開催するマーケティングデータの分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」と日本マーケティング・サイエンス学会の「JIMS インタラクティブ・セッション」（ポスター発表）に参加した。

【卒業研究】

設定した研究テーマについてデータを収集・分析し、その結果を報告する。テーマ例として近年の卒業生の卒論テーマを記載する。

- ・キャラクターに対する心理的評価の差異がキャラクターコラボレーション商品に対する購買意欲に及ぼす影響
- ・キャラクターグッズ購買行動に影響を与える心理的要因分析
- ・コレクション行動にみる現代消費者心理
- ・動画コンテンツと広告の再生速度による広告効果の違い
- ・スポーツ選手のスポンサー契約がブランド態度と購買意欲に与える影響
- ・クロイアルティの調整効果を考慮したテレビ広告の内部・外部効果測定
- ・フィットネスジムの月額料金ごとの消費者の価値観の差

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読：機械学習の目的・データ・手法	機械学習の目的と利用するデータ・手法（秋学期教科書は受講生の関心に応じて後日決めるため授業計画の1～4回は昨年度教科書「ゼロからは始めるデータ・サイエンス入門（辻・矢吹，2021・講談社）」のもの）
第2回	輪読：回帰	単回帰・重回帰分析
第3回	輪読：分類	多値分類・2値分類
第4回	輪読：深層学習	ニューラルネットワークとディープラーニング
第5回	データ分析コンテスト	分析テーマ，研究計画の発表 ：研究計画

第6回	データ分析コンテスト ：データ収集	利用データや分析手法の報告
第7回	データ分析コンテスト ：分析結果	データ分析の途中報告
第8回	データ分析コンテスト ：結果考察	データ分析結果とその考察の報告
第9回	データ分析コンテスト ：最終報告	分析結果の最終報告
第10回	卒業研究：研究計画	卒業研究テーマの研究背景や目的，研究計画の発表
第11回	卒業研究：データ収集	データ収集方法や利用データの報告
第12回	卒業研究：分析結果	データ分析の途中報告
第13回	卒業研究：結果考察	データ分析結果とその考察の報告
第14回	卒業研究：最終報告	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自でデータ収集から分析，結果考察を行い，発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の関心に応じて決定する。以下は近年の授業で扱ったテキスト。

- ・辻・矢吹『ゼロからは始めるデータ・サイエンス入門』講談社（2021）
- ・石田『Rによるテキストマイニング入門（第2版）』森北出版（2017）
- ・安井『効果検証入門』技術評論社（2020）
- ・馬場『時系列分析と状態空間モデルの基礎』ブレアデス出版（2018）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・ウィラワン・勝又『Rによるマーケティング・データ分析』（2023）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『RユーザーのためのRStudio「実践」入門（改訂2版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100％）

4年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

分析コンテストや卒論での学生の研究・報告スケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフトRで簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA帰国生および転編入学生の募集は4月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・マーケティング論
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.

(Learning activities outside of classroom)

Students prepare the textbook and presentation materials for class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

長谷川 翔平

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品Aを買った人は次に商品Bを買う傾向が多いと分かれば、商品Aを買った人に商品Bを推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。1回の授業では報告担当となったグループに、(1)テキスト内容の報告、(2)関連する学術論文の調査・報告、(3)データ収集と統計解析ソフトRを使った分析を行ってもらい。報告後には教員からフィードバックを行う。春学期の後半からはテキストの輪読と並行して、データ分析コンテストの参加準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	テキスト1・2章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
第3回	テキスト3章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
第4回	テキスト4章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
第5回	テキスト5章：市場反応分析(I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
第6回	テキスト6章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
第7回	テキスト7章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
第8回	テキスト8章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
第9回	テキスト9章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
第10回	テキスト10章：顧客の管理	RMF分析による顧客管理
第11回	テキスト11章：市場反応分析(II)	離散選択モデルによる購買予測
第12回	テキスト12章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解

第13回	テキスト13章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
第14回	テキスト14章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
- ・報告担当者は発表資料を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ 新版』有斐閣（2022）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・ウィラワン・勝又『Rによるマーケティング・データ分析』（2023）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『RユーザーのためのRStudio「実践」入門（改訂2版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100％）
4年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

分析コンテストや卒論での学生の研究・報告スケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフトRで簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA帰国生および転編入学生の募集は4月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・マーケティング論
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.

(Learning activities outside of classroom)

Students prepare the textbook and presentation materials for class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

演習4

長谷川 翔平

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品Aを買った人は次に商品Bを買う傾向が多いと分かれば、商品Aを買った人に商品Bを推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読】

輪読する教科書は受講生の関心に応じて授業内で決定する。報告グループは、教科書内容、関連する学術論文、データ分析例の報告を行う。報告後には教員からフィードバックを行う。

【外部のデータ分析コンテストに参加】

企業や学会などが開催するマーケティングデータの分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」と日本マーケティング・サイエンス学会の「JIMS インタラクティブ・セッション」（ポスター発表）に参加した。

【卒業研究】

設定した研究テーマについてデータを収集・分析し、その結果を報告する。テーマ例として近年の卒業生の卒論テーマを記載する。

- ・キャラクターに対する心理的評価の差異がキャラクターコラボレーション商品に対する購買意欲に及ぼす影響
- ・キャラクターグッズ購買行動に影響を与える心理的要因分析
- ・コレクション行動にみる現代消費者心理
- ・動画コンテンツと広告の再生速度による広告効果の違い
- ・スポーツ選手のスポンサー契約がブランド態度と購買意欲に与える影響
- ・クワイヤリティの調整効果を考慮したテレビ広告の内部・外部効果測定
- ・フィットネスジムの月額料金ごとの消費者の価値観の差

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読：機械学習の目的・データ・手法	機械学習の目的と利用するデータ・手法（秋学期教科書は受講生の関心に応じて後日決めるため授業計画の1～4回は昨年度教科書「ゼロからは始めるデータ・サイエンス入門（辻・矢吹，2021・講談社）」のもの）
第2回	輪読：回帰	単回帰・重回帰分析
第3回	輪読：分類	多値分類・2値分類
第4回	輪読：深層学習	ニューラルネットワークとディープラーニング
第5回	データ分析コンテスト	分析テーマ，研究計画の発表 ：研究計画

第6回	データ分析コンテスト ：データ収集	利用データや分析手法の報告
第7回	データ分析コンテスト ：分析結果	データ分析の途中報告
第8回	データ分析コンテスト ：結果考察	データ分析結果とその考察の報告
第9回	データ分析コンテスト ：最終報告	分析結果の最終報告
第10回	卒業研究：研究計画	卒業研究テーマの研究背景や目的，研究計画の発表
第11回	卒業研究：データ収集	データ収集方法や利用データの報告
第12回	卒業研究：分析結果	データ分析の途中報告
第13回	卒業研究：結果考察	データ分析結果とその考察の報告
第14回	卒業研究：最終報告	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自でデータ収集から分析，結果考察を行い，発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の関心に応じて決定する。以下は近年の授業で扱ったテキスト。

- ・辻・矢吹『ゼロからは始めるデータ・サイエンス入門』講談社（2021）
- ・石田『Rによるテキストマイニング入門（第2版）』森北出版（2017）
- ・安井『効果検証入門』技術評論社（2020）
- ・馬場『時系列分析と状態空間モデルの基礎』ブレアデス出版（2018）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・ウィラワン・勝又『Rによるマーケティング・データ分析』（2023）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『RユーザーのためのRStudio「実践」入門（改訂2版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100％）

4年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

分析コンテストや卒論での学生の研究・報告スケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフトRで簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA帰国生および転編入学生の募集は4月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・マーケティング論
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.

(Learning activities outside of classroom)

Students prepare the textbook and presentation materials for class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

演習5

長谷川 翔平

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品Aを買った人は次に商品Bを買う傾向が多いと分かれば、商品Aを買った人に商品Bを推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。1回の授業では報告担当となったグループに、(1)テキスト内容の報告、(2)関連する学術論文の調査・報告、(3)データ収集と統計解析ソフトRを使った分析を行ってもらい。報告後には教員からフィードバックを行う。春学期の後半からはテキストの輪読と並行して、データ分析コンテストの参加準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	テキスト1・2章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
第3回	テキスト3章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
第4回	テキスト4章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
第5回	テキスト5章：市場反応分析(I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
第6回	テキスト6章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
第7回	テキスト7章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
第8回	テキスト8章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
第9回	テキスト9章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
第10回	テキスト10章：顧客の管理	RMF分析による顧客管理
第11回	テキスト11章：市場反応分析(II)	離散選択モデルによる購買予測
第12回	テキスト12章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解

第13回	テキスト13章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
第14回	テキスト14章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。

・報告担当者は発表資料を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ 新版』有斐閣（2022）

【参考書】

・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）

・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）

・ウィラワン・勝又『Rによるマーケティング・データ分析』（2023）

・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）

・村松ほか『RユーザーのためのRStudio「実践」入門（改訂2版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100％）

4年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

分析コンテストや卒論での学生の研究・報告スケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。

・統計解析ソフトRで簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。

・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。

・SA帰国生および転編入学生の募集は4月に行う。

・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

・統計学入門

・基礎統計学

・マーケティング論

・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.

(Learning activities outside of classroom)

Students prepare the textbook and presentation materials for class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

演習6

長谷川 翔平

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品Aを買った人は次に商品Bを買う傾向が多いと分かれば、商品Aを買った人に商品Bを推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

【データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読】

輪読する教科書は受講生の関心に応じて授業内で決定する。報告グループは、教科書内容、関連する学術論文、データ分析例の報告を行う。報告後には教員からフィードバックを行う。

【外部のデータ分析コンテストに参加】

企業や学会などが開催するマーケティングデータの分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」と日本マーケティング・サイエンス学会の「JIMS インタラクティブ・セッション」（ポスター発表）に参加した。

【卒業研究】

設定した研究テーマについてデータを収集・分析し、その結果を報告する。テーマ例として近年の卒業生の卒論テーマを記載する。

- ・キャラクターに対する心理的評価の差異がキャラクターコラボレーション商品に対する購買意欲に及ぼす影響
- ・キャラクターグッズ購買行動に影響を与える心理的要因分析
- ・コレクション行動にみる現代消費者心理
- ・動画コンテンツと広告の再生速度による広告効果の違い
- ・スポーツ選手のスポンサー契約がブランド態度と購買意欲に与える影響
- ・クワイヤリティの調整効果を考慮したテレビ広告の内部・外部効果測定
- ・フィットネスジムの月額料金ごとの消費者の価値観の差

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読：機械学習の目的・データ・手法	機械学習の目的と利用するデータ・手法（秋学期教科書は受講生の関心に応じて後日決めるため授業計画の1～4回は昨年度教科書「ゼロからはじめるデータ・サイエンス入門（辻・矢吹，2021・講談社）」のもの）
第2回	輪読：回帰	単回帰・重回帰分析
第3回	輪読：分類	多値分類・2値分類
第4回	輪読：深層学習	ニューラルネットワークとディープラーニング
第5回	データ分析コンテスト	分析テーマ，研究計画の発表 ：研究計画

第6回	データ分析コンテスト ：データ収集	利用データや分析手法の報告
第7回	データ分析コンテスト ：分析結果	データ分析の途中報告
第8回	データ分析コンテスト ：結果考察	データ分析結果とその考察の報告
第9回	データ分析コンテスト ：最終報告	分析結果の最終報告
第10回	卒業研究：研究計画	卒業研究テーマの研究背景や目的，研究計画の発表
第11回	卒業研究：データ収集	データ収集方法や利用データの報告
第12回	卒業研究：分析結果	データ分析の途中報告
第13回	卒業研究：結果考察	データ分析結果とその考察の報告
第14回	卒業研究：最終報告	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自でデータ収集から分析，結果考察を行い，発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の関心に応じて決定する。以下は近年の授業で扱ったテキスト。

- ・辻・矢吹『ゼロからはじめるデータ・サイエンス入門』講談社（2021）
- ・石田『Rによるテキストマイニング入門（第2版）』森北出版（2017）
- ・安井『効果検証入門』技術評論社（2020）
- ・馬場『時系列分析と状態空間モデルの基礎』ブレアデス出版（2018）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
 - ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
 - ・ウィラワン・勝又『Rによるマーケティング・データ分析』（2023）
 - ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
 - ・村松ほか『RユーザーのためのRStudio「実践」入門（改訂2版）』技術評論社（2021）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100％）

4年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

分析コンテストや卒論での学生の研究・報告スケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフトRで簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA帰国生および転編入学生の募集は4月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・マーケティング論
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

(Course outline & Learning Objectives)

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.

(Learning activities outside of classroom)

Students prepare the textbook and presentation materials for class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 I

韓 載香

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業史を通じて学ぶ演習Ⅰの第一の目的は、学生自ら決めたテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。

演習の第二の目的は、議論及び発表に関するスキルを身につけることである。演習の第三の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。2025年度はアートビジネス、Jリーグチケット販売システム、キャラクタービジネス、韓国ドラマ制作業界について調査した。2026年度は、受講生の意見を収集し、調査分野を決め、フィールドワークを設計する。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークの方法論に基づいて調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー産業史演習では何をするのかーテーマ及び参考文献の選定①	(1)産業史の方法を学ぶとはどういうことか。次回からこれに関する内容は(1)とする。 (2)フィールドワークの方法と実践(グループ分け)。次回からこれに関連する内容は(2)とする。
第2回	テーマ及び参考文献の選定② (1)産業史の方法：文献調査	(1)図書館利用のガイダンス (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「グローバル社会での質的剛健な家族主義と信頼」を学ぶ
第3回	テーマ及び参考文献の選定③ (1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：訪問調査先の選定①	(1)藤本隆宏『産業競争力Ⅰ』(有斐閣、2025年)、第1章「日本の産業構想」 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「経営理念は文化の壁を超えるのか」を学ぶ
第4回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：訪問調査先の選定②	(1)藤本隆宏『産業競争力Ⅰ』(有斐閣、2025年)、第2章「産業の概念」 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)「ブルガリアのヨーグルトをめぐる「聖」なる空間」を学ぶ
第5回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：訪問調査先の選定③	(1)資料(情報)批判とは何か① 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「会社の規範は社員に受け入れられるか」を学ぶ

第6回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：訪問調査依頼	(1)資料(情報)批判とは何か② 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「東洋水産株式会社におけるMRSPARC（女性活躍促進戦略）と管理職意識改革のエスノグラフィ」を学ぶ
第7回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：訪問調査依頼	(1)資料(情報)批判とは何か③ 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「雇用と自営の狭間にある働き方」を学ぶ
第8回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：質問表作成	(1)資料(情報)批判とは何か④ 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「観光ビジネスにおける日本のサービスの受け取られ方」を学ぶ
第9回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク：質問表作成	(1)データ収集・論文を読む① (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「文化・芸術分野のフィランソロピー活動がもたらす社会経済的価値」を学ぶ
第10回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク調査地選定①	(1)データ収集・論文を読む② (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「ホームホスピスの誕生」を学ぶ
第11回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク調査地選定②	(1)社史の利用① (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「地域活性化におけるコミュニティ内企業の複数の役割」
第12回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク調査設計	(1)社史の使用② (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「パウダーメイカー問題」を学ぶ
第13回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク調査設計	(1)テーマ関連の論文を読む (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「文化人類学の視点と方法論を実務に活かす」を学ぶ
第14回	中間発表会	(1)産業史文献調査にもとづき、先行研究のまとめ方を学ぶ。 (2)フィールドワークの到達点及び進捗状況など中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・全員、輪読する参考文献を読んで参加してください。
- 疑問点
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・報告担当者の準備
- 報告レジュメの作成
- 受講生からの質問に答えられる理解度
- 議論したい論点(レジュメ内に作成)
- 全体内容にかかわる論点(どのような点を理解すべきか)
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・司会者の準備
- 全体内容を理解しておく。
- どのような論点がありそうかを想定しながら議論の方向性を考えておく。

【テキスト（教科書）】

- (1)松沢裕作. 2024.『歴史学はこう考える』ちくま新書
- (2)八巻恵子編. 2020.『企業経営のエスノグラフィ』東方出版
- (3)藤本隆宏. 2025.『産業競争力Ⅰ』『産業競争力Ⅱ』有斐閣
- (4)小泉京子、上山肇「空き家対策としての古民家の利活用の実態と新しい利活用の在り方に関する研究」『地域イノベーション』16巻, 49－49.
- (5)尹大榮. 2003.「地域産業の活性化に関する論考」『経営と情報』Vol.15, No.1, 111－127.
- (6)「持続可能な飲食店経営に関するケーススタディ：老舗もつ焼き店と顧客の複眼的視点から」『地域イノベーション』17巻, 17－81.

(7) 福井洋子「地域の中小企業のデザイン経営に居る場に関する考察」『地域イノベーション』16巻、87－100.

(8) 河村悟郎. 2021. 「地域概念の再考に向けてー日本とスペインのプロサッカークラブ経営を事例としてー」『滋賀文教短期大学 紀要』23, 41－50.

【参考書】

(1) 田中研之輔・山崎正枝『走らないトヨタ・ネット南国の組織エスノグラフィー』法律文化社、2016年

(2) Nataliya Kosmyna. 2025. 'Your Brain on ChatGPT: Accumulation of Cognitive Debt when Using an AI Assistant for Essay Writing Task'. https://collimateur.uqam.ca/wp-content/uploads/sites/11/2025/12/2506.08872v1_comp.pdf, accessed on Feb. 1, 2026.

【成績評価の方法と基準】

- ・ 輪読教科書に関連する報告及び議論など演習への参加度 (50%)
- ・ フィールドワークに関連するグループ活動の作業、報告、成果の提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・ グループ活動の充実及び的確な評価軸の設定

【関連科目】

産業史 I

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss ; After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

演習2

韓 載香

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業史を通じて学ぶ演習Ⅰの第一の目的は、学生自ら決めたテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。

演習の第二の目的は、議論及び発表に関するスキルを身につけることである。演習の第三の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。2025年度はアートビジネス、Jリーグチケット販売システム、キャラクタービジネス、韓国ドラマ制作業界について調査した。2026年度は、受講生の意見を収集し、調査分野を決め、フィールドワークを設計する。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む① (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年） 「問いの連鎖が拓くつながり」
第2回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む② (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「民族誌を書きはじめるとき」
第3回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む③ (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「面白いものを見つける系統的な方法」
第4回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史から問いを立てる① (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「資本主義の民族誌」
第5回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 問いとフィールドワークをつなげる① (2) フィールドに出る（調査の実践）
第6回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史の発表② (2) フィールドワーク：分析（発表）と文献調査
第7回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史から問いを立てる② (2) フィールドワーク：再調査
第8回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 問いとフィールドワークをつなげる② (2) フィールドワーク：分析及び発表
第9回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 仮説を立てる (2) フィールドワーク：文献調査

第10回	(2) フィールドワーク	(1) データ追加 (2) グループ別にフィールドワーク
第11回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) データ分析 (2) フィールドワーク：分析
第12回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 仮説の修正 (2) フィールドワーク：発表の準備
第13回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(2) フィールドワーク：発表とフィードバック
第14回	フィールドワークの全体報告会	（報告書の作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加の仕方：テキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出する。
課題：受講者はグループを組んで研究テーマを決め、先行研究の調査や整理を行ってフィールドワークを行い、分析する。全体報告会で発表する。

【テキスト（教科書）】

大村敬一、中空萌編、2024、『フィールドワークと民族誌』放送大学教育振興会

【参考書】

フィールドワークのテーマ決定後指定

【成績評価の方法と基準】

- ・教科書に関する報告・司会・議論への参加度の総合評価(50%)
- ・グループワークの活動(調査・実行・分析・発表)の総合評価(50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループワークの充実及び的確な評価基準の設定

【その他の重要事項】

発言する機会を「自分に」与えてあげましょう。

【関連科目】

産業史Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills. Students will determine the group's research theme and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss ; After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

演習3

韓 載香

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業史を通じて学ぶ演習Ⅰの第一の目的は、学生自ら決めたテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。

演習の第二の目的は、議論及び発表に関するスキルを身につけることである。演習の第三の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。2025年度はアートビジネス、Jリーグチケット販売システム、キャラクタービジネス、韓国ドラマ制作業界について調査した。2026年度は、受講生の意見を収集し、調査分野を決め、フィールドワークを設計する。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークの方法論に基づいて調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー産業史演習では何をするのかーテーマ及び参考文献の選定	(1)産業史の方法を学ぶとはどういうことか。次回からこれに関しては(1)とする。 (2)フィールドワーク(グループ分け)。次回からこれに関しては(2)とする。
第2回	テーマ及び参考文献の選定① (1)産業史の方法：分家調査 (2)フィールドワークの方法	(1)図書館利用ガイダンス (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「グローバル社会での質的剛健な家族主義と信頼」
第3回	テーマ及び参考文献の選定② (1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：	(1)藤本隆宏『産業競争力Ⅰ』(有斐閣、2025年)、第1章「日本の産業構想」 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「経営理念は文化の壁を超えるのか」を学ぶ
第4回	テーマ及び参考文献の選定③ (1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク	(1)藤本隆宏『産業競争力Ⅰ』(有斐閣、2025年)、第2章「産業の概念」 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「ブルガリアのヨーグルトをめぐる「聖」なる空間」を学ぶ
第5回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク	(1)資料(情報)批判とは何か① 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「会社の規範は社員に受け入れられるか」を学ぶ

第6回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク	(1)資料(情報)批判とは何か② 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「東洋水産株式会社におけるMRSPARC(女性活躍促進戦略)と管理職意識改革のエスノグラフィ」を学ぶ
第7回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク	(1)資料(情報)批判とは何か③ 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「雇用と自営の狭間にある働き方」を学ぶ
第8回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク	(1)資料(情報)批判とは何か④ 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「観光ビジネスにおける日本のサービスの受け取られ方」を学ぶ
第9回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク	(1)データ収集①、論文を読む 小泉・上山(2024) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「文化・芸術分野のフィランソロビー活動がもたらす社会経済的価値」
第10回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク	(1)データ収集②、論文を読む 福井(2025) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「ホームホスピスの誕生」
第11回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク	(1)社史の利用① (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「地域活性化におけるコミュニティ内企業の複数の役割」
第12回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク	(1)社史の利用② (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「パウダーメイカー問題」
第13回	(1)産業史の方法 (2)フィールドワーク	(1)テーマ関連の論文を読む (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「文化人類学の死角と方法論を実務に活かす」
第14回	中間発表会（全体）	(1)産業史文献調査にもとづき、先行研究のまとめ方を学ぶ。 (2)フィールドワークの到達点及び進捗状況など中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・全員、輪読する参考文献を読んで参加してください。
- 疑問点
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・報告担当者の準備
- 報告レジュメの作成
- 受講生からの質問に答えられる理解度
- 議論したい論点(レジュメ内に作成)
- 全体内容にかかわる論点(どのような点を理解すべきか)
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・司会者の準備
- 全体内容を理解しておく。
- どのような論点がありそうかを想定しながら議論の方向性を考えておく。

【テキスト（教科書）】

- (1)松沢裕作. 2024.『歴史学はこう考える』ちくま新書
- (2)八巻恵子編. 2020.『企業経営のエスノグラフィ』東方出版
- (3)藤本隆宏. 2025.『産業競争力Ⅰ』『産業競争力Ⅱ』有斐閣
- (4)小泉京子、上山肇. 2024.「空き家対策としての古民家の利活用の実態と新しい利活用の在り方に関する研究」『地域イノベーション』16巻, 49－49.
- (5)尹大榮. 2003.「地域産業の活性化に関する論考」『経営と情報』Vol.15, No.1, 111－127.
- (6)福井弘教. 2025.「持続可能な飲食店経営に関するケーススタディ：老舗もつ焼き店と顧客の複眼的視点から」『地域イノベーション』17巻, 17－81.

(7) 福井洋子. 2024. 「地域の中小企業のデザイン経営に居る場に関する考察」『地域

イノベーション』16巻、87 - 100.

(8) 河村悟郎. 2021. 「地域概念の再考に向けてー日本とスペインのプロサッカークラブ経営を事例としてー」『滋賀文教短期大学紀要』23, 41 - 50.

【参考書】

(1) 田中研之輔・山崎正枝『走らないトヨタ・ネット南国の組織エスノグラフィー』法律文化社、2016年

(2) Nataliya Kosmyna. 2025. 'Your Brain on ChatGPT: Accumulation of Cognitive Debt when Using an AI Assistant for Essay Writing Task'. https://collimateur.uqam.ca/wp-content/uploads/sites/11/2025/12/2506.08872v1_comp.pdf, accessed on Feb. 1, 2026.

【成績評価の方法と基準】

- ・ 輪読教科書に関連する報告及び議論など演習への参加度 (50%)
- ・ フィールドワークに関連するグループ活動の作業、報告、成果の提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・ グループ活動の充実及び的確な評価軸の設定

【関連科目】

産業史 I

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss ; After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

演習4

韓 載香

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業史を通じて学ぶ演習Ⅰの第一の目的は、学生自ら決めたテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。

演習の第二の目的は、議論及び発表に関するスキルを身につけることである。演習の第三の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。2025年度はアートビジネス、Jリーグチケット販売システム、キャラクタービジネス、韓国ドラマ制作業界について調査した。2026年度は、受講生の意見を収集し、調査分野を決め、フィールドワークを設計する。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む① (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年） 「問いの連鎖が拓くつながり」
第2回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む② (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「民族誌を書きはじめるとき」
第3回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む③ (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「面白いものを見つける系統的な方法」
第4回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史から問いを立てる① (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「資本主義の民族誌」
第5回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 問いとフィールドワークをつなげる① (2) フィールドに出る（調査の実践）
第6回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史の発表② (2) フィールドワーク：分析（発表）と文献調査
第7回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史から問いを立てる② (2) フィールドワーク：再調査
第8回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 問いとフィールドワークをつなげる② (2) フィールドワーク：分析及び発表
第9回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 仮説を立てる (2) フィールドワーク：文献調査

第10回	(2) フィールドワーク	(1) データ追加 (2) グループ別にフィールドワーク
第11回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) データ分析 (2) フィールドワーク：分析
第12回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 仮説の修正 (2) フィールドワーク：発表の準備
第13回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(2) フィールドワーク：発表とフィードバック
第14回	フィールドワークの報告会	（報告書の作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加の仕方：テキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出する。課題：受講者はグループを組んで研究テーマを決め、先行研究の調査や整理を行ってフィールドワークを行い、分析する。全体報告会で発表する。

【テキスト（教科書）】

大村敬一、中空萌編、2024、『フィールドワークと民族誌』放送大学教育振興会

【参考書】

フィールドワークのテーマ決定後指定

【成績評価の方法と基準】

- ・教科書に関する報告・司会・議論への参加度の総合評価(50%)
- ・グループワークの活動(調査・実行・分析・発表)の総合評価(50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループワークの充実及び的確な評価基準の設定

【その他の重要事項】

発言する機会を「自分に」与えてあげましょう。

【関連科目】

産業史Ⅰ、産業史Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills. Students will determine the group's research theme and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss ; After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

演習5

韓 載香

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業史を通じて学ぶ演習Ⅰの第一の目的は、学生自ら決めたテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。

演習の第二の目的は、議論及び発表に関するスキルを身につけることである。演習の第三の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。2025年度はアートビジネス、Jリーグチケット販売システム、キャラクタービジネス、韓国ドラマ制作業界について調査した。2026年度は、受講生の意見を収集し、調査分野を決め、フィールドワークを設計する。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークの方法論に基づいて調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー産業史演習では何をするのかーテーマ及び参考文献の選定	(1)産業史の方法を学ぶとはどういうことか。以下、これに関連する内容について(1)とする。 (2)フィールドワーク(グループ分け)。以下、これに関連する内容については(2)とする。
第2回	テーマ及び参考文献の選定①：情報収集の方法	(1)図書館利用のガイダンス (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「グローバル社会での実質剛健な家族主義と信頼」
第3回	テーマ及び参考文献の選定② (1)産業の概念 (2)フィールドワーク：調査先の選定①	(1)藤本隆宏『産業競争力Ⅰ』(有斐閣、2025年)、第1章「日本の産業構想」 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「経営理念は文化の壁を超えるのか」を学ぶ
第4回	テーマ及び参考文献の選定③ (1)産業の概念 (2)フィールドワーク：調査先の選定②	(1)藤本隆宏『産業競争力Ⅰ』(有斐閣、2025年)、第2章「産業の概念」 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「ブルガリアのヨーグルトをめぐる「聖」なる空間」を学ぶ
第5回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：調査依頼①	(1)資料(情報)批判とは何か① 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「会社の規範は社員に受け入れられるか」を学ぶ

第6回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：調査依頼②	(1)資料(情報)批判とは何か② 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「東洋水産株式会社におけるMRSPARC(女性活躍促進戦略)と管理職意識改革のエスノグラフィ」を学ぶ
第7回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：調査内容①	(1)資料(情報)批判とは何か③ 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「雇用と自営の狭間にある働き方」を学ぶ
第8回	(1)産業史の方法：情報認識・分析 (2)フィールドワーク：調査内容②	(1)資料(情報)批判とは何か④ 松沢裕作『歴史学はこう考える』(ちくま新書、2024年) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』(東方出版、2020年)：「観光ビジネスにおける日本のサービスの受け取られ方」を学ぶ
第9回	(1)産業史の方法：情報収集 (2)フィールドワークの設計①	(1)データ収集、論文を読む。① 小泉・上山(2024) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』東方出版、2020年：「文化・芸術分野のフィランソロピー活動がもたらす社会経済的価値」
第10回	(1)産業史の方法：情報収集 (2)フィールドワークの設計②	(1)データ収集、論文を読む。② 福井(2025) (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』東方出版、2020年：「ホームホスピスの誕生」
第11回	(1)産業史の方法：分析 (2)フィールドワーク：実践	(1)社史利用の方法① (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』東方出版、2020年：「地域活性化に御におけるコミュニティ内企業の複数の役割」
第12回	(1)産業史の方法：分析 (2)フィールドワーク：設計調整①	(1)社史利用の方法② (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』東方出版、2020年：「パウダーメイカー問題」
第13回	(1)産業史の方法：評価 (2)フィールドワーク：設計調整②	(1)テーマ関連の論文を読む。 (2)八巻恵子編『企業経営のエスノグラフィ』東方出版、2020年：「文化人類学の視点と方法論を実務に活かす」
第14回	中間発表会（全体）	(1)研究史の整理から学ぶ (2)グループ別発表：フィールドワークの到達点と進捗状況等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・全員、輪読する参考文献を読んで参加してください。
- ☐ 疑問点
- ☐ いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・報告担当者の準備
- ☐ 報告レジュメの作成
- ☐ 受講生からの質問に答えられる理解度
- ☐ 議論したい論点(レジュメ内に作成)
- ☐ 全体内容にかかわる論点(どのような点を理解すべきか)
- ☐ いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・司会者の準備
- ☐ 全体内容を理解しておく。
- ☐ どのような論点がありそうかを想定しながら議論の方向性を考えておく。

【テキスト（教科書）】

- (1) 松沢裕作. 2024. 『歴史学はこう考える』 ちくま新書
- (2) 八巻恵子編. 2020. 『企業経営のエスノグラフィ』 東方出版
- (3) 藤本隆宏. 2025. 『産業競争力Ⅰ』『産業競争力Ⅱ』 有斐閣
- (4) 小泉京子、上山肇. 2024. 「空き家対策としての古民家の利活用の実態と新しい利活用」『地域イノベーション』16巻, 49 - 49.
- (5) 尹大榮. 2003. 「地域産業の活性化に関する論考」『経営と情報』Vol.15, No.1, 111 - 127.
- (6) 福井弘教. 2025. 「持続可能な飲食店経営に関するケーススタディ：老舗もつ焼き店と顧客の複眼的視点から」『地域イノベーション』17巻, 17 - 81.
- (7) 福井洋子「地域の中小企業のデザイン経営に居る場に関する考察」『地域

イノベーション』16巻、87－100.

(8)河村悟郎. 2021. 「地域概念の再考に向けてー日本とスペインのプロサッカークラブ経営を事例としてー」『滋賀文教短期大学紀要』23, 41－50.

【参考書】

(1)田中研之輔・山崎正枝『走らないトヨターネット南国の組織エスノグラフィー』法律文化社、2016年

(2)Nataliya Kosmyna. 2025. 'Your Brain on ChatGPT: Accumulation of Cognitive Debt when Using an AI Assistant for Essay Writing Task'. https://collimateur.uqam.ca/wp-content/uploads/sites/11/2025/12/2506.08872v1_comp.pdf, accessed on Feb. 1, 2026.

【成績評価の方法と基準】

- ・輪読教科書に関連する報告及び議論など演習への参加度(50%)
- ・フィールドワークに関連するグループ活動の作業、報告、成果の提出(50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ活動の充実及び的確な評価軸の設定

【関連科目】

産業史Ⅰ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss ; After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

演習6

韓 載香

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業史を通じて学ぶ演習Ⅰの第一の目的は、学生自ら決めたテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。

演習の第二の目的は、議論及び発表に関するスキルを身につけることである。演習の第三の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。2025年度はアートビジネス、Jリーグチケット販売システム、キャラクタービジネス、韓国ドラマ制作業界について調査した。2026年度は、受講生の意見を収集し、調査分野を決め、フィールドワークを設計する。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む① (2) 『フィールドワークと民族誌』（大村敬一、中空萌編、放送大学教育振興会、2024年） 「問いの連鎖が拓くつながり」
第2回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む② (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「民族誌を書きはじめるとき」
第3回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) テーマ関連の論文を読む③ (2) 大村敬一、中空萌編、『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「面白いものを見つける系統的な方法」
第4回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史から問いを立てる① (2) 大村敬一、中空萌編『フィールドワークと民族誌』（放送大学教育振興会、2024年）： 「資本主義の民族誌」
第5回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 問いとフィールドワークをつなげる① (2) フィールドに出る（調査の実践）
第6回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史の発表② (2) フィールドワーク：分析（発表）と文献調査
第7回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 研究史から問いを立てる② (2) フィールドワーク：再調査
第8回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 問いとフィールドワークをつなげる② (2) フィールドワーク：分析及び発表
第9回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 仮説を立てる (2) フィールドワーク：文献調査

第10回	(2) フィールドワーク	(1) データ追加 (2) グループ別にフィールドワーク
第11回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) データ分析 (2) フィールドワーク：分析
第12回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 仮説の修正 (2) フィールドワーク：発表の準備
第13回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(2) フィールドワーク：発表とフィードバック (報告書の作成)
第14回	フィールドワークの報告会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加の仕方：テキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出する。課題：受講者はグループを組んで研究テーマを決め、先行研究の調査や整理を行ってフィールドワークを行い、分析する。全体報告会で発表する。

【テキスト（教科書）】

大村敬一、中空萌編、2024、『フィールドワークと民族誌』放送大学教育振興会

【参考書】

フィールドワークのテーマ決定後指定

【成績評価の方法と基準】

- ・教科書に関する報告・司会・議論への参加度の総合評価(50%)
- ・グループワークの活動(調査・実行・分析・発表)の総合評価(50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループワークの充実及び的確な評価基準の設定

【その他の重要事項】

発言する機会を「自分に」与えてあげましょう。

【関連科目】

産業史Ⅰ、産業史Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss ; After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

平田 英明

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をすることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章＋補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
第4回	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
第5回	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
第6回	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
第7回	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
第8回	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をすることが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 家森信善(2025)『金融論(第3版)』（中央経済社）
2. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 荻谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場合は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とであると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

It is essential that you proactively prepare for class by engaging with a wide range of materials beyond the textbook scope. Passive learning yields no results. Approach your studies with initiative. The standard preparation and review time for each class is two hours.

Grading will be based on seminar presentations (75%) and learning attitude (25%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

平田 英明

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文1	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト2	
第6回	コンピュータ演習1	コンピュータ演習
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト2	
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト2	
第9回	インゼミ1	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ2	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ3	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習2	コンピュータ演習
第13回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト2	
第14回	テキスト1	7章の輪読
	テキスト2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 家森信善(2025)『金融論(第3版)』（中央経済社）
2. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 荻谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場合は、「知的議論を行う真剣勝負の場」と考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

It is essential that you proactively prepare for class by engaging with a wide range of materials beyond the textbook scope. Passive learning yields no results. Approach your studies with initiative. The standard preparation and review time for each class is two hours.

Grading will be based on seminar presentations (75%) and learning attitude (25%).

演習3

平田 英明

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをはっきり説明できるように、つまりものごとをはっきりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をすることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章＋補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
第4回	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
第5回	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
第6回	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
第7回	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
第8回	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をすることが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 家森信善(2025)『金融論(第3版)』（中央経済社）
2. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 荻谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とであると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

It is essential that you proactively prepare for class by engaging with a wide range of materials beyond the textbook scope. Passive learning yields no results. Approach your studies with initiative. The standard preparation and review time for each class is two hours.

Grading will be based on seminar presentations (75%) and learning attitude (25%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

平田 英明

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3 - 4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文1	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト2	
第6回	コンピュータ演習1	コンピュータ演習
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト2	
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト2	
第9回	インゼミ1	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ2	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ3	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習2	コンピュータ演習
第13回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト2	
第14回	テキスト1	7章の輪読
	テキスト2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】

1. 家森信善(2025)『金融論(第3版)』（中央経済社）
2. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2 - 3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も持します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

It is essential that you proactively prepare for class by engaging with a wide range of materials beyond the textbook scope. Passive learning yields no results. Approach your studies with initiative. The standard preparation and review time for each class is two hours.

Grading will be based on seminar presentations (75%) and learning attitude (25%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

平田 英明

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章＋補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
第4回	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
第5回	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
第6回	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
第7回	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
第8回	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 伊藤萬里・田中鮎夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』（有斐閣）
2. 江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』（ソシム）
3. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

1. 家森信善(2025)『金融論(第3版)』（中央経済社）
2. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」と考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

It is essential that you proactively prepare for class by engaging with a wide range of materials beyond the textbook scope. Passive learning yields no results. Approach your studies with initiative. The standard preparation and review time for each class is two hours.

Grading will be based on seminar presentations (75%) and learning attitude (25%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

平田 英明

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文1	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト2	
第6回	コンピュータ演習1	コンピュータ演習
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト2	
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト2	
第9回	インゼミ1	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ2	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ3	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習2	コンピュータ演習
第13回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト2	
第14回	テキスト1	7章の輪読
	テキスト2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】

1. 家森信善(2025)『金融論(第3版)』（中央経済社）
2. 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

It is essential that you proactively prepare for class by engaging with a wide range of materials beyond the textbook scope. Passive learning yields no results. Approach your studies with initiative. The standard preparation and review time for each class is two hours.

Grading will be based on seminar presentations (75%) and learning attitude (25%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

福島 英史

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面開講を基本とします。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。授業計画にモデルケースを示します。すべて授業内で講評しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第2回	問題設定	調査研究の問いをたてる
第3回	論理と説明	論理的思考と説明について考える
第4回	説明の要因	変数の捉え方
第5回	説明とカテゴリ	整理と説明
第6回	要因の関係	独立・代替・補完・共変
第7回	因果関係	論理とメカニズム
第8回	二次データ	収集と整理
第9回	アンケート・聞き取り	方法と分析
第10回	史的研究	産業経済企業の時系列
第11回	数量データ	データベース
第12回	文献講読	読み方・議論の仕方
第13回	グループ研究報告	問いと枠組み
第14回	卒論報告	問いと枠組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反駁し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）、楠木建『ストーリーとしての競争戦略』（東洋経済新報社、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備とディスカッションへの参加・貢献度(60%)(課題出席含)、卒業論文・グループワーク等の評点(40%)に基づいて評価します。半期に11回以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCタブレット等情報デバイス、表計算解析/描画/文書/プレゼン等のソフト(無償含)、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング、日本経営、技術管理、グローバル戦略、産業組織等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (60%), and the quality of students' reports on their research(40%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

福島 英史

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面開講を基本とします。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。授業計画にモデルケースを示す。すべて授業内で講評しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ合宿	工場見学・発表議論
第2回	グループ研究中間報告	概要と議論
第3回	オープンゼミ1	ケース議論・研究発表
第4回	オープンゼミ2	輪読と討議の実践
第5回	面接と選考	メンバーと議論
第6回	研究の妥当性	学問的な規準
第7回	先行研究の調査	方法と位置付け
第8回	グループ研究報告	詳細と洗練
第9回	文献と実証	異同と含意
第10回	インターゼミ1	他大学ゼミ群1と交流
第11回	インターゼミ2	他大学ゼミ群2と意見交換
第12回	グループ研究の改善	インターゼミ報告を踏まえて
第13回	卒論最終報告	議論・提案を行い改善
第14回	総括	まとめと課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反駁し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）、楠木建『ストーリーとしての競争戦略』（東洋経済新報社、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備とディスカッションへの参加・貢献度(60%)(課題出席含)、卒業論文・グループワーク等の評点(40%)に基づいて評価します。半期に11回以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCタブレット等情報デバイス、表計算解析/描画/文書/プレゼン等のソフト(無償含)、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、組織論、マーケティング、日本経営、技術管理、グローバル戦略、産業組織等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (60%), and the quality of students' reports on their research(40%).

MAN300FA (経営学 / Management 300)

演習3

福島 英史

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面開講を基本とします。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。授業計画にモデルケースを示します。すべて授業内で講評しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第2回	問題設定	調査研究の問いをたてる
第3回	論理と説明	論理的思考と説明について考える
第4回	説明の要因	変数の捉え方
第5回	説明とカテゴリ	整理と説明
第6回	要因の関係	独立・代替・補完・共変
第7回	因果関係	論理とメカニズム
第8回	二次データ	収集と整理
第9回	アンケート・聞き取り	方法と分析
第10回	史的研究	産業経済企業の時系列
第11回	数量データ	データベース
第12回	文献講読	読み方・議論の仕方
第13回	グループ研究報告	問いと枠組み
第14回	卒論報告	問いと枠組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反駁し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ペサント他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）楠木建『ストーリーとしての競争戦略』（東洋経済新報社、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備とディスカッションへの参加・貢献度(60%)(課題出席含)、卒業論文・グループワーク等の評点(40%)に基づいて評価します。半期に11回以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCタブレット等情報デバイス、表計算解析/描画/文書/プレゼン等のソフト(無償含)、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング、日本経営、技術管理、グローバル戦略、産業組織等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (60%), and the quality of students' reports on their research(40%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

福島 英史

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面開講を基本とします。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。授業計画にモデルケースを示す。すべて授業内で講評しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ合宿	工場見学・発表議論
第2回	グループ研究中間報告	概要と議論
第3回	オープンゼミ1	ケース議論・研究発表
第4回	オープンゼミ2	輪読と討議の実践
第5回	面接と選考	メンバーと議論
第6回	研究の妥当性	学問的な規準
第7回	先行研究の調査	方法と位置付け
第8回	グループ研究報告	詳細と洗練
第9回	文献と実証	異同と含意
第10回	インターゼミ1	他大学ゼミ群1と交流
第11回	インターゼミ2	他大学ゼミ群2と意見交換
第12回	グループ研究の改善	インターゼミ報告を踏まえて
第13回	卒論最終報告	議論・提案を行い改善
第14回	総括	まとめと課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反駁し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）、楠木建『ストーリーとしての競争戦略』（東洋経済新報社、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備とディスカッションへの参加・貢献度(60%)(課題出席含)、卒業論文・グループワーク等の評点(40%)に基づいて評価します。半期に11回以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCタブレット等情報デバイス、表計算解析/描画/文書/プレゼン等のソフト(無償含)、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、組織論、マーケティング、日本経営、技術管理、グローバル戦略、産業組織等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (60%), and the quality of students' reports on their research(40%).

MAN400FA (経営学 / Management 400)

演習5

福島 英史

演習演習 選択_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面開講を基本とします。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。授業計画にモデルケースを示します。すべて授業内で講評しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第2回	問題設定	調査研究の問いをたてる
第3回	論理と説明	論理的思考と説明について考える
第4回	説明の要因	変数の捉え方
第5回	説明とカテゴリ	整理と説明
第6回	要因の関係	独立・代替・補完・共変
第7回	因果関係	論理とメカニズム
第8回	二次データ	収集と整理
第9回	アンケート・聞き取り	方法と分析
第10回	史的研究	産業経済企業の時系列
第11回	数量データ	データベース
第12回	文献講読	読み方・議論の仕方
第13回	グループ研究報告	問いと枠組み
第14回	卒論報告	問いと枠組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反駁し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ペサント他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）楠木建『ストーリーとしての競争戦略』（東洋経済新報社、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備とディスカッションへの参加・貢献度(60%)(課題出席含)、卒業論文・グループワーク等の評点(40%)に基づいて評価します。半期に11回以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCタブレット等情報デバイス、表計算解析/描画/文書/プレゼン等のソフト(無償含)、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング、日本経営、技術管理、グローバル戦略、産業組織等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (60%), and the quality of students' reports on their research(40%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

福島 英史

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面開講を基本とします。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。授業計画にモデルケースを示す。すべて授業内で講評しさらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ合宿	工場見学・発表議論
第2回	グループ研究中間報告	概要と議論
第3回	オープンゼミ1	ケース議論・研究発表
第4回	オープンゼミ2	輪読と討議の実践
第5回	面接と選考	メンバーと議論
第6回	研究の妥当性	学問的な規準
第7回	先行研究の調査	方法と位置付け
第8回	グループ研究報告	詳細と洗練
第9回	文献と実証	異同と含意
第10回	インターゼミ1	他大学ゼミ群1と交流
第11回	インターゼミ2	他大学ゼミ群2と意見交換
第12回	グループ研究の改善	インターゼミ報告を踏まえて
第13回	卒論最終報告	議論・提案を行い改善
第14回	総括	まとめと課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反駁し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）、楠木建『ストーリーとしての競争戦略』（東洋経済新報社、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備とディスカッションへの参加・貢献度(60%)(課題出席含)、卒業論文・グループワーク等の評点(40%)に基づいて評価します。半期に11回以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCタブレット等情報デバイス、表計算解析/描画/文書/プレゼン等のソフト(無償含)、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、組織論、マーケティング、日本経営、技術管理、グローバル戦略、産業組織等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (60%), and the quality of students' reports on their research(40%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

福田 淳児

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習1では、企業の経営者や事業部管理者が組織内で行うさまざまな意思決定および企業やその下位の組織単位および当該組織単位の管理者の業績測定や評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念および理論を理解する。さらに、現実の企業の事例を取り上げること、実務の状況を理解することを目的とする。

【到達目標】

管理会計を学習する上で重要な概念およびいくつかの主要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、全社および下位の組織単位またその管理者の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的業績評価指標の内容およびその役立ちを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1は、基本的に対面で授業を行います。演習では、ゼミの参加学生による報告およびそれについてのディスカッションを中心に授業を進めていきます。例年12月に開催される他大学との報告会（インターゼミ）に向けてテーマを選択するために、演習1では基本的な管理会計の考え方を中心に議論しながら学んでいきます。また、4年生については、3年次で学んだ管理会計に関する理論やそれに付随する知識に基づいて、卒業論文の報告またそこで出された質問や課題についての報告を行ってもらいます。質問や課題については、個別にまた次回の報告の際に議論を行うことでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の意義と目的	ゼミのスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点、戦略の策定と実行に役立つ管理会計の役割を検討する。
2	管理会計について	管理会計を学習する上で必要な基礎概念、また管理会計の機能について説明する。
3	組織構造とマネジメント・コントロールとの関係性について	多様な組織構造とそれぞれの組織構造のもとでのマネジメントの問題について議論する。
4	業績管理アプローチの方法	業績管理に関わる管理会計の概念およびいくつかのケースについて議論する。
5	卒業論文の概要紹介	様々なタイプの責任センターとそのマネジメント上の特徴や問題について、事例を交えながら議論する。
6	多様な責任センター（プロフィットセンターを中心に）	投資センターの特徴とその業績指標について事例を交えながら議論する。
7	投資センターの特徴とその業績指標	業績目標の設定方法およびそのタイトネスについて、事例を交えながら議論する。
8	業績目標の設定方法	4年生についてはこの回までに第1回目の卒業論文の報告を行なってください。
9	卒業論文の第1回報告	各企業におけるインセンティブシステムの設計について、その特徴を明らかにする。
10	インセンティブシステム	企業理念とマネジメント・コントロールとの関係性についていくつかの事例を踏まえて明らかにする。
11	マネジメントコントロールと企業理念	設備投資の経済性計算の方法を紹介し、各技法についての議論を行う。また、実務での採用状況についても紹介する。
12	設備投資計画	特に、狭義の原価管理である標準原価による原価管理について、いくつかの事例を交えながら説明する。
13	原価管理	

12	バランス・スコアカード	BSCのメカニズムおよびその意義を検討する。さらに、ケースを取り上げ検討する。
13	原価企画	原価企画のメカニズムおよびその実例を紹介する。
14	ABC/ABM 卒業論文の第2回報告	製造間接費の配賦の問題についての新しい原価計算方法について説明する。 4年生についてはこの回までに1回目の報告のコメントに基づいて、2回目の卒業論文の報告を行なってください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについて、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文やケースを読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず事前に質問内容を考えておくこと。その際、基本的なテクニカルタームについては調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木康晴. 2024. 『組織構造の会計学 マネジメントコントロールの理論と実践』株式会社日経BP (3,200円+税)

【参考書】

必要に応じて、文献や論文を指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告担当のテーマに関する報告内容(40%)とゼミの議論への積極的な参加の程度(30%)およびレポートの提出(30%)に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生から、管理会計の理論と同時に、管理会計技法の実務での利用方法について知りたいという要望を受けています。できるだけ理論との関連で、実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

The objective of Seminar 1 is to understand the basic concepts and theories involved in the design of management accounting systems that provide accounting information useful for the various decisions made by corporate executives and business unit managers in their organizations and for the performance measurement and evaluation of corporate and subordinate organizational units and their managers.

By studying the basic concepts and important themes of management accounting, the course aims to provide students with the basic knowledge and concepts necessary for studying and researching management accounting. In addition, the seminar aims to help students understand the contents and usefulness of financial and non-financial indicators for performance measurement and evaluation of company-wide and subordinate organizational units.

Students are expected to read the relevant sections of the textbook, as well as the papers and cases presented, on the topics to be discussed in the seminar. Those in charge of presentations should prepare their presentations using PowerPoint. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance, and research the basic technical terms. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades in the exercises will be based on the content of the report on the theme of the presenter (40%), the degree of active participation in the seminar discussions (30%), and the submission of reports (30%).

演習2

福田 淳児

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2では、毎年12月に開催される予定の他大学とのインターゼミナールに向け、3年生を中心に2つないし3つのグループを編成し、グループごとに管理会計または会計に関連した研究テーマを設定してもらう。4年生については卒業論文のための具体的なテーマを明確に設定し、卒業論文の作成に取り組む。3年生また4年生は、それぞれが設定したテーマに関連した文献レビューを行うとともに、グループまたは個人でデータを収集・分析を行うことができることを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することも目的とする。その成果として、一定水準の報告または学部学生としてふさわしい水準の卒業論文を作成することを目的とする。

【到達目標】

演習2では、ゼミ参加学生を2つないし3つのグループに分け、それぞれのグループで管理会計、または会計学に関連したテーマを選択し、他大学との間で実施されるインターゼミの報告会に向けて準備を進める。そのプロセスで、文献レビュー、データの収集・分析および検討を行い様々な角度から卒論についての検討を行えることを目標とする。4年生は各自が選択した卒論のテーマについて、文献レビューを継続するとともに、各人でデータの収集・分析を行うことで、より学術的な観点からの文献や収集したデータの分析、検討が行えることを目標とする。また、3年生、4年生とも、研究上必要とされる統計的な分析技法の習得、また実際の分析の実施、またはケース研究の方法、およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習2は基本的に対面で授業を行う予定です。3年生は、例年12月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。4年生は卒業論文の完成に向けて、その経過の報告を一人数回行ってもらいます。毎回、コメントを行いますので、次の報告ではそのコメントについて自分考えも含め報告してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告テーマの選定	インゼミでの報告テーマについて、管理会計との関連性及び研究可能性の観点から検討を行う。卒業論文についてはより具体的なテーマの設定を行う。
第2回	具体的な問題設定	選択したテーマについて、今回の報告で何を、どこまで明らかにしたいのかをグループディスカッションを通じて明確にする。
第3回	関連した文献レビュー	テーマに関連した文献を収集し、各自レビューを行うとともに、その内容について報告する。
第4回	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第3回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行い、これまでに何がわかっているのか、何が残された課題なのかを明らかにすることを通じて、各班の問題設定を行う。
第5回	問題の明確化	4年生についてこの回までに卒業論文の第3回目の報告を行うこと。文献レビューをふまえ、テーマに関連して何がどこまでわかっているのかを明確にする。
第6回	リサーチクエスチョンの設定	研究テーマに関わるリサーチクエスチョンの設定を行う。
第7回	必要な文献またデータの探索	前回の議論に基づいて、必要とされる文献、また問題解決に必要なデータを各班で探索する。

第8回	必要なデータの入手方法の確認 卒業論文の第4回報告	これまでの文献レビューまた問題意識をふまえて、報告のために収集すべきデータ、またそれらのデータの入手方法について検討する。 4年生についてこの回までに卒業論文の第4回目の報告を行うこと。 研究に必要なデータの収集、およびそれらのデータの分析方法について考察する。
第9回	データの分析方法について	分析に必要とされる財務的なデータまたは必要な場合にはインタビュー調査のための準備を行う。
第10回	データの収集と分析(1)	入手した情報に基づいて分析を行い、その分析結果についてゼミの場で議論を行う。
第11回	データの収集と分析(2)	前回の議論に基づいて、一層のデータ分析を行う。
第12回	分析結果の検討 卒業論文の第5回報告	4年生についてこの回までに卒業論文の第5回目の報告を行うこと。
第13回	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
第14回	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習IIでは各グループの選択したテーマ、また卒業論文のテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについてのまとめと自分なりの考察を行っておくこと。報告を通じて出された質問について、残された課題は次の回までに意見をまとめ、それについてさらなる議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて論文などを適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

インゼミでの報告テーマに関する事前の報告内容、また4年生の場合には卒業論文のテーマに関する報告およびその成果(60%)とゼミの議論への積極的な参加の程度(40%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生から、データ分析の方法についてもっと知りたいとの意見がありますので、この点も詳しく説明をしていきたいと思います。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、その他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

In Seminar 2, two (or three) groups are organized for the inter-seminar held in December each year, and each group is asked to set a theme for its report. For the fourth year students, the theme for their graduation thesis should be set more clearly. For the fourth-year students, the theme will be more clearly defined for their graduation thesis. The purpose of the project is to review literature related to the theme set by each group, and to collect and analyze data in groups or individually for the fourth-year students. In this process, students will learn statistical analysis techniques and case study methods. In the process, they aim to learn statistical analysis techniques and case study methods. The final result will be a report of a certain standard or a graduation thesis appropriate for an undergraduate student.

In this class, students participating in the seminar are divided into two groups, and each group chooses a theme and conducts a literature review, data collection and analysis, and discussion for the inter-seminar debriefing session held every December with other universities. 4th year students The fourth year students will continue the literature review and collect and analyze data on the thesis topic of their choice. Both third- and fourth-year students are expected to learn statistical analysis techniques, case study methods, and presentation skills.

In Seminar 2, students are required to read the literature introduced by the instructor on the theme selected by each group and the theme of the graduation thesis, and to summarize and discuss the literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on the content of prior reports on the themes to be presented in the in-seminar and, in the case of fourth-year students, on reports on the theme of the graduation thesis (60%) and the degree of active participation in seminar discussions (40%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

福田 淳児

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習1では、企業の経営者や事業部管理者が組織内で行うさまざまな意思決定および企業やその下位の組織単位および当該組織単位の管理者の業績測定や評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念および理論を理解する。さらに、現実の企業の事例を取り上げること、実務の状況を理解することを目的とする。

【到達目標】

管理会計を学習する上で重要な概念およびいくつかの主要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、全社および下位の組織単位またその管理者の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的業績評価指標の内容およびその役立ちを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1は、基本的に対面で授業を行います。演習では、ゼミの参加学生による報告およびそれについてのディスカッションを中心に授業を進めていきます。例年12月に開催される他大学との報告会（インターゼミ）に向けてテーマを選択するために、演習1では基本的な管理会計の考え方を中心に議論しながら学んでいきます。また、4年生については、3年次で学んだ管理会計に関する理論やそれに付随する知識に基づいて、卒業論文の報告またそこで出された質問や課題についての報告を行ってもらいます。質問や課題については、個別にまた次回の報告の際に議論を行うことでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の意義と目的	ゼミのスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点、戦略の策定と実行に役立つ管理会計の役割を検討する。
2	管理会計について	管理会計を学習する上で必要な基礎概念、また管理会計の機能について説明する。
3	組織構造とマネジメント・コントロールとの関係性について	多様な組織構造とそれぞれの組織構造のもとでのマネジメントの問題について議論する。
4	業績管理アプローチの方法	業績管理に関わる管理会計の概念およびいくつかのケースについて議論する。
5	卒業論文の概要紹介	様々なタイプの責任センターとそのマネジメント上の特徴や問題について、事例を交えながら議論する。
6	多様な責任センター（プロフィットセンターを中心に）	投資センターの特徴とその業績指標について事例を交えながら議論する。
7	投資センターの特徴とその業績指標	業績目標の設定方法およびそのタイトネスについて、事例を交えながら議論する。
8	業績目標の設定方法	4年生についてはこの回までに第1回目の卒業論文の報告を行なってください。
9	卒業論文の第1回報告	各企業におけるインセンティブシステムの設計について、その特徴を明らかにする。
10	インセンティブシステム	企業理念とマネジメント・コントロールとの関係性についていくつかの事例を踏まえて明らかにする。
11	マネジメントコントロールと企業理念	設備投資の経済性計算の方法を紹介し、各技法についての議論を行う。また、実務での採用状況についても紹介する。
12	設備投資計画	特に、狭義の原価管理である標準原価による原価管理について、いくつかの事例を交えながら説明する。
13	原価管理	

12	バランス・スコアカード	BSCのメカニズムおよびその意義を検討する。さらに、ケースを取り上げ検討する。
13	原価企画	原価企画のメカニズムおよびその実例を紹介する。
14	ABC/ABM 卒業論文の第2回報告	製造間接費の配賦の問題についての新しい原価計算方法について説明する。 4年生についてはこの回までに1回目の報告のコメントに基づいて、2回目の卒業論文の報告を行なってください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについて、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文やケースを読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず事前に質問内容を考えておくこと。その際、基本的なテクニカルタームについては調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木康晴. 2024. 『組織構造の会計学 マネジメントコントロールの理論と実践』株式会社日経BP (3,200円＋税)

【参考書】

必要に応じて、文献や論文を指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告担当のテーマに関する報告内容(40%)とゼミの議論への積極的な参加の程度(30%)およびレポートの提出(30%)に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生から、管理会計の理論と同時に、管理会計技法の実務での利用方法について知りたいという要望を受けています。できるだけ理論との関連で、実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

The objective of Seminar 1 is to understand the basic concepts and theories involved in the design of management accounting systems that provide accounting information useful for the various decisions made by corporate executives and business unit managers in their organizations and for the performance measurement and evaluation of corporate and subordinate organizational units and their managers.

By studying the basic concepts and important themes of management accounting, the course aims to provide students with the basic knowledge and concepts necessary for studying and researching management accounting. In addition, the seminar aims to help students understand the contents and usefulness of financial and non-financial indicators for performance measurement and evaluation of company-wide and subordinate organizational units.

Students are expected to read the relevant sections of the textbook, as well as the papers and cases presented, on the topics to be discussed in the seminar. Those in charge of presentations should prepare their presentations using PowerPoint. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance, and research the basic technical terms. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades in the exercises will be based on the content of the report on the theme of the presenter (40%), the degree of active participation in the seminar discussions (30%), and the submission of reports (30%).

演習4

福田 淳児

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2では、毎年12月に開催される予定の他大学とのインターゼミナールに向け、3年生を中心に2つないし3つのグループを編成し、グループごとに管理会計または会計に関連した研究テーマを設定してもらう。4年生については卒業論文のための具体的なテーマを明確に設定し、卒業論文の作成に取り組む。3年生また4年生は、それぞれが設定したテーマに関連した文献レビューを行うとともに、グループまたは個人でデータを収集・分析を行うことができることを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することも目的とする。その成果として、一定水準の報告または学部学生としてふさわしい水準の卒業論文を作成することを目的とする。

【到達目標】

演習2では、ゼミ参加学生を2つないし3つのグループに分け、それぞれのグループで管理会計、または会計学に関連したテーマを選択し、他大学との間で実施されるインターゼミの報告会に向けて準備を進める。そのプロセスで、文献レビュー、データの収集・分析および検討を行い様々な角度から卒論についての検討を行えることを目標とする。4年生は各自が選択した卒論のテーマについて、文献レビューを継続するとともに、各人でデータの収集・分析を行うことで、より学術的な観点からの文献や収集したデータの分析、検討が行えることを目標とする。また、3年生、4年生とも、研究上必要とされる統計的な分析技法の習得、また実際の分析の実施、またはケース研究の方法、およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習2は基本的に対面で授業を行う予定です。3年生は、例年12月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。4年生は卒業論文の完成に向けて、その経過の報告を一人数回行ってもらいます。毎回、コメントを行いますので、次の報告ではそのコメントについて自分考えも含め報告してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告テーマの選定	インゼミでの報告テーマについて、管理会計との関連性及び研究可能性の観点から検討を行う。卒業論文についてはより具体的なテーマの設定を行う。
第2回	具体的な問題設定	選択したテーマについて、今回の報告で何を、どこまで明らかにしたいのかをグループディスカッションを通じて明確にする。
第3回	関連した文献レビュー	テーマに関連した文献を収集し、各自レビューを行うとともに、その内容について報告する。
第4回	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第3回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行い、これまでに何がわかっているのか、何が残された課題なのかを明らかにすることを通じて、各班の問題設定を行う。
第5回	問題の明確化	4年生についてこの回までに卒業論文の第3回目の報告を行うこと。文献レビューをふまえ、テーマに関連して何がどこまでわかっているのかを明確にする。
第6回	リサーチクエスチョンの設定	研究テーマに関わるリサーチクエスチョンの設定を行う。
第7回	必要な文献またデータの探索	前回の議論に基づいて、必要とされる文献、また問題解決に必要なデータを各班で探索する。

第8回	必要なデータの入手方法の確認 卒業論文の第4回報告	これまでの文献レビューまた問題意識をふまえて、報告のために収集すべきデータ、またそれらのデータの入手方法について検討する。 4年生についてこの回までに卒業論文の第4回目の報告を行うこと。 研究に必要なデータの収集、およびそれらのデータの分析方法について考察する。
第9回	データの分析方法について	分析に必要とされる財務的なデータまたは必要な場合にはインタビュー調査のための準備を行う。
第10回	データの収集と分析(1)	入手した情報に基づいて分析を行い、その分析結果についてゼミの場で議論を行う。
第11回	データの収集と分析(2)	前回の議論に基づいて、一層のデータ分析を行う。
第12回	分析結果の検討 卒業論文の第5回報告	4年生についてこの回までに卒業論文の第5回目の報告を行うこと。
第13回	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
第14回	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習IIでは各グループの選択したテーマ、また卒業論文のテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについてのまとめと自分なりの考察を行っておくこと。報告を通じて出された質問について、残された課題は次の回までに意見をまとめ、それについてさらなる議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて論文などを適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

インゼミでの報告テーマに関する事前の報告内容、また4年生の場合には卒業論文のテーマに関する報告およびその成果(60%)とゼミの議論への積極的な参加の程度(40%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生から、データ分析の方法についてもっと知りたいとの意見がありますので、この点も詳しく説明をしていきたいと思います。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、その他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

In Seminar 2, two (or three) groups are organized for the inter-seminar held in December each year, and each group is asked to set a theme for its report. For the fourth year students, the theme for their graduation thesis should be set more clearly. For the fourth-year students, the theme will be more clearly defined for their graduation thesis. The purpose of the project is to review literature related to the theme set by each group, and to collect and analyze data in groups or individually for the fourth-year students. In this process, students will learn statistical analysis techniques and case study methods. In the process, they aim to learn statistical analysis techniques and case study methods. The final result will be a report of a certain standard or a graduation thesis appropriate for an undergraduate student.

In this class, students participating in the seminar are divided into two groups, and each group chooses a theme and conducts a literature review, data collection and analysis, and discussion for the inter-seminar debriefing session held every December with other universities. 4th year students The fourth year students will continue the literature review and collect and analyze data on the thesis topic of their choice. Both third- and fourth-year students are expected to learn statistical analysis techniques, case study methods, and presentation skills.

In Seminar 2, students are required to read the literature introduced by the instructor on the theme selected by each group and the theme of the graduation thesis, and to summarize and discuss the literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on the content of prior reports on the themes to be presented in the in-seminar and, in the case of fourth-year students, on reports on the theme of the graduation thesis (60%) and the degree of active participation in seminar discussions (40%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

福田 淳児

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習1では、企業の経営者や事業部管理者が組織内で行うさまざまな意思決定および企業やその下位の組織単位および当該組織単位の管理者の業績測定や評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念および理論を理解する。さらに、現実の企業の事例を取り上げること、実務の状況を理解することを目的とする。

【到達目標】

管理会計を学習する上で重要な概念およびいくつかの主要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、全社および下位の組織単位またその管理者の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的業績評価指標の内容およびその役立ちを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習1は、基本的に対面で授業を行います。演習では、ゼミの参加学生による報告およびそれについてのディスカッションを中心に授業を進めていきます。例年12月に開催される他大学との報告会（インターゼミ）に向けてテーマを選択するために、演習1では基本的な管理会計の考え方を中心に議論しながら学んでいきます。また、4年生については、3年次で学んだ管理会計に関する理論やそれに付随する知識に基づいて、卒業論文の報告またそこで出された質問や課題についての報告を行ってもらいます。質問や課題については、個別にまた次回の報告の際に議論を行うことでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の意義と目的	ゼミのスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点、戦略の策定と実行に役立つ管理会計の役割を検討する。
2	管理会計について	管理会計を学習する上で必要な基礎概念、また管理会計の機能について説明する。
3	組織構造とマネジメント・コントロールとの関係性について	多様な組織構造とそれぞれの組織構造のもとでのマネジメントの問題について議論する。
4	業績管理アプローチの方法	業績管理に関わる管理会計の概念およびいくつかのケースについて議論する。
5	卒業論文の概要紹介	様々なタイプの責任センターとそのマネジメント上の特徴や問題について、事例を交えながら議論する。
6	多様な責任センター（プロフィットセンターを中心に）	投資センターの特徴とその業績指標について事例を交えながら議論する。
7	業績目標の設定方法	業績目標の設定方法およびそのタイトネスについて、事例を交えながら議論する。
8	卒業論文の第1回報告	4年生についてはこの回までに第1回目の卒業論文の報告を行なってください。
9	インセンティブシステム	各企業におけるインセンティブシステムの設計について、その特徴を明らかにする。
10	マネジメントコントロールと企業理念	企業理念とマネジメント・コントロールとの関係性についていくつかの事例を踏まえて明らかにする。
11	設備投資計画	設備投資の経済性計算の方法を紹介し、各技法についての議論を行う。また、実務での採用状況についても紹介する。
12	原価管理	特に、狭義の原価管理である標準原価による原価管理について、いくつかの事例を交えながら説明する。

12	バランス・スコアカード	BSCのメカニズムおよびその意義を検討する。さらに、ケースを取り上げ検討する。
13	原価企画	原価企画のメカニズムおよびその実例を紹介する。
14	ABC/ABM 卒業論文の第2回報告	製造間接費の配賦の問題についての新しい原価計算方法について説明する。 4年生についてはこの回までに1回目の報告のコメントに基づいて、2回目の卒業論文の報告を行なってください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについて、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文やケースを読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず事前に質問内容を考えておくこと。その際、基本的なテクニカルタームについては調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木康晴. 2024. 『組織構造の会計学 マネジメントコントロールの理論と実践』株式会社日経BP (3,200円＋税)

【参考書】

必要に応じて、文献や論文を指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告担当のテーマに関する報告内容(40%)とゼミの議論への積極的な参加の程度(30%)およびレポートの提出(30%)に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生から、管理会計の理論と同時に、管理会計技法の実務での利用方法について知りたいという要望を受けています。できるだけ理論との関連で、実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

The objective of Seminar 1 is to understand the basic concepts and theories involved in the design of management accounting systems that provide accounting information useful for the various decisions made by corporate executives and business unit managers in their organizations and for the performance measurement and evaluation of corporate and subordinate organizational units and their managers.

By studying the basic concepts and important themes of management accounting, the course aims to provide students with the basic knowledge and concepts necessary for studying and researching management accounting. In addition, the seminar aims to help students understand the contents and usefulness of financial and non-financial indicators for performance measurement and evaluation of company-wide and subordinate organizational units.

Students are expected to read the relevant sections of the textbook, as well as the papers and cases presented, on the topics to be discussed in the seminar. Those in charge of presentations should prepare their presentations using PowerPoint. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance, and research the basic technical terms. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades in the exercises will be based on the content of the report on the theme of the presenter (40%), the degree of active participation in the seminar discussions (30%), and the submission of reports (30%).

演習6

福田 淳児

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2では、毎年12月に開催される予定の他大学とのインターゼミナールに向け、3年生を中心に2つないし3つのグループを編成し、グループごとに管理会計または会計に関連した研究テーマを設定してもらう。4年生については卒業論文のための具体的なテーマを明確に設定し、卒業論文の作成に取り組む。3年生また4年生は、それぞれが設定したテーマに関連した文献レビューを行うとともに、グループまたは個人でデータを収集・分析を行うことができることを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することも目的とする。その成果として、一定水準の報告または学部学生としてふさわしい水準の卒業論文を作成することを目的とする。

【到達目標】

演習2では、ゼミ参加学生を2つないし3つのグループに分け、それぞれのグループで管理会計、または会計学に関連したテーマを選択し、他大学との間で実施されるインターゼミの報告会に向けて準備を進める。そのプロセスで、文献レビュー、データの収集・分析および検討を行い様々な角度から卒論についての検討を行えることを目標とする。4年生は各自が選択した卒論のテーマについて、文献レビューを継続するとともに、各人でデータの収集・分析を行うことで、より学術的な観点からの文献や収集したデータの分析、検討が行えることを目標とする。また、3年生、4年生とも、研究上必要とされる統計的な分析技法の習得、また実際の分析の実施、またはケース研究の方法、およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習2は基本的に対面で授業を行う予定です。3年生は、例年12月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。4年生は卒業論文の完成に向けて、その経過の報告を一人数回行ってもらいます。毎回、コメントを行いますので、次の回の報告ではそのコメントについて自分考えも含め報告してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告テーマの選定	インゼミでの報告テーマについて、管理会計との関連性及び研究可能性の観点から検討を行う。卒業論文についてはより具体的なテーマの設定を行う。
第2回	具体的な問題設定	選択したテーマについて、今回の報告で何を、どこまで明らかにしたいのかをグループディスカッションを通じて明確にする。
第3回	関連した文献レビュー	テーマに関連した文献を収集し、各自レビューを行うとともに、その内容について報告する。
第4回	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第3回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行い、これまでに何がわかっているのか、何が残された課題なのかを明らかにすることを通じて、各班の問題設定を行う。
第5回	問題の明確化	4年生についてこの回までに卒業論文の第3回目の報告を行うこと。文献レビューをふまえ、テーマに関連して何がどこまでわかっているのかを明確にする。
第6回	リサーチクエスションの設定	研究テーマに関わるリサーチクエスションの設定を行う。
第7回	必要な文献またデータの探索	前回の議論に基づいて、必要とされる文献、また問題解決に必要なデータを各班で探索する。

第8回	必要なデータの入手方法の確認 卒業論文の第4回報告	これまでの文献レビューまた問題意識をふまえて、報告のために収集すべきデータ、またそれらのデータの入手方法について検討する。 4年生についてこの回までに卒業論文の第4回目の報告を行うこと。 研究に必要なデータの収集、およびそれらのデータの分析方法について考察する。
第9回	データの分析方法について	分析に必要とされる財務的なデータまたは必要な場合にはインタビュー調査のための準備を行う。
第10回	データの収集と分析(1)	入手した情報に基づいて分析を行い、その分析結果についてゼミの場で議論を行う。
第11回	データの収集と分析(2)	前回の議論に基づいて、一層のデータ分析を行う。
第12回	分析結果の検討 卒業論文の第5回報告	4年生についてこの回までに卒業論文の第5回目の報告を行うこと。
第13回	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
第14回	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習IIでは各グループの選択したテーマ、また卒業論文のテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについてのまとめと自分なりの考察を行っておくこと。報告を通じて出された質問について、残された課題は次の回までに意見をまとめ、それについてさらなる議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて論文などを適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

インゼミでの報告テーマに関する事前の報告内容、また4年生の場合には卒業論文のテーマに関する報告およびその成果(60%)とゼミの議論への積極的な参加の程度(40%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生から、データ分析の方法についてもっと知りたいとの意見がありますので、この点も詳しく説明をしていきたいと思っています。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、その他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

In Seminar 2, two (or three) groups are organized for the inter-seminar held in December each year, and each group is asked to set a theme for its report. For the fourth year students, the theme for their graduation thesis should be set more clearly. For the fourth-year students, the theme will be more clearly defined for their graduation thesis. The purpose of the project is to review literature related to the theme set by each group, and to collect and analyze data in groups or individually for the fourth-year students. In this process, students will learn statistical analysis techniques and case study methods. In the process, they aim to learn statistical analysis techniques and case study methods. The final result will be a report of a certain standard or a graduation thesis appropriate for an undergraduate student.

In this class, students participating in the seminar are divided into two groups, and each group chooses a theme and conducts a literature review, data collection and analysis, and discussion for the inter-seminar debriefing session held every December with other universities. 4th year students The fourth year students will continue the literature review and collect and analyze data on the thesis topic of their choice. Both third- and fourth-year students are expected to learn statistical analysis techniques, case study methods, and presentation skills.

In Seminar 2, students are required to read the literature introduced by the instructor on the theme selected by each group and the theme of the graduation thesis, and to summarize and discuss the literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on the content of prior reports on the themes to be presented in the in-seminar and, in the case of fourth-year students, on reports on the theme of the graduation thesis (60%) and the degree of active participation in seminar discussions (40%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

福多 裕志

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、企業を取り巻く政治、経済、文化環境を加味しながら、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PCおよびエクセルを常時使用し、基礎的統計手法を援用した財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では最終的に、日・英両言語による議論の可能性を模索する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初めに日・英両語の標準的教科書を参照し、管理会計フレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する計算問題を解く。参加者の解法を全員で共有し、毎回の討論によりフィードバックを得る。可能な限り、現実のデータを演習問題に代入し、解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連資料は、すべて学習支援システムを通して配布するので、常に注意を払うことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第2回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第3回	管理会計の枠組み：財務会計との相違	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第4回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第5回	発表：その1	第4回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第6回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第7回	損益分岐点（BEP）分析：その1	BEP分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第8回	損益分岐点（BEP）分析：その2	BEP分析とオペレーティング・レバレッジ
第9回	損益分岐点（BEP）分析：その3	BEP分析とCVP分析の比較・検討
第10回	財務諸表分析：その1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第11回	財務諸表分析：その2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第12回	財務データの統計処理：記述統計その1	財務データの基本統計解析
第13回	財務データの統計処理：記述統計その2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第14回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する話題を日英両語によって議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、授業支援システムに掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいて作成されたスライドを用いる。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
 - 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000年.
 - 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.
- （より詳細な参考文献リストを授業支援システム上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80％）、レポート（20％）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを利用し現実の財務データを処理・解導出を行うのでExcelの操作技術が必要となる。Excelの基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する学習開始時点の素晴らしい動機を維持し、各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】

統計学 I / II、管理会計論 I / II

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

[Learning objectives]

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting
- 2) process data using basic statistics techniques
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese

[Learning activities outside of classroom]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Class contributions (80%), Essay (20%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

福多 裕志

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、企業を取り巻く政治、経済、文化環境を加味しながら、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PCを常時使用し、基礎的統計手法を援用した財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語による議論を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初めに日・英両語の標準的教科書を参照し、管理会計フレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する計算問題を解く。参加者の解法を全員で共有し、毎回の討論によりフィードバックを得る。可能な限り、現実のデータを演習問題に代入し、解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連資料は、すべて学習支援システムを通して配布するので、常に注意を払うことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期学習計画および財務諸表分析への統計学の応用：その1	推測統計学と財務諸表分析
第2回	財務諸表分析への統計学の応用：その2	業界平均値の推定、正規分布
第3回	財務諸表分析への統計学の応用：その3	業界平均値の推定、t分布
第4回	財務諸表分析への統計学の応用：その4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第5回	財務諸表分析への統計学の応用：その5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t検定
第6回	事例発表1	推定・検定を応用した事例研究（企業レベル）
第7回	事例発表2	推定・検定を応用した事例研究（業界レベル）
第8回	資本予算：その1	設備投資決定計算の基本枠組み
第9回	資本予算：その2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第10回	資本予算：その3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第11回	資本予算：その4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第12回	資本予算：その5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第13回	資本予算：その6	設備投資決定問題における税金の問題とインフレーションの影響
第14回	秋学期総括	秋学期学習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努める。幾つかの学習方法上のヒントは、学習支援システムに掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000年.
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年. (より詳細な参考文献リストをLMS上に掲載するので参照のこと。)

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80％）、レポート（20％）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを利用し現実の財務データを処理・解導出を行うのでExcelの操作技術が必要となる。1、2年次に電算関連科目を受講するか、もしくはExcelの基本操作事項を独習し各自慣れておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する学習開始時点の素晴らしい動機を維持し、各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】

統計学Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

【Learning objectives】

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

福多 裕志

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、企業を取り巻く政治、経済、文化環境を加味しながら、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PCおよびエクセルを常時使用し、基礎的統計手法を援用した財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では最終的に、日・英両言語による議論の可能性を模索する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初めに日・英両語の標準的教科書を参照し、管理会計フレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する計算問題を解く。参加者の解法を全員で共有し、毎回の討論によりフィードバックを得る。可能な限り、現実のデータを演習問題に代入し、解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連資料は、すべて学習支援システムを通して配布するので、常に注意を払うことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第2回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第3回	管理会計の枠組み：財務会計との相違	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第4回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第5回	発表：その1	第4回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第6回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第7回	損益分岐点（BEP）分析：その1	BEP分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第8回	損益分岐点（BEP）分析：その2	BEP分析とオペレーティング・レバレッジ
第9回	損益分岐点（BEP）分析：その3	BEP分析とCVP分析の比較・検討
第10回	財務諸表分析：その1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第11回	財務諸表分析：その2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第12回	財務データの統計処理：記述統計その1	財務データの基本統計解析
第13回	財務データの統計処理：記述統計その2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第14回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する話題を日英両語によって議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、授業支援システムに掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいて作成されたスライドを用いる。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
 - 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000年.
 - 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.
- （より詳細な参考文献リストを授業支援システム上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80％）、レポート（20％）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを利用し現実の財務データを処理・解導出を行うのでExcelの操作技術が必要となる。Excelの基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する学習開始時点の素晴らしい動機を維持し、各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】

統計学 I / II、管理会計論 I / II

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

[Learning objectives]

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting
- 2) process data using basic statistics techniques
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese

[Learning activities outside of classroom]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Class contributions (80%), Essay (20%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

福多 裕志

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、企業を取り巻く政治、経済、文化環境を加味しながら、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PCを常時使用し、基礎的統計手法を援用した財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語による議論を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初めに日・英両語の標準的教科書を参照し、管理会計フレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する計算問題を解く。参加者の解法を全員で共有し、毎回の討論によりフィードバックを得る。可能な限り、現実のデータを演習問題に代入し、解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連資料は、すべて学習支援システムを通して配布するので、常に注意を払うことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期学習計画および財務諸表分析への統計学の応用：その1	推測統計学と財務諸表分析
第2回	財務諸表分析への統計学の応用：その2	業界平均値の推定、正規分布
第3回	財務諸表分析への統計学の応用：その3	業界平均値の推定、t分布
第4回	財務諸表分析への統計学の応用：その4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第5回	財務諸表分析への統計学の応用：その5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t検定
第6回	事例発表1	推定・検定を応用した事例研究（企業レベル）
第7回	事例発表2	推定・検定を応用した事例研究（業界レベル）
第8回	資本予算：その1	設備投資決定計算の基本枠組み
第9回	資本予算：その2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第10回	資本予算：その3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第11回	資本予算：その4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第12回	資本予算：その5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第13回	資本予算：その6	設備投資決定問題における税金の問題とインフレーションの影響
第14回	秋学期総括	秋学期学習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努める。幾つかの学習方法上のヒントは、学習支援システムに掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000年.
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年. (より詳細な参考文献リストをLMS上に掲載するので参照のこと。)

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80％）、レポート（20％）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを利用し現実の財務データを処理・解導出を行うのでExcelの操作技術が必要となる。1、2年次に電算関連科目を受講するか、もしくはExcelの基本操作事項を独習し各自慣れておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する学習開始時点の素晴らしい動機を維持し、各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】

統計学Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

【Learning objectives】

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

福多 裕志

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、企業を取り巻く政治、経済、文化環境を加味しながら、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PCおよびエクセルを常時使用し、基礎的統計手法を援用した財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では最終的に、日・英両言語による議論の可能性を模索する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初めに日・英両語の標準的教科書を参照し、管理会計フレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する計算問題を解く。参加者の解法を全員で共有し、毎回の討論によりフィードバックを得る。可能な限り、現実のデータを演習問題に代入し、解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連資料は、すべて学習支援システムを通して配布するので、常に注意を払うことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第2回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第3回	管理会計の枠組み：財務会計との相違	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第4回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第5回	発表：その1	第4回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第6回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第7回	損益分岐点（BEP）分析：その1	BEP分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第8回	損益分岐点（BEP）分析：その2	BEP分析とオペレーティング・レバレッジ
第9回	損益分岐点（BEP）分析：その3	BEP分析とCVP分析の比較・検討
第10回	財務諸表分析：その1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第11回	財務諸表分析：その2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第12回	財務データの統計処理：記述統計その1	財務データの基本統計解析
第13回	財務データの統計処理：記述統計その2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第14回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する話題を日英両語によって議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、授業支援システムに掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいて作成されたスライドを用いる。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
 - 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000年.
 - 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.
- （より詳細な参考文献リストを授業支援システム上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80％）、レポート（20％）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを利用し現実の財務データを処理・解導出を行うのでExcelの操作技術が必要となる。Excelの基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する学習開始時点の素晴らしい動機を維持し、各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】

統計学 I / II、管理会計論 I / II

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

[Learning objectives]

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting
- 2) process data using basic statistics techniques
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese

[Learning activities outside of classroom]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Class contributions (80%), Essay (20%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

福多 裕志

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、企業を取り巻く政治、経済、文化環境を加味しながら、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PCを常時使用し、基礎的統計手法を援用した財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語による議論を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初めに日・英両語の標準的教科書を参照し、管理会計フレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する計算問題を解く。参加者の解法を全員で共有し、毎回の討論によりフィードバックを得る。可能な限り、現実のデータを演習問題に代入し、解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連資料は、すべて学習支援システムを通して配布するので、常に注意を払うことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期学習計画および財務諸表分析への統計学の応用：その1	推測統計学と財務諸表分析
第2回	財務諸表分析への統計学の応用：その2	業界平均値の推定、正規分布
第3回	財務諸表分析への統計学の応用：その3	業界平均値の推定、t分布
第4回	財務諸表分析への統計学の応用：その4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第5回	財務諸表分析への統計学の応用：その5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t検定
第6回	事例発表1	推定・検定を応用した事例研究（企業レベル）
第7回	事例発表2	推定・検定を応用した事例研究（業界レベル）
第8回	資本予算：その1	設備投資決定計算の基本枠組み
第9回	資本予算：その2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第10回	資本予算：その3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第11回	資本予算：その4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第12回	資本予算：その5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第13回	資本予算：その6	設備投資決定問題における税金の問題とインフレーションの影響
第14回	秋学期総括	秋学期学習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努める。幾つかの学習方法上のヒントは、学習支援システムに掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000年.
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年. (より詳細な参考文献リストをLMS上に掲載するので参照のこと。)

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80％）、レポート（20％）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを利用し現実の財務データを処理・解導出を行うのでExcelの操作技術が必要となる。1、2年次に電算関連科目を受講するか、もしくはExcelの基本操作事項を独習し各自慣れておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する学習開始時点の素晴らしい動機を維持し、各自の目的を成就して欲しい。

【関連科目】

統計学Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

【Learning objectives】

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Class contributions(80%), Essay(20%)

演習1

洞口 治夫

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、組織能力と人的資源管理に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストを輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てながら、英会話能力を高めていきます。

【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、さらに、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミや卒業論文構想発表会では、他大学の学生や教授からの質疑応答に答えることで自らの研究へのフィードバックを得ることができ、学問を通じた交流をすることができます。そうしたフィードバックを得ることから法政大学経営学部で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法や現地調査、論文読破の方法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。OB・OG会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	慶応とのインターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。人事部の活動とマーケティング活動。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。

第13回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。四年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。今年度も参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。三年生は実用英語検定、TOEFLないしTOEICの受験結果を提出してきました。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それを学生諸君の就職選択にも役立てます。

【テキスト（教科書）】

白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語de人事－日英対訳による実践的人事－』文真堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。

【参考書】

- ①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いっずな書店、初版、2017年、第7刷、2021年。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞
④ Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
＜この本のなかから、今年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。＞

【成績評価の方法と基準】

授業の参加態度（欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問）（28％）
慶応とのインターゼミへの参加（12％）
合宿やフィールドワークなどの企画と参加（12％）
ゼミ活動への積極的参加（ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画）（8％）
期末試験（40％）（2年次・進級レポート作成中間報告）、（3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告）、（4年次・卒業論文中間報告）

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。2024年度は中小企業懸賞論文で準賞を獲得しました。2003年度から商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文に応募するゼミ学生を指導しており、グループで調査・研究を行うよう指導してきました。2024年度までにゼミ学生が通算10回の入賞を果たしました。本賞4作品、準賞6作品の受賞です。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。
③SAプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のOB・OGも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。

◎洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on human resource management and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

演習2

洞口 治夫

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、組織能力と人的資源管理に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、さらに、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミや卒業論文構想発表会では、他大学の学生や教授からの質疑応答に答えることで自らの研究へのフィードバックを得ることができ、学問を通じた交流をすることができます。そうしたフィードバックを得ることから法政大学経営学部で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法や現地調査、論文読破の方法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	他大学とのインターゼミの研究計画。教科書進捗の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析の方法。
第3回	テキスト輪読。OB会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	他大学とのインターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。人的資源管理の専門用語。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。他大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。今年度も参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出してきました。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語de人事－日英対訳による実践的人事－』文真堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。

【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第7版。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞
- ④Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
＜この本のなかから、今年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章ないしケーススタディを読み進めます。＞

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど）（28％）
他大学とのインターゼミへの参加（12％）
合宿などへの参加（12％）
ゼミ活動への貢献的参加（8％）
期末試験（40％）（進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次)）
無断欠席をした場合には成績評価での減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、過去に本賞、準賞を受賞した学年がいました。2024年度には準賞を受賞したチームがありました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on human resource management and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

演習3

洞口 治夫

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、組織能力と人的資源管理に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、さらに、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミや卒業論文構想発表会では、他大学の学生や教授からの質疑応答に答えることで自らの研究へのフィードバックを得ることができ、学問を通じた交流をすることができます。そうしたフィードバックを得ることから法政大学経営学部で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法や現地調査、論文読破の方法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。OB・OG会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。

第13回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。四年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。今年度も参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】

白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語de人事－日英対訳による実践的人事－』文真堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。

【参考書】

- ①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いっずな書店、初版、第7刷。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
 - ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
 - ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞
 - ④ Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
- ＜この本のなかから、2025年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。＞

【成績評価の方法と基準】

授業の参加態度（欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問）（28％）
 慶応とのインターゼミへの参加（12％）
 合宿やフィールドワークなどの企画と参加（12％）
 ゼミ活動への積極的参加（ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画）（8％）
 期末試験（40％）（2年次・進級レポート作成中間報告）、（3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告）、（4年次・卒業論文中間報告）
 無断欠席をした場合には減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のOB・OGも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは優良企業で活躍しています。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on human resource management and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

演習4

洞口 治夫

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、組織能力と人的資源管理に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、さらに、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミや卒業論文構想発表会では、他大学の学生や教授からの質疑応答に答えることで自らの研究へのフィードバックを得ることができ、学問を通じた交流をすることができます。そうしたフィードバックを得ることから法政大学経営学部で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法や現地調査、論文読破の方法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	他大学とのインターゼミの研究計画。教科書進捗の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。OB会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	他大学とのインターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。上智大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。今年度も参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出してきました。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語de人事－日英対訳による実践的人事－』文真堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。

【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第7版。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞
- ④Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
＜この本のなかから、今年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。＞

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど）（28％）
他大学とのインターゼミへの参加（12％）
合宿などへの参加（12％）
ゼミ活動への貢献的参加（8％）
期末試験（40％）（進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次)）
無断欠席をした場合には減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on human resource management and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

演習5

洞口 治夫

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、組織能力と人的資源管理に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、さらに、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミや卒業論文構想発表会では、他大学の学生や教授からの質疑応答に答えることで自らの研究へのフィードバックを得ることができ、学問を通じた交流をすることができます。そうしたフィードバックを得ることから法政大学経営学部で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法や現地調査、論文読破の方法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。OB・OG会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。

第13回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。四年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。今年度も参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出してきました。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】

白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語de人事－日英対訳による実践的人事－』文真堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。

【参考書】

- ①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いっずな書店、初版、第7刷。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞
- ④Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
＜この本のなかから、今年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。＞

【成績評価の方法と基準】

授業の参加態度（欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問）（28％）
 慶応とのインターゼミへの参加（12％）
 合宿やフィールドワークなどの企画と参加（12％）
 ゼミ活動への積極的参加（ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画）（8％）
 期末試験（40％）（2年次・進級レポート作成中間報告）、（3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告）、（4年次・卒業論文中間報告）

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のOB・OGも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on human resource management and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

演習6

洞口 治夫

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、組織能力と人的資源管理に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、さらに、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミや卒業論文構想発表会では、他大学の学生や教授からの質疑応答に答えることで自らの研究へのフィードバックを得ることができ、学問を通じた交流をすることができます。そうしたフィードバックを得ることから法政大学経営学部で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法や現地調査、論文読破の方法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	他大学とのインターゼミの研究計画。教科書進捗の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。OB会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	他大学とのインターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。他大学とのインターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。今年度も参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出してきました。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語de人事－日英対訳による実践的人事－』文真堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。

【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第7版。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞
- ④Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
＜この本のなかから、今年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。＞

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど）（28％）
他大学とのインターゼミへの参加（12％）
合宿などへの参加（12％）
ゼミ活動への貢献的参加（8％）
期末試験（40％）（進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次)）
無断欠席をした場合、減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on human resource management and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

宮澤 信二郎

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身に付け、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

この演習の到達目標は以下の通りです。

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる。
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 経済学の入門的な教科書をもとに、経済学の基礎を確認し、関連する時事問題について参加者全員で議論する。基礎の確認および議論内容について、授業内で担当教員が講評を行う。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行い、夏合宿においてその成果報告を行い、最後に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／経済学ってどんな学問？	演習の進め方について確認する。また、新聞記事に基づいて、時事問題について検討する。さらに、テキストの第1部を参考に、経済学の考え方と方法について確認する。
第2回	供給と需要（1）	テキストの第3・4章を参考に、市場の働きについての理解を確認する。また、時事問題について、市場の働きとの関連で検討する。
第3回	供給と需要（2）	テキストの第4・5章を参考に、市場の働きと政策の影響についての理解を確認する。また、時事問題について、市場の働きと政策の関連で検討する。
第4回	国際貿易	テキストの第6章を参考に、国際貿易についての理解を確認する。また、時事問題について、国際貿易の理論を踏まえて検討する。
第5回	意思決定	テキストの第7章を参考に、意思決定の理論についての理解を確認する。また、時事問題について、意思決定の理論を踏まえて検討する。
第6回	経済学と公共政策	テキストの第8章を参考に、市場の失敗と公共政策の役割についての理解を確認する。また、時事問題について、市場の失敗との関連で検討する。これまでの復習をするともに、共同研究のテーマを検討する。
第7回	復習／共同研究のテーマ検討	テキストの第9章を参考に、経済の全体についての理解を確認する。また、時事問題について、経済の全体像との関連で検討する。
第8回	マクロ経済学:経済の全体像	テキストの第10章を参考に、GDPとCPIについての理解を確認する。また、GDPとCPIに関連する時事問題について検討する。
第9回	GDPとCPI：マクロ経済を迫る	テキストの第11章を参考に、失業とインフレーションについての理解を確認する。また、失業とインフレーションに関連する時事問題について検討する。
第10回	失業とインフレーション	

第11回 長期の経済成長

テキストの第12章を参考に、経済成長についての理解を確認する。また、経済成長に関連する時事問題について検討する。

第12回 貯蓄、投資支出、金融システム

テキストの第13章を参考に、貯蓄と投資の関係および金融システムについての理解を確認する。また、貯蓄・投資と金融システムに関連する時事問題について検討する。

第13回 総需要と総供給

テキストの第14章を参考に、マクロの総需要・総供給と景気に関する理解を確認する。また、景気と経済政策に関連する時事問題について検討する。

第14回 まとめ

共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告（夏合宿）の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 事前にテキストの指定箇所を精読する。
 - 3) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クルーグマン・ウェルス（大山ほか訳）『クルーグマン入門経済学』東洋経済新報社（2025年）3,400円＋税

【参考書】

マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング（2025年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経TESTを受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject.

[Learning Objectives] The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

[Learning activities outside of classroom] You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Reading the designated sections of the textbook thoroughly in advance.
 - 3) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.

[Grading Criteria/ Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (100%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

宮澤 信二郎

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

この演習の到達目標は以下の通りです。

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。その後、担当教員の講評を受ける。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。共同研究の成果は成果報告書にまとめ、担当教員の講評を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のイントロダクション／春学期の共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。
第2回	グループワーク（1）	共同研究のテーマについて、グループごとで情報収集をする。
第3回	グループ・ワーク（2）	共同研究のテーマについて、グループごとで議論をし、追加の情報収集を行う。
第4回	経済理論の学習（1）	共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第5回	グループ・ワーク（3）	共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第6回	共同研究の秋学期（中間）報告（1）	半数のグループが、共同研究に関する中間報告を行う。
第7回	共同研究の秋学期（中間）報告（2）	残りのグループが、共同研究に関する中間報告を行う。
第8回	グループ・ワーク（4）	中間報告の結果を受けて、共同研究のテーマについて、グループごとで、追加の情報収集をする。
第9回	グループ・ワーク（5）	共同研究のテーマについて、グループごとで議論をし、追加の情報収集をする。
第10回	経済理論の学習（2）	共同研究に関連して、追加が必要が明らかになった経済理論について学ぶ。
第11回	グループ・ワーク（6）	共同研究のテーマについて、グループ内で分担して、成果報告書の作成を始める。
第12回	グループ・ワーク（7）	共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書のとりまとめを行う。
第13回	グループ・ワーク（8）	共同研究の成果報告書に関して、教員のコメントを受けるなどして、ブラッシュアップを図る。
第14回	まとめ	共同研究のテーマについて、グループに分かれて、成果報告書の完成を図る。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

開講後に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）と最終報告書（30%）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いですので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経TESTを受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject.

[Learning Objectives] The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

[Learning activities outside of classroom] You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
- 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.

Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.

[Grading Criteria/Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (70%) and term-end report (30%).

演習3

宮澤 信二郎

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身に付け、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

この演習の到達目標は以下の通りです。

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる。
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 経済学の入門的な教科書をもとに、経済学の基礎を確認し、関連する時事問題について参加者全員で議論する。基礎の確認および議論内容について、授業内で担当教員が講評を行う。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行い、夏合宿においてその成果報告を行い、最後に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／経済学ってどんな学問？	演習の進め方について確認する。また、新聞記事に基づいて、時事問題について検討する。さらに、テキストの第1部を参考に、経済学の考え方と方法について確認する。
第2回	供給と需要（1）	テキストの第3・4章を参考に、市場の働きについての理解を確認する。また、時事問題について、市場の働きとの関連で検討する。
第3回	供給と需要（2）	テキストの第4・5章を参考に、市場の働きと政策の影響についての理解を確認する。また、時事問題について、市場の働きと政策の関連で検討する。
第4回	国際貿易	テキストの第6章を参考に、国際貿易についての理解を確認する。また、時事問題について、国際貿易の理論を踏まえて検討する。
第5回	意思決定	テキストの第7章を参考に、意思決定の理論についての理解を確認する。また、時事問題について、意思決定の理論を踏まえて検討する。
第6回	経済学と公共政策	テキストの第8章を参考に、市場の失敗と公共政策の役割についての理解を確認する。また、時事問題について、市場の失敗との関連で検討する。これまでの復習をするともに、共同研究のテーマを検討する。
第7回	復習／共同研究のテーマ検討	テキストの第9章を参考に、経済の全体についての理解を確認する。また、時事問題について、経済の全体像との関連で検討する。
第8回	マクロ経済学:経済の全体像	テキストの第10章を参考に、GDPとCPIについての理解を確認する。また、GDPとCPIに関連する時事問題について検討する。
第9回	GDPとCPI：マクロ経済を迫る	テキストの第11章を参考に、失業とインフレーションについての理解を確認する。また、失業とインフレーションに関連する時事問題について検討する。
第10回	失業とインフレーション	

第11回 長期の経済成長

テキストの第12章を参考に、経済成長についての理解を確認する。また、経済成長に関連する時事問題について検討する。

第12回 貯蓄、投資支出、金融システム

テキストの第13章を参考に、貯蓄と投資の関係および金融システムについての理解を確認する。また、貯蓄・投資と金融システムに関連する時事問題について検討する。

第13回 総需要と総供給

テキストの第14章を参考に、マクロの総需要・総供給と景気に関する理解を確認する。また、景気と経済政策に関連する時事問題について検討する。

第14回 まとめ

共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告（夏合宿）の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 事前にテキストの指定箇所を精読する。
 - 3) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クルーグマン・ウェルス（大山ほか訳）『クルーグマン入門経済学』東洋経済新報社（2025年）3,400円＋税

【参考書】

マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング（2025年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経TESTを受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject.

[Learning Objectives] The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

[Learning activities outside of classroom] You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Reading the designated sections of the textbook thoroughly in advance.
 - 3) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.

[Grading Criteria/ Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (100%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

宮澤 信二郎

演習演習 選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

この演習の到達目標は以下の通りです。

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。その後、担当教員の講評を受ける。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。共同研究の成果は成果報告書にまとめ、担当教員の講評を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のイントロダクション／春学期の共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。
第2回	グループワーク（1）	共同研究のテーマについて、グループごとに情報収集をする。
第3回	グループ・ワーク（2）	共同研究のテーマについて、グループごとに議論をし、追加の情報収集を行う。
第4回	経済理論の学習（1）	共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第5回	グループ・ワーク（3）	共同研究のテーマについて、グループごとに、中間報告の準備を行う。
第6回	共同研究の秋学期（中間）報告（1）	半数のグループが、共同研究に関する中間報告を行う。
第7回	共同研究の秋学期（中間）報告（2）	残りのグループが、共同研究に関する中間報告を行う。
第8回	グループ・ワーク（4）	中間報告の結果を受けて、共同研究のテーマについて、グループごとに、追加の情報収集をする。
第9回	グループ・ワーク（5）	共同研究のテーマについて、グループごとに議論をし、追加の情報収集をする。
第10回	経済理論の学習（2）	共同研究に関連して、追加が必要が明らかになった経済理論について学ぶ。
第11回	グループ・ワーク（6）	共同研究のテーマについて、グループ内で分担して、成果報告書の作成を始める。
第12回	グループ・ワーク（7）	共同研究のテーマについて、グループごとに、成果報告書のとりまとめを行う。
第13回	グループ・ワーク（8）	共同研究の成果報告書に関して、教員のコメントを受けるなどして、ブラッシュアップを図る。
第14回	まとめ	共同研究のテーマについて、グループに分かれて、成果報告書の完成を図る。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

開講後に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）と最終報告書（30%）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いですので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとに確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経TESTを受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject.

[Learning Objectives] The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

[Learning activities outside of classroom] You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
- 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.

Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.

[Grading Criteria/Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (70%) and term-end report (30%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

宮澤 信二郎

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身に付け、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

この演習の到達目標は以下の通りです。

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる。
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 経済学の入門的な教科書をもとに、経済学の基礎を確認し、関連する時事問題について参加者全員で議論する。基礎の確認および議論内容について、授業内で担当教員が講評を行う。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行い、夏合宿においてその成果報告を行い、最後に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／経済学ってどんな学問？	演習の進め方について確認する。また、新聞記事に基づいて、時事問題について検討する。さらに、テキストの第1部を参考に、経済学の考え方と方法について確認する。
第2回	供給と需要（1）	テキストの第3・4章を参考に、市場の働きについての理解を確認する。また、時事問題について、市場の働きとの関連で検討する。
第3回	供給と需要（2）	テキストの第4・5章を参考に、市場の働きと政策の影響についての理解を確認する。また、時事問題について、市場の働きと政策の関連で検討する。
第4回	国際貿易	テキストの第6章を参考に、国際貿易についての理解を確認する。また、時事問題について、国際貿易の理論を踏まえて検討する。
第5回	意思決定	テキストの第7章を参考に、意思決定の理論についての理解を確認する。また、時事問題について、意思決定の理論を踏まえて検討する。
第6回	経済学と公共政策	テキストの第8章を参考に、市場の失敗と公共政策の役割についての理解を確認する。また、時事問題について、市場の失敗との関連で検討する。これまでの復習をするともに、共同研究のテーマを検討する。
第7回	復習／共同研究のテーマ検討	テキストの第9章を参考に、経済の全体についての理解を確認する。また、時事問題について、経済の全体像との関連で検討する。
第8回	マクロ経済学:経済の全体像	テキストの第10章を参考に、GDPとCPIについての理解を確認する。また、GDPとCPIに関連する時事問題について検討する。
第9回	GDPとCPI：マクロ経済を迫る	テキストの第11章を参考に、失業とインフレーションについての理解を確認する。また、失業とインフレーションに関連する時事問題について検討する。
第10回	失業とインフレーション	

第11回 長期の経済成長

テキストの第12章を参考に、経済成長についての理解を確認する。また、経済成長に関連する時事問題について検討する。

第12回 貯蓄、投資支出、金融システム

テキストの第13章を参考に、貯蓄と投資の関係および金融システムについての理解を確認する。また、貯蓄・投資と金融システムに関連する時事問題について検討する。

第13回 総需要と総供給

テキストの第14章を参考に、マクロの総需要・総供給と景気に関する理解を確認する。また、景気と経済政策に関連する時事問題について検討する。

第14回 まとめ

共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告（夏合宿）の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
- 2) 事前にテキストの指定箇所を精読する。
- 3) 分担に従い、共同研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クルーグマン・ウェルス（大山ほか訳）『クルーグマン入門経済学』東洋経済新報社（2025年）3,400円＋税

【参考書】

マンキュー（片桐ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング（2025年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経TESTを受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject.

[Learning Objectives] The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

[Learning activities outside of classroom] You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
- 2) Reading the designated sections of the textbook thoroughly in advance.
- 3) Promoting joint research in cooperation with colleagues.

Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.

[Grading Criteria/ Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (100%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

宮澤 信二郎

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

この演習の到達目標は以下の通りです。

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。その後、担当教員の講評を受ける。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。共同研究の成果は成果報告書にまとめ、担当教員の講評を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のイントロダクション／春学期の共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。
第2回	グループワーク（1）	共同研究のテーマについて、グループごとで情報収集をする。
第3回	グループ・ワーク（2）	共同研究のテーマについて、グループごとで議論をし、追加の情報収集を行う。
第4回	経済理論の学習（1）	共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第5回	グループ・ワーク（3）	共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第6回	共同研究の秋学期（中間）報告（1）	半数のグループが、共同研究に関する中間報告を行う。
第7回	共同研究の秋学期（中間）報告（2）	残りのグループが、共同研究に関する中間報告を行う。
第8回	グループ・ワーク（4）	中間報告の結果を受けて、共同研究のテーマについて、グループごとで、追加の情報収集をする。
第9回	グループ・ワーク（5）	共同研究のテーマについて、グループごとで議論をし、追加の情報収集をする。
第10回	経済理論の学習（2）	共同研究に関連して、追加が必要が明らかになった経済理論について学ぶ。
第11回	グループ・ワーク（6）	共同研究のテーマについて、グループ内で分担して、成果報告書の作成を始める。
第12回	グループ・ワーク（7）	共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書のとりまとめを行う。
第13回	グループ・ワーク（8）	共同研究の成果報告書に関して、教員のコメントを受けるなどして、ブラッシュアップを図る。
第14回	まとめ	共同研究のテーマについて、グループに分かれて、成果報告書の完成を図る。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

開講後に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）と最終報告書（30%）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いですので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経TESTを受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject.

[Learning Objectives] The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

[Learning activities outside of classroom] You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
- 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.

Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.

[Grading Criteria/Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (70%) and term-end report (30%).

演習 1

山崎 輝

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は目覚ましい進歩を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界にとどまらず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論の本質的なメッセージをできるだけシンプルかつ正確に理解することを重視します。

将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるよう、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を踏まえて様々なサポートを行います。さらに、Microsoft社のExcelを活用し、ファイナンスに関連する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得し、それを活用する方法も学びます。

【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最新の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価基準などの説明
第2回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第8回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックド証券（MBS）
第9回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1

第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敏介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

演習2

山 寄 輝

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務に役立つファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は急速な進展を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界のみならず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも大きな影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論が持つ本質的なメッセージを可能な限りシンプルかつ正確に理解することを重視します。

将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を基に、さまざまなサポートを行っていきます。さらに、年に1〜2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招き、実務家講演会を開催します。これまでに、メガバンク、大手証券会社、大手アセットマネジメント、外資系金融機関などのファンドマネージャーやアナリスト、トレーダー、投資コンサルタントが講演を行っています。

【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 金融実務の専門家と金融の様々な話題について対話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノミーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第4回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第5回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第6回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第8回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バリエーション

第11回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、Excel演習・宿題（30%）、平常点（20%）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Excel 演習や宿題では、Microsoft 社の Excel を使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

演習3

山崎 輝

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は目覚ましい進歩を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界にとどまらず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論の本質的なメッセージをできるだけシンプルかつ正確に理解することを重視します。

将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるよう、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を踏まえて様々なサポートを行います。さらに、Microsoft社のExcelを活用し、ファイナンスに関連する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得し、それを活用する方法も学びます。

【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最新の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価基準などの説明
第2回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第8回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックド証券（MBS）
第9回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1

第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敏介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加算されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

山 寄 輝

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務に役立つファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は急速な進展を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界のみならず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも大きな影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論が持つ本質的なメッセージを可能な限りシンプルかつ正確に理解することを重視します。

将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を基に、さまざまなサポートを行っていきます。さらに、年に1〜2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招き、実務家講演会を開催します。これまでに、メガバンク、大手証券会社、大手アセットマネジメント、外資系金融機関などのファンドマネージャーやアナリスト、トレーダー、投資コンサルタントが講演を行っています。

【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 金融実務の専門家と金融の様々な話題について対話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第4回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第5回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第6回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第8回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バリエーション

第11回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、Excel演習・宿題（30%）、平常点（20%）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Excel 演習や宿題では、Microsoft 社の Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成してください。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

演習5

山崎 輝

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は目覚ましい進歩を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界にとどまらず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論の本質的なメッセージをできるだけシンプルかつ正確に理解することを重視します。

将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるよう、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を踏まえて様々なサポートを行います。さらに、Microsoft社のExcelを活用し、ファイナンスに関連する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得し、それを活用する方法も学びます。

【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最新の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価基準などの説明
第2回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第8回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックド証券（MBS）
第9回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1

第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敏介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、Excel演習・宿題（30%）、平常点（20%）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

演習6

山 寄 輝

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務に役立つファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は急速な進展を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界のみならず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも大きな影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論が持つ本質的なメッセージを可能な限りシンプルかつ正確に理解することを重視します。

将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を基に、さまざまなサポートを行っていきます。さらに、年に1〜2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招き、実務家講演会を開催します。これまでに、メガバンク、大手証券会社、大手アセットマネジメント、外資系金融機関などのファンドマネージャーやアナリスト、トレーダー、投資コンサルタントが講演を行っています。

【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 金融実務の専門家と金融の様々な話題について対話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第4回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第5回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第6回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第8回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バリエーション

第11回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、Excel演習・宿題（30%）、平常点（20%）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Excel 演習や宿題では、Microsoft 社の Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成してください。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

演習 1

羅 鵬飛

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、世界経済の多様な課題について研究を進めます。優れた経済学・金融学の教科書を輪読し、国内外の経済情勢を把握しながら、現在進行中の国際経済の議論をフォローします。また、データ分析や政策評価の手法を学び、実証的に経済現象を理解する力を養います。目的は、世界経済の構造や変化を深く理解し、自らの視点を持って分析・考察する能力を高めることです。

【到達目標】

経済学・金融学の基礎を理解し、国際経済・金融の議論を追うための知識を身につける。

日本語・英語の経済文献を正確に読み解く力を養う。

経済データ分析の基礎を学び、統計的手法を用いた実証分析のスキルを習得する。

PowerPointを活用し、論文やプレゼンテーション資料を効果的に作成する能力を向上させる。

問題発見力と説得力のある論理的表現力を鍛える。

ゼミ内での協力を通じて、チームワークの重要性を理解し実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者による発表を基に、内容の確認と深掘りを行い、活発な議論を通じて理解を深めます。発表者は指定された範囲を分析し、データや事例を交えて説明し、他の参加者は質問や意見を交わしながら、議論を発展させます。また、希望者には専門的な論文の読解支援や英語文献の紹介を行い、より高度な分析力を身につける機会を提供します。輪読、課題等のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の説明、グループ分け
第2回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第3回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第4回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第5回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第6回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第7回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第8回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第9回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第10回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第11回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第12回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第13回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第14回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、輪読する部分を予習し、疑問点を清晰にしておく。

日々の市場動向を新聞やオンライン資料などでトラックする。

自主的に議論の準備を行い、意見交換に積極的に参加する。

準備と復習の標準時間は各2時間。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

2025年度は下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。図書館蔵書があります。

1. 棕寛,『自由貿易はなぜ必要なのか』,有斐閣,2020

2. 中室牧子,津川友介,『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』,ダイヤモンド社,2017

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書籍を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

輪読プレゼン内容（50%）、討論への参加度およびディスカッションでの貢献度（25%）、期末レポート（25%）。無断欠席は期末評価に大きく影響します。なお、無断欠席が3回以上の場合是不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

年に1〜2回、本演習に関連する施設の外部見学を実施予定です。見学先は受講学生との話し合いを通じて決定することも可能です。これにより、経済や金融の実務的な側面を体感し、理解を深める機会を提供します。

【関連科目】

国際金融論 I / II、国際経済学 I / II、統計学などの科目と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar provides an in-depth exploration of critical issues in the global economy. Through readings of key textbooks in economics and finance, students will gain insights into international economic dynamics, policy responses, and financial markets. Additionally, they will engage in discussions on emerging global challenges, develop empirical analysis skills using economic data, and refine their ability to interpret international economic indicators. The objective is to equip students with a comprehensive understanding of global economic structures and trends while fostering independent analytical and presentation skills.

(Learning Objectives)

- Understand the fundamentals of economics and finance to engage in international economic and financial discussions.

- Develop the ability to accurately interpret economic literature in both Japanese and English.

- Learn the basics of economic data analysis and acquire empirical analysis skills using statistical methods.

- Improve research and presentation skills using PowerPoint effectively.

- Strengthen problem-solving abilities and logical reasoning for persuasive argumentation.

- Foster teamwork through active collaboration in the seminar.

(Learning activities outside of classroom)

- Prepare assigned readings in advance and clarify any questions.

- Track daily market trends using newspapers and online sources.

- Proactively prepare for discussions and actively participate.

- Standard study time: 2 hours for preparation and 2 hours for review.

(Grading Criteria / Policy)

Reading presentation (50%), Participation and contribution in discussions (25%), Final report (25%)

Unexcused absences significantly affect the final grade.

Failing policy: Three or more unexcused absences result in failure.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

羅 鵬飛

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、世界経済の多様な課題について研究を進めます。優れた経済学・金融学の教科書を輪読し、国内外の経済情勢を把握しながら、現在進行中の国際経済の議論をフォローします。また、データ分析や政策評価の手法を学び、実証的に経済現象を理解する力を養います。目的は、世界経済の構造や変化を深く理解し、自らの視点を持って分析・考察する能力を高めることです。

【到達目標】

経済学・金融学の基礎を理解し、国際経済・金融の議論を追うための知識を身につける。

日本語・英語の経済文献を正確に読み解く力を養う。

経済データ分析の基礎を学び、統計的手法を用いた実証分析のスキルを習得する。

PowerPointを活用し、論文やプレゼンテーション資料を効果的に作成する能力を向上させる。

問題発見力と説得力のある論理的表現力を鍛える。

ゼミ内での協力を通じて、チームワークの重要性を理解し実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者による発表を基に、内容の確認と深掘りを行い、活発な議論を通じて理解を深めます。発表者は指定された範囲を分析し、データや事例を交えて説明し、他の参加者は質問や意見を交わしながら、議論を進展させます。また、希望者には専門的な論文の読解支援や英語文献の紹介を行い、より高度な分析力を身につける機会を提供します。輪読、課題等のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の説明、グループ分け
第2回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第3回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第4回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第5回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第6回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第7回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第8回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第9回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第10回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第11回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第12回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第13回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第14回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、輪読する部分を予習し、疑問点を清晰にしておく。
日々の市場動向を新聞やオンライン資料などでトラックする。
自主的に議論の準備を行い、意見交換に積極的に参加する。
準備と復習の標準時間は各2時間。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

2025年度は下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。図書館蔵書があります。

1. 棕寛,『自由貿易はなぜ必要なのか』,有斐閣,2020

2. 中室牧子,津川友介,『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』,ダイヤモンド社,2017

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書籍を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

輪読プレゼン内容（50%）、討論への参加度およびディスカッションでの貢献度（25%）、期末レポート（25%）。無断欠席は期末評価に大きく影響します。なお、無断欠席が3回以上の場合是不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

年に1～2回、本演習に関連する施設の外部見学を実施予定です。見学先は受講学生との話し合いを通じて決定することも可能です。これにより、経済や金融の実務的な側面を体感し、理解を深める機会を提供します。

【関連科目】

国際金融論 I / II、国際経済学 I / II、統計学などの科目と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar provides an in-depth exploration of critical issues in the global economy. Through readings of key textbooks in economics and finance, students will gain insights into international economic dynamics, policy responses, and financial markets. Additionally, they will engage in discussions on emerging global challenges, develop empirical analysis skills using economic data, and refine their ability to interpret international economic indicators. The objective is to equip students with a comprehensive understanding of global economic structures and trends while fostering independent analytical and presentation skills.

(Learning Objectives)

- Understand the fundamentals of economics and finance to engage in international economic and financial discussions.

- Develop the ability to accurately interpret economic literature in both Japanese and English.

- Learn the basics of economic data analysis and acquire empirical analysis skills using statistical methods.

- Improve research and presentation skills using PowerPoint effectively.

- Strengthen problem-solving abilities and logical reasoning for persuasive argumentation.

- Foster teamwork through active collaboration in the seminar.

(Learning activities outside of classroom)

- Prepare assigned readings in advance and clarify any questions.

- Track daily market trends using newspapers and online sources.

- Proactively prepare for discussions and actively participate.

- Standard study time: 2 hours for preparation and 2 hours for review.

(Grading Criteria / Policy)

Reading presentation (50%), Participation and contribution in discussions (25%), Final report (25%)

Unexcused absences significantly affect the final grade.

Failing policy: Three or more unexcused absences result in failure

演習3

羅 鵬飛

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、世界経済の多様な課題について研究を進めます。優れた経済学・金融学の教科書を輪読し、国内外の経済情勢を把握しながら、現在進行中の国際経済の議論をフォローします。また、データ分析や政策評価の手法を学び、実証的に経済現象を理解する力を養います。目的は、世界経済の構造や変化を深く理解し、自らの視点を持って分析・考察する能力を高めることです。

【到達目標】

経済学・金融学の基礎を理解し、国際経済・金融の議論を追うための知識を身につける。

日本語・英語の経済文献を正確に読み解く力を養う。

経済データ分析の基礎を学び、統計的手法を用いた実証分析のスキルを習得する。

PowerPointを活用し、論文やプレゼンテーション資料を効果的に作成する能力を向上させる。

問題発見力と説得力のある論理的表現力を鍛える。

ゼミ内での協力を通じて、チームワークの重要性を理解し実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者による発表を基に、内容の確認と深掘りを行い、活発な議論を通じて理解を深めます。発表者は指定された範囲を分析し、データや事例を交えて説明し、他の参加者は質問や意見を交わしながら、議論を発展させます。また、希望者には専門的な論文の読解支援や英語文献の紹介を行い、より高度な分析力を身につける機会を提供します。輪読、課題等のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の説明、グループ分け
第2回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第3回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第4回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第5回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第6回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第7回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第8回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第9回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第10回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第11回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第12回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第13回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第14回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、輪読する部分を予習し、疑問点を清晰にしておく。
日々の市場動向を新聞やオンライン資料などでトラックする。
自主的に議論の準備を行い、意見交換に積極的に参加する。
準備と復習の標準時間は各2時間。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

2025年度は下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。図書館蔵書があります。

1. 棕寛,『自由貿易はなぜ必要なのか』,有斐閣,2020

2. 中室牧子,津川友介,『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』,ダイヤモンド社,2017

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書籍を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

輪読プレゼンの内容（50%）、討論への参加度およびディスカッションでの貢献度（25%）、期末レポート（25%）。無断欠席は期末評価に大きく影響します。なお、無断欠席が3回以上の場合是不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

年に1～2回、本演習に関連する施設の外部見学を実施予定です。見学先は受講学生との話し合いを通じて決定することも可能です。これにより、経済や金融の実務的な側面を体感し、理解を深める機会を提供します。

【関連科目】

国際金融論 I / II、国際経済学 I / II、統計学などの科目と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar provides an in-depth exploration of critical issues in the global economy. Through readings of key textbooks in economics and finance, students will gain insights into international economic dynamics, policy responses, and financial markets. Additionally, they will engage in discussions on emerging global challenges, develop empirical analysis skills using economic data, and refine their ability to interpret international economic indicators. The objective is to equip students with a comprehensive understanding of global economic structures and trends while fostering independent analytical and presentation skills.

(Learning Objectives)

- Understand the fundamentals of economics and finance to engage in international economic and financial discussions.
 - Develop the ability to accurately interpret economic literature in both Japanese and English.
 - Learn the basics of economic data analysis and acquire empirical analysis skills using statistical methods.
 - Improve research and presentation skills using PowerPoint effectively.
 - Strengthen problem-solving abilities and logical reasoning for persuasive argumentation.
 - Foster teamwork through active collaboration in the seminar.
- (Learning activities outside of classroom)
- Prepare assigned readings in advance and clarify any questions.
 - Track daily market trends using newspapers and online sources.
 - Proactively prepare for discussions and actively participate.
 - Standard study time: 2 hours for preparation and 2 hours for review.
- (Grading Criteria / Policy)

Reading presentation (50%), Participation and contribution in discussions (25%), Final report (25%)

Unexcused absences significantly affect the final grade.

Failing policy: Three or more unexcused absences result in failure

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習 4

羅 鵬飛

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、世界経済の多様な課題について研究を進めます。優れた経済学・金融学の教科書を輪読し、国内外の経済情勢を把握しながら、現在進行中の国際経済の議論をフォローします。また、データ分析や政策評価の手法を学び、実証的に経済現象を理解する力を養います。目的は、世界経済の構造や変化を深く理解し、自らの視点を持って分析・考察する能力を高めることです。

【到達目標】

経済学・金融学の基礎を理解し、国際経済・金融の議論を追うための知識を身につける。

日本語・英語の経済文献を正確に読み解く力を養う。

経済データ分析の基礎を学び、統計的手法を用いた実証分析のスキルを習得する。

PowerPointを活用し、論文やプレゼンテーション資料を効果的に作成する能力を向上させる。

問題発見力と説得力のある論理的表現力を鍛える。

ゼミ内での協力を通じて、チームワークの重要性を理解し実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者による発表を基に、内容の確認と深掘りを行い、活発な議論を通じて理解を深めます。発表者は指定された範囲を分析し、データや事例を交えて説明し、他の参加者は質問や意見を交わしながら、議論を発展させます。また、希望者には専門的な論文の読解支援や英語文献の紹介を行い、より高度な分析力を身につける機会を提供します。輪読、課題等のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の説明、グループ分け
第2回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第3回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第4回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第5回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第6回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第7回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第8回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第9回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第10回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第11回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第12回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第13回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第14回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、輪読する部分を予習し、疑問点を清晰にしておく。
日々の市場動向を新聞やオンライン資料などでトラックする。
自主的に議論の準備を行い、意見交換に積極的に参加する。
準備と復習の標準時間は各2時間。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

2025年度は下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。図書館蔵書があります。

1. 棕寛,『自由貿易はなぜ必要なのか』,有斐閣,2020

2. 中室牧子,津川友介,『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』,ダイヤモンド社,2017

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書籍を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

輪読プレゼン内容（50%）、討論への参加度およびディスカッションでの貢献度（25%）、期末レポート（25%）。無断欠席は期末評価に大きく影響します。なお、無断欠席が3回以上の場合是不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

年に1～2回、本演習に関連する施設の外部見学を実施予定です。見学先は受講学生との話し合いを通じて決定することも可能です。これにより、経済や金融の実務的な側面を体感し、理解を深める機会を提供します。

【関連科目】

国際金融論 I / II、国際経済学 I / II、統計学などの科目と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar provides an in-depth exploration of critical issues in the global economy. Through readings of key textbooks in economics and finance, students will gain insights into international economic dynamics, policy responses, and financial markets. Additionally, they will engage in discussions on emerging global challenges, develop empirical analysis skills using economic data, and refine their ability to interpret international economic indicators. The objective is to equip students with a comprehensive understanding of global economic structures and trends while fostering independent analytical and presentation skills.

(Learning Objectives)

- Understand the fundamentals of economics and finance to engage in international economic and financial discussions.

- Develop the ability to accurately interpret economic literature in both Japanese and English.

- Learn the basics of economic data analysis and acquire empirical analysis skills using statistical methods.

- Improve research and presentation skills using PowerPoint effectively.

- Strengthen problem-solving abilities and logical reasoning for persuasive argumentation.

- Foster teamwork through active collaboration in the seminar.

(Learning activities outside of classroom)

- Prepare assigned readings in advance and clarify any questions.

- Track daily market trends using newspapers and online sources.

- Proactively prepare for discussions and actively participate.

- Standard study time: 2 hours for preparation and 2 hours for review.

(Grading Criteria / Policy)

Reading presentation (50%), Participation and contribution in discussions (25%), Final report (25%)

Unexcused absences significantly affect the final grade.

Failing policy: Three or more unexcused absences result in failure

演習5

羅 鵬飛

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、世界経済の多様な課題について研究を進めます。優れた経済学・金融学の教科書を輪読し、国内外の経済情勢を把握しながら、現在進行中の国際経済の議論をフォローします。また、データ分析や政策評価の手法を学び、実証的に経済現象を理解する力を養います。目的は、世界経済の構造や変化を深く理解し、自らの視点を持って分析・考察する能力を高めることです。

【到達目標】

経済学・金融学の基礎を理解し、国際経済・金融の議論を追うための知識を身につける。

日本語・英語の経済文献を正確に読み解く力を養う。

経済データ分析の基礎を学び、統計的手法を用いた実証分析のスキルを習得する。

PowerPointを活用し、論文やプレゼンテーション資料を効果的に作成する能力を向上させる。

問題発見力と説得力のある論理的表現力を鍛える。

ゼミ内での協力を通じて、チームワークの重要性を理解し実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者による発表を基に、内容の確認と深掘りを行い、活発な議論を通じて理解を深めます。発表者は指定された範囲を分析し、データや事例を交えて説明し、他の参加者は質問や意見を交わしながら、議論を進展させます。また、希望者には専門的な論文の読解支援や英語文献の紹介を行い、より高度な分析力を身につける機会を提供します。輪読、課題等のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の説明、グループ分け
第2回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第3回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第4回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第5回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第6回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第7回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第8回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第9回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第10回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第11回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第12回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第13回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第14回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、輪読する部分を予習し、疑問点を清晰にしておく。
日々の市場動向を新聞やオンライン資料などでトラックする。
自主的に議論の準備を行い、意見交換に積極的に参加する。
準備と復習の標準時間は各2時間。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

2025年度は下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。図書館蔵書があります。

1. 棕寛,『自由貿易はなぜ必要なのか』,有斐閣,2020

2. 中室牧子,津川友介,『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』,ダイヤモンド社,2017

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書籍を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

輪読プレゼンの内容（50%）、討論への参加度およびディスカッションでの貢献度（25%）、期末レポート（25%）。無断欠席は期末評価に大きく影響します。なお、無断欠席が3回以上の場合是不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

年に1〜2回、本演習に関連する施設の外部見学を実施予定です。見学先は受講学生との話し合いを通じて決定することも可能です。これにより、経済や金融の実務的な側面を体感し、理解を深める機会を提供します。

【関連科目】

国際金融論 I / II、国際経済学 I / II、統計学などの科目と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar provides an in-depth exploration of critical issues in the global economy. Through readings of key textbooks in economics and finance, students will gain insights into international economic dynamics, policy responses, and financial markets. Additionally, they will engage in discussions on emerging global challenges, develop empirical analysis skills using economic data, and refine their ability to interpret international economic indicators. The objective is to equip students with a comprehensive understanding of global economic structures and trends while fostering independent analytical and presentation skills.

(Learning Objectives)

- Understand the fundamentals of economics and finance to engage in international economic and financial discussions.
 - Develop the ability to accurately interpret economic literature in both Japanese and English.
 - Learn the basics of economic data analysis and acquire empirical analysis skills using statistical methods.
 - Improve research and presentation skills using PowerPoint effectively.
 - Strengthen problem-solving abilities and logical reasoning for persuasive argumentation.
 - Foster teamwork through active collaboration in the seminar.
- (Learning activities outside of classroom)
- Prepare assigned readings in advance and clarify any questions.
 - Track daily market trends using newspapers and online sources.
 - Proactively prepare for discussions and actively participate.
 - Standard study time: 2 hours for preparation and 2 hours for review.
- (Grading Criteria / Policy)

Reading presentation (50%), Participation and contribution in discussions (25%), Final report (25%)

Unexcused absences significantly affect the final grade.

Failing policy: Three or more unexcused absences result in failure

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

羅 鵬飛

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、世界経済の多様な課題について研究を進めます。優れた経済学・金融学の教科書を輪読し、国内外の経済情勢を把握しながら、現在進行中の国際経済の議論をフォローします。また、データ分析や政策評価の手法を学び、実証的に経済現象を理解する力を養います。目的は、世界経済の構造や変化を深く理解し、自らの視点を持って分析・考察する能力を高めることです。

【到達目標】

経済学・金融学の基礎を理解し、国際経済・金融の議論を追うための知識を身につける。

日本語・英語の経済文献を正確に読み解く力を養う。

経済データ分析の基礎を学び、統計的手法を用いた実証分析のスキルを習得する。

PowerPointを活用し、論文やプレゼンテーション資料を効果的に作成する能力を向上させる。

問題発見力と説得力のある論理的表現力を鍛える。

ゼミ内での協力を通じて、チームワークの重要性を理解し実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

参加者による発表を基に、内容の確認と深掘りを行い、活発な議論を通じて理解を深めます。発表者は指定された範囲を分析し、データや事例を交えて説明し、他の参加者は質問や意見を交わしながら、議論を発展させます。また、希望者には専門的な論文の読解支援や英語文献の紹介を行い、より高度な分析力を身につける機会を提供します。輪読、課題等のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の説明、グループ分け
第2回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第3回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第4回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第5回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第6回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第7回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第8回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第9回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第10回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第11回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第12回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第13回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論
第14回	テキスト輪読とグループ討論	発表、議論、グループ内での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、輪読する部分を予習し、疑問点を清晰にしておく。
日々の市場動向を新聞やオンライン資料などでトラックする。
自主的に議論の準備を行い、意見交換に積極的に参加する。
準備と復習の標準時間は各2時間。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

2025年度は下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。図書館蔵書があります。

1. 棕寛,『自由貿易はなぜ必要なのか』,有斐閣,2020

2. 中室牧子,津川友介,『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』,ダイヤモンド社,2017

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書籍を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

輪読プレゼン内容（50%）、討論への参加度およびディスカッションでの貢献度（25%）、期末レポート（25%）。無断欠席は期末評価に大きく影響します。なお、無断欠席が3回以上の場合是不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

年に1～2回、本演習に関連する施設の外部見学を実施予定です。見学先は受講学生との話し合いを通じて決定することも可能です。これにより、経済や金融の実務的な側面を体感し、理解を深める機会を提供します。

【関連科目】

国際金融論 I / II、国際経済学 I / II、統計学などの科目と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar provides an in-depth exploration of critical issues in the global economy. Through readings of key textbooks in economics and finance, students will gain insights into international economic dynamics, policy responses, and financial markets. Additionally, they will engage in discussions on emerging global challenges, develop empirical analysis skills using economic data, and refine their ability to interpret international economic indicators. The objective is to equip students with a comprehensive understanding of global economic structures and trends while fostering independent analytical and presentation skills.

(Learning Objectives)

- Understand the fundamentals of economics and finance to engage in international economic and financial discussions.

- Develop the ability to accurately interpret economic literature in both Japanese and English.

- Learn the basics of economic data analysis and acquire empirical analysis skills using statistical methods.

Improve research and presentation skills using PowerPoint effectively.

- Strengthen problem-solving abilities and logical reasoning for persuasive argumentation.

- Foster teamwork through active collaboration in the seminar.

(Learning activities outside of classroom)

- Prepare assigned readings in advance and clarify any questions.

- Track daily market trends using newspapers and online sources.

- Proactively prepare for discussions and actively participate.

- Standard study time: 2 hours for preparation and 2 hours for review.

(Grading Criteria / Policy)

Reading presentation (50%), Participation and contribution in discussions (25%), Final report (25%)

Unexcused absences significantly affect the final grade.

Failing policy: Three or more unexcused absences result in failure

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

横山 斉理

演習演習 選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。授業中に適宜フィードバックを行います。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STPやマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論→方法→検証」（←現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
4	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
6	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
7	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
8	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
9	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
10	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討④	コンペに向けた2次データのリサーチを実施する

9	マーケティング・コンペの課題検討⑤	コンペに向けたフィールド・リサーチを実施する
10	マーケティング・コンペの中間報告②	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討⑥	コンペに向けたグループディスカッションを行い内容の最終調整を行う
12	マーケティング・コンペの提案内容の最終確認	マーケティング・コンペの提案内容のプレゼンを行う
13	マーケティング・コンペへの参加の振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth study of distribution and marketing through a variety of practical experiences.

演習2

横山 斉理

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。授業中に適宜フィードバックを行います。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STPやマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論→方法→検証」（←現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
4	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
6	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
7	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
8	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
9	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
10	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討④	コンペに向けた2次データのリサーチを実施する

9	マーケティング・コンペの課題検討⑤	コンペに向けたフィールド・リサーチを実施する
10	マーケティング・コンペの中間報告②	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討⑥	コンペに向けたグループディスカッションを行い内容の最終調整を行う
12	マーケティング・コンペの提案内容の最終確認	マーケティング・コンペの提案内容のプレゼンを行う
13	マーケティング・コンペへの参加の振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth study of distribution and marketing through a variety of practical experiences.

演習3

横山 斉理

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。授業中に適宜フィードバックを行います。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STPやマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論→方法→検証」（←現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
4	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
6	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
7	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
8	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
9	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
10	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討④	コンペに向けた2次データのリサーチを実施する

9	マーケティング・コンペの課題検討⑤	コンペに向けたフィールド・リサーチを実施する
10	マーケティング・コンペの中間報告②	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討⑥	コンペに向けたグループディスカッションを行い内容の最終調整を行う
12	マーケティング・コンペの提案内容の最終確認	マーケティング・コンペの提案内容のプレゼンを行う
13	マーケティング・コンペへの参加の振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth study of distribution and marketing through a variety of practical experiences.

演習4

横山 斉理

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。授業中に適宜フィードバックを行います。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STPやマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論→方法→検証」（←現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
4	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
6	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
7	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
8	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
9	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
10	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討④	コンペに向けた2次データのリサーチを実施する

9	マーケティング・コンペの課題検討⑤	コンペに向けたフィールド・リサーチを実施する
10	マーケティング・コンペの中間報告②	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討⑥	コンペに向けたグループディスカッションを行い内容の最終調整を行う
12	マーケティング・コンペの提案内容の最終確認	マーケティング・コンペの提案内容のプレゼンを行う
13	マーケティング・コンペへの参加の振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth study of distribution and marketing through a variety of practical experiences.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

横山 斉理

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。授業中に適宜フィードバックを行います。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STPやマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論→方法→検証」（←現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
4	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
4	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
5	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
6	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
6	マーケティング・コンペの報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の報告を行いディスカッションする
7	マーケティング・コンペの報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の報告を行いディスカッションする
8	卒業論文①	論文とは何かを学ぶ
9	卒業論文②	論文のテーマを検討する

10	卒業論文③	先行研究のサーベイ
11	企業の採用マーケティング①	就職活動を振り返りつつ企業の採用マーケティングについて議論する
12	企業の採用マーケティング②	就職活動を振り返りつつ企業の採用マーケティングについて議論する
13	企業の採用マーケティング③	就職活動を振り返りつつ企業の採用マーケティングについて議論する
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth study of distribution and marketing through a variety of practical experiences.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

横山 斉理

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。授業中に適宜フィードバックを行います。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を輪読します。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

②マーケティング・ゲーム

1グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STPやマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ることです。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただき、それについてマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑥卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論→方法→検証」（←現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い出迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	卒論計画①	卒業論文のテーマ、既存研究サーベイ、調査計画を報告する
3	卒論計画②	卒業論文のテーマ、既存研究サーベイ、調査計画を報告する
4	卒論計画③	卒業論文のテーマ、既存研究サーベイ、調査計画を報告する
5	卒論計画④	卒業論文のテーマ、既存研究サーベイ、調査計画を報告する
6	分析①	分析の詳細と結果を報告する
7	分析②	分析の詳細と結果を報告する
8	分析③	分析の詳細と結果を報告する
9	分析④	分析の詳細と結果を報告する
10	卒業論文①	卒業論文の内容を発表する

11	卒業論文②	卒業論文の内容を発表する
12	卒業論文③	卒業論文の内容を発表する
13	卒業論文④	卒業論文の内容を発表する
14	秋学期の総括	秋学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論は卒業までに必ず履修するようにしてください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth study of distribution and marketing through a variety of practical experiences.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習 1

牧草 夏実

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データ分析スキルを身に着けるために、様々なデータに対する分析方法を実行し、その実行結果と対応させる形で根本にある理論を学ぶ。

【到達目標】

- ・ Rを用いて実データの解析を行うことができる。
- ・ データの分析手法についてその理論を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回に担当者を決めテキストをベースに発表を行ってもらう。発表者が説明する形で発表者以外はRの演習に取り組む。発表内容および演習の取り組み状況については、授業内で講評・口頭コメントを行いフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。発表を担当するパートを決定する。
第2回	Rの操作	テキストを参考にRでのデータの扱い方、演算やパッケージの使い方を理解する。
第3回	練習問題(第1章)	第1章の練習問題に取り組み理解を深める。
第4回	データの可視化と要約1	テキストを参考にデータの可視化と要約の方法について学ぶ。
第5回	データの可視化と要約2	テキストを参考にデータの可視化と要約の方法について学ぶ。要約値のふるまいについて理解する。
第6回	練習問題(第2章)	第2章の練習問題に取り組み理解を深める。
第7回	回帰分析1	テキストを参考に単回帰分析、重回帰分析を学ぶ。その理論を理解する。
第8回	回帰分析2	テキストを参考に変数選択や予測値の出力方法について学ぶ。
第9回	練習問題(第3章)	第3章の練習問題に取り組み理解を深める。
第10回	回帰分析3	テキストを参考に多項式回帰モデルやリッジ、ラッソ、エラスティックネットについて学ぶ。
第11回	回帰分析4	テキストを参考にノンパラメトリック回帰やクロスバリデーションについて学ぶ。
第12回	練習問題(第4章)	第4章の練習問題に取り組み理解を深める。
第13回	演習	実際のデータに対してこれまで学んだ手法を適用し分析を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の分析結果を簡単に発表・ディスカッションを行い、授業全体の復習とまとめを行う。秋学期のスケジュールの確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を事前に読み、全体での発表を行いRでの実演を行う。実際にデータ分析を行うことで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著), 下平 英寿(編)『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』講談社

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業内容・進捗は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習2

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' data analysis skills. Students will apply various analytical methods to different datasets and learn the underlying statistical theory by relating the results to these methods.

Learning Objectives:

- ・ Be able to analyze real data using R.
- ・ Be able to explain the underlying theory of the data analysis methods.

Learning activities outside of the classroom:

Students should read the relevant sections of the textbook in advance, give presentations, and perform practical demonstrations in R. By actively conducting data analysis, students will deepen their understanding. The standard time for preparation and review is 2 hours per session.

Grading:

- Participation: 50%
- Presentations: 50%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

牧草 夏実

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Rによるデータ分析の基礎を応用し、グループでデータを収集・整理・分析・可視化・発表まで行う。実務や研究で通用する分析スキルとチームでの協働力を習得する。

【到達目標】

- ・グループでテーマを設定し、Rを用いてデータ分析を実施できる。
- ・分析結果を理論に照らして説明・議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

グループに分かれてテーマを決め、データ収集・解析に取り組む。各グループでの解析結果を発表してもらい、ディスカッションを行う。発表内容および演習の取り組み状況については、授業内で講評・口頭コメントを行いフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。グループ分けを行い各グループでテーマを決める。
第2回	データ収集・整理	各グループでデータ収集方法を検討、Rで整理・加工を行う。
第3回	データ分析の準備	データの確認、必要な変数・指標の選定、前処理を行う。
第4回	可視化・探索的分析	データの可視化、要約統計量の算出、初期の考察を行う。
第5回	仮説設定・分析計画	どの分析手法を使うか決定、仮説設定を行う。
第6回	分析実施1	単回帰・重回帰など基本的な分析を実施。
第7回	分析実施2	多変量分析や応用手法（リッジ、ラッソなど）を実施。
第8回	中間発表	グループ内分析の途中経過を発表・議論。
第9回	分析の改善	中間発表のフィードバックを踏まえ分析を改善。
第10回	レポート作成1	分析結果を整理、グラフ・表の作成を行う。
第11回	レポート作成2	結果の理論的解釈、文章化を行う。
第12回	プレゼン準備	発表スライド作成を行う。
第13回	最終発表	各グループで分析結果を発表・質疑応答を行う。
第14回	振り返り・まとめ	全体の振り返り、課題点・学びの共有を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データの収集や分析等は各自で分析したうえでグループでのディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著), 下平 英寿(編)『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』講談社

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 50%

発表： 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習 1

【Outline (in English)】

Building on the fundamentals of data analysis using R, students will work in groups to collect, organize, analyze, visualize, and present data. Through this process, they will develop analytical skills applicable to practical and research settings, as well as the ability to collaborate effectively in teams.

Learning Objectives:

- ・ Be able to set a research theme in a group and conduct data analysis using R.
- ・ Be able to interpret and discuss the analysis results in light of relevant theory.

Learning activities outside of the classroom:

Each student will perform data collection and analysis individually, and then participate in group discussions. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading:

- Participation: 50%

- Presentations: 50%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

牧草 夏実

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データ分析スキルを身に着けるために、様々なデータに対する分析方法を実行し、その実行結果と対応させる形で根本にある理論を学ぶ。

【到達目標】

- ・ Rを用いて実データの解析を行うことができる。
- ・ データの分析手法についてその理論を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回に担当者を決めテキストをベースに発表を行ってもらう。発表者が説明する形で発表者以外はRの演習に取り組む。
発表内容および演習の取り組み状況については、授業内で講評・口頭コメントを行いフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。 発表を担当するパートを決定する。
第2回	Rの操作	テキストを参考にRでのデータの扱い方、演算やパッケージの使い方を理解する。
第3回	練習問題(第1章)	第1章の練習問題に取り組み理解を深める。
第4回	データの可視化と要約1	テキストを参考にデータの可視化と要約の方法について学ぶ。
第5回	データの可視化と要約2	テキストを参考にデータの可視化と要約の方法について学ぶ。要約値のふるまいについて理解する。
第6回	練習問題(第2章)	第2章の練習問題に取り組み理解を深める。
第7回	回帰分析1	テキストを参考に単回帰分析、重回帰分析を学ぶ。その理論を理解する。
第8回	回帰分析2	テキストを参考に変数選択や予測値の出力方法について学ぶ。
第9回	練習問題(第3章)	第3章の練習問題に取り組み理解を深める。
第10回	回帰分析3	テキストを参考に多項式回帰モデルやリッジ、ラッソ、エラスティックネットについて学ぶ。
第11回	回帰分析4	テキストを参考にノンパラメトリック回帰やクロスバリデーションについて学ぶ。
第12回	練習問題(第4章)	第4章の練習問題に取り組み理解を深める。
第13回	演習	実際のデータに対してこれまで学んだ手法を適用し分析を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の分析結果を簡単に発表・ディスカッションを行い、授業全体の復習とまとめを行う。秋学期のスケジュールの確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を事前に読み、全体での発表を行いRでの実演を行う。実際にデータ分析を行うことで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著), 下平 英寿(編)『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』講談社

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業内容・進捗は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習2

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' data analysis skills. Students will apply various analytical methods to different datasets and learn the underlying statistical theory by relating the results to these methods.

Learning Objectives:

- ・ Be able to analyze real data using R.
- ・ Be able to explain the underlying theory of the data analysis methods.

Learning activities outside of the classroom:

Students should read the relevant sections of the textbook in advance, give presentations, and perform practical demonstrations in R. By actively conducting data analysis, students will deepen their understanding. The standard time for preparation and review is 2 hours per session.

Grading:

- Participation: 50%
- Presentations: 50%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

牧草 夏実

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Rによるデータ分析の基礎を応用し、グループでデータを収集・整理・分析・可視化・発表まで行う。実務や研究で通用する分析スキルとチームでの協働力を習得する。

【到達目標】

- ・グループでテーマを設定し、Rを用いてデータ分析を実施できる。
- ・分析結果を理論に照らして説明・議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

グループに分かれてテーマを決め、データ収集・解析に取り組む。各グループでの解析結果を発表してもらい、ディスカッションを行う。発表内容および演習の取り組み状況については、授業内で講評・口頭コメントを行いフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。グループ分けを行い各グループでテーマを決める。
第2回	データ収集・整理	各グループでデータ収集方法を検討、Rで整理・加工を行う。
第3回	データ分析の準備	データの確認、必要な変数・指標の選定、前処理を行う。
第4回	可視化・探索的分析	データの可視化、要約統計量の算出、初期の考察を行う。
第5回	仮説設定・分析計画	どの分析手法を使うか決定、仮説設定を行う。
第6回	分析実施1	単回帰・重回帰など基本的な分析を実施。
第7回	分析実施2	多変量分析や応用手法（リッジ、ラッソなど）を実施。
第8回	中間発表	グループ内分析の途中経過を発表・議論。
第9回	分析の改善	中間発表のフィードバックを踏まえ分析を改善。
第10回	レポート作成1	分析結果を整理、グラフ・表の作成を行う。
第11回	レポート作成2	結果の理論的解釈、文章化を行う。
第12回	プレゼン準備	発表スライド作成を行う。
第13回	最終発表	各グループで分析結果を発表・質疑応答を行う。
第14回	振り返り・まとめ	全体の振り返り、課題点・学びの共有を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データの収集や分析等は各自で分析したうえでグループでのディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著), 下平 英寿(編)『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』講談社

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 50%

発表： 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習1

【Outline (in English)】

Building on the fundamentals of data analysis using R, students will work in groups to collect, organize, analyze, visualize, and present data. Through this process, they will develop analytical skills applicable to practical and research settings, as well as the ability to collaborate effectively in teams.

Learning Objectives:

- ・ Be able to set a research theme in a group and conduct data analysis using R.
- ・ Be able to interpret and discuss the analysis results in light of relevant theory.

Learning activities outside of the classroom:

Each student will perform data collection and analysis individually, and then participate in group discussions. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading:

- Participation: 50%

- Presentations: 50%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

牧草 夏実

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データ分析スキルを身に着けるために、様々なデータに対する分析方法を実行し、その実行結果と対応させる形で根本にある理論を学ぶ。

【到達目標】

- ・ Rを用いて実データの解析を行うことができる。
- ・ データの分析手法についてその理論を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回に担当者を決めテキストをベースに発表を行ってもらう。発表者が説明する形で発表者以外はRの演習に取り組む。発表内容および演習の取り組み状況については、授業内で講評・口頭コメントを行いフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。発表を担当するパートを決定する。
第2回	Rの操作	テキストを参考にRでのデータの扱い方、演算やパッケージの使い方を理解する。
第3回	練習問題(第1章)	第1章の練習問題に取り組み理解を深める。
第4回	データの可視化と要約1	テキストを参考にデータの可視化と要約の方法について学ぶ。
第5回	データの可視化と要約2	テキストを参考にデータの可視化と要約の方法について学ぶ。要約値のふるまいについて理解する。
第6回	練習問題(第2章)	第2章の練習問題に取り組み理解を深める。
第7回	回帰分析1	テキストを参考に単回帰分析、重回帰分析を学ぶ。その理論を理解する。
第8回	回帰分析2	テキストを参考に変数選択や予測値の出力方法について学ぶ。
第9回	練習問題(第3章)	第3章の練習問題に取り組み理解を深める。
第10回	回帰分析3	テキストを参考に多項式回帰モデルやリッジ、ラッソ、エラスティックネットについて学ぶ。
第11回	回帰分析4	テキストを参考にノンパラメトリック回帰やクロスバリデーションについて学ぶ。
第12回	練習問題(第4章)	第4章の練習問題に取り組み理解を深める。
第13回	演習	実際のデータに対してこれまで学んだ手法を適用し分析を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の分析結果を簡単に発表・ディスカッションを行い、授業全体の復習とまとめを行う。秋学期のスケジュールの確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を事前に読み、全体での発表を行いRでの実演を行う。実際にデータ分析を行うことで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著), 下平 英寿(編)『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』講談社

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業内容・進捗は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習2

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' data analysis skills. Students will apply various analytical methods to different datasets and learn the underlying statistical theory by relating the results to these methods.

Learning Objectives:

- ・ Be able to analyze real data using R.
- ・ Be able to explain the underlying theory of the data analysis methods.

Learning activities outside of the classroom:

Students should read the relevant sections of the textbook in advance, give presentations, and perform practical demonstrations in R. By actively conducting data analysis, students will deepen their understanding. The standard time for preparation and review is 2 hours per session.

Grading:

- Participation: 50%
- Presentations: 50%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

牧草 夏実

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Rによるデータ分析の基礎を応用し、グループでデータを収集・整理・分析・可視化・発表まで行う。実務や研究で通用する分析スキルとチームでの協働力を習得する。

【到達目標】

- ・グループでテーマを設定し、Rを用いてデータ分析を実施できる。
- ・分析結果を理論に照らして説明・議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

グループに分かれてテーマを決め、データ収集・解析に取り組む。各グループでの解析結果を発表してもらい、ディスカッションを行う。発表内容および演習の取り組み状況については、授業内で講評・口頭コメントを行いフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。グループ分けを行い各グループでテーマを決める。
第2回	データ収集・整理	各グループでデータ収集方法を検討、Rで整理・加工を行う。
第3回	データ分析の準備	データの確認、必要な変数・指標の選定、前処理を行う。
第4回	可視化・探索的分析	データの可視化、要約統計量の算出、初期の考察を行う。
第5回	仮説設定・分析計画	どの分析手法を使うか決定、仮説設定を行う。
第6回	分析実施1	単回帰・重回帰など基本的な分析を実施。
第7回	分析実施2	多変量分析や応用手法（リッジ、ラッソなど）を実施。
第8回	中間発表	グループ内分析の途中経過を発表・議論。
第9回	分析の改善	中間発表のフィードバックを踏まえ分析を改善。
第10回	レポート作成1	分析結果を整理、グラフ・表の作成を行う。
第11回	レポート作成2	結果の理論的解釈、文章化を行う。
第12回	プレゼン準備	発表スライド作成を行う。
第13回	最終発表	各グループで分析結果を発表・質疑応答を行う。
第14回	振り返り・まとめ	全体の振り返り、課題点・学びの共有を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データの収集や分析等は各自で分析したうえでグループでのディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著), 下平 英寿(編)『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』講談社

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 50%

発表： 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】

授業内容・進行は履修状況等に応じて変更する場合がある。

【関連科目】

統計学入門

基礎統計学 I/II

経営のための統計学 I/II

演習 1

【Outline (in English)】

Building on the fundamentals of data analysis using R, students will work in groups to collect, organize, analyze, visualize, and present data. Through this process, they will develop analytical skills applicable to practical and research settings, as well as the ability to collaborate effectively in teams.

Learning Objectives:

- ・ Be able to set a research theme in a group and conduct data analysis using R.
- ・ Be able to interpret and discuss the analysis results in light of relevant theory.

Learning activities outside of the classroom:

Each student will perform data collection and analysis individually, and then participate in group discussions. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading:

- Participation: 50%

- Presentations: 50%

演習 1

吉田 康伸

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメントについて、日常生活改善に役立てられるよう、各自の発表内容を理解する。またスポーツ全般について、各種目のルールやスポーツ団体の特徴等を学ぶ。

【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義（健康指標の測定等）	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康指標の測定等の講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義（流行の健康法等）	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による流行の健康法等の講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第5回	発表（健康、飲酒の害等）・ディスカッション	4年生の健康（飲酒の害等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（健康、喫煙の害等）・ディスカッション	4年生の健康（喫煙の害等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（健康、肥満の成因等）・ディスカッション	4年生の健康（肥満の成因等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（健康、睡眠等）・ディスカッション	4年生の健康（睡眠等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツ団体、野球等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（野球等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツ団体、パドミントン等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（パドミントン等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第11回	発表（スポーツ団体、アメフト等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（アメフト等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツ団体、サッカー等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（サッカー等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツ団体、バレーボール等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（バレーボール等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will understand the content of their presentations regarding health management so that they can be used to improve their daily lives. And students will also learn about in general, including the rules of each sport and the characteristics of sports organizations.

[Learning Objectives]

- 1.Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.
- 2.Pick up an interested sports leader, find of about that person ,and establish an ideal leader image.

[Learning activities outside of classroom]

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

吉田 康伸

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トップアスリート及びスポーツリーダー（監督等）に注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴や理想のスポーツリーダー像について考察する。

【到達目標】

スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トップアスリート及びスポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第2回	トップアスリート講義	教員によるトップアスリートの講義を行った後、全体でディスカッションを行う。
第3回	スポーツリーダー講義（団体競技）	教員によるスポーツリーダー（団体競技）の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第4回	スポーツリーダー講義（個人競技）	教員によるスポーツリーダー（個人競技）の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第5回	発表（トップアスリート、野球選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（野球選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（トップアスリート、バドミントン選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（バドミントン選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（トップアスリート、サッカー選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（サッカー選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（トップアスリート、アメフト選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（アメフト選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツリーダー、団体競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（団体競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツリーダー、団体競技のキャプテン等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（団体競技のキャプテン等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表（スポーツリーダー、個人競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（個人競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツリーダー、個人競技のキャプテン等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（個人競技のキャプテン等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツリーダー、武道競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（武道競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第14回 授業総括とレポート提出 授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Focusing on top athletes and sports leaders, we will examine their backgrounds, ways of thinking, and training methods, and through discussion we will examine the characteristics of top athletes and the image of an ideal sports leader.

[Learning Objectives]

Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

[Learning activities outside of classroom]

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

演習3

吉田 康伸

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメントについて、日常生活改善に役立てられるよう、各自の発表内容を理解する。またスポーツ全般について、各種目のルールやスポーツ団体の特徴等を学ぶ。

【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義（健康指標の測定等）	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康指標の測定等の講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義（流行の健康法等）	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による流行の健康法等の講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第5回	発表（健康、飲酒の害等）・ディスカッション	4年生の健康（飲酒の害等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（健康、喫煙の害等）・ディスカッション	4年生の健康（喫煙の害等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（健康、肥満の成因等）・ディスカッション	4年生の健康（肥満の成因等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（健康、睡眠等）・ディスカッション	4年生の健康（睡眠等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツ団体、野球等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（野球等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツ団体、パドミントン等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（パドミントン等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第11回	発表（スポーツ団体、アメフト等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（アメフト等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツ団体、サッカー等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（サッカー等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツ団体、バレーボール等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（バレーボール等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will understand the content of their presentations regarding health management so that they can be used to improve their daily lives. And students will also learn about in general, including the rules of each sport and the characteristics of sports organizations.

[Learning Objectives]

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.
2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

[Learning activities outside of classroom]

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

吉田 康伸

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トップアスリート及びスポーツリーダー（監督等）に注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴や理想のスポーツリーダー像について考察する。

【到達目標】

スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トップアスリート及びスポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第2回	トップアスリート講義	教員によるトップアスリートの講義を行った後、全体でディスカッションを行う。
第3回	スポーツリーダー講義（団体競技）	教員によるスポーツリーダー（団体競技）の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第4回	スポーツリーダー講義（個人競技）	教員によるスポーツリーダー（個人競技）の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第5回	発表（トップアスリート、野球選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（野球選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（トップアスリート、バドミントン選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（バドミントン選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（トップアスリート、サッカー選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（サッカー選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（トップアスリート、アメフト選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（アメフト選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツリーダー、団体競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（団体競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツリーダー、団体競技のキャプテン等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（団体競技のキャプテン等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表（スポーツリーダー、個人競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（個人競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツリーダー、個人競技のキャプテン等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（個人競技のキャプテン等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツリーダー、武道競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（武道競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第14回 授業総括とレポート提出 授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。については、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Focusing on top athletes and sports leaders, we will examine their backgrounds, ways of thinking, and training methods, and through discussion we will examine the characteristics of top athletes and the image of an ideal sports leader.

[Learning Objectives]

Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

[Learning activities outside of classroom]

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

演習5

吉田 康伸

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメントについて、日常生活改善に役立てられるよう、各自の発表内容を理解する。またスポーツ全般について、各種目のルールやスポーツ団体の特徴等を学ぶ。

【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義（健康指標の測定等）	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康指標の測定等の講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義（流行の健康法等）	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による流行の健康法等の講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第5回	発表（健康、飲酒の害等）・ディスカッション	4年生の健康（飲酒の害等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（健康、喫煙の害等）・ディスカッション	4年生の健康（喫煙の害等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（健康、肥満の成因等）・ディスカッション	4年生の健康（肥満の成因等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（健康、睡眠等）・ディスカッション	4年生の健康（睡眠等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツ団体、野球等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（野球等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツ団体、パドミントン等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（パドミントン等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第11回	発表（スポーツ団体、アメフト等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（アメフト等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツ団体、サッカー等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（サッカー等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツ団体、バレーボール等）・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体（バレーボール等）の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will understand the content of their presentations regarding health management so that they can be used to improve their daily lives. And students will also learn about in general, including the rules of each sport and the characteristics of sports organizations.

[Learning Objectives]

- 1.Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.
- 2.Pick up an interested sports leader, find of about that person ,and establish an ideal leader image.

[Learning activities outside of classroom]

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

吉田 康伸

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トップアスリート及びスポーツリーダー（監督等）に注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴や理想のスポーツリーダー像について考察する。

【到達目標】

スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トップアスリート及びスポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第2回	トップアスリート講義	教員によるトップアスリートの講義を行った後、全体でディスカッションを行う。
第3回	スポーツリーダー講義（団体競技）	教員によるスポーツリーダー（団体競技）の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第4回	スポーツリーダー講義（個人競技）	教員によるスポーツリーダー（個人競技）の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第5回	発表（トップアスリート、野球選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（野球選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（トップアスリート、バドミントン選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（バドミントン選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（トップアスリート、サッカー選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（サッカー選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（トップアスリート、アメフト選手等）・ディスカッション	4年生のトップアスリート（アメフト選手等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツリーダー、団体競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（団体競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツリーダー、団体競技のキャプテン等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（団体競技のキャプテン等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表（スポーツリーダー、個人競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（個人競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツリーダー、個人競技のキャプテン等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（個人競技のキャプテン等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツリーダー、武道競技の監督等）・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー（武道競技の監督等）に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第14回 授業総括とレポート提出 授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Focusing on top athletes and sports leaders, we will examine their backgrounds, ways of thinking, and training methods, and through discussion we will examine the characteristics of top athletes and the image of an ideal sports leader.

[Learning Objectives]

Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

[Learning activities outside of classroom]

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

演習1

李 瑞雪

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。提出されたレポートなどのフィードバックは、授業中に対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
第3回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
第4回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
第5回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
第6回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
第7回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
第8回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
第9回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。

第10回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定(performance measurement)の基礎知識を学びます。
第11回	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。
第12回	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。
第13回	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。
第14回	企業調査の計画作り	秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの1回目にて提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin

Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『業界別 物流管理とSCMの実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房
『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第2版）Robert K. Yin 著、千倉書房
『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30％）、企業調査の参加・貢献（30％）、調査レポートの水準（40％）を総合して評価します。3回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料はPPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。主な関連科目として、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を1回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM). Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 30%, contribution to the field research: 30%, contribution to the final research report: 40%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

李 瑞雪

演習演習 選択_演習 2年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本学期的ゼミでは、次世代の宅配便ビジネスモデル構築に取り組みます。まず、文献レビューおよびフィールドワークを通じて、日本の宅配便企業が直面する課題と、これまでに蓄積された経営資源を明らかにします。並行して、ビジネスモデルに関する教科書や事例集を用いて、ビジネスモデル構築の基本的な手法を習得します。これらを踏まえ、近未来の社会構造や技術革新を展望しつつ、消費者や企業の潜在的ニーズに応える革新的な宅配ビジネスのシステムを検討・提案します。

【到達目標】

宅配企業についての調査研究を通して、以下の学習目標に到達することを目指します。

1. 宅配企業の戦略・組織・オペレーションを多角的に理解し、課題解決（ソリューション）考案する能力を身に付けます。
2. 社会・経済インフラとしての宅配サービスの重要性を深く理解します。
3. 適切な文献調査を行い、情報を論理的に構造化・発信するスキルを習得します。
4. フィールド調査の基礎的な作法と、現場からの知見を得る手法を習得します。
5. ビジネスモデルの構築・分析に関する理論と実践を統合して理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

3～4チームに編成し、共同研究の形で進めます。前半では先行文献（論文・報告書・事例等）の精査を行い、ゼミ内での発表とディスカッションを通じて具体的な研究課題を抽出します。後半では、フィールド調査を計画・実施し、その成果を他大学との合同ゼミや実務家の会合等の場で発表します。提出されたレポートなどのフィードバックは、授業中に対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の活動の振り返り、夏休みの読書ノートの確認と情報交換、秋学期の活動計画の検討と決定、グループ分け
第2回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第3回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第4回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第5回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第6回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第7回	研究課題の具体化と調査計画の策定	先行研究のレビューを踏まえて、各班の具体的な研究課題をディスカッションする。
第8回	研究課題の具体化と調査計画の策定	各班の具体的な研究課題を選定し、フィールド調査の計画を検討する。
第9回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第10回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第11回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査の実施状況を報告し、アドバイスを受ける。

第12回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査による発見を発表し、追加調査の計画を検討する。
第13回	フィールド調査からの発見事実の分析	調査の発見事実の分析結果を発表し、レポート作成に向けてアドバイスを受ける。
第14回	レポートのドラフト発表	各班の調査レポートのドラフトを発表し、アドバイスを受ける。春休み期間に予定する他大学との合同ゼミでの研究発表に向けて準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間内では、文献サーベイやフィールド調査の進捗報告、およびディスカッションを中心に、教員が随時アドバイスを提供します。ただし、具体的な実務作業の多くはゼミ時間外に進める必要があります。そのため、各自で十分な時間を確保することが不可欠です。なお、各班は毎週、ゼミ時間外に自主的な打ち合わせの機会を設けることを強く推奨します。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

ゼミで適宜参考文献を案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表・ディスカッションへの貢献（40％）、最終レポートへの貢献（60％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPIIを利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

「日本の物流と企業経営」、「経営戦略論」

【Outline (in English)】

In the fall semester seminar, research on business models in parcel delivery companies in Japan will be carried out. Through the survey of previous literature and case studies, students will be expected to understand the actual situation and challenges of the parcel delivery companies in Japan. This course will also help students have basic literature survey skills and use basic field-research methodology. By the end of the fall semester, students will be required to complete research reports based on their previous literature survey and fieldwork. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 40%, Contribution to the research report: 60%.

演習3

李 瑞雪

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。提出されたレポートなどのフィードバックは、授業中に対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
第3回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
第4回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
第5回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
第6回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
第7回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
第8回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
第9回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。

第10回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定(performance measurement)の基礎知識を学びます。
第11回	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。
第12回	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。
第13回	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。
第14回	企業調査の計画作り	秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの1回目にて提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin

Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『業界別 物流管理とSCMの実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房
『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第2版）Robert K. Yin 著、千倉書房
『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30％）、企業調査の参加・貢献（30％）、調査レポートの水準（40％）を総合して評価します。3回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料はPPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。主な関連科目として、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を1回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM). Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 30%, contribution to the field research: 30%, contribution to the final research report: 40%.

演習4

李 瑞雪

演習演習 選択_演習 3年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本学期的ゼミでは、次世代の宅配便ビジネスモデル構築に取り組みます。まず、文献レビューおよびフィールドワークを通じて、日本の宅配便企業が直面する課題と、これまでに蓄積された経営資源を明らかにします。並行して、ビジネスモデルに関する教科書や事例集を用いて、ビジネスモデル構築の基本的な手法を習得します。これらを踏まえ、近未来の社会構造や技術革新を展望しつつ、消費者や企業の潜在的ニーズに応える革新的な宅配ビジネスのシステムを検討・提案します。

【到達目標】

宅配企業についての調査研究を通して、以下の学習目標に到達することを目指します。

1. 宅配企業の戦略・組織・オペレーションを多角的に理解し、課題解決（ソリューション）考案する能力を身に付けます。
2. 社会・経済インフラとしての宅配サービスの重要性を深く理解します。
3. 適切な文献調査を行い、情報を論理的に構造化・発信するスキルを習得します。
4. フィールド調査の基礎的な作法と、現場からの知見を得る手法を習得します。
5. ビジネスモデルの構築・分析に関する理論と実践を統合して理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3～4チームに編成し、共同研究の形で進めます。前半では先行文献（論文・報告書・事例等）の精査を行い、ゼミ内での発表とディスカッションを通じて具体的な研究課題を抽出します。後半では、フィールド調査を計画・実施し、その成果を他大学との合同ゼミや実務家の会合等の場で発表します。提出されたレポートなどのフィードバックは、授業中に対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の活動の振り返り、夏休みの読書ノートの確認と情報交換、秋学期の活動計画の検討と決定、グループ分け
第2回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第3回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第4回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第5回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第6回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第7回	研究課題の具体化と調査計画の策定	先行研究のレビューを踏まえて、各班の具体的な研究課題をディスカッションする。
第8回	研究課題の具体化と調査計画の策定	各班の具体的な研究課題を選定し、フィールド調査の計画を検討する。
第9回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第10回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第11回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査の実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第12回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査による発見を発表し、追加調査の計画を検討する。

第13回	フィールド調査からの発見事実の分析	調査の発見事実の分析結果を発表し、レポート作成に向けてアドバイスを受ける。
第14回	レポートのドラフト発表	各班の調査レポートのドラフトを発表し、アドバイスを受ける。春休み期間に予定する他大学との合同ゼミでの研究発表に向けて準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間内では、文献サーベイやフィールド調査の進捗報告、およびディスカッションを中心に行い、教員が随時アドバイスを提供します。ただし、具体的な実務作業の多くはゼミ時間外に進める必要があります。そのため、各自で十分な時間を確保することが不可欠です。なお、各班は毎週、ゼミ時間外に自主的な打ち合わせの機会を設けることを強く推奨します。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

ゼミで適宜参考文献を案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表・ディスカッションへの貢献（40％）、最終レポートへの貢献（60％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPIIを利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

日本の物流と企業経営、経営戦略論など

【Outline (in English)】

In the fall semester seminar, research on business models in parcel delivery companies in Japan will be carried out. Through the survey of previous literature and case studies, students will be expected to understand the actual situation and challenges of the parcel delivery companies in Japan. This course will also help students have basic literature survey skills and use basic field-research methodology. By the end of the fall semester, students will be required to complete research reports based on their previous literature survey and fieldwork. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 40%, Contribution to the research report: 60%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

李 瑞雪

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。提出されたレポートなどのフィードバックは、授業中に対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
第3回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
第4回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
第5回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
第6回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
第7回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
第8回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
第9回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。

第10回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定(performance measurement)の基礎知識を学びます。
第11回	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。
第12回	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。
第13回	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。
第14回	企業調査の計画作り	秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの1回目にて提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin

Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『業界別 物流管理とSCMの実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房
『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第2版）Robert K. Yin 著、千倉書房
『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30％）、企業調査の参加・貢献（30％）、調査レポートの水準（40％）を総合して評価します。3回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料はPPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。主な関連科目として、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を1回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM). Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 30%, contribution to the field research: 30%, contribution to the final research report: 40%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

李 瑞雪

演習演習 選択_演習 4年次／3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本学期的ゼミでは、次世代の宅配便ビジネスモデル構築に取り組みます。まず、文献レビューおよびフィールドワークを通じて、日本の宅配便企業が直面する課題と、これまでに蓄積された経営資源を明らかにします。並行して、ビジネスモデルに関する教科書や事例集を用いて、ビジネスモデル構築の基本的な手法を習得します。これらを踏まえ、近未来の社会構造や技術革新を展望しつつ、消費者や企業の潜在的ニーズに応える革新的な宅配ビジネスのシステムを検討・提案します。

【到達目標】

宅配企業についての調査研究を通して、以下の学習目標に到達することを目指します。

1. 宅配企業の戦略・組織・オペレーションを多角的に理解し、課題解決（ソリューション）考案する能力を身に付けます。
2. 社会・経済インフラとしての宅配サービスの重要性を深く理解します。
3. 適切な文献調査を行い、情報を論理的に構造化・発信するスキルを習得します。
4. フィールド調査の基礎的な作法と、現場からの知見を得る手法を習得します。
5. ビジネスモデルの構築・分析に関する理論と実践を統合して理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

3～4チームに編成し、共同研究の形で進めます。前半では先行文献（論文・報告書・事例等）の精査を行い、ゼミ内での発表とディスカッションを通じて具体的な研究課題を抽出します。後半では、フィールド調査を計画・実施し、その成果を他大学との合同ゼミや実務家の会合等の場で発表します。提出されたレポートなどのフィードバックは、授業中に対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の活動の振り返り、夏休みの読書ノートの確認と情報交換、秋学期の活動計画の検討と決定、グループ分け
第2回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第3回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第4回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第5回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第6回	先行文献の調べ、発表、討論	宅配サービスのビジネスモデルに関わる既存論文や報告書などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第7回	研究課題の具体化と調査計画の策定	先行研究のレビューを踏まえて、各班の具体的な研究課題をディスカッションする。
第8回	研究課題の具体化と調査計画の策定	各班の具体的な研究課題を選定し、フィールド調査の計画を検討する。
第9回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第10回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第11回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査の実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第12回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査による発見を発表し、追加調査の計画を検討する。

第13回	フィールド調査からの発見事実の分析	調査の発見事実の分析結果を発表し、レポート作成に向けてアドバイスを受ける。
第14回	レポートのドラフト発表	各班の調査レポートのドラフトを発表し、アドバイスを受ける。春休み期間に予定する他大学との合同ゼミでの研究発表に向けて準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間内では、文献サーベイやフィールド調査の進捗報告、およびディスカッションを中心に行い、教員が随時アドバイスを提供します。ただし、具体的な実務作業の多くはゼミ時間外に進める必要があります。そのため、各自で十分な時間を確保することが不可欠です。なお、各班は毎週、ゼミ時間外に自主的な打ち合わせの機会を設けることを強く推奨します。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

ゼミで適宜参考文献を案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表・ディスカッションへの貢献（40％）、最終レポートへの貢献（60％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPIIを利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

日本の物流と企業経営、経営戦略論など

【Outline (in English)】

In the fall semester seminar, research on business models in parcel delivery companies in Japan will be carried out. Through the survey of previous literature and case studies, students will be expected to understand the actual situation and challenges of the parcel delivery companies in Japan. This course will also help students have basic literature survey skills and use basic field-research methodology. By the end of the fall semester, students will be required to complete research reports based on their previous literature survey and fieldwork. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 40%, Contribution to the research report: 60%.

演習 1

魚住 智広

演習演習 選択_演習 2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ、健康、身体に関するトピックを足がかりに、現代社会への批判的・批評的視座の修得を目指します。

【到達目標】

1. 現代社会を批判的・批評的に検討できる。
2. 他者との議論を通じて、先行する研究の学術的意義と課題を整理できる。
3. 日常生活を結びつけながら、自らの研究の社会的意義を想像できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

輪読する図書および論文の担当箇所について、発表者はレジュメを作成します。授業内での発表者の報告に対して、他の学生を交えて議論します。その後、自らの問題関心と接続し、研究報告を行います。研究報告のために、各自フィールドワークを実施します。各報告資料は、授業内および次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スケジュールの確認、図書の選定
第2回	受講生の問題関心の報告	各自5分間の関心報告と質疑
第3回	図書A: 輪読①	発表者による報告と討議
第4回	図書A: 輪読②	発表者による報告と討議
第5回	図書A: 輪読③	発表者による報告と討議
第6回	図書A: 輪読④	発表者による報告と討議
第7回	図書A: 輪読⑤	発表者による報告と討議
第8回	図書B: 輪読①	発表者による報告と討議
第9回	図書B: 輪読②	発表者による報告と討議
第10回	図書B: 輪読③	発表者による報告と討議
第11回	図書B: 輪読④	発表者による報告と討議
第12回	図書B: 輪読⑤	発表者による報告と討議
第13回	図書C: 研究方法	質的調査の方法
第14回	研究報告のための準備作業	各自5分間の関心報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表者は課題図書の担当範囲をレジュメにまとめてください。他の学生は議論の内容をふりかえり、次の授業に向けて各自の問題関心との関連を深めてください。

【テキスト（教科書）】

授業計画に基づいて適宜提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

以下の総合評価とします。

作成されたレジュメおよび授業内の議論を通じて示された学術的理解（60%）

研究発表の内容を通じて示された批判的姿勢および課題分析（40%）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ、健康、身体に関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。

【学生が準備すべき機器他】

資料を作成・共有するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to develop a critical and reflective perspective on contemporary society through topics drawn from sport, health, and the body.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Critically and reflectively examine contemporary society.
2. Organize the academic significance and issues of existing research through discussion with others.
3. Imagine the social significance of their research through reflection on their own daily life.

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. Presenters should summarize their assigned portion of the required reading in a handout. Other students are expected to reflect on the class discussion and deepen their understanding by connecting it to their own research interests in preparation for the next session.

Grading criteria:

Academic understanding, as demonstrated through prepared handouts and in-class discussion (60%)

Critical thinking and issue analysis, as demonstrated through the delivery and content of the research presentation (40%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

魚住 智広

演習演習 選択_演習 2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ、健康、身体に関するトピックを足がかりに、現代社会への批判的・批評的視座の修得を目指します。

【到達目標】

1. 現代社会を批判的・批評的に検討できる。
2. 他者との議論を通じて、先行する研究の学術的意義と課題を整理できる。
3. 日常生活を結びつけながら、自らの研究の社会的意義を想像できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期に洗練した自らの研究について発表者はレジュメを作成します。授業内での発表者の報告に対して、他の学生を交えて議論します。その後、研究をさらに進めるために、各自フィールドワークと研究を反復します。各報告資料は、授業内および次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スケジュールの確認、研究対象の報告
第2回	受講生の研究報告1-①	各自10分間の報告と質疑
第3回	受講生の研究報告1-②	各自10分間の報告と質疑
第4回	受講生の研究報告1-③	各自10分間の報告と質疑
第5回	論文精読①	発表者による報告と討議
第6回	論文精読②	発表者による報告と討議
第7回	論文精読③	発表者による報告と討議
第8回	論文精読④	発表者による報告と討議
第9回	論文精読⑤	発表者による報告と討議
第10回	受講生の研究報告2-①	各自10分間の報告と質疑
第11回	受講生の研究報告2-②	各自10分間の報告と質疑
第12回	受講生の研究報告2-③	各自10分間の報告と質疑
第13回	研究発表①	各自15分間の報告と質疑
第14回	研究発表②	各自15分間の報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表者は研究内容をレジュメにまとめてください。他の学生は議論の内容をふりかえり、次の授業に向けて各自の問題関心との関連を深めてください。

【テキスト（教科書）】

授業計画に基づいて適宜提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

以下の総合評価とします。

作成されたレジュメおよび授業内の議論を通じて示された学術的理解（60%）

研究発表の内容を通じて示された批判的姿勢および課題分析（40%）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ、健康、身体に関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。

【学生が準備すべき機器他】

資料を作成・共有するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to develop a critical and reflective perspective on contemporary society through topics drawn from sport, health, and the body.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Critically and reflectively examine contemporary society.
2. Organize the academic significance and issues of existing research through discussion with others.
3. Imagine the social significance of their research through reflection on their own daily life.

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. Presenters should summarize their research in a handout. Other students are expected to reflect on the class discussion and deepen their understanding by connecting it to their own research interests in preparation for the next session.

Grading criteria:

Academic understanding, as demonstrated through prepared handouts and in-class discussion (60%)

Critical thinking and issue analysis, as demonstrated through the delivery and content of the research presentation (40%)

演習3

魚住 智広

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ、健康、身体に関するトピックを足がかりに、現代社会への批判的・批評的視座の修得を目指します。

【到達目標】

1. 現代社会を批判的・批評的に検討できる。
2. 他者との議論を通じて、先行する研究の学術的意義と課題を整理できる。
3. 日常生活を結びつけながら、自らの研究の社会的意義を想像できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

輪読する図書および論文の担当箇所について、発表者はレジュメを作成します。授業内での発表者の報告に対して、他の学生を交えて議論します。その後、自らの問題関心と接続し、研究報告を行います。研究報告のために、各自フィールドワークを実施します。各報告資料は、授業内および次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スケジュールの確認、図書の選定
第2回	受講生の問題関心の報告	各自5分間の関心報告と質疑
第3回	図書A: 輪読①	発表者による報告と討議
第4回	図書A: 輪読②	発表者による報告と討議
第5回	図書A: 輪読③	発表者による報告と討議
第6回	図書A: 輪読④	発表者による報告と討議
第7回	図書A: 輪読⑤	発表者による報告と討議
第8回	図書B: 輪読①	発表者による報告と討議
第9回	図書B: 輪読②	発表者による報告と討議
第10回	図書B: 輪読③	発表者による報告と討議
第11回	図書B: 輪読④	発表者による報告と討議
第12回	図書B: 輪読⑤	発表者による報告と討議
第13回	図書C: 研究方法	質的調査の方法
第14回	研究報告のための準備作業	各自5分間の関心報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表者は課題図書の担当範囲をレジュメにまとめてください。他の学生は議論の内容をふりかえり、次の授業に向けて各自の問題関心との関連を深めてください。

【テキスト（教科書）】

授業計画に基づいて適宜提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

以下の総合評価とします。

作成されたレジュメおよび授業内の議論を通じて示された学術的理解（60%）

研究発表の内容を通じて示された批判的姿勢および課題分析（40%）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ、健康、身体に関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。

【学生が準備すべき機器他】

資料を作成・共有するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to develop a critical and reflective perspective on contemporary society through topics drawn from sport, health, and the body.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Critically and reflectively examine contemporary society.
2. Organize the academic significance and issues of existing research through discussion with others.
3. Imagine the social significance of their research through reflection on their own daily life.

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. Presenters should summarize their assigned portion of the required reading in a handout. Other students are expected to reflect on the class discussion and deepen their understanding by connecting it to their own research interests in preparation for the next session.

Grading criteria:

Academic understanding, as demonstrated through prepared handouts and in-class discussion (60%)

Critical thinking and issue analysis, as demonstrated through the delivery and content of the research presentation (40%)

MAN300FA (経営学 / Management 300)

演習4

魚住 智広

演習演習 選択_演習 3年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ、健康、身体に関するトピックを足がかりに、現代社会への批判的・批評的視座の修得を目指します。

【到達目標】

1. 現代社会を批判的・批評的に検討できる。
2. 他者との議論を通じて、先行する研究の学術的意義と課題を整理できる。
3. 日常生活を結びつけながら、自らの研究の社会的意義を想像できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期に洗練した自らの研究について発表者はレジュメを作成します。授業内での発表者の報告に対して、他の学生を交えて議論します。その後、研究をさらに進めるために、各自フィールドワークと研究を反復します。各報告資料は、授業内および次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スケジュールの確認、研究対象の報告
第2回	受講生の研究報告1-①	各自10分間の報告と質疑
第3回	受講生の研究報告1-②	各自10分間の報告と質疑
第4回	受講生の研究報告1-③	各自10分間の報告と質疑
第5回	論文精読①	発表者による報告と討議
第6回	論文精読②	発表者による報告と討議
第7回	論文精読③	発表者による報告と討議
第8回	論文精読④	発表者による報告と討議
第9回	論文精読⑤	発表者による報告と討議
第10回	受講生の研究報告2-①	各自10分間の報告と質疑
第11回	受講生の研究報告2-②	各自10分間の報告と質疑
第12回	受講生の研究報告2-③	各自10分間の報告と質疑
第13回	研究発表①	各自15分間の報告と質疑
第14回	研究発表②	各自15分間の報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表者は研究内容をレジュメにまとめてください。他の学生は議論の内容をふりかえり、次の授業に向けて各自の問題関心との関連を深めてください。

【テキスト（教科書）】

授業計画に基づいて適宜提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

以下の総合評価とします。

作成されたレジュメおよび授業内の議論を通じて示された学術的理解（60%）

研究発表の内容を通じて示された批判的姿勢および課題分析（40%）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ、健康、身体に関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。

【学生が準備すべき機器他】

資料を作成・共有するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to develop a critical and reflective perspective on contemporary society through topics drawn from sport, health, and the body.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Critically and reflectively examine contemporary society.
2. Organize the academic significance and issues of existing research through discussion with others.
3. Imagine the social significance of their research through reflection on their own daily life.

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. Presenters should summarize their research in a handout. Other students are expected to reflect on the class discussion and deepen their understanding by connecting it to their own research interests in preparation for the next session.

Grading criteria:

Academic understanding, as demonstrated through prepared handouts and in-class discussion (60%)

Critical thinking and issue analysis, as demonstrated through the delivery and content of the research presentation (40%)

演習5

魚住 智広

演習演習 選択_演習 4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ、健康、身体に関するトピックを足がかりに、現代社会への批判的・批評的視座の修得を目指します。

【到達目標】

1. 現代社会を批判的・批評的に検討できる。
2. 他者との議論を通じて、先行する研究の学術的意義と課題を整理できる。
3. 日常生活を結びつけながら、自らの研究の社会的意義を想像できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

輪読する図書および論文の担当箇所について、発表者はレジュメを作成します。授業内での発表者の報告に対して、他の学生を交えて議論します。その後、自らの問題関心と接続し、研究報告を行います。研究報告のために、各自フィールドワークを実施します。各報告資料は、授業内および次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スケジュールの確認、図書の選定
第2回	受講生の問題関心の報告	各自5分間の関心報告と質疑
第3回	図書A: 輪読①	発表者による報告と討議
第4回	図書A: 輪読②	発表者による報告と討議
第5回	図書A: 輪読③	発表者による報告と討議
第6回	図書A: 輪読④	発表者による報告と討議
第7回	図書A: 輪読⑤	発表者による報告と討議
第8回	図書B: 輪読①	発表者による報告と討議
第9回	図書B: 輪読②	発表者による報告と討議
第10回	図書B: 輪読③	発表者による報告と討議
第11回	図書B: 輪読④	発表者による報告と討議
第12回	図書B: 輪読⑤	発表者による報告と討議
第13回	図書C: 研究方法	質的調査の方法
第14回	研究報告のための準備作業	各自5分間の関心報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表者は課題図書の担当範囲をレジュメにまとめてください。他の学生は議論の内容をふりかえり、次の授業に向けて各自の問題関心との関連を深めてください。

【テキスト（教科書）】

授業計画に基づいて適宜提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

以下の総合評価とします。

作成されたレジュメおよび授業内の議論を通じて示された学術的理解（60%）

研究発表の内容を通じて示された批判的姿勢および課題分析（40%）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ、健康、身体に関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。

【学生が準備すべき機器他】

資料を作成・共有するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to develop a critical and reflective perspective on contemporary society through topics drawn from sport, health, and the body.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Critically and reflectively examine contemporary society.
2. Organize the academic significance and issues of existing research through discussion with others.
3. Imagine the social significance of their research through reflection on their own daily life.

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. Presenters should summarize their assigned portion of the required reading in a handout. Other students are expected to reflect on the class discussion and deepen their understanding by connecting it to their own research interests in preparation for the next session.

Grading criteria:

Academic understanding, as demonstrated through prepared handouts and in-class discussion (60%)

Critical thinking and issue analysis, as demonstrated through the delivery and content of the research presentation (40%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

魚住 智広

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ、健康、身体に関するトピックを足がかりに、現代社会への批判的・批評的視座の修得を目指します。

【到達目標】

1. 現代社会を批判的・批評的に検討できる。
2. 他者との議論を通じて、先行する研究の学術的意義と課題を整理できる。
3. 日常生活を結びつけながら、自らの研究の社会的意義を想像できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期に洗練した自らの研究について発表者はレジュメを作成します。授業内での発表者の報告に対して、他の学生を交えて議論します。その後、研究をさらに進めるために、各自フィールドワークと研究を反復します。各報告資料は、授業内および次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スケジュールの確認、研究対象の報告
第2回	受講生の研究報告1-①	各自10分間の報告と質疑
第3回	受講生の研究報告1-②	各自10分間の報告と質疑
第4回	受講生の研究報告1-③	各自10分間の報告と質疑
第5回	論文精読①	発表者による報告と討議
第6回	論文精読②	発表者による報告と討議
第7回	論文精読③	発表者による報告と討議
第8回	論文精読④	発表者による報告と討議
第9回	論文精読⑤	発表者による報告と討議
第10回	受講生の研究報告2-①	各自10分間の報告と質疑
第11回	受講生の研究報告2-②	各自10分間の報告と質疑
第12回	受講生の研究報告2-③	各自10分間の報告と質疑
第13回	研究発表①	各自15分間の報告と質疑
第14回	研究発表②	各自15分間の報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表者は研究内容をレジュメにまとめてください。他の学生は議論の内容をふりかえり、次の授業に向けて各自の問題関心との関連を深めてください。

【テキスト（教科書）】

授業計画に基づいて適宜提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

以下の総合評価とします。

作成されたレジュメおよび授業内の議論を通じて示された学術的理解（60%）

研究発表の内容を通じて示された批判的姿勢および課題分析（40%）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ、健康、身体に関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。

【学生が準備すべき機器他】

資料を作成・共有するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to develop a critical and reflective perspective on contemporary society through topics drawn from sport, health, and the body.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Critically and reflectively examine contemporary society.
2. Organize the academic significance and issues of existing research through discussion with others.
3. Imagine the social significance of their research through reflection on their own daily life.

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. Presenters should summarize their research in a handout. Other students are expected to reflect on the class discussion and deepen their understanding by connecting it to their own research interests in preparation for the next session.

Grading criteria:

Academic understanding, as demonstrated through prepared handouts and in-class discussion (60%)

Critical thinking and issue analysis, as demonstrated through the delivery and content of the research presentation (40%)

演習 1

左三川 郁子

演習演習 選択_演習 2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では将来、社会人になった時に必要となる金融・経済の基礎的知識や、金融市場・金融ビジネスの仕組み、経済活動との関わりを理解するとともに、政策課題と処方箋についても考えます。

【到達目標】

本演習では、以下の8つを到達目標とします。

- (1) 金融に関する十分な知識を身につける
- (2) 自分自身の研究テーマを見つける
- (3) 参考文献や資料を読み込む
- (4) データや図表を使って分析する
- (5) 論理的なスケルトンを組み立てる
- (6) わかりやすい言葉で文章（レポート）にする
- (7) プレゼンテーション資料を準備し、資料に沿って発表する
- (8) 他人の発表に建設的なコメントする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は金融に関するテキストを輪読し、内容について報告してもらいます。秋学期は自身のテーマについて分析を開始します。分析結果に基づくレポートを執筆し、最後にプレゼンテーション資料に沿って発表してもらいます。他の学生はこれにコメントします。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの輪読と発表に関するガイダンス
第2回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第3回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第4回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第5回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第6回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第7回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第8回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第9回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第10回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第11回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第12回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第13回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論

第14回 テキストの輪読とグループ討議 担当者による発表とグループでの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習で扱った金融のテキストやレポート、参考文献に目を通すようにして下さい。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。本演習では、関連文献や資料、データを用いて議論の準備をしていくことが期待されます。発表者以外は、演習中に質問できる準備をしておいて下さい。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50％）、議論への参加度（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This seminar will help you understand the fundamental knowledge of finance and economics needed when you enter the workforce, the mechanisms of financial markets and financial business, and their relationship with economic activity. It will also encourage you to consider policy issues and their solutions. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

演習2

左三川 郁子

演習演習 選択_演習 2年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では将来、社会人になった時に必要となる金融・経済の基礎的知識や、金融市場・金融ビジネスの仕組み、経済活動との関わりを理解するとともに、政策課題と処方箋についても考えます。

【到達目標】

本演習では、以下の8つを到達目標とします。

- (1) 金融に関する十分な知識を身につける
- (2) 自分自身の研究テーマを見つける
- (3) 参考文献や資料を読み込む
- (4) データや図表を使って分析する
- (5) 論理的なスケルトンを組み立てる
- (6) わかりやすい言葉で文章（レポート）にする
- (7) プレゼンテーション資料を準備し、資料に沿って発表する
- (8) 他人の発表に建設的なコメントする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は金融に関するテキストを輪読し、内容について報告してもらいます。秋学期は自身のテーマについて分析を開始します。分析結果に基づくレポートを執筆し、最後にプレゼンテーション資料に沿って発表してもらいます。他の学生はこれにコメントします。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの輪読と発表に関するガイダンス
第2回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第3回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第4回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第5回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第6回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第7回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第8回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第9回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第10回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第11回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第12回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第13回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論

第14回 テキストの輪読とグループ討議 担当者による発表とグループでの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習で扱った金融のテキストやレポート、参考文献に目を通すようにして下さい。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。本演習では、関連文献や資料、データを用いて議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、演習中に質問できる準備をしておいて下さい。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50％）、議論への参加度（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This seminar will help you understand the fundamental knowledge of finance and economics needed when you enter the workforce, the mechanisms of financial markets and financial business, and their relationship with economic activity. It will also encourage you to consider policy issues and their solutions. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

演習3

左三川 郁子

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では将来、社会人になった時に必要となる金融・経済の基礎的知識や、金融市場・金融ビジネスの仕組み、経済活動との関わりを理解するとともに、政策課題と処方箋についても考えます。

【到達目標】

本演習では、以下の8つを到達目標とします。

- (1) 金融に関する十分な知識を身につける
- (2) 自分自身の研究テーマを見つける
- (3) 参考文献や資料を読み込む
- (4) データや図表を使って分析する
- (5) 論理的なスケルトンを組み立てる
- (6) わかりやすい言葉で文章（レポート）にする
- (7) プレゼンテーション資料を準備し、資料に沿って発表する
- (8) 他人の発表に建設的なコメントする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は金融に関するテキストを輪読し、内容について報告してもらいます。秋学期は自身のテーマについて分析を開始します。分析結果に基づくレポートを執筆し、最後にプレゼンテーション資料に沿って発表してもらいます。他の学生はこれにコメントします。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの輪読と発表に関するガイダンス
第2回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第3回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第4回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第5回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第6回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第7回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第8回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第9回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第10回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第11回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第12回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第13回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論

第14回 テキストの輪読とグループ討議 担当者による発表とグループでの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習で扱った金融のテキストやレポート、参考文献に目を通すようにして下さい。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。本演習では、関連文献や資料、データを用いて議論の準備をしておくことが期待されます。発表者以外は、演習中に質問できる準備をしておいて下さい。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50％）、議論への参加度（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This seminar will help you understand the fundamental knowledge of finance and economics needed when you enter the workforce, the mechanisms of financial markets and financial business, and their relationship with economic activity. It will also encourage you to consider policy issues and their solutions. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

左三川 郁子

演習演習 選択_演習 3年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では将来、社会人になった時に必要となる金融・経済の基礎的知識や、金融市場・金融ビジネスの仕組み、経済活動との関わりを理解するとともに、政策課題と処方箋についても考えます。

【到達目標】

本演習では、以下の8つを到達目標とします。

- (1) 金融に関する十分な知識を身につける
- (2) 自分自身の研究テーマを見つける
- (3) 参考文献や資料を読み込む
- (4) データや図表を使って分析する
- (5) 論理的なスケルトンを組み立てる
- (6) わかりやすい言葉で文章（リポート）にする
- (7) プレゼンテーション資料を準備し、資料に沿って発表する
- (8) 他人の発表に建設的なコメントする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は金融に関するテキストを輪読し、内容について報告してもらいます。秋学期は自身のテーマについて分析を開始します。分析結果に基づくリポートを執筆し、最後にプレゼンテーション資料に沿って発表してもらいます。他の学生はこれにコメントします。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの輪読と発表に関するガイダンス
第2回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第3回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第4回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第5回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第6回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第7回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第8回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第9回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第10回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第11回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第12回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第13回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論

第14回 テキストの輪読とグループ討議 担当者による発表とグループでの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習で扱った金融のテキストやリポート、参考文献に目を通すようにして下さい。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。本演習では、関連文献や資料、データを用いて議論の準備をしていくことが期待されます。発表者以外は、演習中に質問できる準備をしておいて下さい。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50％）、議論への参加度（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This seminar will help you understand the fundamental knowledge of finance and economics needed when you enter the workforce, the mechanisms of financial markets and financial business, and their relationship with economic activity. It will also encourage you to consider policy issues and their solutions. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

演習5

左三川 郁子

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では将来、社会人になった時に必要となる金融・経済の基礎的知識や、金融市場・金融ビジネスの仕組み、経済活動との関わりを理解するとともに、政策課題と処方箋についても考えます。

【到達目標】

本演習では、以下の8つを到達目標とします。

- (1) 金融に関する十分な知識を身につける
- (2) 自分自身の研究テーマを見つける
- (3) 参考文献や資料を読み込む
- (4) データや図表を使って分析する
- (5) 論理的なスケルトンを組み立てる
- (6) わかりやすい言葉で文章（レポート）にする
- (7) プレゼンテーション資料を準備し、資料に沿って発表する
- (8) 他人の発表に建設的なコメントする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は金融に関するテキストを輪読し、内容について報告してもらいます。秋学期は自身のテーマについて分析を開始します。分析結果に基づくレポートを執筆し、最後にプレゼンテーション資料に沿って発表してもらいます。他の学生はこれにコメントします。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの輪読と発表に関するガイダンス
第2回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第3回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第4回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第5回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第6回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第7回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第8回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第9回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第10回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第11回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第12回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第13回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論

第14回 テキストの輪読とグループ討議 担当者による発表とグループでの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習で扱った金融のテキストやレポート、参考文献に目を通すようにして下さい。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。本演習では、関連文献や資料、データを用いて議論の準備をしていくことが期待されます。発表者以外は、演習中に質問できる準備をしておいて下さい。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50％）、議論への参加度（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This seminar will help you understand the fundamental knowledge of finance and economics needed when you enter the workforce, the mechanisms of financial markets and financial business, and their relationship with economic activity. It will also encourage you to consider policy issues and their solutions. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

左三川 郁子

演習演習 選択_演習 4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では将来、社会人になった時に必要となる金融・経済の基礎的知識や、金融市場・金融ビジネスの仕組み、経済活動との関わりを理解するとともに、政策課題と処方箋についても考えます。

【到達目標】

本演習では、以下の8つを到達目標とします。

- (1) 金融に関する十分な知識を身につける
- (2) 自分自身の研究テーマを見つける
- (3) 参考文献や資料を読み込む
- (4) データや図表を使って分析する
- (5) 論理的なスケルトンを組み立てる
- (6) わかりやすい言葉で文章（レポート）にする
- (7) プレゼンテーション資料を準備し、資料に沿って発表する
- (8) 他人の発表に建設的なコメントする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は金融に関するテキストを輪読し、内容について報告してもらいます。秋学期は自身のテーマについて分析を開始します。分析結果に基づくレポートを執筆し、最後にプレゼンテーション資料に沿って発表してもらいます。他の学生はこれにコメントします。課題等に対するフィードバックは演習の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの輪読と発表に関するガイダンス
第2回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第3回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第4回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第5回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第6回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第7回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第8回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第9回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第10回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第11回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第12回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論
第13回	テキストの輪読とグループ討議	担当者による発表とグループでの議論

第14回 テキストの輪読とグループ討議 担当者による発表とグループでの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習で扱った金融のテキストやレポート、参考文献に目を通すようにして下さい。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。本演習では、関連文献や資料、データを用いて議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、演習中に質問できる準備をしておいて下さい。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やテレビの経済ニュース、ビジネス雑誌で、日々の金融市場の動向や金融ビジネスの潮流などに触れて下さい。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50％）、議論への参加度（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の連続履修を前提とします。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This seminar will help you understand the fundamental knowledge of finance and economics needed when you enter the workforce, the mechanisms of financial markets and financial business, and their relationship with economic activity. It will also encourage you to consider policy issues and their solutions. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

プログラミング言語 I (C言語) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に応じ出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春期の授業では、C言語を用いてプログラミングの基礎を学びます。変数、データ型、演算、制御構造 (条件分岐・繰り返し)、関数といった基本概念を中心に、プログラムの記述方法と処理の流れを理解することを目的とします。また図形描画や簡単なアニメーションなど、実行結果を視覚的に確認できる演習を通して、プログラミングの思考と論理的な問題解決力を養う。春期授業終了時には、基本的なC言語プログラムを自力で作成できる基礎力を身につけることを目標とします。

【到達目標】

- ・C言語の基本的な文法 (変数、データ型、演算子、制御構造、関数) を理解し、正しく記述できる
- ・プログラムの処理の流れを説明しながら、基本的なC言語プログラムを作成できる
- ・図形描画や簡単なアニメーションを通して、プログラムの動作を視覚的に確認し、処理内容を理解できる
- ・課題に対して適切なアルゴリズムを考え、論理的に問題を解決するプログラムを作成できる
- ・C言語による基礎的なプログラムを、自力で設計・実装・実行できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンスとBit Arrow 導入	授業ガイダンスとBit Arrow 導入
第2回	プログラミングの基本1	変数・データ型・演算
第3回	プログラミングの基本2	入出力 (printf, scanf)
第4回	図形描画	画面描画の基礎 (点・直線・四角形)
第5回	制御構造1	繰り返し (for, while)
第6回	制御構造2	条件分岐 (if文)
第7回	関数基礎	関数の定義と呼び出し
第8回	ユニークな図形描画	ランダム値・ループを組み合わせた描画
第9回	アニメーション基礎	時間制御と動く描画
第10回	たくさんの図形を扱う	配列と描画の効率化
第11回	入力で動くキャラクタ	キーボード入力による制御
第12回	当たり判定とゲームロジック1	敵キャラの描画と動き
第13回	当たり判定とゲームロジック2	弾の描画とあたり判定
第14回	小規模ゲーム完成と振り返り	ゲーム完成・振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

参考書は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

図形描画など見た目で見分けるように授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students learn the fundamentals of programming using the C language. The course focuses on basic concepts such as variables, data types, operators, control structures (conditional branches and loops), and functions, with the aim of understanding how programs are written and how processing flows are executed. In addition, through exercises such as graphical drawing and simple animations that allow students to visually confirm execution results, the course cultivates computational thinking and logical problem-solving skills. By the end of the spring semester, students are expected to acquire the foundational ability to independently develop basic programs in C.

[Work to be done outside of class]

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋期では、春期に学んだC言語の基礎を踏まえ、より実践的なプログラム作成に取り組みます。配列や構造体を用いたデータ管理、複数の処理を組み合わせさせた制御、簡単なゲームやアプリケーションの制作を通して、プログラム全体を設計・実装する力を養うことを目的とします。演習を中心に、プログラムの構造を整理し、改良しながら完成度を高める経験を重視します。秋期終了時には、C言語を用いて一定規模のプログラムを設計・実装できる力を身につけ、今後のプログラミング学習や応用科目につながる実践力を修得することを目標とします。

【到達目標】

- ・配列や構造体を用いたデータ管理を理解し、適切にプログラムへ組み込むことができる
- ・複数の処理を組み合わせさせた制御構造を設計し、まとまりのあるプログラムを作成できる
- ・C言語を用いて、簡単なゲームやアプリケーションを設計・実装できる
- ・プログラム全体の構造を整理し、可読性や完成度を意識して改良できる
- ・一定規模のC言語プログラムを自力で設計・実装し、その処理内容を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	後期ガイダンスと復習	前期内容の振り返りと後期目標
第2回	シューティングゲーム 完成1	ゲームループと描画
第3回	シューティングゲーム 完成2	当たり判定強化
第4回	ゲームスコアと状態管理	得点・ライフ管理
第5回	エフェクトと演出	エフェクト描画と演出
第6回	データ構造基礎	配列・構造体
第7回	関数の高度利用	引数と戻り値
第8回	再帰の考え方と利用	基本再帰の理解
第9回	アルゴリズム入門1	ソート・探索
第10回	アルゴリズム入門2	より効率的な処理
第11回	デバッグ入門	バグ発見と修正手法
第12回	リファクタリング	より読みやすいコードへ
第13回	プロジェクト整備	作品として完成させる
第14回	振り返り	作品披露・振り返り・今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也、技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

参考書は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期からの継続の授業になりますが、後期から受講される方もいるため復習を多めに行いながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Javaコース]

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

In the fall semester, students build on the fundamentals of C programming learned in the spring semester and engage in more practical program development. The course aims to develop the ability to design and implement complete programs through data management using arrays and structures, control structures that combine multiple processes, and the creation of simple games and applications. Emphasis is placed on hands-on exercises in which students organize program structures and improve them iteratively to enhance overall completeness. By the end of the fall semester, students are expected to acquire the practical skills necessary to design and implement programs of moderate complexity in C, forming a foundation for further programming study and advanced courses.

[Work to be done outside of class]

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

[Grading criteria]

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

プログラミング言語 I (C 言語) (2019 年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春期の授業では、C 言語を用いてプログラミングの基礎を学びます。変数、データ型、演算、制御構造 (条件分岐・繰り返し)、関数といった基本概念を中心に、プログラムの記述方法と処理の流れを理解することを目的とします。また図形描画や簡単なアニメーションなど、実行結果を視覚的に確認できる演習を通して、プログラミングの思考と論理的な問題解決力を養う。春期授業終了時には、基本的な C 言語プログラムを自力で作成できる基礎力を身につけることを目標とします。

【到達目標】

- ・C 言語の基本的な文法 (変数、データ型、演算子、制御構造、関数) を理解し、正しく記述できる
- ・プログラムの処理の流れを説明しながら、基本的な C 言語プログラムを作成できる
- ・図形描画や簡単なアニメーションを通して、プログラムの動作を視覚的に確認し、処理内容を理解できる
- ・課題に対して適切なアルゴリズムを考え、論理的に問題を解決するプログラムを作成できる
- ・C 言語による基礎的なプログラムを、自力で設計・実装・実行できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的な PC のスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックは Google クラウドルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンスと Bit Arrow 導入	授業ガイダンスと Bit Arrow 導入
第2回	プログラミングの基本1	変数・データ型・演算
第3回	プログラミングの基本2	入出力 (printf, scanf)
第4回	図形描画	画面描画の基礎 (点・直線・四角形)
第5回	制御構造1	繰り返し (for, while)
第6回	制御構造2	条件分岐 (if文)
第7回	関数基礎	関数の定義と呼び出し
第8回	ユニークな図形描画	ランダム値・ループを組み合わせた描画
第9回	アニメーション基礎	時間制御と動く描画
第10回	たくさんの図形を扱う	配列と描画の効率化
第11回	入力で動くキャラクタ	キーボード入力による制御
第12回	当たり判定とゲームロジック1	敵キャラの描画と動き
第13回	当たり判定とゲームロジック2	弾の描画とあたり判定
第14回	小規模ゲーム完成と振り返り	ゲーム完成・振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

参考書は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

図形描画など見た目で見分けるように授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students learn the fundamentals of programming using the C language. The course focuses on basic concepts such as variables, data types, operators, control structures (conditional branches and loops), and functions, with the aim of understanding how programs are written and how processing flows are executed. In addition, through exercises such as graphical drawing and simple animations that allow students to visually confirm execution results, the course cultivates computational thinking and logical problem-solving skills. By the end of the spring semester, students are expected to acquire the foundational ability to independently develop basic programs in C.

[Work to be done outside of class]

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋期では、春期に学んだC言語の基礎を踏まえ、より実践的なプログラム作成に取り組みます。配列や構造体を用いたデータ管理、複数の処理を組み合わせる制御、簡単なゲームやアプリケーションの制作を通して、プログラム全体を設計・実装する力を養うことを目的とします。演習を中心に、プログラムの構造を整理し、改良しながら完成度を高める経験を重視します。秋期終了時には、C言語を用いて一定規模のプログラムを設計・実装できる力を身につけ、今後のプログラミング学習や応用科目につながる実践力を修得することを目標とします。

【到達目標】

- ・配列や構造体を用いたデータ管理を理解し、適切にプログラムへ組み込むことができる
- ・複数の処理を組み合わせる制御構造を設計し、まとまりのあるプログラムを作成できる
- ・C言語を用いて、簡単なゲームやアプリケーションを設計・実装できる
- ・プログラム全体の構造を整理し、可読性や完成度を意識して改良できる
- ・一定規模のC言語プログラムを自力で設計・実装し、その処理内容を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	後期ガイダンスと復習	前期内容の振り返りと後期目標
第2回	シューティングゲーム	ゲームループと描画
第3回	シューティングゲーム	当たり判定強化
第4回	ゲームスコアと状態管理	得点・ライフ管理
第5回	エフェクトと演出	エフェクト描画と演出
第6回	データ構造基礎	配列・構造体
第7回	関数の高度利用	引数と戻り値
第8回	再帰の考え方と利用	基本再帰の理解
第9回	アルゴリズム入門1	ソート・探索
第10回	アルゴリズム入門2	より効率的な処理
第11回	デバッグ入門	バグ発見と修正手法
第12回	リファクタリング	より読みやすいコードへ
第13回	プロジェクト整備	作品として完成させる
第14回	振り返り	作品披露・振り返り・今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也、技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

参考書は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期からの継続の授業になりますが、後期から受講される方もいるため復習を多めに行いながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Javaコース]

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

In the fall semester, students build on the fundamentals of C programming learned in the spring semester and engage in more practical program development. The course aims to develop the ability to design and implement complete programs through data management using arrays and structures, control structures that combine multiple processes, and the creation of simple games and applications. Emphasis is placed on hands-on exercises in which students organize program structures and improve them iteratively to enhance overall completeness. By the end of the fall semester, students are expected to acquire the practical skills necessary to design and implement programs of moderate complexity in C, forming a foundation for further programming study and advanced courses.

[Work to be done outside of class]

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

[Grading criteria]

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

プログラミング言語 I（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用しプログラミングを可視化しながらJavaの基本文法を学んでいきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミングの思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。これは社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し（while）	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し（for）	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション（基本）	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション（応用）	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト（図形描画）	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト（クラス化）	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。

11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級JavaーやさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

【Work to be done outside of class】

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。秋学期では春学期に学んだJavaの基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程でJavaによるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミングの思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。これは社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用してプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語Javaとはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	Javaを実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機（プレイヤー）を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。

10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理（当たり判定）の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。
13	進行管理	「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。
14	秋期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級Java—やさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、PCの初心者を受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic Java syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of Java programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java. Students will be able to understand and explain object-oriented programming. Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

【Work to be done outside of class】

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語 I（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用しプログラミングを可視化しながらJavaの基本文法を学んでいきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミングの思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。これは社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し（while）	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し（for）	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション（基本）	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション（応用）	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト（図形描画）	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト（クラス化）	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。

11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級JavaーやさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

【Work to be done outside of class】

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。秋学期では春学期に学んだJavaの基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程でJavaによるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミングの思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。これは社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用してプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語Javaとはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	Javaを実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機（プレイヤー）を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。

10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理（当たり判定）の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。
13	進行管理	「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。
14	秋期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級Java—やさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、PCの初心者を受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic Java syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of Java programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using Java.

[Objectives]

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

[Work to be done outside of class]

The course assumes you can handle keyboard input and basic PC operations. If you struggle with these tasks, please learn them during your free time. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

[Grading criteria]

Grades will be determined on a 100-point scale, with 50 points for regular attendance and 50 points for in-class assignments. A score of 60 or higher is required to pass.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語 I（JAVA）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目情報関係科目 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java 言語を通してプログラミングの考え方、特にオブジェクト指向とは何かを学ぶ。

期待どおりの動作ができなかったとき、原因を探り、乗り越えていく力をつける。

【到達目標】

- ・ Java 言語で基礎的なプログラミングの考え方を理解し、実装できる。
- ・ オブジェクト指向を理解し、実装できる。
- ・ イベントドリブンによる状況の変化を論理的に把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

サンプルプログラムによる技術的な解説をした後、似たようなプログラムの作成を課題とする。

課題のフィードバックは対面講義時間中に対面で、および Classroom を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方
第2回	Hello World	Javaの実習環境の整備と最初のプロ グラムの作成・実行
第3回	画面に表示する	Graphical User Interfaceのプログ ラムの作成
第4回	直線と円の描画	画面に直線や円を描画して、図形を 描く
第5回	グラデーション	変数とは何か 繰り返しを利用してグラデーション した線や円を描く
第6回	自由落下	y座標の値を少しずつ繰り返し変化させ る
第7回	跳ね返り	壁に当たったときに向きを変えるた めに条件判定を行う
第8回	画像の描画	画像を表示して、移動させる
第9回	乱数による予測不能な 動き	画像があちこちに現れる
第10回	当たり判定	メソッドを利用して物体と物体の接 触を判定する
第11回	あたり判定後の動作	可変長配列を利用してたくさんの物 体を管理
第12回	アニメーション	パラパラ漫画を制作
第13回	まとめと最終課題（1）	これまで学習した内容を参考に、オ リジナルな作品を制作する
第14回	まとめと最終課題（2）	これまで学習した内容を参考に、オ リジナルな作品を制作する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料を読み、予習をし、期限までに課題を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料として提供する

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 72%

最終課題 28%

60 点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

開発環境に慣れるよう、時間をかけて講義を行う

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコンを利用する

【その他の重要事項】

プログラミングの経験は必要ありませんが、興味を持って取り組んでください

【オフィスアワー】

できるだけ教室で質問してください。

時間外には、メールで対応します。

メールアドレスは、第1回講義資料に記載します

【Outline (in English)】

Through the Java language, you will learn how to think about programming, especially what object orientation is.

When something doesn't work as expected, find the cause and develop the strength to overcome it.

The goals are as follows:

To be able to understand and implement basic programming concepts in the Java language.

To be able to understand and implement object-oriented programming.

To be able to logically grasp event-driven changes in situations

Before the lecture, you will read the materials, and complete and submit assignments by the deadline.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

72% for each assignment

28% for final assignment

60% or more is required to pass

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

- ※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。
- ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java 言語を通してプログラミングの考え方、特にオブジェクト指向とは何かを学ぶ。
期待どおりの動作ができなかったとき、原因を探り、乗り越えていく力をつける。

【到達目標】

- ・Java 言語で基礎的なプログラミングの考え方を理解し、実装できる。
- ・オブジェクト指向を理解し、実装できる。
- ・イベントドリブンによる状況の変化を論理的に把握できる。
- ・自分でアプリケーションを企画して実装できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

サンプルプログラムによる技術的な解説をした後、似たようなプログラムの作成を課題とする。
最終課題はアプリケーションを企画して実装する。
3つのアプリケーションを4週ずつ制作し、最後は自由課題に取り組む
課題のフィードバックは対面講義時間中に対面で、およびClassroomを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと作品1の制作 (1)	春学期の復習から、作品1の枠の制作 画面レイアウト
第2回	作品1の制作 (2)	オブジェクト指向の考え方を取り入れ、枠に埋めていく
第3回	作品1の制作 (3)	マウスイベント処理を実装して動くアプリを制作する
第4回	作品1の制作 (3)	各自のアイデアでブラッシュアップ
第5回	作品2の制作 (1)	作品1の枠の制作 画面レイアウト
第6回	作品2の制作 (2)	各種マウスイベントの実装
第7回	作品2の制作 (3)	クラスを連携した動作
第8回	作品2の制作 (4)	ラジオボタンによる切り替え 各自のアイデアでブラッシュアップ
第9回	作品3の制作 (1)	作品1の枠の制作 画面レイアウト
第10回	作品3の制作 (2)	オブジェクトの配置
第11回	作品3の制作 (3)	タイマーと乱数の組み合わせ 得点のカウントとオブジェクトの切り替え
第12回	作品3の制作 (4)	各自のアイデアでブラッシュアップ
第13回	最終課題の制作 (1)	アプリケーションを新規に制作
第14回	最終課題の制作 (2)	アプリケーションを新規に制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提供した動画を視聴し、予習を行う。講義の時間に知識を定着させる演習を行う。
その日に学んだことを復習し、マクロプログラムを完成させる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料として提供する

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）75%
最終課題25%
60点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

アイディアを形にするための引き出しをたくさん用意します

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

プログラミング言語1（JAVA）から継続して履修してください

【オフィスアワー】

できるだけ講義時間中に質問してください。

時間外には、メールで対応します。

メールアドレスは第1回講義資料に記載します。

【Outline (in English)】

The goals are as follows:

To be able to understand and implement basic programming concepts in the Java language.

To be able to understand and implement object-oriented programming.

To be able to logically grasp event-driven changes in situations

To be able to plan and implement your own application.

Before the lecture, you will read the materials, and complete and submit assignments by the deadline.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Regular marks (assignments) 50%

Final assignment 50%

60 points or more is the pass mark

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅰ（VBA）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBAという）を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。大量のデータを表形式で保存できるという Excel の特徴を生かし、できるだけ本物で大量のデータを用いる。統計学やデータサイエンスに基づいて、生のデータを自動で処理するためのプログラミングを習得する。

【到達目標】

プログラミングの考え方を理解し、表計算ソフトウェア Excel に入力されているデータを自動で集計するためのプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画による事前学習と対面講義の組み合わせで講義を行う。予習用に、Microsoft Excel が動作する Windows または Mac パソコンを使用できることが望ましい。ない場合は、大学のカフェテリアが利用できる。

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。

課題のフィードバックは対面講義時間中に対面で、および Classroom を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年を通した計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第2回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第3回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ。
第4回	繰り返し処理（1）	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ。
第5回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第6回	繰り返し（2）	集計処理を学ぶ。
第7回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第8回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第9回	多肢選択（1）	3択以上の中から条件により選択する方法を学ぶ。
第10回	多肢選択（2）	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第11回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第12回	配列（1）	配列を用いた大量のデータ処理を学ぶ。
第13回	繰り返し（3）	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。
第14回	総合演習	自分でアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提供した動画を視聴し、予習を行う。講義の時間に知識を定着させる演習を行う。

その日に学んだことを復習し、マクロプログラムを完成させる。

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システム上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 72%

総合演習（最終課題） 28%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンドの講義で、動画による学習は、自分にペースで繰り返し学習ができることから、効果があったことを受け、予習に取り入れる。対面授業で演習を行い、個別指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows または Mac パソコンが利用できることよい。古くても家族と共用でも可能。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

講義の後、およびメールで対応する。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

The goal is to understand the concept of programming and to create a program to automatically tabulate data entered into the Excel spreadsheet software.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 72%

Comprehensive Exercises 28%

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（VBA）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBA という）を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。

VBA には、ユーザフォームを作成する機能があり、アプリケーションを制作することができる。ユーザフォームを用いたアプリケーションと Excel シートとを連携させ、アプリケーションからデータを操作できるプログラミングを習得する。

【到達目標】

代表的なアルゴリズムを理解し、プログラムに実装することができる。また、誤り箇所を自ら発見して修正できるようになる。

画面を伴った簡単なアプリケーションの仕様を考案し、制作することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画を視聴して予習してから、オンラインまたは対面講義に参加する。対面では、予習の知識を定着させる演習を行う。

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows パソコンが利用できるとよい。ない場合は、大学の自習室が利用できる。（講義の後半は Mac では実習できません）

課題のフィードバックは対面講義時間中に対面で、および Classroom を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと春学期の復習	秋学期の計画を把握し、春学期の復習をする。
第2回	クイズアプリの制作 (1)	ユーザフォームとイベントドリブン
第3回	クイズアプリの制作 (2)	乱数でランダムにクイズを出題する
第4回	クイズアプリの制作 (3)	正解判定と得点の表示
第5回	在庫管理アプリの制作 (1)	Excel シートに記録されたマスターの読み取り
第6回	在庫管理アプリの制作 (2)	入力値のチェック
第7回	在庫管理アプリの制作 (3)	在庫の更新
第8回	業務日誌アプリの制作 (1)	業務日誌を記録するためのカレンダーの制作
第9回	業務日誌アプリの制作 (2)	カレンダーにイベントをつけて日付を指定
第10回	業務日誌アプリの制作 (3)	カレンダーで指定した日付の業務日誌を追加・削除・修正
第11回	帳票アプリの制作 (1)	Excel シートに雛形を作成 ボタン操作でコピー
第12回	帳票アプリの制作 (2)	管理台帳の自動作成
第13回	総合制作 (1)	自らのアイデアを具現化するアプリケーションを制作する。
第14回	総合制作 (2)	自らのアイデアを具現化するアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンデマンドの動画で予習をしてから講義に参加すること。講義では、予習した知識を定着させるために演習を行う。復習して次週までにプログラムを完成させる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システム上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 72%

制作課題提出 28%

【学生の意見等からの気づき】

動画の配信が遅いとの指摘があり、できる限り早期に出せるようにします。実務に使えるようなアプリを考えました

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Windows が動作する Windows パソコンがあるとよい。家族との共用、古くても可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目
プログラミング言語 VBA 1

【オフィス・アワー】

講義の後、メールでも対応する。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

You will be able to understand typical algorithms and implement them in your programs. You will also be able to find and correct errors in the program yourself.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 72%

Comprehensive Exercises 28%

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅰ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）

入戸野 健

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度に情報化された社会では、各自が問題解決を行うに当たりプログラミング能力を身につけていることが重要になります。問題をプログラムにより処理する手順を論理的に考え、ソースコードを作成できるようになることを目的とします。この科目では特に、JavaScriptによるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携するWebページの作成に必要なHTMLとCSSについても学びます。また、AIを利用したプログラミングについても習得します。

【到達目標】

受講生がJavaScriptによるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScriptを利用したWebページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの基本的な仕組みを理解することを通じて、自ら作成したWebページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、テキストに沿って実習形式で進めます。まず作成するプログラムについての基礎知識や考え方を学習した後、ソースコードを入力して実行し、結果を確認します。テキストの内容を踏まえた練習問題にあたり、学習したテクニックを利用する方法を身につけます。必要となるインターネットや通信ネットワークについての関連知識についても随時触れていきます。

授業は原則として対面で行いますが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プログラミング環境とAIの利用	JavaScriptの特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行います。また、AIを利用してソースコードを入力する操作について学びます。
第2回	Webサイトの仕組み	Webページ表示の仕組みを理解し、HTMLやCSSの役割について学習します。
第3回	Webページ作成の基礎	基本的な構成のWebページをHTMLを使って作る方法を学びます。
第4回	ページの装飾	WebページをCSSで装飾する方法の基礎を学びます。
第5回	JavaScriptの入力と実行の基本	基礎的なJavaScriptのソースコードを入力してコンソールに実行結果を表示するまでの基本操作を学びます。
第6回	ボタンとダイアログボックスの利用	プログラムを起動するボタンと実行結果を表示するダイアログボックスを利用する方法を学習します。
第7回	ページ内容の書換え	JavaScriptのプログラムからWebページの内容を取得したり、ページ内容を書き換えたりする方法を学びます。
第8回	データと変数	数値データの計算、変数へのデータの代入について学習します。
第9回	条件分岐	if文で条件によって実行する処理を切り替える方法を習得します。
第10回	繰り返し	whileやforを使って指定した処理を繰り返し実行する方法を学びます。
第11回	関数の使い方	既存の関数を利用したり、自分で関数を作って実行する方法を学習します。
第12回	配列の利用	多くのデータをまとめて扱うための配列の使い方について学びます。
第13回	JavaScriptとWebページ制作の基礎(1)	JavaScriptを利用したオリジナルなWebページの構成を立案し検討します。

第14回 JavaScriptとWebページ制作の基礎(2) Webページの構成をコーディングして入力し、動作確認を行って完成させます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第7版」David Flanagan 著、2021、オライリージャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート(15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習(60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室のPCで行います。

作成したファイルやデータを保存するためのUSBメモリーを必要に応じて各自持参してください(詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

プログラミング言語(Python)Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）

入戸野 健

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度に情報化された社会では、各自が問題解決を行うに当たりプログラミング能力を身につけていることが重要になります。問題をプログラムにより処理する手順を論理的に考え、ソースコードを作成できるようになることを目的とします。この科目では特に、JavaScriptによるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携するWebページの作成に必要なHTMLとCSSについても学びます。また、AIを利用したプログラミングについても習得します。

【到達目標】

受講生がJavaScriptによるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScriptを利用したWebページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの基本的な仕組みを理解することを通じて、自ら作成したWebページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、テキストに沿って実習形式で進めます。まず作成するプログラムについての基礎知識や考え方を学習した後、ソースコードを入力して実行し、結果を確認します。テキストの内容を踏まえた練習問題にあたり、学習したテクニックを利用する方法を身につけます。必要となるインターネットや通信ネットワークについての関連知識についても随時触れていきます。授業は原則として対面で行いますが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webサイト構成の基礎とAIの利用	実用的なWebサイトのページ構成やページのレイアウトの作り方について学習します。合わせて、AIによるコード生成について習得します。
第2回	データ入力用のページ作成	HTMLでページ内にデータ入力用のフォームを作る方法を学びます。
第3回	データの取り込み	ページ内のフォームに入力されたデータをJavaScriptで利用する方法を学習します。
第4回	数値計算	関数を利用して様々なデータの計算を行う方法を学びます。
第5回	文字列の処理	文字列の連結、部分切り出し、置換え等の処理について学習します。
第6回	日付の計算	日数や時刻の表示や、それらのデータをもとにした時間や日数の計算について学びます。
第7回	画像処理	画像を読み込んで表示したり、複数の画像を切替えて表示するといった方法を学びます。
第8回	アニメーション	Webページのメニューなどを動的にアニメーションで表示するやり方について学習します。
第9回	jQueryの利用	jQueryを利用してよりシンプルにJavaScriptのコードを記述する方法を学びます。
第10回	データファイルの読み書き	JSON形式等のファイルからデータを読み込んだりデータを書き出す方法について学習します。
第11回	APIの利用	APIを使ってインターネットのWebページからデータを取得して利用する方法を習得します。
第12回	JavaScriptの応用とWebページ制作(1)	いくつかのテーマの中から、各自でJavaScriptを活用したWebページを立案しサイトの構成を検討します。

第13回	JavaScriptの応用とWebページ制作(2)	ソースコードを入力して作成し、ページのレイアウトや装飾などを行ってブラッシュアップします。
第14回	JavaScriptの応用とWebページ制作(3)	作成したWebサイトの動作確認を行い、さらなる改善点があるか等について検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第7版」David Flanagan 著、2021、オライリージャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(25%)：実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。
課題レポート(15%)：状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。
課題演習(60%)：後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室のPCで行います。
作成したファイルやデータを保存するためのUSBメモリーを必要に応じて各自持参してください（詳細は授業内で説明します）。

【関連科目】

プログラミング言語 (Python) I /II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.
(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.
(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語 I（Python）（2019年度以降入学者）

入戸野 健

情報関係科目情報関係科目 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度に情報化された社会では、各自が問題解決を行うに当たりプログラミング能力を身につけていることが重要になります。問題をプログラムにより処理する手順を論理的に考え、ソースコードを作成できるようになることを目的とします。この授業では特に、Python によるプログラミングの基礎を学習します。プログラミングの初歩から基本文法を学んで行き、授業の後半ではいくつかの応用事例を学習します。また、AI を利用したプログラミングについても習得します。

【到達目標】

まず、プログラミングの考え方を身につけることを目標とします。次に、解決したい問題に対して、簡単なプログラムを自分で作成し、直接あるいは間接的に解決に役立てられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に PC を使って実習形式で進めます。まずテキストの解説などで基本的な考え方や文法を理解した上で、例題の入力と実行確認を行います。さらに関連した練習問題のプログラム作成に取り組みます。

授業は原則として対面で行いますが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	Python の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行います。
第2回	簡単な計算と AI の利用	簡単な四則演算を行い、プログラミングの操作に慣れます。また、AI を利用してソースコードを入力する操作について学びます。
第3回	数値と変数	数値の計算、変数への値の代入について学習します。
第4回	文字列の操作	文字の表示、文字の結合、一部分の文字の取り出しなどを学びます。
第5回	関数を使う	関数の利用の仕方、予め用意されている各種の関数について理解します。
第6回	条件分岐	if 文で条件によって実行する処理を変える方法を学習します。
第7回	繰り返し	for 文を使って処理を繰り返し実行する方法を学びます。
第8回	リストとタプル	複数のデータをまとめて扱うためのリストとタプルについて学習します。
第9回	セットと辞書	データの集まりを集合や辞書のように扱う方法を学びます。
第10回	関数の作成	自分で関数を作り利用する方法について学びます。
第11回	ソート・検索・抽出	データを並べ換えたり、指定したデータを探し出す方法を学びます。
第12回	例外処理	実行中に発生するエラーに対処するプログラムの書き方について理解します。
第13回	イテレータと内包表記	データの集まりから次々に要素を取り出したり、繰り返しデータを作成する方法を学習します。
第14回	基礎プログラム作成演習	各自で基礎的なオリジナルプログラムを作成する演習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で指定した目標まで到達できなかった場合は、次の回までに各自で完了させておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

「Python チュートリアル 第3版」Guido van Rossum、2016、オライリージャパン

「Python 言語によるプログラミング イントロダクション 第2版」John V. Guttag、2017、近代科学社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習が中心のため、毎回の実習をこなしてスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 授業内容に沿った課題を 1～2 回程度出題します。

課題演習 (60%) : 終盤に授業内で行う課題演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での実習の時間を十分に確保できるよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください（詳細は授業内で説明します）。

【関連科目】

プログラミング言語(スクリプト言語) I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on Python as a scripting language. The course aims to provide understanding of elementary programming techniques. In the latter part of the course, it also focuses on some application cases.

(Learning Objectives) The first goal is to learn the basic concept of programming. The next goal is to be able to create your own programs in Python for the problems you want to solve.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（Python）（2019年度以降入学者）

入戸野 健

情報関係科目情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度に情報化された社会では、各自が問題解決を行うに当たりプログラミング能力を身につけていることが重要になります。問題をプログラムにより処理する手順を論理的に考え、ソースコードを作成できるようになることを目的とします。この授業では特に、Pythonによるプログラミングの基礎を学習します。プログラミングの初歩から基本文法を学んで行き、授業の後半ではいくつかの応用例を学習します。実際にAIにより画像認識を行う方法も学びます。

【到達目標】

まず、プログラミングの考え方を身につけることを目標とします。次に、解決したい問題に対して、簡単なプログラムを自分で作成し、直接あるいは間接的に解決に役立てられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にPCを使って実習形式で進めます。まずテキストの解説などで基本的な考え方や文法を理解した上で、例題の入力と実行確認を行います。さらに関連した練習問題のプログラム作成に取り組みます。

授業は原則として対面で行いますが、状況によっては一部をオンライン形式で実施することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイル処理	ファイルからデータ読み込んだり、処理結果をファイルへ書き出す方法を学びます。
第2回	配列の計算	配列(NumPy)を利用して数の並びを高速に計算する方法を学習します。
第3回	データのグラフ化	データを折れ線グラフや棒グラフなどで表現(可視化)する方法を学びます。
第4回	グラフの編集	軸や凡例などの様々なグラフの部分を編集する方法を学習します。
第5回	オブジェクトとクラス	オブジェクト指向プログラミングの考え方について理解します。
第6回	クラスの定義	オブジェクトを定義するクラスの作成方法について学習します。
第7回	メソッドの作成	オブジェクトを操作するメソッドの書き方について学びます。
第8回	プロパティの利用	オブジェクト内にあるデータの扱いについて理解します。
第9回	クラスの継承	既存のクラスを基にして新たなクラスを作成する方法を学習します。
第10回	事例1: Web データ処理	Webサイトからデータを収集(スクレイピング)して集計処理を実行します。
第11回	事例2: データサイエンス入門	Pythonによる基礎的な統計的データ分析を行います。
第12回	事例3: AI (人工知能) 入門	AIの手法により手書き文字を認識する処理を実行します。
第13回	応用プログラム作成演習(1)	いくつかのテーマの中から各自で問題を選び、プログラムを作成する演習を行います。
第14回	応用プログラム作成演習(2)	作成したプログラムの動作確認を行い処理効率の改善を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で指定した目標まで到達できなかった場合は、次の回までに各自で完了させておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

「Pythonチュートリアル 第3版」Guido van Rossum、2016、オライリージャパン

「Python 言語によるプログラミング イントロダクション 第2版」John V. Guttag、2017、近代科学社

【成績評価の方法と基準】

平常点(25%) : 実習が中心のため、毎回の実習をこなしてスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート(15%) : 授業内容に沿った課題を1～2回程度出題します。

課題演習(60%) : 終盤に授業内で行う課題演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での実習の時間を十分に確保できるよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室のPCで行います。

作成したプログラムやデータを保存するためのUSBメモリーを必要に応じて各自持参してください(詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

プログラミング言語(スクリプト言語)Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on Python as a scripting language. The course aims to provide understanding of elementary programming techniques. In the latter part of the course, it also focuses on some application cases.

(Learning Objectives) The first goal is to learn the basic concept of programming. The next goal is to be able to create your own programs in Python for the problems you want to solve.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので学習支援システム（WebClassまたはGoogleClassroom）を参照すること。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法なども、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システム（WebClassやGoogle Classroom）でその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。同様に、質問の受付や課題へのフィードバックも学習支援システムに掲示して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。

第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%）評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

永保 敏伸

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜fコース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分ではExcelを用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けたExcelでの処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義→実習→まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進度は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

+++++++
オンライン講義の場合
+++++++

Zoomを用いたリアルタイム授業で行います。

オンライン講義の場合に、受講端末は、スマホではなく、シラバス記載のアプリケーションが操作可能なパソコンをお勧めします。リアルタイムでそれらのアプリケーションの操作しながら講義を進めることが多いです。

講義開始直前の情報は、学習支援システム（hoppii）の授業内掲示板を用いて行います。必ず情報を受け取れるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パソコン（Windows）の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第2回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第3回	クラウドコンピューティング	OnedriveやGoogleDriveなどを活用したデータの保管方法
第4回	ワープロ基礎（Word online）	基本操作の確認とクラウドサービスの活用を知る
第5回	ワープロ応用（Word）	テンプレートを活用した文章構成の練習
第6回	プレゼンテーション①（Impress, Powerpoint online）	講義やゼミで使うプレゼン資料を作成する環境を整える

第7回	プレゼンテーション②（Impress, Powerpoint）	基本操作の確認
第8回	プレゼンテーション③（Impress, Powerpoint）	表・図形・写真の投影方法
第9回	表計算ソフト①（Excel）	基本操作の確認
第10回	表計算ソフト②（Excel）	データに応じた図表の作成方法確認
第11回	表計算ソフト③（Excel）	オートフィルタを用いた数値の処理
第12回	表計算ソフト④（Excel）	関数を用いた基礎的な集計処理
第13回	空間情報解析の導入（MANDARA）	条件式など複雑な関数を用いた処理
第14回	総合実習	GISソフトを用いた主題図作成
		春学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期：

授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：

谷 謙二（2018）：『フリーGISソフトMANDARA10入門: かんたん! オリジナル地図を作ろう』, 古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する（変更の可能性あり）

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』, 技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005. 『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』, 古今書院

・川崎昭如ほか 2008. 『図解! Arc GIS Part2 GIS実戦に向けてのステップアップ』, 古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30％）とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30％）を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験（40％）を行う

上記1. ～3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

【厳守】

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特にExcelに関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30% ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

永保 敏伸

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜fコース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分ではExcelを用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けたExcelでの処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義→実習→まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進度は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域環境情報とは？ GISとSIS	地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第2回	地域環境情報とその収集・管理・活用法	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う
第3回	地図（主題図）作成	MANDARAを用いた階級区分図の作成
第4回	地図情報の取得	国土地理院などが提供している各種地図データを扱う
第5回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第6回	ジオコーディング入門	住所やGPSを用いて位置情報を取得する
第7回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第8回	属性データの加工	1次データに追加作業を行い、必要なデータを整える
第9回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第10回	データの種類と表現方法	階級区分を考える上で、重要な度数分布の検討を行う
第11回	主題図の重ね合わせ	作成した複数の主題図を重ねて1枚の図で表現する
第12回	Google Earth活用	MANDARAで作成した主題図をGoogle Earthへ出力する
第13回	総合実習1	GISソフトによる主題図作成と解析
第14回	総合実習2	秋学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期：

授業時に指示、「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：

谷 謙二（2018）：『フリーGISソフトMANDARA10入門: かんたん! オリジナル地図を作ろう』, 古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する（変更の可能性あり）

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017.『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』, 技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005.『図解! ArcGIS身近な事例で学ぼう』, 古今書院

・川崎昭知ほか 2008.『図解! ArcGIS Part2 GIS実戦に向けてのステップアップ』, 古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30％）とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30％）を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験（40％）を行う

上記1. ～3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

【厳守】

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特にExcelに関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing >
course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30% ,short reports: 30%,Term-end examination:
40%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を EXCEL の演習形式で学びます。

-EXCEL のデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。

-EXCEL の高度な機能(ピボットテーブル)を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化できることを学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。

-EXCEL のデータベース関数を用いて、データを整理できる。

-EXCEL のピボットテーブル機能を活用して、データを分析・整理して可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行う。またメールでのやり取りにも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第3回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念 データベースの考え方 と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第8回	Excel によるデータベース的処理(1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excel によるデータベース的処理(2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excel によるデータベース的処理(3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第12回	統計ソフト R の応用(1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第13回	統計ソフト R の応用(2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について

第14回 総合演習

春学期のまとめ

春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境、の確認
 2. ネットワークの仕組みについて調べる
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
 4. ～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小演習課題70%、平常点を30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勉めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal point:50%,Short reports:50%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を演習形式で学びます。
 -ACCESSのデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。
 -ACCESSの高度な機能を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で表現、可視化できることを学びます。
 -R言語システムとデータベースの連携について学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。
 -ACCESSの様々なクエリを使って、テーブルを操作、データを分析・整理し理解しやすい形で表現できる。
 -ACCESSでデータベースを設計できる。
 -R言語システムとリレーショナルデータベースの連携が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access、R言語システムの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行う。またメールでのやり取りにも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとAccessの基礎知識 Excelとの関係 データベースの設計と作成	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelファイルのエクスポート、データベースの設計と作成について
第3回	テーブルについて	テーブルの概要 テーブルとフィールドについて
第4回	クエリについて	様々なクエリについて
第5回	テーブルとクエリの応用について	関連をもつ複数テーブルについて 主キー、外部キー、参照整合性について
第6回	フォームについて	フォームの概要 フォームの形式、フォームのビュー、フォームの編集について
第7回	レポートについて	レポートの形式、レポートの作成、レポートの編集について 複数テーブルのレポートとグループ化について
第8回	総合演習 1-1	従業員管理のためのデータベース構築(1)
第9回	総合演習 1-2	従業員管理のためのデータベース構築(2)
第10回	Access 総合演習 2-1	書籍管理データベースの作成(1)
第11回	Access 総合演習 2-2	書籍管理データベースの作成(2)
第12回	統計ソフト R の基礎	統計ソフト R 入門
第13回	統計ソフト R の応用	Rによる判別分析とその応用
第14回	春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、毎回の小演習課題50%、平常点を30%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Normal point:30%,Short reports:50%,term-end report:20%.

情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を EXCEL の演習形式で学びます。

-EXCEL のデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。

-EXCEL の高度な機能(ピボットテーブル)を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化できることを学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。

-EXCEL のデータベース関数を用いて、データを整理できる。

-EXCEL のピボットテーブル機能を活用して、データを分析・整理して可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行う。またメールでのやり取りにも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第3回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念 データベースの考え方 と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第8回	Excel によるデータベース的処理(1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excel によるデータベース的処理(2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excel によるデータベース的処理(3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第12回	統計ソフト R の応用(1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第13回	統計ソフト R の応用(2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について

第14回 総合演習

春学期のまとめ

春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境、の確認
 2. ネットワークの仕組みについて調べる
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
 4. ～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小演習課題70%、平常点を30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勉めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal point:50%,Short reports:50%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

-本講義では、データベースを使う目的や基本的な知識を演習形式で学びます。
 -ACCESSのデータベース機能を活用することにより、データをさまざまな視点で整理する手法を身につけます。
 -ACCESSの高度な機能を活用して膨大で複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で表現、可視化できることを学びます。
 -R言語システムとデータベースの連携について学びます。

【到達目標】

-データベースについての基本的な知識を身につけ、説明ができる。
 -ACCESSの様々なクエリを使って、テーブルを操作、データを分析・整理し理解しやすい形で表現できる。
 -ACCESSでデータベースを設計できる。
 -R言語システムとリレーショナルデータベースの連携が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access、R言語システムの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前、中、後に随時受け付け、フィードバックを行う。またメールでのやり取りにも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとAccessの基礎知識 Excelとの関係 データベースの設計と作成	Accessの起動・データ読み込みと テーブルの作成 Excelファイルのエクスポート、 データベースの設計と作成について
第3回	テーブルについて	テーブルの概要 テーブルとフィールドについて
第4回	クエリについて	様々なクエリについて
第5回	テーブルとクエリの応用について	関連をもつ複数テーブルについて 主キー、外部キー、 参照整合性について
第6回	フォームについて	フォームの概要 フォームの形式、フォームのビュー、 フォームの編集について
第7回	レポートについて	レポートの形式、レポートの作成、 レポートの編集について 複数テーブルのレポートとグループ化について
第8回	総合演習 1-1	従業員管理のためのデータベース構築(1)
第9回	総合演習 1-2	従業員管理のためのデータベース構築(2)
第10回	Access 総合演習 2-1	書籍管理データベースの作成(1)
第11回	Access 総合演習 2-2	書籍管理データベースの作成(2)
第12回	統計ソフト R の基礎	統計ソフト R 入門
第13回	統計ソフト R の応用	R による判別分析とその応用
第14回	春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

【参考書】

参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、毎回の小演習課題50%、平常点を30%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Normal point:30%,Short reports:50%,term-end report:20%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。

- ビジュアルプログラミングを通してプログラミングの基礎を学び、データビジュアライゼーションに活用する方法を身につけます。

- データの可視化や情報の表現方法について理解することで、目的に応じて適切な表現や情報の発信方法をはじめ、複雑な情報をどのように整理して理解や相手に伝えていくことができるようになることが目標です。

【到達目標】

- 自分が発信したい内容に合わせて情報の視覚表現ができるようになる

- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。

- Processing(p5.js)を用いたビジュアルプログラミングで可視化の表現やデータの表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システムHoppiiに掲載します。

- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システムHoppiiにて公開します。

- 前半は様々なソフトを用いて、データに応じたグラフや図表の作成および情報の整理や表現手法について学びます。

- 後半はprocessingを用いてビジュアルプログラミングの基礎を学び、プログラミングを通してデータ可視化の基本を学びます。

- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データビジュアライゼーションの概要	- データビジュアライゼーションとは何か、様々な事例を通して概要を理解する
第2回	情報のリサーチと整理の手法	- インターネット上から必要な情報をリサーチ、収集する方法について学ぶ - 収集した情報を整理する手法(ロジックツリー、KJ法、マインドマップなど)について学ぶ
第3回	プレゼンソフトを使った図表の作成(1)	- 代表的な図表(フローチャート、ピラミッド図、概念図など)の作成方法、使い方について学ぶ
第4回	表計算ソフトを使ったグラフの作成(1)	- 円グラフや棒グラフ、積算グラフなど目的に応じたグラフやチャートの作成方法、読み取り方を学ぶ
第5回	表計算ソフトを使ったグラフの作成(2)	- 複合グラフや散布図の作成方法について学ぶ
第6回	プレゼンソフトを使った図表の作成(2)	- 表計算ソフトで作成したデータをプレゼンソフトなどと連携させる方法を学ぶ - オフィスソフト間でのデータの連携について学ぶ
第7回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(1)	- Processingの概要と環境構築、簡単な図形の描画を行う
第8回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(2)	- 変数やデータの型の定義、変数を用いて基本的な命令を実行できるようになる - 条件分岐や繰り返しなどプログラムの制御構造について学ぶ
第9回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(3)	- 簡単なアニメーションをプログラミングできるようにする - 自作の関数を作成して、プログラムに利用する方法を学ぶ

第10回 Processingを用いたビジュアルプログラミング(4)

- キーボード操作など外部入力によって変化するビジュアル作成を行う
- 配列やその他の必要な文法について学ぶ

第11回 Processingを用いたビジュアルプログラミング(5)

- 外部データを読み込み、そのデータを元に可視化する方法を学ぶ

第12回 Processingを用いたビジュアルプログラミング(6)

- 外部ライブラリや入力を用いて、可視化表現の幅を広げる方法を学ぶ
- インターネットからデータを取得してプログラムに取り込む方法について学ぶ

第13回 Processingを用いたビジュアルプログラミング(7)

- ここまで学んだプログラミング手法を用いて複雑なビジュアル表現を制作

第14回 春学期のまとめ

- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義前半ではオフィス系ソフトを用いるため、PCの操作(ファイル・フォルダ作成・データ保存)およびキーボードの操作、基本的な使い方はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- Generative Design with p5.js : ウェブでのクリエイティブ・コーディング / Benedikt Groß[ほか] 編著 ; Joey Lee, Niels Poldervaart 協力 ; 美山千香士, 杉本達應訳 (ビー・エヌ・エヌ新社)

- たのしいクリエイティブコーディング : Processingで学ぶコード×アート入門 / ユ・ジャン, マティアス・ファンク著 ; 杉本達應訳 (ビー・エヌ・エヌ新社)

その他授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内・期末課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

本学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題の提出等はGoogle クラウドスルームを利用します。また学生が所有するノートPCでも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PCやソフトウェアの操作、プログラミングの文法、関連用語などの詳細について細かく説明しない場合があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、基本的に教室で出席するようにお願いします。

【関連科目】

情報学に関連する科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- How to visualize and organize complex information using office software.

- Basic visual programming with Processing(p5.js).

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

田中 元一朗

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。

- 秋学期は、pythonを用いてデータ分析を行いグラフ化や図表の作成を行う方法を学びます。後半は、機械学習、AIのモデル作成を行い、可視化に関する機械学習技術について学びます。

【到達目標】

- Pythonとライブラリを用いて、データをさまざまな形で可視化することができる。

- 機械学習のモデルの作成と実行ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システムHoppiiに掲載します。

- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システムHoppiiにて公開します。

- 前半は複雑な分析を可視化する方法について表計算ソフトを用いて演習を行います。

- 後半はpythonを用いて数式の可視化や機械学習のためのモデル作成を行い、データ可視化の手法について演習を行います。

- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析の概要	- ビジネスデータ分析の概要について学ぶ - ピボットテーブルの使った集計と可視化の方法について紹介 - 相関関係についての分析と可視化の方法について紹介
第2回	ビジネスデータ分析の方法(1)	- PPM分析を行い製品や自社の立ち位置について分析する方法について紹介 - ファンチャートの作成を通して基準点からの変化の可視化について学ぶ - 重点分析について理解できるようになる
第3回	ビジネスデータ分析の方法(2)	- 構成比やパレート図を作成できるようになる
第4回	Pythonの文法(1)	- Pythonの概要について理解する - 変数や値、関数の実行などができるようになる - 条件分岐や繰り返しなど制御構造について理解する
第5回	Pythonの文法(2)	- 配列など高度なデータ構造について理解する - クイックソートアルゴリズムについて学ぶ - 外部ライブラリのインストール、読み込みができるようになる
第6回	Matplotlibを利用してグラフを作成する(1)	- PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第7回	Matplotlibを利用してグラフを作成する(2)	- PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第8回	Pythonと人工知能	- 機械学習やAIに使われている技術や仕組み、アルゴリズムについて理解する

第9回	機械学習(1)	- scikit-learnを利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。 - インターネット上のデータをスクレイピングする方法について学ぶ - ニューラルネットワーク技術について理解する
第10回	機械学習(2)	
第11回	ディープラーニング(1)	- Keras, tensorflowを利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。
第12回	ディープラーニング(2)	- k-meansによるクラスタリングや時系列予測について学ぶ
第13回	生成AIプログラミング	- pythonによる生成AIプログラミング - 生成AIの構成技術について理解する - Generative AIの可能性と限界について理解する
第14回	秋学期のまとめ	- 最新の機械学習、AI技術について理解する - 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本講義はPCの操作(ファイル・フォルダ作成・データ保存)およびキーボードの操作、OSやアプリの基本的な使い方、関連ソフトのインストール作業等は自力でできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

- データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- 東京大学のデータサイエンティスト育成講座：Pythonで手を動かして学ぶデータ分析 / 塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝著 (マイナビ出版)

- scikit-learn, Keras, TensorFlowによる実践機械学習 / Aurélien Géron 著 ; 長尾高弘訳(オライリー・ジャパン)

その他授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内・期末課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

- 可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。

- 難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題の提出等はGoogle クラウドを利用します。また自分が所有するノートPCでも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PCやソフトウェアの操作、プログラミングの文法、関連用語などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。

- 演習形式の授業なので、基本的に教室での出席をお願いします。

【関連科目】

情報学に関連する科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this course, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- The fall semester, students will learn about visualizing and analyzing data using python programming in the first part of this course.

- In the second part, students will learn visualization of a mathematical formula using matplotlib, studying about Machine Learning and AI technology.

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understanding PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance:50% and Coursework / Final Assignment:50%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

< 授業概要 >

本授業は可視化をテーマにした授業です。春期は表計算ソフトを利用してデータの可視化に挑戦します。またAIなどに利用される機械学習がどのようなものか理解し、AIなどのアルゴリズムがどのように判断を行っているか可視化していきます。

< 授業の目的・意義 >

数値などのデータだけを見てはわからないことも、データ分析やグラフ化などの可視化を行って初めて分かることもあります。客観的な可視化の手法を使うことで他の人との議論もしやすくなります。データの可視化の手法は研究発表やプレゼンテーションなどさまざまなところで役に立つスキルで、身につける意義があると考えます。また近年特に発展してきているAI（人工知能）がどのようにデータを判断するかを可視化し知ること、今後、人工知能を使う側として大事なスキルであると考えます。本授業では可視化を通じデジタルな時代に生き抜く必須スキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は表計算ソフトを利用したデータ可視化・分析を行うことができるようになる
- ・学生はAI（人工知能）の一種である機械学習・深層学習の仕組みを理解しどのように判断しているか理解し説明できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
2. Pythonを利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムの進め方と方法】の部分に、課題等に対するフィードバック方法についても明示してください。ムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogle クラウドルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学びます。
(2)	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学びます。
(3)	PPM分析	エクセルでPPM分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学びます。
(4)	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学びます。
(5)	相関関係	2つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学びます。
(6)	ABC分析	構成の偏りをABC分析を利用し可視化する方法について学びます。
(7)	Pythonでできること	AIや機械学習で利用されるPythonの概要について学びます。
(8)	Matplotlibを利用したグラフの作成 (1)	PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学びます。

(9)	Matplotlibを利用したグラフの作成 (2)	Matplotlibを利用しデータを可視化する方法について学びます。
(10)	機械学習(概要)	機械学習の概要について学びます。
(11)	機械学習(K近傍法)	K近傍法を利用した分類手法について学びます。
(12)	深層学習(ライブラリの利用)	画像認識ライブラリの利用方法について学びます。
(13)	深層学習(ライブラリの応用)	画像認識ライブラリに学習を行い独自のAIを作る方法について学びます。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

参考書は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードに気候学習やAIなどを利用しさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogle クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Javaコース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Outline of this class >

This class focuses on visualization. In the spring semester, students will try their hand at programming visualization using the C programming language. Specifically, we will use BitArrow, an online programming environment, to learn basic C syntax, and then visualize programming by drawing and animating figures.

< Purpose and Significance of the Class >

Programming is a hurdle for first-time programmers because it is difficult to see the flow of execution. We believe that learning programs while visualizing them will help students to understand them better. We believe that such visualization techniques are useful in all situations and have great significance, and we aim to help students acquire programming thinking, which is a way of thinking about visualization and problem solving, through visualization in the C programming language.

【Objectives】

Students will be able to visualize programs using C language.

Students will be able to acquire a programming mindset through visualization and apply it to problem solving.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生成AIを中心に据え、情報学の応用的な活用方法を学ぶ。生成AIの基本的な仕組みや特性を理解したうえで、データ分析、可視化、プログラミング、文章生成などへの活用を通して、情報を扱う力を総合的に高めることを目的とします。

春期に学んだデータ可視化を踏まえ、生成AIを「自動化の道具」として使うのではなく、人が判断・設計すべき部分とAIに任せる部分を意識しながら活用する姿勢を重視します。演習では、生成AIを用いたデータの説明生成、可視化案の検討、コード補助などを体験し、成果物の作成プロセスを振り返りながら理解を深めます。

本授業を通じて、受講者は生成AIの可能性と限界を理解し、情報学の知識と組み合わせることで主体的かつ適切に活用できる実践力を身につけることを目標とします。

【到達目標】

- ・生成AIの基本的な仕組みと特性を理解し、その可能性と限界を説明できる
- ・データ分析、可視化、プログラミング、文章生成などにおいて、生成AIを適切に活用できる
- ・人が判断・設計すべき部分と、生成AIに任せる部分を意識した活用方法を実践できる
- ・生成AIを用いた成果物の作成プロセスを振り返り、活用の妥当性を説明できる
- ・情報学の基礎知識と生成AIを組み合わせ、課題解決に主体的に取り組むことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。エクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法とAIや機械学習で利用されることが多いPythonを利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データを可視化する手法について学びます。演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに關するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／生成AI時代の情報学	なぜ生成AIを学ぶのか 情報学・プログラミングとの関係
第2回	生成AIの仕組み（概念理解）	LLMとは何か 学習・推論・確率的生成
第3回	生成AIの得意・不得意	正確性・幻覚 人が担うべき判断
第4回	プロンプトの基本設計	指示・条件・制約 悪いプロンプト／良いプロンプト
第5回	生成AIによる文章生成と要約	レポート補助 情報整理の補助
第6回	生成AIとデータ分析	データの説明をさせる 可視化アイデア生成
第7回	中間まとめ（ミニ課題）	AIを使った作業ログ提出 「どこをAIに任せたか」
第8回	生成AIとプログラミング支援	コード生成・読解 プログラミング科目との接続
第9回	生成AIと可視化の連携	グラフ案の生成 改善案の比較
第10回	生成AIの倫理・著作権・リスク	学生利用の注意点 教育現場でのルール
第11回	生成AIを使った小さなプロジェクト設計	テーマ設定 成果物の定義

第12回	最終課題制作（AI活用）	個別制作 AI利用の可視化
第13回	最終課題発表	成果＋プロセス説明 AIと人の役割分担
第14回	総括・振り返り	情報学として何を学んだか 今後の学びへの接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

参考書は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻やおしゃべりのないようお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Javaコース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course focuses on generative AI as a core topic and explores its applied use in the field of informatics.

By understanding the fundamental mechanisms and characteristics of generative AI, students aim to comprehensively enhance their ability to handle information through its application to data analysis, visualization, programming, and text generation.

Building on the data visualization skills acquired in the spring semester, the course emphasizes the responsible and intentional use of generative AI—not merely as an automation tool, but with careful consideration of which aspects should be judged and designed by humans and which can be delegated to AI.

Through hands-on exercises, students experience the use of generative AI for generating data explanations, examining visualization ideas, and supporting code development, while deepening their understanding by reflecting on the process of creating outcomes.

Through this course, students are expected to understand both the potential and limitations of generative AI and to acquire practical skills to use it proactively and appropriately in combination with their knowledge of informatics.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018 年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

- ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
- ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
- ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
- ・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など

第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第10回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふう に何を目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身についていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

- ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
- ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
- ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
- ・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■秋学期

- (1)比較簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか？ 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計 パレート分析
第9回	データ分析(2)	相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定

第11回 プレゼンテーション作成(2) プレゼンテーション作成、提出

第12回 Aグループ（1/2の受講生）の発表 Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第13回 Bグループ（1/2の受講生）の発表 Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート作成 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

- ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
- ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
- ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
- ・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■春学期

- (1)表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2)資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3)プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4)A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5)ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

- (1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。

提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など

第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成
第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふう に何を目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

- ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
- ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
- ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
- ・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■秋学期

- (1)比較簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか？ 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計 パレート分析
第9回	データ分析(2)	相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定

第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ（1/2の受講生）の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ（1/2の受講生）の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第14回	評価表提出とレポート作成	自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学応用Ⅰ (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

- ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
- ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
- ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
- ・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。

提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など

第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成
第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふう に何を目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身についていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が9割」佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

- ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
- ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
- ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
- ・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■秋学期

- (1)比較簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか？ 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計 パレート分析
第9回	データ分析(2)	相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定

第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ（1/2の受講生）の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ（1/2の受講生）の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第14回	評価表提出とレポート作成	自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

情報学応用Ⅰ (空間情報) (2019年度以降入学者)

沼尻 治樹

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集めし利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説で進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報 (デジタルデータ) の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第2回	空間情報システムの歴史と応用例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第3回	空間情報 (デジタルデータ) について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第4回	空間情報のマッピングの基礎	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第5回	空間情報のマッピングの編集	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第6回	空間情報と統計データの表示	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第7回	空間情報と統計データによる主題図の作成	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第8回	空間情報の統計演算【属性情報の追加】	統計データの新規追加を学ぶ
第9回	空間情報の統計演算【属性情報のフィールド演算】	統計データの変換を学ぶ
第10回	空間情報の統計演算【フィールド演算の応用】	統計データの演算を学ぶ
第11回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影 (座標系) 変換
第12回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法 (バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定) を学ぶ
第13回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報選択】	課題に対して空間情報を選択する
第14回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報処理】	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)

「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のモバイルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅱ (空間情報)

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

[Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

情報学応用 II (空間情報) (2019年度以降入学者)

沼尻 治樹

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

本科目では、公開されているデータを使うだけでなく、「データがなければ自分で作る」ための基礎的な方法を学ぶ。空間情報を自作することとおして、空間情報についてさらに理解を深め、空間情報の処理についてアルゴリズムを意識できるようになることを目指す。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説で進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報 (デジタルデータ) の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS (GPS) を用いた位置情報の取得と表示	GNSSで取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータ (線) の作成	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータ (面) の作成	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成およびデータ変換	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス (幾何補正) の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル (DEM) による地形解析【基礎】	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル (DEM) による地形解析【応用】	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践【空間内挿とデータの抽出】	空間補間 (空間内挿) を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践【リモートセンシング】	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察【適切な自作データ作成】	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ処理】	課題に対してデータ処理を実践する

第14回 空間情報の作成・分析と データ処理の結果を分析する
考察【適切なデータ分析】

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・学習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)
「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のモバイルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用 I (空間情報)

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

[Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学発展Ⅰ (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

＜授業概要＞

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みとその周辺技術を学びます。春学期はインターネットが繋がる仕組みTCP/IPの技術を中心に学び、その上で動くホームページを作成する技術であるHTMLとCSSを学びます。

＜授業の目的・意義＞

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。本授業ではインターネットがなぜ繋がるのかといった基本的なところから学んでいきます。普段何気なく使っているインターネットの仕組みを知ることでセキュリティ面や活用度を上げることができ、意義があるものと考えます。また普段よく接するホームページがどのように作られているか知り、自分で構築してみることで、どのくらいの手間がかかるものか知ることには意義のあることだと考えます。インターネットの仕組みやホームページの仕組みを知ることでデジタル時代に生き抜くスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生はインターネットがなぜ繋がりを通信を行うことができるのか理解し説明できるようになる
- ・学生はHTMLとCSSを利用して簡単なホームページを作成し公開できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。オンライン/オンデマンドで受講する学生は大学のネットワークにVPNで接続することが前提です。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogle クラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第2回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第3回	IPネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第4回	LANの仕組みと構成	LANの仕組みと構成を理解します。
第5回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第6回	TCPとパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するためのTCPとパケットについて理解します。

第7回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第8回	情報セキュリティ (基礎)	インターネットを利用した情報セキュリティの基礎について学びます。
第9回	情報セキュリティ (応用)	インターネットを利用した情報セキュリティの応用について学びます。
第10回	HTMLの基礎知識	Webページを作成するためのHTMLの歴史や現在の基礎知識について理解します。
第11回	HTMLの基本文法	HTMLの基本的な文法について理解します。
第12回	ホームページ作成の基礎 (入門)	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第13回	ホームページ作成の基礎 (応用)	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogle クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻やおしゃべりをしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ (fコース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

Students learn the structure of computer networks centered on the Internet and its peripheral technologies. In the spring semester, students will focus on TCP/IP technology, which is the mechanism for connecting to the Internet, and HTML and CSS, which are the technologies for creating websites that run on top of TCP/IP.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT, which is realized mainly through the Internet, has become an indispensable part of our daily lives. In this class, students will learn the basics of why the Internet is connected. We believe that knowing how the Internet works, which we usually use without thinking about it, is significant for improving security and utilization of the Internet. It is also meaningful to know how homepages are made and how much time and effort it takes to build them. The purpose of this course is to acquire the skills to survive in the digital age by learning how the Internet works and how homepages are made.

【Goals】

Students will be able to understand and explain why the Internet is able to connect and communicate.

Students will be able to create and publish a simple website using HTML and CSS.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。秋学期は春学期のインターネットの繋がる仕組みやホームページの作製技術であるHTML、CSSの応用としてサーバーサイドプログラム（PHP）に挑戦し、メール送信や画像アップロードの機能を作成していきます。

＜授業の目的・意義＞

HTMLやCSSは比較的シンプルな技術ですが、これらを組み合わせて実現するサーバーサイドのプログラムは障害が起きたときの切り分けが難しいものです。本授業を通じてどこで問題が発生しているか障害を切り分けるスキルを身につけていきます。このスキルは実社会で発生する問題の解決にも役に立つものであり意義があると考えます。単純な技術の習得ではなく、自分で考え、問題を切り分けるスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生は簡単なサーバーサイドプログラムを利用し動的なページを作成することができる
・インターネットの仕組みを理解し、障害が発生したときにどこに問題があるか特定できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。オンライン／オンデマンドで受講する学生は大学のネットワークにVPNで接続できることが前提です。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題等に対するフィードバックはGoogleクラスルームの限定コメントにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSSとデザイン	CSSを利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術であるPHPを利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHPの基本文法（変数、関数）	PHPの基本文法について学びます。
第5回	PHPの基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHPの基本文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成しPOSTやGETデータを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成しSessionでデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。

第9回	画像アップローダーの作成（アップロード）	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成（表示）	画像をサーバーにアップロードした画像を表示します。
第11回	画像アップローダーの作成（一覧表示）	アップロードした画像を一覧表示します。
第12回	スマートフォンアプリの作成（入門）	Monacaを利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第13回	スマートフォンアプリの作成（アプリ作成）	Monacaを利用して簡単なアプリケーションを作成します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみようを重視していきたいと思っています。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻やおしゃべりをしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（fコース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Class Outline]

ICT, realized mainly through the Internet, has become an integral part of our daily lives. In the fall semester, students will try their hand at server-side programming (PHP) as an application of HTML and CSS, the Internet connection mechanism and website creation techniques of the spring semester, and create functions for sending e-mail and uploading images.

[Purpose and Significance]

HTML and CSS are relatively simple technologies, but server-side programs that combine these technologies are difficult to isolate when a problem occurs. Through this class, students will acquire the skills to isolate where problems occur. We believe that this skill is useful and meaningful for solving problems that occur in the real world. The objective of this course is not to simply learn techniques, but to acquire the skills to think for oneself and isolate problems.

[Objectives]

Students will be able to create dynamic pages using simple server-side programs.

Students will be able to understand how the Internet works and be able to identify problems when they occur.

[Learning activities outside of classroom]

The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to attend this class while imagining that they will be the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集（段落と改行） 文字の修飾（太字、下線、ルビ） 画像ファイルの取り扱い（別フォルダーの作成と画像の挿入）
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする（別のページに移動する）
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする（ハイパーリンク）
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の箇所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する

第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に付けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページを作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイトル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル（表）を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイトル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する

第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集（段落と改行） 文字の修飾（太字、下線、ルビ） 画像ファイルの取り扱い（別フォルダーの作成と画像の挿入）
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする（別のページに移動する）
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする（ハイパーリンク）
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の箇所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する

第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページを作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイトル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル（表）を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイトル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する

第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集（段落と改行） 文字の修飾（太字、下線、ルビ） 画像ファイルの取り扱い（別フォルダーの作成と画像の挿入）
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする（別のページに移動する）
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする（ハイパーリンク）
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の箇所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する

第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口申し出てください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に付けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページを作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイトル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

春学期、秋学期ともに

授業内で課題を提示、解説する。その後、課題を完成させて期日までに提出。提出後、採点。修正が必要な場合は、修正指示を返すので、再提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル（表）を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイトル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていること確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する

第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（システム科学）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目情報関係科目 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジュアルプログラミング言語Scratchを用いて、プログラミングの考え方、イベントドリブンプログラムの実装を学ぶ。
期待どおりの動作ができなかったとき、原因を探り、乗り越えていく力をつける。
強化学習の仕組みを理解し、体験する

【到達目標】

ゴールは以下のとおり

- 1) ビジュアルプログラミングによりプログラムの動作を直感的に理解する
- 2) プログラムを動作させることを通して、ゲームプレイヤーが強化していく様子を観察する。
- 3) アプリケーションを企画して実装する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

サンプルプログラムによる技術的な解説をした後、似たようなプログラムの作成を課題とする。

課題のフィードバックは対面講義時間中に対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方 Scratchの使い方
第2回	自由落下	繰り返しの利用
第3回	たくさんの自由落下	クローンの利用
第4回	乱数	乱数を利用して落下位置を決める
第5回	衝突検知	分岐による判定
第6回	データの管理	リストへの追加・削除
第7回	電卓	イベント・ドリブン
第8回	コンピュータの仕組み	2進数を表現
第9回	簡単なゲームの作成	それまでの組み合わせ
第10回	ゲームプレイヤーの強化1	強化学習によりプレイヤーを強化する
第11回	ゲームプレイヤーの強化2	強化学習によりプレイヤーを強化する
第12回	ゲームプレイヤーの強化3	強化学習によりプレイヤーを強化する
第13回	ゲームプレイヤーの強化4	強化学習によりプレイヤーを強化する
第14回	発表会	作品のアイディアを共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を予習し、講義後に課題を完成させる。

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料として提供する

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点50%

最終課題50%

60点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

事前の資料の提供を早めにするようにします

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

プログラミングの経験は不要だが、興味を持って取り組んでください

【関連科目】

情報学発展2（システム科学）

【オフィス・アワー】

できるだけ講義時間に質問してください。

時間外は、メールで対応します。

メールアドレスは第1回講義資料に記載します

【Outline (in English)】

Using the visual programming language Scratch, you will learn how to think about programming and implement event-driven programs.

Gain the ability to identify causes and overcome problems when things do not work as expected.

Understand and experience the mechanisms of reinforcement learning.

The goals are as follows:

- 1) Intuitively understand how a program works through visual programming.
- 2) Observe how game players improve by running the program.
- 3) Plan and implement an application.

Regular grades 50%

Final assignment 50%

60 points or more is the pass mark

Students will be required to study the lecture materials in advance and complete assignments after the lecture.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（システム科学）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目情報関係科目 2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング言語 Python を利用してデータ分析の基礎を学ぶ。
データサイエンスの1つの手法として機械学習がある。ビッグデータ・オープンデータの時代であり、できるだけ大量で本物のデータをインターネットから収集し、機械学習させて、人工知能の第一歩を経験する。

【到達目標】

- 1) Python とそのライブラリを用いて、大量のデータを扱う手法を理解し、実行できる。
- 2) 実データを機械学習し、分類・予測を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に講義資料を予習し、講義で解説ののち、課題を完成させる
課題のフィードバックは対面講義時間中に対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方と Python の使い方
第2回	Python の基礎 1	変数とリスト
第3回	Python の基礎 2	分岐と繰り返し
第4回	Python の基礎 3	関数
第5回	Numpy の利用	Numpy の演算
第6回	Pandas の利用 1	Pandas を利用したファイルの読み込み
第7回	Pandas の利用 2	Pandas を利用したデータの加工
第8回	可視化	matplotlib によるグラフの作成
第9回	画像処理	OpenCV を利用した画像の認識
第10回	機械学習 1	単回帰モデル
第11回	機械学習 2	重回帰モデル
第12回	機械学習 3	手書き文字の認識
第13回	機械学習 4	分類
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を予習し、講義後に課題を完成させる。
本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料として配布する

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 100%

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を早めに出します

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

情報学発展Ⅰ（システム科学）から継続して履修することが望ましい

【関連科目】

情報学発展Ⅰ（システム科学）

【オフィス・アワー】

できるだけ講義時間内に質問してください。時間外には、メールで対応します。
メールアドレスは第1回講義資料に記載します。

【Outline (in English)】

You will learn the fundamentals of data analysis using the programming language Python.

Machine learning is one method of data science. In this age of big data and open data, you will collect as much real data as possible from the internet, train it on machine learning, and experience your first steps in artificial intelligence.

The goals are as follows:

1) Understand and execute methods for handling large amounts of data using Python and its libraries.

2) Use machine learning to classify and predict real data.

Study the lecture materials in advance, and complete the assignments after the lecture.

It takes about 2 hours.

100% on each assignment

60 points or more is the pass mark

LAW200FA（法学 / law 200）

民法

松田 佳久

連環科目連環科目 連環科目_法律関係 2～4 年次 / 4 単位 [年間授業/Yearly]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

具体的には、私たちの生活に直接に関係してくる事項（売買契約などの契約関係や所有権などの物権関係）について勉強をする。

【到達目標】

取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。

具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」、「DP5」、「法律」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

2026 年度はオンデマンドでの開講となります。

学習支援システムの「教材」に各回の参考図、判例等を UP しておきます。それを印刷して、学習支援システムの「オンデマンド」から該当の録画を見つ、視聴してください。各自で計 28 回の視聴時間を確保し視聴してください。

この科目は、中間試験と期末試験も結果で評価します。また、通常時において課題は出しません。しかし、中間試験と期末試験の結果のフィードバックについては、下記の私の大学メルアドに、点数および解答を教えてください。旨の連絡をください。

yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民法典とその構成	講義を始めるに際しての諸注意 民法典 民法典の構成 物権と債権
第2回	売買契約の有効な成立 1	契約の成立要件
第3回	売買契約の有効な成立 2	契約の有効要件
第4回	売買契約の有効な成立 3	無効原因 取消しと無効
第5回	売買契約の有効な成立 4	代理
第6回	売買契約の有効な成立 5	無権代理 条件と期限 物の引渡し
第7回	売主の義務と買主の義務 1	
第8回	売主の義務と買主の義務 2	代金の支払い
第9回	売主の義務と買主の義務 3	購入資金の借入れ
第10回	売主の義務と買主の義務 4	債権関係の終了
第11回	売主の義務と買主の義務 5	現実的履行の強制
第12回	売主の義務と買主の義務 6	損害賠償請求 契約の解除
第13回	売買契約による所有権の移転 1	物権変動の基本原則
第14回	売買契約による所有権の移転 2	動産取引における公示の原則と公信の原則
第15回	所有権と占有権 1	物権の客体 物権の本質 物権の効力 所有権の性質と効力 相隣関係 所有権の特別な取得原因 所有権の成立と態様 占有権の効力
第16回	所有権と占有権 2	
第17回	債権の回収と債権の担保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）

第18回	債権の回収と債権の担保 2	詐害行為取消権
第19回	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務 保証債務
第20回	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則 抵当権
第21回	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保 総説
第22回	物の貸借契約 1 物の貸借契約 2	賃貸借契約（基本的な法律関係） 賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転賃、賃貸借契約の終了） 借地借家法（借地関係、借家関係） 総説、 雇用契約 請負契約 委任契約 総説 事務管理
第23回	物の貸借契約 3	
第24回	他人の労務を目的とする契約 1	
第25回	他人の労務を目的とする契約 2 法律の規定に基づいて生ずる債権 1	不当利得
第26回	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	
第27回	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
第28回	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
- 視聴後に各自で内容を復習すること
- 学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- わからないところがあったら担当教員の大学メールアドレス（yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）に質問などをして、疑問を残さないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』2023 年 9 月、第 2 版、嵯峨野書院

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』（有斐閣、第 9 版、2023 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ 債権』（有斐閣、第 9 版、2023 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、中間試験（50 点満点）と期末試験（50 点満点）の合計により行います。
中間試験を受験しない人がいますが、受験しないとこの講座の単位取得はできません。
2026 年度は、中間試験・期末試験は教室では実施しません。
Hoppii の「レポート」に試験の問題を掲載しますので、試験の所定の期間内に添付の解答用紙に解答し、Hoppii の「レポート」に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には、計 28 回の講義をしっかりと視聴することが必要になります。
わからないところがありましたら、いつでもメールで質問をしてください（担当教員のメルアド：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii の「教材」に参考図、判例等を UP しておきますので、教材を印刷し、学習支援システムの「オンデマンド」に合録画を視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

特になし。

【オフィス・アワー】

常時、メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline】

Civil law is the most fundamental and important law in civil life. Civil law is broadly divided into property law, which centers on transactions, and family law, which centers on family life. Since this lecture is aimed at students in the business administration department, I will focus on the former property law.

Specifically, we will study matters that are directly related to our lives (contractual relationships such as sales contracts and property rights such as ownership).

【Goal】

It is necessary to fully understand the basic legal system related to living relations centered on transactions, and to build a background in which the specialized knowledge of the Faculty of Business Administration is even more effective.

Specifically, it is necessary to acquire sufficient legal knowledge about the following. (1) Requirements for effective conclusion of contract, (2) Contents of claims established by contract, (3) Effectiveness of claims, (4) Changes in property rights and perfection requirements, (5) Means of collateral for claims, especially mortgages and guarantee obligations.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be evaluated based on the total of the mid-term exam (out of 50 points) and the final exam (out of 50 points).

Some people do not take the mid-term exam. If you do not take the exam, you will not be able to earn credits for this course.

In 2022, mid-term and final exams will not be held in the classroom.

The exam questions will be posted in the "Report" of the learning support system. Please answer the attached answer sheet within the specified period of the exam and submit it to the "Report" of the employment support system.

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with this, the textbook was also revised and updated (Kenzo Miyamoto, "New Conduct Civil Code", May 2020, Sagano Shoin).

Even if you use an old version of the textbook, you will not be able to understand the content of the lecture, and you will not be able to handle the mid-term and final exams, so please prepare the above textbook.

LAW200FA（法学 / law 200）

会社法

鬼頭 俊泰

連環科目連環科目 連環科目_法律関係 2～4年次／4単位 [年間授業/Yearly]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社法が規定する株式会社を中心に講義する。履修学生は、会社に関する制度や基礎概念、ひいては会社法が会社関係者の利害をどのように調整・規律しているのか、会社の利益をどのように分配するのかなど、会社法が定める制度の全体像を理解することを目的とする。本講義は、かかる理解に基づきながら、実際に問題となった紛争事例やその解決への道筋、そなわち制度の運用面において妥当な解決策を導き出すための能力を涵養する。

【到達目標】

本講義では、履修学生が、①講義内で取り上げた会社法の各制度を説明できるようになること、②会社法が関係する具体的な事例に対して、関連する条文や制度に基づきながら、一定の妥当な結論を導き出せるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、法政大学経営学部方針（前年履修者数に基づく授業実施形態の区分け）に従い、オンデマンド型の講義を行う。講義をするにあたっては、難解な専門用語やわかりづらい制度について平易な言葉で説明することで講義内容の理解を促す。また、適宜、学習支援システムなどを通じて学生からのリアクションペーパーの提出を求めることで学生の講義内容に対する理解状況の把握に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Orientation・会社法総論	全体の講義計画・各回講義概要・成績評価方法、基準等を説明したうえで、会社法の意義や株式会社制度について説明する。
第2回	会社の種類とその性質	会社法が規定する会社の種類（株式会社・持分会社）とそれぞれの会社の特徴を説明し、それぞれの会社の長所・短所などを比較・検討する。
第3回	会社の資金調達方法	会社による資金調達の必要性和会社法が規定する資金調達方法を概括的に説明する。
第4回	株式会社の設立方法・設立手続き	会社法が規定する株式会社の設立方法（発起設立・募集設立）および設立手続きを説明する。
第5回	株式会社の設立過程における法的問題点	会社設立時の法律問題のうち、仮装払込みを取り上げ説明・検討するとともに、かかる問題に対する会社法の規律を整理する。
第6回	株式の意義	株式とは何か、どのような機能を有しているのかを説明する。
第7回	株主の地位と株主間の利害調整	株主個人の権利義務と他の株主との関係をどのように調整するのか、会社法の規律を整理したうえで、事例を用いて検討する。
第8回	種類株式とその活用法	特殊な種類の株式の内容とその活用方法につき、会社法の規律をもとに説明・検討する。
第9回	募集株式発行手続き	株式はどのような手続きに従い発行されるのか、発行時の法的問題（有利発行・不公正発行等）とともに、整理・検討する。
第10回	株式の譲渡手続き	株主の投下資本回収方法としての譲渡手続きは会社法上どのように設定されているのか、事例も交えて説明する。
第11回	自己株式の意義と機能	自己株式とは何か、どのような機能を有しているのか・会社法が一定程度規制を課している理由はどこにあるのか、会社による払い戻しや関連事例を取り上げながら説明・検討する。

第12回	新株予約権の意義と機能	新株予約権とは何か、どのような機能・問題点を有しているのか、株式の内容と比較しながら説明・検討する。
第13回	社債・新株予約権付社債の意義と機能	社債・新株予約権付社債とは何か、どのような機能・問題点を有しているのか、株式・新株予約権と比較しながら説明・検討する。
第14回	春学期のまとめと理解度チェック	1回～13回の講義内容を振り返るとともに、学生の理解度をテストによりチェックする。
第15回	株式会社の機関設計	株式会社の内部は会社法によってどのように組織することができるのか、会社法が許容する機関設計を総論的に説明する。
第16回	株主総会の意義と機能	株主総会とは何か、どのような機能を有しているのか、会社法の規定をもとに説明する。
第17回	株主総会の瑕疵	株主総会に関する法的問題のうち、いわゆる瑕疵ある株主総会に対して会社法がどのような規律を定めているのか、関連事案とともに整理・検討する。
第18回	取締役・取締役会の意義と機能	取締役・取締役会とは何か、どのような機能を有しているのかにつき、会社法の規定を中心に整理説明する。
第19回	取締役の法的義務	取締役の会社・株主に対する法的義務につき、善管注意義務・忠実義務の説明を土台とした上で、内部統制システム構築義務・競業避止義務・利益相反取引規制に関する法的問題を関連事案を取り上げながら説明・検討する。
第20回	監査役・監査役会・会計監査人・会計参与の意義と内容	会社法が定める、監査役・監査役会・会計監査人・会計参与の内容につき、整理・説明する。
第21回	役員の責任と責任追及のための仕組み	役員の責任（対会社責任・対第三者責任など）および、同責任に違反した役員への責任追及方法につき、それぞれ会社法がどのような規定を置いているのか関連事例をもとに説明・検討する。
第22回	委員会設置会社（監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社）の意義と概要	監査役・監査役会を置く従来型の株式会社以外の会社類型につき、会社法の規定をもとに説明する。
第23回	役員報酬	会社法が役員報酬に対して各種規定を置き規律している理由と、役員報酬が問題となった事例を説明・検討する。
第24回	株式会社の計算	株式会社の計算に関する会社法上の規定について、①財務情報開示、②剰余金分配規制との関係から説明する。
第25回	株式会社の組織再編	会社法が定める組織再編行為（組織変更・合併・分割・株式交換・株式移転）について、会社法の規定をもとに内容・手続きを説明する。
第26回	M&Aに対する法規制	会社組織再編時に発生する各種法的問題（具体的には、反対株主による株式買取請求時の「公正な価格」の算定方法など）を説明・検討する。
第27回	持分会社の意義と概要	会社法が定める持分会社（合名・合資・合同会社）につき、株式会社と比較しつつ会社法の規定内容を説明する。
第28回	秋学期のまとめと理解度チェック	15回～27回の講義内容を振り返るとともに、学生の理解度をテストによりチェックする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業映像終了時に次の講義内容を連絡するので、テキスト該当箇所を予習しておく。本講義の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

商事法講義1（第2版） 会社法、松嶋隆弘＝大久保拓也編、中央経済社、2023年

【参考書】

会社法判例百選（第4版）、神作裕之ほか編、有斐閣、2021年

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は以下のとおりとする。

試験（80％）、平常点（20％）により成績を評価する。

※いずれもレポート課題を予定。

※※具体的な方法と基準は、適時に学習支援システムを通じて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

録画した授業映像を視聴し受講するオンデマンド型の授業を行います。また、学習支援システムを利用した情報資料の配信を行う予定です。

従って、オンデマンド型授業を受講するための、また、授業資料をダウンロードあるいは閲覧するための情報環境（PC・スマートフォンなど問わず）は整えておいてください。

【その他の重要事項】

履修にあたって何か不都合が生じた場合は、気兼ねすることなく、教員や事務局まで問い合わせてください。

【関連科目】

民法

労働法

【Outline (in English)】

Topics include the promotion and formation of corporations; the distribution of power between management and shareholders; the limitations on management powers imposed by corporate law etc.

Students who take this class aim to understand about the above points.

And, based on this understanding, we develop legal problem-solving skills, that is, “legal mind”.

The content of the next lecture will be announced at the end of the video lesson, so please prepare by studying the relevant sections of the text.

The standard preparation and review time for this lecture is four hours each.

Grades are evaluated based on exams (80%) and regular class performance (20%).

LAW200FA（法学 / law 200）

労働法

山本 圭子

連環科目連環科目 連環科目_法律関係 2～4年次／4単位 [年間授業/Yearly]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の意義と内容を理解することを目的とする。労働基準法、労働契約法、労働組合法などの労働法の基礎を理解し、法令、判例、学説に沿った問題解決ができることを到達目標とする。

【到達目標】

学生が、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（一部オンデマンド）で授業を行う。オンデマンドについては、ZOOMの録画又は音声付きパワーポイントで配信する。オンデマンドで実施する場合にはhoppiiで通知する。対面授業では、hoppiiで出席をとる。毎回、学習支援システムでの小テストを課す。小テストは、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。夏期レポートについては、締め切り後に授業の中で全体講評と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働法概論	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第2回	労働基準法概論	労基法の概要と労働憲章を学ぶ
第3回	就職活動と法	募集、採用に係る法理を学ぶ
第4回	労働契約	労働契約、就業規則、労働協約の学ぶ
第5回	就業規則	就業規則の作成、変更法理を学ぶ
第6回	賃金	賃金決定、賃金支払原則を学ぶ
第7回	賞与・退職金	賞与、退職金を学ぶ
第8回	労働時間①法定労働時間	労働時間規制の変遷と休憩を学ぶ
第9回	労働時間②変形制等	変形労働時間制を学ぶ
第10回	休日、時間外労働	休日付与と時間外・休日労働を学ぶ
第11回	年次有給休暇	年次有給休暇について学ぶ
第12回	雇用平等	雇用平等について学ぶ
第13回	育児介護休業	育児介護休業法について学ぶ
第14回	ワークライフバランス	次世代育成支援対策推進法について学ぶ
第15回	人事異動	配転、出向、転籍を学ぶ。
第16回	懲戒処分	服務規律と懲戒を学ぶ
第17回	労働契約の終了①解雇	労働契約の終了、解雇を学ぶ
第18回	労働契約の終了②退職等	雇止め、退職、定年を学ぶ
第19回	労働基本権	労働組合法を学ぶ
第20回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済を学ぶ
第21回	労働協約・労働争議	労働協約と争議行為を学ぶ
第22回	安全衛生と労災保険	安衛法と労災保険法を学ぶ
第23回	労働者の人格権保障	ハラスメント、プライバシーを学ぶ
第24回	パート有期法	パート有期法を学ぶ
第25回	労働者派遣法	労働者派遣法を学ぶ
第26回	雇用保険	雇用保険法を学ぶ
第27回	労働市場法	労働市場法の変遷を学ぶ
第28回	法改正の検討・まとめ	法改正情報、まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで配布するレジュメを事前に一読のこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年、2,530円

【参考書】

『労働法第13版』菅野和夫・山川隆一、弘文堂、2024年、7000円＋税
『あなたのキャリアと労働法（ポケット法学）』原昌登、有斐閣、2025年、2310円
『労働判例百選〔第10版〕』別冊ジュリスト257号、村中孝史・荒木尚志編、2022、2,640円

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに学習支援システムで実施する小テスト（50％）、夏休みの課題、秋学期末の最終レポート（50％）の合計で評価する。夏休みの課題を提出しない場合には、最終レポートを提出できない。これらにより、到達目標の達成度を評価する。

秋学期末の最終レポートは、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できるという到達目標を達成しているか否かで評価する。生成AIの使用は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストのQRコードから主要な判例にアクセスでき、レポート作成にあたり学生が閲覧して内容を理解できた。労働法は改正が多い分野なので、改正法については、学習支援システムにおいて追加資料を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで出欠、小テスト・レポートを実施するので、パソコンや通信環境を整えておくこと。レポート提出はワードファイルのみとする。

【その他の重要事項】

関連科目：「民法」

【オフィスアワー】

学習支援システムの掲示板で質問をうける

【授業計画について】

授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

"Labor Standard Law, Labor Contracts Law, Laobr Union Law"

The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (30%) conducted by the learning support system, summer vacation assignments (20%), and final report at the end of the term (50%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

広告論（2018年度以前入学者）

宮井 弘之

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 3～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。

学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。

広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。

広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ゲストスピーカーの講義は過去評判の良かったものを録画として上映する。その場合ZOOMとなる。数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。

また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。課題などに対するフィードバックは、適宜議論の土台となりそうな生徒のものを匿名で取り上げて解説することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店 営業部長
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社 プランナー
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店 クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ テレビ担当（録画を利用）
第10回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー（録画を利用）
第11回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介
第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例

第13回 広告効果測定と法務

広告測定の様々な手法

グローバル広告の可能性と実例

広告規制と法務

第14回 これまでの総まとめ

これまでの総まとめ（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり1-2時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

1）授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容（50%）
2）最終回におけるレポート課題（50%）

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家になるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】

マーケティング論

【Outline (in English)】

【Outline】 In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.

【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (50%)
2. final report assignment (50%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

LAN200FA

Skills for SA

L A S S E G A R D J A M E S

特殊講義特殊講義 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is primarily intended for students in the Faculty of Business Administration who will be studying abroad during fall semester. students will study English (reading, writing, speaking, listening) while learning about international and intercultural communication for use with people overseas. The topics covered in this course include learning about different cultures, diversity in society, communication styles, and non-verbal communication.

【到達目標】

Students will learn and practice effective English communication (especially speaking and listening) techniques for living and studying overseas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」と「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Some lecture using presentation software is done to provide background and to stimulate thinking and discussion. We will do lots of pair work, active learning, and group discussion in class. Students should do the readings before coming to class every week. Regular feedback will be provided during class sessions regarding student performance in class and on the tests. Student may also contact the instructor via e-mail or visit during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction: The Internationalization of Japanese Society	Course Explanation. Lecture, pair work activity & discussion
第2回	What is "Culture?": Culture as an Iceberg	Explore definitions of culture. Pair and group work, Discussion.
第3回	You as a Multicultural Person & Cultural Categories	Discovering ourselves as cultural beings. Pair work & discussion.
第4回	Learning about Stereotypes and Generalizations Culture and Values	Learn about our cultural values and differences with others. Pair/Group work.
第5回	Culture and Value Orientations What is Communicative Competence?	Across the River values exercise. Lecture on communication competence. Pair work. First Quiz.
第6回	The Relationship between Communication and Culture Non-verbal Communication	Lecture on the importance of Non-verbal communication (body language).
第7回	Gestures and Cross-Cultural Perceptions Effective Body Language	Lecture on effective body language: The SOFTEN technique. Discussion. Midterm reflection paper due.
第8回	Learning about Communication Patterns-Comparing American and Japanese Communication Styles	Lecture and case studies. Role play dialogues in pairs.
第9回	Culture Shock and Cross-cultural adaptation.	Lecture and group discussion
第10回	Cultural Context: High and Low Context Cultures	The importance of context in communication: lecture, discussion, and role play.

第11回	Communication Case Studies	Lecture, discussion, pair work role plays.
第12回	Direct and Indirect Expressions Effective Communication and Human Relationships	Lecture and discussion: Role play dialogues.
第13回	Living and interacting with people overseas	Student Presentations
第14回	Strategies for Effective Communication & Active Listening.	Final Test and Course Wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should have completed the readings before class (approximately 5-7 pages per week). Unfamiliar vocabulary should be checked and learned. This will take approximately 1-2 hours of weekly preparation.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese; Japanese-English dictionary (paper or electric), which they can bring to class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and active participation: 15%

Writing Assignments: 30%

Quizzes: 25%

Presentations: 30%

【学生の意見等からの気づき】

Some difficult English vocabulary and grammar may be explained using Japanese.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need access to a computer in order to prepare for presentations.

【Outline (in English)】

In this course, students study English (reading, writing, speaking, listening) while learning about international and intercultural communication. The topics covered in this course include learning about different cultures, diversity in society, communication styles, and non-verbal communication

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際経済協力論 I

武貞 稔彦

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 2～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて学生は、1）国際協力に関する基礎的な知識を獲得することができる。それら基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。2）これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、各自が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。3）加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとらえられ、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945年～1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970年～1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。

第5回	国際社会と開発協力の歴史（3）（1990年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における開発協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組み以降に1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	開発協力の仕組みと方法	日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第10回	開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷およびSDGsのような国際目標を通じて理解する。
第12回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	開発協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの開発協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が開発協力を行う理由	日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているのかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）

牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）

勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）

外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is the first part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

[Learning Objectives]

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 2～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による開発協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による開発協力（2）企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。

第6回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is the second part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

[Learning Objectives]

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

寄附講座・日本の物流と企業経営

李 瑞雪

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 1～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は一般社団法人日本物流団体連合会による寄附講座であり、物流・ロジスティクスを体系的に学ぶ概論的授業です。講義はオムニバス方式を採り、日本通運、ヤマト運輸、ロジスティードといった日本を代表する物流企業の上級マネジャー、国土交通省の企画官、および同連合会の常任役員を講師に迎えます。実務の第一線で活躍する方々のレクチャーを通じて、物流・ロジスティクスの機能と実態、さらには日本経済における重要性を深く理解することを目的とします。

【到達目標】

本講義では、海運、宅配、航空輸送、陸運、鉄道輸送、倉庫、システム物流（3PL）、国際物流など、日本の物流産業を構成するの各業界の特徴や最新動向、基礎知識を体系的に学習します。合わせて、荷主となる製造・流通企業のロジスティクス・マネジメントに関する基本概念や原理を習得するとともに、国の物流政策についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

物流企業、国交省、物流団体連合会から10名以上の講師を招いて講義をしていただきます。講師の所属企業・組織は以下の予定です（登壇順）。社団法人日本物流団体連合会、佐川急便、ヤマト運輸株式会社、JR貨物、株式会社商船三井内航、日本郵船株式会社、株式会社ANAカーゴ、株式会社日新、ロジスティード株式会社、三菱倉庫株式会社、株式会社ニチレイロジグループ、日本パレットレンタル株式会社、国土交通省総合政策局。提出されたリアクションペーパーやレポートなどのフィードバックは、学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要やスケジュールについての説明。授業で使われる重要な概念や専門用語の解説。
第2回	物流総論	日本物流団体連合会の役員による講演。日本の物流産業、企業経営と物流・ロジスティクス機能の関係についての全般的解説。
第3回	鉄道貨物輸送	日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）の役員による講演。鉄道貨物輸送の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来の展望などについて解説。
第4回	外航海運	外航海運大手企業の上級マネジャーによる講演。外航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第5回	内航海運	内航海運企業の上級マネジャーによる講演。内航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第6回	トラック運送	大手陸運企業の経営者による講演。陸運の仕組み、特徴、現状、課題、将来展望などについて解説。
第7回	航空貨物輸送	航空貨物大手企業の上級マネジャーによる講演。航空貨物輸送の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第8回	宅配便	宅配便大手企業の上級マネジャーによる講演。宅配便の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第9回	国際物流	大手国際フォワーダー企業の上級マネジャーによる講演。国際物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第10回	サードパーティロジスティクス（3PL）	大手3PL企業の上級マネジャーによる講演。企業経営とロジスティクス機能との関係、日本におけるシステム物流（3PL）の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来展望などについて解説。

第11回	倉庫	大手倉庫企業の上級マネジャーによる講演。営業倉庫の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第12回	食品物流	低温物流大手企業の上級マネジャーによる講演。食品物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第13回	物流政策	国土交通省の企画官による講演。日本政府の物流政策について解説。
第14回	物流と環境問題	大手物流企業のCSR担当上級マネジャーによる講演。物流活動と環境問題の関係、モーダルシフトや共同物流といった環境にやさしい取組みについて解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当内容および授業システムにアップロードされた講義資料を事前に予習しておきます。物流・ロジスティクスに関連する新聞記事に留意し、授業で学んだ知識と結びつけながら、記事の内容を理解し思考します。

【テキスト（教科書）】

『業界別 物流管理と SCM の実践』ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】

教科書の巻末付録を参照されたい。

【成績評価の方法と基準】

課題レポートなどの平常点（40％）、期末試験（60％）、授業参加（＋α）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答など講師との交流時間が作れるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて配布された資料は必ず各自印刷して授業に持参すること。

【関連科目】

『経営戦略論』、『日本経済論』、『中小企業論』、『流通論』

【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on the logistics industry and logistics management sponsored by Japan Association for Logistics and Transport (JALoT). The main objectives include understanding the importance, structure, functions, and basic activities of the logistics industry. Senior managers coming from more than ten big logistics firms will serve as lecturers, delivering basic and practical knowledge related to main logistics sectors including ocean freight, coastal freight, courier, warehousing, railway freight, air freight, packaging, 3PL, etc. Students will be expected to have completed the required assignments and feedback after each class meeting. Questions and active participation in the class will be welcomed. Your overall grade in the class will be determined based on the following: Term-end examination (50%), Short tests (30%), Class contribution (20%).

LAW300FA（法学 / law 300）

租税法 I

藤井 誠

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 3～4年次／2単位 〔春学期授業/Spring〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が税法の幅広い学習と知識の習得することを目的とし、税法の基礎を理解することに重点を置き、租税原論の他、主として個人を対象とする税（所得税法および相続税法）について学習する。

前半は、租税法の概要、租税原則、納税義務等の各税法に共通し、かつそれらの土台となる事項について学習し、後半は所得税法および相続税法を中心に学習する。

なお、公認会計士試験における租税法および税理士試験における所得税法および相続税法の出題論点についても扱う。

【到達目標】

法律論としての租税法の基本理論を習得することができる。

経済学・財政学との関わりにおける基礎理論を習得することができる。

租税法体系としての所得税法および相続税法の理論と技法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。

学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・租税法の基礎	租税の基礎、公共財とその類似財について学習する。
第2回	租税の意義等	租税の意義、機能、分類について学習する。
第3回	租税原則等	租税徴収、行政機構、租税原則について学習する。
第4回	憲法と租税法との関係	憲法と租税法との関係、租税原則、死重損失について学習する。
第5回	所得税の概要	所得税の構造、税率について学習する。
第6回	所得分類①	利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得について学習する。
第7回	所得分類②	給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得について学習する。
第8回	所得分類③	一時所得、雑所得、収入金額、必要経費について学習する。
第9回	相続税の概要	相続税の概要、民法との関係について学習する。
第10回	相続税の計算構造	相続除外、廃除、遺留分、相続税の計算構造について学習する。
第11回	相続税の納付	相続税の納付について学習する。
第12回	贈与税	相続税と贈与税の関係、贈与税の内容について学習する。
第13回	財産評価の基礎	相続税の財産評価について学習する。
第14回	財産評価の特例等	相続税の小規模宅地の特例等について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。

なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

水野忠恒編（2022）『テキストブック租税法 第3版』中央経済社。

＊最新版が望ましい。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（70%）と期末レポート（30%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「税務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【関連科目】

税務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

The aim of this class is for students to acquire a wide range of learning and knowledge about tax law, with an emphasis on understanding the fundamentals of tax law. In addition to the principles of taxation, students will learn about taxes that primarily apply to individuals (the Income Tax Act and the Inheritance Tax Act).

In the first half, students will learn about matters that are common to all tax laws and form the basis of them, such as an overview of tax law, tax principles, and tax liability, while in the second half, students will focus on the Income Tax Act and the Inheritance Tax Act.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined results of in-class quizzes (70%) and a final report (30%).

LAW300FA（法学 / law 300）

租税法Ⅱ

藤井 誠

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が税法の幅広い学習と知識を習得することを目的とし、租税原論の理解を前提として、主として企業を対象とする税（法人税・消費税）について学習する。

なお、公認会計士試験における租税法および税理士試験における所得税法および相続税法の出題論点についても扱う。

【到達目標】

法律論としての租税法の基本理論を習得することができる。
経済学・財政学との関わりにおける基礎理論を習得することができる。
租税実体法としての法人税法および消費税法の理論と技法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。
課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法人税法の概要	法人税の概要について学習する。
第2回	通則規定	所得計算の通則規定について学習する。
第3回	法人概念	法人概念と関連規定について学習する。
第4回	配当課税	受取配当等の益金不算入制度、所得税額控除について学習する。
第5回	納税義務	納税義務と課税所得等の範囲、外国税額控除について学習する。
第6回	同族会社	同族会社に関連する諸規定について学習する。
第7回	事業年度単位課税	事業年度、欠損金について学習する。
第8回	国際課税	移転価格税制・タックス・ヘイブン税制について学習する。
第9回	組織再編成	株式交換、株式移転・組織再編税制について学習する。
第10回	企業集団課税	グループ法人課税制度について学習する。
第11回	消費税の概要	消費税法の基本構造について学習する。
第12回	多段階課税	仕入税額控除について学習する。
第13回	消費税の特殊論点	消費税法の特殊論点（転用、変動）手続関係について学習する。
第14回	簡易課税制度	消費税簡易課税制度について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。

なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

水野忠恒編（2022）『テキストブック租税法 第3版』中央経済社。

＊最新版が望ましい。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（70%）と期末レポート（30%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「税務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【関連科目】

税務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a broad range of knowledge and study of tax law. Students will learn about taxes that are primarily applicable to businesses (corporate tax and consumption tax), based on an understanding of the fundamentals of taxation.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined results of in-class quizzes (70%) and a final report (30%).

アントレプレナーシップ演習

五十嵐 伸吾

特殊講義 特殊講義 選択_特殊講義 2～4年次／2単位 [オータムセッション/Autumn Session]

授業実施日：9月11日、12日、14日、15日、16日

時限：2～4限

※GBP生は、2～3年のみ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アントレプレナーシップを発現することは、機会(Opportunities)を認知し、機会を起点として社会的/経済的な新たな価値を創造すること。このためには、現実社会から新たな機会(課題)発見→課題定義→解決アイデア創出→プロトタイピング→評価に至るプロセス技法が必要となる。本講義では、アントレプレナーシップの最新手法である「エフェクチュエーション」や「リーン・スタートアップ」の基礎を学び、優れた創造的手法として注目を集める「デザイン思考」を組み合わせながら、受講者のイノベーション実現能力向上を目指す。

【到達目標】

①知識・技能の論点

・アントレプレナーシップではヒト、モノ、環境、事象相互の関係を読み解く能力が求められる。デザイン思考の基礎知識、プロセスを理解する。その前提となる日常的な関係における不具合を見つけ出す観察力を獲得する。

②思考力・判断力

・①の知識を基礎に、多角的に関係を再構築する洞察力と想像力、各々の関係から重要度によって取捨選択できる判断力を獲得する。

③主体的な態度の論点

・アントレプレナーシップはチーム活動であり、チームとして独創性を発揮するためのリーダーシップ、モチベーション、協調性等、状況に即したチーム内での組織行動上の態度を理解し習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義は毎回、ポイントのレクチャー、演習、事業内での発表のサイクルで運営する。但し、最初に解決すべき課題を提示し、講義各回でそのテーマに関するレクチャー、演習等を行いテーマを掘り下げていき、最終回では各回を全体化したうえで、最終的な解決提案の発表を求める。

※毎回の課題あるいは講義中のプレゼンテーションについては、できるだけ講義中で取り上げコメントを付しフィードバックを行い、学生に内省を行う機会を作る

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この科目の狙い、学習の目標、学習の進め方などのガイダンスを行う。その後、全体を通して解決すべき「テーマ（課題）」を提示する
第2回	アントレプレナーシップ基礎/デザイン思考基礎	アントレプレナーシップの概念を説明したのち、デザイン思考の方法論を伝え演習による経験学習を行う。

第3回	チーム組成、課題のチーム内全体化	課題解決に向けてのチームを組成し、問題意識をチーム内でコンセンサスを形成する。次回以降、このチームを基本として演習を行う
第4回	デザイン思考応用	基礎を学習したデザイン思考の全体像を再確認し、テーマに沿ったデザイン思考の進め方の方略を検討する
第5回	チームの解くべき課題（How Might we ～？）設定（その1）	最終的に「どのような問い」に対する解決策を模索したいか？ "How Might we?"をチーム単位で定義する
第6回	チームの解くべき課題（How Might we ～？）設定（その2）	定義したHow Might we? を発表し、問いの抽象度と具体性のバランスを検討する。次回迄の課題としてHow Might we? の確からしさをインタビューを求める
第7回	顧客調査からのインサイトの掘り下げ	課題による顧客調査の結果から、改めてHow Might we? を精査する
第8回	エクストリームユーザーの検討	How Might we? に従い、自分たちのチームが定義した問いに対して最も「痛み (pain)」, 「喜び (gain)」を感じるの誰なのか顧客像を明確に定義する
第9回	エクストリームユーザーのセグメント定義	エクストリーム・ユーザー像を掘り下げ、外形的・静的な状況を定義し調査対象を明確にする
第10回	顧客価値連鎖分析 (CVCA)	各チームの課題を解決するためにはどのような利害関係者が存在し、彼らとどのような関係を構築する必要があるかを考え全体像を俯瞰する
第11回	共感、ペルソナ、価値提案	顧客候補、とくにエクストリーム・ユーザーのペルソナを考え、ペルソナと共感することで提案価値を明確にする
第12回	UXデザインとカスタマー・ジャーニーマップ	顧客の行動をより深く分析するためにカスタマー・ジャーニーマップを作成し、価値提案を深化させる
第13回	価値仮説検証とピボット検討	対象顧客は、どのようなことに「価値」を見出すのか、調査により仮説検証を行い、解決策を改善する。
第14回	最終報告会	これまでの学習をもとに課題解決策を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各開講日に次回までの課題を課す。チーム単位で当日の授業内容を振り返り、次回の講義に備えること。課題は個人単位でのレポート提出を求める

【テキスト（教科書）】

なし。ハンズアウトおよび都度配布する資料を使う

【参考書】

エリック・リース、「リーン・スタートアップ～ムダのない起業プロセスでイノベーションを生み出す」、日経BP社、ISBN-13：978-4822248970

吉田 満梨、中村 龍太、「エフェクチュエーション 優れた起業家が実践する「5つの原則」」、ダイヤモンド社、ISBN-13：978-4478110744
木浦幹雄、「デザインリサーチの教科書」、ビー・エヌ・エヌ新社、ISBN-13：978-4802511773

デイヴィッド・ケリー、トム・ケリー、「クリエイティブ・マインドセット～想像力・好奇心・勇気が目覚める驚異の思考法」

、日経BP社、ISBN-13：978-4822250256

トム・ケリー、「発想する会社！～世界最高のデザイン・ファームIDEOに学ぶイノベーションの技法」早川書房、ISBN-13：978-4152084262
トム・ケリー、ジョナサン リットマン「イノベーションの達人！～発想する会社をつくる10の人材」、早川書房、ISBN-13：978-4152087362

【成績評価の方法と基準】

[成績評価の方法]

- ・定期試験を行わず、平常試験（小テスト、レポート）
 - ・1日ごとに翌日までの課題を提示し内容を評価する。別途、最終レポートを課しプロセスの内省を促すとともに評価する
- ※演習形式の講義のため、講義への出席は必須であり、毎時限に出席を確認する。医師の診断書付きの病欠以外は欠席を認めない。

[成績評価の基準]

①知識・技能の論点

・アントレプレナーシップではヒト、モノ、環境、事象相互の関係を読み解く能力が求められる。デザイン思考の基礎知識、プロセスを理解する。その前提となる日常的な関係における不具合を見つけ出す観察力を獲得する

②思考力・判断力

・①の知識を基礎に、多角的に関係を再構築する洞察力と想像力、各々の関係から重要度によって取捨選択できる判断力を獲得する。

③主体的な態度の論点

・アントレプレナーシップはチーム活動であり、チームとして独創性を発揮するためのリーダーシップ、モチベーション、協調性等、状況に即したチーム内での組織行動上の態度を理解し習熟する

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講科目につきアンケートは未実施である

【学生が準備すべき機器他】

ハンズアウトの資料はすべて電子媒体で配布する。講義中に参照可能なように何らかの情報機器を持参することが望ましい。加えて、顧客への調査、チーム内での情報交換等を頻繁に行うのでSNSへの加入、あるいはwebへのアクセスが可能な状況が必須である

【その他の重要事項】

担当教員では、大学教員となる前にベンチャーキャピタリストのような職務に12年間従事し、3000件以上の事業計画を精査し300社のスタートアップの支援をしてきた。前職の九州大学では国内初の全学的なアントレプレナーシップ教育・研究センターの立ち上げに際し、教育の責任者として、カリキュラム・デザイン、教授法・コンテンツ開発に従事した。今回のプログラムは前職の経験と前職時代の欧米教育との議論をもとに設計したものである

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Entrepreneurship involves identifying opportunities and creating new social/economic value starting from those opportunities. This requires a process methodology: discovering new opportunities (challenges) from the real world → defining the challenge → generating solution ideas → prototyping → evaluation. This course aims to enhance participants' innovation capabilities by teaching the fundamentals of the latest entrepreneurship methodologies — “Effectuation” and “Lean Startup”— while integrating “Design Thinking,” a highly regarded creative approach.

【Learning activities outside of classroom】

On each day of class, students will be assigned assignments to complete until the next class. Students will work in teams to review the content of the day's lesson and prepare for the next lecture. Students will be asked to submit individual reports on assignments.

【Grading Criteria /Policy】

- No regular exams will be conducted; regular exams (quizzes and reports) will be used instead.

- Assignments will be presented each day and graded. A final report will be assigned separately to encourage reflection on the process and to evaluate the results.

*As this is a seminar-style course, attendance is mandatory and will be confirmed every period. Absences will only be accepted if accompanied by a doctor's certificate.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

サステナビリティマネジメント

北田 皓嗣

特殊講義特殊講義 選択_特殊講義 1～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、企業におけるサステナビリティ戦略を「掲げること」から「実行すること」へと移行させるための設計思想を学ぶ。特に、マテリアリティの特定、戦略との統合、組織階層別アプローチ、KPI設計、行動を促す制度設計などを扱い、「社内浸透」の観点からサステナブルマネジメントを体系的に理解する。

また、実務家によるゲスト講義を通じて、企業が直面する具体的課題と実践的工夫を学び、理論と実務を架橋する思考力を養う。

さらに、生成AI（ChatGPT、Gemini等）を活用し、海外企業の事例や国際動向を収集・比較しながら、批判的かつ実証的に分析する能力を高める。

【到達目標】

本授業終了時に、受講者は以下を達成できることを目標とする。

1. サステナビリティと経営戦略の統合プロセスを理論的に説明できる。
2. マテリアリティ、KPI、MCS（マネジメント・コントロール・システム）の相互関係を構造的に理解できる。
3. 「理解・共感・行動」の循環構造を組織設計の観点から分析できる。
4. 社内浸透が失敗する要因（例：手段の目的化、設計不備）を理論的に説明できる。
5. 国内外の企業事例を比較し、戦略実行上の設計課題を批判的に考察できる。
6. 生成AIを情報収集・分析補助ツールとして適切に活用し、独立した思考と統合できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、ゲスト講義、ディスカッション、課題解決型学習（PBL）を組み合わせ実施します。

前半では、サステナビリティをめぐる国際的課題や企業が取り組む必要性を整理します。中盤以降は、マテリアリティ、KPI設計、マネジメント・コントロール・システム（MCS）、社内浸透設計などを扱い、理論と実務事例を往復しながら理解を深めます。

数回、企業のサステナビリティ担当者を招き、約25分間のご講演をいただきます。その後、質疑応答および討議を通じて、理論との接点や設計上の課題を検討します。

原則として毎回、A4用紙1枚程度のレポートを提出します。授業内容の整理に加え、海外企業や海外メディアの情報を調査し、理論と接続した考察を行います。

生成AI（ChatGPT、Gemini等）は、情報収集、海外事例の比較、論点整理の補助ツールとして積極的に活用することを推奨します。使い方の工夫や注意点については授業でコメントします。教員はレポートに対して、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代社会はどのようなサステナビリティ課題を抱えているか	気候変動、資源制約、循環経済、人権問題、生物多様性の喪失など、現代社会が直面している主要なサステナビリティ課題を概観します。国際機関の報告書や具体的事例を紹介しながら、問題の規模や構造を理解します。また、これらの問題を直感的に捉えるための簡単な思考ワークを行い、自分自身との関係を考える時間を持ちます。
第2回	なぜ企業はサステナビリティに取り組むのか	企業がサステナビリティに取り組む理由を、リスク管理、機会創出、投資家からの要請、制度的圧力、正当性の確保といった観点から整理します。サステナビリティはコストなのか戦略なのかという問いを通じて、企業行動の背景にある理論を検討します。ディスカッションを通じて、企業の役割について批判的に考えます。
第3回	情報設計と社内浸透（ゲスト企業：富士フイルムBI）	情報の編集と仕組み化がどのように社内浸透を促進するのかを学びます。理論的な情報設計の視点を整理したうえで、実務事例から「伝える仕組み」の設計思想を理解します。

第4回	サステナビリティと経営戦略の統合	マテリアリティと経営戦略の連携構造を学びます。KPI設計と手段の目的化の問題を整理し、戦略が形式化するメカニズムを検討します。
第5回	行動できる環境づくり（ゲスト企業：レゾナック）	理解や共感だけでは行動は生まれないという前提のもと、制度設計、場づくり、挑戦支援の仕組みを学びます。実践事例を通じて、行動を支える設計思想を考察します。
第6回	「理解・共感・行動」の循環構造	行動変容を線形モデルではなく循環モデルとして捉え直します。行動起点型設計の理論的背景を整理し、前回の実務事例と結びつけて分析します。短期的には非合理に見えても長期的合理性を持つ戦略の構造を検討します。競争優位とサステナビリティの関係を整理し、戦略の質を評価する視点を提示します。
第7回	良いサステナビリティ戦略とは何か	担当者の情熱がどのように組織に波及するのかを学びます。推進層・様子見層・抵抗層の違いを整理し、共感の広げ方と抵抗への対応を検討します。
第8回	担当者の熱量と共感の拡張（ゲスト企業：村田製作所）	解像度という概念を用いて、自社理解を高める方法を考えます。経験学習論や共有制度の理論を整理し、組織学習のメカニズムを理解します。
第9回	考える力と組織学習	KPIツリー、評価制度、取締役会報告などの仕組みを学びます。戦略と現場を結ぶコントロール設計を理解し、MCSとの関係を整理します。
第10回	ガバナンスとKPI設計（ゲスト企業：KDDI）	マネジメント・コントロール・システムの基本構造を学びます。経営層と現場の役割分担、責任と権限の整理、トレードオフの解決主体について検討します。
第11回	MCSと組織階層の設計	理念実践の共有がどのように組織学習を促進するのかを学びます。全社員参加型プログラムの設計思想を理解し、持続的な行動変容の条件を整理します。
第12回	共有を通じた組織学習（ゲスト企業：オムロン）	これまでの理論と事例を統合します。国内外企業の比較を行い、戦略実行上の設計課題を総合的に分析します。生成AIの活用方法についても振り返ります。
第13回	戦略実装の総合設計	学生レポートの共有と討議を行います。サステナビリティ戦略実装の今後の課題と可能性について議論し、本授業の総括とします。
第14回	サステナブルマネジメントの展望と最終討議	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、各回につき4時間以上の準備・復習時間を標準とします。

学生は、主に毎回のレポート作成を通じて学習を深めます。授業内容の整理に加え、海外企業や海外メディアの記事を調べ、理論と結びつけて考察します。生成AI（ChatGPTなど）を活用して情報収集や論点整理を行って構いませんが、自分の言葉でまとめることを重視します。

テキストの該当箇所を事前に読み、授業後はフィードバックを踏まえて内容を振り返ります。日頃からサステナビリティに関するニュースに関心を持ち、授業テーマと関連づけて考える姿勢を求めます。

授業外の学習は、「調べて、考えて、書く」時間として位置づけます

【テキスト（教科書）】

北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房、2026年。

本書を通じて、サステナビリティを単なる理念や情報開示の問題としてではなく、戦略を組織に実装するための設計課題として理解します。特に、「理解・共感・行動」の関係、マテリアリティと戦略の統合、KPI設計、組織階層ごとのアプローチなどを中心に扱います。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に、10回程度のレポート課題を設定します。そのレポートの提出状況で評価いたします。分量はA4で1-2枚程度で予定しております。

レポートの評価の観点は以下のようなポイントになります。なお、基本的なレポートの書き方、文章構成の作り方、それらを生成AIのプロンプトに落とし込む方法などは授業内で説明いたします。

- 構造理解
- 批判的思考
- 海外比較の質
- AI活用の透明性
- 論理構成

なお、以下の理由で生成AIを積極的に利用することを推奨しています。

- 海外企業の事例など英語での情報の方がより有益な内容を含んでいるため
- 技術的に通常の経営学では出てこない用語や内容も含むためそれらを適切に理解するため
- サステナビリティマネジメントの実務でも積極的に生成AIが利用されているため
- 生成AIを積極的に利用して、学生のうちにリテラシーを磨いておくため

【学生の意見等からの気づき】

開校初年度のため、該当致しません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でweb掲示板での意見交換なども検討しているので、パソコンやタブレット（持ち運びに不便な場合にはスマホ）などを持参してくることが望ましいです。

【その他の重要事項】

カリキュラムではface-to-faceとしているのですが、教員の海外出張などに伴ってonlineに変更される場合があります。その際には、事前に授業で連絡します。

なお、この授業では、生成AIをレポート作成のための情報収集や論点整理、文章の作成の補助などに使用することを積極的に推奨しています。授業内でも、こういった使い方をすると有効であるのか、tipsみたいなものの紹介や、課題や問題点についても解説していく予定です。

【関連科目】

経営戦略論，経営組織論

【Outline (in English)】

This course explores how corporate sustainability strategies move from being declared to being implemented within organizations. It focuses on key design elements such as materiality identification, integration with corporate strategy, KPI design, and management control systems (MCS), with particular attention to how sustainability initiatives become embedded in everyday organizational practices. Guest lectures from corporate practitioners will introduce real-world challenges and practical approaches, helping students connect theoretical frameworks with business practice. Students will also use generative AI tools (e.g., ChatGPT, Gemini) to explore international corporate cases and global sustainability developments, strengthening their ability to conduct critical and comparative analysis.

The course combines lectures, guest lectures, discussions, and problem-based learning. Early sessions introduce major global sustainability challenges and examine why corporations are increasingly expected to address them, while later sessions focus on frameworks for strategy implementation and internal integration. Students will submit short reports throughout the semester (about 1 – 2 pages each), using international examples and media sources to connect course concepts with real-world developments. Generative AI is encouraged as a support tool for research and idea organization, while students are expected to present their own interpretations and analyses. Evaluation will primarily be based on the quality and consistency of these reports, which assess conceptual understanding, critical thinking, international comparison, and clear reasoning. Students are expected to spend approximately four hours per week preparing for and reviewing the course materials.

情報学入門Ⅰ/Ⅱ（2019年度以降入学）・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ（2018年度以前入学）

児玉 靖司

専門入門科目 100 番台 専門入門科目 100 番台 専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近では、様々な場面においてコンピュータが利用され、必須のものとなっている。さらに、スマートフォン、携帯端末に代表されるように、コンピュータネットワークに接続し、コンピュータを用いて情報交換することができるようになって来た。我々の生活のあらゆる場面で広く活用され、道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになっている。

情報学に関する専門基礎科目の目標は、皆さんが PC や情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。

具体的には、第一に、コンピュータである情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なく PC や情報通信ネットワークを使いこなすことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決ができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。

皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の 6 つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

【到達目標】

情報学の基礎となる概念と技術を学び、技術を理解することを目標とする。評価に関わる目標は、各コース毎に異なる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

〔表計算コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

〔データ演習コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的な Visual Basic for Applications を用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

〔データベースコース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

〔空間情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

〔メディア情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的な技術を習得する。

〔言語データ処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要な IT スキルの基本を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
各コースの	各コースのページを参	各コースのページを参照。
ページを参	照。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各コースのページを参照。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各コースのページを参照。

【参考書】

各コースのページを参照。

【成績評価の方法と基準】

各コースにより成績評価方法が異なりますので、各授業のページを参照してください。課題に対するフィードバックも同様に各授業のページを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

各コースのページを参照。

【学生が準備すべき機器他】

各コースのページを参照。

【その他の重要事項】

各コースのページを参照。

【関連科目】

各コースのページを参照。

【Outline (in English)】

The goal of these courses of informatics is to get the ability for you to become familiar with PCs and information networks and to use them effectively to solve problems in the information society.

Specifically, the first is to become familiar with information and communication equipment and to learn information literacy. Students will not only be able to work with existing software, but will be able to create your own programs and solve problems yourself.

The following six courses are set up in this practical subject so that students can learn the basics of informatics.

